山形村遺跡発掘調査報告書　第13集

NAROU

名篭遺跡

―山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書―

信州大学附属図書館
<10>0020766887

2007.3

長野県山形村教育委員会

Q2.142
N52

山形村遺跡発掘調査報告書　第13集

NAROU

名　篭　遺　跡

—山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書—

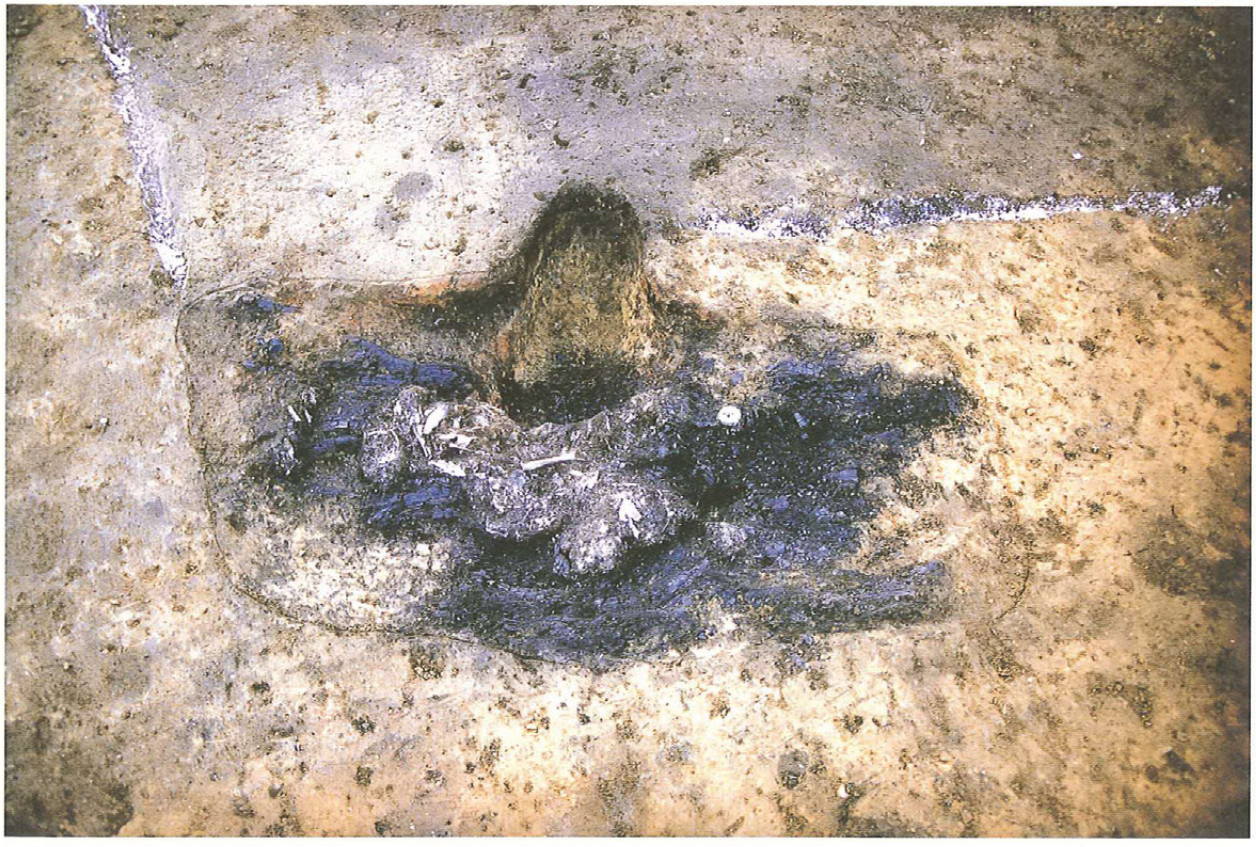
2007.3

長野県山形村教育委員会

上空から見たなろう原（東から）

調査区から松本平を望む（西から）

中世の陶磁器



中世の火葬墓

発刊にあたって

山形村は緑豊かな山懐に抱かれ、東には広い台地が展開し、太古から今日に至るまで永々と長い歴史を刻み、豊かな文化を築いてまいりました。これは村内に知られる埋蔵文化財包蔵地の数が40カ所に及び、そこに古くから祖先が好んで住みつき、個性ある文化を育んできたことが、これまで発掘された遺跡から実証されていることからも明らかであります。

山形村の中でも三夜塚遺跡や淀の内遺跡は、規模や内容など代表的なもので、発掘された所からは数多くの住居跡、当時を象徴する立派な土器、ヒスイのペンダントなど、極めて貴重な出土品が現れております。

こうした遺跡には、祖先の清貧にしてたくましい英知が窺え、かけがいのない遺産として存在しております。

この度山形なろう原公園・霊園事業の実施により、名篭遺跡の一部を発掘記録保存することになりました。発掘調査では、縄文時代早期から中世戦国時代の間の生活の跡が出土してまいりました。押型文土器や広範囲から多様な時期の遺構が発見されるなど、当初の予想を上まわる規模の遺跡であることが分かりました。

本書は、その発掘の全貌を収めさせて頂きましたが、今度の発掘調査で出土した、また発見されたもののすべてが解明された訳ではなく、ナゾのままの部分もあり今後の研究が待たれるところであります。

本書を通して古へのロマンを抱き、古代人への思いを寄せていただくと共に、広く埋蔵文化財の保護にご理解をいただければ幸いであります。

終わりに調査にあたって暑い中での現場作業や、整理作業などにご尽力いただいた皆様、そしてご協力いただいた関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

平成19年３月

山形村教育委員会

教育長　上條　勝

例　　言

1．　本書は、平成16年度～18年度に実施された長野県東筑摩郡山形村なろう原地籍に存在する名篭遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．　本調査は、平成19年に完成の「山形なろう原公園」及び「山形なろう原霊園」事業に伴う緊急発掘調査であり、山形村教育委員会が平成16年度～18年度に調査を実施、本書の作成は平成18年度に行ったものである。

3．　発掘調査及び遺物整理作業に従事する作業員は、一部社団法人松本地域シルバー人材センターより作業員の派遣を受けた。また諸氏の御協力を賜った。御芳名を記して厚く感謝申し上げます。（順不同、敬称略）

中村　光行	石川　一男	小林勘一朗	山口　善万	渡辺喜美治
曽根原淳了	太田　常治	望月健一郎	中川　長一	矢崎　　武
土田　　耕	長谷川清吾	岩佐　恵子	山中　久代	石川　幸子
直井由加理	笹川　尚子	青木智恵子	百瀬　忠幸	直井　知導
中村　慎吾				

4．　航空写真の撮影を株式会社地図測量に、石器の実測及びトレースを株式会社シン技術コンサルに、自然化学分析及び鉄器の保存処理をパリノ・サーヴェイ株式会社に、それぞれ委託して行った。

5．　石器の石材鑑定は森義直氏にお願いした。文中これに関する記述を行っているが、御教授頂いた事をまとめたものであり、事実関係を含めて文責は和田にある。

6．　遺物の写真撮影を、宮島洋一氏に依頼した。

7．　本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。

SB→竪穴式住居址　SK→土壙　SP→ピット　SH→集石遺構　ST→掘立柱建物址
SX→不明遺構　SN→畝状遺構　SF→焼土址　SD→溝址

8．　本書図中で用いた方位記号は、すべて真北方向をさしている。

9．　本調査で用いた土色は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』である。

10．　本書の編集執筆は和田和哉（山形村教育委員会社会教育係）が行った。

11．　発掘調査から報告書作成の過程で、以下の諸氏より御指導・御助言を賜った。御芳名を記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

小林　康男	小松　　学	島田　哲男	直井　雅尚	竹内　靖長
小山　貴広	樋口　昇一	神沢昌二郎	福島　　永	百瀬　忠幸
関沢　　聡	竹原　　学			

12．　本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類（図面・写真等）は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は、山形村ふるさと伝承館（〒390-1301　長野県東筑摩郡山形村3866　TEL　0263-98-3938）に、調査の記録類は、山形村農業者トレーニングセンター（〒390-1301　長野県東筑摩郡山形村2040-1　TEL　0263-98-3155）に収蔵されている。

目　　次

口絵　　序文　　例言　　目次
Ⅰ　調査の経緯……1
1　調査にいたる経緯……1
2　調査体制と経過……1
3　作業の経過……2
Ⅱ　遺跡の環境……7
1　遺跡の立地と地形……7
2　歴史的環境……7
Ⅲ　調査の結果……9
1　発掘調査の方法……9
2　整理作業の方法……9
3　検出遺構……23
（1）　竪穴式住居址……23
（2）　土壙……35
（3）　ピット……86
（4）　集石遺構……86
（5）　竪穴状遺構……90
（6）　掘立柱建物址……91
（7）　柵列……92
（8）　土壙墓……93
（9）　火葬墓……95
(10)　溝址……97
(11)　畝状遺構……99
(12)　調査区北端の埋没谷……99
4　出土遺物……99
（1）　土器……99
（2）　石器……139
（3）　土製品……142
（4）　石製品……142
（5）　金属製品……142
Ⅳ　自然科学分析……145
1　樹種同定……145
2　種実同定……147
3　骨同定……147
Ⅴ　調査のまとめ……157
写真図版

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡……6
第２図　B・Ⅰ区、B・Ⅱ区遺構配置図……10
第３図　A・Ⅰ区遺構配置図……11
第４図　A・Ⅱ区①遺構配置図……12
第５図　A・Ⅱ区②遺構配置図……13
第６図　C・Ⅰ区①、C・Ⅲ区①遺構配置図……14
第７図　C・Ⅰ区②遺構配置図……15
第８図　C・Ⅰ区③、C・Ⅲ区②遺構配置図……16
第９図　C・Ⅰ区④、C・Ⅱ区遺構配置図……17
第10図　調査地区位置図及び遺構配置図割振図……18
第11図　C・Ⅲ区③遺構配置図……18
第12図　C・Ⅲ区④遺構配置図……19
第13図　C・Ⅳ区、C・Ⅴ区遺構配置図①……20
第14図　C・Ⅳ区、C・Ⅴ区遺構配置図②……21
第15図　D・Ⅲ区遺構配置図……22
第16図　SB－01・02……24
第17図　SB－03・04……26
第18図　SB－05……28
第19図　SB－06・07・08……29
第20図　SB－09・10……32
第21図　SB－11・12……34
第22図　土壙①……37
第23図　土壙②……38
第24図　土壙③……39
第25図　土壙④……40
第26図　土壙⑤……41
第27図　土壙⑥……42
第28図　土壙⑦……43
第29図　土壙⑧……44
第30図　土壙⑨……45
第31図　土壙⑩……46
第32図　土壙⑪……47
第33図　土壙⑫……48
第34図　土壙⑬……49
第35図　土壙⑭……50
第36図　土壙⑮……51
第37図　土壙⑯……52
第38図　土壙⑰……53
第39図　土壙⑱……54
第40図　土壙⑲……55
第41図　土壙⑳……56
第42図　土壙㉑……57
第43図　土壙㉒……58
第44図　土壙㉓……59
第45図　土壙㉔……60
第46図　土壙㉕……61
第47図　土壙㉖……62
第48図　土壙㉗……63
第49図　縄文時代後晩期遺構集中箇所①……64
第50図　縄文時代後晩期遺構集中箇所②……65
第51図　縄文時代後晩期遺構集中箇所③……66
第52図　集石遺構……87
第53図　竪穴状遺構……90
第54図　ST－01及び周辺遺構……91
第55図　ST－02……92
第56図　土壙墓①……94
第57図　土壙墓②……95
第58図　火葬墓……96
第59図　SN－01……98
第60図　埋没谷セクション図……98
第61図　縄文時代の土器①……102
第62図　縄文時代の土器②……103
第63図　縄文時代の土器③……104
第64図　縄文時代の土器④……105
第65図　縄文時代の土器⑤……106
第66図　縄文時代の土器⑥……107
第67図　縄文時代の土器⑦……108
第68図　縄文時代の土器⑧……109
第69図　縄文時代の土器⑨……110
第70図　縄文時代の土器⑩……111
第71図　縄文時代の土器⑪……112
第72図　縄文時代の土器⑫……113
第73図　縄文時代の土器⑬……114
第74図　縄文時代の土器⑭……115
第75図　縄文時代の土器⑮……116
第76図　縄文時代の土器⑯……117
第77図　縄文時代の土器⑰……118
第78図　縄文時代の土器⑱……119
第79図　縄文時代の土器⑲……120
第80図　縄文時代の土器⑳……121
第81図　縄文時代の土器㉑……122
第82図　縄文時代の石器①……123
第83図　縄文時代の石器②……124
第84図　縄文時代の石器③……125
第85図　縄文時代の石器④……126
第86図　縄文時代の石器⑤……127
第87図　縄文時代の石器⑥……128
第88図　縄文時代の石器⑦……129
第89図　縄文時代の石器⑧……130
第90図　縄文時代の石器⑨……131
第91図　縄文時代の石器⑩……132
第92図　縄文時代の土製品……139
第93図　中世の遺物……141
第94図　出土した銭貨……143
第95図　人体骨格各部の名称……148
第96図　土地利用の変遷……158

Ⅰ　調査の経緯

1　調査にいたる経緯

山形村は松本市の南西に位置する風光明媚な農村で、松本市街地まで車で20～30分と比較的短時間で通勤・通学できる立地にある。昭和50年頃までは人口が減りつづけ、一時5000人を切ったこともあったが、先述の様な環境・立地であるためか、その頃より松本市のベットタウンとして宅地開発が盛んとなり、現在では9000人に迫る勢いで人口増が続いている。こうした状況の元、念願のマイホームを手に入れたいわゆる山形新村民の次なる要望は、自らの身を永眠させる墓地の確保へと向かい、行政でも平成６年頃より検討の俎上にのった。これを受けて村でアンケート調査を行い、一定の需要が見込まれるという結果が得られ、取り組むべき行政課題として位置付けられたのである。

またこの頃より、老若男女を問わず誰でも気軽に楽しむことができるマレットゴルフが盛んになり始め、近隣市町村で施設のオープンが相次いだ。村内でもマレットゴルフ熱は加熱の一途をたどり、我が村にもマレットゴルフ場が欲しいという要望が行政に盛んに寄せられるようになっていた。

一方下大池区の鎮守「八幡神社」裏のなろう原地籍は、第二次世界大戦前後に開墾された畑地帯であるが、山麓沿いで地味に恵まれず灌漑施設もない地帯であったため、営農環境が悪く荒廃農地が目立ち始めていた。そんな状況から、平成７年度に定められた土地利用計画では、墓地等としての利用を前提に「公共系用地」としてこの地が選定され、平成10年には墓地とマレットゴルフ場を複合させた西山なろう原公園の基本構想が策定され、以後検討が重ねられた。

さて事業地一帯では、開墾の際や農作業時に土器や石器が採集されていたことから遺跡の存在が知られ、地籍名を取って名篭（なろう）遺跡と呼んでいた。教育委員会ではこの地が候補にあがった時点より、遺跡が存在しているらしいこと、造成により遺跡が破壊される範囲については記録を作成するための発掘調査が必要であること、広大な範囲であるためこの発掘調査には多大な費用と期間が必要であることを担当課に伝え、遺跡の保護に関して十分配慮するよう指導を行ってきた。平成15年に至り、事業地内には本当に遺跡が埋もれているのか確認するため、試掘確認調査が行われた。結果は希望を裏切り、事業地の広範囲に遺跡が分布していることが分かり、当初計画では遺跡の破壊範囲が広大であることが判明した。そこでこの事業を担当する村総務課と村教育委員会で協議を行い、遺跡を破壊しない工法の検討を行った。マレットゴルフ場の範囲については盛土により破壊を免れる工法へ変更できたが、墓地造成の範囲については急傾斜な地形から遺跡の破壊を免れる工法を十分に採用することができず、発掘調査範囲が広大とならざるを得ない状況であった。こうして平成16年秋より発掘調査に着手した。

2　調査体制と経過

調査面積が約10,000m²と広大であることに加え、当村には調査を担当できる職員が１人しかいないことから、発掘調査は冬季休止を挟んで平成18年５月上旬までを要した。発掘調査範囲が広範囲であったこと、工事を同時進行で進めていく計画となったこともあり、調査区をA~D区と分け（第10図参照）順次調査を進めた。事業地を南北に分断する谷の南側、マレットゴルフ場用地（公園）をＢ区に、同谷の北側、多目的広場用地（公園）をＡ区に、同谷の北側、霊園予定地をＣ区に、平成19年春に追加調査となった最も谷

奥側（霊園）をＤ区とした。

発掘調査は、Ｂ区及びＡ区の取り付け道路範囲（Ａ・Ⅰ区）から着手した。マレットゴルフ場コースとなる範囲については盛土保存としたが、園内道路や駐車場、クラブハウスとなる範囲については発掘調査対象とされ、平成16年10月19日より開始した。Ｂ区では、庭木用として育てられていた苗木が数10年間放置され藪と化していた畑が多かったため、試掘確認調査時に意のままトレンチを配置して確認することができなかった事情があったため、盛土保存できない範囲にまずはトレンチを設け、その状況に応じて調査範囲を面的に広げるという方法がとられた。Ｂ・Ⅱ区～Ｂ・Ⅵ区は遺構・遺物とも僅少であったが、Ｂ・Ⅰ区は面的な調査を要した。また工事進行の都合上、谷の北側へ入るための道路を早期に設ける必要があったため、Ａ・Ⅰ区の調査も同時に進行させた。

冬があけて平成17年春からは、谷の北側の調査を本格的に着手した。こちら側は工事によって削られる範囲が大半で広範囲が調査対象となったが、あまりに広範囲であること、工事進行の都合上、用地内に以前からあった苗木を移植して使うという事情から、数度に分けて調査を行った。また試掘確認調査の段階から、遺跡地図に線引きされたラインを超えて西側に遺構が広がっていることを把握していたが、どこまで広がっているかは、藪と化していた苗木を除去してからでないとトレンチを設けられなかったこともあり分からないままであった。秋頃には、調査も遺跡地図の線引きラインを超えた西側へと移っていったが、遺構がなくなることはなく、さらに西側を探らざるを得ない状況となった。そこでこの範囲にトレンチを設けたところ、縄文早期の押型文土器や遺構が発見され、この範囲も面的に広げて調査する必要が生じてしまったのである。そこで工事担当課や工事施工業者と協議を行い、追加で調査することで同意を得る事ができ、平成18年３月20日から平成18年５月10日までＤ・Ⅲ区の調査を行った。

出土遺物の整理作業及び報告書作成の作業は、現場での調査を休止していた冬季間にも行ったが、本格的に取り掛かったのは現場での調査が終了した平成18年５月中旬からである。遺物の出土量は整理用コンテナ30箱程であり、10,000m²を超える調査面積にしては少なめであったため、遺物洗浄、注記、接合、復元の作業は順調に進んだ。遺物の実測については、行えるものが調査担当者のみであったため、石器については業者委託にて行った。それでも現場作業終了から報告書刊行まで１年未満という限られた時間の中では、図化を断念してしまった遺物もあり、加えて考察に関しても不十分な形で報告書を刊行とせざるを得なかった。この様に諸事情あったが、平成19年３月報告書刊行、全作業を終了させた。

調査体制

事務局	山形村役場総務課
	上原　直（総務課長）、野口英明（総務課考査役）、堤　岳志（総務係主査）
	山形村教育委員会
	上條　勝（教育長）、大池孝夫（教育次長）、根橋範男（教育次長補佐）
調査担当	山形村教育委員会　和田和哉（社会教育係主査）

3　作業の経過

平成16（2004）年

10月19日（火）　雨　午前中重機搬入。午後現場事務所の整地を行う。

10月20日（水）　雨　プレハブ・仮設トイレを搬入。

10月21日（木）　曇　調査範囲の測り出し作業。立木が多く難儀した。YCS取材。

10月22日（金）　晴　午前中昨日の作業を継続。午後、Ｂ・Ⅰ区より重機での表土除去開始。教育長来訪、YCS取材。

10月25日（月）　晴　重機での表土除去続行、Ｂ・Ⅱ区へ移る。午後より作業員を投入しＢ・Ⅰ区の遺構検出、測量用の釘打ち開始。

10月26日（火）　雨　手作業は中止。表土除去は行い、Ｂ区すべて終了。

10月27日（水）　曇時々晴　重機での表土除去はＡ・Ⅰ区へ移る。遺構検出続行、抜根痕跡らしき撹乱が多い。

10月28日（木）　晴　Ａ・Ⅰ区の表土除去続行。竪穴式住居址らしき黒色土の広がりを２ヶ所確認。Ｂ・Ⅱ区の遺構検出行うが、遺構少なく遺物も皆無。

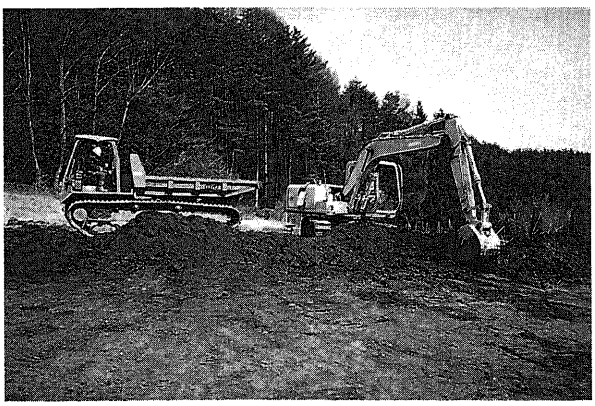
10月29日（金）　晴　Ｂ・Ⅲ区からＢ・Ⅵ区は遺構・遺物見られないため、トレンチを設けたのみで面的な調査は必要ないと判断。重機での表土除去終了。

11月１日（月）　雨後曇　雨天中止。

11月２日（火）　晴　Ａ・Ⅰ区遺構検出。教育長来訪。

11月4日（木） 晴時々曇 A・Ⅰ区の遺構検出も終わり、調査区すべて遺構検出終了。B・Ⅰ区より遺構掘削開始。
11月5日（金） 晴 B・Ⅰ区SD－01掘削。顕著な遺物見られないが、すべての他遺構を切っているため、新しい時期の遺構と推測。波田町公民館長来訪。
11月8日（月） 晴 B・Ⅰ区遺構掘削続行。不整形で浅く、遺物の出土も僅少なものは、開墾時の抜根等による撹乱かも。
11月9日（火） 晴 B・Ⅰ区、B・Ⅱ区遺構掘削続行。
11月10日（水） 晴 B・Ⅰ区北側、黒色土が不明瞭に薄く広がっていた範囲は、貼床状の硬化面を確認。削平された竪穴式住居址と判断し、SB－03とした。
11月11日（木） 曇後雨 A・Ⅰ区も遺構掘削開始。うちひとつの土壙から早期末の繊維土器片出土。午後2時すぎより降雨、以後の作業中止とした。
11月12日（金） 雨後曇 雨天中止。
11月15日（月） 雨後曇 雨天中止。
11月16日（火） 晴 シルバー人材センター会合で作業員休み。作図のみ行う。
11月17日（水） 晴 B・Ⅰ区の遺構掘削はほぼ終了。
11月18日（木） 曇後雨 A・Ⅰ区のSB掘り下げ開始。SB－02は遺物僅少、SB－01は前期末の土器片が出土。午後2時すぎより降雨、以後の作業中止とした。
11月19日（金） 雨後曇 雨天中止。ここ1週間雨が多く、作業が進まない。
11月22日（月） 晴 SB－02掘り上がる。貼床、柱穴、炉址いずれもなく、住居址と捉えて良いのか判断に苦しむ。
11月24日（水） 晴 SB－01掘り下げ進む。形になる土器はないが、前期末の土器片、黒曜石剥片、砂岩剥片が多出。松本市教委菊池氏、小山氏来訪。
11月25日（木） 晴 SB－01掘り下げ続行。床直上から壁面に焼土・炭化材が広範囲に認められ、焼失家屋の可能性あり。
11月26日（金） 晴後曇 SB－01周辺の土壙掘り下げ。袋状の断面形を呈すいわゆる貯蔵穴と考えられる土壙がまとまっている感がする。
11月29日（月） 曇 A・Ⅰ区遺構掘削だいぶ進む。師走直前で寒くなってきた。
11月30日（火） 雪後曇 初雪。作業中止。幸いうっすら白くなった程度。
12月1日（水） 晴 朝、濃霧。SB－01は道路下も調査することにし、調査範囲を広げた。松本市教委直井氏来訪。YCS取材。
12月2日（木） 曇時々晴 SB－01掘り下げ続行。寒さ一段と厳しく、ブルーシートで覆ったのみでは凍結してしまう。養生はムシロとの2枚重ねとした。
12月3日（金） 晴 SB－01は調査範囲を広げたものの、その東側は事業区域外にまで延びていることが判明。
12月6日（月） 晴 A・Ⅰ区北端黒色土範囲にトレンチ設定。最深1mにてローム面へ達す。谷が埋没したものと判断。県文化財審議会委員樋口昇一氏来訪。
12月7日（火） 曇時々晴 9割程度遺構掘削終了。
12月8日（水） 晴 SB－01から焼土・炭化材多出。床面に完形の土器等なく、意識的に家屋を処理するために火をつけたものと推測。
12月9日（木） 晴 SB－01床面精査。炉は地焼炉、ピットは30基弱あり、どれが主柱穴か判断に迷う。大町市教委島田氏来訪。
12月10日（金） 晴 SB－01内P7より軟玉と見られる磨かれた石が出土。また空撮のための遺構清掃を開始した。塩尻市教委小松氏、塩原氏来訪。
12月11日（土） 曇 午前中のみ測図作業を行う。
12月13日（月） 晴時々曇 午前中空撮のための遺構清掃を行う。昼前に空撮実施。午後機材の撤収作業、残務作業を行い概ね作業終了。トイレ・プレハブ撤収。
12月14日（火） 晴 図面の最終チェックを行い、今年の作業すべて終了。

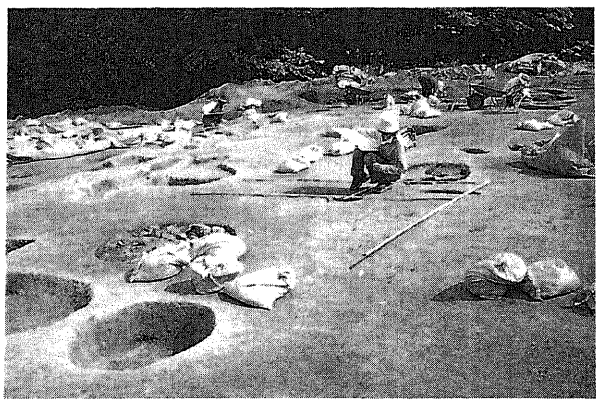
平成17（2005）年
3月22日（火） 曇後雨 クローラーダンプ、バックホー搬入。A・Ⅱ区表土除去開始。
3月23日（水） 雨 表土除去続行。昼前に雨脚強くなり作業断念。
3月24日（木） 曇時々晴 表土除去続行。但し積雪のためバックホーのみ。
3月25日（金） 曇 積雪5cm。作業中止。
3月28日（月） 雨 雨天中止。
3月29日（火） 晴 やっと天気が回復。表土除去続行。縄文後晩期らしい見慣れない土器出土。
3月30日（水） 晴 表土除去続行。
3月31日（木） 晴時々曇 表土除去続行。縄文後晩期の土器が集中して見つかる箇所を発見。
4月1日（金） 晴 表土除去午前中で終了。ハウス、トイレ搬入。バックホー、クローラーダンプ引き揚げ。
4月4日（月） 雲後晴 積雪5cm。作業中止。
4月5日（火） 晴 前日の雪まだ消えず。作業中止。
4月6日（水） 晴 遺構検出作業ようやく開始。
4月7日（木） 曇 遺構検出続行。測量用の釘打ち行う。
4月8日（金） 晴 遺構検出終了。中世らしき陶磁器片や錆びた鉄が出土。夕方強風のためシート養生に苦労する。
4月11日（月） 曇 縄文後晩期の土器集中範囲をグリッドで掘り下げ。
4月12日（火） 曇後雨 土壙掘り下げ開始。昼より降雨、以後作業中止。
4月13日（水） 曇一時雨 小雨が降ったり止んだり。作業あまりはかどらず。
4月14日（木） 晴 村有線テレビ取材に来訪。
4月15日（金） 晴 遺構平面図の作成開始。
4月18日（月） 晴後雨 遺構掘削続行。午後のお茶休憩前から降雨、作業中止。
4月19日（火） 晴 後晩期の土器集中箇所は径20m程と判明。助役来訪。
4月20日（水） 雨 雨天中止。
4月21日（木） 曇一時雨 後晩期の土器が集中する箇所は集石らしいが、開墾時や耕作時に石がかなり抜かれている模様。
4月22日（金） 晴時々雨 遺構掘削続行。中世の土壙が存在することを確認。
4月25日（月） 晴後曇 後晩期の集石らしき箇所は、黒色土中から数多くの土壙が掘られていることが判明。
4月26日（火） 曇時々雨 雨天中止。この頃天候不安定で作業はかどらない。
4月27日（水） 晴 調査区南東側の土壙掘削を徐々に開始。
4月28日（木） 晴 遺構掘削続行。明日よりGW休み。
5月6日（金） 曇後雨 朝より雨がパラついたため作業中止。作業員が15人もいると天候判断に非常に気を使う。
5月9日（月） 晴 シートに溜まった雨水を排除に朝から苦労、小1時間要す。
5月10日（火） 晴 土壙の掘削は徐々に調査区中央部へと移る。
5月11日（水） 晴 土壙の大半からは縄文前期末頃の土器が出土。
5月12日（木） 曇一時雨 午前11時頃より降雨、作業中止。
5月13日（金） 曇 遺構の掘削は西側へと進む。遺構掘削は順調だが、図化作業が遅れぎみ。
5月16日（月） 晴 火葬墓検出。「永楽通宝」が出土。
5月17日（火） 晴 SK－098より有刻石棒出土。
5月18日（水） 曇後雨 午後は雨により作業中止。
5月19日（木） 晴 村有線テレビ取材に来訪。
5月20日（金） 晴後曇 調査区西側の土壙より銅銭出土。中世の土壙墓か。
5月23日（月） 晴後一時雨 図化作業が追いつかないため、数日掘削の作業員を減らすこととする。
5月24日（火） 晴時々曇 調査区南西隅の土壙から人骨出土。この周辺には火葬墓や土壙墓がまとまる傾向が見られる。
5月25日（水） 晴 前日に引き続き銅銭を伴う土壙墓検出。
5月26日（木） 晴時々曇 集石土壙検出。焼礫がいっぱい充填されている。
5月27日（金） 晴後曇 シルバー人材センター総会のため掘り作業はなし。図



重機による表土除去作業

遺構検出作業

化作業のみ行う。
5月30日（月）　曇　遺構掘削も9割程完了。
5月31日（火）　雨後晴　午後雨が上がったため、担当者のみで作業。
6月1日（水）　晴後曇　後晩期の集石らしき箇所から、遺構内に配石が見られる土壙発見。墓と思われる。松本市民タイムス取材に来訪。
6月2日（木）　曇　A・Ⅱ区航空写真の撮影を行う。撮影後、次に着手するC・Ⅰ区に残存する苗木を伐採。
6月3日（金）　晴　A・Ⅱ区残りの遺構掘削作業を行う。
6月6日（月）　晴　A・Ⅱ区の図面最終チェックを行う。バックホー、クローラーダンプ搬入。
6月7日（火）　晴後曇　昨日すべて終了できなかった分を行い、A・Ⅱ区の調査終了とした。
6月8日（水）　晴後曇　A・Ⅱ区埋め戻し開始。
6月9日（木）　晴　A・Ⅱ区埋め戻し終了。
6月10日（金）　晴後雨　C・Ⅰ区表土除去開始。本日入梅。
6月13日（月）　晴時々曇　表土除去続行。入梅したのに雨降らず土埃がひどい。大町市教委島田氏、教育長来訪。
6月14日（火）　晴後曇　表土除去続行。
6月16日（木）　曇時々雨　表土除去続行。
6月17日（金）　晴時々曇　表土除去続行。遺構の密度はかなり濃い。
6月20日（月）　晴一時雨　表土除去続行。
6月21日（火）　晴時々曇　表土除去ようやく終了。苗木の都合で調査範囲が凹字状となってしまい、見通しもきかないため作業効率悪そう。
6月22日（水）　雨後曇　雨天中止。
6月23日（木）　曇　遺構検出開始。縄文前期末の遺物が主に見られる。
6月24日（金）　曇　遺構検出続行。中世の掘立柱建物址らしきピットの並びを確認。
6月27日（月）　曇一時雨　遺構検出続行。昼より雨降り出し、午後作業中止。
6月28日（火）　曇一時雨　遺構検出続行。完形の鉄鏃出土するが、黒色土の範囲で遺構プラン把握できず。助役、総務課長、教育長ほか来訪。
6月29日（水）　曇　遺構検出続行。調査区の西から東へのびる溝址を検出。中世陶磁器片が引っかかっておりこの時期のものか。
6月30日（木）　雨後曇　雨天中止。
7月1日（金）　雨　雨天中止。
7月4日（月）　雨　雨天中止。
7月5日（火）　曇時々晴　やっと天候回復。遺構検出の続きを行い終了させる。調査区南側には住居址らしき箇所が数箇所ある。
7月6日（水）　曇時々晴　調査区南東側の遺構から掘削を開始。
7月7日（木）　曇後雨　午後2時頃より雨。以後作業中止。
7月8日（金）　晴時々曇　縄文前期末の土器が多いが、数片早期押型文土器片を見出す。どこかにこの期の遺構があるのだろうか。
7月11日（月）　曇時々晴　遺構掘削続行。あまりに数が多くこの先心配。
7月12日（火）　雨後晴　午後雨が上がったので担当者のみで図化作業。
7月13日（水）　晴時々曇　SB－04掘り下げ開始。
7月14日（木）　晴時々曇　SB－05掘り下げ開始。
7月15日（金）　曇時々晴　SK－151から押型文土器3片出土、山形村初の早期の遺構として良さそう。助役、塩尻市教委小林氏、小松氏来訪。
7月19日（火）　曇時々晴　昨日梅雨明け。遺構掘削続行。
7月20日（水）　晴時々曇　調査区北側に広がる黒色土は、縄文前期末の遺物を包含し、埋没後中世の遺構が掘り込まれている様だが、遺構プラン把握は難しい。
7月21日（木）　晴　SB－04、SB－05床面遺構の精査を行う。本日真夏日。いよいよ厳しい季節となってきた。
7月22日（金）　晴　掘立柱建物址の柱穴中より、円筒状鉄製品出土。
7月25日（月）　曇時々晴　遺構掘削続行。台風7号接近のため、夕方シート養生を念入りに行った。
7月26日（火）　雨　台風7号による悪天候のため作業中止。
7月27日（水）　晴時々曇　測量用の釘打ちを行う。暑くなってきたためか作業員の出勤率が近頃悪い。
7月28日（木）　晴　SK－290より押型文土器片と石鏃出土。
7月29日（金）　晴後曇　遺構掘削続行。総務課長ほか来訪。
8月1日（月）　晴時々曇　遺構掘削続行、図化作業はまた遅れ気味。本日よりA・Ⅱ区だった箇所の造成工事が始まった。
8月2日（火）　晴後曇　調査区北側の黒色土範囲からまた完形の鉄鏃出土。遺構プランを把握したいが難しく、自分の力不足に泣く。
8月3日（水）　晴時々曇　SB－05内の遺構掘削を進めたところ、炉は埋甕炉であることが判明。松本平では非常に珍しいと思われる。
8月4日（木）　晴後曇　SB－05より筋砥石出土。本日34.4℃と猛烈な厚さ。
8月5日（金）　晴一時雷雨　本日35.2℃。作業員の体調が心配なところ。
8月8日（月）　晴時々曇　遺構掘削続行。
8月9日（火）　晴　SB－05完掘。炉が3箇所あり、建て替えが行われた模様。
8月10日（水）　雨後晴　雨天中止。
8月11日（木）　晴後曇　遺構掘削続行。
8月12日（金）　曇後雨　午後は雨、午前中のみ作業。明日よりお盆休み。
8月18日（木）　曇時々晴　SB－06掘り下げ、但し半分以上削平されている。
8月19日（金）　晴一時雨　遺構掘削続行。シルバー人材センター所長来訪。
8月22日（月）　曇時々雨　小雨降る1日、日程にゆとりがないため作業強行。
8月23日（火）　曇時々雨　朝から雨っぽい、午後は本降り。以後作業中止。
8月24日（水）　曇時々晴　台風11号接近中のため、現場養生を念入りに行う。県文化財審議会委員樋口昇一氏来訪。
8月25日（木）　曇一時雨　台風11号接近のため作業中止。
8月26日（金）　晴　調査区西側にて落とし穴発見。山形村では初めて。
8月29日（月）　晴　調査区北側に広がる黒色土の範囲をもう一度念入りに遺構精査行う。10数基が新たに見つかる。
8月30日（火）　曇後雨　SK－170より中期初頭の土器片がまとまって見つかる。夕方4時過ぎより降雨のため、早めに作業終了となった。塩尻市教委小松氏来訪。
8月31日（水）　曇後晴　村史談会で遺跡見学に来訪。
9月1日（木）　晴　石組された井戸状遺構見つかる。中世のものか。
9月2日（金）　晴時々曇　前村長、村長、助役、前収入役来訪。
9月5日（月）　雨　台風14号接近で雨。作業中止。
9月6日（火）　曇　不整形なプランだったため撹乱と見ていた穴から頭蓋骨が出土し、土壙墓と判明。
9月7日（水）　雨　雨天中止。
9月8日（木）　晴時々曇　C・Ⅰ区の作業も大詰め。
9月9日（金）　晴時々曇　調査北西端から中世竪穴状遺構を検出。
9月10日（土）　晴　図化作業のみ実施。
9月12日（月）　晴　明日空中写真撮影予定のため調査区全体の清掃を行う。
9月13日（火）　晴　空中写真撮影実施。夕方までに概ねC・Ⅰ区の調査終了。
9月14日（水）　晴時々曇　C・Ⅰ区埋め戻し開始。
9月15日（木）　曇時々晴　C・Ⅰ区埋め戻し続行。
9月16日（金）　晴　C・Ⅰ区埋め戻し終了。引き続きC・Ⅲ区の表土除去開始。
9月20日（火）　曇時々晴　C・Ⅲ区表土除去続行。
9月21日（水）　曇時々晴　表土除去続行、撹乱がかなりひどい状況。
9月22日（木）　曇　表土除去続行、時間的余裕がないので遺構検出も開始。
9月26日（月）　晴時々曇　表土除去続行、遺構検出できた所から遺構掘削開始。
9月27日（火）　曇時々晴　C・Ⅲ区表土除去終了。調査区北端で畑の畦らしき箇所を確認する。



遺構図作成

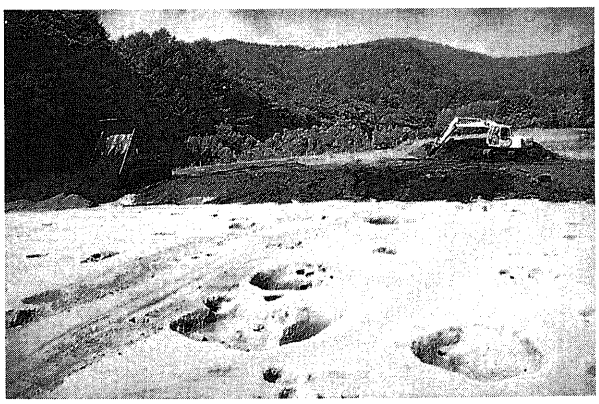
遺跡見学会

9月28日（水） 曇 C・Ⅲ区遺構検出終了。
9月29日（木） 晴 SD－03掘削。深さ50cmを超えるもので、底に砂礫が薄く堆積している。
9月30日（金） 曇時々晴 調査区北端の畑の畦らしき箇所は、断面にて凹凸の状況をしっかり確認できたため、SN－01と命名。
10月3日（月） 晴時々曇 SB－08掘り下げ。唐沢村議来訪。
10月4日（火） 曇時々雨 雨天中止。
10月5日（水） 雨 雨天中止。
10月6日（木） 曇 SB－08は床面に数多くのピットが見られ、数度の建て替えをしている模様。
10月7日（金） 晴後雨 SH－08～010掘削。夕方から雨のため、早めに作業を切り上げる。松本市教委直井氏来訪。
10月11日（火） 曇 本日は図化作業のみ実施。大町市教委島田氏来訪。
10月12日（水） 晴 遺構掘削続行。
10月13日（木） 晴 村議会総務・建水委員会現場視察に来訪。
10月14日（金） 晴後曇 遺構掘削も9割以上終了。
10月17日（月） 曇 C・Ⅲ区の調査も大詰め。残りの遺構掘削を行う。
10月18日（火） 曇 空中写真撮影実施。
10月19日（水） 晴時々曇 SD－03内で見えていた大きな石を取り除いたところ、下から遺構が見つかる。掘削したところ人骨が出土し、墓と判明。
10月20日（木） 晴 最終チェックを行い、C・Ⅲ区調査終了。
10月21日（金） 晴 C・Ⅲ区埋め戻し行う。
10月24日（月） 晴 C・Ⅳ区表土除去開始。C・Ⅴ区予定範囲の立木を伐採。
10月25日（火） 晴 C・Ⅳ区表土除去続行。
10月26日（水） 晴後曇 C・Ⅳ区表土除去続行。
10月27日（木） 晴時々曇 C・Ⅴ区表土除去も開始。
10月28日（金） 晴 C・Ⅳ区、C・Ⅴ区表土除去続行。
10月31日（月） 曇 C・Ⅳ区、C・Ⅴ区表土除去終了。遺構検出を開始。
11月1日（火） 晴 遺構検出を夕方までに終了。
11月2日（水） 晴 遺構掘削開始。火葬墓らしき遺構が多く見られる。
11月4日（金） 曇後晴 C・Ⅱ区表土除去開始。縄文中期後葉の土器がこの調査では初めて見られた。
11月7日（月） 晴時々曇 C・Ⅳ区、C・Ⅴ区遺構掘削続行。
11月8日（火） 晴後雨 C・Ⅳ区、C・Ⅴ区遺構掘削続行。夕方雨が降り出したため、早めに作業切り上げる。
11月9日（水） 晴一時雨 C・Ⅱ区表土除去続きを行い終了。
11月10日（木） 晴 SD－03掘削。相変わらず尾根の一番高い部分を谷奥へ向かって延びている模様。
11月11日（金） 晴後曇 C・Ⅱ区遺構検出行う。区三役・村議視察に来訪。
11月14日（月） 曇 C・Ⅱ区遺構検出終了。縄文中期後葉らしきの竪穴式住居址が4軒程ありそう。
11月15日（火） 曇 C・Ⅱ区、C・Ⅳ区、C・Ⅴ区を同時進行で調査。調査区間の行き来が大変。
11月16日（水） 曇時々晴 C・Ⅴ区は遺構掘削、図化ともに終了。冬の到来を感じる寒い1日であった。
11月17日（木） 晴 SB－09・10掘り下げ。ともに縄文中期後葉の土器が出土。
11月18日（金） 晴 遺構掘削続行。落ち葉がひどく、写真撮影に難儀する。
11月21日（月） 晴 C・Ⅱ区で検出した住居址は、調査区域外にまで延びているため、調査区を拡張。
11月22日（火） 晴時々曇 SB－11・12掘り下げ開始。いずれも縄文中期後葉の土器片が出土。
11月23日（祝） 晴 現地説明会実施。参加者少なく寂しい状況。
11月24日（木） 晴後曇 SB－11・12掘り下げ続行。SB－12には石壇がある。
11月25日（金） 晴時々曇 C・Ⅳ区は遺構掘削ほぼ終了。
11月28日（月） 晴時々曇 C・Ⅱ区未掘の遺構掘削を行う。
11月29日（火） 雨後晴 空中写真撮影実施。
11月30日（水） 晴 C・Ⅱ区、C・Ⅳ区、C・Ⅴ区の図面最終チェックを行う。
12月1日（木） 晴時々曇 残務作業を行う。作業員は本日にて勤務終了。
12月2日（金） 曇 プレハブ、トイレ引き揚げ。道具すべて撤収。本日にて平成17年の現場作業終了。

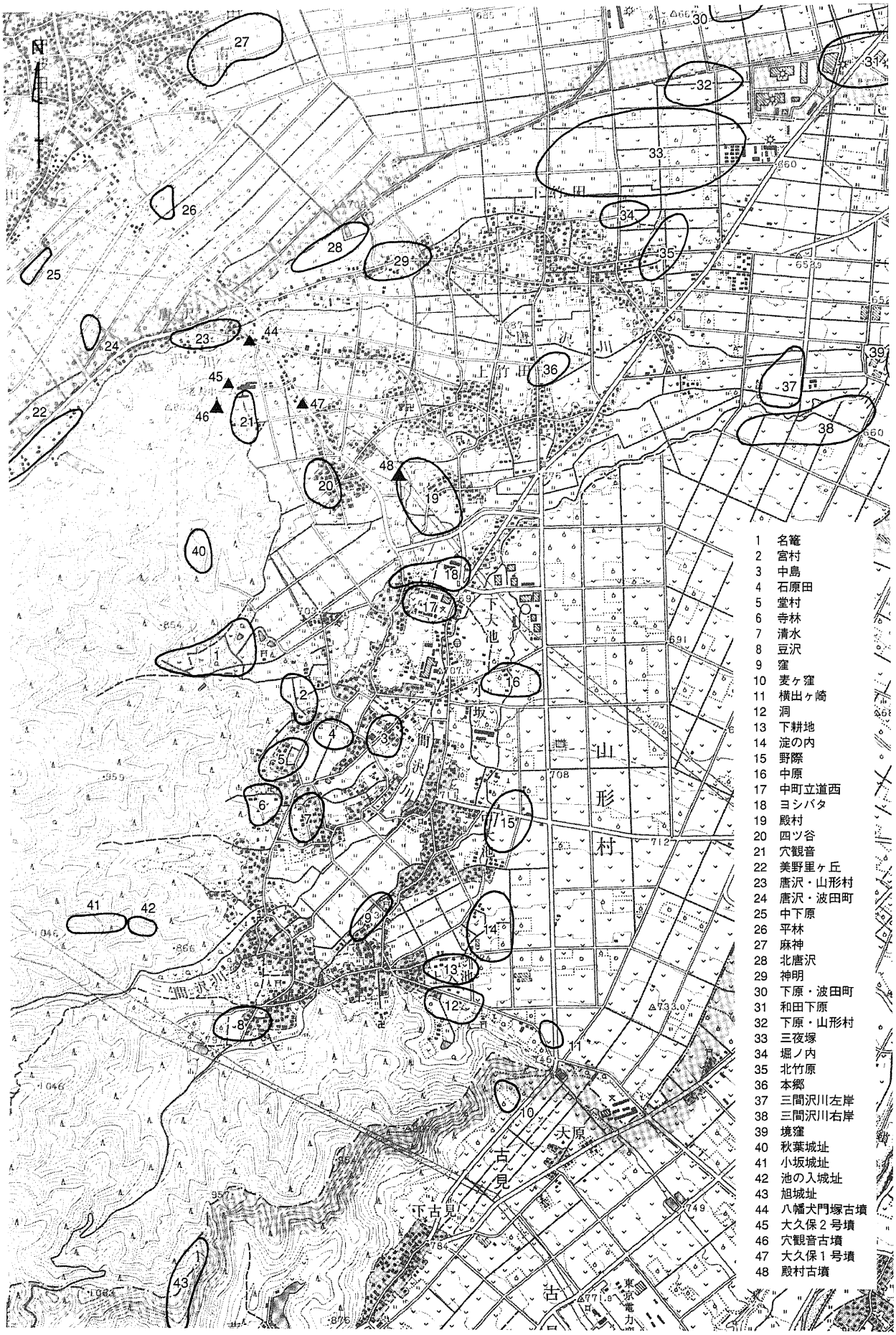
平成18年春まで、遺物洗浄、注記等の整理作業を進める。

平成18（2006）年
3月15日（水） 晴 調査予定地の立木を伐採。
3月20日（月） 晴 D区の表土除去開始。まずはトレンチを設け、面的に調査する範囲を確定させることにした。
3月22日（水） 曇 撹乱がひどいため、調査範囲はD・Ⅲ区500m²程度とした。
3月23日（木） 曇 積雪10cm。作業中止。
3月24日（金） 曇後晴 D・Ⅲ区表土除去開始。
3月27日（月） 曇後晴 D・Ⅲ区表土除去続行。やはり押型文土器片が目立つ。
3月28日（火） 曇後雨 D・Ⅲ区表土除去終了。
3月29日（水） 曇時々雪 現場のぬかるみがひどいため作業中止。
3月30日（木） 曇後雪 作業を行っていたが雪が強まったため、以後作業中止。
3月31日（金） 曇 プレハブ、トイレ搬入。テント設営。遺構検出開始。
4月4日（火） 晴時々曇 遺構検出続行。住居址はなさそうだが、土壙が数10基見られる。
4月5日（水） 雨 雨天中止。
4月6日（木） 晴時々曇 遺構検出概ね終了。前期末の土器も見られるが、押型文土器の方が多い。またSD－03の続きも検出した。
4月7日（金） 晴 遺構掘削開始。
4月10日（月） 曇後雨 昼前より雨脚強まったため、以後作業中止。
4月11日（火） 曇後雨 ぬかるみひどく雨予報だったため、作業中止。
4月12日（水） 曇時々晴 ぬかるみひどいが、作業が遅れ気味のため強行。
4月13日（木） 曇 遺構掘削続行。
4月14日（金） 曇 遺構掘削は半分ほど終了。
4月17日（月） 晴 SD－03は、D・Ⅲ区では谷水を取水できる様向きを変えており、やはり用水路である可能性が高くなった。村議篭田氏来訪。
4月18日（火） 晴 今年一番の暖かさ、黄砂がひどい。
4月19日（水） 曇後晴 各作業続行。
4月20日（木） 雨後晴 朝より激しい雨。作業中止。
4月21日（金） 雪後曇 4月下旬とは思えない猛吹雪で作業滞る。
4月24日（月） 晴 調査区南側に広がる遺物包含層の掘り下げを中心に行う。
4月25日（火） 曇後晴 各作業続行。
4月26日（水） 曇 D・Ⅲ区の作業も大詰め。
4月27日（木） 雨後曇 天気回復したため、午後のみ作業行う。
4月28日（金） 晴 遺構掘削も9割以上終了。松本市民タイムス取材に来訪。
5月8日（月） 晴時々曇 未掘の遺構と、南側遺物包含層の掘り下げを行う。
5月9日（火） 晴 最後の掘削を行い、図面の最終チェックを行う。
5月10日（水） 晴後曇 プレハブ、トイレ引き揚げ。機材撤収。本日にて名篭遺跡第Ⅰ次調査の現場作業終了となった。

現場作業終了後、遺物整理作業に即時着手。7月中に遺物接合作業まで終了。以後、遺物の実測、遺構図・遺物実測図のトレース、組版、遺物写真撮影、原稿執筆を行い、ようやく報告書刊行までこぎつける。


重機による埋め戻し作業

ラジコンヘリによる空中写真撮影



第１図　遺跡の立地と周辺遺跡（１：25,000）

Ⅱ　遺跡の環境

1　遺跡の立地と地形

名篭遺跡が存在する山形村は、長野県の中央、松本盆地の南西約12kmに位置し、古生代の地層に属する山地と、扇状地の堆積層によるなだらかな北東傾斜面からなっている。村の最高標高地点は唐沢山の1,745m、最低地点は唐沢川と三間沢川合流地点の約650mである。松本・塩尻・東筑摩郡の最高峰である鉢盛山（標高2,446m）の山稜から東北方向へ延びる尾根は、界沢山（1,994m）、ハト峰（1,970m）を経て唐沢山に達し、そこから2つに分かれ、1つは荒倉山（1,495m）から白山（1,387m）へ、もう1つは鳴神、御岳山（859m）の尾根へと達する。山形村を潤す河川は、この2つの尾根間を流れる唐沢川と、平地部に面した尾根の前面を流れる三間沢川のみである。すなわち鉢盛山系に落ちた雨水は、南に朝日村を流れる鎖川、北に波田町を流れる黒川へ多くが集まり、山形村にはあまり集まらないわけである。山形村の生活圏は、この山地を西側の背景とした広大な平地上に存在する。この平地の南部は鎖川、北部は梓川によって作られた扇状地がベースとなり、北部に唐沢川扇状地が乗る。昔からの水田地帯の大部分は、この扇状地の縫合帯にできた窪地に広がり、唐沢川や三間沢川等の流路もこの縫合帯に位置する。古くからの集落もこの周辺に立地し、また遺跡も集中する傾向にある。山麓には崖錐の地形と、小さな沢による小扇状地が形成され、前述の縫合帯を覆っている。

さて名篭遺跡は山麓沿いに立地し、調査地点の海抜は735m～775mで、1000分の80程度の比較的きつい傾斜面にある。ハト峰から御岳山へ延びる山稜からはそれぞれ多くの支脈の山稜があり、その間には小さな川や沢が生じるわけであるが、この場所にも小さな沢が流れる。この沢の作り出した小扇状地と、崖錐の複合により東側へ傾斜した地形が作り出された様であるが、崖錐は北側の斜面の方が発達しており、北が高く南が低い傾いた扇形となっている。その中央に侵食の復活により形成された谷が存在するが、谷を流れるはずの水は、現在農業用水取水のため流れを変えられ枯れている。発掘調査区の大半では、20～30cmの耕作土を取り除くと、扇状地の上を覆ったローム層が見られたが、一部ローム層土が流され礫層が見られる箇所、沢の侵食により形成された谷がすでに黒色土ですっかり埋没している箇所もみられた。

【引用・参考文献】　山形村誌編纂会　1980　『村誌やまがた』

2　歴史的環境

発掘調査が行われた名篭遺跡の周辺に分布する遺跡（第1図）を、今までに行った発掘調査の成果等を参考に時期をおって概観してみたい。

山形村内で見つかっている遺物で最も古いものは、三夜塚遺跡（第1図・33）で表採された局部磨製石斧2点で、旧石器時代末までさかのぼる。続く縄文時代は、草創期は発見例が無く、早期は清水寺遺跡の撚糸文土器、淀の内遺跡（14）の条痕文土器があるが、破片が数点表採されているのみである。前期になると徐々に遺跡も増え始め、発掘調査での成果も得られている。上大池淀の内遺跡（14）で前期初頭中越式期の竪穴式住居址と前期前葉関山式期の竪穴式住居址、小坂中島遺跡（3）で前期中葉有尾式期の竪穴式住居址や土壙、下竹田唐沢遺跡（23）で前期中葉～後葉にかけての竪穴式住居址4軒や集石炉等の遺構、下大池中町立道西遺跡（17）で前期後葉諸磯C式期の竪穴式住居址の発掘調査事例があり、下竹田神明遺跡（29）、

同美野里ヶ丘遺跡（22）、小坂寺林遺跡（６）では土器等の表採がされている。続く中期は村内に数多くの遺跡が存在し、縄文時代の爛熟した文化を作り出したと言われる中部山岳地帯の一角を形成する。中期の古い方は、下大池中町立道西遺跡（17）、小坂中島遺跡（３）、上大池淀の内遺跡（14）、上竹田本郷遺跡（36）で僅かな遺構・遺物が見つかっているのみであるが、それ以後爆発的に人口の増加があった様子で発見例が増す。上大池洞遺跡（12）、同淀の内遺跡（14）、上竹田殿村遺跡（19）、下竹田三夜塚遺跡（33）で発掘調査が行われ、中期中葉～後葉の竪穴式住居址やその他の遺構が数多く発見されたことから、大規模な集落跡であることが判明した。この他に発掘調査はしていないが数多くの遺物が拾われている遺跡として、中大池野際遺跡（15）、小坂宮村遺跡（２）、下竹田下原遺跡（32）等があげられ、いずれも規模の大きな集落であったことが容易に推測できる。後期になると遺跡数が激減するのはこの地域共通の現象で、山形村も同調する。発掘調査では、後期前葉の遺構や土器が下竹田三夜塚遺跡（33）で少数見つかっているのみである。表採された土器としては、上大池豆沢遺跡（８）、小坂宮村遺跡（２）、同石原田遺跡（４）等があるが、いずれも数は少ない。晩期のものは、今まで村内で拾われていない。

弥生時代になると稲作が始まったためと考えられるが、水利に乏しい村内には適地が限られるため遺跡があまり見られない。松本市とまたいで存在する境窪遺跡（39）では中期中葉前半の集落が見つかっているが、それ以外は断片的な資料である。下竹田唐沢遺跡（23）からは中期中葉前半の土器が少量、山形小学校敷地内（下大池ヨシバタ遺跡（18）か同中町立道西遺跡（17）に該当）から、壺と甕が各１点、上大池洞遺跡（12）からは竪穴式住居址の炉体土器ではないかと推測される後期箱清水式期の甕が２個体、上竹田殿村遺跡（19）から方形周溝墓が１基見つかっている。

古墳時代の集落は見つかっていないが、古墳は上竹田地区で５基の存在（44～48）が確認されており、大久保古墳群と呼ばれている。いずれも横穴式石室をもつ小型の円墳と見られ、終末期の築造と考えられる。なお殿村古墳（48）からは、「錦織部（にしごおり）」と書かれた墨書土器が見つかっており、県内最古の資料として注目されている。

続く奈良時代の集落も見つかっていないが、平安時代も後半になると人の営みが確認されている。上竹田殿村遺跡（19）で13軒、下大池中町立道西遺跡（17）で２軒、上大池淀の内遺跡（14）で２軒、同洞遺跡（12）で４軒の竪穴式住居址が見つかっている。いずれも10世紀以降のもので、松本平全域での集落動向に同調した動きと推測される。

中世については、下大池中町立道西遺跡（17）で中世後半期の遺構や遺物が発見されているのみである。山城は、秋葉城址（40）、小坂城址（41）、池の入城址（42）、朝日村境の旭城址（43）が知られている。史料の面でも当村に関連したものはほぼ皆無であり、この時期の歴史を知ることは難しい。

【参考文献】 山形村誌編纂会　1980『村誌やまがた』
山形村教育委員会　1981『山形村遺跡発掘調査報告書第３集　三夜塚遺跡』
山形村教育委員会　1982『山形村遺跡発掘調査報告書第４集　神明遺跡　三夜塚遺跡』
山形村教育委員会　1987『山形村遺跡発掘調査報告書第６集　殿村遺跡』
山形村教育委員会　1997『山形村遺跡発掘調査報告書第７集　淀の内遺跡』
山形村教育委員会　1998『山形村遺跡発掘調査報告書第８集　中町立道西遺跡』
山形村教育委員会　2000『山形村遺跡発掘調査報告書第９集　本郷遺跡』
山形村教育委員会　2001『山形村遺跡発掘調査報告書第11集　淀の内遺跡Ⅳ』
山形村教育委員会　2002『山形村遺跡発掘調査報告書第12集　三夜塚遺跡Ⅲ』
松本市教育委員会　1998『松本市文化財調査報告No.130　境窪遺跡　川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ』

Ⅲ　調査の結果

1　発掘調査の方法

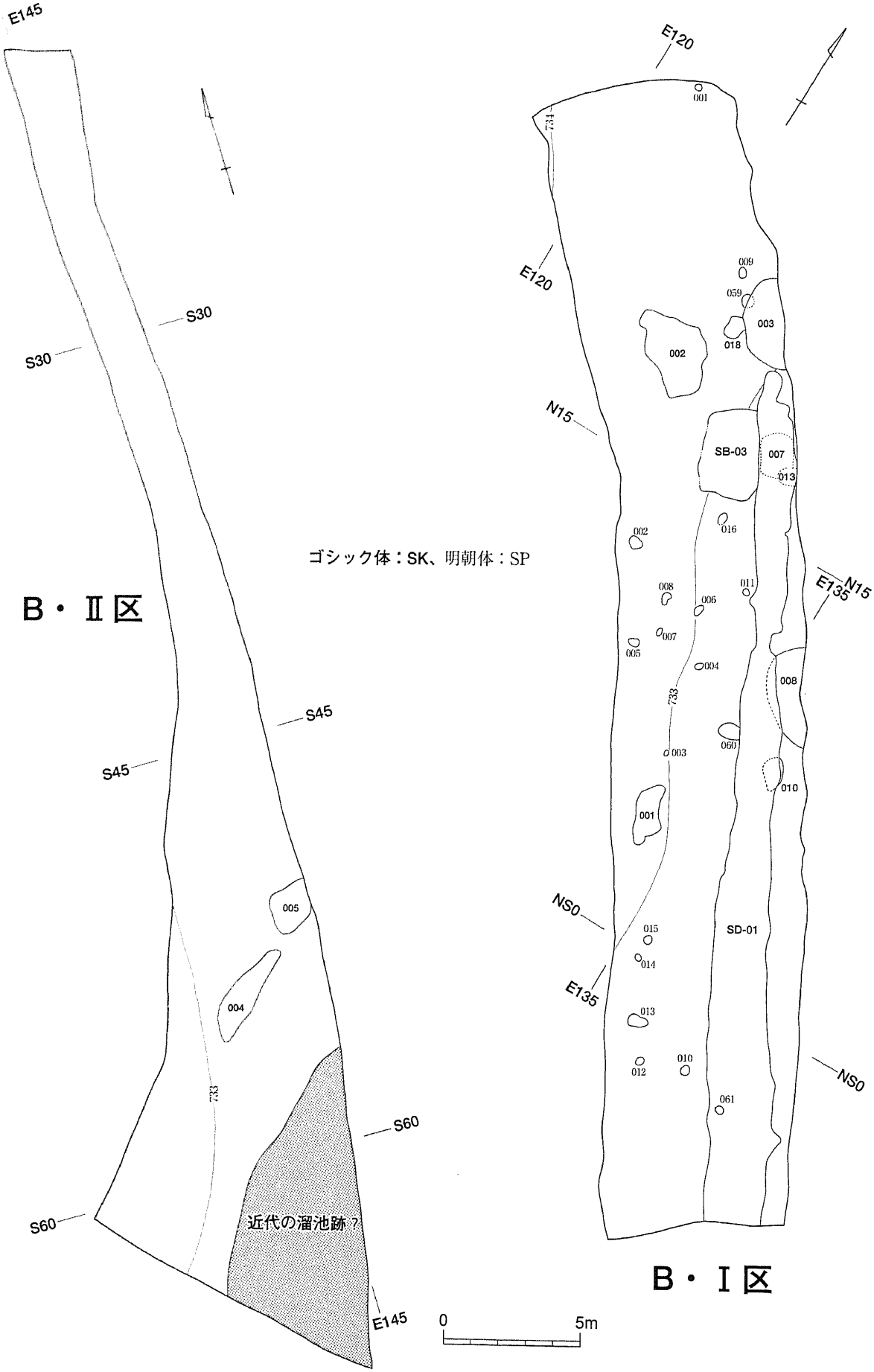
調査範囲（第10図）は、工事によって遺跡が破壊される範囲を対象とした。しかし事業地北端の山裾に近い箇所については、調査体制や時間的制約から不十分となってしまった。多目的広場予定地をA区、マレットゴルフ場コース予定地をB区、墓地造成予定地をC区、平成19年春に追加で調査をした墓地造成予定地をD区と呼び分け、藪になった立木の伐採・移植、廃土置場の確保、造成工事進捗に会わせた発掘調査進行の都合から、さらにA・Ⅰ区、A・Ⅱ区と細かく調査区を設定した。各地区の調査面積は、A・Ⅰ区：551m²、A・Ⅱ区：1,750m²、B・Ⅰ区：328m²、B・Ⅱ区178m²、B・Ⅲ区：168m²、B・Ⅳ区：47m²、B・Ⅴ区：72m²、B・Ⅵ区：121m²、C・Ⅰ区：2,820m²、C・Ⅱ区：325m²、C・Ⅲ区：1,756m²、C・Ⅳ区：1,202m²、C・Ⅴ区：287m²、D・Ⅰ区：137m²、D・Ⅱ区：68m²、D・Ⅲ区：584m²、D・Ⅳ区：19m²で、合計10,413m²を測る。各調査区全域を3mのグリッドで覆い、遺構の測量を行った。基準点は、公園・霊園造成工事のために設置した国土座標値を用いており、X＝18192.000、Y＝－57090.000を座標原点（NS0、EW0）とし、この座標原点からの距離に方位記号を冠し、N3、N6…、E3、E6…と座標を呼称した。また調査に際して、この方位に沿った1×1mのグリッドを設定しており、グリッド名は座標原点からの最小の数値をもって呼称した。

調査に際しては、まず大型建設用機械を使用して遺構検出面までの表土を除去、搬出した。以降は人力作業となるが、まず遺構の検出作業を行い、遺構の範囲・位置を特定した。土色の相違が判然とせずに平面的に範囲を特定することが困難な箇所については、トレンチを設定し、土層断面の観察も併用して遺構の検出に努めた。遺構番号は、遺構の形状や想定される性格、規模の大小によりそれぞれ「1」からの通し番号を付けたが、遺構ライン検出段階で付したため、本来別の性格を持つ遺構として付すべきものが多々含まれている。遺構の掘削は、竪穴式住居址等の大型な遺構は4分割して掘削、堆積状況を観察、図化・記録した。その他の遺構は半分掘削したあと同様にしたが、半割が難しい小型のピット等は土色・土質の観察・記録のみ行った。遺物の取り上げは、全点記録及び層位別取り上げを行うことを求められるところであるが、限られた期間と予算と人員では完全実施を望める状況になく、一部を除いてグリッド単位や遺構単位での取り上げとせざるを得ない状況であった。遺構等の測量記録はすべて1/20で作成した。写真撮影はカラーフィルムと白黒フィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。また各地区の調査がほぼ終了した段階で、ラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を業者委託の上実施している。

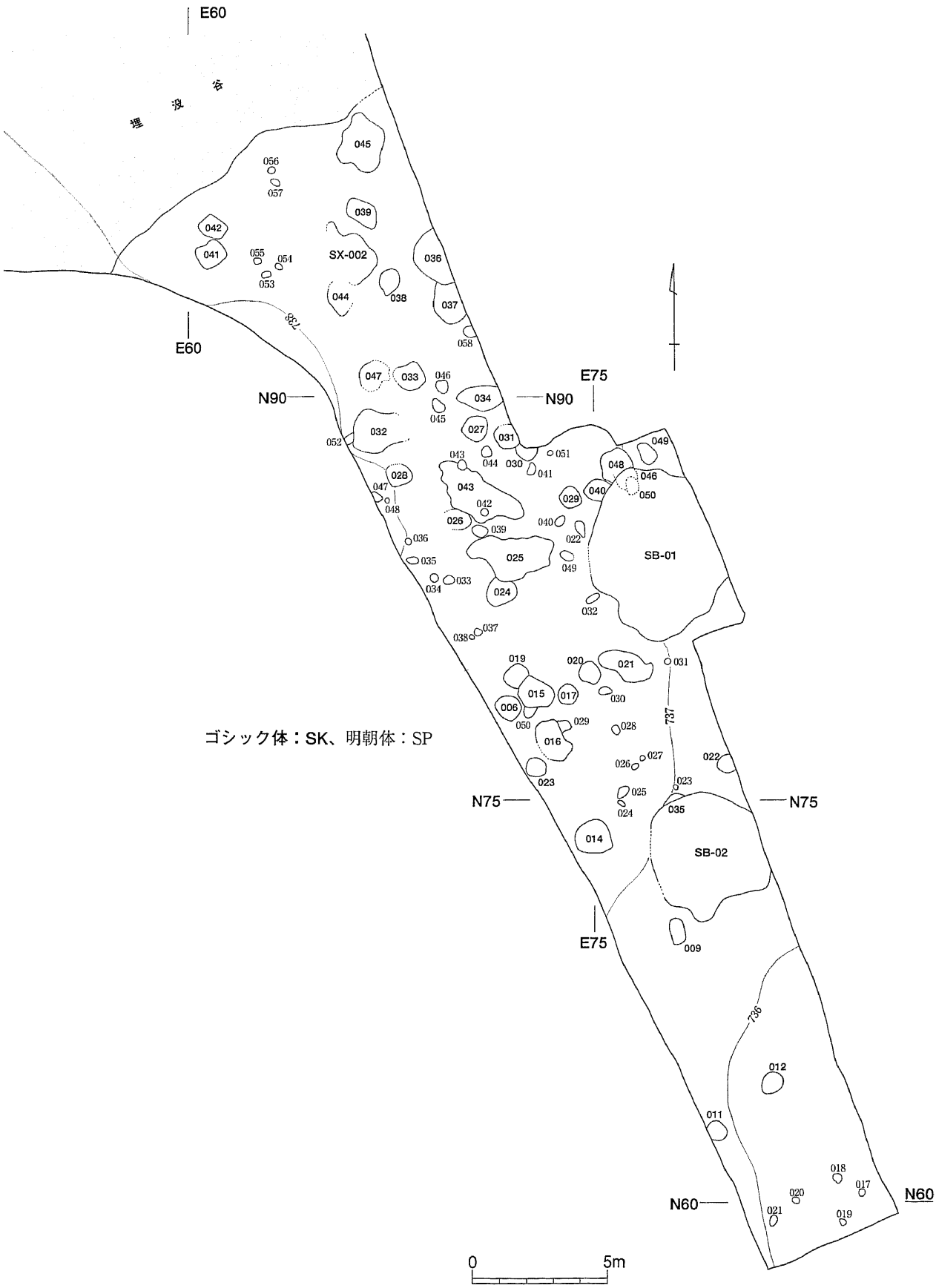
2　整理作業の方法

遺跡から出土した遺物の整理作業は、水洗い、出土遺構・地点の注記、分別、割れた遺物の接合・復元、分類、抽出、実測図の作成、報告書の執筆という各作業を行った。水洗いは概ね平成17年度の冬季間、注記は平成18年度の夏季、遺物の接合・復元は同秋季、実測図の作成は同秋季から冬季、報告書の執筆は年が明けてから行った。

注記については、山形村遺跡地図に付されている名篭遺跡の遺跡番号「17」→遺構番号・グリッド名→取り上げNo.等の順番で記した。注記後は、土器・石器等に分別の後接合作業を行い、必要に応じて復元作

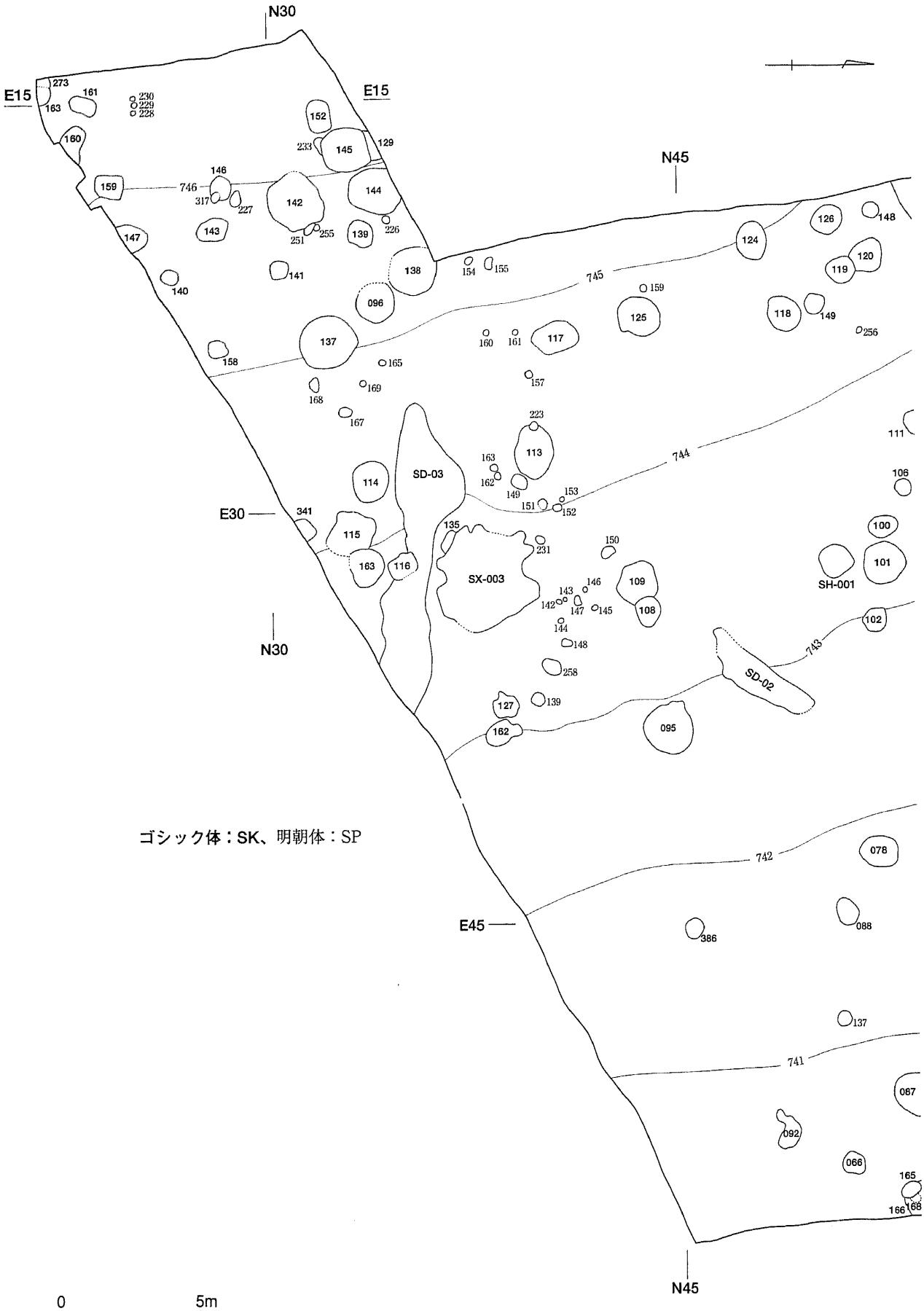


第２図　B・Ⅰ区、B・Ⅱ区　遺構配置図（S＝１／200）

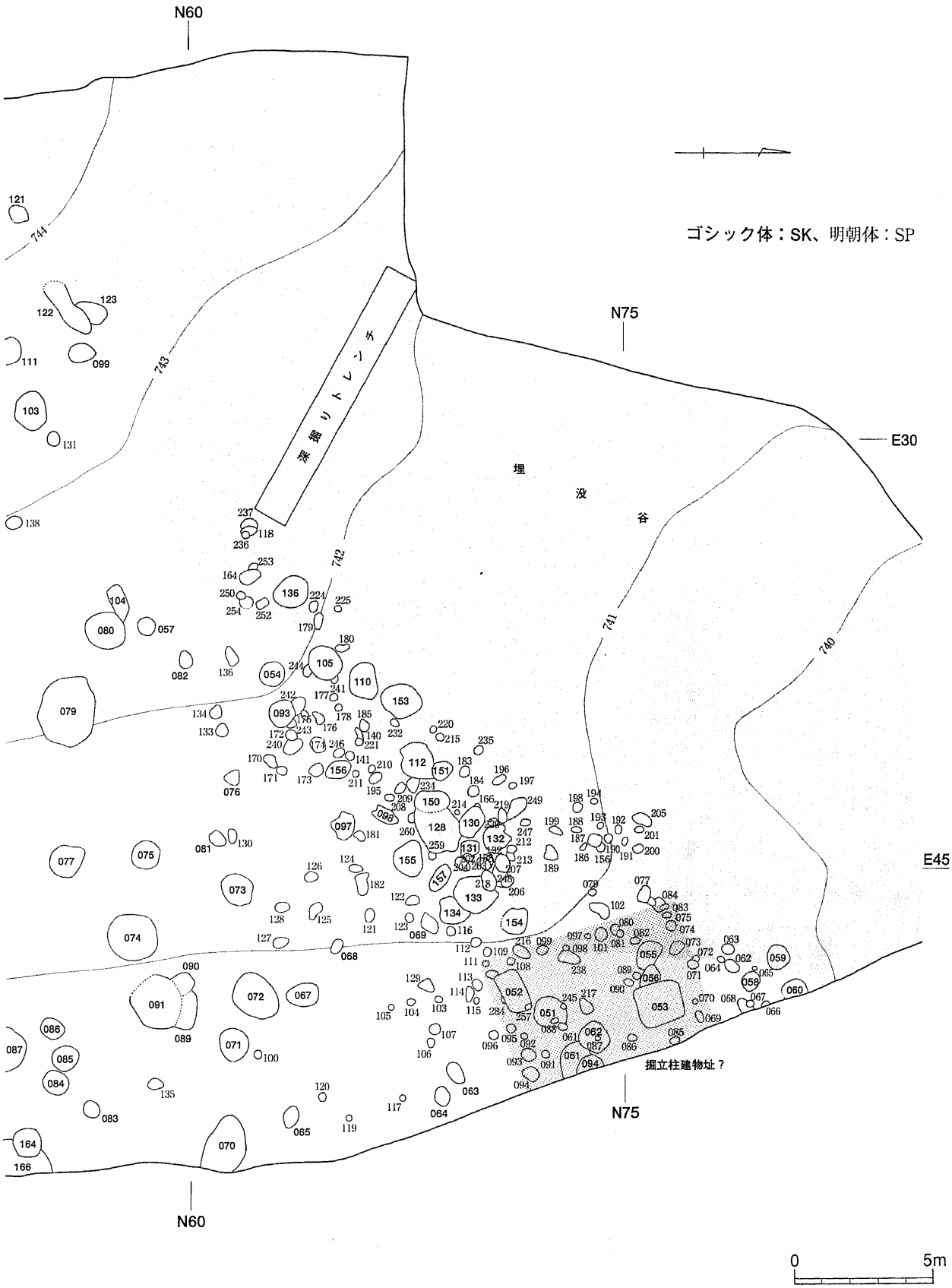


ゴシック体：SK、明朝体：SP

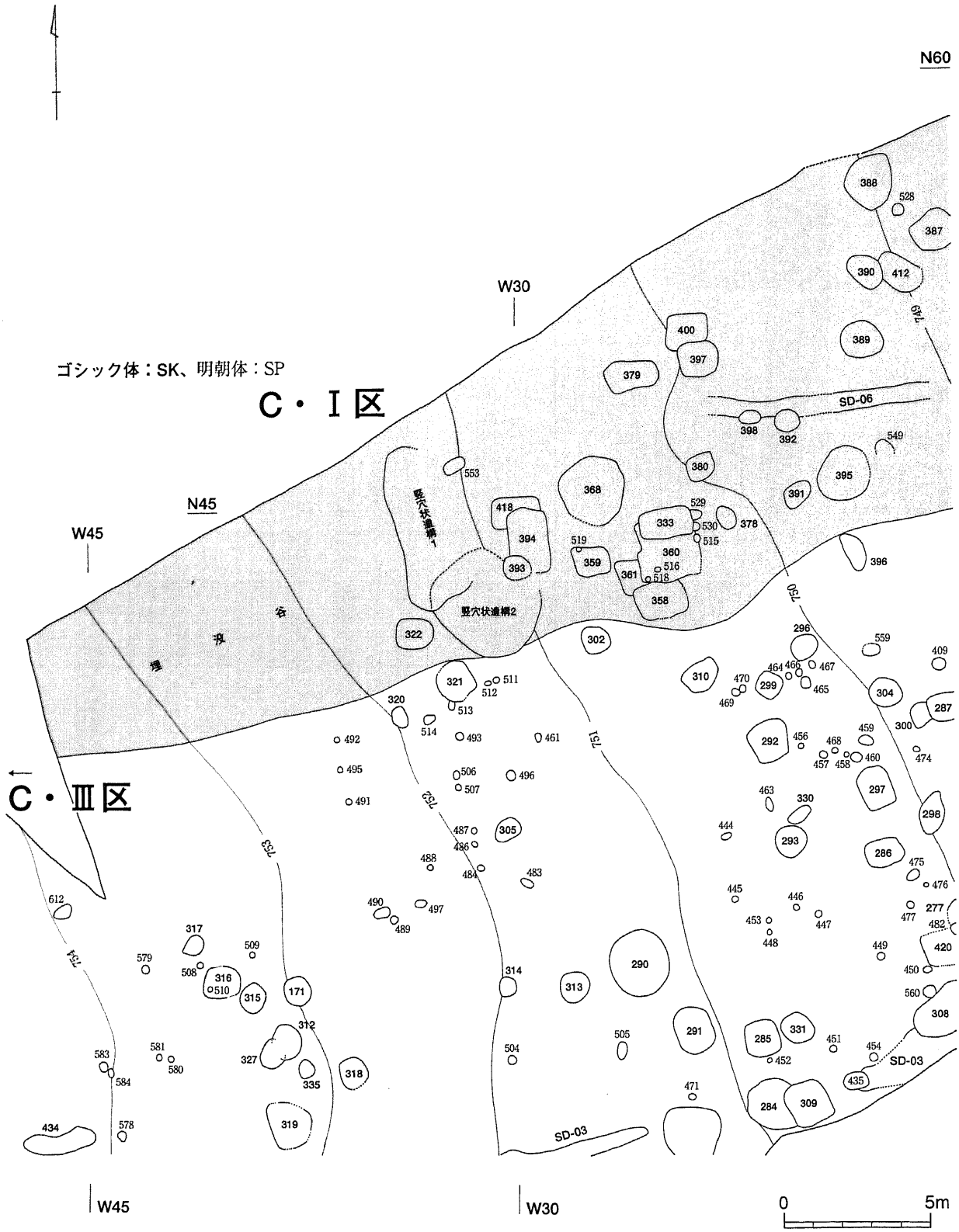
第３図　A・Ⅰ区　遺構配置図（S＝１／200）



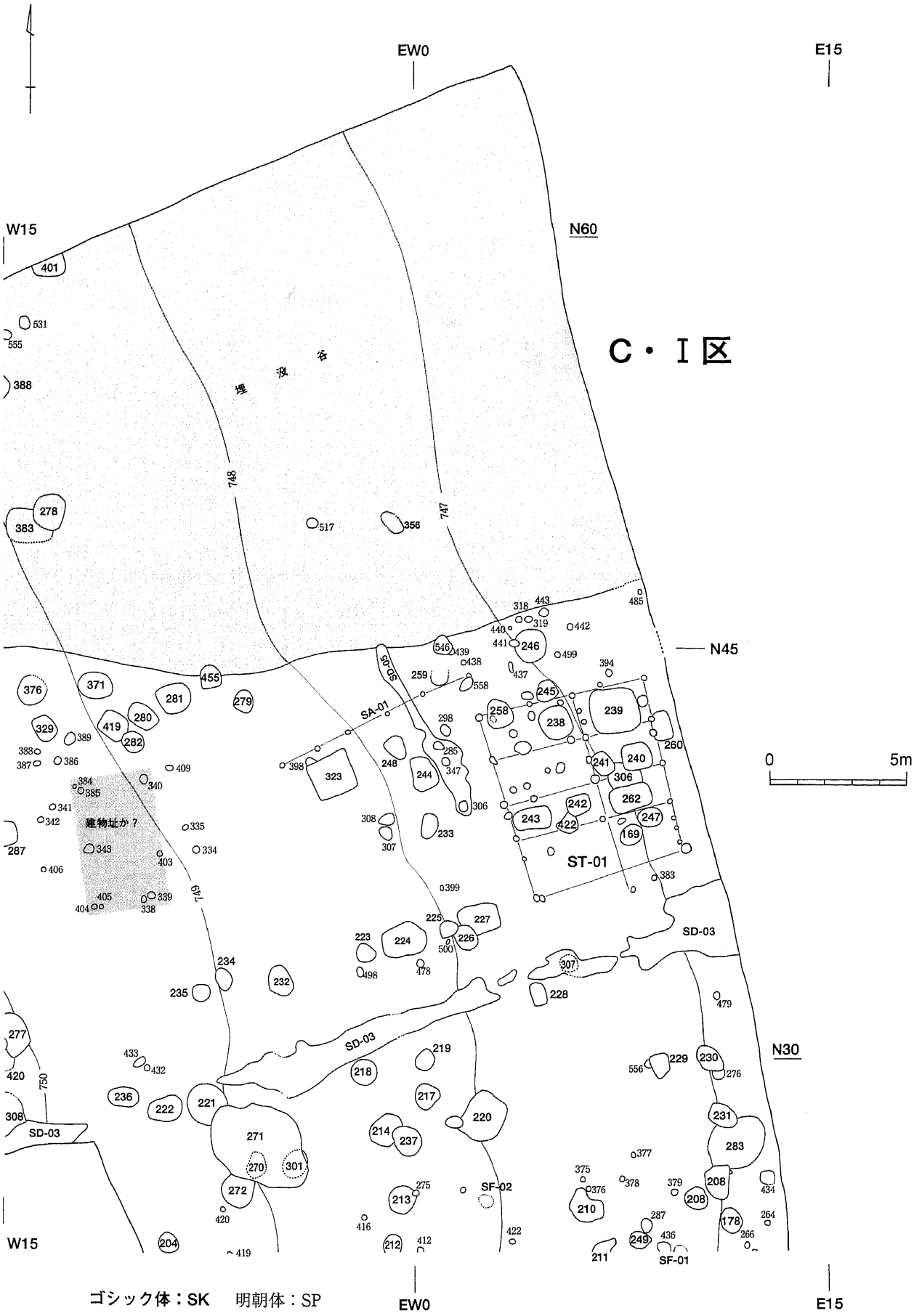
第4図　A・Ⅱ区①　遺構配置図（S＝1／200）



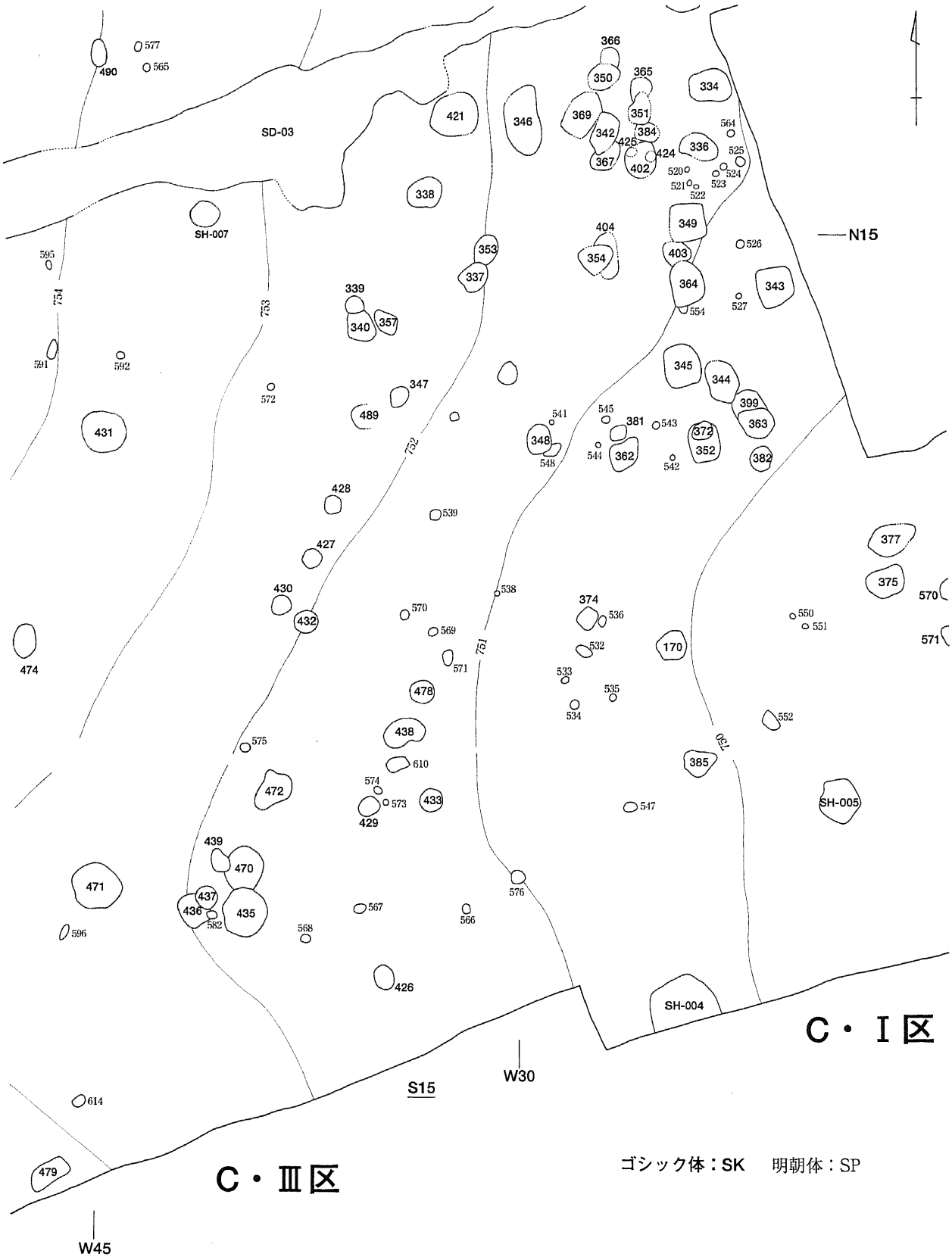
第５図　A・Ⅱ区②　遺構配置図（S＝１／200）



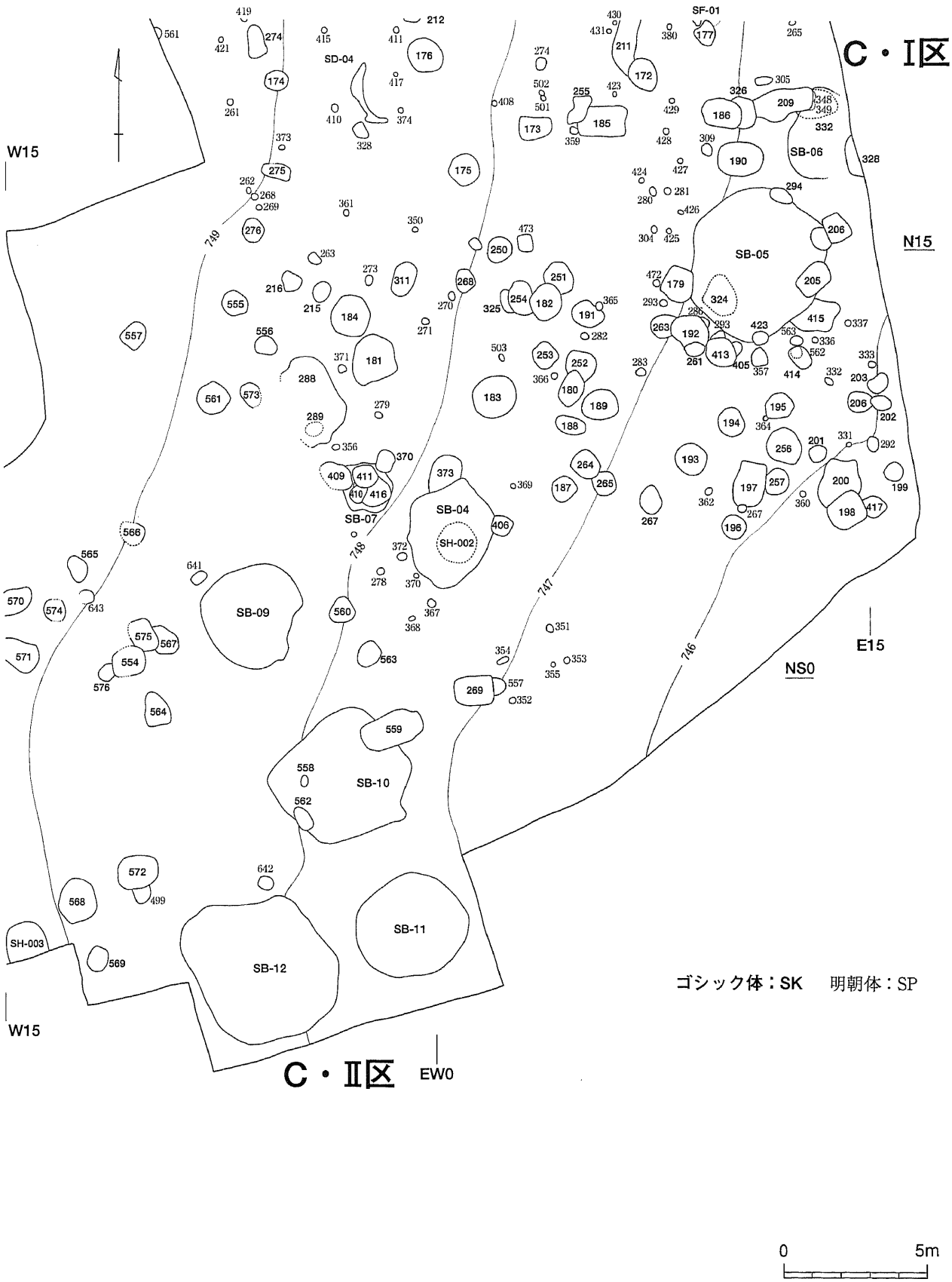
第6図　C・Ⅰ区①、C・Ⅲ区①　遺構配置図（S＝1／200）



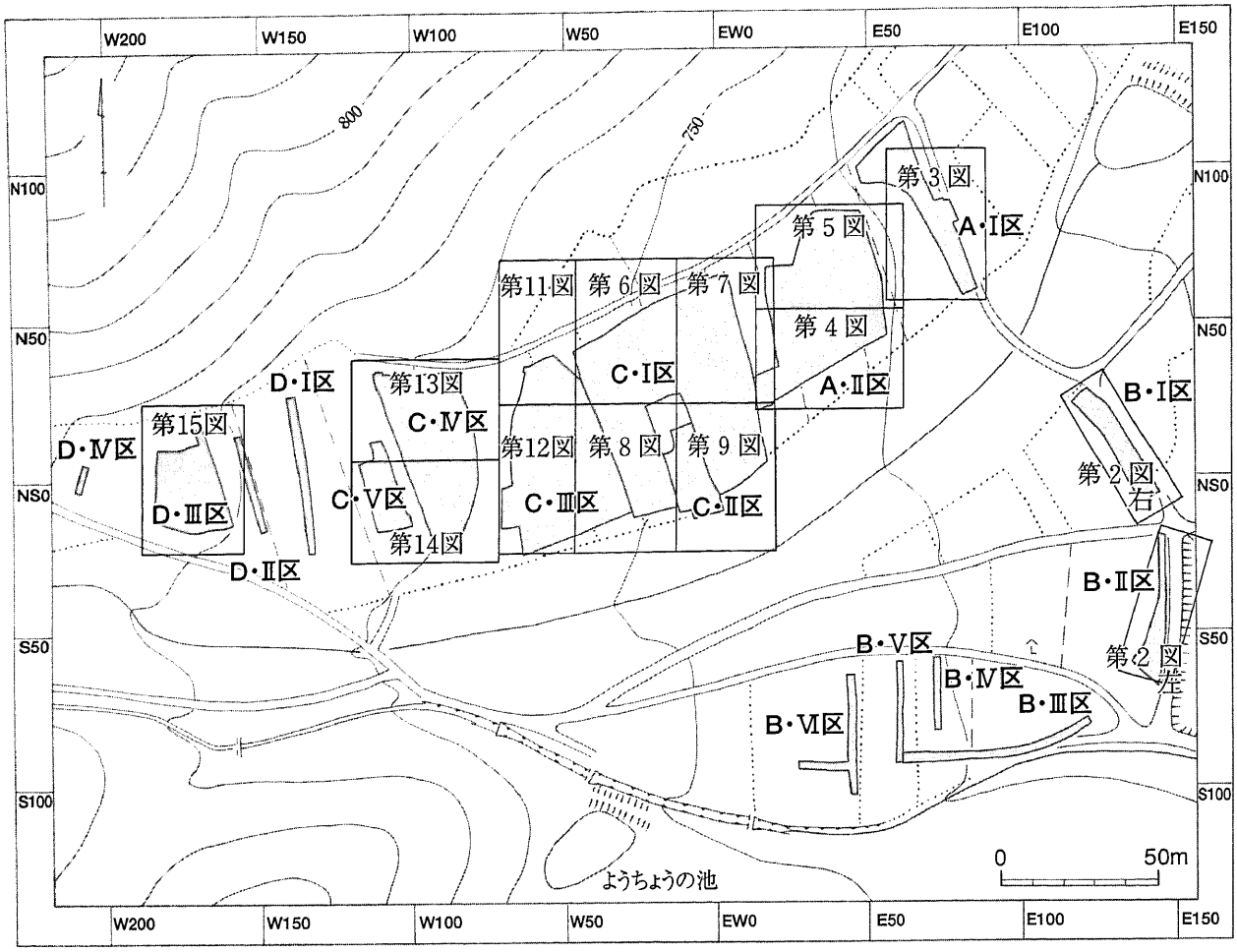
第７図　C・Ⅰ区②　遺構配置図（S＝１／200）



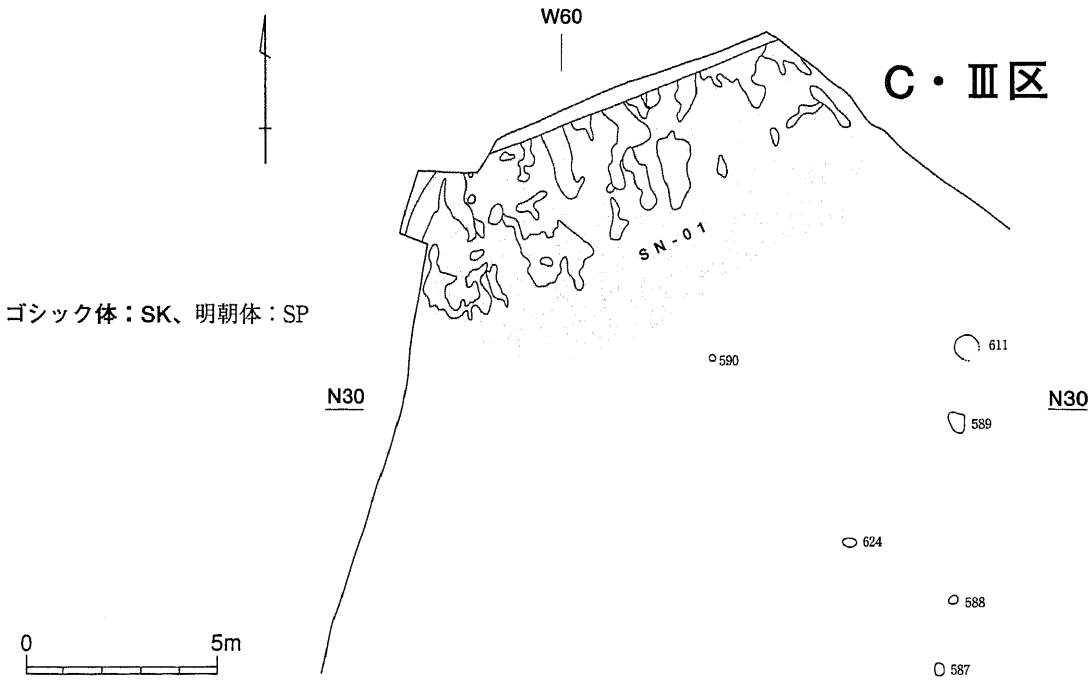
第８図　C・Ⅰ区③、C・Ⅲ区②　遺構配置図（S＝１／200）



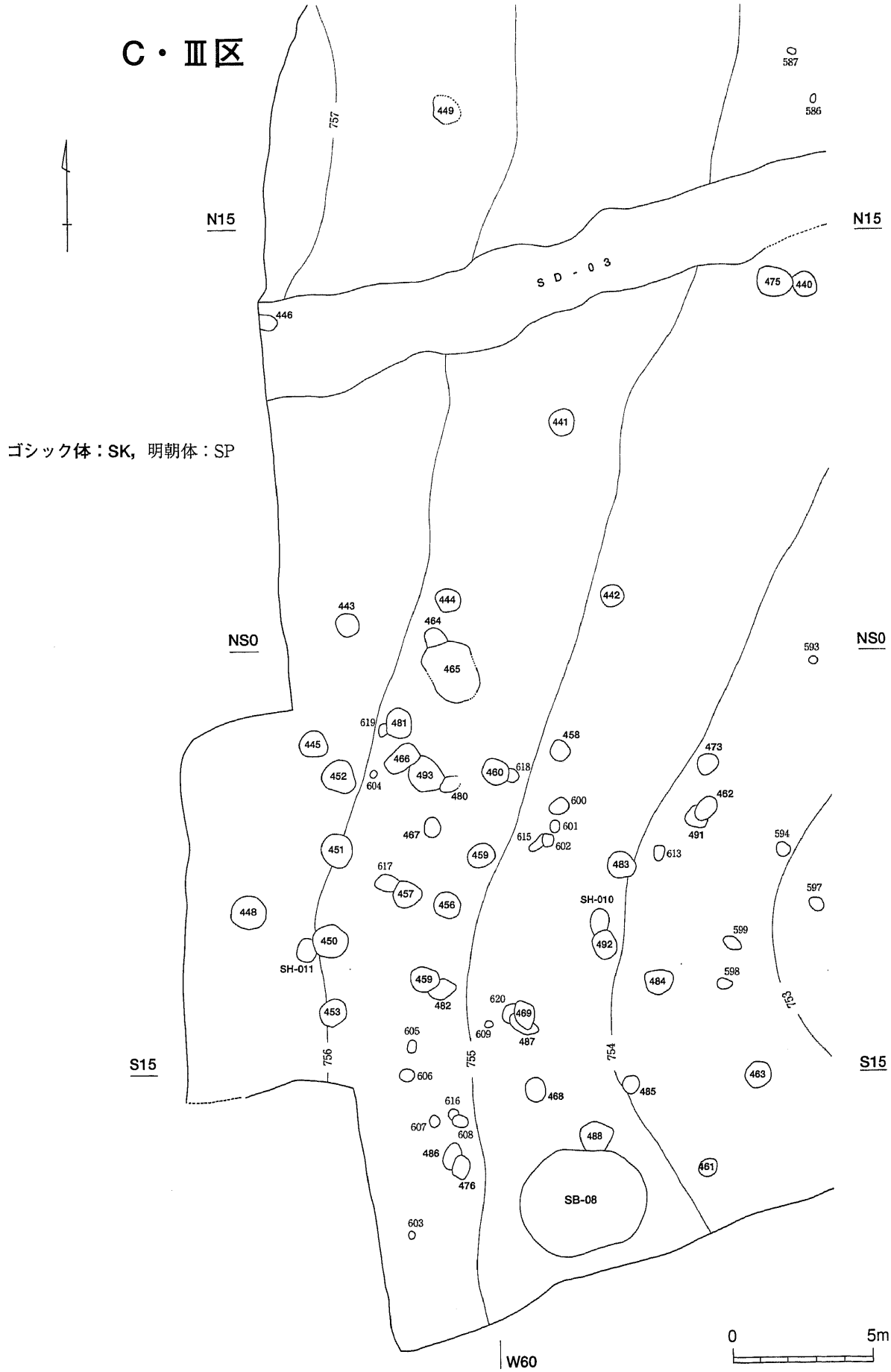
第９図　C・Ⅰ区④、C・Ⅱ区　遺構配置図（S＝１／200）



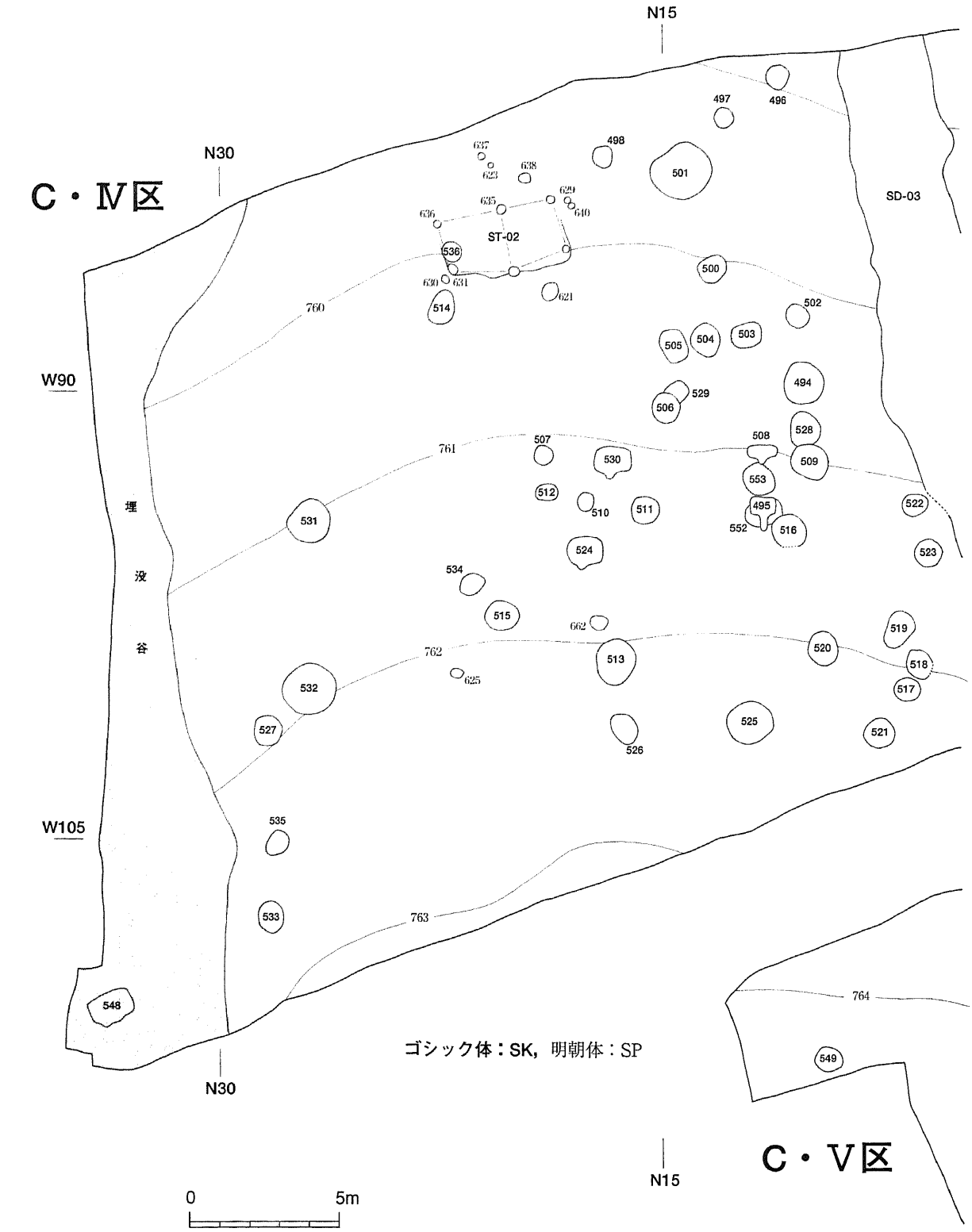
第10図　調査地区位置図及び遺構配置図割振図（S＝1／2400）



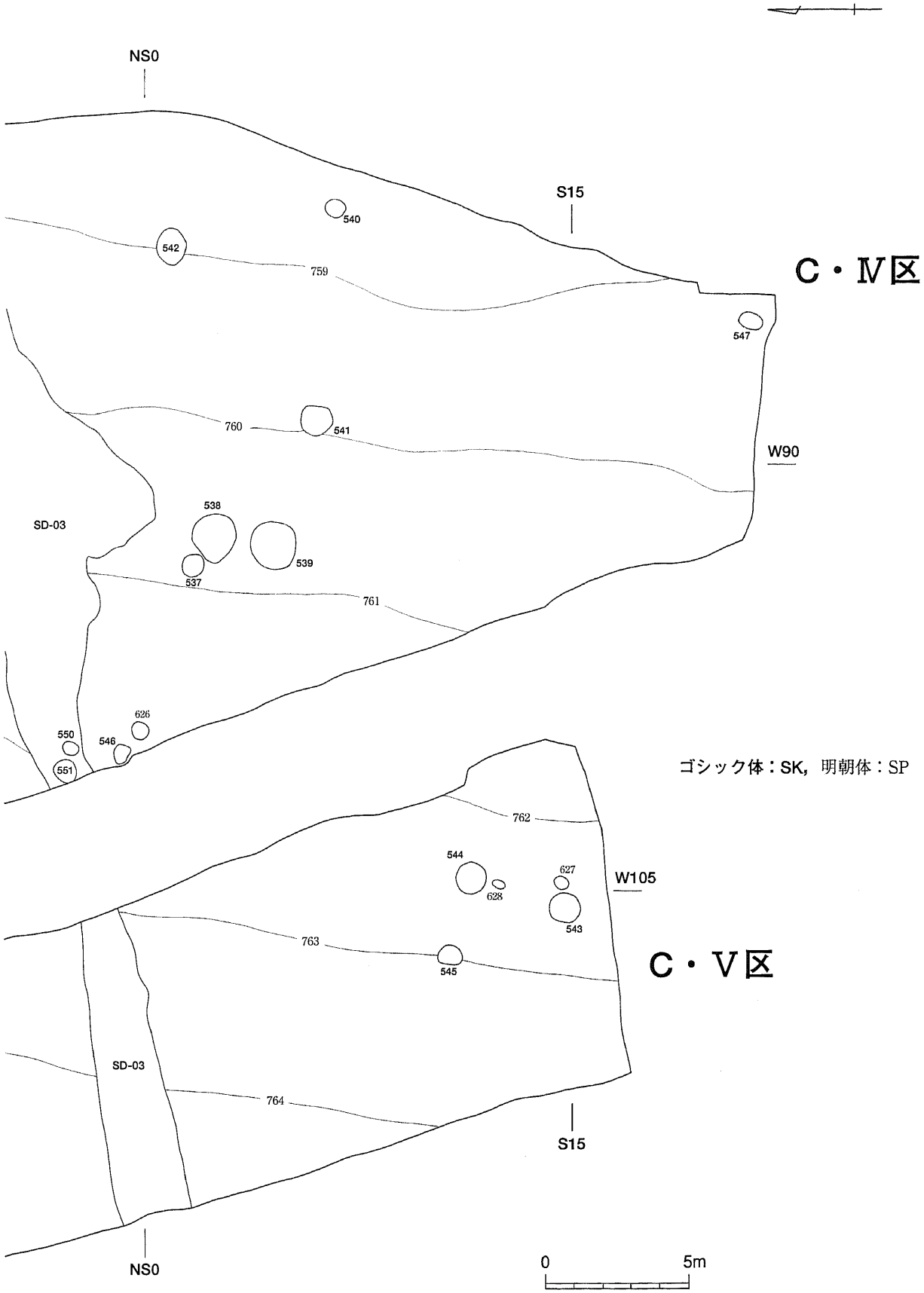
第11図　C・III区③　遺構配置図



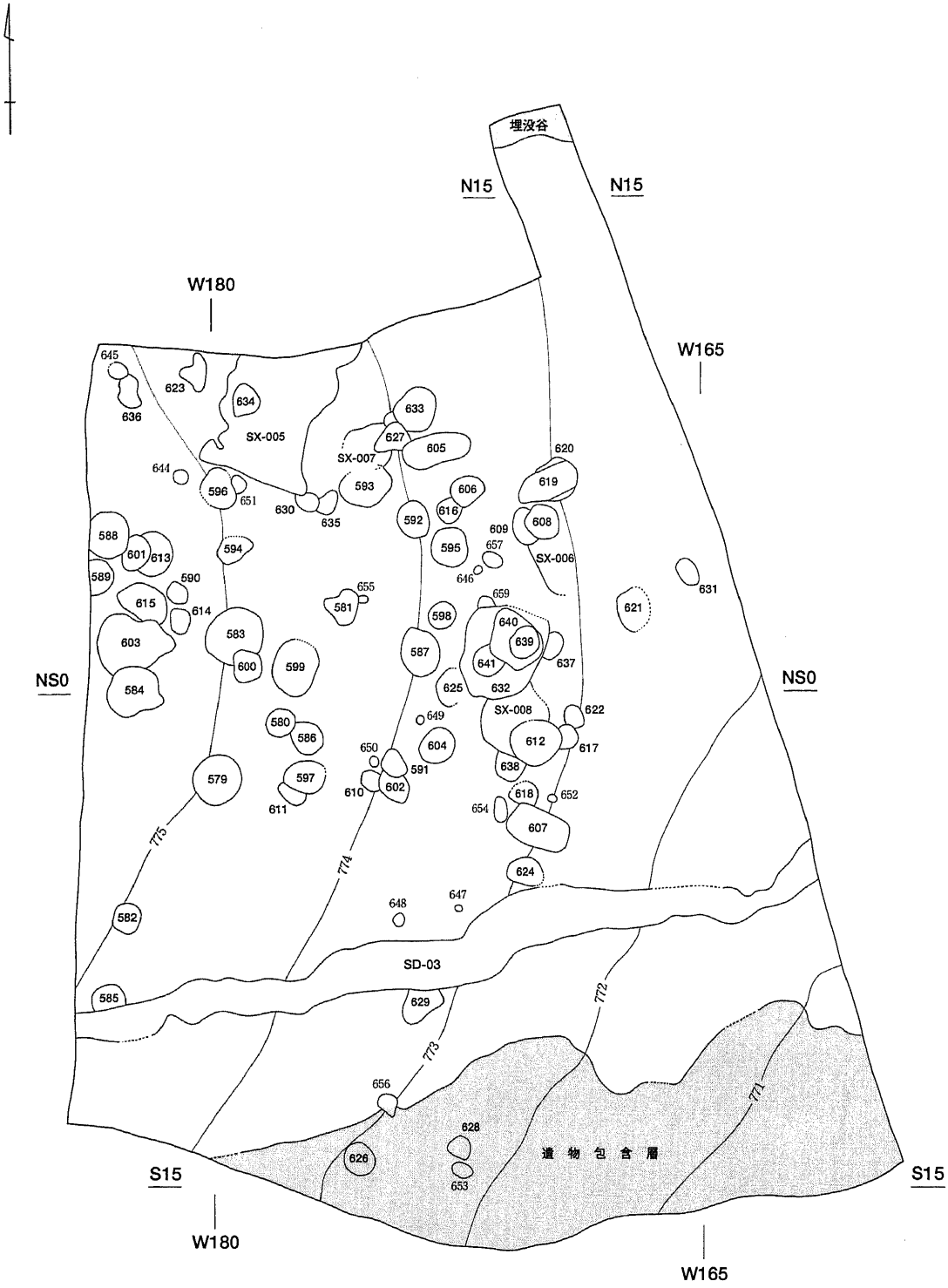
第12図　C・Ⅲ区④　遺構配置図



第13図　C・Ⅳ区、C・Ⅴ区　遺構配置図①（S＝1／200）



第14図　C・Ⅳ区、C・Ⅴ区　遺構配置図②（S＝1／200）



ゴシック体：SK，明朝体：SP

0 5m

第15図　D・Ⅲ区　遺構配置図（S＝1／200）

業を行った。金属製品については、これ以上の錆化を防ぎ腐食を防止するため、保存処理を業者委託の上実施した。遺物の図化作業は、詳細かつ学術的に使用可能な実測図を作成しなければならないため、専門的技術を要するが、これに従事できる者は調査担当者しかいなかったため、石器の実測は一部を除き業者委託の上行った。またそれ以外の実測図作成についても、作業スピードを上げ期限内に仕上げる必要性から、図化を補助する機械をリースし使用した。

発掘調査の過程で出土した炭化材、炭化種実、人骨については、選択の上自然科学分析を実施した。分析結果については、その報告を本書中に納めてある。

3　検出遺構

（1）　竪穴式住居址

縄文時代前期末～中期初頭に帰属するもの5軒、縄文時代中期後葉に帰属するもの4軒、時期不明のもの3軒が検出された。このうち縄文前期末～中期初頭の竪穴式住居址は、A区及びC区の南側、事業地の中央にある谷へと傾斜した広い範囲から検出されている。SB－01を除くとかなりの削平を受けており、残存状況が悪い。削平の度会いは、A区・C区・D区で200m以上にわたって見つかったSD－03の検出状況から良く分かり、C・Ⅲ区～C・Ⅴ区では50～80cmの深さを測るが、A・Ⅱ区～C・Ⅰ区では0～20cmしか測れない。よってSB－05周辺で検出された径数10cmの地山面赤化箇所（SF－01・02）も、竪穴式住居址の炉ではないかと推測されるところである。一方縄文中期後葉の4軒は、C・Ⅱ区の狭い範囲からのみ見つかっている。またB・Ⅰ区のSK－003・008は、住居址の可能性があるが、炉址や柱穴が見られないことから除いて扱った。

①　SB－01（第16図）

位置：A・Ⅰ区の中央、N85E78グリッド周辺。

切り合い：SK－046・048・050を切る。SK－040とは不明。

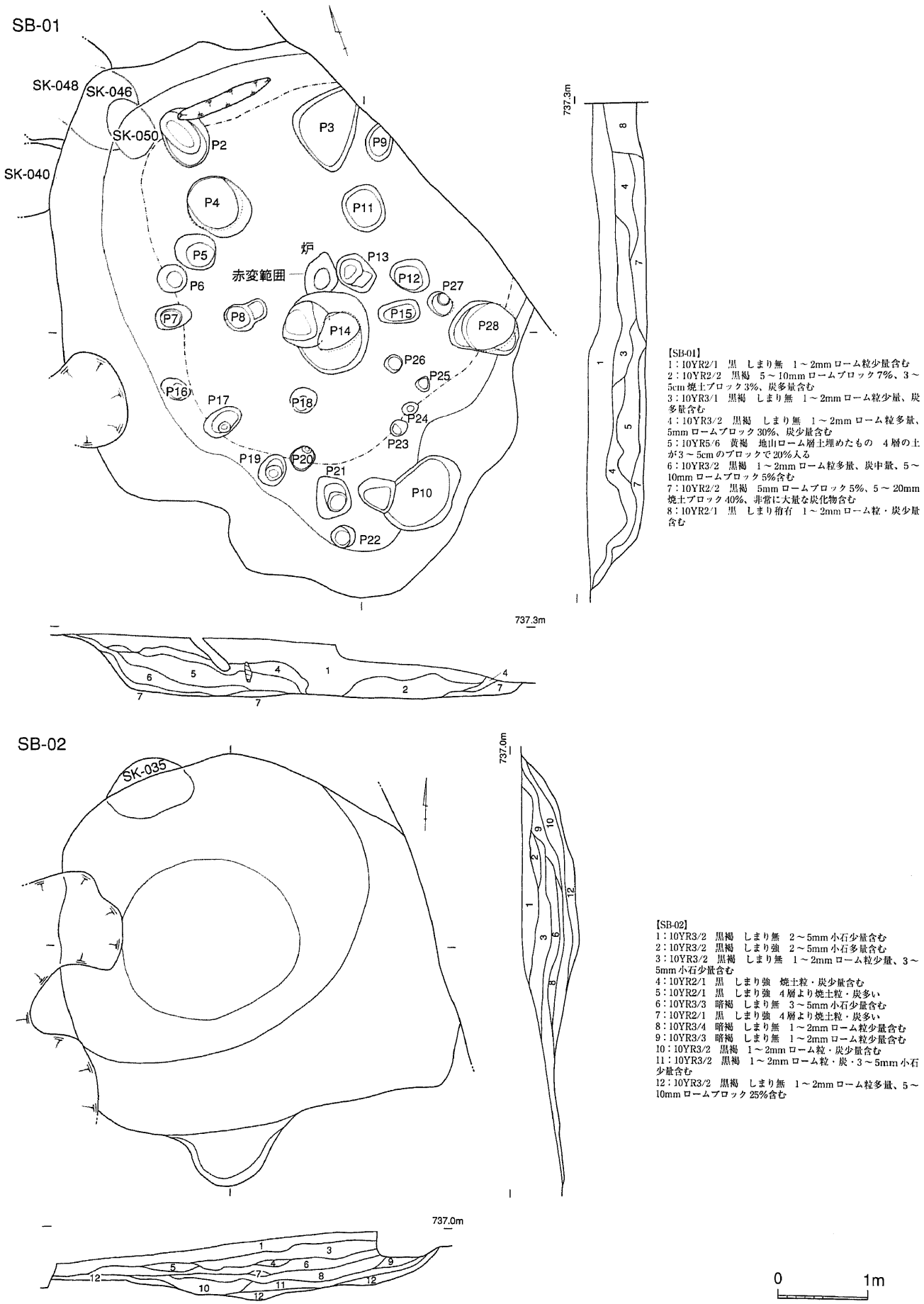
形状：竪穴式住居址の東側が調査区域外へ延びているため推測となるが、隅丸方形状を呈すと思われ、南側が不整形に張り出す。

規模：張り出し部を含めて長径6.3m、短径は推測で5.3m、床面積も推測で19.4m²である。壁は比較的緩やかな傾斜で50～60cmを測るが、道路敷となっていた東側は深く削平を受けており、20cm程度しか残っていなかった。

床面：掘り込んだローム層をそのまま床面としており、中央が壁際よりやや窪んだ形状である。貼床は認められないが、壁際以外は硬化している。

住居内施設：ピットと炉を検出した。ピットは28基（P1～28）と数多く存在し、規模や形状に大きな開きがあり切り合いも見られる。炉址を切るP13・14は、検出時に見落とした本址を切る遺構の可能性が高い。南西側に径20～30cm程度、深さ20～40cmのピット（P5・6・7・12・16・17・19・21・27）が集まる傾向が見うけられることから、住居址の拡張がなされた可能性も考えられる。断面が袋状を呈するP4・28は本址に伴う貯蔵穴かもしれない。P7内からは、研磨された玉質の円礫（写真図版31）が出土しており、祭祀的な意味を感じさせる。P10はピットと呼ぶにはふさわしくない形状で、100×70cmの楕円形を呈し、深さは10cm程であるが、覆土中から黒曜石のチップやフレイクが多量に出土している。炉は地床炉で、ほぼ中央から検出された。40×50cm程の範囲が被熱により赤化しており、中央は5cm程度窪んでいる。

覆土の状況：8層が堆積する。7層は柱材や屋根材が焼けたと思われる炭化材や焼土を多量に含む。7層下



【SB-01】
1：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　5～10mmロームブロック7%、3～5cm焼土ブロック3%、炭多量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒少量、炭多量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック30%、炭少量含む
5：10YR5/6　黄褐　地山ローム層土埋めたもの　4層の土が3～5cmのブロックで20%入る
6：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒多量、炭中量、5～10mmロームブロック5%含む
7：10YR2/2　黒褐　5mmロームブロック5%、5～20mm焼土ブロック40%、非常に大量な炭化物含む
8：10YR2/1　黒　しまり稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む

【SB-02】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無　2～5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり強　2～5mm小石多量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒少量、3～5mm小石少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり強　焼土粒・炭少量含む
5：10YR2/1　黒　しまり強　4層より焼土粒・炭多い
6：10YR3/3　暗褐　しまり無　3～5mm小石少量含む
7：10YR2/1　黒　しまり強　4層より焼土粒・炭多い
8：10YR3/4　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
10：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒・炭少量含む
11：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒・炭・3～5mm小石少量含む
12：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック25%含む

第16図　SB－01・02（S＝1／60）

部及び床面直上から完形土器等の出土は見られず、炭化材も柱の形状を留める様なものがほとんど見られない。よって火災住居とは考えられず、住居廃絶後に家財道具を運び出し、再利用可能な柱材を抜き取った後、廃材等を焼却処理したのではないかと推測される状況である。なおP7内から出土した円形の研磨礫と同様なもの（写真図版31）が7層中より出土しており、住居廃絶後の祭祀行為にかかわる遺物と推測される。5層は地山のローム層土そのもので、周囲のいずれかの遺構を掘削した際生じた土を、窪地となっていた本址に廃棄したものと考えられる。土器片や砂岩等の剥片礫は、7層の上面や1層中からの出土が多く、7層上面のものは焼却処理された廃材等と同様に廃棄されたもの、1層中のものは窪地となっていた本址へ廃棄されたものと思われる。

遺物：土器は破片ばかりで完形に近いものはない。いずれも覆土中からの出土で、第65図180～193を掲載した。石器は、石鏃5点（第82図11～15）、石錐1点（第83図42）、石匙1点（第83図51）、掻器2点（第85図78・79）、打製石斧4点（第86図93～96）、磨製石斧3点（第88図131・135・137）、磨石類11点（第90図147～154他）と多くが認められた。他に前述の円形研磨礫2点、破損した磨製石斧の破断面を磨き、垂飾に再利用しようとしたが途中で断念したのかと思われるもの（写真図版31）、石中に含まれていた酸化鉄が石の表面に染み出し、部分的に赤く染まった円礫を垂飾にしようと穿孔を途中まで行った垂飾未製品（第91図172）、P10から出土した多量の黒曜石フレイク・チップ、黒曜石剥片類等が認められた。

時期：覆土中出土土器片からの判断であるが、縄文時代前期末と考えられる。

② **SB－02**（第16図）

位置：A・Ⅰ区の中央からやや南寄り、N73E79グリッド周辺。　**切り合い**：SK－035を切る。

形状：傾斜のきつい箇所に掘られているため、傾斜の低い方である南側は判然としない。また東側は道路によってすべて削平されてもいるが、定形的な形状ではない。

規模：主軸方向がまったく分からないが、南北は4.8mを測り、東西は4.5m程度と推測される。壁は非常にゆるく中央付近まで傾斜しているが、南側は自然の傾斜にのまれる形で消滅している。

床面：掘り込んだままで平滑に整えられていない。断面が逆台形状ではなく、浅い椀状である。

住居内施設：何も検出されなかった。上記の状況も加え考えると、住居としてよいのか迷うところであるが、遺構番号を冠してから掘り下げ始めたこともあり、住居として扱った。住居を作ろうと地面を掘り始めたが、何らかの理由で中断したものかもしれない。

覆土の状況：12層が堆積する。2層・4層・5層はしまりの強い層で焼土粒や炭の混入も見られるが、土量自体は少ない。他はしまりの弱い層で、自然埋没によるものと思われる。

遺物：時期の分からない土器小片と、黒曜石の小剥片が数点出土したのみである。

時期：判断する根拠がなく、不明である。

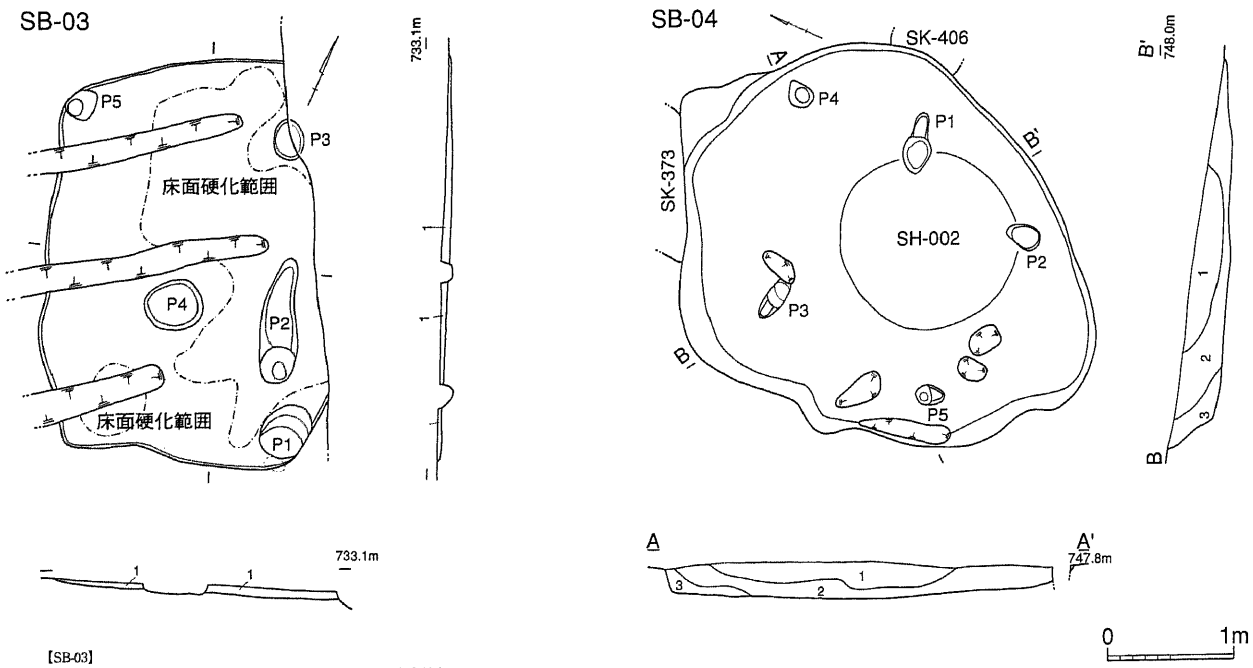
③ **SB－03**（第17図）

位置：B・Ⅰ区の北寄り、N17E129グリッド周辺。　**切り合い**：SD－01に切られる。

形状：東側をSD－01に切られるため推測となるが、南北方向に長い長方形基調と思われる。

規模：南北は3.2mを測り、東西は推測で2.4m程度、床面積も推測で7m²程度である。残存する最高壁高は10cmしかなかったが、壁は比較的急傾斜に掘り込まれたものと思われる。

床面：礫を含む2次堆積のローム層を床面まで掘り込んでいる。中央部に硬化した範囲を認めたが、しっかりした貼床を作ったというよりも、地山に含まれる礫が凹凸を作ってしまうため、窪んだ場所に土を入れたといった状況である。



【SB-03】
1：10YR2/1　黒　しまり無　5～10㎜ロームブロック5%、炭少量含む

【SB-04】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック2%、炭中量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む

第17図　SB－03・04（S＝1／60）

住居内施設：ピット５基（Ｐ１～５）を検出したが、炉は見つからなかった。Ｐ１は斜めに掘り込まれているため木の根等の撹乱かもしれない。南東にＰ２（南端の掘り込み箇所）、北東にＰ３、北西にＰ５があり、南西の撹乱されてしまった場所にピットがあったとすれば、四角形の配置を示す４本柱の柱穴と考えられる。ただしいずれも深さが10cm前後しかないため、可能性があるということにしておきたい。

覆土の状況：浅くしか残っていなかったため、黒色土の１層を確認できたのみである。

遺物：土器は１片も見つからなかった。石器は石鏃２点（第82図16・17）が出土した。

時期：土器片が見つからなかったので不明である。

④　**SB－04**（第17図）

位置：C・Ⅰ区の南東側、Ｎ５Ｅ０グリッド周辺。　**切り合い**：SH－002、SK－373・406を切る。

形状：南北方向に長い不整形な円形である。東側の壁は垂直に近いほど急傾斜に掘り込んでいるが、それ以外は東側ほど急傾斜でない。

規模：南北3.9m、東西3.0m、床面積7.1m²を測る。南東へ傾斜した場所に位置するため、北西側の壁は40cmを測るが、南東側の壁は５cmしかない。

床面：掘り込んだローム層をそのまま床面としており、硬化面は認められなかった。

住居内施設：ピットは検出されたが、炉は見つからなかった。ピットは５基検出され、Ｐ１～Ｐ５が五角形状の配置を示すが、深さは13～45cmとバラつきがあり、平面形・断面形も差異が大きい。

覆土の状況：３層が堆積する。北隅で土器の大きめな破片がほぼ床面上で出土した他は、土器小片や人頭大の礫が１・２層中より廃棄された状況で出土している。

遺物：土器は破片ばかりで拓影図（第65図194～197、第75図425・426）のみ掲載した。石器は石鏃１点（第82図18）が出土した。

時期：床面上出土遺物は、縄文のみ施文された土器で時期の特徴をつかむのが難しい。覆土中出土の土器片は縄文時代前期末～中期初頭の様相を示すものが多い。この範囲の中で捉えておきたい。

⑤ **SB－05**（第18図）

位置：C・Ⅰ区の南東側、N14E11グリッド周辺。

切り合い：遺構が密集する箇所ですべての判断に自信を持てないが、SK－179・205・206・294・295に切られ、SK－324・423を切る。

形状：楕円形基調であるが、南東側が直線的で円弧のカーブを乱している。壁は緩傾斜に掘り込まれ、北側は丸みを帯びて床面へと移行する。

規模：長径5.5m、短径4.5m、床面積17.1m²を測る。ただし後述するように、数回の建て直しが行われた可能性が高く、これは最終的な平面プランである。南東へ傾斜した場所に位置するため、北西側の壁は35cmを測るが、南東側の壁は5cmしかない。

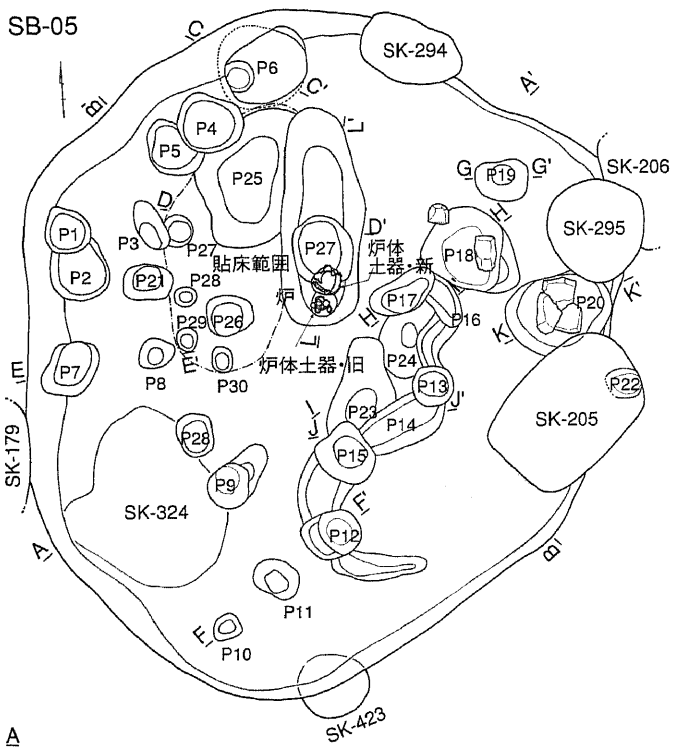
床面：炉址の北西側2.0×1.2mの範囲に黒色土を用いた貼床を検出した。ほか炉址の周囲は硬化した範囲が認められた。

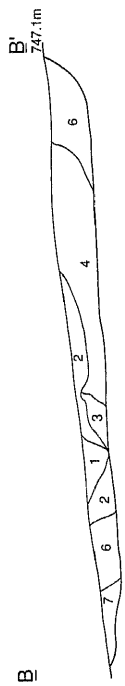
住居内施設：ピットと炉址を検出した。炉址は確実なものが2箇所、可能性が高いものが1箇所認められた。P24と冠してあるピットの底部は赤く焼土化しており、切り合い関係や土の締まり具合から最も古い炉址の可能性が高い。土器を埋めた埋甕炉が2箇所で認められたが、切り合い関係から新旧の順序が判明した。また炉体土器は、旧炉埋設時の土器を上半だけ抜き取り新炉へ埋設した状況を確認した。ピットは29基（P1～23・25～30）認めた。柱穴の配置は、切り合い関係や貼床・硬化範囲等から判断して、P12・19・22・26と炉址（P24）のセットが古く、P11・19・22・21（P8・9も？）と埋甕炉が新しいと考えられ、住居の拡張が行われたものと判断される。なおいずれのピットも深さ40～70cmを測り、柱穴と呼ぶにふさわしい深さを有している。埋甕炉に切られるP27は拡張前の、P6・18・20は拡張後の住居址内土壙と考えられ、貯蔵穴的性格を有すものと推測される。なお南東隅に焼土化した範囲が認められたが、性格については判断しかねる。

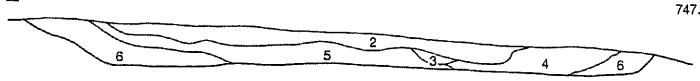
覆土の状況：7層の堆積を確認した。壁際の6・7層は、暗褐～灰黄褐と明るめの色調であり、地山のローム層土が流入したものと考えられる。4・5層は黒褐色土で、土器片や石器、砂岩等の剥片を多く含んでおり、6・7層堆積後の住居址窪みに廃棄された遺物と考えられる。3層は地山のローム層土に近く、周囲にあるいずれかの遺構を掘削した際に生じた土を窪みに投げ込んだものと思われる。1・2層は遺物の量が少ないことから、最後に自然堆積により埋没したものと考えられる。

遺物：覆土中からまとまった量が出土した。土器は完形に復元できるものはなかったが、第66図198～207、第67図208～234、第68図235～242、第72図330・331を掲示した。第66図198は炉体土器で、先述のとおり上半部が新炉から、下底部が旧炉から出土したものである。石器も数が多く、石鏃5点（第82図19～22他）、石錐4点（第83図43・44・46・47）、削器1点（第84図64）、掻器1点（第85図76）、打製石斧3点（第86図97～99）、磨石類2点（第90図155・156）のほか、床面に接する箇所から筋砥石（第91図171）1点が出土している。

時期：縄文時代前期末と見る土器も中期初頭と見る土器も出土している。埋甕炉の炉体土器は、今までの編年観に照らし合わせれば中期初頭と見るのが妥当と考えられる。覆土中からは、前期末と見るのが妥当な北陸の鍋屋町系の土器等が少なからず出土しているが、これらを混入品と扱えば、帰属時期は中期初頭となるだろう。

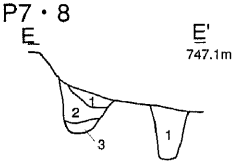






1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　ローム土　黒褐色土が20%混入
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック1%含む
7：10YR4/2　灰黄褐　しまり有、粘性無　1mm焼土粒少量、5mm焼土ブロック1%含む

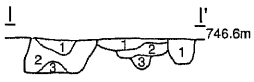
P7・8



【SB-05内Pit7】
1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性弱　ローム粒微量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性弱　ローム粒稍多く含む　黒曜石多く出土
3：10YR5/6　黄褐　しまり弱、粘性有　ローム質土

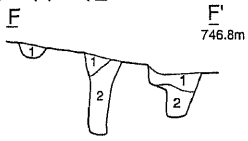
【SB-05内Pit8】
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍硬、粘性有　ローム粒少量含む

P23・24・16



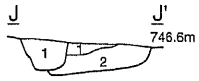
【SB-05内Pit23】
1：10YR6/6　明黄褐　しまり普通、粘性弱　ロームブロックを主とし暗褐色土を含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍硬、粘性弱　ローム粒少量、炭粒微量含む
3：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり普通、粘性有　ローム質土を主とし暗褐色土を若干含む
【SB-05内Pit24】
1：10YR6/6　明黄褐　しまり良、粘性弱　ローム質土、暗褐色土ブロック少量、炭粒微量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒少量、炭粒・焼土粒僅かに含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり良、粘性稍有　ローム粒少量、焼土粒稍多く含む
【SB-05内Pit16】
1：10YR3/4　暗褐　しまり良、粘性弱　ローム粒稍多く含む

P10・11・12



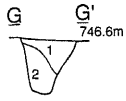
【SB-05内Pit10】
1：10YR3/3　暗褐　しまり良、粘性弱　ローム粒稍多く含む
【SB-05内Pit11】
1：10YR4/4　褐　しまり普通、粘性稍有　ローム粒多く含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり良、粘性有　ローム粒稍多く含む
【SB-05内Pit12】
1：10YR3/3　暗褐　しまり良、粘性稍有　ローム粒多く含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍弱、粘性稍有　ローム粒少量含む

P15・14



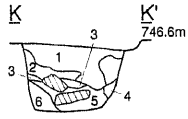
【SB-05内Pit15】
1：10YR3/4　暗褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒少し含む
【SB-05内Pit14】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性弱
2：記録ミス

P19



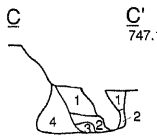
【SB-05内Pit19】
1：10YR3/4　暗褐　しまり良、粘性稍有　ローム粒多く、炭粒少し含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり普通、粘性稍有　ローム粒稍多く、炭粒少し含む

P20



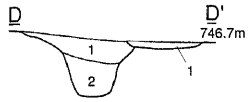
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性強　ローム粒少し含む
2：10YR4/6　褐　しまり良、粘性強　ローム土
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり弱、粘性強　ローム質土
4：10YR5/6　黄褐　しまり良、粘性強　壁崩壊ローム土
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性有　ローム質土
6：10YR4/4　褐　しまり普通、粘性有　ローム質土

P6



1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性弱　ローム粒及び5～10mmロームブロック多く含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍弱、粘性弱　ローム粒多く含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性弱　ローム粒少量含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり良、粘性弱　ローム粒及び3～10mmロームブロック多く含む

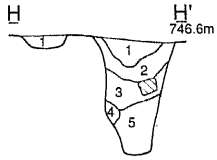
P25・27



【SB-05内Pit25】
1：10YR3/1　黒褐　しまり稍弱、粘性ふしい　5～10mmロームブロック少量含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり弱、粘性有　ローム粒・炭化物多く含む

【SB-05内Pit27】
1：10YR4/3　鈍い黄褐　ローム粒及び5～10mm大ロームブロックやや多含　しまり硬く粘性ややあり

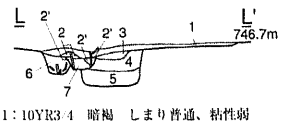
P17・18



【SB-05内Pit17】
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性弱　ローム粒及び5mm程小石少量、炭化材小片含む

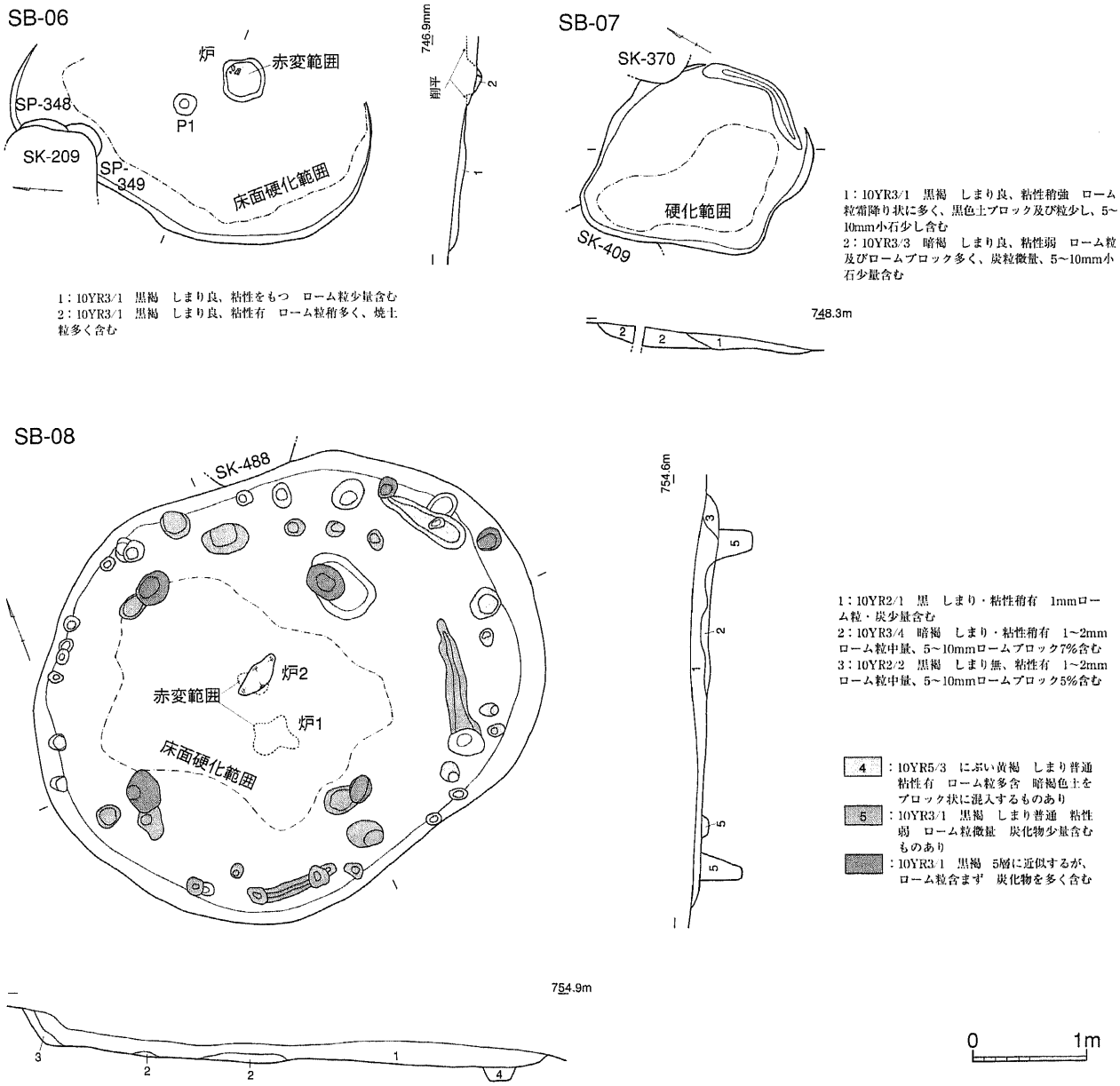
【SB-05内Pit18】
1：10YR3/3　暗褐　しまり普通、粘性稍有　ローム粒微量、5mm小石少量含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり弱、粘性有　ローム粒稍多く含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　ローム粒及び3～5mmロームブロック多く含む
4：10YR5/6　黄褐　しまり弱、粘性有　ローム質土
5：10YR3/4　暗褐　しまり稍弱、粘性強　ローム粒稍多く含む

炉・P27



1：10YR3/4　暗褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒稍多く、炭化材小片多く含む
2：2.5YR5/8　明赤褐　焼土層　しまり普通、粘性稍有
2'：2.5YR5/8　明赤褐　埋土が被熱により赤変、焼土化したもの　しまり稍硬い
3：10YR3/2　黒褐　しまり良（貼床状に硬くしまる）、粘性弱　ローム粒、3mm程ロームブロック多く含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり良、粘性有　ローム粒、5mm程ロームブロック少し含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒多く含む
6：10YR3/4　暗褐　しまり普通、粘性欠く　3mm程ロームブロック多く含む
7：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性有　ローム粒・ロームブロック多く含む

第18図　SB－05（S＝1／60）



第19図　SB－06・07・08（S＝1／60）

⑥ **SB－06**（第19図）

位置：C・Ⅰ区の南東側、N18E13グリッド周辺。

切り合い：SK－209、SP－348・349に切られ、SK－332、SP－363を切る。

形状：東側を半分以上削平されてしまっているため良く分からないが、円形基調だとは思われる。壁は西側が残っているものの高さはない。垂直に近いというよりは幾分緩やかな掘り込みだったと思われる。

規模：残存している範囲で測って3.2mが最も値が大きい。概ねこの程度の規模であろうか。壁は西側の一番残りの良い箇所で13cmを測る。

床面：掘り込んだローム層を平坦に整えそのまま床面としており、壁際を除いて叩き状の硬化面が広範囲に認められた。

住居内施設：ピットと炉址を各1基検出した。唯一のピットP1は、かなり中央に寄った箇所にあり、深さは10cmしかないため、柱穴とするのは難しいかと思われる。削平されてしまった箇所もふくめ、柱穴になりそうなピットは見つかっていない。炉址は住居のほぼ中央と考えられる箇所にあり、底は被熱により赤く

なっていた。上部が削平されているため5cm程の深さしか残っていなかったが、元々は15cm程度の掘り方を有していたと推定され、土器片も散在していたことから埋甕炉だったと考えられる。

覆土の状況：黒褐色土層の1層を確認できたのみである。

遺物：削平により覆土をかなり失っているため、遺物量は少ない。土器は第68図243～245を図化掲示した。同243は、先述の埋甕炉炉体土器の残存と思われる破片である。石器は石鏃1点（第82図23）が認められた。図化掲示した遺物は、いずれもほぼ床面上に存在したものである。

時期：炉体土器と思われる第68図243は、羽状縄文のみなので時期決定は難しい。覆土中から出土した同245は、関西系の大歳山式と見られる破片であり、図化していない土器片も十三菩提式に帰属するものがみられたので、縄文時代前期末の所産と考えておきたい。

⑦ **SB－07**（第19図）

位置：C・Ⅰ区の南東側、N6W2グリッド周辺。

切り合い：SK－409・410・411・416を切り、SK－370に切られる。

形状：不整形な楕円形を呈する。

規模：長径2.1m、短径1.8m、面積2.6m²と小型である。

床面：北東側以外は非常に硬く締められた硬化面が広がっていた。

住居内施設：東側で周溝状の溝を長さ1m程度にわたって検出した。それ以外は確認できなかった。上述のとおり規模があまりにも小さく、炉址や柱穴もないが、硬化面が認められたことから住居址と扱った。

覆土の状況：2層が堆積する。1層は黒褐色土層、2層は暗褐色土層である。

遺物：土器小片2点、黒曜石剥片2点が出土したのみである。

時期：土器小片のうち1点は押型文土器であるが、本址が多くの土壙を切っていることから混入品と考えられる。もう1点は縄文のみが施文されたもので時期は判明しない。本址の帰属時期は不明である。

⑧ **SB－08**（第19図）

位置：C・Ⅲ区の南端、S20W57グリッド周辺。　**切り合い**：SK－488を切る。

形状：東西に長い楕円形状を呈する。壁は緩やかに掘り込まれており、カーブを描いて床面に移行する。

規模：長径4.7m、短径3.8m、床面積12m²を測る。ただし後述するように、2回の建て直しが行われた可能性が高く、これは最終的な平面プランである。壁は5～30cmを測る。

床面：掘り込んだローム層を平滑に整えてそのまま床面としているが、炉址の周囲は硬化した範囲が認められた。

住居内施設：炉址、ピット、周溝を検出した。ピットは多く認められたが、その覆土は大きく3種類観察することができ、一定の傾向を伺うことができる。つまり、壁際からやや内側にあるピット（やや濃い目のアミ入れをしたもの）→壁際にあるピット（薄いアミ入れをしたもの）→4基が方形に配置されたピット（最も濃い目のアミ入れをしたもの）と変遷したと考えることができる。よって、2度の建て替えを想定できるのではないかと思われる。ピットの深さは、最も濃いアミ入れをしたものは24～41cmを測るが、壁際に位置するものは、5～20cmと浅い傾向が見られる。炉址は2箇所認めることができ、いずれも地床炉である。位置関係から炉1→炉2の変遷を推測した。周溝は3箇所に途切れて認められ、深さは6～14cmを測る。先述の覆土観察から、南端と東端のものは最初の構築時に、北東端のものは1回目の建て替え時に伴うものと考えられる。

覆土の状況：3層が堆積する。3層は壁際にあり締まりもないことから流入土と考えられる。2層は床面上

に薄く堆積する暗褐色土で、堆積が一定でなく凹凸も認められることから、周囲にあるいずれかの遺構を掘削した際に生じた土を投げ込んだものかと推測する。1層は黒色土で、遺物をあまり含まないことから最後に自然埋没したものかと推測する。

遺物：出土量は少ない。土器は第68図246～253を図化掲示した。いずれも覆土中からの出土である。定型的な石器は1点も出土していない。

時期：覆土からの出土土器ではあるが、縄文時代前期末の帰属時期を与えておきたい。他の縄文時代前期末住居址より古い様相の土器が見られる。

⑨ **SB－09**（第20図）

位置：C・Ⅱ区の中央、N2W6グリッド周辺。　**切り合い**：ない。

形状：東側が抉れている不整形な円形を呈す。壁は比較的緩やかに掘り込まれているが、西側は他の箇所よりもややきつい傾斜である。

規模：主軸3.6m、直交軸3.5m、床面積7.4m²を測る。南へと傾斜した箇所に存在するため、壁は北側で45cmと高く、南側で10cmと低く残存している。

床面：ローム層を掘り込んで平坦にし、そのまま床面としている。貼床や硬化面は認められなかった。

住居内施設：ピット、炉址、周溝を検出した。ピットは、P1～7の7基と、北側の壁際に小さなピット5基を認めた。炉址を囲む位置にあるP1～4が主柱穴と考えられ、27～45cmの深さを測る。炉址が中央よりやや北側にあることから、出入口は南側と考えられ、この箇所にあるP5・6が出入口部の施設に関連するものと推測される。いずれも12cm程度の深さを測る。北側の壁際（奥壁際）には、径10cm、深さ3～6cmの小さなピットが5つ並ぶ。また東側の壁沿いには、奥壁にあれば祭祀的な石壇と言われる状況の平たく割られた石が数個並んでいた。周溝は南側から東側の壁際にだけ認められ、5～10cmの深さを有する。炉址は平石を方形に組んだ石囲炉で、主軸85cm、直交軸80cm、深さ30cmを測り、中央より奥壁側と考えられる北側にやや寄っている。南側以外の石は垂直に近い状況で炉壁に沿うよう設置されているが、南側の石は炉壁の斜面ではなく炉縁に置かれている状況であり、焼却灰の掻き出しを意識したものかと推測する。炉底から炉縁石は激しく被熱した様で、炉底は焼土化が著しく、炉縁石も赤く変わりヒビが入っていた。

覆土の状況：6層が堆積する。5層は炭化材や焼土を非常に多く含むもので、上屋構造が焼け落ちたものと考えられる。床面上に顕著な遺物はなく、自然流入したものと思われる6層が存在することから、住居廃絶のかなり後になってから、朽ち始めていた上屋構造を焼却処分したのではないかと考えられる。この5層上面には、口縁部を下に向けた状況でおかれた深鉢（第75図428）が存在する。住居廃絶後の祭祀行為によるものであろうか。2～4層にはあまり遺物を含まない。1層からは銅銭が出土しており、住居を切る状況で存在していた中世の土壙墓を平面的に捉え損ねたものと思われる。

遺物：出土量は少ない。土器は先述の第75図428、同427のみ掲示した。石器は石錐1点（第83図50）、石匙1点（第83図58）、磨石類1点のほか、21.4gと大きめな黒曜石剥片1点（第86図90）が壁際から出土した。また覆土中より、3/4程を失った土製耳飾1点（第92図6）が出土している。

時期：覆土からの出土だが428より判断して、縄文時代中期後葉Ⅱb期に近い時期の所産と考える。

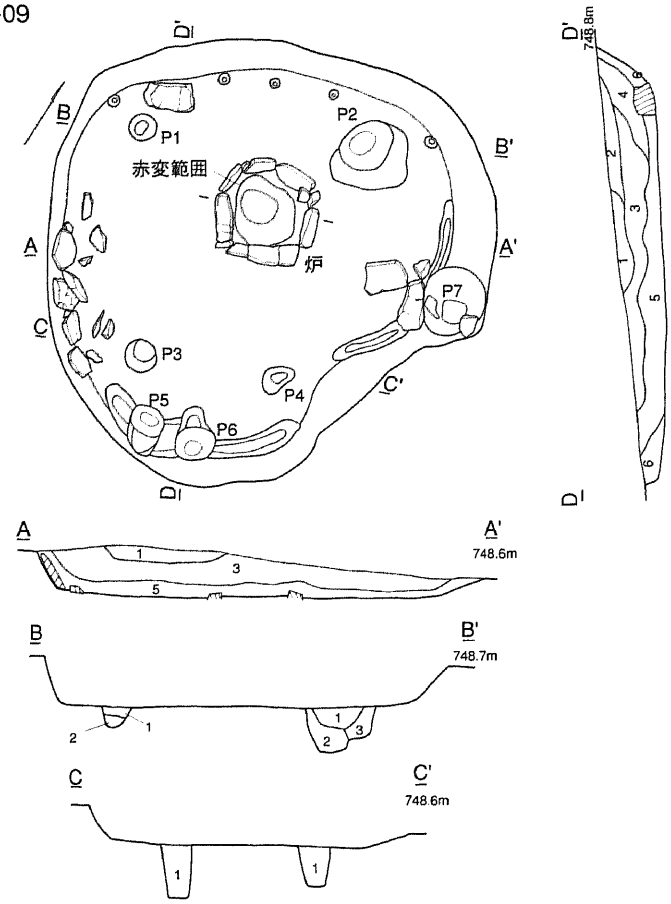
⑩ **SB－10**（第20図）

位置：C・Ⅱ区の南側、S3W3グリッド周辺。　**切り合い**：SK－558・559・562に切られる。

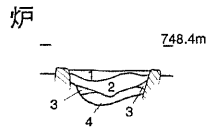
形状：隅丸方形状を呈すが、南側の一部が少し張り出している。壁は比較的急傾斜に掘り込まれている。

規模：張り出し部も含めて、主軸4.4m、直交軸4.5m、床面積13.1m²を測る。南東に傾斜した場所に位置す

SB-09

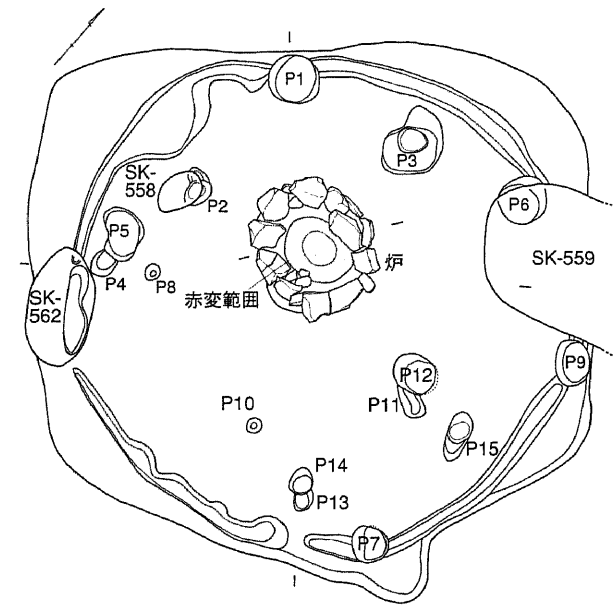


1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む　銅銭出土、中世墓の検出を平面で見落としたと思われる
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、炭中量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭化材・焼土非常に多く含む　住居址上屋構造材が焼け落ちたものと思われる
6：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む

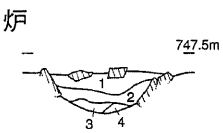


1：覆土5層対応
2：10YR2/1　黒　炭化物層　材・焼土粒多く含む（覆土5層の炭化材）
3：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性稍有　焼土粒含む
4：10YR4/4　褐　しまり良、粘性強　ローム粒・炭化物少量含む　焼土ブロック下底部に散在する

SB-10



1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、2～3cm黒色土ブロック15%含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量、拳大～50cm程の石含む
4：2層と同じ
5：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　炭化材・炭粒・焼土ブロック・焼土粒多量含む　住居址上屋構造材が焼け落ちたものと思われる



1：住居址覆土5層からの続き
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性弱　炭片・焼土粒・焼土ブロック多く含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり弱、粘性欠　炭片多く、焼土粒若干量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性稍有　焼土粒多く含む

0　1m

第20図　SB－09・10（S＝1／60）

るため、壁の残存高は北側と西側が高く反対側は低い。70～10cmを測る。

床面：ローム層を掘り込んで平坦にし、そのまま床面としている。貼床や硬化面は認められなかった。

住居内施設：ピット、炉址、周溝を検出した。ピットは15基を認めた。比較的深いピットで配列の組み合わせの良いP1（深さ37cm）、P5（同37cm）、P14（同30cm）、P15（同45cm）、P6（同46cm）の5本が主柱穴と思われる。なおP2・3・12も深さ26～38cmを測ることから、ほかの組み合わせも想定できるかもしれない。炉址が北西側に寄っていることから考えて、出入口は南東側と思われ、この箇所にあるP7は出入口施設に関連したものかもしれない。炉址は、平石を花弁状に組んだ石囲炉で、110×100cm、深さ35cmを測る。炉底は激しく焼土化しており、炉縁石も赤く変色していた。周溝は途切れながらもほぼ全周している様で、最深で10cmを測る。

覆土の状況：5層が堆積する。床面上に広く堆積する5層は、炭化材や焼土を非常に多く含むもので、上屋構造が焼け落ちたものと考えられる。床面上に顕著な遺物はないため、住居廃絶後に焼けたものと考えられる。3層は土器をあまり含まないものの、拳大から抱え上げるのに苦労する50cm程度の大きさの石を沢山含んでおり、廃棄された様相を呈す。1層は黒色土で、遺物をあまり含まないことから最後に自然埋没したものかと推測する。

遺物：第75図429は胴部のみが残存する深鉢で、P9横の床面に置かれた平石の上に乗せられていたものと思われる。土器はその他第75図430、第76図431～436・438を図化掲示した。石器は掻器1点（第85図80）、打製石斧5点（第88図123～125他）、磨石類1点が認められた。

時期：第75図429から判断して、縄文時代中期後葉Ⅱa期に近い時期の所産と考える。

⑪ **SB－11**（第21図）

位置：C・Ⅱ区の南端、S8W0グリッド周辺。　**切り合い**：SK－577に切られ、SK－578を切る。

形状：ほぼ円形を呈する。壁は緩やかに掘り込まれており、カーブを描きながら床面へと移行する。

規模：この住居は、今回の事業地中央にある谷への落ち際に存在する。このため住居の出入口が谷側だとすると、出てすぐ谷へ落ちる状況であり、それ以外の場所に出入口を設けたと考えるのが妥当かと思われる。しかしこの住居と並び存在するSB－12は、同じ立地なのに谷側に出入口があり、一概に決め付けるわけにもいかない。一応P4を出入口施設に関連したピットとし、主軸方向を北東－南西ラインと考えると、主軸3.8m、直交軸3.65m、床面積8.8m²を測る。住居はやや東へ傾斜した場所に作られたのであるが、表土除去の際に誤って住居の北側部分を下げすぎたため、壁の残存状況にかたよりがあり、10～47cmを測る。

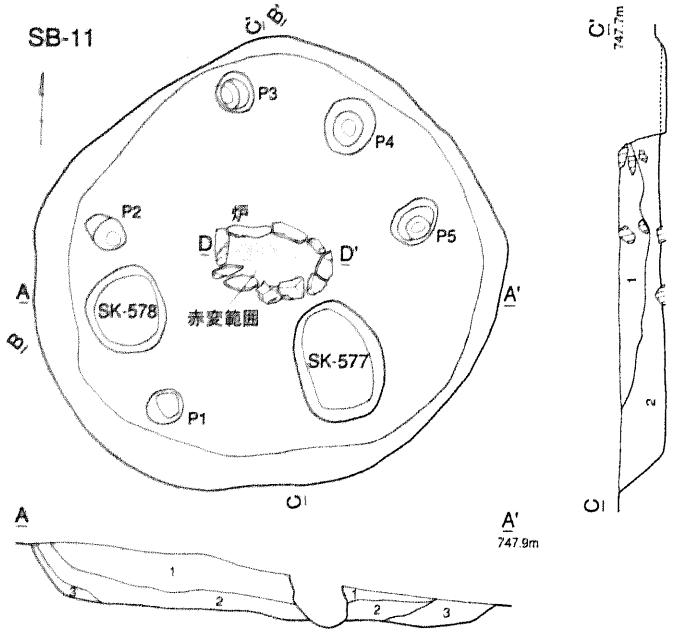
床面：地山を掘り込みそのまま床面としており、貼床や硬化面は認められなかった。

住居内施設：ピットと炉址を検出した。ピットは5基認められ、P1が30cm、P2が32cm、P3が35cm、P4が10cm、P5が20cmを測る。P4を除くピットが比較的深く、SK－577に切られてしまった場所に1基あったとすれば、5本柱とするに配列的にも良いと思われる。炉址はほぼ中央にあり、10cm程度掘り窪めた掘り方の周囲に、細長い石を長楕円形状に配した石囲炉である。炉底は被熱により赤化していた。

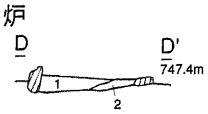
覆土の状況：3層が堆積する。1層は拳大から50cm程度の大石を含むもので、2層・3層により形成された住居の窪地へ石が廃棄されたものと思われる。

遺物：土器は第76図437・439～444を図化掲示した。いすれも完形に復元できない破片ばかりである。石器は打製石斧1点（第88図126）が1点出土したのみである。

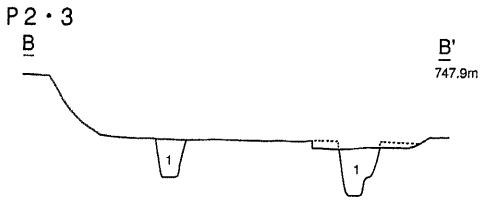
時期：出土土器は縄文時代中期後葉Ⅱa期のものであるが、すべて覆土中からの出土である。炉の形態から判断してⅠb期の帰属時期をあたえておきたい。



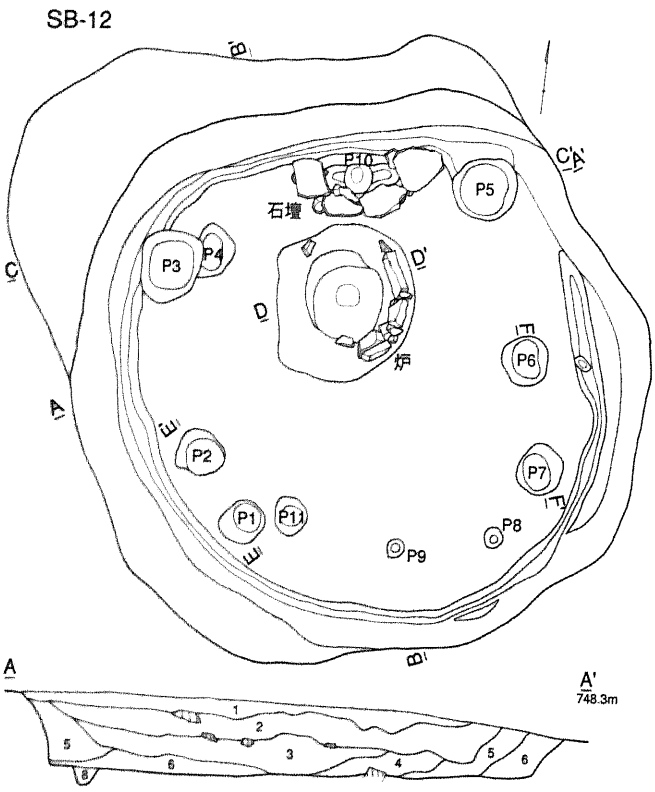
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　3～10mm小石・炭少量、拳大～50cm程の石含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　5mm小石・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・5～10mm小石少量含む

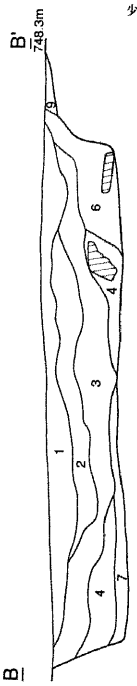


1：住居址覆土3層からの続き
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　炭・焼土粒少量含む

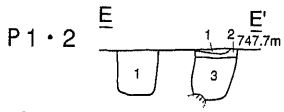


1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5～10mm小石少量　1～2mmローム粒少量含む

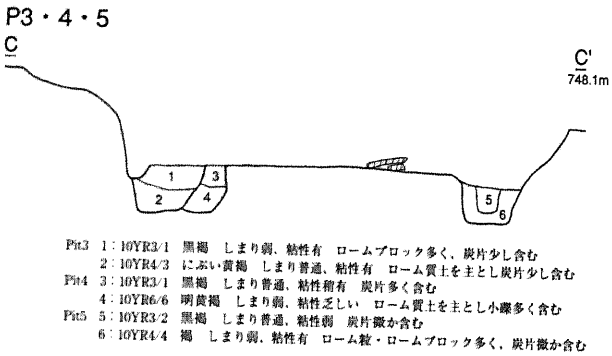




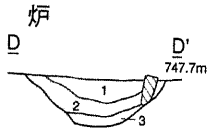
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1cm迄小石少量、5cm程暗褐色土ブロック15%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　5～30mm小石・炭少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　5～30mm小石・炭少量含む
4：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　5～30mm小石多く含む
5：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　5～10mm小石少量、炭中量、5～25mm暗褐色土ブロック7%含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・炭・5～10mm小石少量含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　5～10mm小石・炭少量含む
8：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5～10mm小石・炭少量含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5～10mm小石少量含む



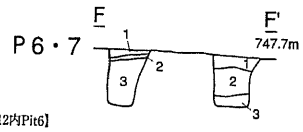
【SB-12内Pit1】
1：10YR4/1　褐灰　しまり・粘性欠　5～20mm小石多く、炭片少し含む
【SB-12内Pit2】
1：10YR4/1　褐灰　しまり・粘性欠　・ローム粒・炭片微か含む
2：10YR6/4　にぶい黄橙　しまり硬、粘性欠　ローム質土による貼床土
3：10YR3/2　黒褐　しまり弱、粘性欠　ローム粒・炭片微か、5～20mm小石多く含む



Pit3　1：10YR3/1　黒褐　しまり弱、粘性有　ロームブロック多く、炭片少し含む
　　2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり普通、粘性有　ローム質土を主とし炭片少し含む
Pit4　3：10YR3/1　黒褐　しまり普通、粘性稍有　炭片多く含む
　　4：10YR6/6　明黄褐　しまり弱、粘性乏しい　ローム質土を主とし小礫多く含む
Pit5　5：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　炭片微か含む
　　6：10YR4/4　褐　しまり弱、粘性有　ローム粒・ロームブロック多く、炭片微か含む



1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性弱　5～10mm小石少し、炭片微か含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　炭片多く、5cm大の石含む
3：10YR6/4　にぶい黄橙　しまり弱、粘性欠　焼灰層　焼土粒含む



【SB-12内Pit6】
1：10YR4/1　褐灰　しまり・粘性欠　炭片稍多く含む
2：10YR6/4　にぶい黄橙　しまり硬、粘性欠　ローム質土による貼床土
3：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒・炭片稍多く、小石多く含む
【SB-12内Pit7】
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性欠　炭片少し含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり弱、粘性欠　ローム粒・ロームブロック・5～30mm小石多く、炭片少し含む
3：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり普通、粘性欠　砂礫質ローム質土で炭片少し含む

第21図　SB－11・12（S＝1／60）

⑫ **SB－12**（第21図）

位置：C・Ⅱ区の南端、S10W5グリッド周辺。　**切り合い**：ない。

形状：北西側に住居の壁へと向かって緩く浅く落ちていく範囲を確認したが、これを除くと円形状を呈する。壁は比較的急傾斜に掘り込まれている。

規模：先述の北西側の掘り込みを除くと、主軸4.4m、直交軸4.9m、床面積12.8m²を測る。壁は非常に高く残存しており、50～70cmを測る。

床面：地山を掘り込みそのまま床面としており、貼床や硬化面は認められなかったが、全体に硬くしまっている状況であった。

住居内施設：ピット、炉址、周溝、石壇を検出した。ピットは11基確認された。P2・P6の覆土は、上位が非常に硬くしまっていたことから、柱が抜かれた後に土が入れられ踏まれたものと考えられる。よって当初はP1・2・4～7の6本柱だったものが、P1・3・5・7の4本柱に建て替えられたものと推測する。P8・9は出入口方向にあり、補助的に上屋を支える柱だったと思われる。炉址は住居址の北側によって構築されている。南北125cm、東西115cm、深さ47cmを測る石囲炉であるが、炉縁石は東側以外抜き取られている。炉底が焼土化している様子は見られなかった。周溝は北東側の一部を除いて全周し、5～13cmの深さを測る。住居の奥にあたる北壁際には石壇状遺構が見られた。60×130cm程の範囲に平石を並べた様であるが、真ん中に石はない。この空間では深さ24cmを測るP10が見つかっており、石棒や木柱を埋設したものかと思われる。石壇の上面は平坦で、レベル値は5cm以内の範囲に収まる。床面との比高差は9～14cmである。

遺物：土器は第77図445～453を図化掲示した。いずれも破片資料である。石器は石鏃1点（第82図37）、削器1点（第84図66）、掻器1点、打製石斧2点（第88図127・128）、磨石類1点（第90図163）が認められた。また壁際から大きめ（12.8～54.2g）な黒曜石剥片（第85図87、第86図88・89・91）が出土しており目に留まった。

時期：出土土器から、縄文中期後葉Ⅱc期の所産と考えられる。

（2）　**土壙**（第22～51図、第1表）

「SK」の総数は641基にのぼる。遺構検出段階で径が大きいものを土壙として扱い、「SK－○○」と冠しているため、火葬墓、土壙墓、集石遺構も「SK」と冠されたものが多い。遺構名の付けかえをしなければならないのであるが、混乱を避けるためそのまま使用している。この項ではそうしたものを除いた土壙607基について記述する。各土壙について個別に記述することは紙数の関係上難しいので、規模・形状・出土遺物等のデーターは一覧表で掲載することにし、図面はできるだけ多くを掲示する様つとめた。一覧表作成に際しては、出土遺物の検討から帰属時期を明らかにする様つとめたが、土壙から出土する土器は少なく、また小片である場合が多いので、時期を明確に限定できるものは多くない。よって土壙の形状・覆土・位置等、様々な状況から推測したものがある。形状の分類は一定の基準（第1表凡例参照。78項）を設定し行ったが、削平を深く受けているものについては、断面形「A」の皿状となるものが多いため、元の形状を推測し判断したものがある。以下は時期ごとに若干考察を加える。

縄文時代早期　この期は押型文土器が出土する早期中葉と、条痕文系土器が出土する早期末の2時期が主である。早期中葉と判断されるものが30基程、早期末と判断されるものが15基弱あるが、土器が出土しなかったこの期の土壙もあるはずなので、多少増えると推定される。いずれもD・Ⅲ区に集中するが、早期中葉はC・Ⅰ区で、早期末はA・Ⅱ区でも散見される。早期中葉のものの形態は、平面形が円形もしくは楕円形のⅠ・Ⅱ、断面形が浅い形状のA、円筒形のCが多い。削平されていることを考慮すれば、断面形Aの

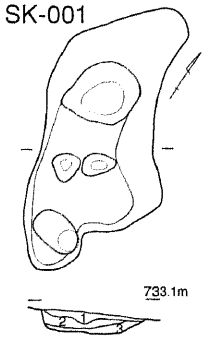
もの（SK－611・614等）はCであった可能性が高く、平面形が円形基調で断面形が円筒状の土壙が多いと見ることができる。また断面形Dとしたものも、オーバーハングの程度が浅く、断面形Cに近いもの(SK－586・620等）が多い。これらは、形状からだけの判断であるが貯蔵穴と推測する。また平面形が大型の円形（Ⅰ）で、断面形がAやBのもの（SK－180・290・303等）もある程度見られ、C・Ⅰ区にこの形状のものが多い。早期末も平面形が円形基調で断面形が円筒状のものが多い。

縄文時代前期末～中期初頭　縄文前期の土器はほとんど前期末のもので、他時期のものはごく僅かゆえ、前期末のみ取り上げる。また前期末とも中期初頭とも判断し難い土器があるが、これは一続きのものであるゆえ一緒に扱う。この時期の土壙は全調査区から検出されている。土器片が出土したものだけでも100基弱を数え、本遺跡のなかで主要な位置を占める。土器が出土しなかったため時期を付与できなかったが、当期の土壙はかなりの数だと思われ、形状や存在する位置等から判断してカウントすれば300基を超えるものと思われる。分布は全域に渡るがまとまりがあり、①C・Ⅰ区の南東側、竪穴式住居址SB－04～07の周辺を中心とし、A・Ⅱ区の西端やC・Ⅲ区の南側にわたる範囲、②C・Ⅲ区の南側、SB－08の北側一帯、③C・Ⅳ区、C・Ⅴ区の中央付近、④A・Ⅰ区のSB－01近辺からA・Ⅱ区の東側、以上を認めることができる。このうち、①と④にある土壙の形状は様々なものが認められるが、②と③にある土壙の形状は、平面形が円形基調（Ⅰ）で断面形が円筒状基調（C）と考えられるもの（先述のとおり削平される前の形状を推測しての判断）が多い。この違いが時期差なのか機能差なのか知ることは、土壙の帰属時期を細かく判断することが困難な状況ゆえ厳しい。この期の土壙すべてをみて目に留まるのは、平面形が円形基調（Ⅰ）で、断面形が円筒状（C）や袋状（D）を呈する貯蔵穴と判断されるもので、比率的にも高い。貯蔵穴の典型的形状とされる袋状土壙（SK－095・204・270等）もすべてこの期に帰属すると思われる。一方墓壙も存在すると考えられるところであるが、明確に墓壙と判断できる遺物（玦状耳飾等）はない。副葬品とも考えられる状況で石鏃や石匙等の石器が1点だけ出土する土壙はあるものの、形状や覆土の状況もあわせ考えると積極的に拾えるものでもないと思われる。遺骸を埋葬するのに適当な形状と考えられる、平面形が楕円形（ⅡやⅢ）や隅丸長方形（ⅥやⅦ）で断面形が擂鉢状（B）や鍋底状（C）を呈する土壙がいくつかある（SK－243・244・412・479等）ので、こうした形状のものが墓壙かとも考えられるが推測の域を出ないところである。

縄文時代後期後葉～晩期　この期の土壙はA・Ⅱ区の中央、SK－128を中心として径20m程の範囲に20基程が認められる（第49～51図）。この場所は、調査区の北端に存在する埋没谷にかかる位置であるため、黒色土が広がっており遺構の検出は非常に難しい状況であった。よってここに掲載した遺構平面図のラインは、谷が埋まる前の状況にまで土を除去した段階で描いたものであり、遺構の上部は削ってしまった状態である。谷の岸側にあたる南側では遺構の輪郭を捉えたのであるが、谷の深い方である北側は遺構を飛ばしてしまったものである。さてSK－128は壙内に円形に配した石が認められ、配石墓と考えられる。配石墓はこれ1基しかないが、周囲には様々な規模・形状の土壙・ピットが数多く存在し切り合いが激しい。また開墾時にかなりの削平を受けているため確かなことは言えないが、土壙の中に入ってこない石や遺物が多く認められるため、元々は集礫状の遺構があったと思われる。よって集礫の下部に土壙が存在していたものと考えられる。土器の時期は後期後葉から晩期まで広く認められ、遺構の切り合いも激しいことから、配石墓を中心として繰り返し穴が掘られ、祭祀行為がなされたものと考えられる。

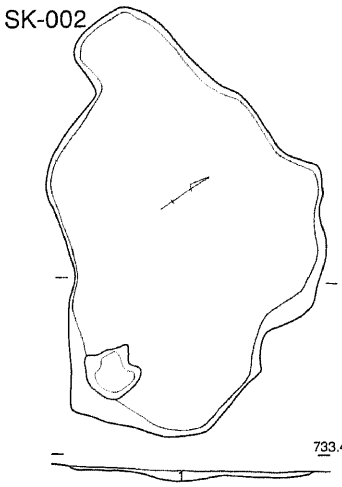
中世（鎌倉期）　この期の土壙は、C・Ⅰ区の北側を中心として存在し40基程を数える。ただしこれも埋没谷の黒色土が広がる範囲にも存在するため、見落としがあると思われる。形状は、平面形が方形基調（Ⅴ～Ⅷ）で断面形が円筒状・鍋底状（C）を呈するものが多い。黒褐色土の広がる範囲以外で検出のものは、覆土が共通して暗褐色・黄褐色・灰黄褐色と明るい目の色調を呈する。掘立柱建物址ST－01内にあるSK－

SK-001



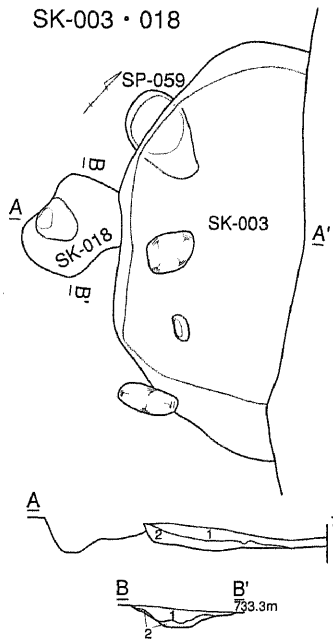
1：10YR2/1　黒　しまり無　2～3mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無　2～3mmローム粒多量、5～10mmロームブロック2%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　2層の土10%含む

SK-002



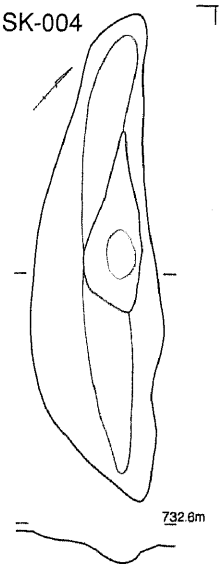
1：10YR3/2　黒褐　5～10mmロームブロック25%含む

SK-003・018

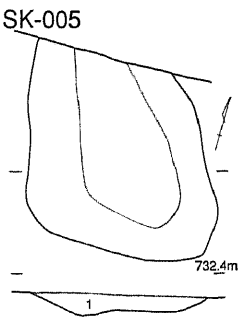


【SK-003】
1：10YR2/1　黒　しまり強　5mmロームブロック3%、炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～5cmロームブロック30%含む
【SK-005】
1：2.5Y3/2　黒褐　3～5mm褐色土粒・5mm小石少量含む
【SK-006】
1：10YR2/1　黒　しまり無　5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック20%含む
【SK-017】
1：10YR2/2　黒褐　1mmローム粒多量含む
2：10YR2/1　黒　1～2mmローム粒・炭少量含む
【SK-018】
1：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無　5mmロームブロック30%含む

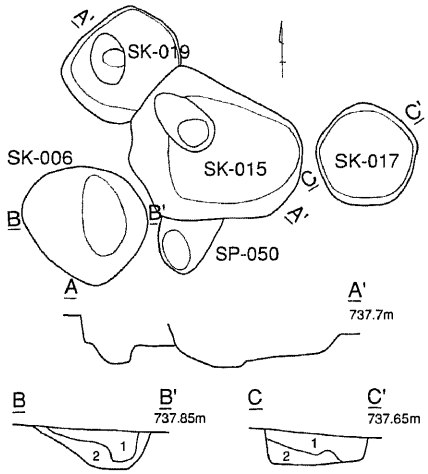
SK-004



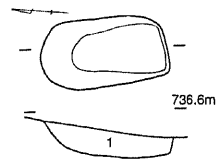
SK-005



SK-006・015・017・019

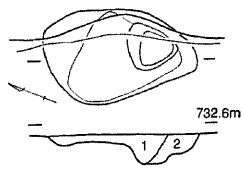


SK-009



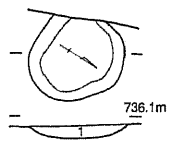
1：10YR3/1　黒褐　しまり無　1～3cmロームブロック30%含む

SK-010



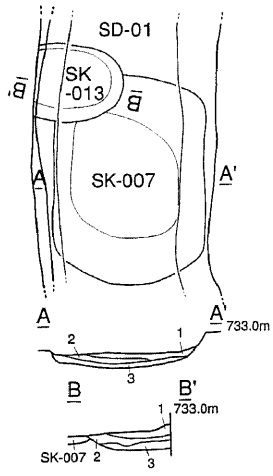
1：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　1～3mmローム粒多量含む

SK-011



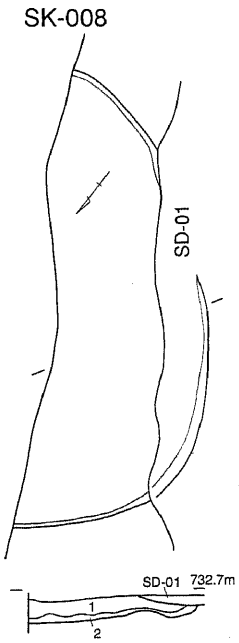
1：10YR3/1　黒褐　しまり無　5～20mmロームブロック10%含む.

SK-007・013



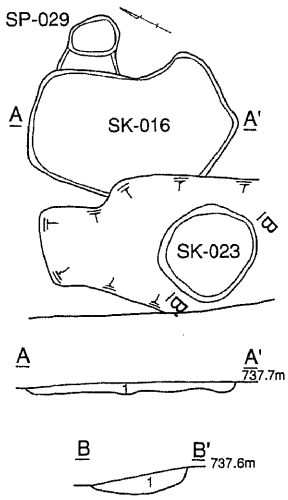
【SK-007】
1：10YR3/2　黒褐　2～3mmローム粒多量含む
2：7.5YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR3/2　黒褐　5～10mmロームブロック15%含む
【SK-013】
1：10YR3/2　黒褐　1～2cm焼土ブロック10%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無　2～3mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無　5～10mmロームブロック20%含む

SK-008

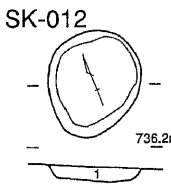


1：10YR2/1　黒　しまり無　2～3mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　1～2cmロームブロック15%含む

SK-016・023

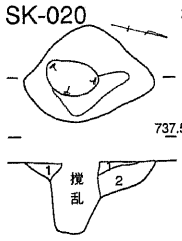


SK-012



【SK-012】
1：10YR4/1　褐灰　しまり無　5～30mmロームブロック10%含む
【SK-016】
1：10YR1.7/1　黒　1mmローム粒多量、5～15mmローム粒10%含む
【SK-020】
1：10YR2/1　黒　5mmロームブロック10%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無　2～3cmの2層土ブロック5%含む
【SK-023】
1：10YR2/2　黒褐　5～10mmロームブロック7%、炭少量含む

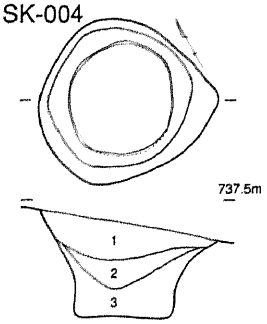
SK-020



0　1m

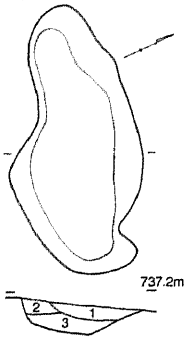
第22図　土壙①（S＝1／60）

SK-004



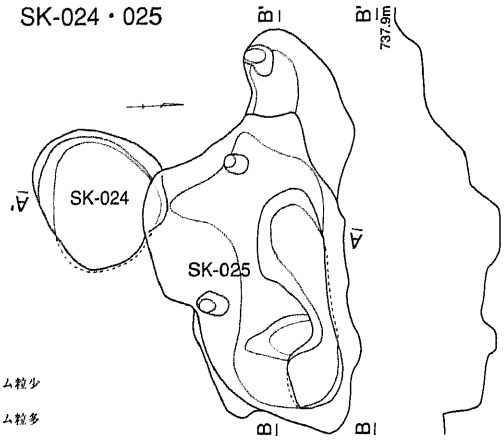
1：10YR2/1　黒　しまり無　1mmローム粒多量、厚5cm・幅30cm程のローム層土が帯状に貫入
2：10YR3/2　黒褐　しまり無　1mmローム粒多量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無　5～20mmロームブロック30%含む

SK-021



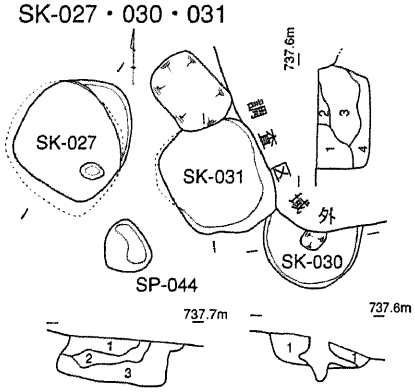
1：10YR2/2　黒褐　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-024・025



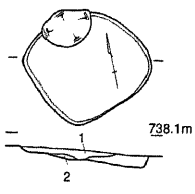
【SK-024・025】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量、5～30mmロームブロック5%含む
3：10YR3/2　黒褐　5～30mmロームブロック20%含む
4：10YR2/1　黒　10～50mmロームブロック30%含む
①：10YR2/1　黒　しまり無　炭・2～3mm焼土粒少量含む
②：10YR1.7/1　黒　しまり無1～2mmローム粒・炭少量含む　焼土粒の集まりが層状（厚さ5mm程）に入る
③：10YR2/1　黒　5～30mmロームブロック30%含む

SK-027・030・031



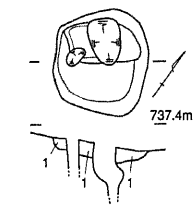
【SK-027】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり無　炭少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無　1mmローム粒多量含む
【SK-030】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒多量含む
【SK-031】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～3cmロームブロック40%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR2/1　黒　炭・焼土粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　5～20mmロームブロック30%含む

SK-028



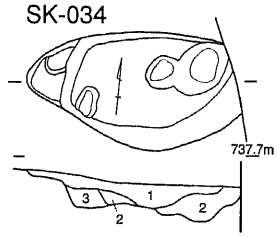
1：10YR2/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無　1mmローム粒多量含む

SK-029



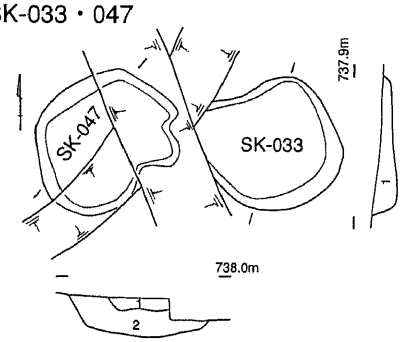
1：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒少量含む

SK-034



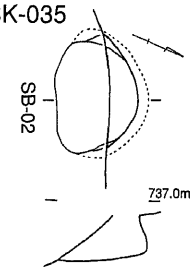
1：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～5cmの暗褐色土ブロック15%含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり無　1～2mmの砂粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmの砂粒少量含む

SK-033・047

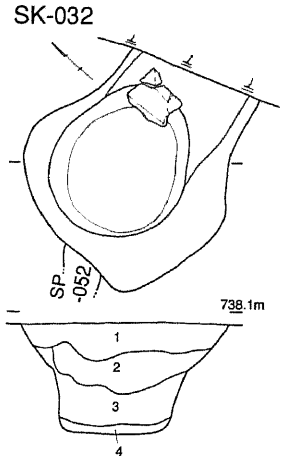


【SK-033】
1：10YR3/3　暗褐　1～3mm砂粒中量含む
【SK-047】
1：10YR3/1　黒褐　5～10mmロームブロック5%含む
2：10YR2/1　黒　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-035

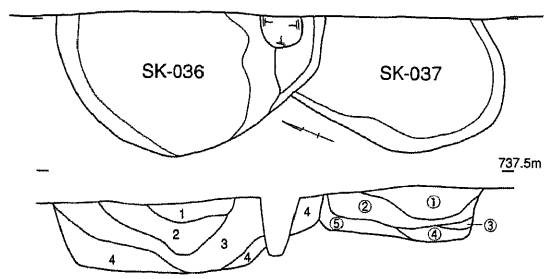


SK-032



1：10YR3/1　黒褐　しまり無　3～5mmロームブロック5%、2～3mm砂粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　5～30mmロームブロック50%含む
4：10YR4/1　褐灰　しまり有　炭少量含む

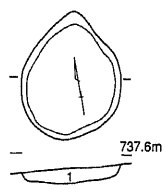
SK-036・037



【SK-036・037】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒多量、炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり無　地山ローム層土埋めたもの　炭少量含む
3：10YR1.7/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒・炭・焼土粒少量含む
4：10YR4/1　褐灰　しまり無　5～10mmロームブロック5%含む
①：10YR3/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒・5mm小石少量含む
②：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒・炭少量含む
③：10YR4/4　褐　しまり無　地山ローム層土埋めたもの
④：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒・5mm小石少量含む
⑤：10YR3/3　暗褐　しまり無　1～2mmローム粒少量含む

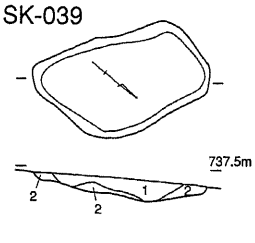
0　1m

SK-038



1：10YR3/3　暗褐　5mmロームブロック3%含む

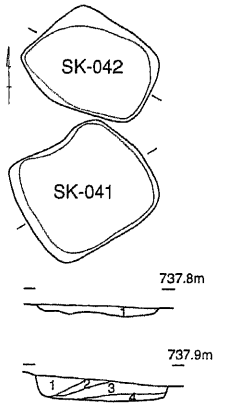
SK-039



1：10YR2/2　黒褐　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量含む

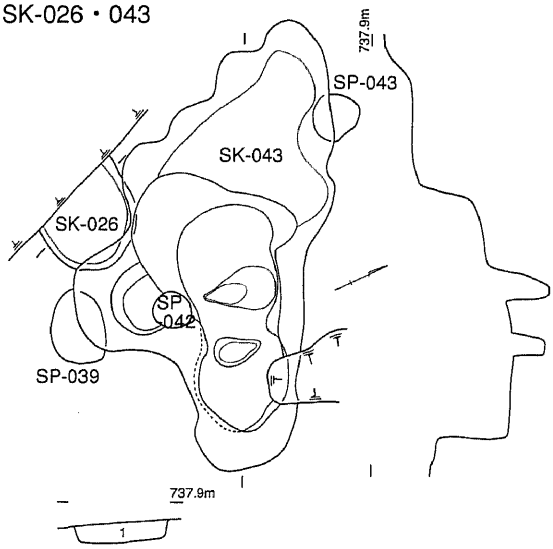
第23図　土壙②（S＝1／60）

SK-041・042



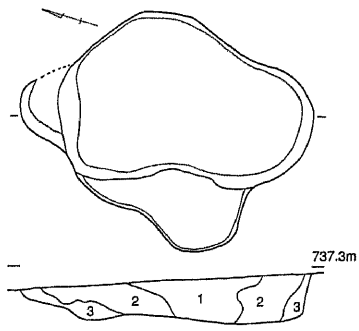
【SK-042】
1：10YR3/1　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量含む
【SK-041】
1：10YR3/3　暗褐　5mmロームブロック20%含む
2：10YR3/2　黒褐　5mmロームブロック10%含む
3：10YR4/4　褐　地山ローム層土埋めたもの
4：10YR3/2　黒褐　5mmロームブロック10%含む

SK-026・043



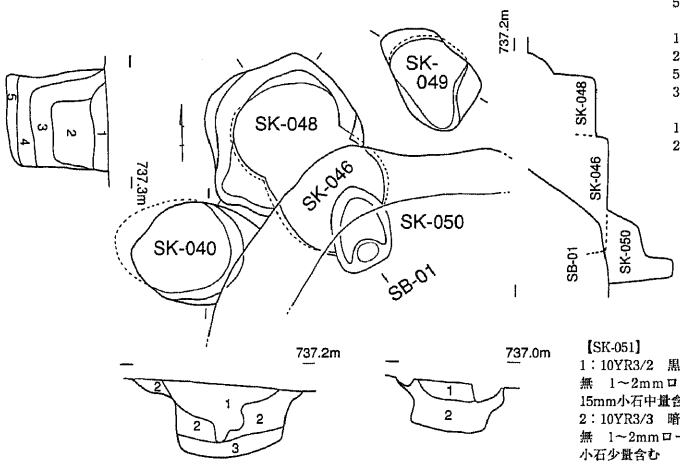
【SK-026】
1：10YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒少量含む

SK-045



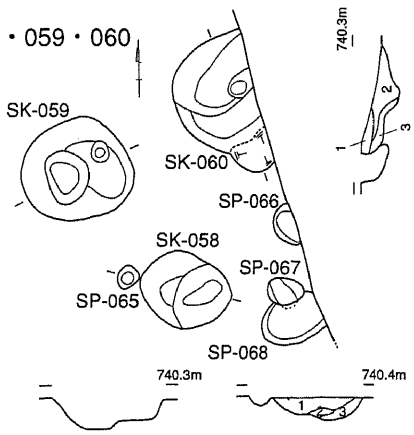
1：10YR4/4　褐　しまり無
2：10YR3/2　黒褐　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR3/3　暗褐　5～10mmロームブロック10%含む

SK-040・046・048～050



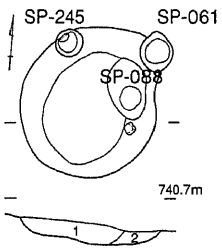
【SK-040】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：7.5YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒多量、炭少量含む
3：7.5YR2/1　黒　しまり無　1～2mmローム粒多量、炭少量、5～20mmロームブロック10%含む
4：10YR4/4　褐　しまり無　地山ローム層土の流れ込み土
5：10YR2/1　黒　しまり稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
【SK-048】
1：10YR2/1　黒　しまり無　5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック5%、3～5mm焼土ブロック少量、炭多量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり稍有　5～10mmロームブロック10%、炭少量含む
【SK-049】
1：10YR3/2　黒褐　5mmロームブロック10%、炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　5mmロームブロック30%含む

SK-058・059・060

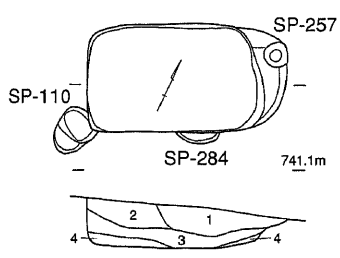


【SK-058】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒少量、5mm小石少量含む
2：10YR5/6　褐　しまり無、粘性有　地山ローム層土崩れ込み土
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　3～5mmロームブロック10%含む
【SK-060】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
3：10YR3/2の黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土

SK-051

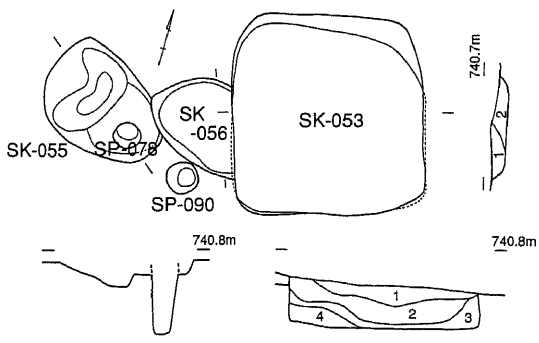


SK-052

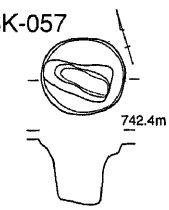


【SK-051】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒少量、5～15mm小石中量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、5mm小石少量含む
【SK-052】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5～10mm小石中量、1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%、5～10mm小石・炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・3～10mm小石・炭少量、5mmロームブロック3%含む
4：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、5～10mm小石少量含む
【SK-053】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　2mmローム粒・炭・5～10mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5～10mm小石少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5～10mm小石少量、5mmロームブロック3%含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　5～10mm小石少量含む
【SK-056】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-053・055・056



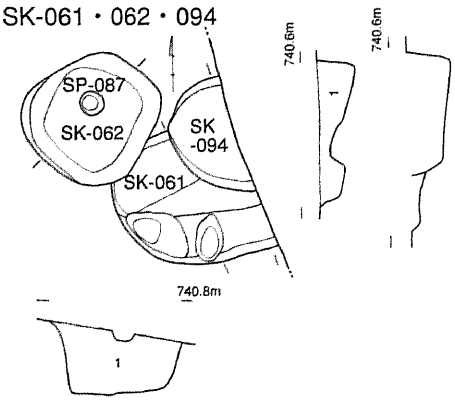
SK-057



0　1m

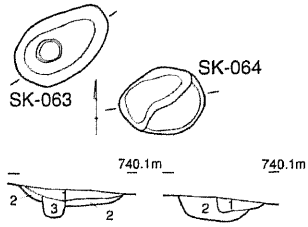
第24図　土壙③（S＝1／60）

SK-061・062・094



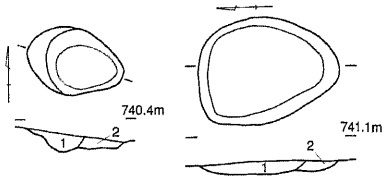
【SK-061】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
【SK-062】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5～10mm小石中量、炭少量含む

SK-063・064



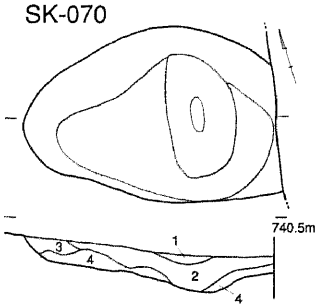
【SK-063】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む
【SK-064】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量含む

SK-065　SK-067



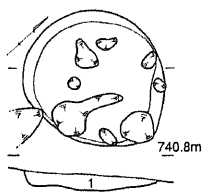
【SK-065】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%含む
【SK-067】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量含む

SK-070



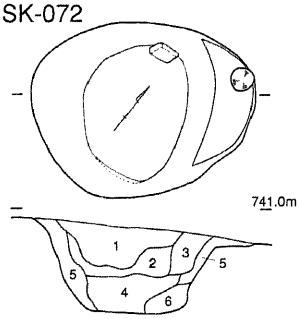
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒中量、1cmロームブロック15%含む

SK-071



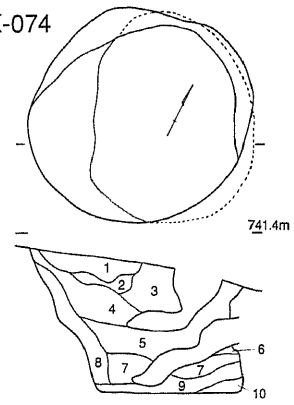
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック7%含む

SK-072



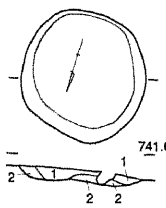
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、1mm焼土粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、1～3cmロームブロック10%、炭少量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒中量、5mm小石少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、3～5mmロームブロック20%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　2～3cmロームブロック30%含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-074



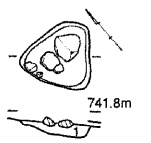
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5mmロームブロック5%、炭少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、炭少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2cmロームブロック40%含む
7：10YR1.7/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
8：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土の崩れ込み土
9：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　5mmロームブロック5%含む
10：10YR2/2　黒褐　1～2mmローム粒多量、炭少量含む

SK-075



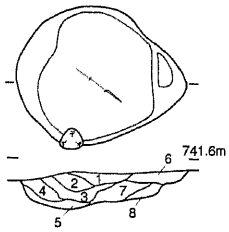
1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　炭少量含む

SK-076



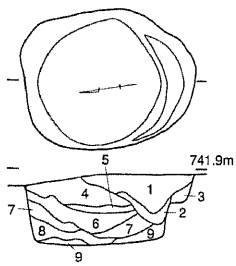
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・1mm焼土粒・炭少量含む

SK-077



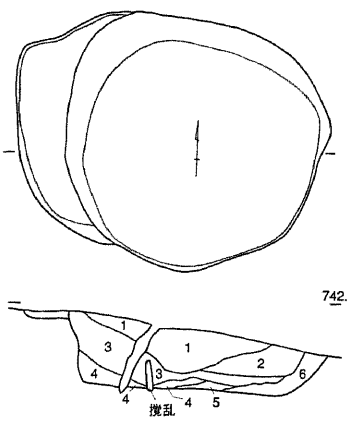
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む
4：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量、炭少量、5mmロームブロック15%含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
6：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック10%含む
7：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
8：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む

SK-078



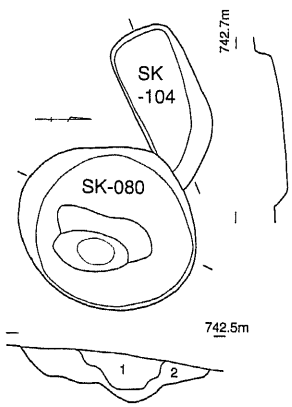
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　1cm暗褐色土ブロック20%含む
3：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　5～10mm暗褐色土ブロック20%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量、5mmロームブロック5%含む
6：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
7：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　5～20mm暗褐色土ブロック30%含む
8：10YR3/1　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
9：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　5mmロームブロック15%含む

SK-079



1：10YR1.7/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5～10mm小石少量含む
2：7.5YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、炭少量含む
5：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　5mmロームブロック5%含む

SK-080・104

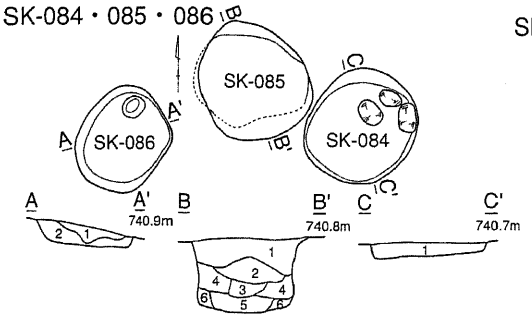


1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、1～3cmロームブロック20%含む

0　1m

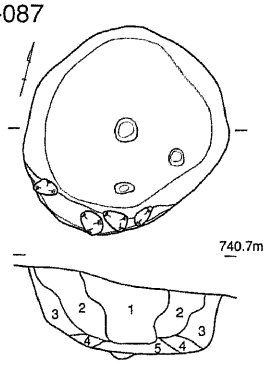
第25図　土壙④（S＝1／60）

SK-084・085・086



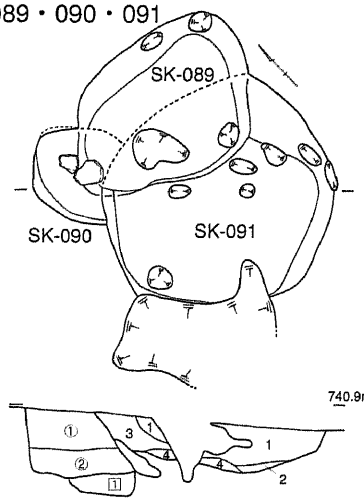
【SK-084】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5～10mmロームブロック25%、1～3cm黒色土ブロック7%含む
【SK-085】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、炭少量含む
2：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性無　5mmロームブロック5%、炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック15%含む
5：2層と同色・同質
6：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2cmロームブロック25%含む
【SK-086】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒少量、炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1～2cm黒色土ブロック30%含む

SK-087



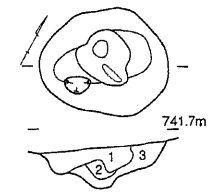
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、2～3cm黒褐色土ブロック15%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～3cmロームブロック30%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-089・090・091



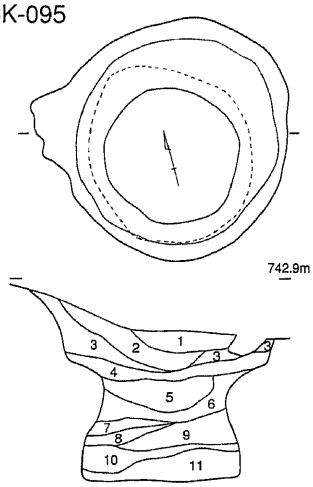
【SK-089・090・091】
①：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%、炭少量含む
①：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む
②：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック7%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5～20mmロームブロック30%含む

SK-088



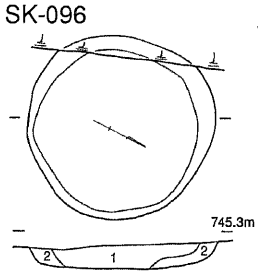
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/6　褐　地山ローム層土埋め戻し土に1～2cm黒色土ブロック40%入る

SK-095



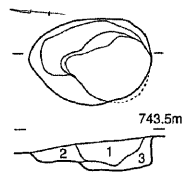
【SK-095】
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmロームブロック多量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック3%、炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック7%、炭少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム層土の流れ込み土に灰黄褐土が縞状に貫入　炭少量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック10%含む
7：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム層土の流れ込み土
8：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック40%含む
10：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
11：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック20%、炭中量含む

SK-096



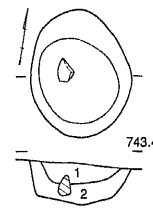
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック5%含む

SK-099



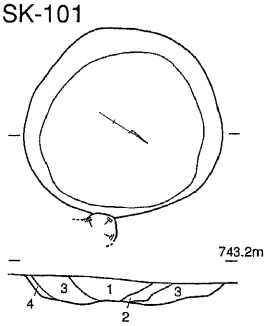
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　炭少量、5mmロームブロック5%含む

SK-100



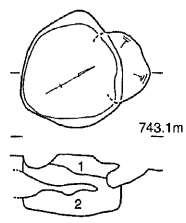
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無

SK-101



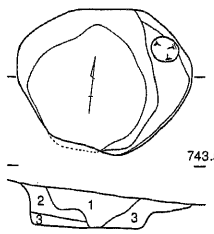
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量、炭少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック10%含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む

SK-102



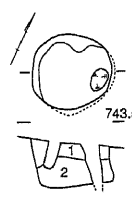
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、3～5mmロームブロック3%、炭少量含む

SK-103



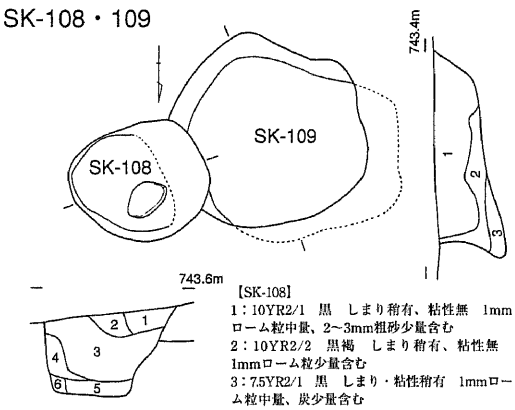
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　ローム層土の崩れ込み土
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-106



1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量、1～3cmロームブロック20%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む

SK-108・109



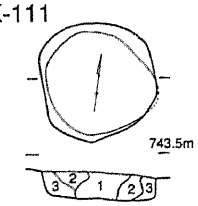
【SK-108】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒中量、2～3mm粗砂少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
3：7.5YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
4：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土の崩れ込み土
5：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
6：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土埋め戻し土に1～3cm黒色土ブロック15%含む

【SK-109】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　5～10mmロームブロック30%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　地山ローム層土の崩れ込み土

0　1m

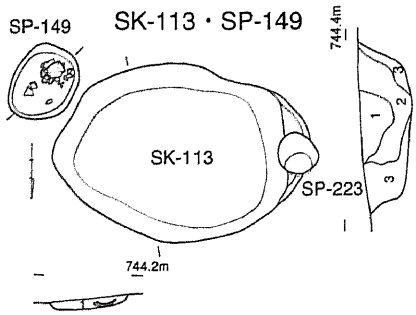
第26図　土壙⑤（S＝1／60）

SK-111



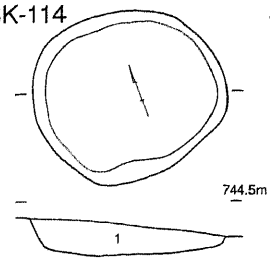
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　2～3cm暗褐色土ブロック30%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　2～4cmロームブロック10%含む

SP-149　SK-113・SP-149



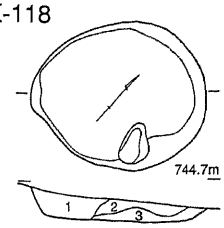
【SK-113】
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
【SP-149】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
【SK-115】
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　2～3cmロームブロック20%含む

SK-114



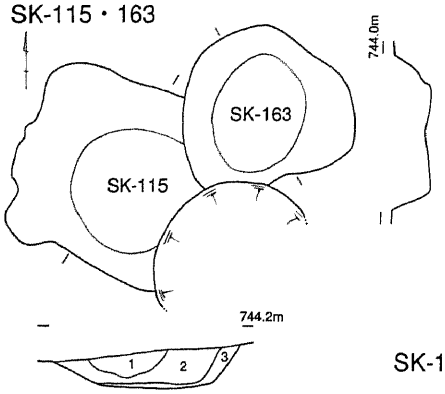
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、2～3cm暗褐色土ブロック20%含む

SK-118

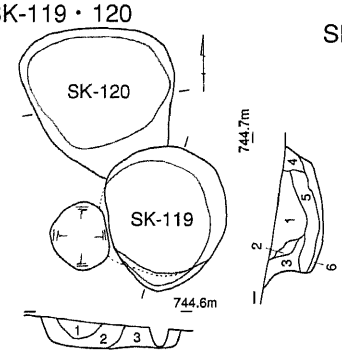


1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土流れ込み土　炭少量含む

SK-115・163

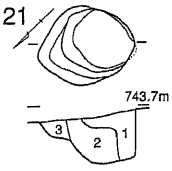


SK-119・120



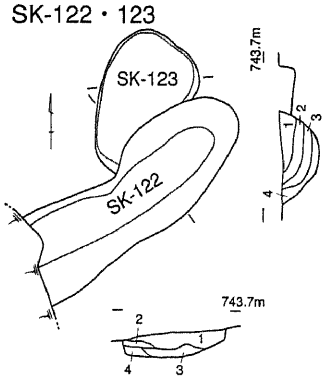
【SK-119】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・2～3mm粗砂少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック10%含む
4：2層と同色・同質
5：3層と同色・同質
6：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石少量含む
【SK-120】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
3：10YR4/4　褐　しまり・粘性稍有　炭少量含む

SK-121



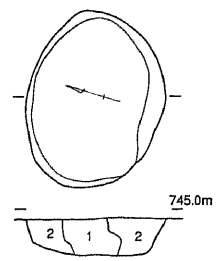
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5mmロームブロック5%、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量含む

SK-122・123



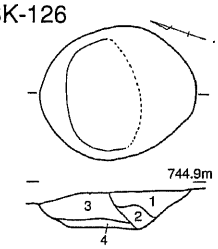
【SK-122】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土の流れ込み土
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土の流れ込み土
【SK-123】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、炭少量、5～10mmロームブロック5%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　地山ローム層土の崩れ込み土
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む

SK-124



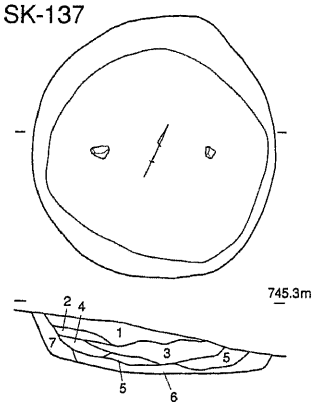
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　2～3mm粗砂少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　2～3mm粗砂少量、5mmロームブロック3%、2～3cm暗褐色土ブロック30%含む

SK-126



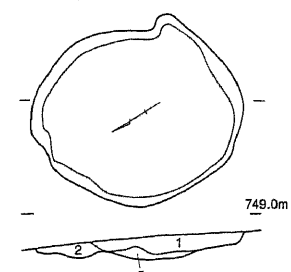
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、1～2cmロームブロック25%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　地山ローム層土の崩れ込み土

SK-137



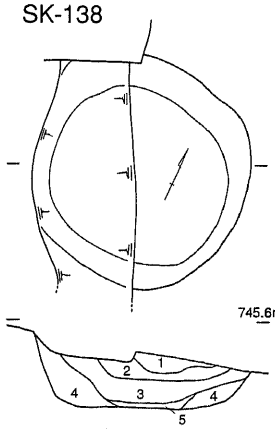
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
3：10YR4/6　褐　しまり稍有、粘性有　地山ローム層土埋め戻し層
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、炭少量含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量含む
7：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　地山ローム土の崩れ込み層

SK-125



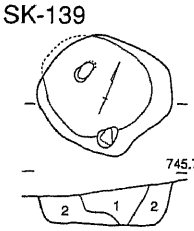
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量、5～20mmロームブロック5%含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%、5mm小石少量含む

SK-138



1：10YR4/6　褐　しまり稍有、粘性有　地山ローム層土の埋め戻し層
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒中量、炭少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-139

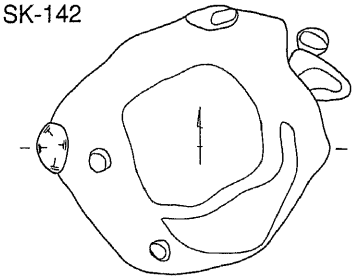


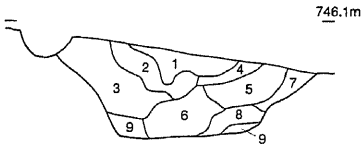
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　5mmロームブロック5%含む

0　1m

第27図　土壙⑥（S＝1／60）

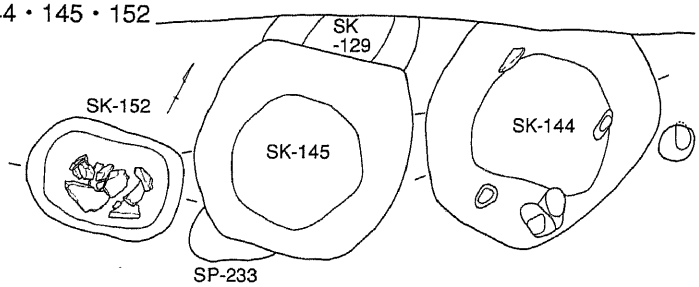
SK-142

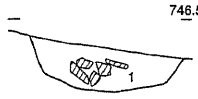




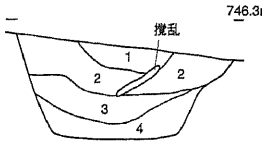
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒多量、炭・5mm小石少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量、5～20mmロームブロック40%含む
5：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mm小石・炭中量含む
7：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量、5～20mmロームブロック40%含む
8：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量、5～10mmロームブロック3%含む
9：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　地山ローム層土の崩れ込み土

SK-129・144・145・152

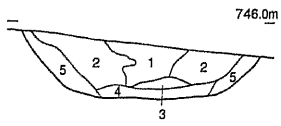




1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

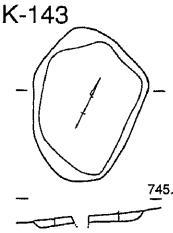


1：10YR4/6　褐　しまり稍有、粘性有　地山ローム層土埋め戻し土
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　5mmロームブロック30%含む
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む



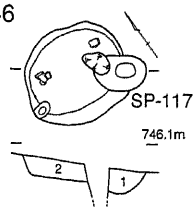
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5mmロームブロック10%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　5mmロームブロック3%、炭少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック5%含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　地山ローム層土の崩れ込み土に2～3cm暗褐色土ブロック40%含む

SK-143



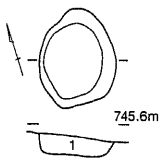
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック10%含む

SK-146



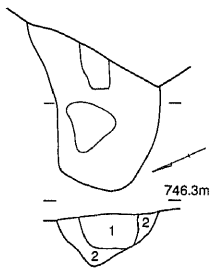
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック10%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む

SK-158



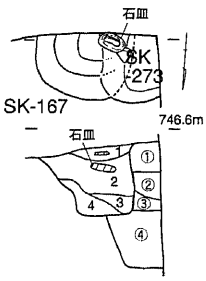
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む

SK-160



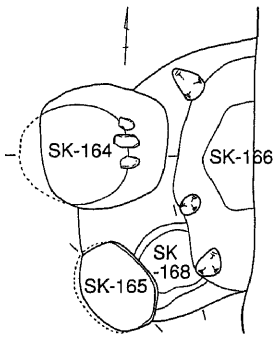
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%含む

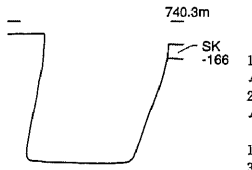
SK-167・273

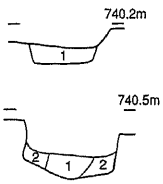


1：10YR3/3　暗褐　しまり稍弱く粘性稍有　ローム粒・炭粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍弱く粘性有　ローム粒稍多く、炭粒少量含む
3：10YR4/4　褐　しまり稍弱く粘性有　ローム粒及び2～5mmロームブロック多く含む
4：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり稍強く粘性有　ローム質土を多く、同徹小ブロック少量含む
①：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり強、粘性有　ローム質土を主とし2～5cmのロームブロック含む
②：10YR4/4　褐　しまり稍弱く粘性有　ローム粒多く含む
③：10YR3/3　暗褐　しまり弱く粘性有　ローム粒少量含む
④：10YR4/4　褐　しまり弱く粘性有　ローム粒及び5～20mmロームブロック多く含む

SK-164・165・166・168

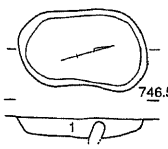






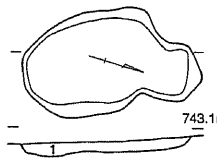
【SK-165】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～20mmロームブロック30%含む
【SK-168】
1：10YR3/1　黒褐　しまり良く粘性乏しい　3mmローム粒・炭化物少量含む

SK-161



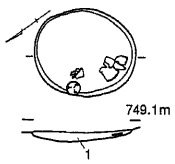
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%含む

SK-162



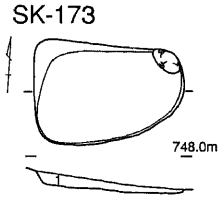
1：10YR3/1　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック5%含む

SK-169

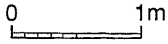


1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む

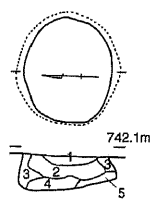
SK-173



1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mmロームブロック3%含む

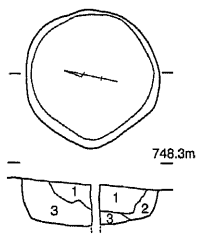


SK-174



1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック7%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR2/2の黒褐色土と地山ローム層土ブロックの混合土層

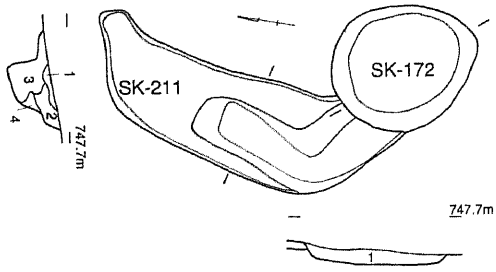
SK-175



1：7.5YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%含む

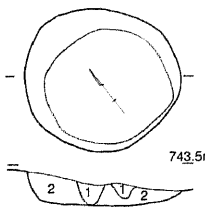
第28図　土壙⑦（S＝1／60）

SK-172・211



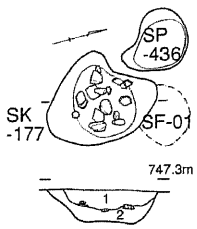
【SK-172】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%、1cm黒色土ブロック5%、炭少量含む
【SK-211】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、2～3cmロームブロック30%含む

SK-176



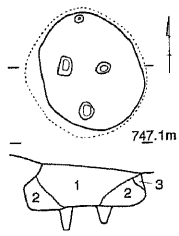
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む　攪乱の可能性大
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mm小石少量含む

SK-177



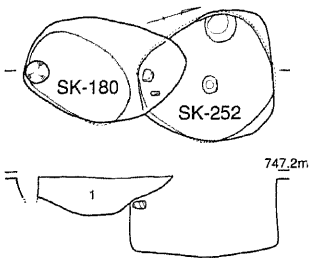
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量含む　拳大の石はこの層に包含

SK-178



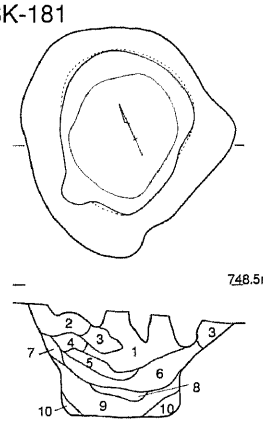
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
3：10YR4/6　褐　ローム土　2層の土が混入

SK-180・252



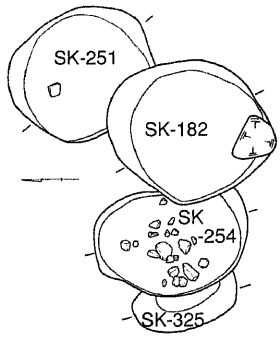
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

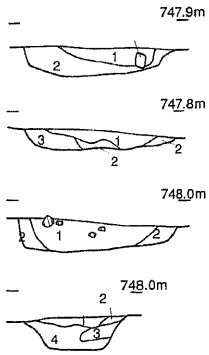
SK-181



1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、1～5cmロームブロック25%、2～3cm黒色土ブロック10%含む
3：10YR4/6　褐　ブロック状のローム土
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭中量、5～20mmロームブロック5%含む
7：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
8：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、炭中量含む
9：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ブロック状のローム土　1～3cm黒色土ブロック10%含む
10：7層と同じ

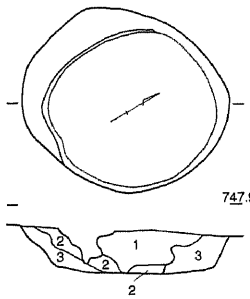
SK-182・251・254・325





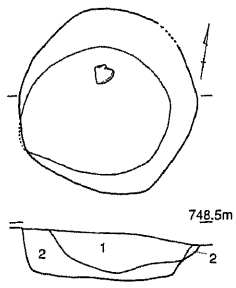
【SK-182】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む
【SK-251】
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む
【SK-254】
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック2%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～30mmロームブロック15%含む
【SK-325】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック5%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック3%含む
3：10YR4/6　褐　ローム質土
4：10YR3/3の暗褐色土とローム質土の混合土

SK-183



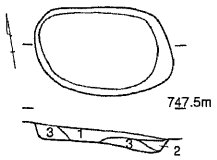
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック2%含む

SK-184



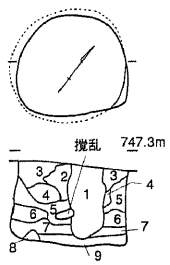
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～20mmロームブロック20%含む

SK-188



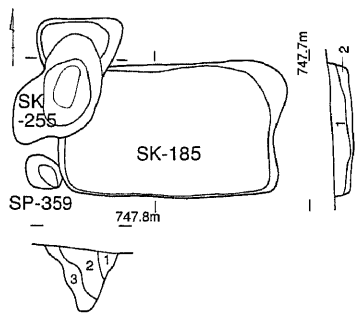
1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック5%、2～3cm黒色土ブロック5%含む
2：10YR4/6　褐　しまり・粘性有　ローム土
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-187



1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
5：10YR4/2　灰黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む
6：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック2%含む
7：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
8：10YR4/6　褐　ブロック状のローム土
9：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-185・255

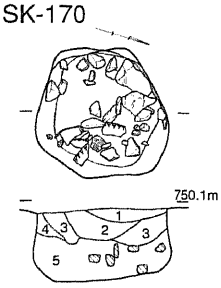


【SK-185】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック30%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む
【SK-255】
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有、粘性稍有　1～5cmロームブロック20%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2cmロームブロック10%含む

0　1m

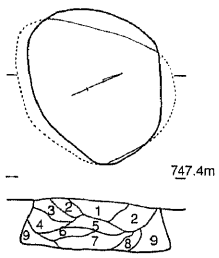
第29図　土壙⑧（S＝1／60）

SK-170



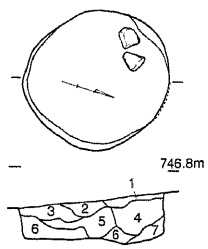
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒微量、5mm小石少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
5：7.5YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む

SK-189



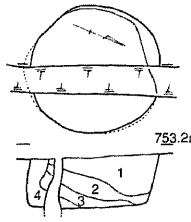
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
7：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
8：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　2～3cmロームブロック10%含む
9：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む

SK-193



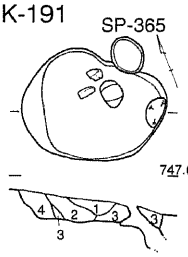
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒多量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、1～3cmロームブロック10%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む
6：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
7：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土

SK-171



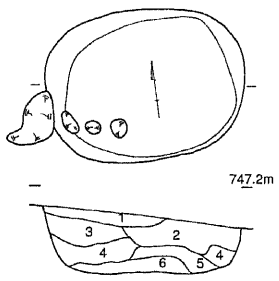
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック1%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック10%含む

SK-191



1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・1mm焼土粒・炭少量含む
3：7.5YR2/3　極暗褐　しまり・粘性無　5mm黒色土ブロック3%含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%含む

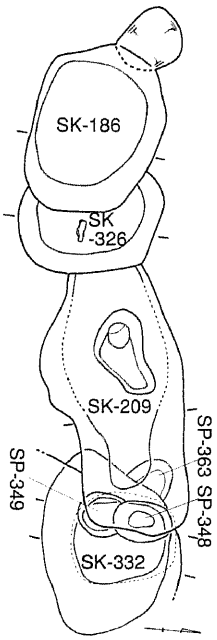
SK-190

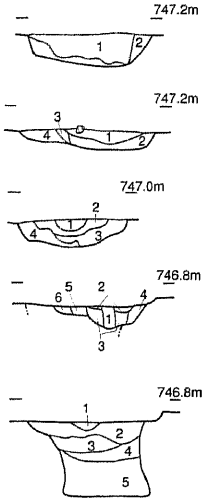


1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%、1cm黒色土ブロック5%含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む

0　1m

SK-186・209・326・332、SP-348・349

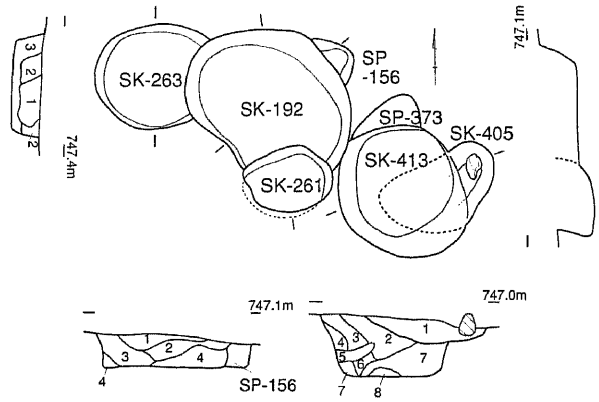




【SK-186】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%、炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　5～20mm暗褐色土ブロック20%含む
【SK-209】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～25mmロームブロック20%、炭中量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
【SK-326】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～30mmロームブロック10%含む
3：10YR4/6　褐　ローム質土
4：10YR3/2　黒褐　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
【SP-348・349】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍弱、粘性有
2：10YR3/1　黒褐　しまり良、粘性有　ローム粒微量含む
3：10YR2/1　黒　しまり良、粘性強
4：10YR3/4　暗褐　しまり稍弱、粘性強　ローム粒稍多く含む
5：10YR3/1　黒褐　しまり良、粘性強
6：10YR3/1　黒褐　しまり良、粘性強　ローム粒少量含む

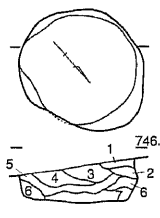
【SK-332】
1：10YR3/1　黒褐　しまり良、粘性有　5～10mm小石少量含む
2：10YR4/6　褐　しまり良、粘性強　ローム粒・ロームブロック多く含む
3：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性強　ローム粒少量、炭粒微量含む
4：10YR6/6　明黄褐　しまり普通、粘性弱　ローム質土
5：10YR2/1　黒　しまり良、粘性強　壁際に漸移的にローム粒が混入　炭化物稍多く含む

SK-192・261・263・405・413



【SK-192】
1：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、3～10mmロームブロック7%含む
4：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
SP-156：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
【SK-263】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒・炭少量、5～20mmロームブロック7%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、3～10mmロームブロック5%含む
【SK-405・413】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍弱、粘性有　ローム粒稍有、炭粒微量含む
2：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性有　ローム粒少し含む
3：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり稍弱、粘性有　黒色土30～40%含む
4：10YR6/6　明黄褐　しまり弱、粘性有　ローム質土
5：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性有　ローム粒及びロームブロック縞降り状に多く含む
6：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性有
7：10YR3/1　黒褐　しまり普通、粘性有　ローム粒及び3～5mmロームブロック稍多く、炭粒微量含む
8：10YR2/1　黒　しまり稍弱、粘性有　ローム粒少量、炭粒稍多く含む

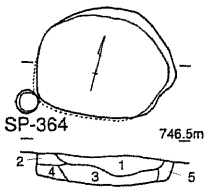
SK-194



1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　5mmロームブロック5%、1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む
5：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック2%含む
6：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
7：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック2%含む

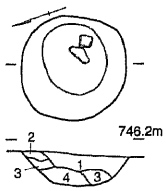
第30図　土壙⑨（S＝1／60）

SK-195



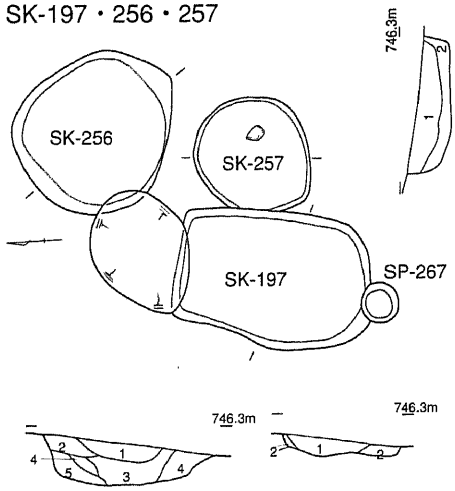
1:7.5YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～30mmロームブロック10%含む
3:10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む
5:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む

SK-196



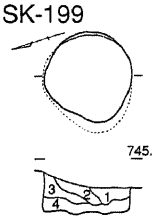
1:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～5cmロームブロック7%含む
2:10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
3:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4:10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-197・256・257



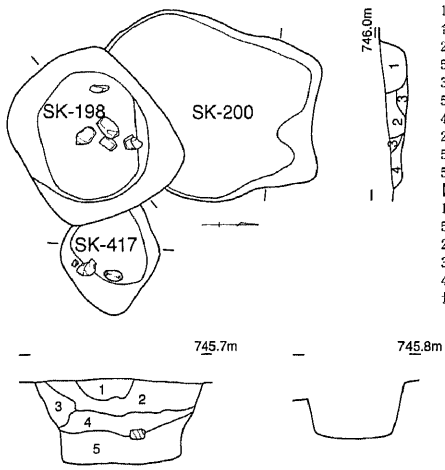
【SK-197】
1:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック15%含む
2:10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック15%含む
【SK-256】
1:10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック2%含む
2:10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック1%含む
3:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
4:10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック3%含む
5:10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
【SK-257】
1:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2:10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-199



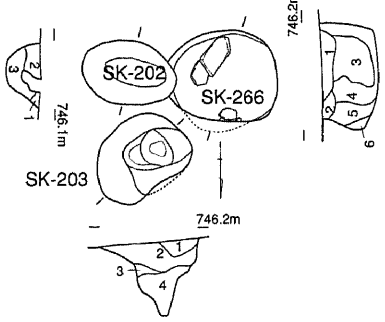
1:10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
2:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3:10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4:10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック10%含む

SK-198・200・417



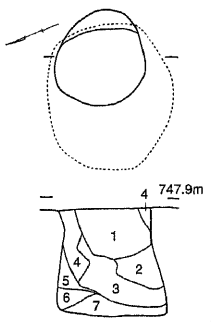
【SK-198】
1:7.5YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む
2:7.5YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック10%含む
3:10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック15%含む
4:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量・2～3cm礫少量含む
5:10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒中量、5～50mmロームブロック25%含む
【SK-200】
1:10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック5%、炭少量含む
2:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
3:10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム土
4:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む

SK-202・203・266



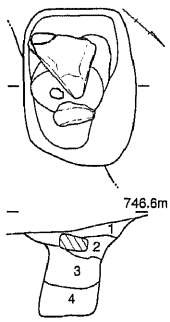
【SK-202】
1:10YR4/6　褐　地山ローム層土崩れ込み土
2:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
【SK-203】
1:10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
2:10YR4/2　灰黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3:10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
4:1層と同じ
【SK-266】
1:10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
2:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
3:10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
5:10YR3/4　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量含む
6:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む

SK-204



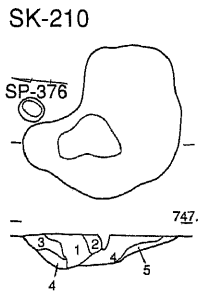
1:10YR1.7/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
2:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック3%含む
3:10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む
4:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒多量、5～40mmロームブロック20%含む
5:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～30mmロームブロック25%含む
6:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む
7:10YR1.7/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-205



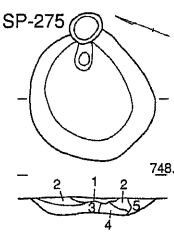
1:10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
2:10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック15%含む
3:10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒多量、炭少量含む　図化遺物はこの層に包含

SK-210



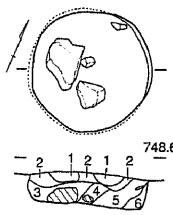
1:10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
2:10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～20mmロームブロック10%含む
3:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
4:10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
5:10YR4/4　褐　しまり・粘性無

SK-213



1:10YR4/6　褐　ローム土
2:10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む
3:10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック2%含む
4:2層に同じ
5:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む

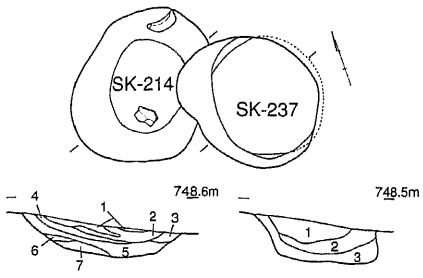
SK-218



1:10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
2:10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
3:10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、炭少量含む
4:10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む
5:10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
6:10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック20%含む

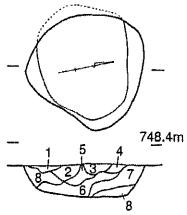
第31図　土壙⑩（S＝1／60）

SK-214・237



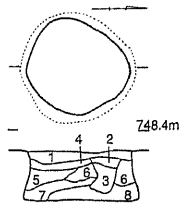
【SK-214】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5mm迄の小石多量含む
5：2.5Y3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量含む
【SK-237】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭中量、5～20mmロームブロック10%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～20mmロームブロック10%含む

SK-217



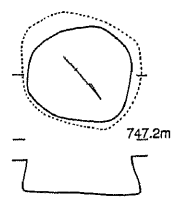
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：2層と同じ
4：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む
6：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
7：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～20mmロームブロック15%含む
8：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック20%含む

SK-219

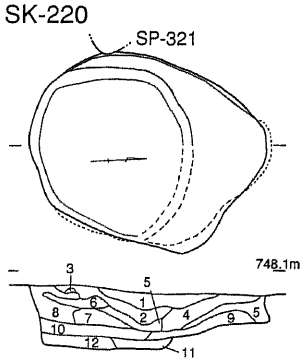


1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2cmロームブロック50%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
5：10YR4/4　褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒中量、炭少量含む
7：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
8：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-207

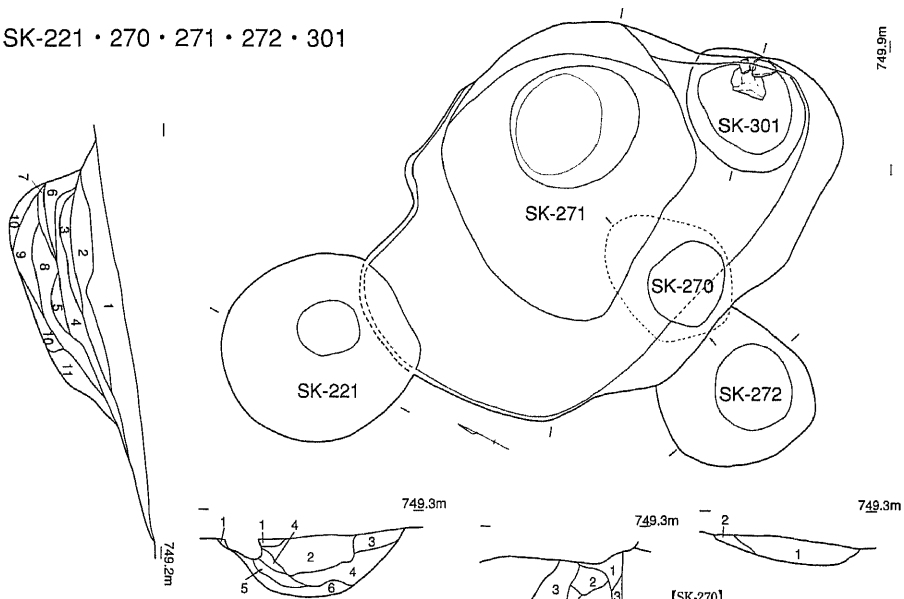


SK-220



【SK-220】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR1.7/1の黒色土ブロック
4：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック20%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　5～10mmロームブロック5%含む
6：10YR4/6　褐　地山ローム層土の埋め戻し土層
7：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
8：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
9：7層と同じ
10：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　5～10mmロームブロック15%含む
11：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　5～10mmロームブロック15%含む
12：9層と同じ

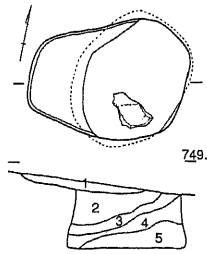
SK-221・270・271・272・301



【SK-221】
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有
2：7.5YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒少量含む
【SK-271】
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム土　5～30mm黒褐色土ブロック20%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック10%含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
7：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム土
8：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック10%、炭少量含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%、炭少量含む
10：5層と同じ
11：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　小石混じりローム質土
【SK-301】
1：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　小石混じりローム層土埋め戻し土
2：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　小石混じりローム層土の流れ込み土

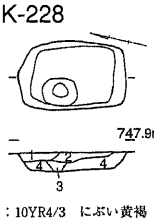
【SK-270】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、1～3cmロームブロック10%含む
4：10YR4/6　褐　ローム土
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
6：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
【SK-272】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量含む

SK-222



1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5～10mm小石中量含む　別遺構覆土？
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/6　褐　ローム土
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-228

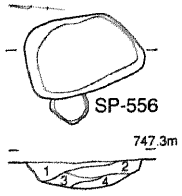


1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒少量含む
4：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石少量含む

0　1m

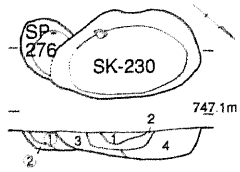
第32図　土壙⑪（S＝1／60）

SK-229



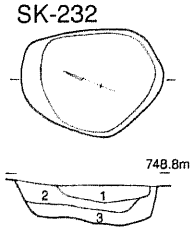
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量，5～10mmロームブロック10%含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒多量，炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒多量，5mmロームブロック5%含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-230



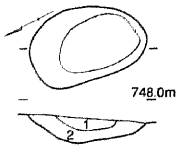
【SK-230，SP-276】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒中量，3～5mmロームブロック5%含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量，5mm小石少量，3～5mmロームブロック5%含む　稀砂質
①：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量，5～10mmロームブロック5%含む
②：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量，5～10mmロームブロック30%含む

SK-232



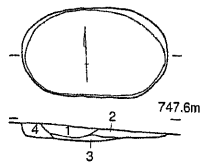
【SK-232】
1：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有，粘性無　5mm小石中量含む
2：10YR4/4　褐　しまり・粘性無　5mm小石中量含む
3：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有，粘性無　5～10mm小石少量含む

SK-233



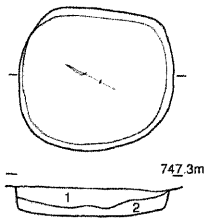
【SK-233】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒少量，5～50mmロームブロック20%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒少量，5～30mmロームブロック15%含む

SK-236



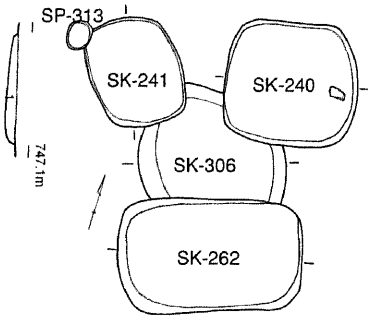
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有，粘性無　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
4：10YR2/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

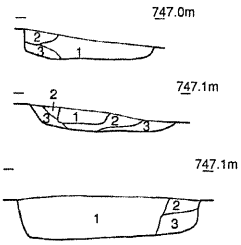
SK-238



1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有，粘性有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量，5mmロームブロック2%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有，粘性有　1mmローム粒・5mm小石少量，5～10mmロームブロック2%含む

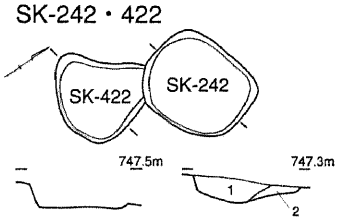
SK-240・241・262・306





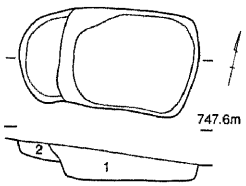
【SK-240】
1：10YR3/1　黒褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒少量，5mmロームブロック5%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量，炭少量，5mmロームブロック2%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量，3～5mmロームブロック2%含む
【SK-241】
1：10YR4/2　灰黄褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒・炭少量，5mmロームブロック5%含む
【SK-262】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石中量，5mmロームブロック2%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量，5mmロームブロック2%含む
【SK-306】
1：10YR2/1　黒　しまり有・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・3～5mm小石少量含む
3：10YR3/3　暗褐　ローム質土

SK-242・422



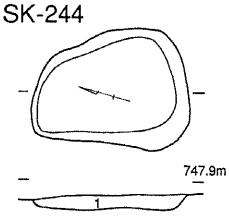
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量，5mmロームブロック3%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有，粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量，5mmロームブロック2%含む

SK-243



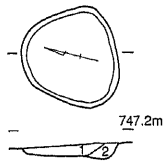
1：10YR4/4　褐　しまり・粘性無　5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量，5～10mmロームブロック3%含む

SK-244



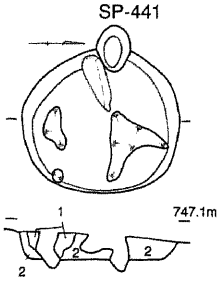
1：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量，5mmロームブロック7%含む

SK-245



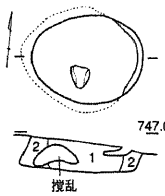
1：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり稍有，粘性無　1mmローム粒，3～5mm小石少量含む

SK-246



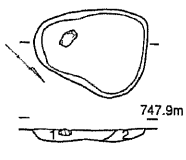
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量，1～2cmロームブロック3%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む

SK-247



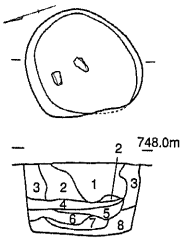
1：10YR2/1　黒　しまり有，粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-248



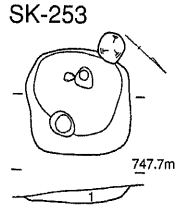
1：10YR3/4　暗褐　しまり稍有，粘性有　1mmローム粒・5mm小石少量，5mmロームブロック2%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量，3～5mmロームブロック7%含む

SK-250



【SK-250】
1：7.5YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量，5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有，粘性有　1～2mmローム粒中量，3～5mmロームブロック7%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無，粘性稍有　1mmローム粒少量，5～20mmロームブロック10%含む
4：10YR4/6　褐　しまり無，粘性有　ローム土
5：10YR4/4　褐　しまり無，粘性有　ローム質土
6：10YR3/2　黒褐　しまり無，粘性有　1mmローム粒少量含む
7：10YR2/2　黒褐　しまり稍有，粘性有　1mmローム粒少量含む
8：10YR3/2　黒褐　しまり無，粘性有　1mmローム粒多量，5～10mmロームブロック2%，炭少量含む

SK-253

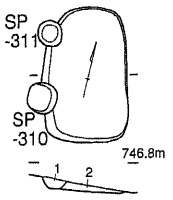


【SK-253】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有，粘性稍有　1mmローム粒・炭少量，5～20mmロームブロック10%含む

0　1m

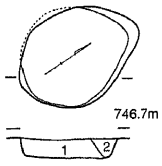
第33図　土壙⑫（S＝1／60）

SK-260



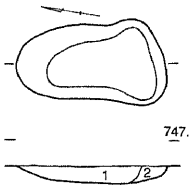
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-267



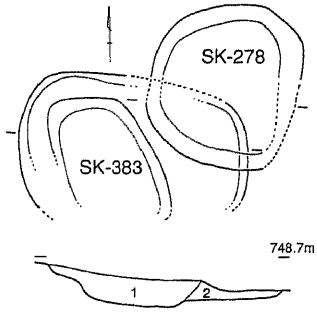
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-274



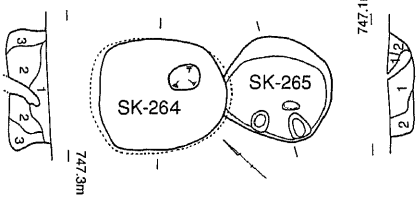
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック5%含む

SK-278・383



【SK-278】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mm小石中量含む
【SK-383】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石中量、炭少量含む

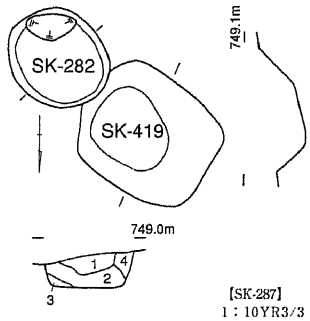
SK-264・265



【SK-264】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～50mmロームブロック15%含む

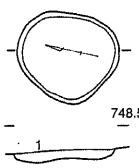
【SK-265】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐、しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-282・419



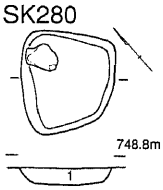
【SK-282】
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭・5～10mm小石少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む

SK-279



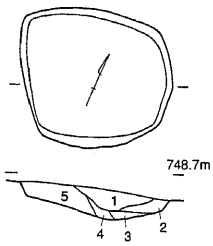
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む

SK280



1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む

SK-281

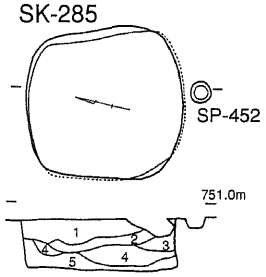


【SK-281】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む

【SK-287】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～20mmロームブロック25%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック5%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5mm小石少量含む
4：10YR4/4　褐　小石混じりローム質土

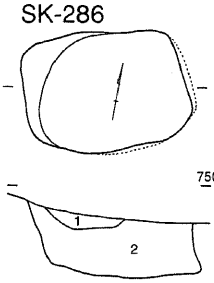
【SK-300】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、1cmロームブロック1%含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック1%含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック2%含む
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有
6：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
8：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム質土
9：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
10：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム質土

SK-285



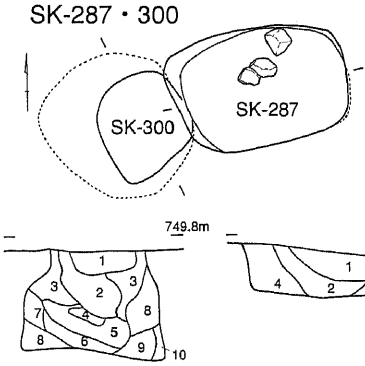
1：10YR4/4　褐　しまり稍有、粘性無　5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む
4：10YR4/4　褐　しまり稍有、粘性無　5mm小石少量、5～20mm暗褐色土ブロック含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック7%含む

SK-286

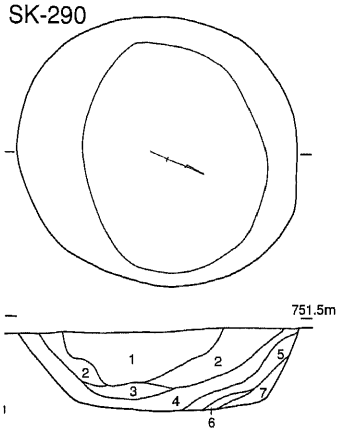


1：10YR4/4　褐　しまり・粘性無　5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量、5～20mmロームブロック7%含む

SK-287・300

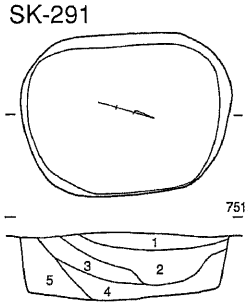


SK-290



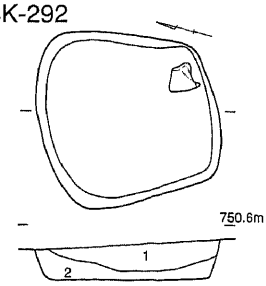
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mm小石少量含む
3：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック2%、5～15mm小石少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mm小石・炭少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック3%含む

SK-291



1：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　小石混じりローム質土　炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり稍有、粘性有　小石混じりローム質土　炭少量、1～3cm暗褐色土ブロック5%含む
3：1層と同じ
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　小石混じりローム質土　炭少量含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　5～10mm小石少量含む

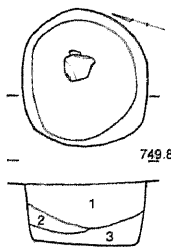
SK-292



1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量、5～10mmロームブロック2%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック3%、5mm小石少量含む

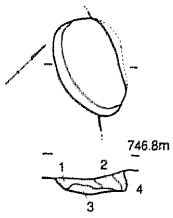
第34図　土壙⑬（S＝1／60）

SK-293



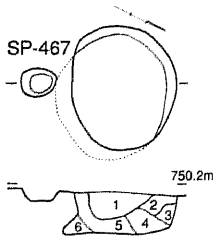
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量，5～15mm小石少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　小石混じりローム質土
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量，炭少量含む

SK-294



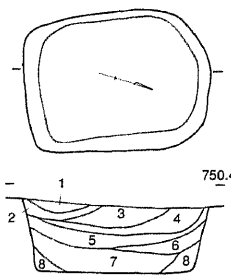
1：10YR6/6　明黄褐　しまり普通，粘性稍有　ローム粒・5～10mmロームブロック多く含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり良，粘性弱　ローム粒稍多く含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり良，粘性弱　ロームブロック少量含む
4：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり稍弱，粘性弱　ローム質土

SK-296



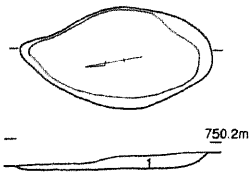
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　2cm程ロームブロック5%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　ローム質土
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む
6：1層と同じ

SK-297



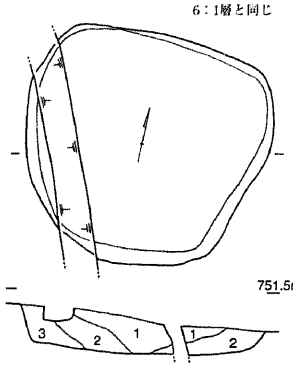
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　5mm小石・炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり・粘性無　5mm小石少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　5～10mm小石中量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石・炭少量、5～10mmロームブロック2%含む
5：10YR4/4　褐　しまり・粘性稍有　5mm小石少量含む
6：4層と同じ
7：10YR4/4　褐　しまり・粘性無　5mm小石少量含む
8：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　3～5mm小石少量含む

SK-298



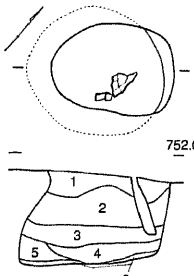
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む

SK-303



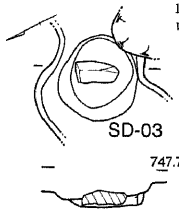
【SK-303】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む

SK-305



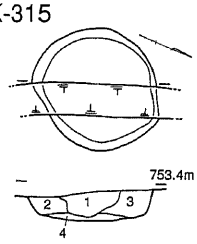
【SK-305】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒・5mm小石・炭少量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　地山ローム質土
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
6：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量、5～15mmロームブロック5%含む

SK-307



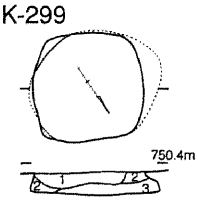
【SK-307】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-315



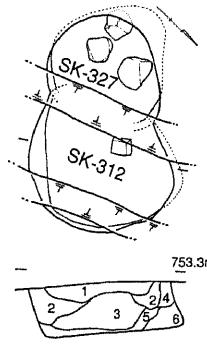
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～5mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、1～3cmロームブロック50%含む

SK-299



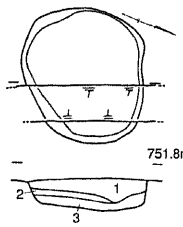
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5～10mmロームブロック10%含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-312・327



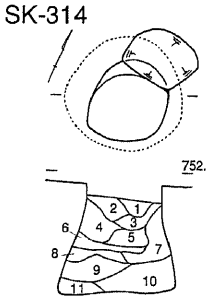
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～30mmロームブロック30%含む
5：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～20mmロームブロック15%含む
6：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～30mmロームブロック10%含む

SK-313



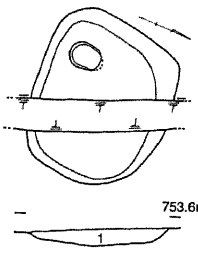
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック5%、5mm小石少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む

SK-314



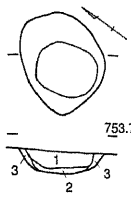
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5～15mmロームブロック5%含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり強、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5～10mmロームブロック2%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒非常に多量含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック3%含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
8：5層と同じ
9：4層と同じ
10：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む　土器片はほぼこの層から出土
11：5層と同じ

SK-316



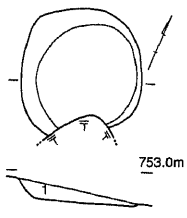
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-317



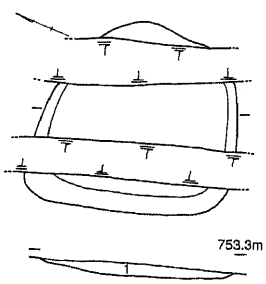
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、3～10mmロームブロック5%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～15mmロームブロック30%含む

SK-318



1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・焼土粒・炭少量含む

SK-319

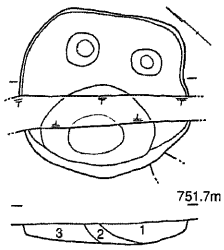


1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

0　1m

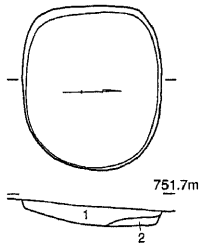
第35図　土壙⑭（S＝1／60）

SK-321



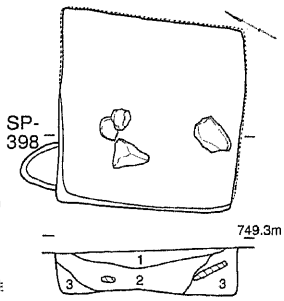
1：10YR3/2　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5～10mmロームブロック10%含む
2：10YR4/6　褐　地山ローム質土
3：1層と同じ

SK-322



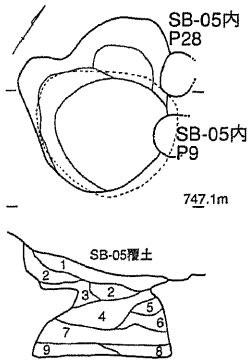
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-323



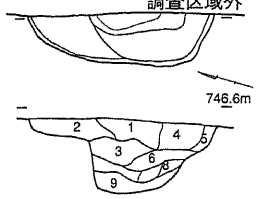
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、3～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量、5～20mmロームブロック10%含む
3：10YR4/4　褐　小石混じりローム質土

SK-324



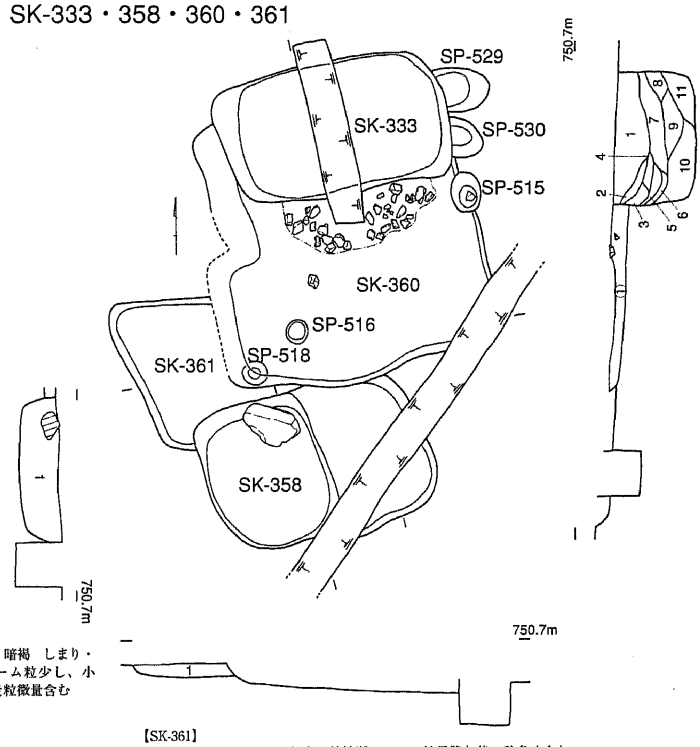
【SK-324】
1：10YR3/3　暗褐　しまり普通、粘性欠く　ローム粒・炭粒多く含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒多く、3～5mmロームブロック少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍良、粘性有　ローム粒及び5～10mmロームブロック多く含む
4：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性有　ローム粒及び3～5mmロームブロック稍多く含む
5：10YR6/6　明黄褐　しまり良、粘性強　ローム質土
6：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり稍弱、粘性有　ローム粒・ロームブロック多く含む
7：10YR6/6　明黄褐　しまり良、粘性強　ローム質土　暗～黒色土を若干量含む
8：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり良、粘性有　ローム粒及び5～10mmロームブロック多く含む
9：10YR2/1　黒　しまり良、粘性強　ローム粒及び3～5mmロームブロック稍多く含む

SK-328



1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒中量、炭少量、3～5mmロームブロック2%含む
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～30mmロームブロック20%含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック1%、炭少量含む
7：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
8：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
9：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-333・358・360・361



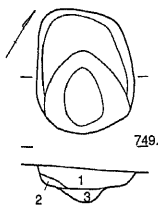
【SK-333】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～10mm小石少量、5～10mm黒色土ブロック1%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　5～10mm小石・炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mm小石少量、5～10mm黄褐色土ブロック3%含む
4：10YR4/4　褐　しまり稍有、粘性有　ローム質土
5：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　5mm黄褐色土ブロック3%、5mm小石少量含む
6：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　5mm小石少量含む　ローム質土
7：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　3～5mm小石少量、3～5mm暗褐色土ブロック2%含む
8：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　3～5mm暗褐色土ブロック2%含む
9：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　3～5mm小石少量、3～10mm暗褐色土ブロック10%含む
10：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　3～30mm暗褐色土ブロック20%含む
11：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mm小石少量、5～10mm暗褐色土ブロック1%含む

【SK-360】
①：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性乏しい　ローム粒多く、3～5mm小石稍多く、炭化物少し含む

【SK-358】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性弱　ローム粒少し、小石稍多く、炭粒微量含む

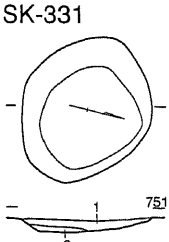
【SK-361】
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性弱　ローム粒霜降り状に稍多く含む

SK-329



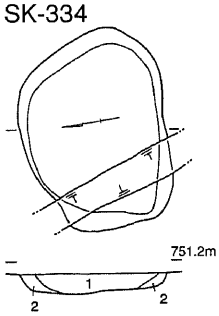
1：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　5mm小石少量含む
2：10YR4/4　褐　小石混じりローム質土
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　5～10mmロームブロック5%含む

SK-331



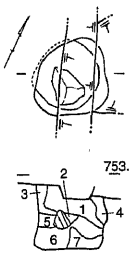
1：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5～10mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5mmロームブロック5%含む

SK-334



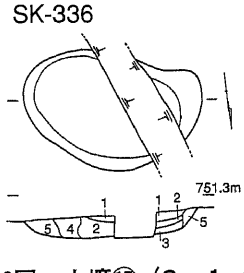
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック25%、5mm小石・炭少量含む

SK-335



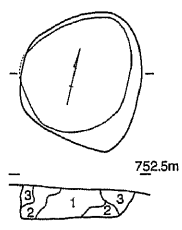
【SK-335】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック3%、炭少量含む
3：10YR4/6　褐　ローム質土
4：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、3～10mmロームブロック10%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック10%含む
6：4層と同じ
7：5層と同じ

SK-336



【SK-336】
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量含む

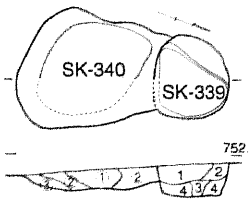
SK-338



1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック3%含む

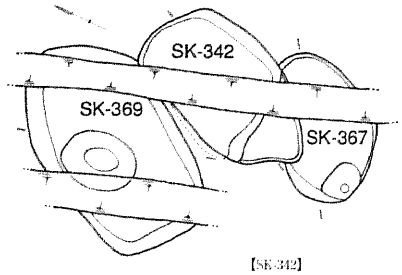
第36図　土壙⑮（S＝1／60）

SK-339・340

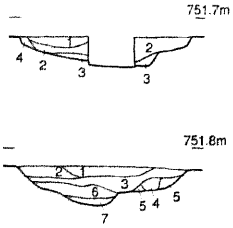


【SK-339・340】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・3~5mm小石少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒中量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3~5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック5%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　3~10mmロームブロック10%含む

SK-342・367・369

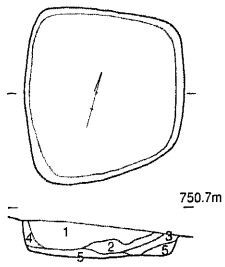


【SK-367】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3~5mm 小石・炭少量含む



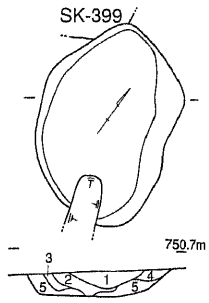
【SK-342】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3mm小石・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック10%含む
4：10YR1/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量含む
【SK-369】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5~10mmロームブロック5%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　地山ローム層土の崩れ込み土層
6：1層と同じ
7：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　5mm小石少量含む

SK-343



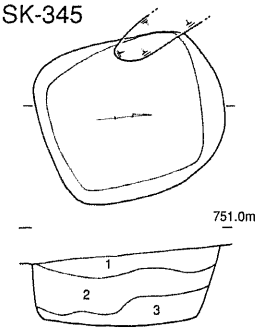
1：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、3~15mmロームブロック10%、3~10cm黒褐色土ブロック20%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、3~10mmロームブロック3%含む
4：10YR4/6　褐　地山ローム層土の崩れ込み土
5：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック2%含む

SK-344



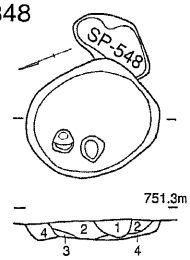
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒中量含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5~10mmロームブロック7%含む

SK-345



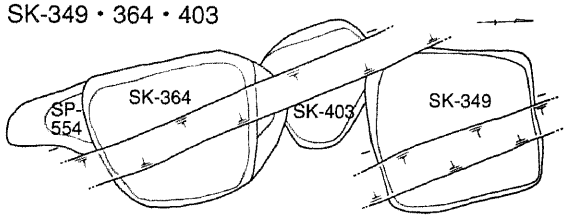
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック3%含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む
3：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む

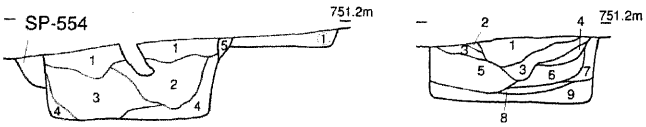
SK-348



1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5~10mmロームブロック5%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒中量、炭少量、3~5mmロームブロック2%含む

SK-349・364・403

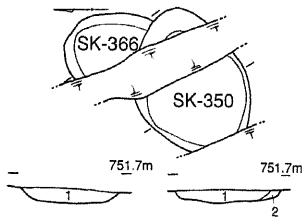




【SK-364】
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5~50mmロームブロック15%、10~50mm黒色土ブロック10%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5~15mmロームブロック7%、5mm黒褐色土ブロック3%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5~30mmロームブロック7%、10~40mm黒褐色土ブロック5%含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5~15mmロームブロック10%含む
【SP-554】
10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
【SK-403】
①：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック7%含む

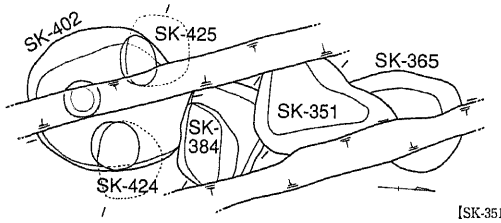
【SK-349】
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、3~15mmロームブロック2%含む
2：10YR4/6　褐　地山ローム質土
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5~15mmロームブロック5%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1~2mmローム粒中量含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む
7：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1~2mmローム粒中量、5~10mmロームブロック3%含む
8：3層と同じ
9：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む

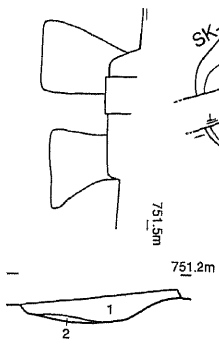
SK-350・366



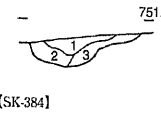
【SK-366】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mm小石中量含む
【SK-350】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む

SK-351・365・384・402・424・425

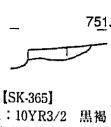




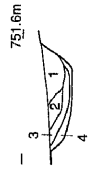
【SK-402】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック7%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、炭・焼土粒中量含む



【SK-384】
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック1%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5~50mmロームブロック20%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　1mmローム粒多量、炭少量含む



【SK-365】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・5mm小石少量、5~10mmロームブロック10%含む

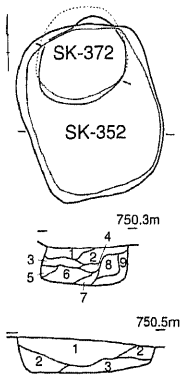


【SK-351】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・3~5mm小石少量、3~5mmロームブロック2%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒、3~5mm小石少量含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり無　粘性有　1mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む

0　1m

第37図　土壙⑯（S＝1／60）

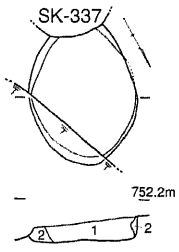
SK-352・372



【SK-372】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～30mmロームブロック10%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR1.7/1　黒　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック10%含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
7：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、1～3cmロームブロック15%含む
8：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
9：1層と同じ

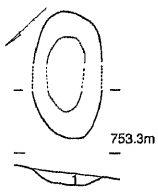
【SK-352】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～30mmロームブロック20%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～20mmロームブロック10%含む

SK-353



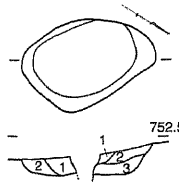
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む

SK-356



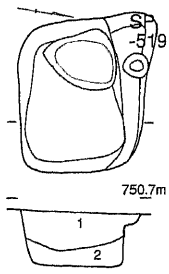
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mm小石・炭少量含む

SK-357



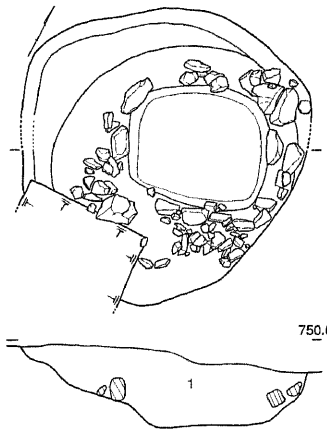
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック1%含む

SK-359



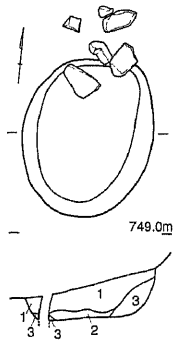
1：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　10～20mmロームブロック多、5～15mm小石多、黒色土ブロック少し含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍硬、粘性有　黒色土ブロック少し、5～10mm小石稍多く含む

SK-368



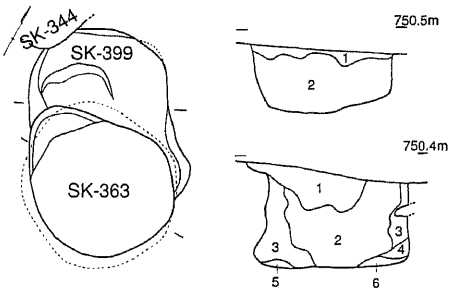
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒少量、5mm小石中量含む

SK-371



1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mm小石・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む

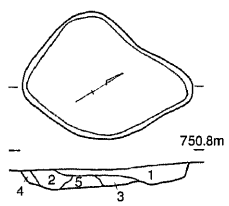
SK-363・399



【SK-363】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、1～4cmロームブロック10%含む
4：10YR4/6　褐　地山ローム層土崩れ込み土（ブロック状）
5：10YR4/6　褐　地山ローム層土流れ込み土（しまり無）
6：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

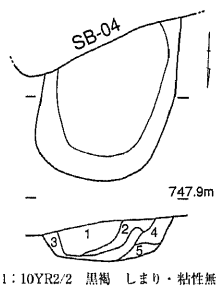
【SK-399】
1：10YR3/1　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む　撹乱の可能性大
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量、10～50mmロームブロック10%含む

SK-362



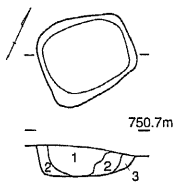
1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有1mmローム粒少量、3～5cm黒色土ブロック5%、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4：3層と同じ
5：10YR4/6　褐　地山ローム層土の崩れ込み土層

SK-373



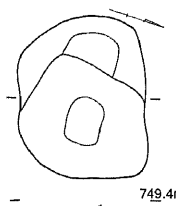
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒少量、炭中量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、3cm前後ロームブロック5%含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む

SK-374



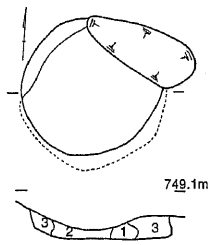
1：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、1～3cmロームブロック10%含む

SK-375



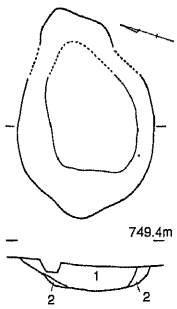
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　ローム粒が楕状に入り込む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

SK-376



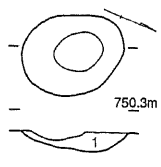
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む

SK-377



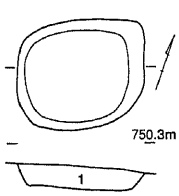
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

SK-378



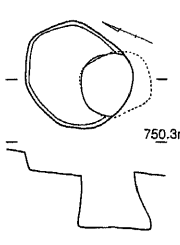
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性弱　焼土粒及び炭粒少量含む　5～10mm小石稍多く混入

SK-380

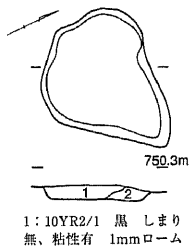


1：10YR3/3　暗褐　しまり良、粘性弱　炭粒微量、5～10mm小石稍多含む

SK-382

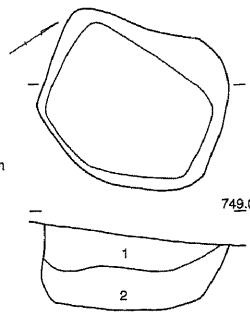


SK-385



1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量含む

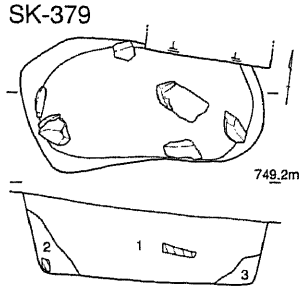
SK-387



【SK-387】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　3～20mm小石少量、炭微量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　3～10mm小石・炭少量含む

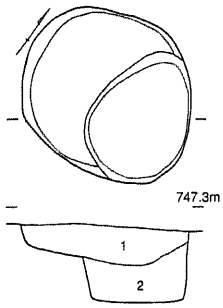
第38図　土壙⑰（S＝1／60）

SK-379



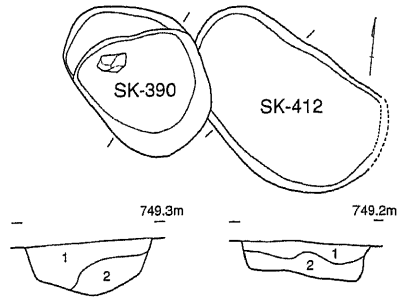
1：10YR3/1　黒褐　しまり良、粘性無　5～10mm小石多、拳大礫少量、黒色土ブロック少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性稍有　5～10mm小石多、黒褐色土ブロック少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍弱、粘性乏しい　5～10mm小石多く含む

SK-389



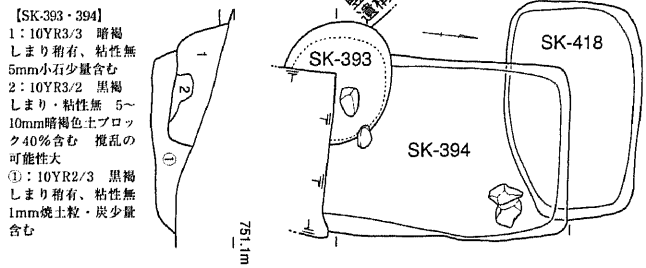
【SK-389】
1：10YR3/2　黒褐しまり・粘性稍有　5mm小石・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐しまり・粘性稍有　5～10mm小石・炭少量含む

SK-390・412



【SK-390】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mm小石・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石少量含む
【SK-412】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5mm小石・炭少量含む

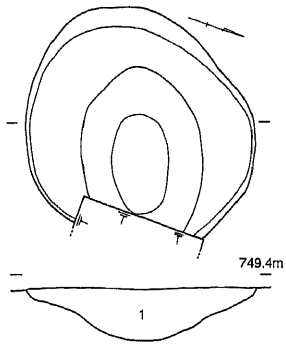
SK-393・394・418



【SK-393・394】
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5～10mm暗褐色土ブロック40%含む　攪乱の可能性大
①：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mm焼土粒・炭少量含む

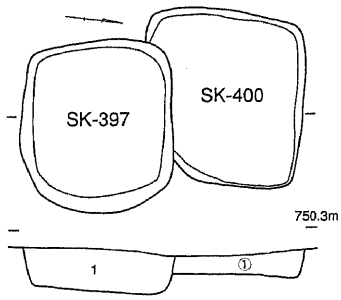
【SK-418】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5mm小石・炭・焼土ブロック少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　5～10mm小石中量含む
3：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒微量、炭少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石・炭・焼土粒少量含む

SK-395



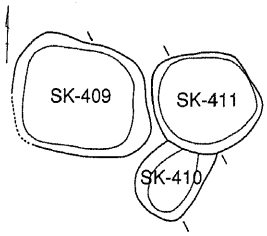
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、1～4cm暗褐色土ブロック10%含む

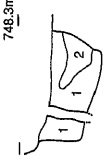
SK-397・400



【SK-397】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石・1mm焼土粒・炭少量含む
【SK-400】
①：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石・炭少量含む

SK-409・410・411



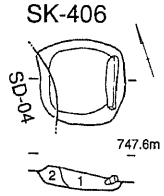


【SK-409】
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性稍強
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性強　ローム粒及びロームブロック多く含む

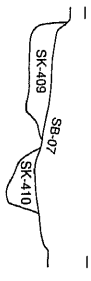
【SK-410】
①：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性弱　ローム粒及び3～10mmロームブロック稍多く含む

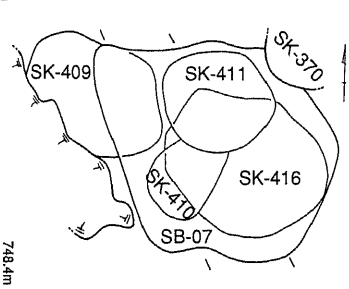
【SK-411】
1：10YR2/1　黒　しまり良、粘性稍強　ローム粒及び5mm程のロームブロックを雑降状に含む　黒褐色土粒、5cm程の礫（焼礫、角あり）少し含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性強　暗褐色土をベースとしローム粒及び3～10mmロームブロックを多く含む

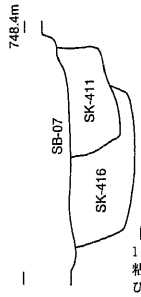
SK-406



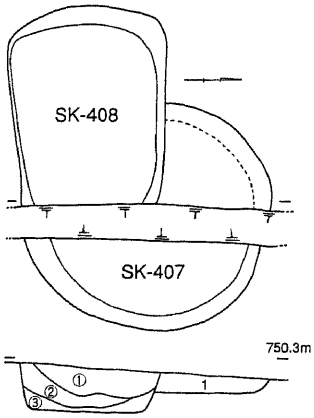
1：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性稍有　ローム粒少量、炭粒多く含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍弱、粘性稍有　ローム粒多く含む





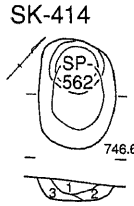


SK-407・408



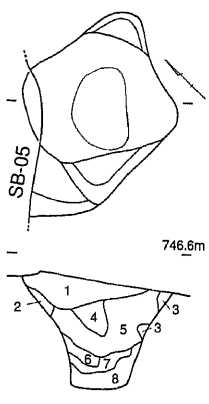
【SK-407・408】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
①：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
②：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5mmロームブロック2%含む
③：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　5mm小石中量含む

SK-414



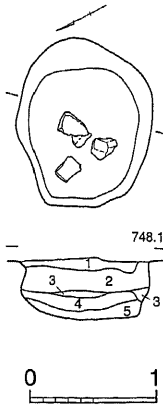
1：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性稍有　ローム粒稍多く含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり良、粘性有　炭粒少量含む　ローム質土40%
3：10YR6/6　明黄褐　しまり普通、粘性有　ローム質土をベースとする

SK-415



【SK-415】
1：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒少量、炭粒微量含む
2：10YR6/6　明黄褐　しまり良、粘性有　ローム質土
3：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり・粘性弱　ローム質土50%以上
4：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性稍強　炭粒稍多く、ローム粒霜降り状に多く含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性稍強　ローム粒稍多く、炭粒微量含む
6：10YR6/6　明黄褐　しまり弱、粘性強　ローム質土
7：10YR3/1　黒褐　しまり稍弱、粘性有　ローム粒少量含む
8：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり弱くボソボソ、粘性有　ローム質土をベースとし10～15%黒褐色土を含む

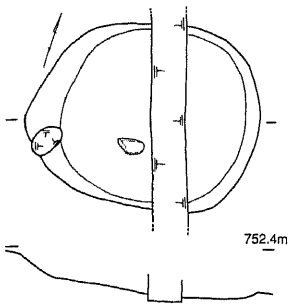
SK-416



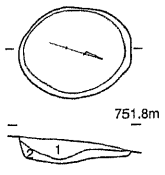
【SK-416】
1：10YR4/2　灰黄褐　粘性乏しく灰褐色及び黄灰色のローム塊多量に含み全体に硬くしまる　SB-07貼床の可能性あるが断定できない
2：10YR3/2　黒褐　しまり強、粘性弱　ローム粒及びロームブロック多、黒色土ブロック少、炭粒少、10mm程小石稍多含む
3：10YR6/6　明黄褐　しまり普通、粘性強　ローム質土を主とし黒褐色土が混じる
4：10YR2/1　黒　しまり普通、粘性強　ローム粒少、炭粒微量、10mm程小石・3～5cm角焼礫少し含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性稍強　ローム粒稍多、黒色土粒少し含む

第39図　土壙⑱（S＝1／60）

SK-421

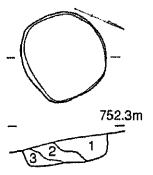


SK-426



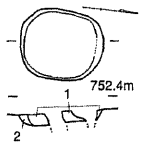
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・5mm小石少量含む

SK-427



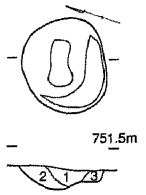
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック3%、5～15mm黒色土ブロック5%含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
3：10YR4/4　褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック3%、5～15mm黒色土ブロック5%、炭少量含む

SK-428



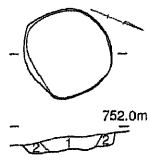
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　5mm黒色土ブロック10%含む

SK-429



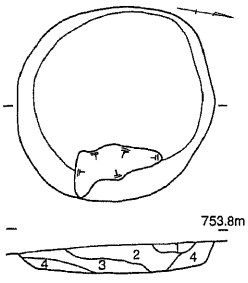
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック30%含む

SK-430



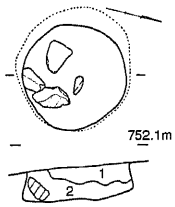
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　5～15mm黒色土ブロック10%含む

SK-431



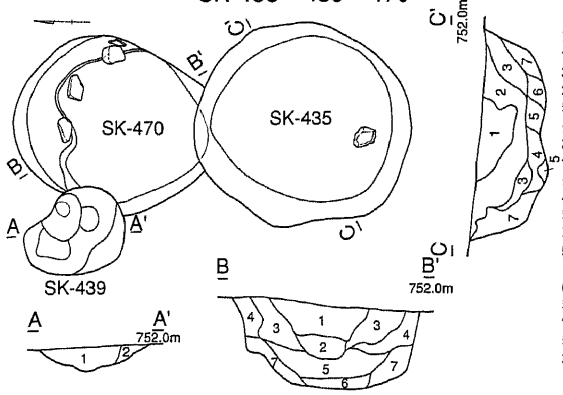
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒多量、5mm小石少量含む

SK-432



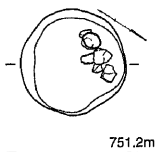
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック20%、炭少量、5～20mm黒色土ブロック5%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-435・439・470

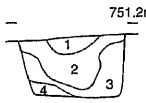


【SK-435】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、2～3cm小石中量含む
2：7.5YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　5mm小石多量含む
6：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量含む
7：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、3～5mm小石・炭少量、5mmロームブロック7%含む

SK-433



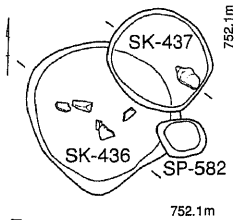
【SK-433】
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック2%含む
2：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む
4：10YR4/4　褐　しまり・粘性有　ローム質土

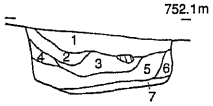


【SK-439】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック3%含む

【SK-470】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　5～30mm小石多く含む土石混合層
2：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、1～10cm小石中量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　5～10mm小石中量含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～10mm小石少量、5mmロームブロック5%含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック15%含む

SK-436・437



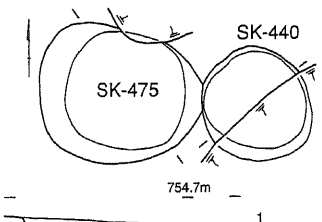


1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、3～5mm小石少量、5mmロームブロック10%含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒微量含む
6：7.5YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
7：10YR4/2　灰褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、炭少量、5mmロームブロック3%含む

SK-438

1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～100mmロームブロック10%含む
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～15mmロームブロック10%含む

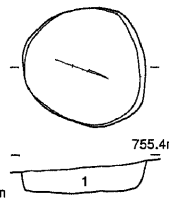
SK-440・475



【SK-475】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～5cm黒色土ブロック10%、5～15mmにぶい黄褐土ブロック5%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～5mmロームブロック2%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%含む
5：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土
6：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む

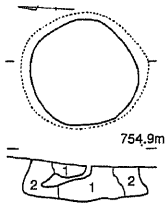
【SK-440】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mm小石・炭少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
5：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒微量、炭少量含む

SK-441



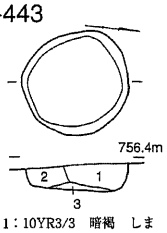
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量、3～5mmロームブロック3%、3～7cm黒色土ブロック10%含む

SK-442



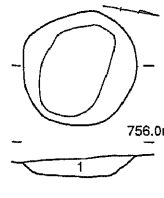
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～20mmロームブロック7%含む

SK-443



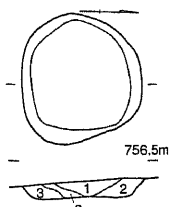
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～5mmロームブロック2%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　5～50mmロームブロック7%含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む

SK-444



1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、1～2cmにぶい黄褐色土ブロック5%含む

SK-445

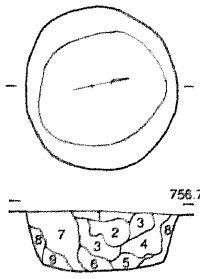


1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～5mmロームブロック2%含む
3：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ブロック状のローム質土

0　1m

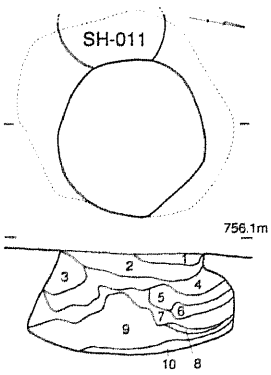
第40図　土壙⑲（S＝1／60）

SK-448



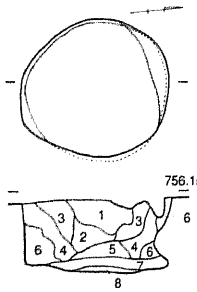
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒中量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック1%含む
7：4層と同じ
8：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック7%含む
9：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒中量、炭少量、3～5mmロームブロック2%含む

SK-450



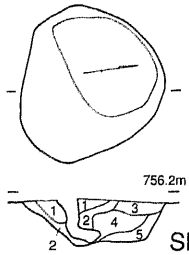
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック5%、炭少量含む
3：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量含む
4：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量、5～30mmロームブロック7%、2～3cm黄褐色土ブロック10%含む
5：3層と同じ
6：4層と同じ
7：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック5%、1～2cm黒色土ブロック3%含む
8：4層と同じ
9：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム土
10：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性有　炭少量、3～5mmロームブロック5%含む

SK-451



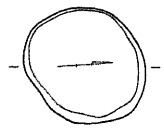
1：10YR2/3　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　しまり・粘性無　1mmローム粒少量、5～25mm黄褐色土ブロック5%、5～10mmロームブロック2%含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒中量、炭中量含む
6：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～50mmロームブロック20%含む
7：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック1%含む
8：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む

SK-452



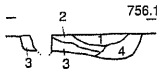
【SK-452】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmの硬いしまりある黒色土ブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、炭少量、3～5mmロームブロック2%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量、5mm焼土ブロック1%含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック5%含む

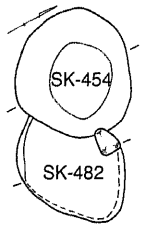
SK-453

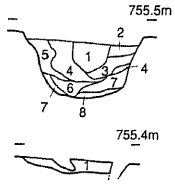


【SK-453】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む
3：1層と同じ
4：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量、5mmロームブロック2%含む

SK-454・482



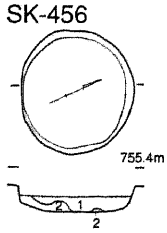




【SK-454】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック7%含む
4：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
6：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
7：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、炭少量、5～20mmロームブロック5%含む
8：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

【SK-482】
1：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒少量、5～10mmロームブロック5%含む

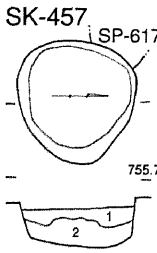
SK-456



1：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒微量、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む

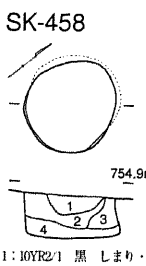
【SK-464】
1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-457



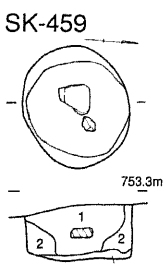
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～20mm暗褐色土ブロック10%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック3%含む、炭少量含む

SK-458



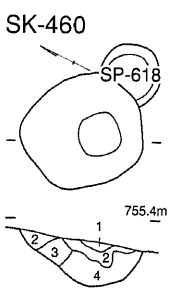
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック1%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～3mmローム粒少量含む

SK-459



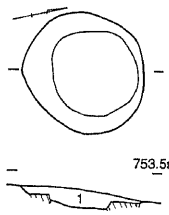
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～3mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　5～100mmロームブロック15%含む
3：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-460



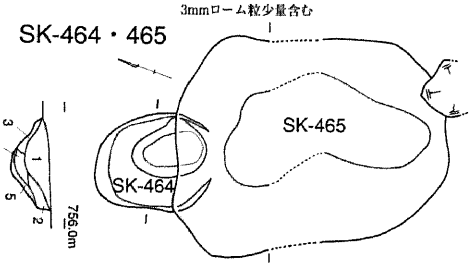
【SK-460】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1～2mm ローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック3%含む

SK-463



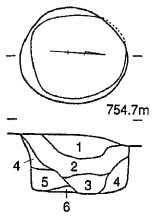
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・5～10mm小石少量含む

SK-464・465



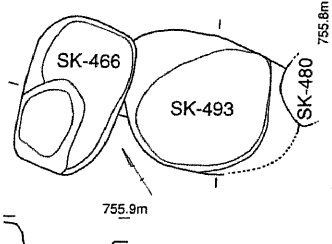
【SK-465】
1：10YR4/6　褐　地山ローム層土の埋め戻し層
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック10%、5～10mm黒色土ブロック2%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　5～20mmロームブロック5%、5～60mm黒色土ブロック40%、炭少量含む

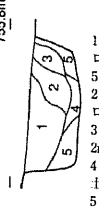
SK-468



【SK-468】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR1.7/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、3～5mmロームブロック2%、炭少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック3%含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック7%含む

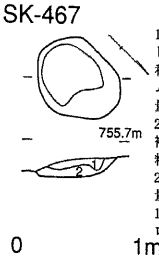
SK-466・493



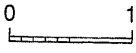


【SK-493】
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～10cm暗褐色土ブロック20%、5～20mmロームブロック5%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒・1～2mm粗砂少量含む
3：7.5YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR4/6　褐　しまり無、粘性有　ローム土
5：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～30mmロームブロック10%含む

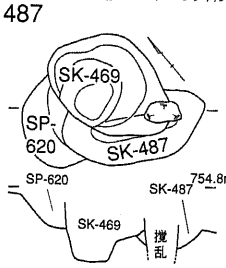
SK-467



1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒微量、炭中量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5～15mmロームブロック10%含む

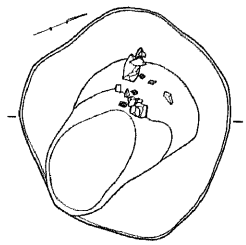


SK-469・487



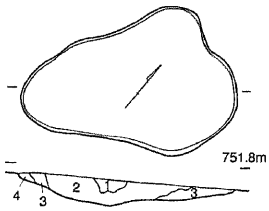
第41図　土壙⑳（S＝1／60）

SK-471



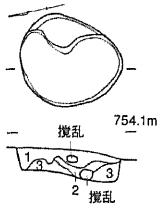
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR4/6　褐　ローム土
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量、5～50mmロームブロック7%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、5～50mm黒色土ブロック15%含む

SK-472



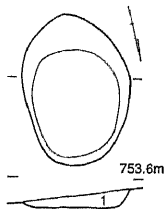
1：10YR2/2　黒褐　しまり強、粘性有　1mmローム粒中量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒微量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1～2mm少量含む

SK-473



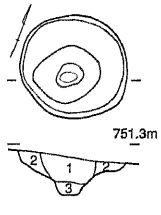
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%含む

SK-474



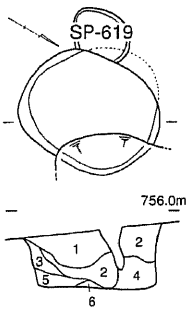
1：10YR3/1　黒褐　しまり強、粘性有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック2%含む

SK-475



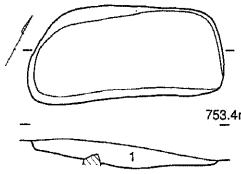
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック7%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1mmローム粒少量含む

SK-481



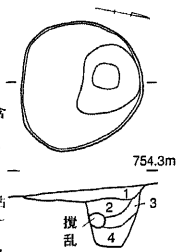
【SK-481】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～30mmロームブロック7%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量、2～3mm焼土ブロック1%含む
5：10YR2/1　黒　しまり強、粘性有　1mmローム粒少量、5～20mmロームブロック3%含む
6：10YR4/4　褐　しまり・粘性有　ローム質土

SK-479



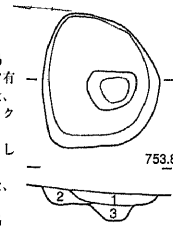
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、2mm程粗砂少量含む

SK-483



【SK-483】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、5mm暗褐色土ブロック5%含む
4：2層と同じ

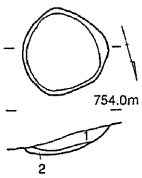
SK-484



【SK-484】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む

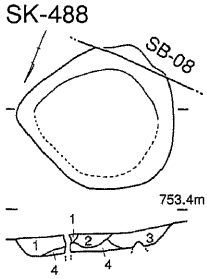
0　1m

SK-485



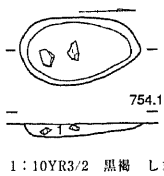
【SK-485】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり強、粘性有　5mmロームブロック3%含む

SK-488



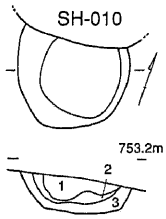
【SK-488】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-490



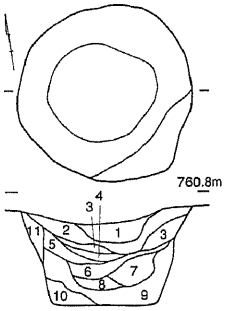
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-492



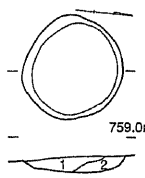
【SK-492】
1：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒微量、炭少量含む

SK-494



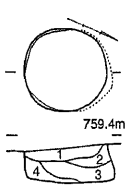
【SK-494】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
4：5YR4/8　赤褐　焼土層
5：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
6：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
7：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5～10mmロームブロック2%含む
8：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
10：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量含む
11：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～20mmロームブロック15%含む

SK-496



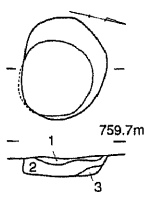
1：10YR2/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック1%含む

SK-497



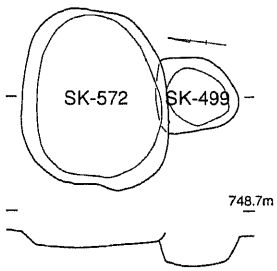
【SK-497】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～20mmロームブロック15%含む

SK-498

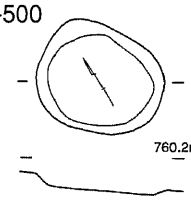


1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック3%含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5～20mmロームブロック15%含む

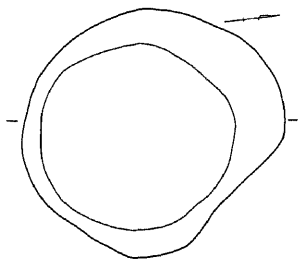
SK-499・572



SK-500

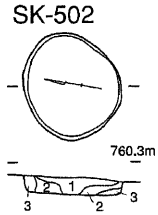


SK-501



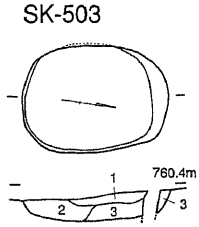
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5～10mmロームブロック5%含む

SK-502



1：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む

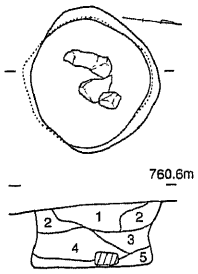
SK-503



1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、3～5mmロームブロック5%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック10%、炭少量含む

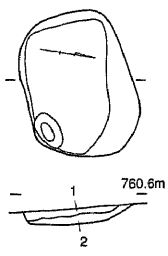
第42図　土壙㉑（S＝1／60）

SK-504



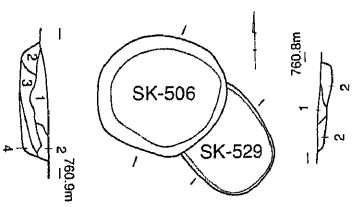
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭・3~5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒多量、5mmロームブロック3%含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭・3~5mm小石少量、5~50mmロームブロック30%含む
4：7.5YR3/4　暗褐　5~10mm小石との土石混合層
5：7.5YR4/3　褐　しまり・粘性稍有

SK-505



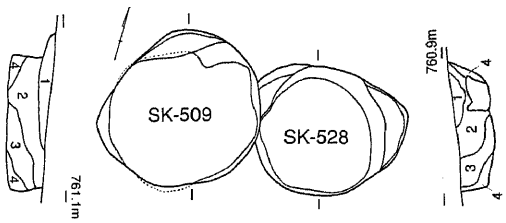
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒少量、5~10mmロームブロック7%含む

SK-506・529



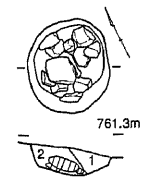
【SK-506】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒多量含む
3：1層と同じ
4：2層と同じ
【SK-529】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒多量、5~10mmロームブロック7%含む

SK-509・528



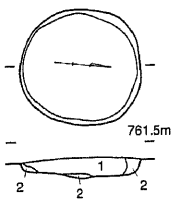
【SK-509】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5~30mmロームブロック10%含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック2%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5mm小石少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性有　1~2mmローム粒少量、5~10mmロームブロック5%含む
【SK-528】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒多量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1~2mmローム粒少量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒中量、5~10mmロームブロック10%含む

SK-507



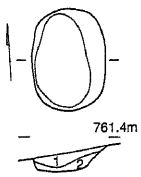
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5~10mmロームブロック5%含む
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック7%含む

SK-511



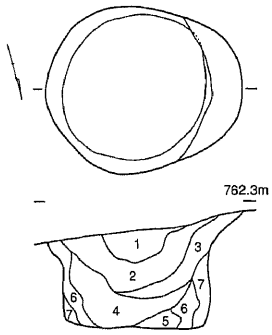
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック10%含む

SK-512



1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5~10mmロームブロック3%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有、粘性稍有　2~3mmローム粒少量含む

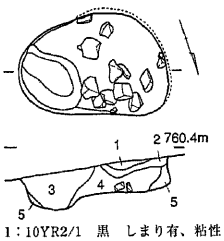
SK-513



【SK-513】
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒・炭・5mm小石少量、5~10mmロームブロック2%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒中量、炭少量、3~5cm黒色土ブロック5%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒少量、5~20mmロームブロック5%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1~2mmローム粒中量含む
5：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土
6：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒少量、2~3cmロームブロック10%含む
7：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土　炭少量含む

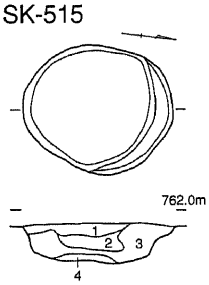
0　1m

SK-514



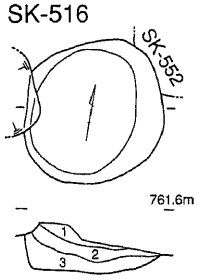
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒中量、3~5mmロームブロック5%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック2%含む
4：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒少量、2~3cmロームブロック10%含む

SK-515



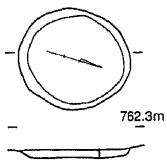
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1~2mmローム粒多量、炭少量、3~15mmロームブロック7%含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量含む

SK-516



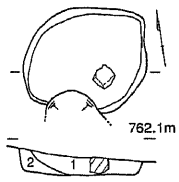
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量、5~10mmロームブロック2%含む

SK-517



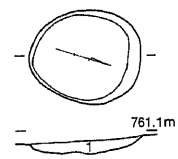
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒中量、3~5mmロームブロック2%含む

SK-518



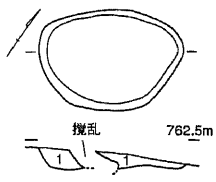
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒中量、5mmロームブロック2%含む

SK-522



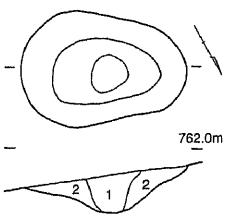
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-526



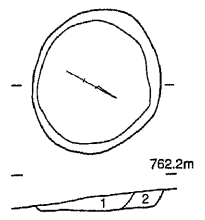
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック3%含む

SK-519



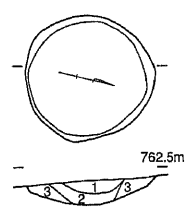
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒・2mm迄の砂粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1~2mmローム粒多量、5~50mmロームブロック15%含む

SK-520



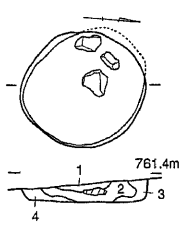
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む

SK-521



1：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性稍有　ローム質土

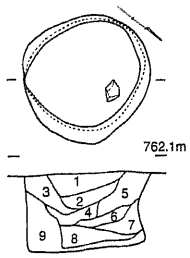
SK-523



【SK-523】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒中量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1~2mmローム粒少量含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有　1~2mmローム粒多量、5~15mmロームブロック7%含む

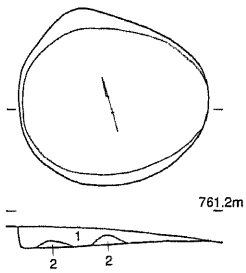
第43図　土壙㉒（S＝1／60）

SK-527



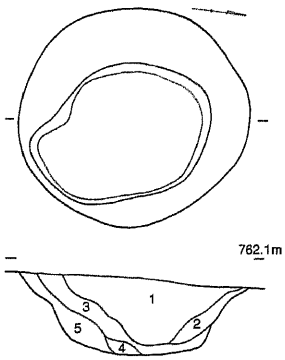
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒微量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
4：10YR4/6　褐　地山ローム層土の埋戻土層
5：10YR3/2　黒褐　しまり稍有　粘性無　1～2mmローム粒少量、2mm位迄の粗砂を中量含み砂質土層
6：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒・炭少量含む
7：10YR3/4　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～10mm小石少量含む
8：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　炭少量含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む

SK-531



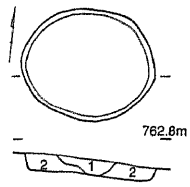
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・5mm小石少量、3～5mmロームブロック2%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-532



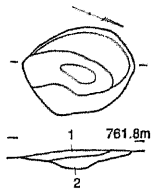
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～15mmロームブロック10%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・5mm小石少量、5～10mmロームブロック5%含む
4：2層と同じ
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒多量、5～20mmロームブロック15%含む

SK-533



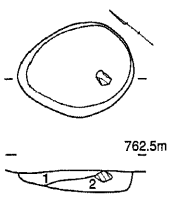
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒微量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・3～5mm小石少量含む

SK-534



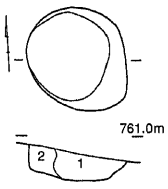
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む

SK-535



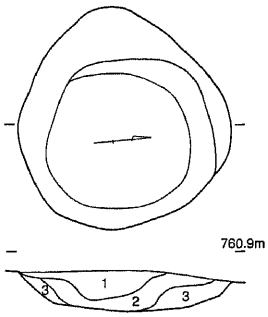
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・5～10mm小石・炭少量含む

SK-537



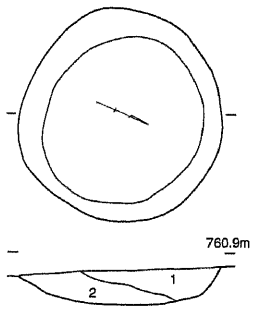
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む

SK-538



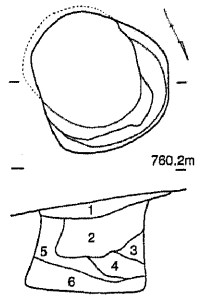
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-539



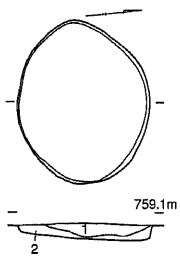
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-541



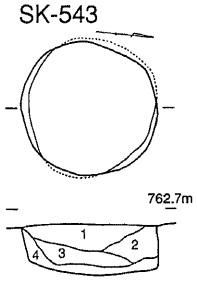
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒微量、炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
4：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒微量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒少量、3～5mmロームブロック2%含む
6：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

SK-542



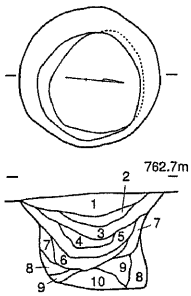
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量含む

SK-543



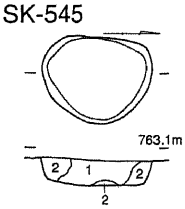
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック5%含む

SK-544



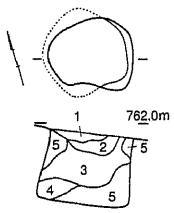
【SK-544】
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR4/6褐のローム層土と10YR3/4暗褐色土の混合層
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
6：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、炭少量含む
7：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック3%含む
8：10YR4/6　褐　ローム土
9：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量含む
10：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、炭少量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-545



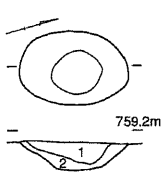
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック2%含む

SK-546



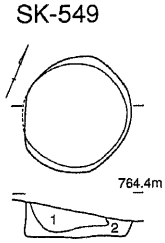
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量
2：5YR4/8　赤褐　焼土層
3：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR4/4　褐　しまり粘性稍有　地山ローム層土の埋戻層か
5：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む

SK-547



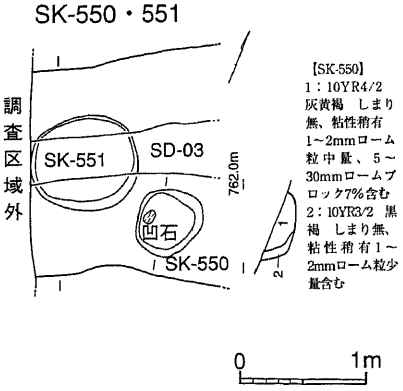
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒・炭少量、5～30mmロームブロック7%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック3%含む

SK-549



1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック5%含む

SK-550・551

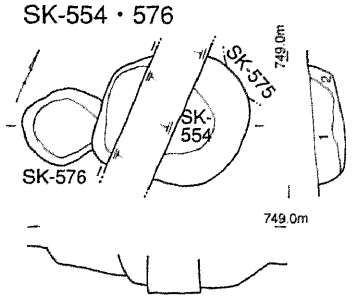


【SK-551】
1：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/2　灰黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒・5mm小石少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

【SK-550】
1：10YR4/2　灰黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～30mmロームブロック7%含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有1～2mmローム粒少量含む

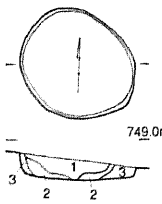
第44図　土壙㉓（S＝1／60）

SK-554・576



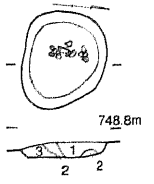
【SK-554】
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～5mmロームブロック2%含む

SK-555



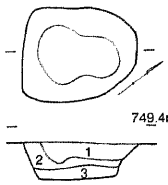
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む

SK-556



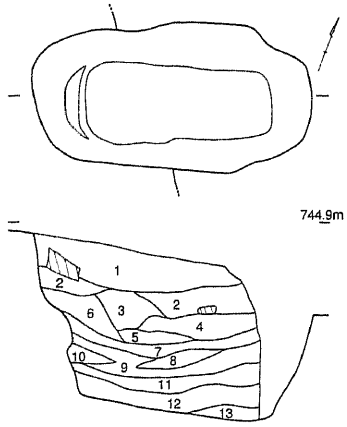
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む

SK-557



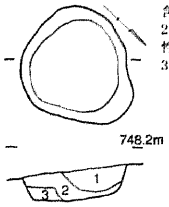
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有，粘性無　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック5%含む

SK-559



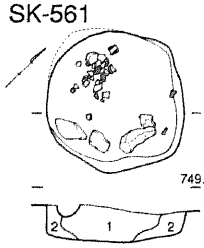
1：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性無　黄白色土ブロック（指頭大）少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性弱　3cm～拳大礫少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり稍強、粘性有　ローム粒少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍強、粘性有　ローム粒多く含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり弱、粘性有　ローム粒・ロームブロック多く含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり弱、粘性有　1～3cm小石稍多く含む
7：10YR3/2　黒褐　しまり硬く粘性乏しい　3～5cm礫多く含む　踏み締められ？て硬化面を形成
8：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり・粘性弱　ローム粒・ロームブロック多く含む
9：10YR2/2　黒褐　しまり弱、粘性有　5～10mm小石若干量含む
10：10YR3/3　暗褐　しまり弱、粘性有　ローム粒霜降り状に稍多く含む
11：10YR6/6　明黄褐　しまり・粘性弱　ローム質土を主とし2～5cm礫多く含む
12：10YR3/3　暗褐　しまり普通、粘性弱　ローム粒・ロームブロック多く、1～2cm小石稍多く含む
13：10YR6/6　明黄褐　しまり弱、粘性有　ローム質土を主とし2～5cm礫多く含む

SK-560



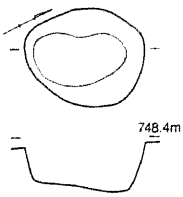
1：10YR2/2　黒褐　しまり無，粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、2～5cm黒色土ブロック20%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5～10mmロームブロック3%含む

SK-561

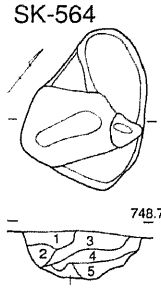


1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-563

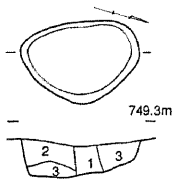


SK-564



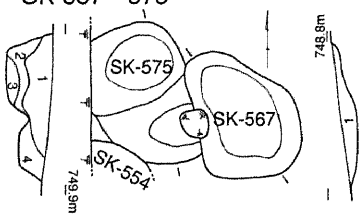
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
4：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～5mmロームブロック3%含む
6：10YR4/4　褐　石混じりローム質土

SK-565



1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有1～2mmローム粒中量、炭少量含む

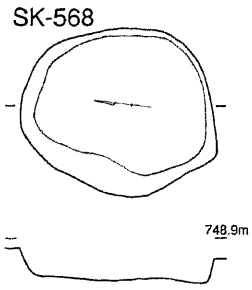
SK-567・575



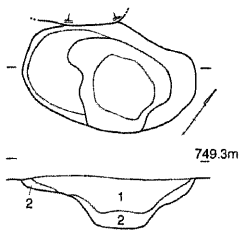
【SK-567】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

【SK-575】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む

SK-568

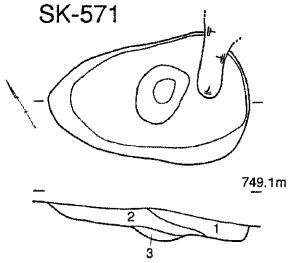


SK-570



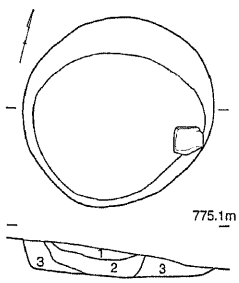
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む

SK-571



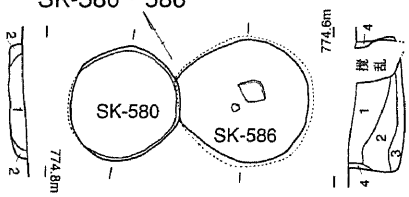
1：10YR1.7/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・5～10mm小石少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
3：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～5mmロームブロック2%含む

SK-579



1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック2%含む

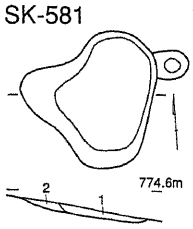
SK-580・586



【SK-580】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量含む

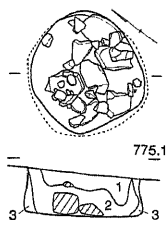
【SK-586】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～20mmロームブロック10%含む

SK-581



【SK-581】
1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性無　2～10cm焼土ブロック多量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-582

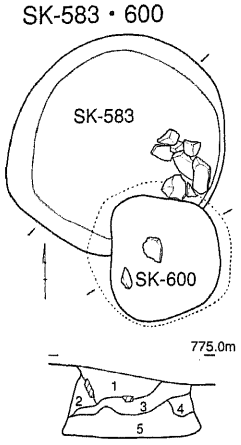


【SK-582】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒少量、炭中量含む

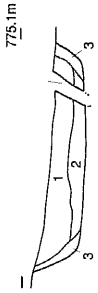
0　1m

第45図　土壙㉔（S＝1／60）

SK-583・600

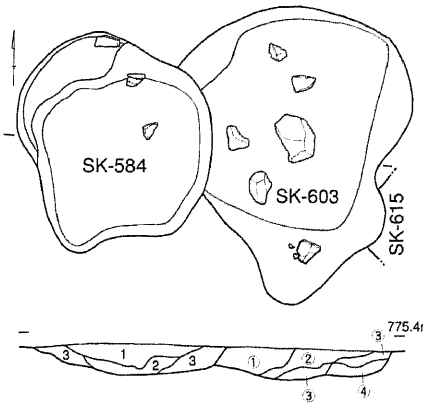


【SK-600】
1：10YR2/1　黒　しまり無、粘性有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量、3～5mmロームブロック2%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
5：10YR3/1　黒褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む



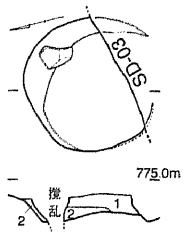
【SK-583】
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、炭少量含む

SK-584・603



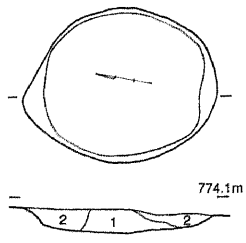
【SK-584・603】
1：5YR4/4　赤褐　しまり稍有、粘性無　焼土塊
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5mmロームブロック5%含む
①：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
②：10YR2/3　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック1%含む
③：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
④：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土

SK-585



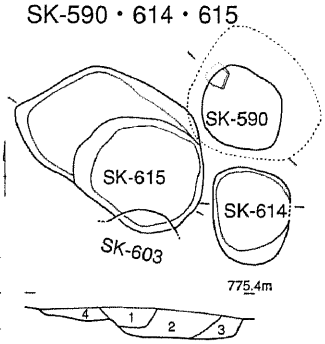
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-587

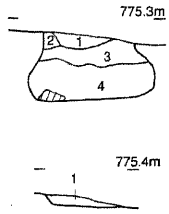


1：7.5YR4/3　褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む

SK-590・614・615

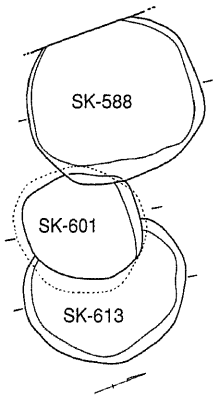


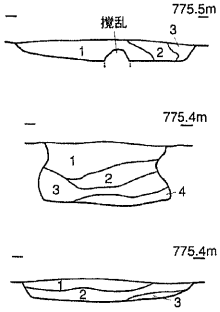
【SK-615】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭・3～5mm小石少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～5mm小石少量含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、3～10mm小石中量、5～50mmロームブロック15%含む



【SK-590】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
3：10YR4/6　褐　ローム土
4：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
【SK-614】
1：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む

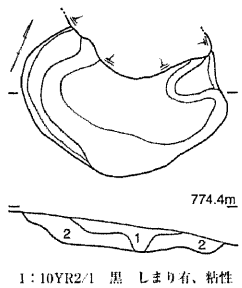
SK-588・601・613





【SK-588】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・3～5mm小石・炭少量含む
2：10YR4/4　褐　しまり・粘性稍有　ローム質土
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒少量、炭中量含む
【SK-601】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・3mm小石少量、3～5mmロームブロック1%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・3mm小石少量含む
3：10YR2/3　黒褐　しまり有、粘性無　1～2mmローム粒・炭少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒中量、3～5mm小石少量、5～20mmロームブロック5%含む
【SK-613】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・3～5mm小石少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む

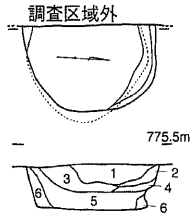
SK-593



1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～20mmロームブロック10%含む

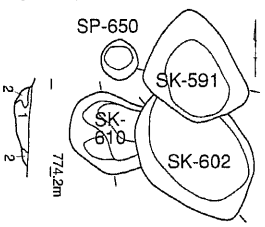
SK-589

調査区域外

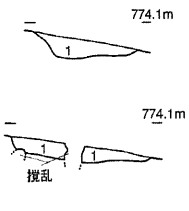


1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、3～5mmロームブロック5%含む
4：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土
5：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
6：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量含む

SK-591・602・610

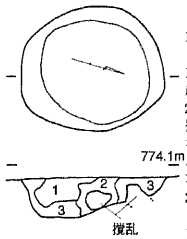


【SK-610】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック1%含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量含む



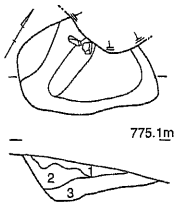
【SK-591】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5～10mmロームブロック2%含む
【SK-602】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量、3～5mmロームブロック5%含む

SK-592



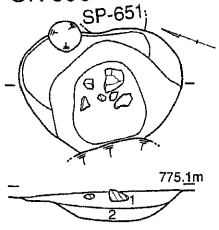
【SK-592】
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性有　1～2mmローム粒・3～5mm小石少量含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む

SK-594



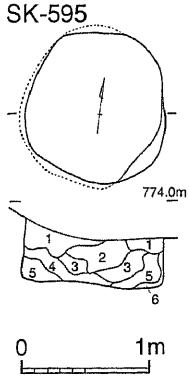
【SK-594】
1：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
2：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　ローム質土
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

SK-596



【SK-596】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む

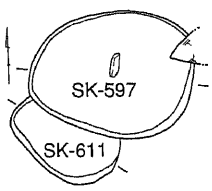
SK-595

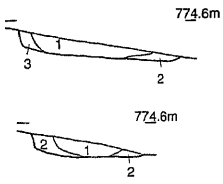


【SK-595】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～5mm小石・炭少量、5～20mmロームブロック7%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり有、粘性無　1～2mmローム粒少量、3～5mm小石中量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～5mm小石・炭少量、5～15mmロームブロック7%含む
5：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量、5～20mmロームブロック10%含む

第46図　土壙㉕（S＝1／60）

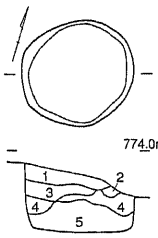
SK-597・611





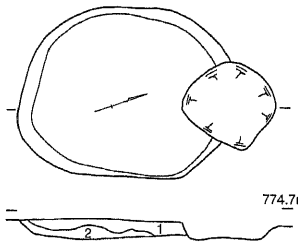
【SK-597】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒中量含む
【SK-611】
1：10YR2/3　黒褐　しまり稍有、粘性無　1～2mmローム粒中量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5～30mmロームブロック7%含む

SK-598



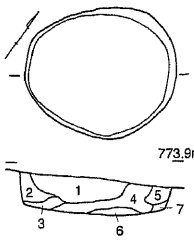
【SK-598】
1：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量、炭少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR4/6　褐　ローム土
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、3～5mm小石少量、3～5mmロームブロック1%含む
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
5：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、3～5mm小石少量、3～5mmロームブロック3%含む

SK-599



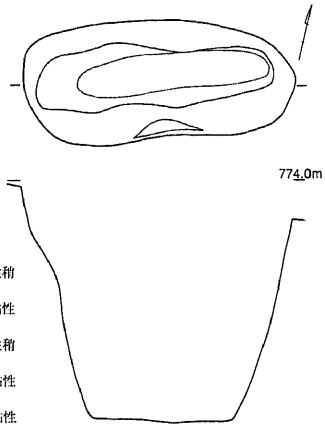
【SK-599】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量、5～15mmロームブロック10%含む

SK-604

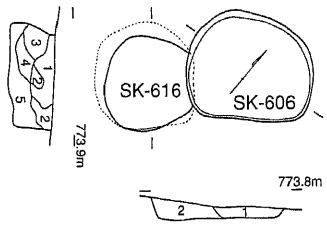


1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
7：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～25mmロームブロック10%含む

SK-605

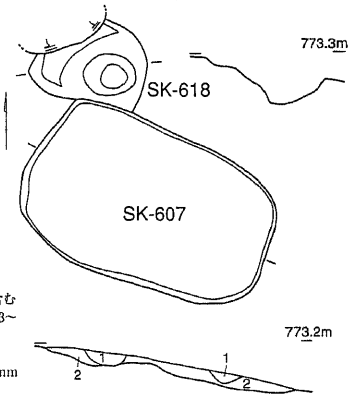


SK-606・616



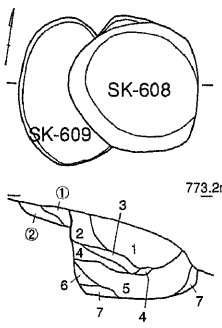
【SK-606】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭・3～10mm小石少量、5～25mmロームブロック7%含む
【SK-616】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
4：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒中量、3～6cmロームブロック10%含む

SK-607・618



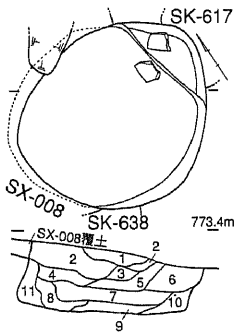
【SK-607】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、3～20mmロームブロック10%含む

SK-608・609



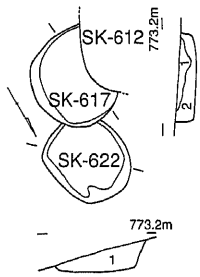
【SK-608・609】
1：7.5YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・焼土粒少量、炭中量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
3：10YR4/4　褐　しまり無、粘性稍有　ローム質土
4：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒中量含む
5：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、炭中量含む
6：10YR4/4　褐　しまり無、粘性有　ローム質土
7：10YR3/4　暗褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量、炭・3～5mm小石少量含む
①：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
②：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～25mmロームブロック15%含む

SK-612



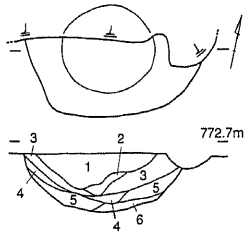
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・焼土粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～3mmローム粒中量含む
6：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
7：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
8：10YR3/1　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
9：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性有　1～2mmローム粒多量、3～5mmロームブロック5%含む
10：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
11：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～15mmロームブロック10%含む

SK-617・622



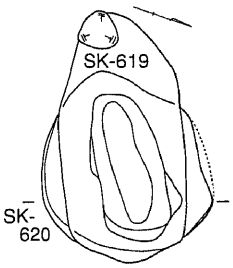
【SK-617】
1：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量含む
【SK-622】
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量、5mmロームブロック2%含む

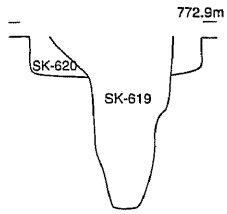
SK-621



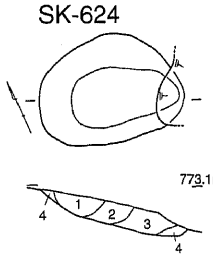
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック15%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック1%含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有、1～2mmローム粒少量含む
6：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有

SK-619・620



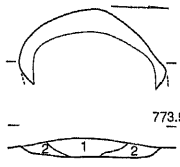


SK-624



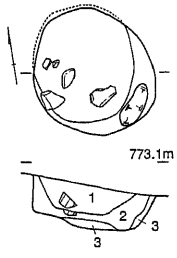
1：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック5%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

SK-625



1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒少量、3～5mmロームブロック2%含む

SK-626

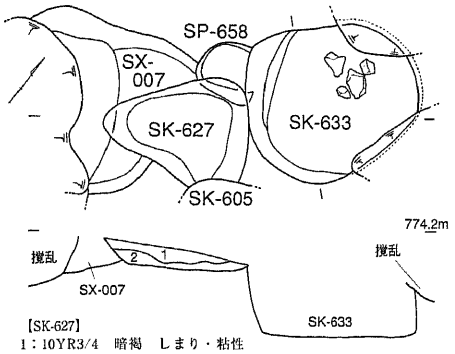


【SK-626】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭・5～20mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性有　1～2mmローム粒中量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む

0　1m

第47図　土壙㉖（S＝1／60）

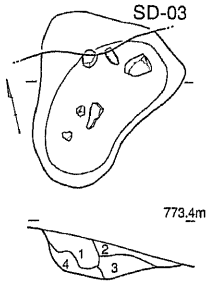
SK-627・633



【SK-627】
1：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性稍有
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む

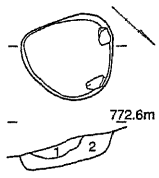
【SK-633】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭・3～5mm小石少量、10～30mm黄褐色土ブロック15%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒中量、炭少量含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む

SK-629



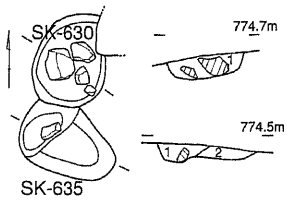
【SK-629】
1：10YR2/1　黒　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒少量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～15mmロームブロック7%、10～30mm黒褐色土ブロック20%含む

SK-628



1：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

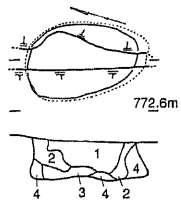
SK-630・635



【SK-630】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量、炭少量含む

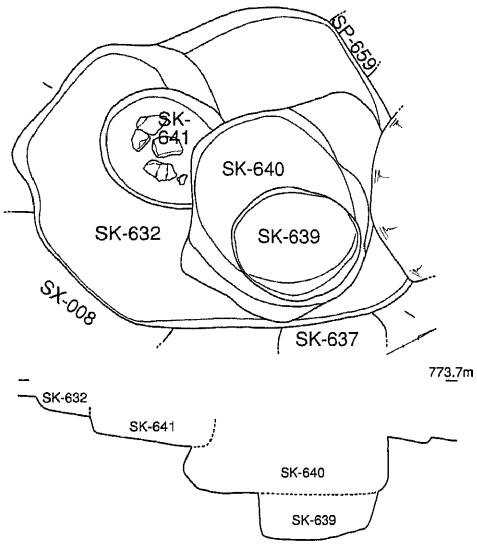
【SK-635】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・焼土粒少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒中量含む

SK-631

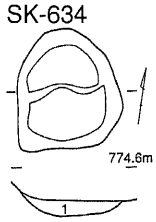


1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量、3～10mmロームブロック7%、10mm程黒褐色土ブロック5%含む
3：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり無、粘性稍有　5mm小石少量含む

SK-632・639・640・641

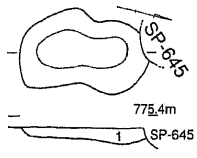


SK-634



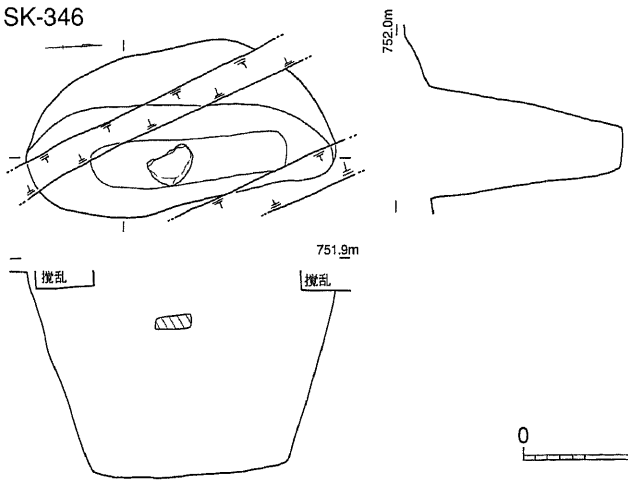
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1～2mmローム粒・3～5mm小石少量含む

SK-636

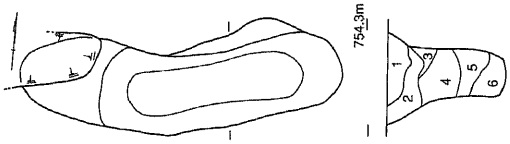


1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量含む

SK-346



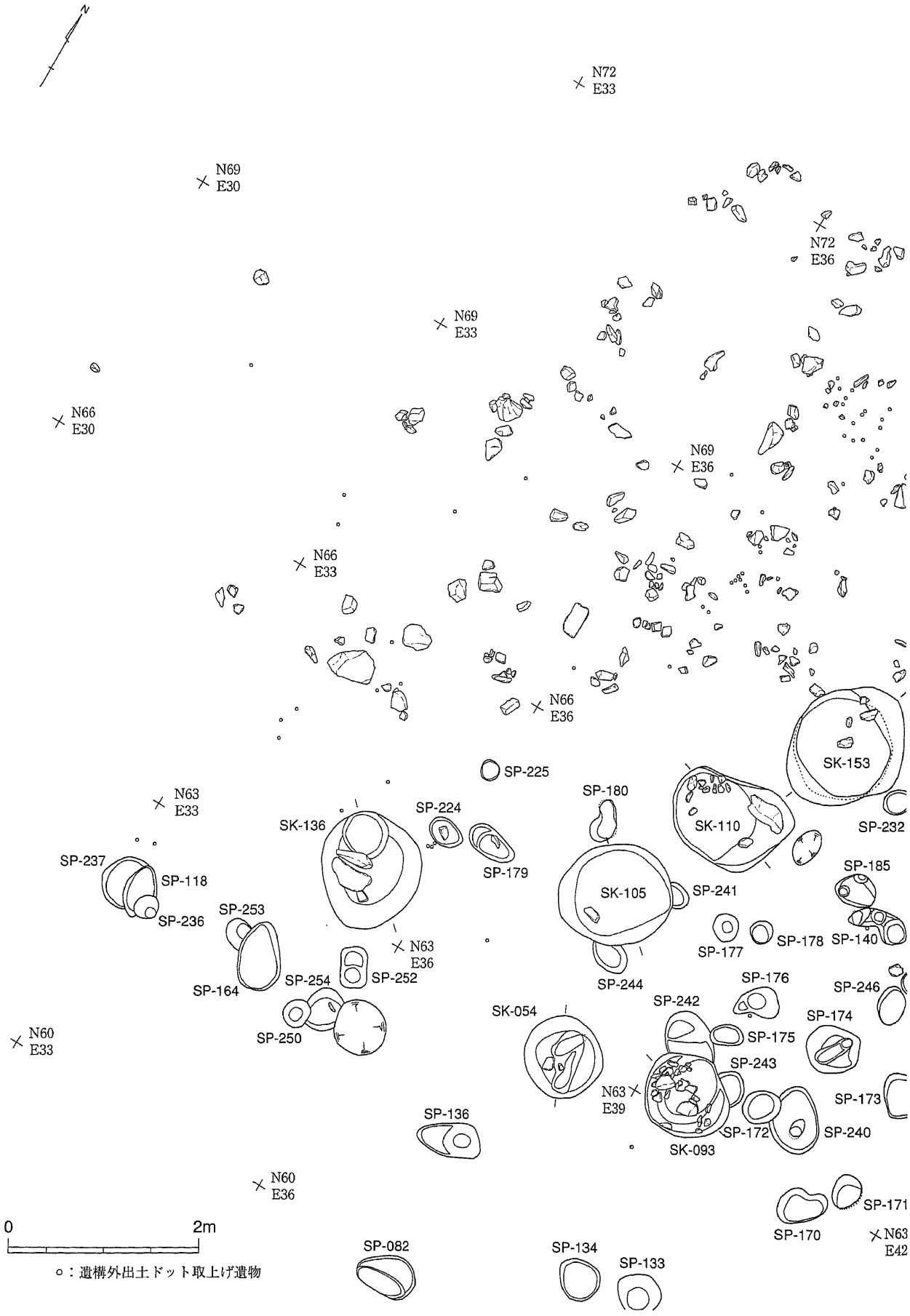
SK-434



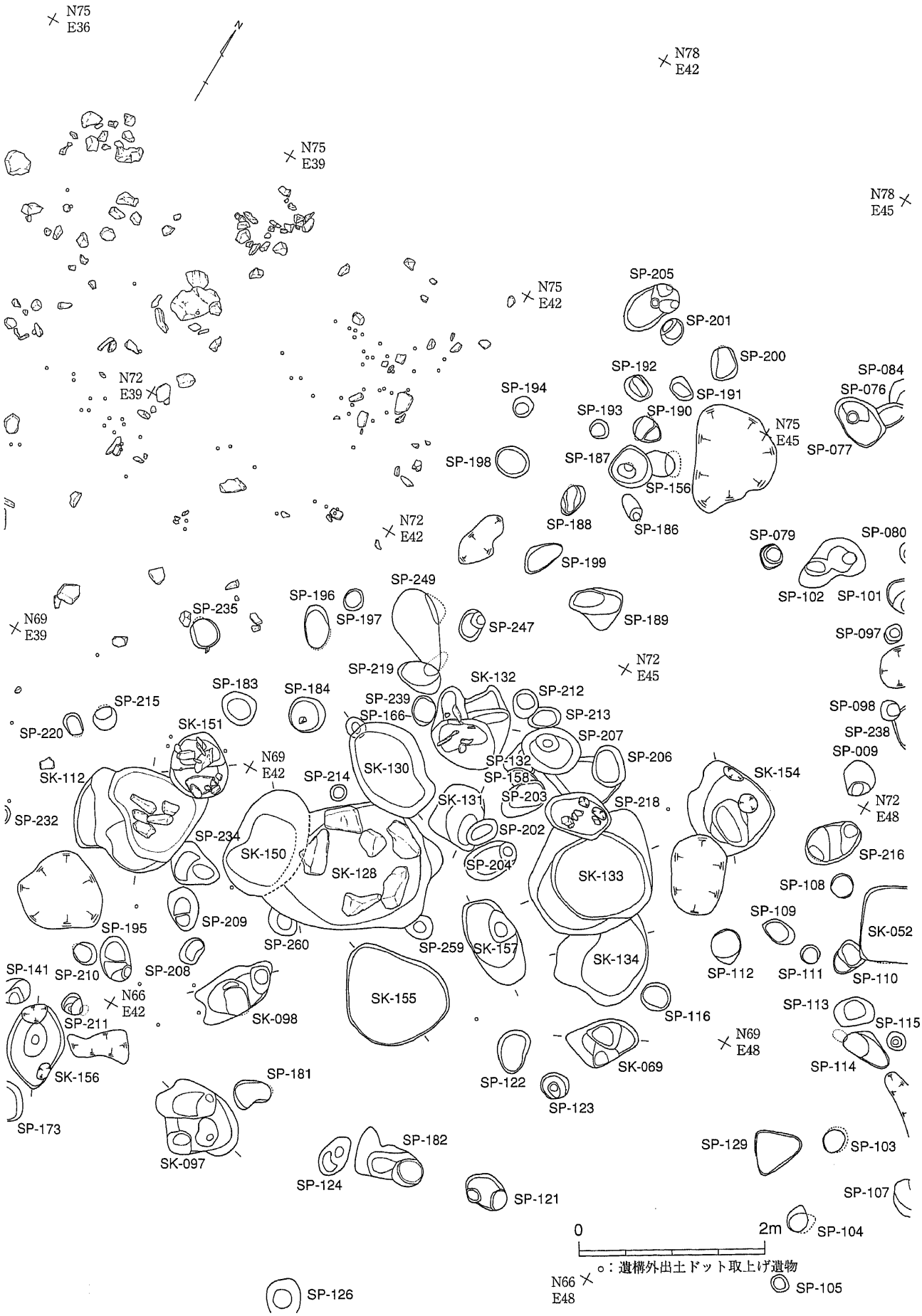
1：10YR3/2　黒褐　しまり強、粘性稍有　1mmローム粒少量、3～20mmロームブロック7%含む　しまり強なのは重機で踏んだのが原因か
2：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、3～10mmロームブロック5%含む
3：10YR4/6　褐　しまり無、粘性稍有　ブロック状のローム土
4：10YR2/3　黒褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒中量、5～30mmロームブロック10%含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1～2mmローム粒多量、5～50mmロームブロック20%含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む

0　1m

第48図　土壙㉗（S＝1／60）

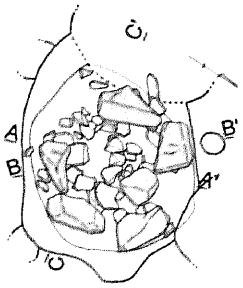


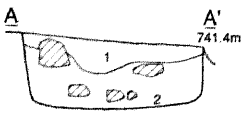
第49図　縄文時代後晩期遺構集中箇所①（S＝1／60）



第50図　縄文時代後晩期遺構集中箇所②（S＝１／60）

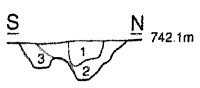
SK-128





1：10YR3/3 暗褐 しまり無，粘性有 1mmローム粒多量，炭少量，5～20mmロームブロック15%含む
2：10YR3/2 黒褐 しまり無，粘性有 1mmローム粒・炭少量，5mm小石中量，5mmロームブロック3%含む

SK-054

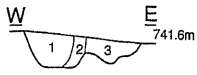


1：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性無 1～2mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 1～2mmローム粒多量含む
3：10YR3/1 黒褐 しまり・粘性無 1～2mmローム粒少量含む

SK-093

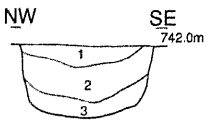
1：5YR4/6 赤褐 焼土層
2：10YR3/2 黒褐 しまり無，粘性稍有 1mmローム粒・炭少量，拳大の石多く含む
3：10YR3/3 暗褐 しまり稍有，粘性無 1mm焼土粒・炭少量含む
土器片はこの層に多く含まれる

SK-097



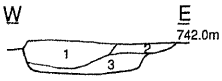
1：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性無 1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり・粘性無 1mmローム多量含む
3：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 5～10mmロームブロック10%含む

SK-105



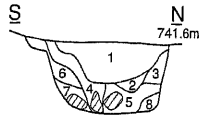
1：7.5YR3/2 黒褐 しまり・粘性無 5～10mmロームブロック15%，5mm黒色土ブロック5%，炭少量含む
2：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり無，粘性稍有 5～10mmロームブロック20%含む
3：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性稍有 5～10mmロームブロック15%，炭少量含む

SK-110



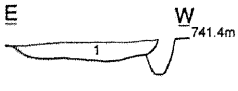
1：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性無 1mmローム粒・1mm焼土粒・炭・1～2cm小石少量含む
2：1層と1～3cmロームブロックの混合土層
3：10YR3/1 黒褐 しまり無，粘性稍有 1mmローム粒多量，5～10mmロームブロック5%含む

SK-112



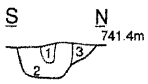
1：10YR2/1 黒 しまり無，粘性稍有 5mm小石・炭少量含む
2：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 1mm焼土粒多量含む
3：1層と1～3cmロームブロック混合土層
4：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 5mmロームブロック5%，炭少量含む
5：10YR2/1 黒 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量含む
6：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり無，粘性稍有 地山ローム質土
7：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 1mmローム粒多量，炭少量含む
8：6層と同色・同質

SK-130



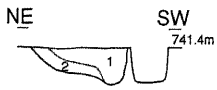
1：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 5～10mm小石多量含む

SK-131



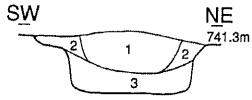
1：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 1mm焼土粒多量，炭少量含む
2：10YR2/1 黒 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量含む
3：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり無，粘性稍有 地山ローム層土の崩れ込み土

SK-132



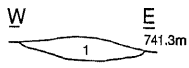
1：10YR3/2 黒褐 しまり稍有，粘性無 5mm小石・炭少量含む
2：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり・粘性稍有 地山ローム質土

SK-133



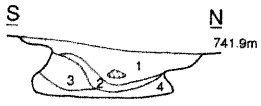
1：5YR3/3 暗赤褐 焼土層 5～10mm小石・炭中量含む
2：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性稍有 5～10mm小石中量含む
3：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性稍有 5～10mm小石中量，炭少量含む

SK-134



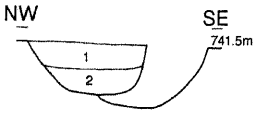
1：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・焼土粒・炭・5mm小石少量含む

SK-153



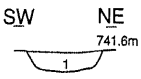
1：10YR2/2 黒褐 しまり稍有，粘性無 1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性稍有 1～2mm焼土粒多量，炭中量含む
3：7.5YR2/2 黒褐 しまり無，粘性稍有 1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
4：10YR2/1 黒 しまり・粘性有 1mmローム粒・炭少量含む

SK-150



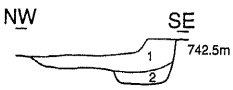
1：10YR2/1 黒 しまり・粘性稍有 5mm小石・炭少量含む
2：7.5YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 5～10mm小石・炭・1mm焼土粒少量含む

SK-151



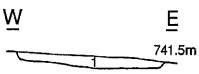
1：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性無 1mmローム粒・炭少量，5～10mmロームブロック5%含む

SK-136



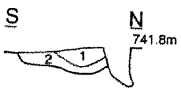
1：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量，1mm焼土粒多量含む
2：10YR2/1 黒 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量含む

SK-155



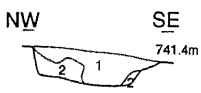
1：10YR3/2 黒褐 しまり・粘性無 1mmローム粒・炭少量，5～10mmロームブロック10%含む

SK-156



1：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性稍有 1mmローム粒・炭少量，5mmロームブロック10%含む

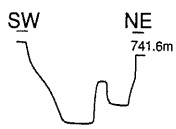
SK-157



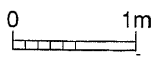
1：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性無 5～10mm小石中量，炭少量含む
2：10YR4/3 にぶい黄褐 小石混

SK-069

SK-098



SK-154



第51図　縄文時代後晩期遺構集中箇所③（S＝1／60）

第1表　土壙一覧表

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－001	B・I	N4E133	232	85	45	X	E				
SK－002	B・I	N19E125	345	198	13	X	Ap	石匙1(55)			
SK－003	B・I	N21E128	329	—	11	—	Ap	土器小片5程、黒曜石片10程	縄前末～中初	＜SP－059・SK－018	東半調査区域外、住居の可能性有
SK－004	B・II	S53E143	385	98	17	IX	E	チャート片1			
SK－005	B・II	S51E145	—	150	17	X	A				東端調査区域外
SK－006	A・I	N78E71	95	87	31	I	B	土器小片3、石鏃1(24)	縄前後		
SK－007	B・I	N17E130	148	115	12	VI	A	石鏃1(25)		＞SK－013・SD－01	
SK－008	B・I	N10E135	366	—	17	—	A	土器小片3		＞SD－01	東半調査区域外、住居の可能性有
SK－009	A・I	N70E78	99	54	27	VI	A				
SK－010	B・I	N7E139	125	71	24	II	E			＞SD－01	
SK－011	A・I	N62E79	78	—	10	I	A				西端調査区域外
SK－012	A・I	N64E81	87	78	11	I	A				
SK－013	B・I	N17E131	—	60	14	II	A			＞SD－01、＜SK－007	東半調査区域外
SK－014	A・I	N73E74	137	134	72	I	E	土器小片2			
SK－015	A・I	N78E72	136	120	30	X	E	土器小片1		＜SK－019・SP－050	
SK－016	A・I	N77E73	166	100	14	X	A			＜SP－029	
SK－017	A・I	N78E76	88	80	25	I	A	土器小片1、チャート片1			
SK－018	B・I	N20E127	87	82	25	X	E			＞SK－003	
SK－019	A・I	N79E72	92	—	30	VI	E	焼砂岩片1		＞SK－015	
SK－020	A・I	N79E74	104	78	63	X	E				
SK－021	A・I	N79E76	212	107	28	X	A	土器小片1、黒曜石チップ1			
SK－022	A・I	N76E79	—	68	6	—	Ap				東端調査区域外
SK－023	A・I	N76E72	79	77	16	I	A				上部撹乱
SK－024	A・I	N82E71	—	104	57	I	C	土器小片1	縄前末～中初	＞SK－025	
SK－025	A・I	N84E72	305	163	71	X	F	土器小片1、黒曜石片1		＜SK－024	撹乱か？
SK－026	A・I	N85E70	—	81	16	—	A	土器小片1		＞SK－043	
SK－027	A・I	N88E70	97	89	50	IX	Dp				
SK－028	A・I	N87E67	90	89	9	IX	A				
SK－029	A・I	N86E74	82	80	61	V	E				
SK－030	A・I	N87E72	78	—	38	I	C			＞SK－031	北半調査区域外
SK－031	A・I	N88E71	96	80	50	V	C	土器小片1		＜SK－030	
SK－032	A・I	N88E66	—	170	89	X	E(C)			＜SP－052	2つの遺構を1つとした可能性大
SK－033	A・I	N90E68	103	98	14	X	A				
SK－034	A・I	N89E70	—	94	42	II	E				東端調査区域外
SK－035	A・I	N75E78	172	—	35	—	D			＞SB－02	
SK－036	A・I	N95E69	211	—	60	—	E	黒曜石片2		＜SK－037	東半調査区域外
SK－037	A・I	N93E69	—	—	41	—	C			＞SK－036	東半調査区域外
SK－038	A・I	N94E67	102	77	14	II	A				
SK－039	A・I	N96E66	120	82	24	X	A				
SK－040	A・I	N86E75	—	82	84	II	D	土器小片2	縄前末～中初	≒SB－01	
SK－041	A・I	N95E60	105	91	18	V	A				
SK－042	A・I	N96E60	96	82	9	VI	A				
SK－043	A・I	N85E70	355	180	95	X	F	土器小片1		＜SK－026・SP－039・043、≒SP－042	撹乱か？
SK－044	A・I	N45E45	—	—	32	—	—				
SK－045	A・I	N99E66	227	200	14	X	E				
SK－046	A・I	N86E76	—	112	42	II	D			＞SB－01・SK－050、≒SK－048	
SK－047	A・I	N90E66	122	99	23	X	A				
SK－048	A・I	N87E75	—	115	56	IX	E	土器小片1	縄前末～中初	＞SB－01、≒SK－046	
SK－049	A・I	N87E77	88	60	42	IX	C	焼砂岩片1			
SK－050	A・I	N86E76	65	46	52	II	E			＞SB－01、＜SK－046	
SK－051	A・II	N72E50	120	110	20	I	E			＞SP－061・245、≒SP－088	
SK－052	A・II	N71E49	154	84	27	VI	E	安山岩片1、土器小片2	中世(鎌倉期)	＞SP－257、＜SP－110・284	
SK－053	A・II	N76E49	162	148	33	V	C	鉄釘1(⑯)、石匙1(54)、土器小片5	中世(鎌倉期)	＜SK－056	

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－054	A・Ⅱ	N62E38	89	86	17	Ⅰ	E	土器小片10	縄後晩		
SK－055	A・Ⅱ	N76E48	108	76	19	Ⅱ	E			＞SK－056、≒SP－078	
SK－056	A・Ⅱ	N75E48	—	67	12	—	A			＞SK－053、＜SK－055	
SK－057	A・Ⅱ	N58E36	66	60	49	Ⅰ	E				
SK－058	A・Ⅱ	N79E48	74	58	17	Ⅱ	E				
SK－059	A・Ⅱ	N80E48	92	82	22	Ⅰ	Ep				
SK－060	A・Ⅱ	N80E49	110	—	24	—	E	土器小片１	縄中初		東半調査区域外
SK－061	A・Ⅱ	N73E51	—	103	25	—	E	土器小片５、黒曜石片３	縄後晩	＞SK－062・094	東半調査区域外
SK－062	A・Ⅱ	N73E50	103	100	47	Ⅰ	C			＞SP－087,＜SK－061	
SK－063	A・Ⅱ	N69E52	82	53	19	Ⅱ	Ap				
SK－064	A・Ⅱ	N68E52	68	52	19	Ⅱ	E				
SK－065	A・Ⅱ	N63E53	78	53	18	Ⅱ	E				
SK－066	A・Ⅱ	N51E53	96	89	40	Ⅹ	C	土器小片３			
SK－067	A・Ⅱ	N63E49	110	85	11	Ⅱ	A	土器小片１			
SK－068	A・Ⅱ	N65E47	52	42	14	Ⅱ	E	土器小片１			
SK－069	A・Ⅱ	N68E46	80	50	20	Ⅹ	E	黒曜石片１			
SK－070	A・Ⅱ	N61E54	200	142	25	Ⅸ	A	黒曜石片１、焼砂岩片１			
SK－071	A・Ⅱ	N61E51	120	102	12	Ⅰ	A				
SK－072	A・Ⅱ	N62E49	178	138	66	Ⅱ	C	土器小片４	縄早末		
SK－073	A・Ⅱ	N61E45	126	104	23	Ⅱ	A				
SK－074	A・Ⅱ	N57E47	182	170	101	Ⅰ	C	土器小片２、焼砂岩片１	縄早末		
SK－075	A・Ⅱ	N58E44	110	110	10	Ⅰ	A	黒曜石片（２次加工有）１			
SK－076	A・Ⅱ	N61E41	54	52	5	Ⅸ	A				
SK－077	A・Ⅱ	N55E44	136	114	24	Ⅸ	E				
SK－078	A・Ⅱ	N52E42	134	110	70	Ⅹ	C (E)				
SK－079	A・Ⅱ	N55E39	253	200	48	Ⅱ	E				
SK－080	A・Ⅱ	N57E36	148	133	45	Ⅰ	A	土器小片３		＜SK－104	
SK－081	A・Ⅱ	N60E43	63	48	16	Ⅱ	E				
SK－082	A・Ⅱ	N59E37	64	45	23	Ⅱ	E				
SK－083	A・Ⅱ	N56E52	64	56	21	Ⅰ	A				
SK－084	A・Ⅱ	N55E52	93	80	16	Ⅰ	A				
SK－085	A・Ⅱ	N55E51	100	86	57	Ⅰ	C	土器小片３	縄前末～中初		
SK－086	A・Ⅱ	N55E50	84	68	17	Ⅱ	Ap	土器小片10	縄前末		
SK－087	A・Ⅱ	N53E51	167	143	59	Ⅰ	Cp	土器小片２	縄前末		
SK－088	A・Ⅱ	N50E44	103	88	21	Ⅱ	E				
SK－089	A・Ⅱ	N59E49	156	—	65	Ⅸ	C			＞SK－090・SK－091	
SK－090	A・Ⅱ	N59E48	—	75	52	Ⅰ	C			＞SK－091、＜SK－089	
SK－091	A・Ⅱ	N58E49	186	172	48	Ⅰ	B	土器小片１、黒曜石片１、チャート片（２次加工有）１		＜SK－089・090	SK－089～091は掘り上がり後３基と判明。遺物の帰属はあやふや。
SK－092	A・Ⅱ	N48E52	144	84	31	Ⅹ	F	土器小片１、磨石類１	縄前末～中初		
SK－093	A・Ⅱ	N63E39	100	90	28	Ⅰ	E	土器片30程	縄晩	＜SP－242・243	
SK－094	A・Ⅱ	N73E51	86	—	34	—	C			＜SK－061	東半調査区域外
SK－095	A・Ⅱ	N44E38	192	178	132	Ⅰ	D				
SK－096	A・Ⅱ	N33E22	148	146	18	Ⅰ	A				
SK－097	A・Ⅱ	N65E43	102	76	48	Ⅹ	F	土器小片６	縄後晩		
SK－098	A・Ⅱ	N66E43	100	48	48	Ⅹ	E	土器片多数、石棒(173)	縄後晩		
SK－099	A・Ⅱ	N56E27	96	67	22	Ⅱ	E				
SK－100	A・Ⅱ	N52E30	111	80	30	Ⅱ	B	土器小片１			
SK－101	A・Ⅱ	N52E32	154	148	20	Ⅰ	A				
SK－102	A・Ⅱ	N52E34	93	80	46	Ⅰ	C	土器小片４、黒曜石片１	縄前末		
SK－103	A・Ⅱ	N54E29	140	116	28	Ⅸ	E	チャート片１			
SK－104	A・Ⅱ	N57E35	130	58	12	Ⅲ	A			＞SK－080	
SK－105	A・Ⅱ	N64E37	124	106	57	Ⅰ	C	土器片多数、黒曜石片１	縄後晩	＜SP－241・244	
SK－106	A・Ⅱ	N53E29	64	60	36	Ⅰ	C	石匙１(52)			
SK－107											欠番
SK－108	A・Ⅱ	N43E33	113	94	66	Ⅱ	C			＜SK－109	

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－109	A・Ⅱ	N43E32	157	148	58	Ⅰ	D	磨製石斧1(132)		>SK－108	
SK－110	A・Ⅱ	N66E38	132	98	22	Ⅹ	A	土器小片2	縄後晩		
SK－111	A・Ⅱ	N53E26	90	90	25	Ⅰ	A	土器小片1	縄前末～中初		
SK－112	A・Ⅱ	N67E41	140	114	61	Ⅹ	E	土器小片5、黒曜石片1	縄後晩	>SK－151、<SP－234	
SK－113	A・Ⅱ	N39E27	206	142	41	Ⅱ	A	土器小片1	縄前末～中初	≒SP－223	
SK－114	A・Ⅱ	N33E28	156	138	23	Ⅰ	A	土器小片1	縄前末～中初		
SK－115	A・Ⅱ	N32E30	—	151	39	Ⅸ	B	土器小片1、黒曜石片(2次加工有)1(85)		>SK－163	
SK－117	A・Ⅱ	N40E23	174	118	21	Ⅱ	A				
SK－118	A・Ⅱ	N48E22	137	117	17	Ⅰ	Ap				
SK－119	A・Ⅱ	N50E21	118	96	38	Ⅱ	B			<SK－120	
SK－120	A・Ⅱ	N51E20	—	115	23	Ⅸ	A			>SK－119	
SK－121	A・Ⅱ	N54E22	75	63	37	Ⅰ	E				
SK－122	A・Ⅱ	N55E25	—	76	27	Ⅹ	B	土器小片1		<SK－123	
SK－123	A・Ⅱ	N56E25	116	74	23	Ⅱ	A			>SK－122	
SK－124	A・Ⅱ	N47E20	142	108	31	Ⅱ	A				
SK－125	A・Ⅱ	N43E23	168	140	27	Ⅸ	A				
SK－126	A・Ⅱ	N50E19	124	104	25	Ⅰ	B				
SK－128	A・Ⅱ	N68E43	—	137	57	Ⅸ	C	土器片・黒曜石片多数	縄晩	>SK－130・150、<SP－259・260	配石墓
SK－129	A・Ⅱ	N33E16	108	—	21	—	C			>SK－145	
SK－130	A・Ⅱ	N69E43	127	78	15	Ⅹ	A	土器小片5	縄晩	<SK－128	
SK－131	A・Ⅱ	N69E44	74	58	38	Ⅸ	E	土器小片10程	縄後晩	>SP－202	
SK－132	A・Ⅱ	N70E43	108	94	38	Ⅹ	F	土器小片20程	縄後晩		
SK－133	A・Ⅱ	N69E45	156	129	41	Ⅸ	E	土器片多数	縄後晩	>SP－218、<SK－134	
SK－134	A・Ⅱ	N69E46	102	94	11	Ⅸ	A	土器片多数	縄後晩	>SK－133	
SK－136	A・Ⅱ	N63E35	126	109	31	Ⅰ	E	土器小片10程、磨製石斧1(136)	縄後晩		
SK－137	A・Ⅱ	N31E23	211	193	34	Ⅰ	A				
SK－138	A・Ⅱ	N35E21	185	175	45	Ⅰ	B				北端調査区域外
SK－139	A・Ⅱ	N33E19	106	94	41	Ⅸ	Cp				
SK－141	A・Ⅱ	N30E21	76	71	19	Ⅰ	A	口縁部破片1	縄前末～中初		
SK－142	A・Ⅱ	M30E18	232	203	69	Ⅹ	B	土器小片10程	縄前末	<SP－251	
SK－143	A・Ⅱ	N27E19	122	90	12	Ⅸ	A				
SK－144	A・Ⅱ	N33E18	200	168	50	Ⅰ	Cp				北端調査区域外
SK－145	A・Ⅱ	N32E16	194	172	72	Ⅰ	C	土器小片1、黒曜石片1		<SK－129・SP－233	
SK－146	A・Ⅱ	N28E18	100	77	26	Ⅱ	Ap	土器小片3	縄前末	>SP－117	
SK－147	A・Ⅱ	N24E19	—	107	46	—	—	土器小片5			南半調査区域外
SK－148	A・Ⅱ	N52E19	50	49	34	Ⅰ	C	土器小片1	縄早末		
SK－149	A・Ⅱ	N49E22	82	70	15	Ⅰ	A				
SK－150	A・Ⅱ	N68E42	122	78	44	Ⅱ	A	土器片20程	縄後晩	<SK－128	
SK－151	A・Ⅱ	N68E41	72	64	38	Ⅰ	C	土器片多数	縄後晩	<SK－112	
SK－152	A・Ⅱ	N31E15	122	84	32	Ⅵ	A	土器小片1			
SK－153	A・Ⅱ	N67E39	124	114	42	Ⅰ	D		縄前末～中初		
SK－154	A・Ⅱ	N71E46	105	89	28	Ⅹ	E	土器小片3	縄後晩		
SK－155	A・Ⅱ	N67E44	122	102	11	Ⅸ	A	土器小片5	縄後晩		
SK－156	A・Ⅱ	N65E41	96	54	21	Ⅱ	E	土器小片1	縄後晩		
SK－157	A・Ⅱ	N68E45	100	50	39	Ⅲ	E	土器小片10程	縄後晩		
SK－158	A・Ⅱ	N27E23	80	58	20	Ⅱ	A	土器小片1			
SK－160	A・Ⅱ	N22E16	—	84	43	Ⅹ	E	土器小片1	縄前末		南半調査区域外
SK－161	A・Ⅱ	N23E14	104	63	24	Ⅱ	A				
SK－162	A・Ⅱ	N38E38	140	82	16	Ⅳ	A				
SK－163	A・Ⅱ	N33E31	136	—	32	Ⅸ	C			<SK－115	
SK－164	A・Ⅱ	N54E54	103	98	91	Ⅰ	D	土器小片1		<SK－166	
SK－165	A・Ⅱ	N53E54	73	54	30	Ⅱ	C			<SK－166・168	
SK－167	A・Ⅱ	N21E14	78	—	38	—	C	石皿(168)、土器小片1、黒曜石片1	縄前末	<SK－273	南半調査区域外
SK－168	A・Ⅱ	N53E55	—	47	22	—	A			>SK－165・166	
SK－169	C・Ⅰ	N38E7	83	69	7	Ⅱ	A	土器片多数	縄中初		

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－170	C・I	N 0 W21	102	100	58	I	C	打製石斧1(100)、土器片多数	縄前末		覆土中に礫を多く含む。
SK－171	C・I	N28W37	100	100	43	I	C	土器小片5	縄前末		
SK－172	C・I	N21E 7	116	99	15	I	A	土器小片7、黒曜石片3	縄前末	＜SK－211	
SK－173	C・I	N19E 3	115	74	13	X	Ap	黒曜石片1			
SK－174	C・I	N20W 5	82	73	27	I	D	土器小片3	縄前末		
SK－175	C・I	N17E 0	110	109	29	I	C	土器小片1、黒曜石片1			
SK－176	C・I	N21W 0	130	115	23	I	A				
SK－177	C・I	N22E 9	92	73	29	X	A	土器小片30程、打製石斧1(102)、磨石類1(157)	縄前末～中初	＜SF－01	覆土中に礫を多く含む。
SK－178	C・I	N24E11	94	73	38	II	Dp	土器小片10程、黒曜石片5	縄前末～中初		
SK－180	C・I	N10E 4	127	82	34	II	A	チャート片3		＜SK－252	
SK－181	C・I	N11W 2	182	160	83	IX	C	土器小片2			押型文土器出土　混入品と思われる
SK－182	C・I	N13E 3	132	113	16	II	A	土器小片1	縄前末	＜SK－251・254	
SK－183	C・I	N 9 E 2	161	143	37	I	B	土器小片1	縄早中？		
SK－184	C・I	N12W 3	144	139	36	I	A				
SK－185	C・I	N19E 5	165	103	15	VI	C	土器小片6	縄前末～中初	＞SK－255、＜SP－359	
SK－186	C・I	N19E 9	136	97	31	II	B			＜SK－326	
SK－187	C・I	N 6 E 4	84	83	63	I	D	土器小片1	縄前末		
SK－188	C・I	N 8 E 4	105	72	18	II	A	土器小片2			
SK－189	C・I	N 9 E 5	120	105	36	II	D	土器小片5	縄前末		
SK－190	C・I	N18E10	153	121	45	VII	C	鉄釘(⑨)	中世(鎌倉期)		
SK－191	C・I	N12E 5	111	85	32	II	Bp	土器小片4、黒曜石片1、チャート片1		＞SP－365	
SK－192	C・I	N12E 8	137	104	23	IX	C	土器小片20程	縄前末	＞SK－261、＜SK－263・SP－156	
SK－193	C・I	N 7 E 8	114	110	41	I	C	土器小片3	縄前末		
SK－194	C・I	N 8 E10	109	84	31	II	C	土器小片6	縄前末～中初		
SK－195	C・I	N 9 E11	109	89	23	IX	C				
SK－196	C・I	N 5 E10	83	82	26	I	B	土器小片1	縄前末～中初		
SK－197	C・I	N 6 E10	153	109	30	VI	C	土器小片1		＞SP－267、＜SP－267	
SK－198	C・I	N 5 E14	137	99	62	VI	E	土器小片1		＜SK－200・417	押型文土器出土　混入品と思われる
SK－199	C・I	N 7 E15	74	67	29	I	D	土器小片1	縄早末		
SK－200	C・I	N 6 E13	172	126	21	X	A			＞SK－198	
SK－201	C・I	N 7 E13	63	58	26	I	C				
SK－202	C・I	N 9 E15	76	52	28	II	B	土器小片8	縄前末～中初	＜SK－266	
SK－203	C・I	N10E15	80	57	62	II	F	土器小片1、黒曜石片2			
SK－204	C・I	N23W 9	76	74	91	I	D	土器小片10、黒曜石片1、打製石斧(103)	縄前末～中初		
SK－205	C・I	N14E13	130	86	71	VI	E	土器片5、黒曜石片3	縄前末	＜SB－05	
SK－207	C・I	N24E10	82	76	33	I	D	土器小片5	縄前末～中初		押型文土器出土　混入品と思われる
SK－209	C・I	N20E11	—	87	37	VI	E			＜SB－06・SK－322・SP－348・349・363、＞SK－326	
SK－210	C・I	N24E 6	123	123	25	X	B				
SK－211	C・I	N22E 6	192	81	31	X	E			＞SK－172	
SK－212	C・I	N23W 0	92	65	10	II	E	安山岩片1	中世(鎌倉期)		
SK－213	C・I	N24W 0	100	99	13	I	Ap			＞SP－275	
SK－214	C・I	N27W 1	128	100	30	II	A			＞SK－237	
SK－215	C・I	N13W 4	77	62	7	II	A				
SK－216	C・I	N13W 5	76	65	10	I	F				
SK－217	C・I	N28E 0	93	92	24	I	C				
SK－218	C・I	N29W 1	95	91	29	I	D	土器小片2、黒曜石片1	縄前末		
SK－219	C・I	N29E 0	82	75	44	I	D				
SK－220	C・I	N27E 2	185	146	47	IX	E	土器小片1	縄前末	＞SP－312	
SK－221	C・I	N28W 7	151	145	55	I	B	土器小片4、チャート片1	縄前末	＞SK－271	
SK－222	C・I	N28W 9	122	87	51	X	D(E)	土器小片5、黒曜石片1、磨石類(161)	縄前末		
SK－223	C・I	N33W 1	70	66	19	II	A				
SK－225	C・I	N34E 1	68	59	15	II	A			＜SK－226	

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－226	C・I	N34E 1	90	81	14	I	Ap			>SK－225、<SK－227	
SK－228	C・I	N32E 4	86	54	21	Ⅶ	Ap		中世(鎌倉期)		
SK－229	C・I	N29E 8	89	61	21	Ⅶ	A			<SP－556	
SK－230	C・I	N29E10	115	65	25	Ⅲ	A			<SP－276	
SK－232	C・I	N32W 4	115	86	34	Ⅱ	C				
SK－233	C・I	N38E 0	90	57	23	Ⅱ	A	土器小片 3、黒曜石片 1	縄前末～中初		
SK－234	C・I	N33W 6	84	59	22	Ⅱ	A				
SK－235	C・I	N32W 7	65	65	9	I	Ap	土器小片 3	縄前末～中初		
SK－236	C・I	N28W10	115	70	11	Ⅱ	A	土器小片 2			
SK－237	C・I	N27W 0	116	99	32	I	D			<SK－214	
SK－238	C・I	N42E 5	123	114	25	V	A	黒曜石片 1	中世(鎌倉期)		
SK－239	C・I	N42E 7	184	160	15	V	A				
SK－240	C・I	N41E 8	104	100	15	V	A		中世(鎌倉期)	<SK－306	
SK－241	C・I	N40E 6	89	72	10	Ⅵ	A		中世(鎌倉期)	>SP－313、<SK－306	
SK－242	C・I	N39E 5	85	72	16	V	A		中世(鎌倉期)	<SK－422	
SK－243	C・I	N38E 4	141	80	21	Ⅶ	E		中世(鎌倉期)		
SK－244	C・I	N40E 0	123	87	13	X	A	黒曜石片 1			
SK－245	C・I	N43E 4	80	77	10	I	A	土器小片 1、黒曜石片 3			
SK－246	C・I	E45E 4	125	114	19	I	A	土器小片 1		>SP－441	
SK－247	C・I	N38E 8	89	72	24	Ⅱ	D				
SK－248	C・I	N41W 0	90	61	15	Ⅱ	A				
SK－249	C・I	N23E 8	76	67	10	Ⅱ	A				
SK－250	C・I	N14E 2	95	85	60	I	C	土器小片10程	縄前末		
SK－251	C・I	N14E 4	114	98	23	I	A	土器小片 2	縄早中	>SK－182	
SK－252	C・I	N10E 4	—	140	81	I	Cp	土器小片10程、黒曜石片 5、打製石斧(122)	縄前末～中初	>SK－180	
SK－253	C・I	N11E 3	84	84	11	V	Ap	土器小片 3			
SK－254	C・I	N13E 2	122	83	21	Ⅱ	A	土器小片 5、黒曜石片 2		>SK－182、<SK－325	
SK－255	C・I	N19E 4	91	55	76	X	F			<SK－185	
SK－256	C・I	N 8 E12	130	124	30	I	A	鉄釘(⑫)	中世(鎌倉期)		
SK－257	C・I	N 6 E11	92	90	11	I	A			>SK－197	
SK－259	C・I	N43E 0	?	63	19	—	—				図化ミス
SK－260	C・I	N42E 8	103	78	12	Ⅶ	A			>SP－310・311	
SK－261	C・I	N11E 8	70	52	31	Ⅱ	C	土器小片 2、黒曜石片 1		<SK－192	
SK－262	C・I	N39E 7	146	89	31	Ⅶ	C			<SK－306	
SK－263	C・I	N12E 7	96	83	22	I	C	土器小片 5	縄前末	>SK－192	
SK－264	C・I	N 7 E 5	100	88	54	I	D	土器小片 1		<SK－265	
SK－265	C・I	N 6 E 5	88	87	21	I	A	磨石類 1 (162)		>SK－264	
SK－266	C・I	N 9 E14	90	74	48	Ⅱ	D	土器小片15程	縄前末	>SK－202	
SK－268	C・I	N13E 1	85	70	16	Ⅱ	A	土器小片 1、黒曜石片 1			
SK－269	C・I	S 0 E 1	134	103	28	Ⅵ	E	東海系捏鉢片 1	中世(鎌倉期)	<SP－557	
SK－270	C・I	N26W 5	93	69	52	Ⅱ	D	土器小片10	縄前末～中初	>SK－271	
SK－271	C・I	N27W 6	400	277	91	Ⅸ	F	東海系捏鉢片 1、安山岩礫20程、黒曜石片 2		<SK－221・272・270・301	SD－03と関連ある土壙か？
SK－272	C・I	N25W 6	127	125	18	I	A			>SK－271	
SK－273	A・Ⅱ	N21E14	—	—	80	—	—			>SK－167	南半調査区域外
SK－274	C・I	N22W 6	116	60	16	Ⅱ	A				
SK－275	C・I	N17W 5	100	53	12	Ⅱ	A				
SK－276	C・I	N15W 6	84	80	21	I	Ap				
SK－278	C・I	N49W13	133	116	15	V	A	鉄鏃(3)	中世(鎌倉期)	≒SK－383	
SK－279	C・I	N42W 6	85	71	8	I	A				
SK－280	C・I	N42W 9	82	74	15	I	A	黒曜石片 1			
SK－281	C・I	N43W 8	117	109	11	V	A	土器小片 1			
SK－282	C・I	N41W10	84	74	48	I	C			<SK－419	
SK－283	C・I	N26E11	267	180	18	Ⅱ	A			>SK－231・208	
SK－284	C・I	N24W21	—	171	38	Ⅸ	E	土器小片 1、黒曜石チップ 1		>SK－309	
SK－285	C・I	N26W21	125	116	40	Ⅵ	C	長石大片 1	中世(鎌倉期)		
SK－286	C・I	N38W17	132	95	45	Ⅵ	C		中世(鎌倉期)		
SK－287	C・I	N38W15	136	94	34	Ⅵ	C	土器小片 2	中世(鎌倉期)	<SK－300	

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－288	C・I	N９W４	308	—	72	X	E	土器小片10程、黒曜石片１、チャート片１、削器(69)、打製石斧１(118)	縄前末～中初	＞SK－289	西半調査区域外 半裁後に２基と判明。遺物混ざる。
SK－289	C・I	N８W４	137	—	96	—	D		縄前末～中初	＜SK－288	
SK－290	C・I	N29W25	230	210	60	I	B	土器小片１、石鏃１(26)	縄早中		
SK－291	C・I	N27W23	164	127	54	Ⅵ	C		中世(鎌倉期)		
SK－292	C・I	N37W21	139	135	28	V	C		中世(鎌倉期)		
SK－293	C・I	N33W20	105	98	49	I	C		中世(鎌倉期)		
SK－294	C・I	N16E11	80	47	18	Ⅱ	D			＜SB－05	
SK－296	C・I	N40W20	99	82	35	Ⅱ	D	土器小片２			
SK－297	C・I	N35W17	147	112	52	Ⅵ	C		中世(鎌倉期)		
SK－298	C・I	N34W15	153	81	14	X	A				
SK－299	C・I	N39W21	87	86	15	V	C				
SK－300	C・I	N37W16	92	75	90	Ⅸ	D			＞SK－287	
SK－301	C・I	N26W４	96	91	45	I	C	土器小片１		＞SK－271	
SK－302	C・I	N40W27	102	91	39	V	Cp				
SK－303	C・I	N23W24	192	186	31	Ⅸ	A	土器小片１	縄早中		
SK－305	C・I	N34W30	97	70	77	Ⅵ	D	土器大片１、小片５、黒曜石チップ３	縄前末		
SK－306	C・I	N40E７	—	117	18	Ⅱ	A	黒曜石片２		＞SK－240・241・262	
SK－307	C・I	N33E５	66	65	9	I	A	黒曜石片１		＞SD－03	
SK－310	C・I	N39W23	130	99	33	X	D				
SK－312	C・I	N26W37	—	104	39	Ⅱ	D	土器小片３	縄前末～中初	≒SK－327	全掘後に２基と判断した。
SK－313	C・I	N28W28	112	98	25	Ⅸ	C				
SK－314	C・I	N28W30	66	59	80	Ⅱ	D				
SK－315	C・I	N28W39	107	93	23	I	A	土器小片10程、黒曜石片１	縄前末		
SK－316	C・I	N28W40	128	109	28	V	A			≒SP－510	
SK－317	C・I	N30W41	79	61	21	Ⅱ	B				
SK－318	C・I	N25W35	97	95	10	I	A				
SK－319	C・I	N24W38	155	152	13	V	A	黒曜石片１			
SK－320	C・I	N37W34	75	52	11	Ⅱ	E				
SK－321	C・I	N39W32	132	130	33	Ⅵ	E			＜SP－513	
SK－322	C・I	N40W33	129	108	17	Ⅵ	A	土器小片２、黒曜石片１			
SK－323	C・I	N40W３	150	143	39	Ⅸ	C	石皿(167)	中世(鎌倉期)	＜SP－398	石皿は混入品と思われる。
SK－324	C・I	N13E９	140	128	79	X	D	土器小片15程、黒曜石片多数、削器(72)	縄前末	＞SB－05	
SK－325	C・I	N13E２	81	—	23	—	C			＞SK－254	
SK－326	C・I	N19E10	105	—	19	I	A			＞SK－186、＜SK－209	
SK－327	C・I	N26W38	—	97	42	—	D	土器小片１	縄前末～中初	≒SK－312	全掘後に２基と判断した。
SK－328	C・I	N18E14	145	—	—	—	E	土器小片１	縄前末		東半調査区域外
SK－329	C・I	N42W13	96	76	30	Ⅸ	E	打製石斧１(120)			
SK－330	C・I	N34W20	86	44	27	Ⅱ	E				
SK－331	C・I	N27W20	110	100	7	Ⅸ	A				
SK－332	C・I	N20E13	146	99	63	Ⅱ	C	土器小片８	縄前末	＞SB－06・SK－209・SP－348・349、＜SP－363	
SK－333	C・I	N44W24	176	105	59	Ⅵ	C	東海系捏鉢片１	中世(鎌倉期)	＜SK－360・SP－529・530	
SK－334	C・I	N20W23	148	112	16	X	A	土器小片１、削器１(65)	縄前末		
SK－335	C・I	N25W37	55	53	50	Ⅸ	C				
SK－336	C・I	N18W23	140	90	18	Ⅸ	A				
SK－337	C・I	N13W31	103	89	23	X	E	土器小片10程	縄前末～中初	＜SK－353	
SK－338	C・I	N16W33	123	112	28	I	C	黒曜石片１			
SK－339	C・I	N12W35	64	59	13	I	E	土器小片３		＜SK－340	
SK－340	C・I	N11W35	—	85	24	X	B	黒曜石片１		＞SK－339	
SK－341	A・Ⅱ	N31E30	87	—	17	—	A				南半調査区域外
SK－342	C・I	N18W26	135	85	22	X	E			＜SK－367・369	
SK－343	C・I	N13W20	134	128	25	V	C				
SK－344	C・I	N９W23	161	103	21	Ⅱ	B	黒曜石片１		＜SK－399	
SK－345	C・I	N10W24	148	127	57	V	C		中世(鎌倉期)		
SK－346	C・I	N18W29	240	122	164	Ⅲ	C	安山岩片１			落とし穴

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－347	C・I	N９W34	82	63	34	Ⅱ	E				
SK－348	C・I	N７W29	107	90	18	I	Ap			＜SP－548	
SK－349	C・I	N15W23	137	125	50	V	C		中世(鎌倉期)	＜SK－403	
SK－350	C・I	N19W26	104	95	13	V	A	打製石斧１		＞SK－366	
SK－351	C・I	N19W25	—	—	22	X	B	安山岩片５	中世(鎌倉期)	＜SK－365・384	
SK－352	C・I	N７W23	138	106	24	Ⅵ	C	土器小片１、黒曜石片１、打製石斧１(112)	縄前末～中初	＜SK－372	
SK－353	C・I	N14W31	—	84	11	Ⅱ	A	土器小片30程	縄前末	＞SK－337	
SK－354	C・I	N14W27	116	98	21	X	A	土器小片３、黒曜石片５	縄前末～中初	＜SK－404	
SK－355	C・I	N10W30	84	65	10	Ⅱ	A	黒曜石片１			
SK－356	C・I	N49W０	100	53	9	Ⅱ	A	石鏃１(27)			
SK－357	C・I	N12W34	107	68	26	X	A	土器小片５、石鏃１(28)、黒曜石片１	縄前末～中初		
SK－358	C・I	N41W22	172	134	30	Ⅵ	E	土器小片１、黒曜石片２	中世(鎌倉期)	＞SK－360、＜SK－361	
SK－359	C・I	N43W27	121	96	48	Ⅵ	E			≒SP－519	
SK－360	C・I	N43W24	—	217	2	X	A		中世(鎌倉期)	＞SK－333・SP－515、＜SK－358・361・SP－530、≒SP－516・518	
SK－361	C・I	N42W22	—	—	9	—	—		中世(鎌倉期)	＞SK－358・360、≒SP－518	
SK－362	C・I	N７W26	108	82	12	X	A	黒曜石片１			
SK－363	C・I	N８W21	111	106	77	I	D	土器小片５	縄前末～中初	＜SK－399	
SK－364	C・I	N13W23	155	117	56	X	E			＜SK－403・SP－554	
SK－365	C・I	N20W25	—	72	8	—	A			＞SK－351	
SK－366	C・I	N21W26	—	—	3	—	A		中世(鎌倉期)	＜SK－350	
SK－367	C・I	N17W26	123	—	9	—	Ap	棒状石製品		＞SK－342	
SK－368	C・I	N45W27	234	227	47	I	E	青磁片１	中世(鎌倉期)		井戸状遺構
SK－369	C・I	N19W27	169	109	31	Ⅵ	E	チャート片１		＞SK－342	
SK－370	C・I	N７W１	77	64	31	Ⅱ	Ep	土器小片２		＜SB－07	
SK－371	C・I	N43W11	125	112	33	I	A	土器小片１	縄前末		
SK－372	C・I	N８W23	72	61	30	X	D	土器小片１	縄前末	＞SK－352	
SK－373	C・I	N７E１	—	107	28	Ⅱ	B			＞SB－04	
SK－374	C・I	N１W27	74	62	22	V	A				
SK－375	C・I	N２W17	129	97	31	Ⅵ	E	安山岩片１、黒曜石片１			
SK－376	C・I	N43W13	—	106	28	I	D	石鏃１(29)、土器小片１、黒曜石片３			
SK－377	C・I	N４W16	168	109	29	Ⅲ	A	安山岩片１、黒曜石片１			C・Ⅱ区と跨る
SK－378	C・I	N44W22	83	65	17	Ⅱ	A				
SK－379	C・I	N49W26	187	92	64	Ⅲ	C	鉄釘(⑪)、山茶碗片１、打製石斧(121)	中世(後半期)		
SK－380	C・I	N46W23	100	87	17	V	A	黒曜石片１			
SK－381	C・I	N８W26	65	50	21	Ⅱ	A	土器小片２	縄前末		
SK－382	C・I	N７W21	90	75	53	Ⅱ	E (D)	土器小片１			２基を１基とした可能性大。
SK－384	C・I	N18W25	95	—	24	X	E			＞SK－351、＜SK－402	
SK－385	C・I	S３W23	99	90	11	X	A				
SK－386	A・Ⅱ	N45E45	71	69	11	I	A				
SK－387	C・I	N54W15	144	124	61	V	C	砥石１、滑滑甕片１	中世(鎌倉期)		
SK－389	C・I	N50W18	148	129	11	I	E				
SK－390	C・I	N53W17	134	95	40	Ⅱ	E	打製石斧１(119)		＜SK－412	
SK－391	C・I	N45W20	109	71	2	Ⅱ	A	土器小片１、黒曜石片１			
SK－392	C・I	N48W20	86	77	26	I	A			＜SD－06	
SK－393	C・I	N43W29	97	86	—	I	C		中世(鎌倉期)	＜SK－394・竪穴状遺構２	
SK－394	C・I	N44W29	—	137	27	Ⅵ	C		中世(鎌倉期)	＞SK－393、≒SK－418	
SK－395	C・I	N46W18	—	181	45	I	E	土器小片４、黒曜石片２、磨製石斧１(138)			
SK－397	C・I	N50W23	137	117	34	V	C		中世(鎌倉期)	＜SK－400	
SK－398	C・I	N48W21	72	48	31	Ⅱ	E			＜SD－06	
SK－399	C・I	N９W21	—	110	82	—	E			＞SK－344・363	
SK－400	C・I	N51W24	145	136	18	V	C	須恵器鉢片１	中世(鎌倉期)	＞SK－397	
SK－401	C・I	N58W13	—	126	39	—	A	打製石斧１(104)			北半調査区域外

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－402	C・I	N17W25	—	116	33	I	Cp	土器小片1		>SK－384、<SK－424・425	
SK－403	C・I	N14W24	—	87	12	X	A			>SK－349・364	
SK－404	C・I	N14W26	143	—	—	—	F			>SK－354	
SK－405	C・I	N11E10	—	—	21	—	A			<SK－413	
SK－406	C・I	N5E2	70	68	9	V	A	土器小片4、掻器1(77)		>SB－04	
SK－407	C・I	N41W21	180	180	16	I	A	不明土製品		>SK－408	
SK－408	C・I	N40W22	—	120	50	VI	A	安山岩礫1、土器小片1		<SK－407	
SK－409	C・I	N7W3	107	89	27	VI	B	土器小片5		>SB－07	
SK－410	C・I	N6W2	70	55	23	II	B			>SB－07・SK－411、<SK－416	
SK－411	C・I	N7W2	87	80	42	I	C	土器小片5	縄前末	>SB－07、<SK－410・416	
SK－412	C・I	N52W16	173	106	34	II	C			>SK－390	
SK－413	C・I	N11E9	110	95	40	I	C	土器小片1、黒曜石片1		>SK－192・405、<SP－373	
SK－414	C・I	N11E12	86	52	16	II	A			≒SP－562	
SK－415	C・I	N12E13	—	109	94	X	E	土器小片5、黒曜石片3、石鏃(30)、掻器(75)	縄前末	>SB－05	
SK－416	C・I	N6W2	132	107	50	II	C	土器小片1		>SB－07・SK－410・411	
SK－417	C・I	N6E15	—	78	37	II	C				
SK－418	C・I	N44W29	172	110	61	VI	C		中世(鎌倉期)	≒SK－394	
SK－419	C・I	N42W10	111	96	27	VI	B			>SK－282	
SK－420	C・I	N29W15	—	145	7	—	A			>SK－277	
SK－421	C・I	N19W32	183	144	21	II	A				
SK－422	C・I	N38E5	77	—	8	X	A				
SK－423	C・I	N11E11	56	50	74	I	D	土器小片6、黒曜石片2	縄前末	>SB－05	
SK－424	C・I	N17W25	39	39	48	I	D		縄前末	>SK－402	
SK－425	C・I	N17W25	40	30	64	II	D	土器小片4	縄前末	>SK－402	
SK－426	C・III	S10W34	89	72	16	II	A				
SK－427	C・III	N3W37	71	67	21	I	C	土器小片2			
SK－428	C・III	N5W36	54	54	13	V	A				
SK－429	C・III	S4W35	74	64	16	I	E				
SK－430	C・III	N2W38	72	71	14	I	A				
SK－431	C・III	N8W44	166	150	21	I	A				
SK－432	C・III	N1W37	84	83	29	I	D	土器小片1	縄前末		
SK－433	C・III	S4W33	82	82	54	I	C	胴～底部残存深鉢1	縄前末～中初		押型文土器出土　混入品と思われる
SK－434	C・III	N23W45	250	78	107	X	E	黒曜石片1			落とし穴
SK－435	C・III	S8W39	173	155	57	I	C	磨石類1(159)		<SK－470	
SK－436	C・III	S8W41	111	—	42	IX	C			>SK－437	
SK－437	C・III	S7W41	83	76	18	I	C			<SK－436	
SK－438	C・III	S2W34	148	90	26	IV	B	土器小片1、黒曜石片1			
SK－439	C・III	S6W40	84	65	87	X	F			<SK－470	
SK－440	C・III	N13W48	95	86	36	I	C			<SK－475	
SK－441	C・III	N8W57	95	95	26	I	C				
SK－442	C・III	N0W55	84	83	42	I	D				
SK－443	C・III	N0W65	85	83	21	I	C				
SK－444	C・III	N1W61	90	89	13	IX	A				
SK－445	C・III	S3W66	103	94	15	I	A				
SK－447	C・III	N10W38	310	—	19	—	A				東半調査区域外
SK－448	C・III	S9W68	130	120	50	I	C				
SK－450	C・III	S10W65	124	120	82	I	D	土器小片1、石鏃(31)、黒曜石片3、		<SH－011	
SK－451	C・III	S7W65	120	110	61	I	C				
SK－452	C・III	S4W65	122	116	35	X	B				
SK－453	C・III	S12W65	96	91	18	I	A				
SK－454	C・III	S11W62	103	92	58	I	B			<SK－482	
SK－455	C・I	N43W7	83	80	20	I	A				
SK－456	C・III	S9W61	100	90	18	I	C	土器小片2			
SK－457	C・III	S8W63	98	95	39	IX	C			<SP－617	
SK－458	C・III	S3W57	77	69	34	I	D				
SK－459	C・III	S7W60	97	87	58	I	C				

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－460	C・Ⅲ	S４W60	100	98	38	Ⅰ	B			<SP－618	
SK－461	C・Ⅲ	S18W52	71	60	16	Ⅰ	A				
SK－462	C・Ⅲ	S５W52	95	62	15	Ⅱ	A			<SK－491	
SK－463	C・Ⅲ	S15W50	97	93	12	Ⅰ	A				
SK－464	C・Ⅲ	N０W62	99	72	33	Ⅱ	E			>SK－465	
SK－465	C・Ⅲ	S０W61	215	162	38	Ⅹ	A			<SK－464	
SK－466	C・Ⅲ	S３W63	125	77	33	Ⅵ	E			<SK－493	
SK－467	C・Ⅲ	S６W62	73	59	16	Ⅸ	A				
SK－468	C・Ⅲ	S15W58	87	75	45	Ⅰ	C	土器小片３	縄前末		押型文土器出土　混入品と思われる
SK－469	C・Ⅲ	S13W59	106	76	36	Ⅱ	E			<SK－487・SP－620	
SK－470	C・Ⅲ	S６W39	—	138	74	Ⅱ	E			>SK－435・439	
SK－471	C・Ⅲ	S７W45	169	162	45	Ⅹ	E	土器小片２	縄前末～中初		
SK－472	C・Ⅲ	S４W38	168	119	16	Ⅹ	A				
SK－473	C・Ⅲ	S４W52	80	72	19	Ⅹ	E				
SK－474	C・Ⅲ	N１W47	120	84	16	Ⅱ	A				
SK－475	C・Ⅲ	N13W50	134	107	65	Ⅱ	C			>SK－440	
SK－476	C・Ⅲ	S18W61	85	62	32	Ⅹ	C			<SK－486	
SK－477	C・Ⅲ	S２W60	—	—	—	—	—			>SK－480	図化ミス
SK－478	C・Ⅲ	S０W33	87	82	31	Ⅰ	E				
SK－479	C・Ⅲ	S18W46	149	72	18	Ⅶ	A				墓？
SK－480	C・Ⅲ	S４W61	—	53	37	—	C			>SK－477、<SK－493	
SK－481	C・Ⅲ	S２W63	108	87	48	Ⅵ	C			<SP－619	
SK－482	C・Ⅲ	S12W61	—	81	4	Ⅱ	A			>SK－454	
SK－483	C・Ⅲ	S７W55	103	98	62	Ⅰ	E				
SK－484	C・Ⅲ	S11W54	102	92	21	Ⅹ	E	土器小片１、黒曜石片２			
SK－485	C・Ⅲ	S15W55	66	66	17	Ⅰ	B				
SK－486	C・Ⅲ	S17W61	96	63	60	Ⅱ	E			>SK－476	
SK－487	C・Ⅲ	S13W59	116	—	33	Ⅱ	A			>SK－469、<SP－620	
SK－488	C・Ⅲ	S17W56	119	119	14	Ⅹ	A			>SB－08	
SK－489	C・Ⅲ	N８W35	80	—	10	—	A				東半調査区域外
SK－490	C・Ⅲ	N21W44	96	54	14	Ⅱ	A				
SK－491	C・Ⅲ	S６W52	—	82	—	Ⅴ	—			>SK－462	
SK－492	C・Ⅲ	S10W56	100	87	18	Ⅴ	A			>SH－010	
SK－493	C・Ⅲ	S４W62	—	110	47	Ⅱ	E			>SK－466・480	
SK－494	C・Ⅳ	N10W89	137	135	35	Ⅰ	C				
SK－496	C・Ⅳ	N11W79	84	80	16	Ⅰ	A				
SK－497	C・Ⅳ	N12W80	70	65	29	Ⅰ	D				
SK－498	C・Ⅳ	N16W82	81	63	18	Ⅱ	C				
SK－499	C・Ⅳ	N19W85	197	157	13	Ⅵ	A			>SK－572	
SK－500	C・Ⅳ	N13W85	99	83	8	Ⅰ	A				
SK－501	C・Ⅳ	N14W82	208	194	35	Ⅹ	A	土器小片１			
SK－502	C・Ⅳ	N10W87	85	74	14	Ⅰ	C				
SK－503	C・Ⅳ	N12W88	118	85	20	Ⅵ	A				墓？　白い物有
SK－504	C・Ⅳ	N13W88	115	102	48	Ⅰ	D				
SK－505	C・Ⅳ	N14W88	114	84	12	Ⅵ	Ap				
SK－506	C・Ⅳ	N14W90	96	93	14	Ⅰ	A			<SK－529	
SK－507	C・Ⅳ	N19W92	75	65	19	Ⅰ	A				礫多数有
SK－509	C・Ⅳ	N９W92	126	118	33	Ⅰ	E			<SK－528	
SK－510	C・Ⅳ	N17W93	64	60	8	Ⅰ	A				
SK－511	C・Ⅳ	N15W94	96	91	10	Ⅰ	C				
SK－512	C・Ⅳ	N18W93	82	58	15	Ⅱ	B				
SK－513	C・Ⅳ	N16W99	154	132	82	Ⅰ	C				
SK－514	C・Ⅳ	N22W87	118	79	31	Ⅸ	E				
SK－515	C・Ⅳ	N20W97	120	101	29	Ⅰ	E				
SK－516	C・Ⅳ	N９W94	114	109	31	Ⅰ	C			<SK－552	
SK－517	C・Ⅳ	N６W100	88	77	8	Ⅰ	A				
SK－518	C・Ⅳ	N６W99	107	87	16	Ⅱ	C				

遺構 No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－519	C・Ⅳ	N 7 W98	130	87	30	Ⅸ	E				
SK－520	C・Ⅳ	N 9 W98	117	102	10	Ⅰ	A				
SK－521	C・Ⅳ	N 7 W101	102	100	22	Ⅰ	A				
SK－522	C・Ⅳ	N 6 W93	87	74	11	Ⅰ	A				
SK－523	C・Ⅳ	N 6 W95	100	90	16	Ⅰ	C				
SK－525	C・Ⅳ	N12W101	165	146	89	Ⅰ	E				
SK－526	C・Ⅳ	N16W101	110	80	14	Ⅱ	A				
SK－527	C・Ⅳ	N28W101	101	100	63	Ⅰ	C				
SK－528	C・Ⅳ	N10W91	120	102	31	Ⅸ	E			＞SK－509	
SK－529	C・Ⅳ	N14W90	—	67	23	—	A			＞SK－506	
SK－531	C・Ⅳ	N27W94	148	145	15	Ⅰ	C				
SK－532	C・Ⅳ	N27W100	182	172	59	Ⅰ	E				
SK－533	C・Ⅳ	N28W107	106	89	13	Ⅰ	A				
SK－534	C・Ⅳ	N21W96	89	67	18	Ⅵ	F				
SK－535	C・Ⅳ	N28W105	92	72	17	Ⅱ	A				
SK－536	C・Ⅳ	N22W85	64	63	10	Ⅰ	A				
SK－537	C・Ⅳ	S 1 W93	83	77	22	Ⅰ	B				
SK－538	C・Ⅳ	S 2 W92	174	165	33	Ⅸ	E				
SK－539	C・Ⅳ	S 4 W92	166	159	28	Ⅰ	A				
SK－540	C・Ⅳ	S 6 W81	70	65	18	Ⅰ	A				
SK－541	C・Ⅳ	S 6 W88	115	103	73	Ⅹ	D	黒曜石片 1			
SK－542	C・Ⅳ	S 0 W82	130	105	10	Ⅱ	A				
SK－543	C・Ⅴ	S14W105	105	110	39	Ⅰ	C	土器小片 1			
SK－544	C・Ⅴ	S11W104	111	110	71	Ⅰ	D				
SK－545	C・Ⅴ	S10W107	89	69	25	Ⅸ	C				
SK－546	C・Ⅳ	N 0 W100	67	58	56	Ⅸ	D	土器片 1	縄前末		
SK－547	C・Ⅳ	S21W84	86	59	24	Ⅱ	B				
SK－549	C・Ⅴ	N 9 W112	94	83	23	Ⅰ	A				
SK－550	C・Ⅳ	N 2 W100	54	50	20	Ⅴ	C	磨石類 1 (160)		＞SD－03	
SK－551	C・Ⅳ	N 2 W100	81	75	26	Ⅰ	C			＞SD－03	
SK－552	C・Ⅳ	N11W94	134	91	56	Ⅸ	F			＞SK－495	
SK－553	C・Ⅳ	N11W93	110	101	26	Ⅸ	F			＞SK－508	
SK－554	C・Ⅱ	N 0 W10	113	107	27	Ⅹ	B	土器小片 2		＜SK－575・576	
SK－555	C・Ⅱ	N13W 7	98	82	17	Ⅰ	C	土器小片 3	縄前末		
SK－556	C・Ⅱ	N11W 5	81	72	10	Ⅰ	A	土器小片15程	縄前末～中初		
SK－557	C・Ⅱ	N12W10	90	72	29	Ⅵ	B	土器小片 3			
SK－559	C・Ⅱ	S 1 W 1	217	116	118	Ⅵ	C	土器小片 5 、刃器 1 (67)、打製石斧 2 (101・105)、チャート片 1 (83)		＜SB－10	落し穴　出土遺物はすべて 2 次的に入ったもの
SK－560	C・Ⅱ	N 2 W 3	100	90	24	Ⅹ	C	土器小片 4	縄前末		
SK－561	C・Ⅱ	N 9 W 7	117	115	27	Ⅰ	D	土器片多数、石匙(70)、磨石類(158)	縄前末		
SK－563	C・Ⅱ	N 0 W 2	93	77	29	Ⅱ	C				
SK－564	C・Ⅱ	S 1 W 9	122	88	37	Ⅹ	F	土器小片 5	縄前末～中初		
SK－565	C・Ⅱ	N 3 W12	93	65	25	Ⅱ	C	土器小片 1 、石匙(56)、黒曜石片 2			
SK－566	C・Ⅱ	N 5 W10	88	77	12	Ⅹ	A	土器小片 1			
SK－567	C・Ⅱ	N 1 W 9	115	80	13	Ⅹ	A	土器小片 5	縄前末～中初	＜SK－575	
SK－568	C・Ⅱ	S 7 W12	152	135	26	Ⅸ	C				
SK－569	C・Ⅱ	S 9 W11	89	70	20	Ⅱ	A				
SK－570	C・Ⅱ	N 2 W14	140	88	37	Ⅱ	E	土器小片 1 、黒曜石片 3			
SK－571	C・Ⅱ	N 0 W14	158	92	25	Ⅸ	Ap	土器小片 4 、石錐(45)			
SK－572	C・Ⅱ	S 6 W10	140	118	16	Ⅴ	A			＜SK－499	
SK－573	C・Ⅱ	N 9 W 6	90	70	46	Ⅱ	C	土器小片 5 、黒曜石片 2 、打製石斧 1 (106)	縄前末		
SK－574	C・Ⅱ	N 2 W13	85	72	23	Ⅴ	A	土器小片 5 、黒曜石片 3	縄前末		
SK－575	C・Ⅱ	N 1 W10	120	82	30	Ⅸ	E	土器小片10、削器 1 (71)、磨石類 1	縄前末	＞SK－554・567	
SK－576	C・Ⅱ	N 0 W11	—	64	20	Ⅰ	A	土器小片 2	縄前末	＞SK－554	
SK－578	C・Ⅱ	S 9 W 3	71	67	11	Ⅰ	A	土器小片 1	縄前？	＞SB－11	

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－579	D・Ⅲ	S2W179	154	148	18	Ⅰ	A	土器小片2	縄早中		
SK－580	D・Ⅲ	S0W177	90	88	15	Ⅰ	A	土器小片2		<SK－586	
SK－581	D・Ⅲ	N2W175	111	103	11	Ⅹ	A	土器小片5	縄早末		
SK－582	D・Ⅲ	S6W182	91	81	37	Ⅵ	D	土器小片10程、石鏃1(1)、黒曜石片3	縄早末		
SK－583	D・Ⅲ	N1W179	181	164	31	Ⅱ	A	土器小片20程、黒曜石片(2次加工有)1	縄早中	>SK－600	
SK－584	D・Ⅲ	N0W182	164	142	19	Ⅹ	E	土器小片5程、薄手土器片1、石鏃1(2)、黒曜石片2、チャート片2、	縄早中	<SK－603	
SK－585	D・Ⅲ	S9W183	117	105	16	Ⅰ	B	土器小片2	縄早末	>SD－03	
SK－586	D・Ⅲ	S1W177	106	97	45	Ⅰ	D	土器小片6、黒曜石片9、チャート片1	縄早中	>SK－580	
SK－587	D・Ⅲ	N1W173	152	122	16	Ⅱ	A	土器小片8	縄早中		
SK－588	D・Ⅲ	S7W183	144	—	16	Ⅰ	A	土器小片1、黒曜石片2	縄早末	<SK－601	西端調査区域外
SK－589	D・Ⅲ	N3W183	108	—	33	—	D	土器小片1、黒曜石片1、チャート片1	縄前末		西半調査区域外
SK－590	D・Ⅲ	N3W181	67	63	50	Ⅸ	D	土器小片6、黒曜石片1	縄早末		
SK－591	D・Ⅲ	S2W174	90	70	12	Ⅹ	B	土器小片1、黒曜石片1	縄早中	<SK－602	
SK－592	D・Ⅲ	N5W173	115	100	23	Ⅰ	B	土器細片5			
SK－593	D・Ⅲ	N6W175	155	—	17	—	E	土器小片3、黒曜石片1、チャート片1			
SK－594	D・Ⅲ	N4W179	99	79	27	Ⅸ	E	土器小片1			
SK－595	D・Ⅲ	N4W172	109	119	46	Ⅰ	C	土器小片6、黒曜石片2、チャート片1	縄早中		
SK－596	D・Ⅲ	N6W179	128	95	20	Ⅱ	E	土器小片3、チャート片1	縄早中	<SP－651	
SK－597	D・Ⅲ	S2W177	127	99	12	Ⅱ	A	土器小片2、チャート片1	縄早中	<SK－611	
SK－598	D・Ⅲ	N2W173	90	80	41	Ⅰ	C	土器小片3、削器1(59)、黒曜石片3	縄早末		
SK－599	D・Ⅲ	N0W177	163	137	27	Ⅱ	A	土器小片10程、黒曜石片2、石鏃1(3)、石匙1(53)	縄早中		
SK－600	D・Ⅲ	N0W178	105	87	49	Ⅸ	D	土器小片10程	縄前末	<SK－583	
SK－601	D・Ⅲ	N2W182	112	82	51	Ⅱ	D	土器小片8、黒曜石片1、チャート片1		>SK－588, <SK－613	
SK－602	D・Ⅲ	S2W174	112	82	14	Ⅱ	A			>SK－591, <SK－610	
SK－603	D・Ⅲ	N1W182	233	190	23	Ⅹ	A	土器小片5、チャート片1		>SK－615, >SK－584	土器混在
SK－604	D・Ⅲ	S1W173	117	102	27	Ⅰ	C	土器小片10程	縄早中		
SK－605	D・Ⅲ	N7W173	212	92	170	Ⅲ	C			<SK－627	落とし穴
SK－606	D・Ⅲ	N6W172	101	82	15	Ⅵ	A			<SK－616	
SK－607	D・Ⅲ	S4W169	190	124	8	Ⅵ	A	土器小片7	縄早中	<SK－618	
SK－608	D・Ⅲ	N5W169	101	100	51	Ⅰ	E	土器小片2	縄早末	<SK－609	
SK－609	D・Ⅲ	N4W170	115	—	17	Ⅱ	A	土器小片1		>SK－608, <SX－006	
SK－610	D・Ⅲ	S2W175	—	58	15	Ⅹ	E			>SK－602	
SK－611	D・Ⅲ	S3W177	87	—	11	—	A	土器小片1	縄早中	>SK－597	
SK－612	D・Ⅲ	S1W170	162	137	46	Ⅰ	C	土器小片10程、黒曜石片6、台石1(169)	縄早中	<SK－617・638・SX－008	切り合い不安
SK－613	D・Ⅲ	N4W181	137	—	16	—	A	黒曜石片1		>SK－601	
SK－614	D・Ⅲ	N2W180	77	60	8	Ⅵ	A	土器小片1	縄早中		
SK－615	D・Ⅲ	N2W181	147	102	22	Ⅹ	E	土器小片2、黒曜石片3	縄前末	<SK－603	
SK－616	D・Ⅲ	N5W172	79	73	48	Ⅰ	D	土器小片6	縄早中	>SK－606	
SK－617	D・Ⅲ	S1W169	74	—	14	Ⅰ	A	土器小片2	縄早中	>SK－612, <SK－622	
SK－618	D・Ⅲ	S3W170	85	67	28	Ⅵ	E	土器小片4	縄早中	>SK－607	
SK－619	D・Ⅲ	N6W169	196	92	165	Ⅶ	F			<SK－620	落とし穴
SK－620	D・Ⅲ	N6W169	151	120	60	Ⅸ	D	土器小片5、黒曜石片1、チャート片1	縄早中	>SK－619	
SK－621	D・Ⅲ	N2W167	—	—	40	—	B				
SK－622	D・Ⅲ	S0W168	71	59	13	Ⅵ	B			>SK－617	
SK－623	D・Ⅲ	N9W180	127	81	73	Ⅹ	F	土器小片4、掻器1(60)、黒曜石片1	縄前末		
SK－624	D・Ⅲ	S5W170	115	87	19	Ⅱ	A	土器小片4、黒曜石片2	縄早中	>撹乱	
SK－625	D・Ⅲ	N0W172	—	—	16	—	—	土器小片2、黒曜石片1	縄早中		東側削平で消失
SK－626	D・Ⅲ	S14W175	105	92	41	Ⅰ	C	土器小片15程、削器1(61)、黒曜石片5	縄早中		

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm)			形状		出土遺物	時期	切り合い関係	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面				
SK－627	D・Ⅲ	N 7 W174	110	79	17	X	A	土器小片５、黒曜石片２		＞SK－605、＜SX－007・SP－658、≒SK－633	
SK－628	D・Ⅲ	S12W172	68	66	23	Ⅸ	C	土器小片５、石鏃１(４)	縄早中		
SK－629	D・Ⅲ	S 8 W173	136	87	21	X	—	土器小片10程		＞SD－03	土器混在
SK－630	D・Ⅲ	N 5 W177	79	60	20	Ⅱ	B	黒曜石片１		＞SX－005,＜SK－635	
SK－631	D・Ⅲ	N 3 W165	90	57	21	Ⅱ	D	土器小片２	縄早末		
SK－632	D・Ⅲ	N 1 W171	284	241	80	X	—	土器小片多数、特殊磨石１(139)	縄早末？	＜SK？637・SX－008・SP－659、≒SK－639～641	切り合い把握せず４基を掘削
SK－633	D・Ⅲ	N 8 W173	135	129	53	Ⅰ	C	土器小片５、黒曜石片２、チャート片１、台石１(170)	縄早末	＜SP－658、≒SK－627	
SK－634	D・Ⅲ	N 9 W179	96	81	20	X	E			＞SX－005	
SK－635	D・Ⅲ	N 5 W176	80	54	10	Ⅱ	E	土器小片２		＞SK－630	
SK－636	D・Ⅲ	N 9 W182	103	49	9	Ⅳ	A	土器小片１		＞SP－645	
SK－637	D・Ⅲ	N 1 W169	86	—	3	—	A			＞SK－632	
SK－638	D・Ⅲ	S 2 W170	—	98	27	—	E	土器小片２	縄早中	＞SK－612・SX－008	
SK－639	D・Ⅲ	N 1 W170	103	94	39	Ⅰ	C	土器小片５、チャート片１	縄早中	≒SK－632・640	この欄記載の出土遺物は、確実にこの遺構に伴う
SK－640	D・Ⅲ	N 1 W170	194	162	40	X	C		縄早中？	≒SK－632・639・641	
SK－641	D・Ⅲ	N 0 W171	—	91	24	Ⅰ	C		縄早中？	≒SK－632・640	

所在グリッド：ひとつのグリッド内にある場合はそのグリッド名を、複数グリッドにまたがる場合は、多くかかっているグリッド名をとることとした。なおほぼ均等にまたがる場合は、土坑の中央がかかるグリッド名をとった。

規模：長径・短径の値は平面図上で測った。深さは検出面から最深部までの垂線の長さで表した。検出面が傾斜している場合は高低の平均値を検出面の高さとした。

形状：平面形10種類、断面形６種類に分類した。ただし削平されていることを考慮して分類した土壙があり、下記の分類基準に合致していないものもある。

【平面形】
Ⅰ：円形　短径と長径の比が、１：1.2以下。
Ⅱ：楕円形　短径と長径の比が、１：1.2以上１：2.0以下。
Ⅲ：長楕円形　短径と長径の比が、１：2.0以上。
Ⅳ：双円形　円形が２つつながった形、繭玉形。
Ⅴ：隅丸正方形　短径と長径の比が、１：1.2以下。
Ⅵ：隅丸方形　短径と長径の比が、１：1.2以上１：2.0以下。
Ⅶ：隅丸長方形　短径と長径の比が、１：2.0以上。
Ⅷ：方形　隅が丸くなっていないものを総称。
Ⅸ：不整円形　円形基調だがⅠ～Ⅳに分類できないもの。
Ⅹ：不整形　上記いずれにも入らないもの。

【断面形】
A　Ⅲ状のもの。深さと長径の比が１：３以上で浅いもの。
B　擂鉢状のもの。深さと長径の比が１：３以下で、検出面での長径：底面での長径＝１：１以上のもの。
C　鍋底状あるいは円筒状のもの。深さと長径の比が１：３以下で、検出面での長径：底面での長径＝２：１～１：１のもの。
D　袋状のもの。但しオーバーハングの度合が大きいものは含める。
E　底が２段のもの。掘り込みの径が20cm以下のピット様のものは含めない。
F　上記のいずれにも属さない不整形なもの。

※また底面にピットを有するものは、後ろに「p」を付し、「Ap」等と表す。

切り合い関係：「＞」切られる、「＜」切る、「≒」不明を表す。

第2表　ピット一覧表

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－001	B・I	N27E121	21	
SP－002	B・I	N12E128	84	
SP－003	B・I	N6E132	39	
SP－004	B・I	N9E132	3	
SP－005	B・I	N9E129	18	
SP－006	B・I	N11E131	13	
SP－007	B・I	N10E130	9	
SP－008	B・I	N11E130	17	
SP－009	B・I	N22E126	9	
SP－010	B・I	S3E139	69	
SP－011	B・I	N12E132	28	
SP－012	B・I	S4E137	28	
SP－013	B・I	S3E137	32	
SP－014	B・I	S1E135	16	
SP－015	B・I	N0E135	46	
SP－016	B・I	N14E130	13	
SP－017	A・I	N60E85	34	
SP－018	A・I	N60E84	14	
SP－019	A・I	N59E84	27	
SP－020	A・I	N60E82	13	
SP－021	A・I	N59E81	23	
SP－022	A・I	N85E74	45	
SP－023	A・I	N75E78	27	
SP－024	A・I	N74E76	39	
SP－025	A・I	N75E76	40	
SP－026	A・I	N76E76	20	
SP－027	A・I	N76E76	20	
SP－028	A・I	N77E75	15	
SP－029	A・I	N77E73	8	
SP－030	A・I	N79E75	27	
SP－031	A・I	N80E77	10	
SP－032	A・I	N82E74	21	
SP－033	A・I	N83E69	58	
SP－034	A・I	N83E69	32	
SP－035	A・I	N83E68	15	
SP－036	A・I	N84E68	20	
SP－037	A・I	N81E70	22	
SP－038	A・I	N81E70	17	
SP－039	A・I	N84E70	57	
SP－040	A・I	N85E73	25	
SP－041	A・I	N87E72	19	
SP－042	A・I	N85E70	54	
SP－043	A・I	N87E70	24	
SP－044	A・I	N87E71	21	
SP－045	A・I	N89E69	13	
SP－046	A・I	N90E69	14	
SP－047	A・I	N86E66	13	

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－048	A・I	N86E67	24	
SP－049	A・I	N83E74	22	
SP－050	A・I	N78E72	17	
SP－051	A・I	N87E73	30	
SP－052	A・I	N88E65	13	
SP－053	A・I	N94E62	66	
SP－054	A・I	N94E63	4	
SP－055	A・I	N95E62	68	
SP－056	A・I	N98E63	58	
SP－057	A・I	N98E63	59	
SP－058	A・I	N92E70	23	
SP－059	B・I	N21E127	14	
SP－060	B・I	N8E134	11	
SP－061	A・II	N72E50	15	
SP－062	A・II	N78E48	27	
SP－063	A・II	N78E47	17	
SP－064	A・II	N78E48	24	
SP－065	A・II	N79E48	8	
SP－066	A・II	N79E49	8	
SP－067	A・II	N79E49	10	
SP－068	A・II	N79E49	20	
SP－069	A・II	N77E50	22	
SP－070	A・II	N77E49	9	
SP－071	A・II	N77E48	9	
SP－072	A・II	N77E48	34	
SP－073	A・II	N76E47	7	
SP－074	A・II	N76E46	14	
SP－075	A・II	N76E46	22	
SP－076	A・II	N75E46	14	
SP－077	A・II	N75E45	22	
SP－078	A・II	N75E48	43	
SP－079	A・II	N73E45	19	
SP－080	A・II	N74E47	15	
SP－081	A・II	N74E47	25	
SP－082	A・II	N75E47	12	
SP－083	A・II	N76E46	43	
SP－084	A・II	N76E46	20	
SP－085	A・II	N76E50	10	
SP－086	A・II	N75E50	26	
SP－087	A・II	N74E50	4	
SP－088	A・II	N72E50	5	
SP－089	A・II	N75E48	38	
SP－090	A・II	N75E48	16	
SP－091	A・II	N72E51	21	
SP－092	A・II	N71E50	25	
SP－093	A・II	N71E51	53	
SP－094	A・II	N71E52	90	

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－095	A・Ⅱ	N71E50	48	
SP－096	A・Ⅱ	N70E50	31	
SP－097	A・Ⅱ	N73E47	27	
SP－098	A・Ⅱ	N73E47	35	
SP－099	A・Ⅱ	N72E47	34	
SP－100	A・Ⅱ	N62E51	20	土器(第79図496)
SP－101	A・Ⅱ	N74E47	49	
SP－102	A・Ⅱ	N74E46	23	
SP－103	A・Ⅱ	N68E49	23	
SP－104	A・Ⅱ	N67E49	22	
SP－105	A・Ⅱ	N67E49	29	
SP－106	A・Ⅱ	N68E51	25	
SP－107	A・Ⅱ	N68E50	52	
SP－108	A・Ⅱ	N71E48	31	
SP－109	A・Ⅱ	N70E47	14	
SP－110	A・Ⅱ	N70E48	13	
SP－111	A・Ⅱ	N70E48	46	
SP－112	A・Ⅱ	N69E47	17	
SP－113	A・Ⅱ	N69E49	15	
SP－114	A・Ⅱ	N69E49	53	
SP－115	A・Ⅱ	N69E49	32	
SP－116	A・Ⅱ	N69E47	15	
SP－117	A・Ⅱ	N67E52	11	
SP－118	A・Ⅱ	N62E33	29	
SP－119	A・Ⅱ	N65E53	19	
SP－120	A・Ⅱ	N64E52	63	
SP－121	A・Ⅱ	N66E46	16	
SP－122	A・Ⅱ	N67E46	12	
SP－123	A・Ⅱ	N67E46	29	
SP－124	A・Ⅱ	N65E44	16	土器(第80図497) 石匙(第84図63)
SP－125	A・Ⅱ	N64E46	13	
SP－126	A・Ⅱ	N64E45	10	
SP－127	A・Ⅱ	N63E47	15	
SP－128	A・Ⅱ	N63E46	6	
SP－129	A・Ⅱ	N68E49	15	
SP－130	A・Ⅱ	N61E43	13	
SP－131	A・Ⅱ	N55E30	19	
SP－132	A・Ⅱ	N70E44	14	
SP－133	A・Ⅱ	N61E40	30	
SP－134	A・Ⅱ	N60E39	25	
SP－135	A・Ⅱ	N58E52	9	
SP－136	A・Ⅱ	N61E37	49	
SP－137	A・Ⅱ	N50E48	16	
SP－138	A・Ⅱ	N53E32	35	
SP－139	A・Ⅱ	N39E36	31	
SP－140	A・Ⅱ	N65E40	50	
SP－141	A・Ⅱ	N66E41	59	
SP－142	A・Ⅱ	N40E33	19	

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－143	A・Ⅱ	N40E33	19	
SP－144	A・Ⅱ	N40E34	27	
SP－145	A・Ⅱ	N41E33	82	
SP－146	A・Ⅱ	N41E32	26	
SP－147	A・Ⅱ	N41E33	22	
SP－148	A・Ⅱ	N40E34	23	
SP－149	A・Ⅱ	N38E28	10	土器(第72図344・345)
SP－150	A・Ⅱ	N42E31	18	
SP－151	A・Ⅱ	N39E29	31	
SP－152	A・Ⅱ	N40E29	41	
SP－153	A・Ⅱ	N40E29	23	
SP－154	A・Ⅱ	N37E20	17	
SP－155	A・Ⅱ	N37E20	36	
SP－156	A・Ⅱ	N74E44	39	
SP－157	A・Ⅱ	N39E25	19	
SP－158	A・Ⅱ	N70E44	13	
SP－159	A・Ⅱ	N43E21	11	
SP－160	A・Ⅱ	N37E23	14	
SP－161	A・Ⅱ	N38E23	17	
SP－162	A・Ⅱ	N38E28	2	
SP－163	A・Ⅱ	N38E28	13	
SP－164	A・Ⅱ	N62E34	30	
SP－165	A・Ⅱ	N33E24	27	
SP－166	A・Ⅱ	N69E42	24	
SP－167	A・Ⅱ	N32E26	17	
SP－168	A・Ⅱ	N31E25	21	
SP－169	A・Ⅱ	N33E25	31	
SP－170	A・Ⅱ	N62E41	22	
SP－171	A・Ⅱ	N63E41	31	
SP－172	A・Ⅱ	N63E40	31	
SP－173	A・Ⅱ	N64E41	16	
SP－174	A・Ⅱ	N64E40	68	
SP－175	A・Ⅱ	N64E39	11	
SP－176	A・Ⅱ	N64E39	18	
SP－177	A・Ⅱ	N65E38	13	
SP－178	A・Ⅱ	N65E39	29	
SP－179	A・Ⅱ	N64E36	31	
SP－180	A・Ⅱ	N65E37	18	
SP－181	A・Ⅱ	N65E43	15	
SP－182	A・Ⅱ	N66E45	34	土器(第64図168)
SP－183	A・Ⅱ	N69E41	39	
SP－184	A・Ⅱ	N69E42	29	
SP－185	A・Ⅱ	N66E39	20	
SP－186	A・Ⅱ	N73E44	9	
SP－187	A・Ⅱ	N73E43	59	
SP－188	A・Ⅱ	N73E43	10	
SP－189	A・Ⅱ	N72E44	15	
SP－190	A・Ⅱ	N74E43	20	

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－191	A・II	N74E43	9	
SP－192	A・II	N74E43	51	
SP－193	A・II	N74E43	3	
SP－194	A・II	N73E42	10	
SP－195	A・II	N66E41	35	打製石斧(第88図129)
SP－196	A・II	N70E41	10	
SP－197	A・II	N71E42	13	
SP－198	A・II	N73E42	15	
SP－199	A・II	N72E43	13	
SP－200	A・II	N75E44	10	
SP－201	A・II	N75E43	11	
SP－202	A・II	N69E44	26	
SP－203	A・II	N70E44	16	
SP－204	A・II	N69E44	18	
SP－205	A・II	N75E43	31	
SP－206	A・II	N70E45	10	
SP－207	A・II	N70E44	14	
SP－208	A・II	N66E42	12	
SP－209	A・II	N67E42	29	
SP－210	A・II	N66E41	24	
SP－211	A・II	N65E42	33	
SP－212	A・II	N71E44	23	
SP－213	A・II	N71E44	10	
SP－214	A・II	N69E42	12	
SP－215	A・II	N68E40	45	
SP－216	A・II	N71E47	32	
SP－217	A・II	N73E49	15	
SP－218	A・II	N70E45	14	
SP－219	A・II	N70E43	33	
SP－220	A・II	N68E40	28	
SP－221	A・II	N65E40	17	
SP－222	A・II	N63E48	26	
SP－223	A・II	N39E26	57	
SP－224	A・II	N64E35	12	
SP－225	A・II	N65E35	26	
SP－226	A・II	N34E19	44	
SP－227	A・II	N28E18	33	
SP－228	A・II	N25E15	14	
SP－229	A・II	N25E14	14	
SP－230	A・II	N25E14	24	
SP－231	A・II	N39E31	19	
SP－232	A・II	N67E39	31	
SP－233	A・II	N31E16	20	
SP－234	A・II	N67E42	41	
SP－235	A・II	N69E40	20	
SP－236	A・II	N62E33	55	
SP－237	A・II	N62E33	15	
SP－238	A・II	N73E48	39	

遺構 No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－239	A・II	N70E43	29	
SP－240	A・II	N63E40	41	
SP－241	A・II	N65E38	21	
SP－242	A・II	N63E39	29	
SP－243	A・II	N63E39	—	土器(第80図498)
SP－244	A・II	N62E38	18	
SP－245	A・II	N52E49	30	
SP－246	A・II	N65E40	20	
SP－247	A・II	N71E43	17	
SP－248	A・II	N70E45	10	
SP－249	A・II	N71E42	49	土器(第80図499)
SP－250	A・II	N61E35	29	
SP－251	A・II	N31E19	12	
SP－252	A・II	N62E35	27	
SP－253	A・II	N62E34	23	
SP－254	A・II	N61E35	9	打製石斧(第88図130)
SP－255	A・II	N31E19	30	
SP－256	A・II	N51E23	43	
SP－257	A・II	N71E49	14	
SP－258	A・II	N40E35	27	
SP－259	A・II	N68E44	15	
SP－260	A・II	N67E43	4	
SP－261	C・I	N20W8	25	
SP－262	C・I	N17W7	24	
SP－263	C・I	N14W5	23	
SP－264	C・I	N23E12	47	
SP－265	C・I	N22E12	41	
SP－266	C・I	N23E11	14	
SP－267	C・I	N5W10	19	
SP－268	C・I	N16W7	12	
SP－269	C・I	N16W7	55	
SP－270	C・I	N13E0	31	
SP－271	C・I	N12W1	18	
SP－272	C・I	N15E1	24	
SP－273	C・I	N13W3	44	
SP－274	C・I	N21E3	8	
SP－275	C・I	N25E0	34	
SP－276	C・I	N29E10	17	
SP－277	C・I	N4W3	23	
SP－278	C・I	N3W2	13	
SP－279	C・I	N9W2	9	
SP－280	C・I	N17E7	14	
SP－281	C・I	N17E8	5	
SP－282	C・I	N11E5	44	
SP－283	C・I	N10E7	69	
SP－284	A・II	N70E49	9	
SP－285	C・I	N41E0	57	
SP－286	C・I	N12E9	21	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－287	C・I	N23E8	5	
SP－288	C・I	N39E4	21	
SP－289	C・I	N39E4	27	
SP－290	C・I	N39E3	31	
SP－291	C・I	N39E3	24	ST－01柱穴
SP－292	C・I	N8E15	18	
SP－293	C・I	N13E7	7	
SP－294	C・I	N40E2	30	ST－01柱穴筒状鉄製品(第93図④)
SP－295	C・I	N41E3	25	
SP－296	C・I	N41E3	41	
SP－297	C・I	N42E2	37	ST－01柱穴
SP－298	C・I	N41E1	40	
SP－299	C・I	N40E6	16	ST－01柱穴
SP－300	C・I	N40E5	42	
SP－301	C・I	N42E6	8	
SP－302	C・I	N42E5	11	ST－01柱穴
SP－303	C・I	N43E5	24	ST－01柱穴
SP－304	C・I	N15E7	6	ST－01柱穴
SP－305	C・I	N20E11	11	
SP－306	C・I	N39E1	63	
SP－307	C・I	N38W2	20	
SP－308	C・I	N38W1	13	
SP－309	C・I	N18E9	56	
SP－310	C・I	N41E8	12	ST－01柱穴
SP－311	C・I	N42E8	12	ST－01柱穴
SP－312	C・I	N27E1	18	
SP－313	C・I	N40E6	14	ST－01柱穴
SP－314	C・I	N43E8	43	
SP－315	C・I	N40E4	20	
SP－316	C・I	N41E6	28	ST－01柱穴鉄釘(第93図⑧)
SP－317	A・II	N27E18	23	
SP－318	C・I	N46E3	20	
SP－319	C・I	N46E4	18	
SP－320	C・I	N40E8	12	ST－01柱穴
SP－321	C・I	N39E9	13	ST－01柱穴
SP－322	C・I	N38E9	21	ST－01柱穴
SP－323	C・I	N43E4	22	
SP－324	C・I	N42E4	11	
SP－325	C・I	N42E4	29	
SP－326	C・I	N38E7	16	
SP－327	C・I	N38E6	20	ST－01柱穴
SP－328	C・I	N19W3	12	
SP－329	C・I	N38E9	14	ST－01柱穴
SP－330	C・I	N37E9	18	ST－01柱穴
SP－331	C・I	N8E14	5	
SP－332	C・I	N10E13	8	
SP－333	C・I	N11E15	14	
SP－334	C・I	N37W8	67	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－335	C・I	N38W9	21	
SP－336	C・I	N11E13	11	
SP－337	C・I	N12E14	20	
SP－338	C・I	N35W10	—	
SP－339	C・I	N35W10	20	
SP－340	C・I	N40W10	16	
SP－341	C・I	N39W14	8	
SP－342	C・I	N38W14	15	
SP－343	C・I	N37W12	20	
SP－344	C・I	N38E3	30	ST－01柱穴
SP－345	C・I	N37E3	7	ST－01柱穴
SP－346	C・I	N37E4	17	
SP－347	C・I	N40E1	58	
SP－348	C・I	N20E11	16	
SP－349	C・I	N20E11	8	
SP－350	C・I	N15W1	8	
SP－351	C・I	N1E3	71	
SP－352	C・I	S1E2	50	
SP－353	C・I	N0E4	22	
SP－354	C・I	N0E2	15	
SP－355	C・I	N0E4	3	
SP－356	C・I	N8W4	15	
SP－357	C・I	N11E11	16	
SP－358	C・I	N7E2	35	
SP－359	C・I	N19E4	26	
SP－360	C・I	N6E12	21	
SP－361	C・I	N16W4	13	
SP－362	C・I	N6E9	36	
SP－363	C・I	N20E11	15	
SP－364	C・I	N9E11	20	
SP－365	C・I	N12E5	13	
SP－366	C・I	N10E4	59	
SP－367	C・I	N2W1	6	
SP－368	C・I	N2W1	27	
SP－369	C・I	N6E2	5	
SP－370	C・I	N3W1	26	
SP－371	C・I	N10W4	6	
SP－372	C・I	N4W2	14	
SP－373	C・I	N18W6	8	
SP－374	C・I	N19W2	10	
SP－375	C・I	N25E6	18	
SP－376	C・I	N25E6	15	
SP－377	C・I	N26E7	31	
SP－378	C・I	N25E7	15	
SP－379	C・I	N25E9	23	
SP－380	C・I	N22E8	41	
SP－381	C・I	N22E7	9	
SP－382	C・I	N36E7	30	ST－01柱穴

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－383	C・I	N36E8	24	
SP－384	C・I	N39W13	14	
SP－385	C・I	N39W13	15	
SP－386	C・I	N40W14	28	
SP－387	C・I	N40W14	4	
SP－388	C・I	N41W14	21	
SP－389	C・I	N41W13	24	
SP－390	C・I	N35E4	12	ST－01柱穴
SP－391	C・I	N38E3	19	
SP－392	C・I	N41E5	17	
SP－393	C・I	N11E9	—	
SP－394	C・I	N44E7	4	
SP－395	C・I	N43E6	5	
SP－396	C・I	N35E4	—	ST－01柱穴
SP－397	C・I	N41W3	26	SA－01柱穴
SP－398	C・I	N40W3	18	
SP－399	C・I	N36E1	11	
SP－400	C・I	N43E8	11	ST－01柱穴
SP－401	C・I	N41W4	30	SA－01柱穴
SP－402	C・I	N40W5	9	SA－01柱穴
SP－403	C・I	N37W10	48	
SP－404	C・I	N35W12	29	
SP－405	C・I	N35W12	17	
SP－406	C・I	N36W14	17	
SP－407	C・I	N39W15	17	
SP－408	C・I	N20E2	24	
SP－409	C・I	N40W9	13	
SP－410	C・I	N19W4	22	
SP－411	C・I	N22W2	12	
SP－412	C・I	N23E0	25	
SP－413	C・I	N42W1	16	SA－01柱穴
SP－414	C・I	N43E0	32	SA－01柱穴常滑甕片（第6表8）
SP－415	C・I	N22W4	19	
SP－416	C・I	N24W2	14	
SP－417	C・I	N21W2	8	
SP－418	C・I	N44E2	30	SA－01柱穴
SP－419	C・I	N22W8	23	
SP－420	C・I	N24W7	8	
SP－421	C・I	N22W8	16	
SP－422	C・I	N23E3	7	
SP－423	C・I	N20E6	—	
SP－424	C・I	N17E7	9	
SP－425	C・I	N15E8	29	
SP－426	C・I	N16E8	10	
SP－427	C・I	N18E8	14	
SP－428	C・I	N19E8	26	
SP－429	C・I	N20E8	8	
SP－430	C・I	N22E6	15	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－431	C・I	N22E5	6	
SP－432	C・I	N29W10	10	
SP－433	C・I	N29W9	11	
SP－434	C・I	N25E12	13	
SP－435	C・I	N25E11	14	
SP－436	C・I	N23E8	13	
SP－437	C・I	N44E3	21	
SP－438	C・I	N44E1	13	
SP－439	C・I	N44E1	20	
SP－440	C・I	N45E3	12	
SP－441	C・I	N45E3	33	
SP－442	C・I	N45E5	12	
SP－443	C・I	N46E4	26	
SP－444	C・I	N33W23	23	
SP－445	C・I	N31W23	19	
SP－446	C・I	N31W21	44	
SP－447	C・I	N31W20	32	
SP－448	C・I	N30W23	9	
SP－449	C・I	N29W18	16	
SP－450	C・I	N29W16	25	
SP－451	C・I	N26W20	27	
SP－452	C・I	N26W23	9	
SP－453	C・I	N30W23	16	
SP－454	C・I	N26W18	32	
SP－455	C・I	N25W19	20	
SP－456	C・I	N36W21	11	
SP－457	C・I	N36W20	12	
SP－458	C・I	N36W19	22	
SP－459	C・I	N36W18	—	
SP－460	C・I	N36W19	10	
SP－461	C・I	N37W30	13	
SP－462	C・I	N40W29	14	
SP－463	C・I	N34W22	11	
SP－464	C・I	N39W21	9	
SP－465	C・I	N39W21	11	
SP－466	C・I	N39W21	22	
SP－467	C・I	N39W20	8	
SP－468	C・I	N36W20	26	
SP－469	C・I	N38W23	11	
SP－470	C・I	N38W23	13	
SP－471	C・I	N24W25	43	
SP－472	C・I	N13E7	18	
SP－473	C・I	N15E3	7	
SP－474	C・I	N36W17	12	
SP－475	C・I	N32W17	18	
SP－476	C・I	N32W16	8	
SP－477	C・I	N31W17	49	
SP－478	C・I	N33E0	9	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－479	C・I	N32E10	4	
SP－480	C・I	N37E9	11	ST－01柱穴
SP－481	C・I	N42E5	10	
SP－482	C・I	N30W16	—	
SP－483	C・I	N32W30	23	
SP－484	C・I	N32W32	20	
SP－485	C・I	N46E8	10	
SP－486	C・I	N33W32	9	
SP－487	C・I	N34W32	9	
SP－488	C・I	N32W34	8	
SP－489	C・I	N31W35	25	
SP－490	C・I	N31W35	17	
SP－491	C・I	N35W36	22	
SP－492	C・I	N37W37	22	
SP－493	C・I	N37W32	36	
SP－494	C・I	N25E1	14	
SP－495	C・I	N36W37	26	
SP－496	C・I	N35W31	34	
SP－497	C・I	N31W34	25	
SP－498	C・I	N33W2	8	
SP－499	C・I	N44E5	12	
SP－500	C・I	N34E1	5	
SP－501	C・I	N20E3	7	
SP－502	C・I	N20E3	9	
SP－503	C・I	N11E2	20	
SP－504	C・I	N26W31	14	
SP－505	C・I	N26W27	20	
SP－506	C・I	N35W33	12	
SP－507	C・I	N35W33	45	
SP－508	C・I	N29W42	36	
SP－509	C・I	N29W40	26	
SP－510	C・I	N28W41	14	
SP－511	C・I	N39W31	38	
SP－512	C・I	N39W31	20	
SP－513	C・I	N38W33	15	
SP－514	C・I	N37W34	39	
SP－515	C・I	N43W21	27	
SP－516	C・I	N42W23	9	
SP－517	C・I	N49W4	6	
SP－518	C・I	N43W21	16	
SP－519	C・I	N43W28	10	
SP－520	C・I	N17W24	21	
SP－521	C・I	N16W24	16	
SP－522	C・I	N16W24	7	
SP－523	C・I	N19W23	19	
SP－524	C・I	N19W23	19	
SP－525	C・I	N19W23	37	中世土師器皿(第93図6)
SP－526	C・I	N14W23	41	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－527	C・I	N12W23	13	
SP－528	C・I	N55W17	13	
SP－529	C・I	N44W24	23	
SP－530	C・I	N44W24	18	
SP－531	C・I	N56W15	12	
SP－532	C・I	N0W28	10	
SP－533	C・I	S1W29	26	
SP－534	C・I	S2W28	32	
SP－535	C・I	S2W27	53	
SP－536	C・I	N1W27	13	
SP－537	C・I	N28W15	29	
SP－538	C・I	N2W32	30	
SP－539	C・I	N5W33	13	
SP－540	C・I	N8W33	15	
SP－541	C・I	N8W29	11	
SP－542	C・I	N7W25	19	
SP－543	C・I	N8W26	15	
SP－544	C・I	N7W28	6	
SP－545	C・I	N8W27	10	
SP－546	C・I	N46E1	22	
SP－547	C・I	S5W27	11	
SP－548	C・I	N7W28	16	珠洲甕片(第93図13)
SP－549	C・I	N47W18	19	
SP－550	C・I	N1W21	14	
SP－551	C・I	N1W20	12	
SP－552	C・I	S2W22	6	
SP－553	C・I	N46W33	21	
SP－554	C・I	N12W24	30	
SP－555	C・I	N56W15	11	
SP－556	C・I	N29E8	6	
SP－557	C・I	S1E2	11	
SP－558	C・I	N43E1	67	
SP－559	C・I	N40W18	55	
SP－560	C・I	N28W16	6	
SP－561	C・I	N8W10	18	
SP－562	C・I	N11E12	40	
SP－563	C・I	N11E12	42	
SP－564	C・I	N18W23	24	
SP－565	C・Ⅲ	N21W43	19	
SP－566	C・Ⅲ	S9W32	50	
SP－567	C・Ⅲ	S9W36	11	
SP－568	C・Ⅲ	S10W38	61	
SP－569	C・Ⅲ	N1W34	23	
SP－570	C・Ⅲ	N1W34	22	
SP－571	C・Ⅲ	N0W33	16	
SP－572	C・Ⅲ	N9W39	23	
SP－573	C・Ⅲ	N5W36	38	
SP－574	C・Ⅲ	N5W35	16	

遺構No.	地区	グリッド	深さ	備考
SP－575	C・Ⅲ	S3W40	22	
SP－576	C・Ⅲ	S8W31	18	
SP－577	C・Ⅲ	N21W44	6	
SP－578	C・Ⅲ	N23W44	12	
SP－579	C・Ⅲ	N29W44	35	
SP－580	C・Ⅲ	N26W43	9	
SP－581	C・Ⅲ	N26W43	34	
SP－582	C・Ⅲ	S9W41	12	
SP－583	C・Ⅲ	N25W45	57	
SP－584	C・Ⅲ	N25W45	33	
SP－585	C・Ⅲ	N19W49	10	
SP－586	C・Ⅲ	N21W50	12	
SP－587	C・Ⅲ	N23W50	13	
SP－588	C・Ⅲ	N24W50	14	
SP－589	C・Ⅲ	N29W50	46	
SP－590	C・Ⅲ	N31W56	10	
SP－591	C・Ⅲ	N11W47	12	
SP－592	C・Ⅲ	N11W45	11	
SP－593	C・Ⅲ	S1W49	13	
SP－594	C・Ⅲ	S8W50	14	
SP－595	C・Ⅲ	N14W47	24	
SP－596	C・Ⅲ	S10W47	24	
SP－597	C・Ⅲ	S12W49	15	
SP－598	C・Ⅲ	S12W52	5	
SP－599	C・Ⅲ	S11W52	18	
SP－600	C・Ⅲ	S6W58	15	
SP－601	C・Ⅲ	S7W58	13	
SP－602	C・Ⅲ	S7W59	39	
SP－603	C・Ⅲ	S21W64	6	
SP－604	C・Ⅲ	S5W65	16	
SP－605	C・Ⅲ	S15W64	75	
SP－606	C・Ⅲ	S16W64	68	
SP－607	C・Ⅲ	S17W63	51	
SP－608	C・Ⅲ	S17W62	89	
SP－609	C・Ⅲ	S14W61	13	
SP－610	C・Ⅲ	S4W35	8	
SP－611	C・Ⅲ	N31W50	15	
SP－612	C・Ⅲ	N31W47	20	
SP－613	C・Ⅲ	S7W55	40	
SP－614	C・Ⅲ	S16W46	22	
SP－615	C・Ⅲ	S7W59	20	
SP－616	C・Ⅲ	S16W61	43	
SP－617	C・Ⅲ	S9W64	11	
SP－618	C・Ⅲ	S5W60	11	
SP－619	C・Ⅲ	S3W64	12	
SP－620	C・Ⅲ	S13W60	23	
SP－621	C・Ⅳ	N18W87	11	
SP－622	C・Ⅳ	N17W98	14	
SP－623	C・Ⅳ	N20W83	10	
SP－624	C・Ⅲ	N26W52	15	
SP－625	C・Ⅳ	N21W100	17	
SP－626	C・Ⅳ	N0W100	18	
SP－627	C・Ⅴ	S15W105	12	
SP－628	C・Ⅴ	S13W105	18	
SP－629				欠番
SP－630	C・Ⅳ	N22W87	16	ST－02柱穴
SP－631	C・Ⅳ	N22W87	24	ST－02柱穴
SP－632	C・Ⅳ	N20W87	39	ST－02柱穴
SP－633	C・Ⅳ	N18W86	17	ST－02柱穴
SP－634	C・Ⅳ	N18W84	46	ST－02柱穴
SP－635	C・Ⅳ	N20W84	39	ST－02柱穴
SP－636	C・Ⅳ	N22W85	18	ST－02柱穴
SP－637	C・Ⅳ	N21W83	15	
SP－638	C・Ⅳ	N19W83	15	
SP－639	C・Ⅳ	N18W84	29	
SP－640	C・Ⅳ	N18W84	17	
SP－641	C・Ⅱ	N3W9	18	
SP－642	C・Ⅱ	S8W6	21	
SP－643	C・Ⅱ	N2W13	5	
SP－644	D・Ⅲ	N6W180	24	
SP－645	D・Ⅲ	N9W182	18	
SP－646	D・Ⅲ	N3W171	18	
SP－647	D・Ⅲ	S6W172	14	石錐(第83図39)
SP－648	D・Ⅲ	S6W174	7	
SP－649	D・Ⅲ	S0W173	10	土器(第62図85)
SP－650	D・Ⅲ	S2W175	6	
SP－651	D・Ⅲ	N6W169	9	
SP－652	D・Ⅲ	S3W169	12	
SP－653	D・Ⅲ	S14W172	36	土器(第62図86)
SP－654	D・Ⅲ	S3W171	6	
SP－655	D・Ⅲ	N2W175	12	
SP－656	D・Ⅲ	S12W174	21	土器(第62図87)
SP－657	D・Ⅲ	N3W171	22	磨石類(第89図143)
SP－658	D・Ⅲ	N8W174	42	
SP－659	D・Ⅲ	N2W171	36	土器(第72図341) 打製石斧(第86図92)

・　深さは、検出面から最深部までの垂線の長さ（cm）で表した。検出面が傾斜している場合は高低の平均値を検出面の高さとした。

・　グリッドは、ピットがひとつのグリッド内にある場合はそのグリッド名を、複数グリッドにまたがる場合は、多くかかっているグリッド名を記載した。

239はこれに伴うものと、SK－368は壁に拳大程度の石を配しており水溜め状の遺構かと、SD－03に接する位置にあるSK－271も覆土の観察から水溜状遺構かと思われるが、これ以外は性格を判断し難い。なお落とし穴と思われる土壙（SK－346・434・559・605・619）が5基認められた。出土遺物はないが、縄文時代中期の住居址を切って構築されており古いものではない。一応中世の時期を考えておきたい。

（3） ピット（第2表）

総数659基が認められた。個別に図化及び記述することは紙数の関係上難しいので、所在グリッドと深さ等のデーターのみ一覧表に掲載した。また遺構検出の段階で「SP」と冠し、その後掘立柱建物址や柵列の柱穴等と判断したものも含まれている。遺構番号の付け替えをしなけらばならないところであるが、覆土の記録、写真撮影の記録簿、遺物ラベル等を修正するとなると煩雑となり、誤謬も生じる可能性があったためそのままとしている。

（4） 集石遺構（第52図）

SH－001～011とSK－166が該当し、総数12基である。分布はA・Ⅱ区からC・Ⅲ区の範囲で、C・Ⅰ区の南西側、C・Ⅲ区の南側に数基のまとまりがある。ただいずれも事業地の中央にある谷へと傾斜した範囲にあり、竪穴式住居址の分布範囲と合致する。以下いくつか取り上げ記述していく。

① SH－001

位置：A・Ⅱ区の南西側、N50E33グリッド周辺。　　**切り合い**：ない。

形状：平面形は径114～125cmを測る不整円形を呈する。深さ56cmを測る鍋底状の掘り方底面には、8個の平石が花弁状に平たく敷かれ、その上部に角礫をあまり隙間なくぎっしり充満させていた。底面の平石とその上部の角礫の間、掘り方の壁際には炭化材があり、壁は被熱により赤く焼土化していた。また平石も角礫も被熱痕が顕著に認められた。

覆土：6層の堆積を認めた。

遺物：出土していない。

時期：推測の域をでないが、各遺構の分布状況から考えて、縄文時代前期末～中期初頭の帰属時期をあたえるのが妥当と思われる。

② SH－002

位置：C・Ⅰ区の南東側、N4E0グリッド周辺。　　**切り合い**：SB－04に切られる。

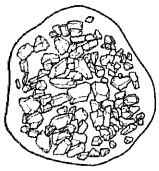
形状：平面形は径136～142cmを測る円形を呈する。SH－002全掘後の深さは72cmを測るが、集石遺構として最後に機能していた時点での深さは32cmである。円礫や角礫がやや中央によった状態で認められ、炭化材は礫のない壁際に寄っている状況を観察できた。礫の充填状況は、SH－001の様に上から下までぎっしりという状態ではなく、3層上面に厚みをあまりもたずおかれたという感である。3層の上面は、中央を主として赤く被熱化が認められ、礫も被熱痕が顕著に認められた。

覆土：4層の堆積を認めた。3・4層はにぶい黄褐色土でしまりは弱く、角礫や炭化材の小片を含む。底面で被熱痕は認めなかったがこうした状況から考えると、当初は深さ72cmの掘り方をもつ集石遺構で、その後石を抜き解体され地山のローム層土を埋めて深さ32cmとし、再び集石遺構として機能させたのではないかと推定される。

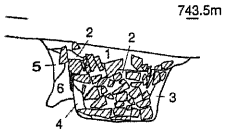
遺物：1層から土器片（第72図342・343）が出土した。なお2片掲載したが、同一個体の可能性が高い。

SH-001

上面



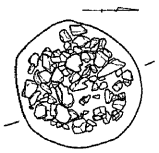
下底面



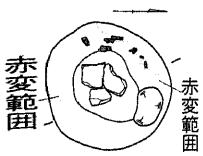
1：10YR2/1　黒　しまり・粘性無　1mmローム粒・1mm焼土粒少量、炭中量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり無くサラサラな微小ローム粒を多く含む　部分的に炭化物少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり普通　微量のローム粒子の他、炭化物・焼土粒多く含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無くサラサラ　焼土粒多く含む他炭化物少量含む
5：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり稍硬く指頭大のロームブロック・ローム粒多く含む　壁側の一部焼土化
6：10YR4/4　褐　しまり普通　ローム粒多く、指頭大ロームブロック少量含む　炭化物少量混入する

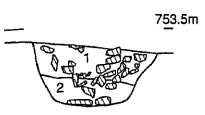
SH-007

上面



下底面

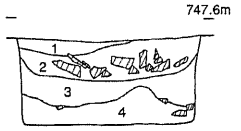




1：10YR3/2　黒褐　しまり弱、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり良好、粘性稍有　ローム粒・炭粒・10～15mm炭化材片少量含む

SH-002

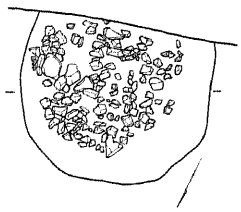
炭化材



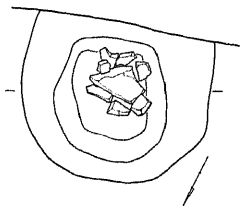
1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒及び3～10mmロームブロック少し、炭稍多く含む
2：10YR3/1　黒褐　しまり弱、粘性有　ローム粒及び3～5mmロームブロック稍多く、焼土粒及び炭化物多く含む
3：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり弱くボソボソ、粘性有　ローム質土を主とし暗褐色土（10～15%）混入　5～10mmロームブロック多く、拳大の角礫・炭化材小片少し含む
4：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり弱くボソボソ、粘性有　ローム質土を主とし暗褐色土（30%）及び5～15mm小石多く混入　5～10mmロームブロック多く、拳大の角礫稍多く、炭化材小片多く含む

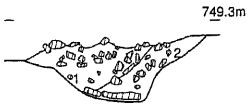
SH-003

上面



下底面

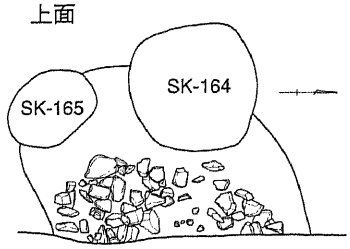




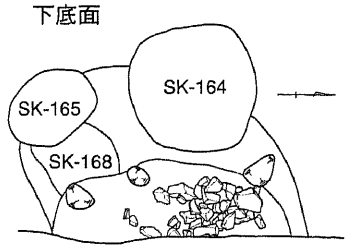
1：10YR3/1　黒褐　しまり弱、粘性弱　焼礫及び破砕剥離片多く入る
2：10YR2/1　黒　しまり弱、粘性弱　焼礫及び破砕剥離片多く、炭化材・焼土粒やや多く含む

SK-166

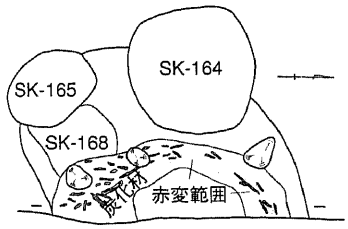
上面

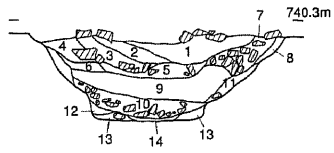


下底面



礫取除後





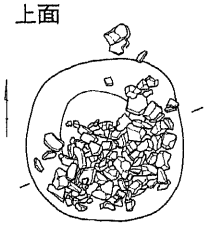
1：10YR3/3　暗褐　しまり普通、粘性有　ローム粒少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍弱く粘性弱　ローム粒を霜降り状に稍多く含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性有　ローム粒・3～5mm大ロームブロックを稍多く含む
4：10YR3/2　黒褐　しまり良く粘性有　ローム粒少量、焼土粒・炭粒を稍多く含む
5：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり粘性共に弱く、ローム粒・5～10mmのロームブロックを多く含む
6：10YR5/4　にぶい黄褐　しまり弱く粘性強い　ロームブロック・焼土ブロック・炭化材多く含む
7：10YR3/4　暗褐　しまり粘性共に弱い　ローム粒微量含む
8：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり普通、粘性有　ローム粒・ロームブロック稍多く含む
9：2.5YR6/6　明黄褐　しまり硬く粘性有　ローム土そのもの　人為的埋戻し土
10：10YR5/2　灰黄褐　しまり粘性共に弱　ローム粒・炭化材少量含む
11：10YR2/1　黒　しまり弱く粘性有　炭化材多く含む　炭化物層
12：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり粘性共に弱　ローム粒・焼土粒共に多く含む
13：10YR5/3　にぶい黄褐　しまり稍弱く粘性有　ローム粒の他、灰と思われる微粒物質多く含む
14：10YR3/2　黒褐　しまり稍強く粘性有　ローム粒・焼土粒少量、灰？・炭化材含む

SH-009

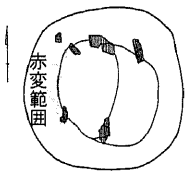
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性有　炭化材小片・炭粒やや多く、2～5mm小石少量、焼礫の破砕小片微量含む

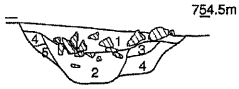
SH-010

上面



下底面



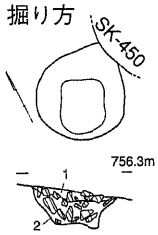


1：10YR3/1　黒褐　しまり普通、粘性稍有　炭粒やや多く、5～15mm小石・砕けた焼礫小片と粉砕粉含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍弱、粘性乏しい　炭化材・炭化物多量、破砕礫小片～5cm礫少量含む
3：10YR2/1　黒　しまり稍硬、粘性有　暗褐色土30～40%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり稍弱、粘性有　炭化物多く、焼土粒・5～10mm小石少量含む
5：10YR4/6　褐　しまり・粘性強　ローム粒稍多く含む　2層との境界は焼土化して赤変

SH-011

上面

掘り方



1：10YR3/1　黒褐　しまり弱、粘性有　ローム粒含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性有　炭化材・炭粒多く含む　炭化材は壁際から掘り方底面に集中

0　1m

第52図　集石遺構（S＝1／60）

時期：伴出土器は縄文時代前期末のものであり、概ねこの時期の所産と考えられる。

③ SH－003

位置：C・Ⅰ区の南端、S９W14グリッド周辺。　　**切り合い**：ない。

形状：南側は調査区域外まで及ぶが、概ね円形を呈すると推測され、東西で150cm 程度を測る。掘り方は深さ40cm 程度の断面形擂鉢状を呈す。SH－001と同じく、底面には平石が７個敷かれ、その上部に角礫や円礫、角礫が剥離した薄片を充填しているが、SH－001程密集していない。壁面に赤化範囲は認められなかったが、礫には被熱痕が認められた。

覆土：２層を確認した。２層には炭化材を多く含んでいたが、材の形状を留めている様なものは認められなかった。

遺物：集石を構成する礫の中から磨石らしきものを認めたが、被熱が著しく使用痕が観察できる状況ではなかった。それ以外は見られなかった。

時期：土器が出土しなかったので推測の域をでないが、周囲には縄文時代前期末～中期初頭の遺構が分布するので、この時期の所産とするのが妥当であろうか。

④ SH－007

位置：C・Ⅲ区の中央、N15W41グリッド周辺。　　**切り合い**：ない。

形状：平面形は径96～99cm の円形を呈し、断面形は擂鉢状で深さ40cm を測る。掘り方の底部には平石を３個敷き、その上部に径３cm から長径20cm 程の円礫を主に充填しているが、密集度はそれほどでもない。材の形状をあまり留めていない炭化材が西壁際に認められ、その周囲の壁が主に赤く焼土化していた。礫には被熱痕が認められた。

覆土：２層の堆積を確認した。１層も２層も黒褐色土であるが、２層には15mm 程度までの細かくなった炭化材片が１層より多く観察された。

遺物：黒曜石の剥片が２点出土したのみである。

時期：伴出土器を欠き時期の特定にはいたらないが、この周辺には縄文時代前期末～中期初頭の土壙がまとまっているため、この時期の所産である可能性が高いと思われる。

⑤ SH－008

位置：C・Ⅲ区の南寄、S７W48グリッド周辺。　　**切り合い**：ない。

形状：掘り方は確認できなかったが、検出面にて110×70cm 程の範囲に焼礫15個程のまとまりが認められ、礫の周辺に炭化物の散在を見た。

覆土：ない。

遺物：礫の散在する範囲内から、胎土に繊維を含む土器細片等３点が出土した。

時期：伴出土器から判断して、縄文時代早期末の所産と思われる。

⑥ SH－009

位置：C・Ⅲ区の南側、S10W54グリッド周辺。　　**切り合い**：ない。

形状：平面形は隅丸方形状を呈し71×62cm を測る。断面形は皿状で深さ13cm を測る。底面からやや浮いた状況で３～10cm の角礫が15個弱認められた。底面や壁面に赤化範囲は認められなかったが、礫に被熱痕が認められた。

覆土：黒褐色土の単層で、炭化材の小片や炭粒をやや多く含んでいた。
遺物：ない。
時期：伴出遺物がないため時期の特定はできない。周囲には縄文時代前期末～中期初頭の土壙や竪穴式住居址が広がっているが、同時期と思われる他の集石遺構と形状の差異が大きい。SH－008より早期末の土器片が出土したこともあるので、時期不明としておく。

⑦ SH－010

位置：C・Ⅲ区の南側、S9W56グリッド周辺。
切り合い：切り合いはないが、SH－009が南東1mの箇所に隣接する。
形状：平面形は124～128cmを測る円形。断面形は深さ42cmを測る擂鉢状であるが、穴が埋没しきらない段階で掘り返しを行い再利用しているため、完掘後の底面には段がつく。幼児の拳大から長径20cmまでの角礫や亜円礫200個程が充填されており、西壁には赤く焼土化した箇所を認めた。礫には被熱痕が認められた。
覆土：5層の堆積を観察した。3～5層を切る状況で2層が確認できるため、3層堆積後に掘り返しが行われたことが分かる。ただし3層は、地山の土と考えられる暗褐色土を30～40%含む黒色土でしまりがあるため、掘り返しの際に人為的に埋め掘り方の形状を整えたものかと考えられる。
遺物：土器の細片が1点出土したのみである。
時期：伴出土器は縄文時代前期末のものと思われる。同時期と考えられる他の集石と類似するため、この時期の所産と思われる。

⑧ SH－011

位置：C・Ⅲ区の南側、S10W66グリッド周辺。　**切り合い**：SK－450に切られる。
形状：平面形は径70cm程の円形で、深さ24cmを測る断面擂鉢状の掘り方を有する。底面からぎっしりと円礫や角礫が充填されており、炭化材が壁際から底面にかけて存在する。底面や壁面に顕著な赤化範囲は認められなかったが、礫には被熱痕が見られた。
覆土：2層の堆積を観察した。2層には炭化材や炭粒を多く含む。1層はローム粒を多く含みしまりもない。
遺物：出土していない。
時期：伴出土器がないため時期の特定はできない。周囲には縄文時代前期末～中期初頭の土壙や竪穴式住居址が分布するので、この時期の所産である可能性が高い。

⑨ SK－166

位置：A・Ⅱ区の東端、N54E55グリッド周辺。東側半分は調査区域外へ及ぶ。
切り合い：SK－164・165に切られ、SK－168を切る。
形状：東側半分が調査区域外のため推測となるが、平面形は東西方向に長い不整円形を呈すと思われ、短径で180cm程度である。断面形は段を有しながら底面へと到る擂鉢状を呈し、深さ70cmを測る。覆土の観察から3次にわたる利用が認められたが、礫はいずれも3cm程度から人頭程の大きさの円礫・角礫が充填されており、被熱痕が観察された。炭化材は1次利用の際のものが顕著で、壁に張り付く様に存在し壁の焼土化も認められる。2次利用時のものは細片のみで、1次利用のものは上部が削平されており確認できない。
覆土：14層の堆積を観察した。先述のとおり3次の利用を考えることができる。9層は地山のローム層土そ

のもので、人為的に埋められた土と思われる。よってその下位にある10～14層が１次利用に相応する堆積で、上位が２次利用以降の堆積と考えられる。また１層は暗褐色土で炭化材や礫を含まず、その上面に焼礫が数個乗る状況である。よってその下位となる２～８層が２次利用に相応する堆積で、１層が埋められた土、１層の上面に乗る焼礫が３次利用によるものと考えられる。

遺物：縄文前期末～中期初頭の土器片、時期不明の胎土に繊維を含む土器片、黒曜石剥片、各１点出土した。

時期：伴出土器は２時期混在するが、周囲には縄文時代前期末～中期初頭の土壙が広がっており、古い時期の土器を混入品と見れば、新しい土器の時期である可能性の方が高いと思われる。

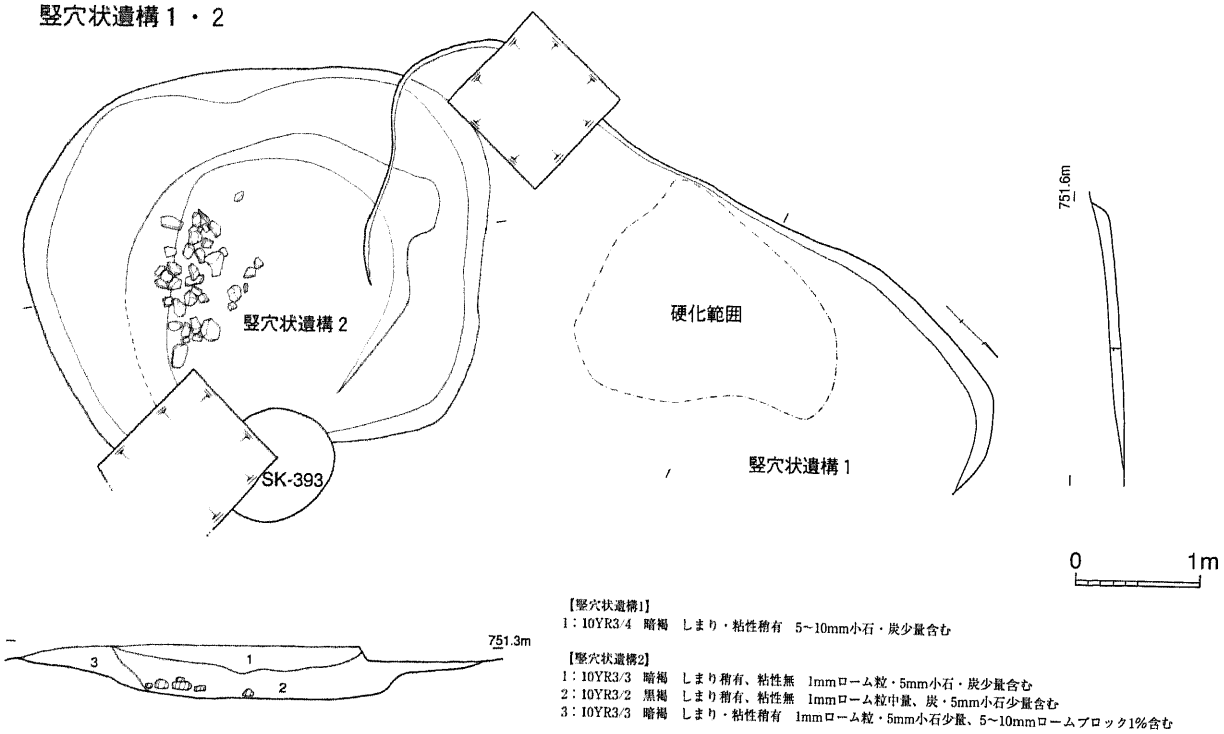
（５） 竪穴状遺構（第53図）

竪穴式住居址の様に広い掘り方を有すが、柱穴や炉址がないものを竪穴状遺構としてあつかった。C・I区の北側にて２基が切り合い関係を持って検出された。

竪穴状遺構１はN44W33グリッド周辺にあり、竪穴状遺構２を切る。東側は掘り方を確認できなかったが、削平されて残存していないのか、傾斜面に構築したため低い方である東側は掘り方を持たなかったのか判断つかない。南北で5.5m程、西側の壁は最大で18cmを測る。中央部周辺は床面が硬くしまっている状況を確認できた。遺物は出土しなかった。

竪穴状遺構２はN41W30グリッド周辺にあり、竪穴状遺構１とSK－393に切られる。平面形は南辺が張る隅丸方形状で、長径3.8m、短径3.1mを測る。掘り方は最深で42cmを測り、底部へゆるやかな傾斜で掘りこまれ壁に段を有す。底面に硬化した箇所は見られず、柱穴や炉址もない。南側の底面には、ほぼ接した状況で拳大から径20cm程度の円礫や角礫50個弱が遺存しており、礫間より鉄製品が出土した。遺物はこの鉄製品のみである。

いすれも伴出遺物に恵まれず時期の特定をできないが、周囲に中世前半期（鎌倉期）の土壙や掘立柱建物



第53図　竪穴状遺構（S＝１／60）

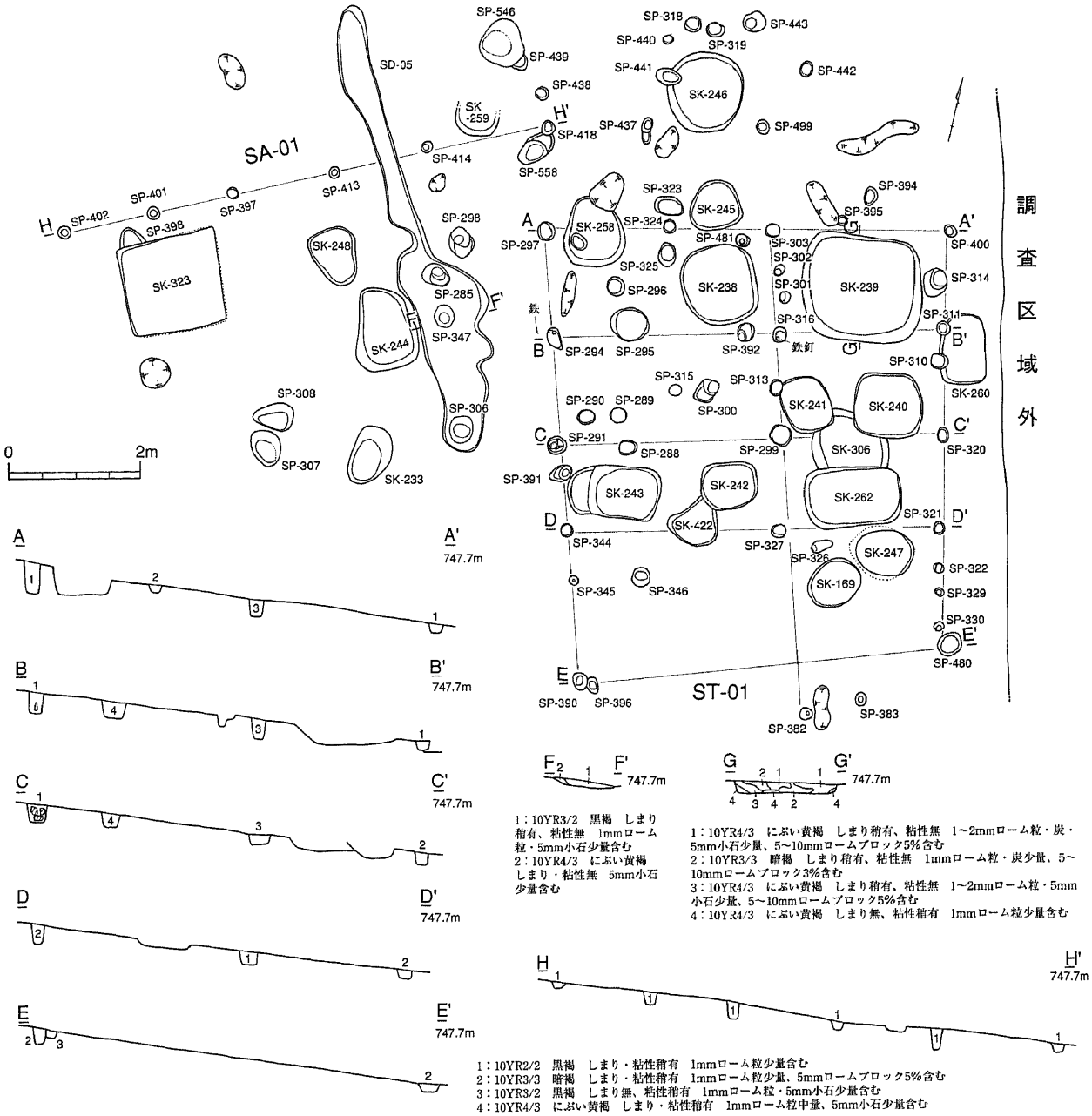
址があるので、この時期の所産である可能性が高い。

（6） 掘立柱建物址

ST－01・02の２基がある。またA・Ⅱ区の東端、N74E49グリッド周辺にもST－01と同じ状況と思われる範囲があるが、柱の並びをうまく捉えられず「ST」と冠さなかったものの、掘立柱建物址が存在した可能性が高い。なお遺構検出の段階で「SP」として遺構番号を付し、その後掘立柱建物址を構成する柱穴と判断しているが、これについては遺構番号の付け替えを行わずそのまま使用している。

① ST－01（第54図）

位置：C・Ⅰ区の東端、N40E６グリッド周辺。この場所は東側へと傾斜しており、遺構検出面での西と東

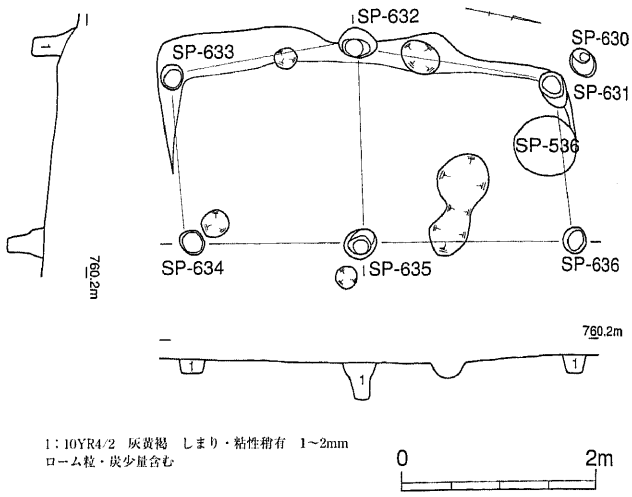


第54図　ST－01及び周辺遺構（S＝１／100）

の比高差は75cm程度ある。なお北東側には柵列SA－01、西側にはSD－05があり、この建物址に付随する施設と思われる。

形状：平面形はやや不規則な柱穴配置を示すが、長軸4.1m、短軸3.2～3.7mの台形を呈し、主軸方向はN－16°－Wを示す。柱穴は径10～20cm、深さ6～30cmを測り、平面形は円形のものから楕円形に歪む。柱はかなり不規則に配置されているが、2×4間と思われる。またSK－239は、掘立柱建物址内での位置関係から、建物址内に併設された土壙と考えられる。なおすぐ東側が調査区端であり、東側へと続く可能性も考えられる。

覆土：柱穴内の覆土は、黒褐色土と暗褐色土のものが認められた。



第55図　ST－02（S＝1／80）

出土遺物：SP－294からは筒状鉄製品（第93図④）が出土している。壁に沿う位置に立った状態で出土しており、柱の脇に埋められたと思われる。SP－316からは鉄釘（第93図⑧）が出土した。出土位置は壙の中央から南西に寄った位置である。SP－294の筒状鉄製品と同様に入れられたものか、埋設された柱に打ち込まれていたものと考える。

時期：柱穴から出土した遺物は鉄製品のみであり陶磁器はない。しかし周辺には中世前半期（鎌倉期）の遺構が分布しており、これと同時期である可能性が高い。

② **ST－02**（第55図）

位置：C・Ⅳ区の北東側、N20W84グリッド周辺。

形状：平面形はやや不規則な柱配置を示すが、長軸3.1m、短軸1.3～1.6mの長方形を呈し、1×2間の建物となる。この場所は東側へと傾斜した場所であるため、山側となる西側部分の地面を削り、水平面を作り出している。柱穴は平面形が円形または楕円形で径20～30cmを測り、深さは16～46cmである。

覆土：灰黄褐色土が観察された。

出土遺物：何も出土しなかった。

時期：周囲には縄文時代前期末～中期初頭の土壙と、中世後半期の火葬墓があるが、これと結びつけるのは強引だと感じる。伴出遺物がないため特定できないということにしておく。

（7）　柵列（第54図）

ピットが建物を構成せず直線的な配列をなすものを柵列として抽出し「SA」とした。ただし多様な時期の遺構が今回の調査では見つかっており、ただ並んでいるからと抽出したのでは誤謬を招くゆえ、確実にこれはというものしか選んでいない。よって1基のみの抽出であり、見落としも予想される。

SA－01は掘立柱建物址ST－01の北西にある。SP－402からSP－418までの並びを抽出した。なおSK－246と重なる位置に、現場で撹乱と判断し記録した掘り込みがあるが、今となってみるとこれがピットだったのかとも考えられ、これを含めてSP－442まで延ばしてもよいのではと思われる。各柱穴間は1.3～1.8mを測り、深さは9～32cmである。帰属時期についてであるが、SP－414から常滑焼の甕片が出土している。あまりに小さな破片で時期を特定できなかったが、周辺にある遺構の配置も加えて考えると、中世前半期（鎌

倉期）の所産である可能性が高いと思われる。

（8） 土壙墓（第56・57図、第3表）

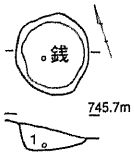
人骨が出土した土壙と銭貨が出土した土壙に加え、これら土壙に形状や覆土が類似するもの、特に礫を含む土壙を総合的に考えて土壙墓と判断した。人骨のみが出土したもの5基、人骨と銭貨が出土したもの2基、銭貨のみが出土したもの5基（SB－09と重なる位置にあり平面でその存在を捉え損ね、断面でその掘り方を確認したもの1基を含む）、骨粉らしきものが出土したもの1基、総合的に土壙墓と判断したもの10基、総計23基を数える。骨が残らなかったため、墓と特定できなかった土壙は他にもあるはずなので、総数が増えることは間違いない。

土壙墓の帰属時期は出土した銭貨から判断するしかないが、初鋳年が最も新しいのはSK－159出土の「朝鮮通寶」（初鋳年1425年）であり、「寛永通寶」がないことから考えて、中世後半期の土壙墓と見るのが妥当と思われる。土壙墓の形状は、平面形が楕円形（SK－258・396等）や隅丸長方形（SK－159・206等）を呈すものが多いものの、円形のもの（SK－140）も存在する。またSK－558は39×26cmと小型で、骨片と共に炭片が見られたことから、火葬骨を再葬したものと思われる。骨が比較的良く残っていたSK－159・396・446の埋葬姿勢は屈葬であり、頭は概ね北方向を向けている。SK－179は銭貨の出土位置と人骨の残存状況から、両手に銭貨を3枚づつ握らせて埋葬したのではないかと推測される。SK－446は埋葬した後に掘り方の半分程度土を入れ、その上に持ち上げるのも容易でない程の大石を3つ入れてあった。土葬で葬った経験のある年配の作業員は、土を掛けただけでは獣に掘り返されてしまうため、石を入れることがあったと話してくれた。鑑定で子供の骨と判明しており、絶対に掘り荒らされない様に手厚く埋葬したのではないか

第3表　土壙墓一覧表

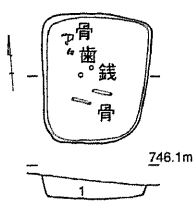
遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm) 長径	短径	深さ	出土遺物	切り合い関係 (>:切られる、<:切る、≒:不明)	備考
SK－140	A・Ⅱ	N26E21	64	55	19	銅銭(10)		
SK－159	A・Ⅱ	N24E17	103	85	12	銅銭6(11～16)		人骨出土
SK－206	C・Ⅰ	N15E13	114	84	11		>SK－295、<SB－05	
SK－208	C・Ⅰ	N25E10	124	85	17		<SK－283・SP－435	
SK－224	C・Ⅰ	N34W0	166	113	44			多少疑問？
SK－227	C・Ⅰ	N35E2	137	105	29		>SK－226	
SK－231	C・Ⅰ	N27E11	107	76	14		<SK－283	
SK－258	C・Ⅰ	N42E3	105	93	30	銅銭(18)	≒SP－348	
SK－267	C・Ⅰ	N6E7	103	75	24	土器小片1		多少疑問？
SK－277	C・Ⅰ	N30W14	155	95	11		<SK－420、≒SK－482	覆土中に骨粉らしきもの確認。
SK－295	C・Ⅰ	N15E13	78	78	31	土器小片2、チャート片2	<SB－05・SK－206	
SK－304	C・Ⅰ	N38W17	119	99	31			
SK－308	C・Ⅰ	N27W15	227	134	28	銅銭(19)	<SP－560・SD－03、≒SP－537	覆土中に骨粉らしきもの確認。
SK－309	C・Ⅰ	N24W20	144	140	13		<SK－284	
SK－311	C・Ⅰ	N13W1	127	77	32	土器小片2		
SK－383	C・Ⅰ	N49W14	180	－	21	銅銭(20・21)、打製石斧(121)	≒SK－278	
SK－388	C・Ⅰ	N56W17	190	160	27	銅銭(22)		人骨出土
SK－396	C・Ⅰ	N43W18	132	61	31			人骨出土
SK－446	C・Ⅲ	N11W67	－	56	39		SD－03埋没途中に掘削	人骨出土
SK－558	C・Ⅱ	S3W4	39	26	5		<SB－10	人骨・炭出土
SK－562	C・Ⅱ	S4W4	93	50	19		<SB－10	歯出土
SK－577	C・Ⅱ	S9W0	97	71	11			人骨出土

SK-140



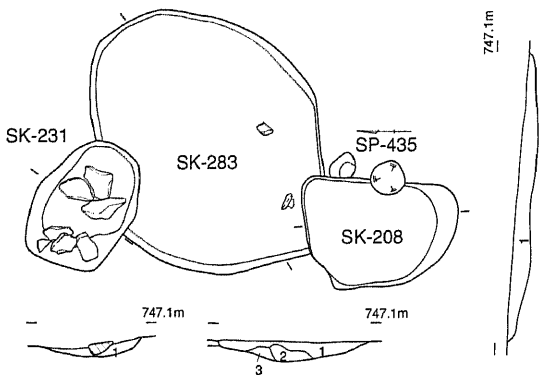
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む

SK-159



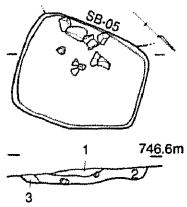
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%、炭少量含む

SK-208・231・283



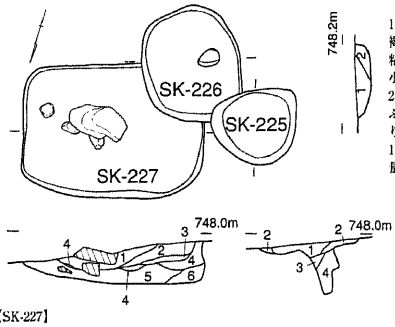
【SK-208】
1：10YR3/2　黒褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、5～10mmロームブロック10%含む
【SK-231】
1：10YR3/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、炭少量含む
【SK-283】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5～20mmロームブロック2%含む

SK-206



【SK-206】
1：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・炭少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒少量、炭中量、5mmロームブロック5%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む

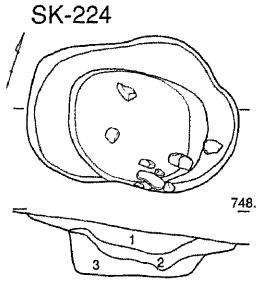
SK-225・226・227



【SK-225】
1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性有　1mmローム粒多量含む

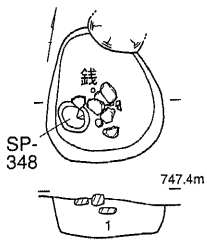
【SK-226】
1：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石少量含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり稍有、粘性有　1mmローム粒多量含む
3：10YR4/2　灰黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり有、粘性稍有　5mm小石少量、5～10mmロームブロック10%含む

SK-224



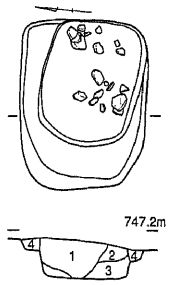
1：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む
2：10YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石少量、5～20mmロームブロック30%含む
3：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1mmローム粒・炭・5mm小石少量含む

SK-258



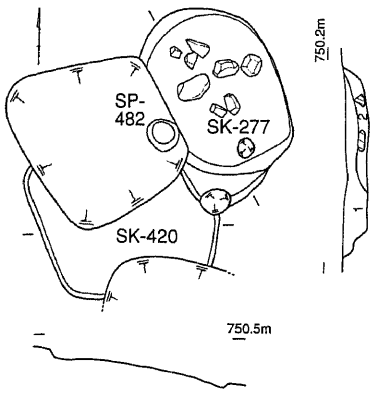
1：10YR3/4　暗褐　しまり稍有、粘性無　1mmローム粒中量、3～10mm小石・炭少量、5～10mmロームブロック3%含む

SK-267



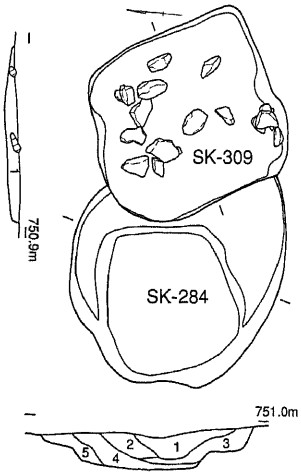
1：10YR2/3　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、3～10mmロームブロック5%含む
2：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、3～10mmロームブロック7%含む
3：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒多量、炭少量、3～10mmロームブロック7%含む
4：10YR2/1　黒　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む

SK-277・420



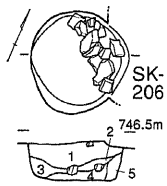
【SK-277】
1：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5mm小石少量含む
2：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む

SK-284・309



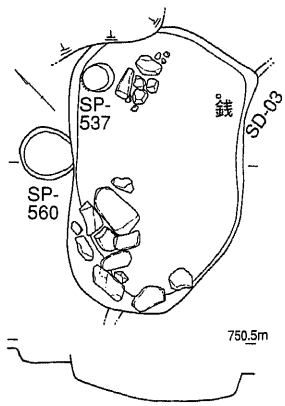
【SK-284】
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量、5mmロームブロック1%含む
2：10YR4/3　にぶい黄褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒中量、5mmロームブロック1%含む
3：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒・炭少量、5mmロームブロック1%含む
4：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒中量、5～10mmロームブロック5%含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒少量含む
【SK-309】
1：10YR2/2　黒褐　しまり・粘性稍有　炭少量含む

SK-295

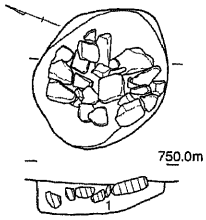


1：10YR3/1　黒褐　しまり普通、粘性稍強　2～5mmロームブロック少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり稍強、粘性有　ローム粒微量含む
3：10YR5/3　にぶい黄褐　しまり・粘性強　ローム質土
4：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性強　ローム粒少し含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり良、粘性稍強　ローム粒及び5～10mmロームブロック多く含む

SK-308

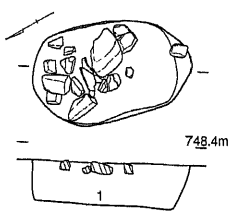


SK-304



1：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性無　1mmローム粒、5mm小石少量含む

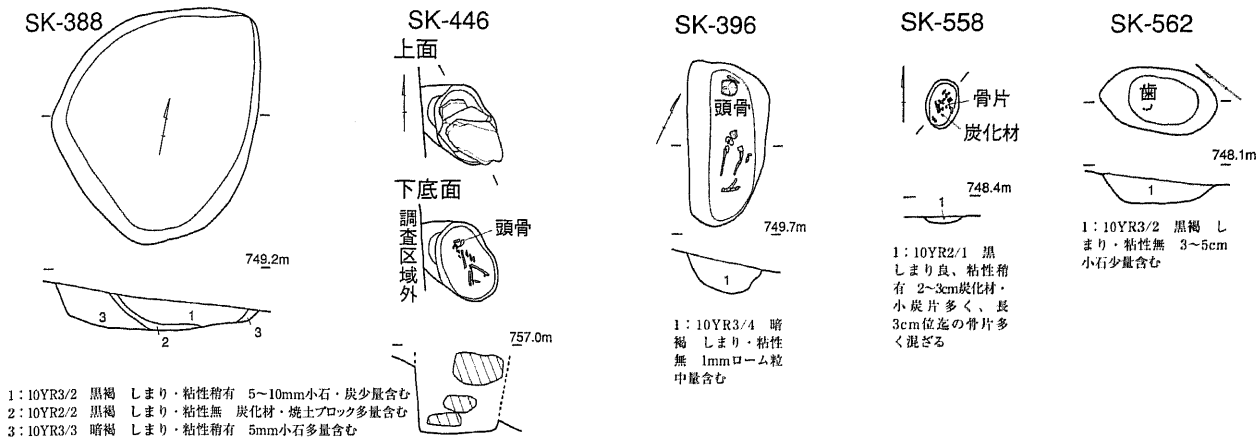
SK-311



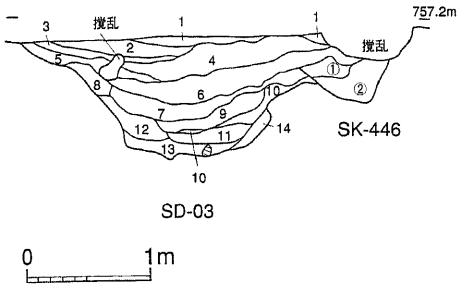
1：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性無　1～2mmローム粒多量含む

0　1m

第56図　土壙墓①（S＝1／60）



SD-03・SK-446セクション



【SD-03、SK-446】
1：10YR3/2 黒褐 しまり無、粘性稍有 5～10mm小石少量含む 耕作土取り残し
2：10YR3/2 黒褐 しまり無、粘性稍有 1mmローム粒・5～10mm小石少量含む
3：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性無 1mmローム粒少量、5mm小石中量含む
4：10YR3/2 黒褐 しまり稍有、粘性無 3～5mm小石少量含む
5：7.5YR3/3 暗褐 しまり無、粘性稍有 3mm小石中量含む
6：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり・粘性稍有 1mmローム粒多量、5～10mm小石少量、5～10mm黒褐色土ブロック5%含む
7：10YR2/2 黒褐 しまり有、粘性稍有 1～2mmローム粒・3～5mm小石・炭少量含む
8：10YR3/3 暗褐 しまり有、粘性稍有 1～2mmローム粒中量、3～10mm小石少量含む
9：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり・粘性稍有 1～2mmローム粒多量、1～2cmロームブロック10%含む
10：10YR2/2 黒褐 しまり・粘性有 1mmローム粒・3～5mm小石少量含む
11：10YR3/3 暗褐 しまり無、粘性稍有 1mmローム粒・5mm小石少量含む
12：10YR3/4 暗褐 しまり無、粘性有 1mmローム粒少量、3～5mm小石少量含む ややシルト質
13：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり無、粘性有 1～2mmローム粒多量、3～5mm小石少量含む
14：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり・粘性無 2mm粒迄の砂層 5～10mm小石多量含む
15：10YR4/3 にぶい黄褐 しまり無、粘性有 1～2mmローム粒多量、3～5mm小石少量含む
①：10YR3/3 暗褐 しまり・粘性稍有 1～2mmローム粒多量、5～20mmロームブロック15%含む
②：10YR4/4 褐 しまり無、粘性稍有 1～2mmローム粒多量、5mmロームブロック2%含む

第57図 土壙墓②（S＝1／60）

と考えられるが、他の土壙墓と離れていることもあり別の性格を有すかもしれない。他の土壙墓は、C・Ⅰ区の東側からA・Ⅱ区の西側にまとまる。

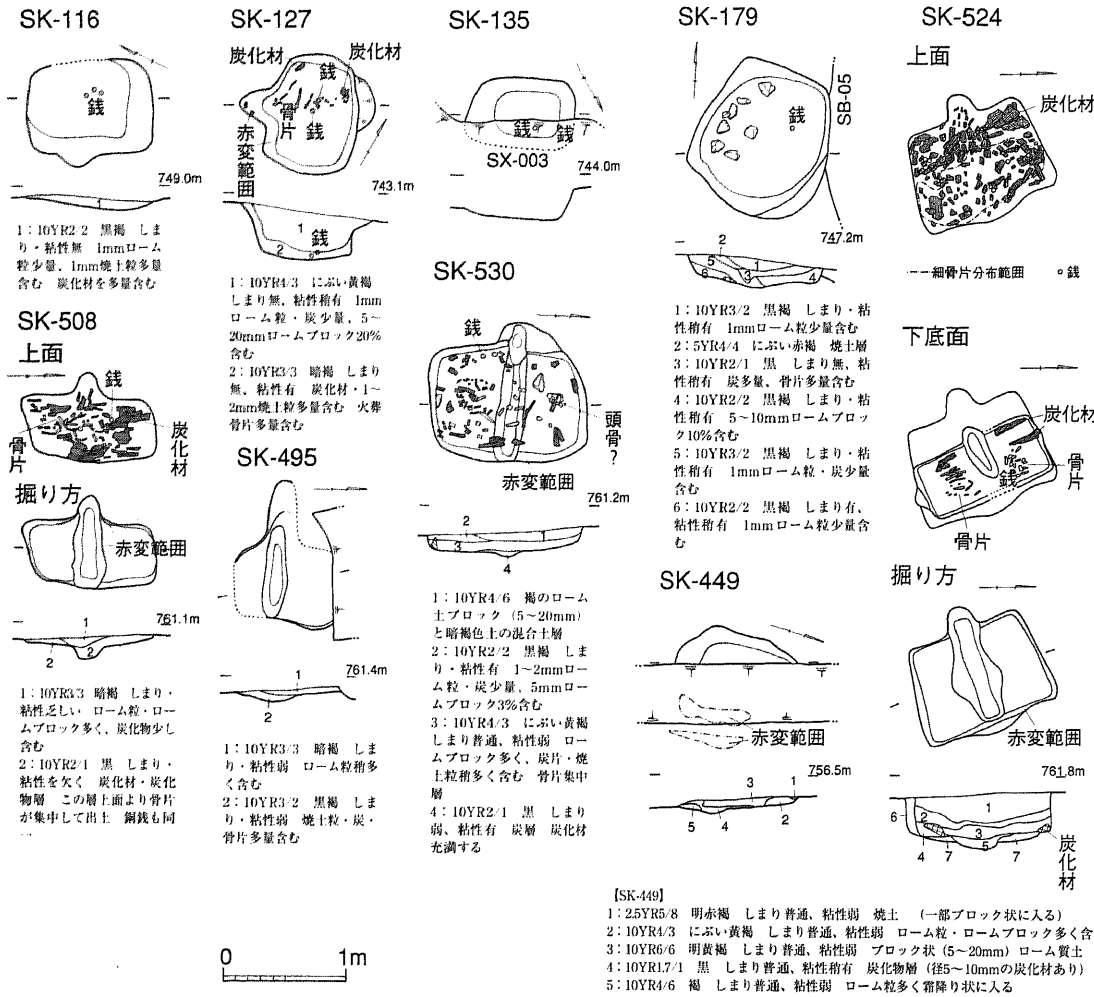
各土壙墓の形状や出土遺物等の詳細は第3表に掲載した。また出土した人骨は鑑定を頂いており、後項に報告を掲載した。

（9） 火葬墓（第58図、第4表）

総計10基が検出された。A・Ⅱ区の南西側からC・Ⅰ区の南東側と、C・Ⅳ区の北側からC・Ⅲ区の北西側の2箇所にまとまる傾向が見られる。伴出した銭貨で初鋳年が最も新しいのは「永楽通寶」（初鋳年1408

第4表 火葬墓一覧表

遺構No.	所在地区	所在グリッド	規模(cm) 長径	短径	深さ	出土遺物	切り合い関係 (>:切られる、<:切る、≒:不明)	備考
SK－116	A・Ⅱ	N34E32	105	74	22	銅銭3(1～3)	<SD－03	
SK－127	A・Ⅱ	N38E37	96	58	34	銅銭4(4～7)		
SK－135	A・Ⅱ	N36E31	87	57	20	銅銭2(8・9)	>SX－003	
SK－179	C・Ⅰ	N13E8	127	112	28	銅銭1(17)	<SB－05	縄文土器混入(第65図176)
SK－449	C・Ⅲ	N19W61	－	－	11			
SK－495	C・Ⅳ	N11W94	86	65	24		<SK－552	
SK－508	C・Ⅳ	N11W92	105	50	16	銅銭(23～27)	<SK－553	
SK－524	C・Ⅳ	N17W95	118	76	39	銅銭(28～34)		
SK－530	C・Ⅳ	N16W92	128	93	22	銅銭(35)		
SK－548	C・Ⅳ	N33W110	149	103	5			



第58図　火葬墓（S＝1／60）

年）であり、土壙墓と同じく中世後半期の所産と考えられる。土壙墓の分布と一部重なる範囲もあるが、土壙墓のまとまりの東側と西側に火葬墓のまとまりが2箇所あると見ることができるので、土地の使い分けをしていたものと推測する。

形状は他の遺跡で調査された典型的な火葬墓と同様で、平面形が隅丸長方形で長辺側の一方が張り出し、この張り出しにつながる形で底面を細長く2段に掘り窪める形状のもの（SK－508・524等）が多い。壙内には炭化材が顕著に見られ、骨片が残存していたが、細片と化しているため、そのすべてを壙内にのこしたまま埋めたのか、一部でも拾ったのかは判断つかない。またSK－524は掘り方を再利用している状況が観察でき、最初の火葬骨や炭化材は拾い上げられたと思われる。この拾い上げられた骨等は、先述したSK－558の様に穴を掘り再葬されたと考えられるものがある一方、すぐ隣にある溝址SD－03からは、投げ棄てたと考えられる状態の骨片や炭化材片も見つかっている。なおSD－03は中世前半期（鎌倉期）に掘られたものであるが、この時期には埋没がすすみ細長い窪地となっていたものと推測され、骨片等はSD－03の底面から浮いた位置より出土している。

火葬墓の長軸は南北方向となっているものが多く、骨が比較的良く残存していたSK－530は、頭部らしき骨が北側にあり、足の骨が南側にあった。これは骨が残っていた土壙墓と同じ現象で、頭位を北に向けるという意識が反映した結果と考えられる。なお各火葬墓の規模や出土遺物等の詳細は一覧表に記載した。出土した骨は鑑定を頂いており、報告を後項に掲載した。

(10) 溝址

SD－01～06まで6条あり、規模・形状とも様々である。SD－02・04は細長いプランであったため「SD」と冠したが、溝としての機能を有していたとは考えられないものである。それ以外のものについてそれぞれ記述しておく。

① SD－01

B・Ⅰ区で東西方向にわたって検出されたもので、延長30m分を確認した。北側は浅いが、南にいくに従って徐々に深さを増し、南端で最深の42cmを測る。覆土の観察からは滞水や流水の痕跡は伺えなかった。溝内には礫がやや多く認められたが、人為的に配したといった様子ではなく、埋没時に入り込んだといった状況である。縄文土器片や黒曜石剥片が少量出土したが、本址は縄文期の遺構をすべて切って掘られており、紛れ込んだ遺物とするのが妥当と思われる。よって時期は特定できない。

② SD－03

今回の調査でも注目されるもので、D・Ⅲ区からA・Ⅱ区にわたって約220m延びていることを確認した。底には砂や砂利が堆積しているので、流水があったと思われる。またこの砂層からは、鎌倉期の陶磁器片（第93図3・7・11等）が出土しているので、この時期に掘られたと考えられる。

形状であるが、C・Ⅲ区では幅3.5m、深さ80cmとしっかりした構造を見るが、A・Ⅱ区やC・Ⅰ区では途切れ途切れにしか検出できず、場所によっては砂や砂利が地山のローム層上にわずか残っていたのを確認したに留まる。開墾時にかなりの削平が行われたと見られ、場所によってその度合いが違うためのものと思われるが、下流側は水を誘導する程度の掘り方しか有さなかったのかもしれない。

本址が検出された各調査区を南北方向で輪切りにすると、南側は遺跡の中央を貫く谷へ向かって落ち込み、中央は高く、北側は埋没した谷へ向かって低くなる。C・Ⅴ区、C・Ⅳ区、C・Ⅲ区、C・Ⅰ区では、この一番高い場所に本址は存在する。標高の高い方にあたるD・Ⅲ区では、沢水が流れる南側の谷へと徐々に向きをかえて延びており、沢水を取水していたのではないかと考えられる状況である。また下流側となるA・Ⅱ区でも南側の谷へ向かっており、流れてきた水はもとの谷へ落としていたと考えられる。よって取水された水は、検出された本址の間で利用されたとしか考えられない。溝底の砂利層から出土した陶磁器片と同時期と思われる、掘立柱建物址や竪穴状遺構等を構築した集落のために存在したものと思われ、用水路の機能を果たしていたと判断したい。しかし、推定300m程度に及ぶ大規模な用水路を掘削してまでも水が必要だった理由を導く痕跡は見出せなかった。

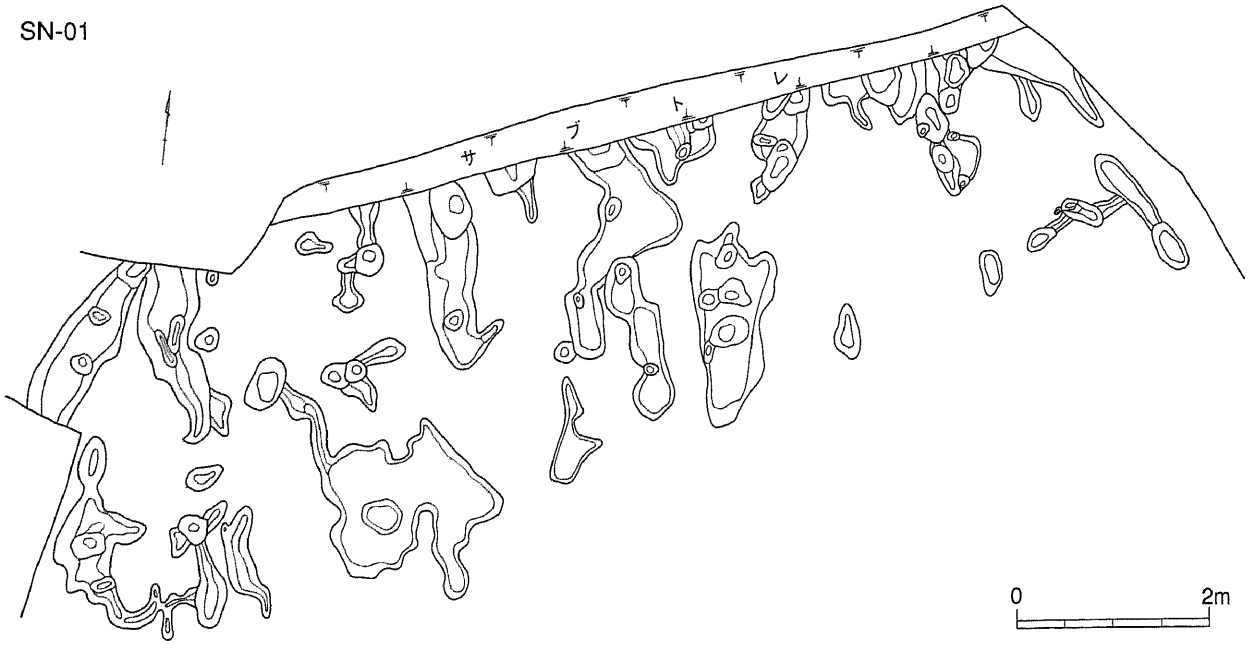
③ SD－05

C・Ⅰ区の東端、N44W1グリッドからN38E1グリッドにかけて存在する。不整形ではあるが南北7m程の長さで、最深12cmを測る。出土遺物はないが、掘立柱建物址ST－01のすぐ西側にあり、この区画溝としての性格を有すと思われる。

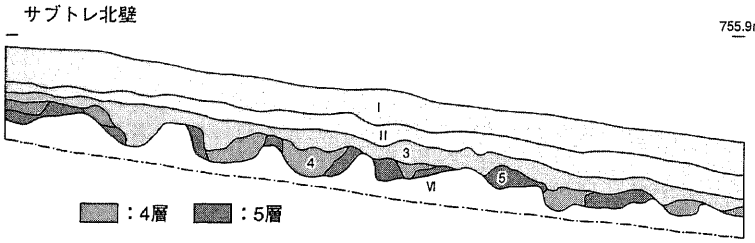
④ SD－06

C・Ⅰ区の北端、N48W23グリッドからN48W16グリッドにかけて検出された。西側及び東側へさらに延びていた可能性もあるが、確認できなかった。幅は概ね40cm程度で、深さ12～28cmを測る。覆土の観察からは流水の痕跡を確認できなかったが、本址の西端から約2.5m南西には、石組みのある水溜状遺構SK－368があり、これに水を供給していた水路の可能性がある。出土遺物はなく時期の特定はできないが、SK－

SN-01



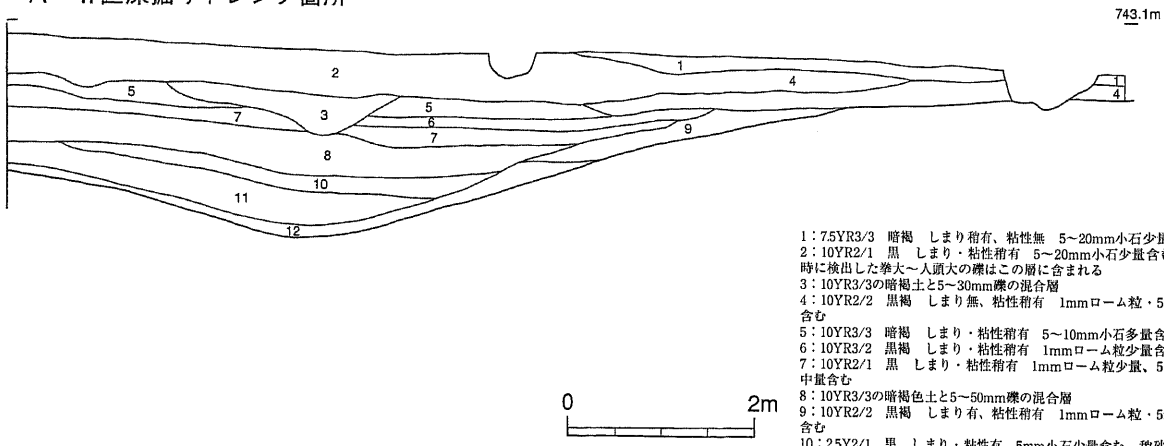
サブトレ北壁



Ⅰ：10YR3/3　暗褐　しまり良く粘性を欠く　ブロック状の黒褐色土（Ⅱ層）、10～15mm小石やや多く含む　⇒　表土
Ⅱ：10YR3/1　黒褐　しまり良く粘性乏しい　淘汰の良い腐植土層であり2～5mm小石若干量含む
3：10YR4/6　褐　しまり・粘性ともに乏しい　5～10mm小石多く、炭粒及び灰白色土ブロック（指頭大）やや多く含む
4：10YR3/4　暗褐　しまり・粘性ともに乏しい　5～10mm小石・炭粒・灰白色土ブロック（指頭大）少し含む
5：10YR3/2　黒褐　しまり普通、粘性ややあり　Ⅵ層土を掘り返し4層と混合したと推測される
Ⅵ：10YR2/1　黒　しまり良好、粘性あり　5～10mm小石少量、白色・赤褐色砂少量含む　腐食化進行度強い　上部ほどやや暗～黒褐色化している

第59図　SN－01（S＝1／80）

A・II区深掘りトレンチ箇所



1：7.5YR3/3　暗褐　しまり稍有、粘性無　5～20mm小石少量含む
2：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　5～20mm小石少量含む　掘り下げ時に検出した拳大～人頭大の礫はこの層に含まれる
3：10YR3/3の暗褐土と5～30mm礫の混合層
4：10YR2/2　黒褐　しまり無、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
5：10YR3/3　暗褐　しまり・粘性稍有　5～10mm小石多量含む
6：10YR3/2　黒褐　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量含む
7：10YR2/1　黒　しまり・粘性稍有　1mmローム粒少量、5～15mm小石中量含む
8：10YR3/3の暗褐色土と5～50mm礫の混合層
9：10YR2/2　黒褐　しまり有、粘性稍有　1mmローム粒・5mm小石少量含む
10：2.5Y2/1　黒　しまり・粘性有　5mm小石少量含む　稍砂質土
11：10YR4/4の褐色土と5～20mm礫の混合層
12：10YR2/1　黒　しまり強、粘性有　5～10mm小石少量含む　稍砂質土

第60図　埋没谷セクション図（S＝1／80）

368と関連があるなら鎌倉期のものと考えられる。

(11) 畝状遺構（第59図）

C・Ⅲ区の北端で確認された。調査区北側の埋没谷に堆積した黒色土が広がる範囲にあるため、当初の遺構検出段階では捉えられなかったが、調査区北端の壁に凹凸となる堆積を確認したため、その存在を意識し再度検出を行った。平面で捉えたものは条が整然と並ぶという状況ではないが、断面をみると間隔よく凹凸が並んでいる様であったため、畝状遺構と判断しSN－01と付した。遺物が皆無であるため時期の特定はできないが、想像力豊かに考えれば、C・Ⅰ区を中心として検出された鎌倉期と思われる遺構分布範囲の西はずれにあり、この集落の畑地だったと考えられなくもない。

(12) 調査区北端の埋没谷（第60図）

A・Ⅰ区からD・Ⅲ区まで見られた。現在は遺跡の中央に沢水が流れた谷があるが、以前は遺跡の北端となる山際に流れたことがある様で、その際侵食による谷が形成されたと思われる。この谷が埋没していく過程で遺物が入り込んでおり、縄文時代早期と前期の遺物が認められる。調査期限の都合上すべてを掘れていないが、C・Ⅰ区ではその度合いが高く、ゴミ捨て場的に投げ込まれたと考えられる状況であった。そして縄文時代後晩期と中世鎌倉期の遺構は谷が埋没した後に構築されている。

4 出土遺物

(1) 土器

① 縄文時代早期の土器（第61～65図）

ほとんどがD・Ⅲ区からの出土で、他の地区は僅かである。早期中葉の押型文土器が主体であるが、それ以降と思われる条痕文土器等も少なからず見られる。

押型文土器はすべて破片であり、器形を伺えるようなものはない。細かい破片まで数えて総数434点が出土した。竪穴式住居址は検出されなかったが、数10基の土壙や遺物包含層から出土している。編年的な位置付けを考えるにあたって、今回の資料では器形の上から考察することは不可能であり、製作技法・施文構成についても判断が難しい。幾分か判断できる施文の状況と、押型文原体の種類から考えたい。

まず押型文原体の種類別比率を見ると、楕円押型文47.7%（207点）、山形押型文43.8%（190点）、格子目押型文4.6%（20点）、異種併用押型文1.8%（8点）、柵状押型文1.6%（7点）、ネガ楕円押型文0.5%（2点）である。最も高比率の楕円押型文は、楕円の粒が5mm前後と小さなものがほとんどである。施文の方向は横方向も縦方向も見られ、密接しているものが多い。第63図106は帯状施文かもしれない。また押型文が施文されない空白部が見られるもの（第63図100・112等）があり、この空白部には刺突文等が見られる。口縁端部には、器面と同じ原体の押型文が施されるもの（第63図100・114～116）がある。胎土には繊維を含まないものがほとんどであるが、一部含まれているもの（第61図5・15）が認められた。

次いで高比率の山形押型文は、密接して施文されているものが多い。帯状施文らしきもの（第63図133・134等）もあるが、次に記す空白部の可能性もある。楕円押型文と同様に空白部が見られるもの（第62図52、第63図126等）があり、刺突文や沈線文が施文されている。胎土に黒鉛を含むものは認められなかった。それ以外はいずれも低比率であるが、大きな土器片が少ないため、異種併用押型文の比率は当然低くなっていると思われる。

編年的な位置付けについてであるが、密接施文される楕円押型文と山形押型文が多いことは、細久保式の

範疇に入るのではないかと思われる。同じ松本平にあり、多数の押型文土器が出土した大町市山の神遺跡の考察では細久保式を3細分しており、頸部に空白部を持ち刺突文や沈線文を施すものをその2期に、異種併用押型文を3期としており、当遺跡ではその両方を有する。1期と明確に判断できるものはないが、縦方向に密接施文されたもの（第63図120～122）はこれになるのかもしれない。細久保式に先行する立野式については、その特徴のひとつであるネガ楕円押型文や格子目押型文が少ないながら存在する。これについては押型文原体だけでの判断は否定的な見解を示しておられ、可能性があるとだけしておきたい。また第61図2の柵状押型文と楕円押型文が併用されたもの、第63図139の口縁部に貼付文をもち山形押型文が施文されたものは、ほかの押型文土器とくらべて様相が異なる。前者は楕円の粒が大きいということだけ見れば、つづく高山寺式に近いものかもしれない。後者は類例に当たることができなかった。

次に押型文土器以外の土器である。貝殻腹縁文（第65図174）を施文した土器は、関東地方の田戸式に見られ、押型文土器と同じ時期と思われる。沈線文の土器（第61図46等）は、小片であるため判断が難しいが、これも同様に捉えて良いかと思われる。撚糸文（第62図74・81等）、縄文（第64図151・152等）を施文した土器も、押型文土器と同時期のものが多いと思われるが、後述する早期末と思われる土器が同じ調査区から少なからず出土していて、混在が考えられる。胎土に繊維を含む条痕文が施された土器（第64図158等）が一定量存在し、早期後葉から末のものと思われる。第64図166は内外面とも条痕文が施され外面には沈線文が見られるが、文様の交点等に刺突文があり関東地方鵜ヶ島台式に似る。条痕文のみの土器はこの期にひろく見られるため、この範疇で捉えておきたい。絡条体圧痕文が見られるもの（第64図165・167、第65図171等）もこの時期と思われる。指頭を使ったにぶい沈線を（凹線）を描いた土器（第65図173）が同じ調査区から出土したが、関東地方の茅山式土器に類似する施文があるのでこの時期と見ておく。これと同じく指頭によるにぶい沈線を描くもの（第64図156）があるが、こちらは器壁が薄いもので、早期末東海系のいわゆる「オセンベ土器」と呼ばれているものと思われる。

② 縄文時代前期末～中期初頭の土器（第65～75図）

今回の調査で最も多く見つかった時期である。前期後葉の数点（第65図176・177）を除けば、残りは前期末から中期初頭である。当期の土器は様々な地域の様相が絡み合っておりその理解が難しい。今回見つかった資料も、関西系、北陸系、地元系が混在している。

第73図346～349にはボタン状貼付文が認められ、諸磯c式の新しい様相を示す土器である。SB－08出土資料はそれに続く時期のものと思われ、第68図246にはボタン状貼付文があり、同248・252には半截竹管による平行沈線で渦巻文を描いている。同253は底部付近の破片であり半截竹管による結節沈線文が見られる。同251はこれらよりは時期が下ると思われるが、それ以外は十三菩提式の古い所に帰属すると思われる。第65図179は北陸鍋屋町式に類似するもので、同じく十三菩提式の古い方であろう。

北陸鍋屋町系と呼ばれる土器は数多く見られる。外反しながら開く口縁部端を短く折り返したり肥厚させたりして平坦面をつくり、耳状の大きな貼付文や「の」字状の貼付文を基点として、間に棒状の貼付文を飾ったり（第71図328、第72図329等）、ダンゴ状の突起（第74図386～389）を配したりするものがあり、これをすべて省略したかの様なヘラ切りの沈線（第72図342、第74図395等）もある。頸部以下には各種集合平行線文が見られるが、施文の手法は結節浮線文（第69図270等）、結節沈線文（第74図386等）、ヘラ切り沈線文（第71図328等）、平行線文（第73図372）が見られ、文様の間を削り取ること（第73図370等）も顕著である。縄文も多く見られるが、先述の集合平行線文の下位に配したり器面全体を覆うもの（第72図342等）があると推測されるが、前者の破片は確認できなかった。また頸部から口縁部端までの間には、押捺隆帯が数段配されたり（第72図329等）、鋸歯文（第74図397等）、三角印刻文（第74図388）、円形の刺突文（第70図

281)、これらを組み合わせた円環状等の印刻文（第74図386等）が施されるが、無文のもの（第71図328等）もある。以上文様の差異については時間差を含んでいるものと思われ、先学により各種平行線文の変遷は複雑から単純への時間経過を示すといわれる。今回出土の鍋屋町系土器の多くは、十三菩提式のうしろ半分の資料と見られる。

他の北陸系の土器として、SB－01出土の真脇式の筒状把手（第65図191）がある。また木目状撚糸文が施文された土器（第68図262、第70図295）も出土している。前者は十三菩提式のまん中あたり、後者は新しい方に位置付くものと見られる。

関西系の土器もわずか見られ、北白川下層Ⅲ類から大歳山式にかけてのものがみられる（第66図199、第68図239、同245、第73図361・362等）。またSK－205より出土した第70図300には、垂下する浮線の上を貝殻で押圧した文様が見られ目に留まったが、大歳山式のものと見られる。

SK－277出土の第69図277は、ほとんど剥げ落ちてしまっているが、頸部に中空となる貼付を巡らす土器で、胴部下半にＹ字文があることから十三菩提式の新しい方に位置づけておきたい。SB－05出土の第66図204は、胴部上半に角ばった「B」字を横に倒した様な区画を半截竹管による沈線で描き、同じ原体で格子状の沈線文を充填しているが、狭い範囲ではあるが空白となった部分（「B」字の窪んだところ）には削り取り手法が見られる。反面雲形状の区画が見られる第70図278は、空白部を削り取っていない。

踊場式の土器は古手のものから新手のものまで見られる。古手のものとしては、口縁部の屈曲がゆるやかな第65図181や第71図308があり、中間的な様相の第65図180、新手のものは屈曲がきつい第67図208があり、どれとも判断がつきにくい胴部の破片（第65図185等）が多数出土している。古手のものは前期末、新手のものは中期初頭とされている。第66図200や第72図330は中期初頭五領ヶ台式のものであり、出土したこの期の土器のなかで新しいものである。

③　縄文時代中期後葉の土器（第75～77図）

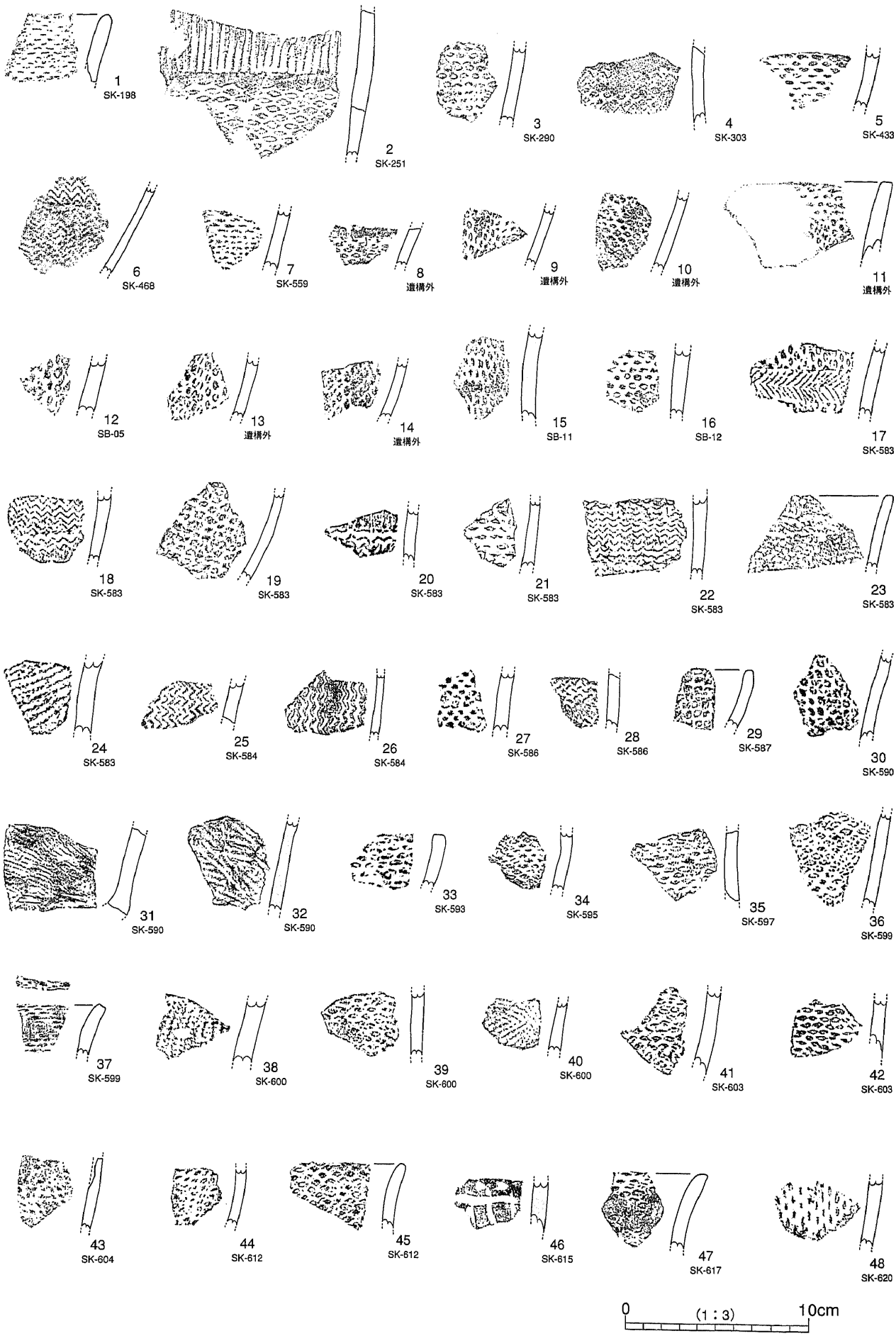
この時期の土器はＣ・Ⅱ区で密集する様に見つかった４基の竪穴式住居址から出土した土器であり、他の場所からはほとんど見つかっていない。ここでは住居の変遷も把握したいところなので、１基ごと記述していく。なお時期区分は、当遺跡から東へ500mしか離れていない殿村遺跡の土器を精力的に研究されている百瀬忠幸氏の区分に依拠する。

SB－09　　第75図427・428の２点のみ図化掲示した。427は覆土中出土でⅠ期の櫛形文土器であるが、428は地文に櫛描条線文が見られるものでⅡb期のものである。428は上屋材を処分したと推測される焼却後に、口縁部を下にして置かれたものである。

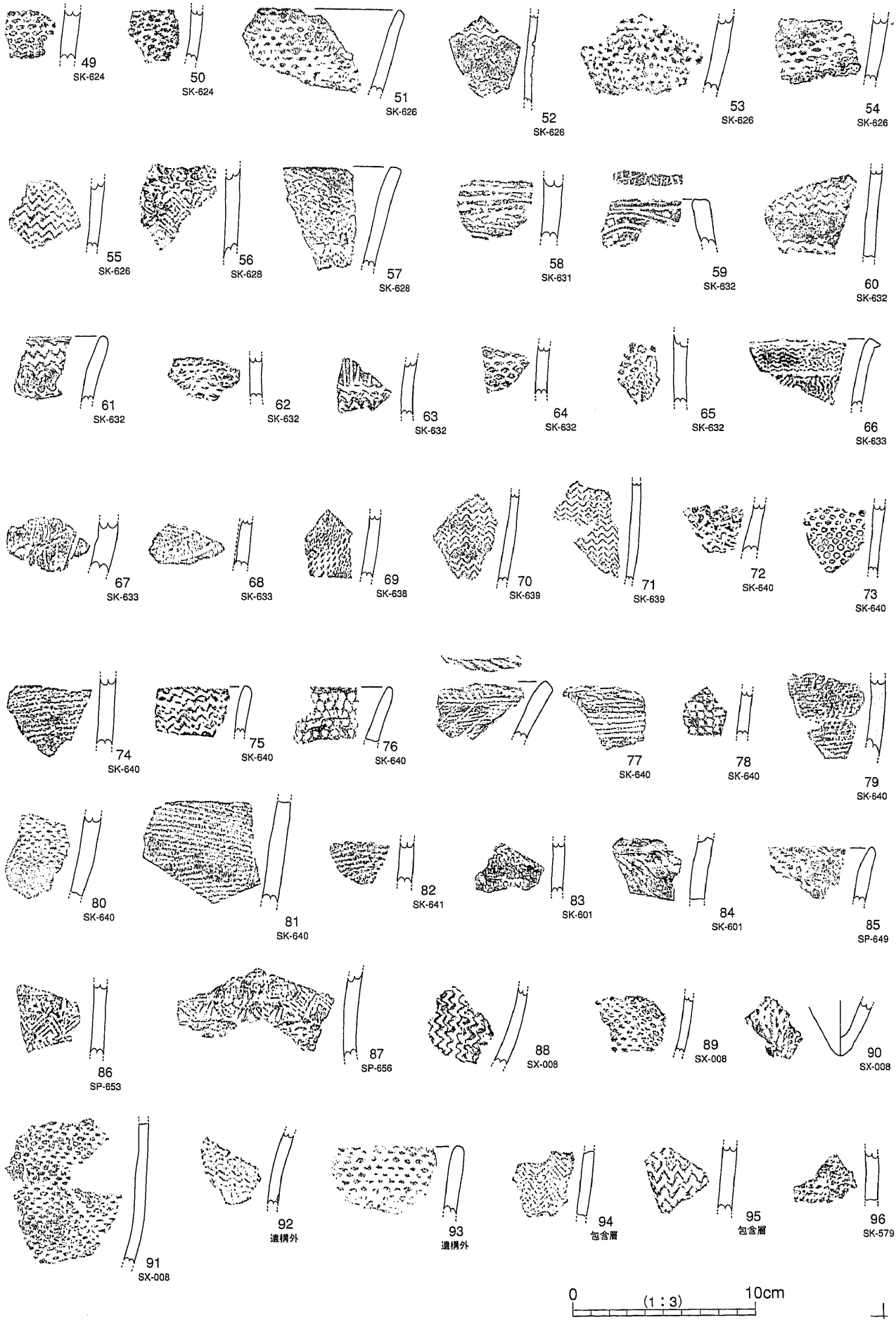
SB－10　　第75図429は床面の平石上に置かれたもので、隆帯によって大柄な円弧状モチーフを４単位に配しその中に垂下する隆帯を入れ、隆帯間には短沈線を単一方向に施文している。縄文のみ施文された430は、松本平でよく見られる頸部に波状隆帯をもつものと思われる。いずれもⅡa期である。綾杉状の沈線地文となっている第76図432・433・436等は後出するもので、端正な綾杉文ゆえⅡc期のあたりと思われる。

SB－11　　第76図437・439～444を図化掲載した。遺物はすべて覆土中からの出土である。443は頸部より上のみであるがⅡa期と思われる。444は口縁部文様帯に突出した渦巻をもつ弧状文を４単位８分割に配し、地文には縄文を持つ加曽利Ｅ式のもので同時期と思われる。440や441は後出する様相である。

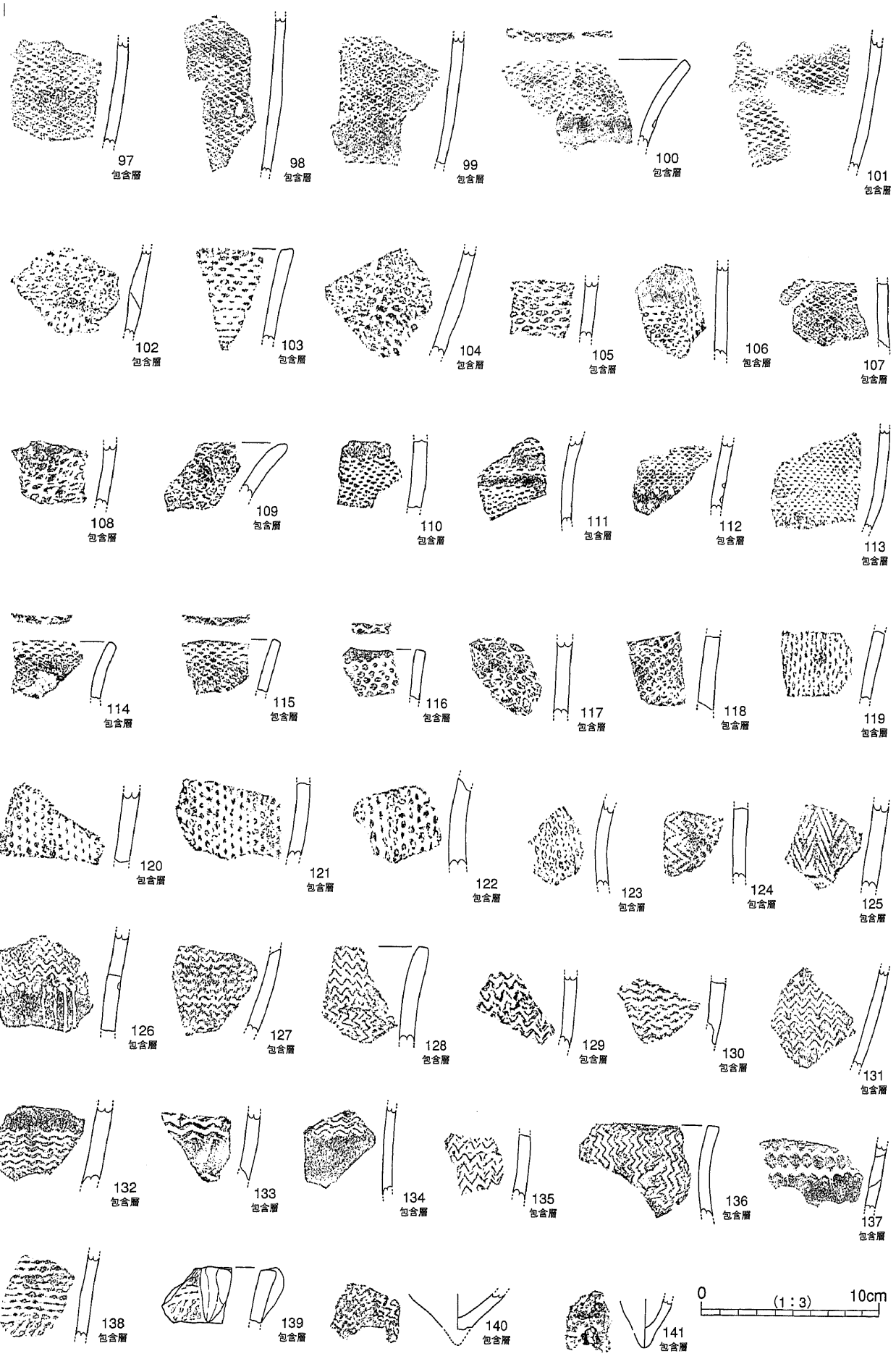
SB－12　　第77図445～453を図化掲載した。450は樽形の器形を呈するもので、口縁部の湾曲度合いがきついものであることからⅡc期と思われる。同じく樽形器形の453は、条線文地文に大柄な渦巻沈線文を配し、頸部に交互刺突文を有する。小型ながら樽形器形の451も頸部に交互刺突文を有す窓枠状の区画をもつ。共にⅡc期と思われる。綾杉状沈線が崩れ気味の449は新しい様相を示す。



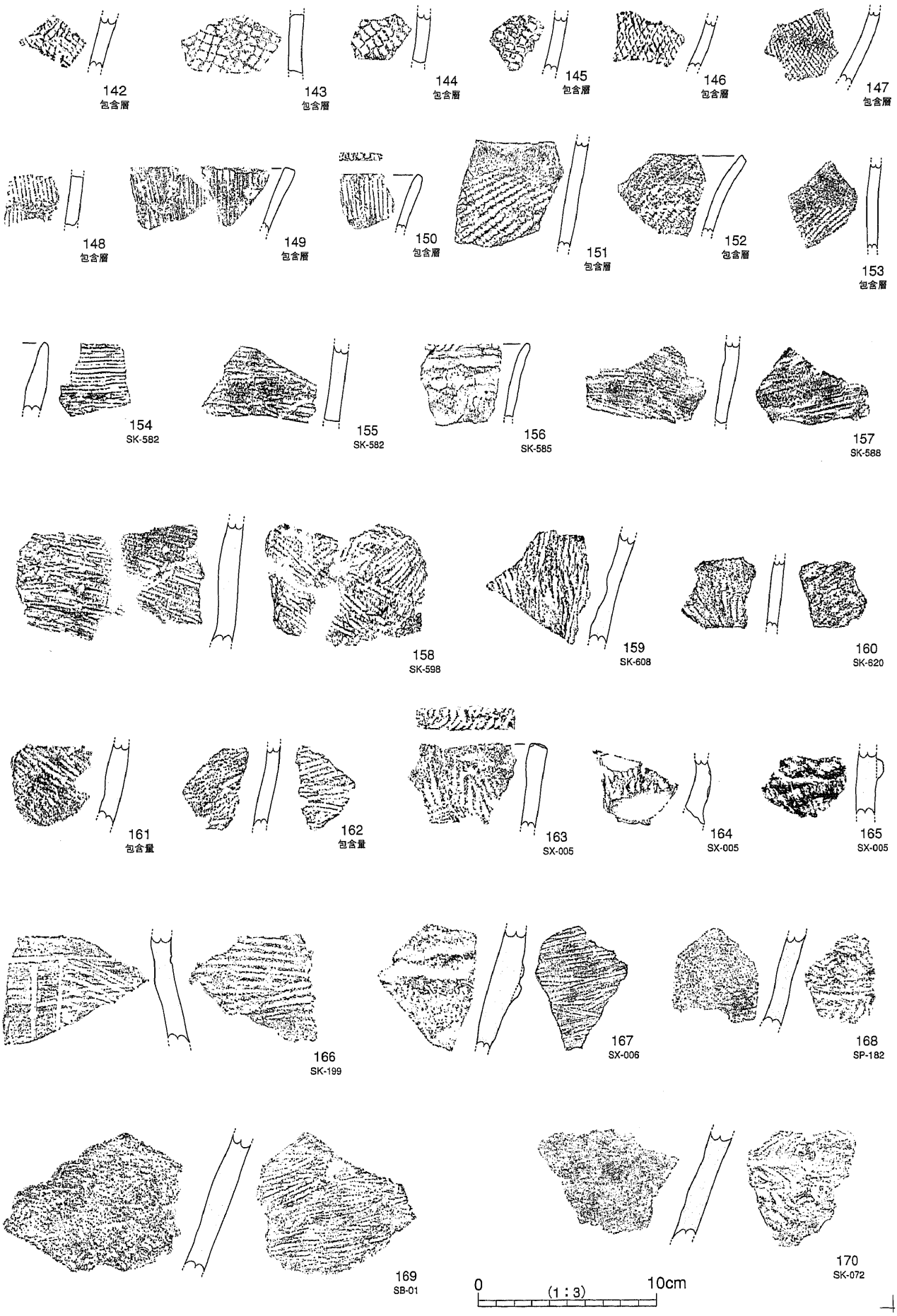
第61図　縄文時代の土器①



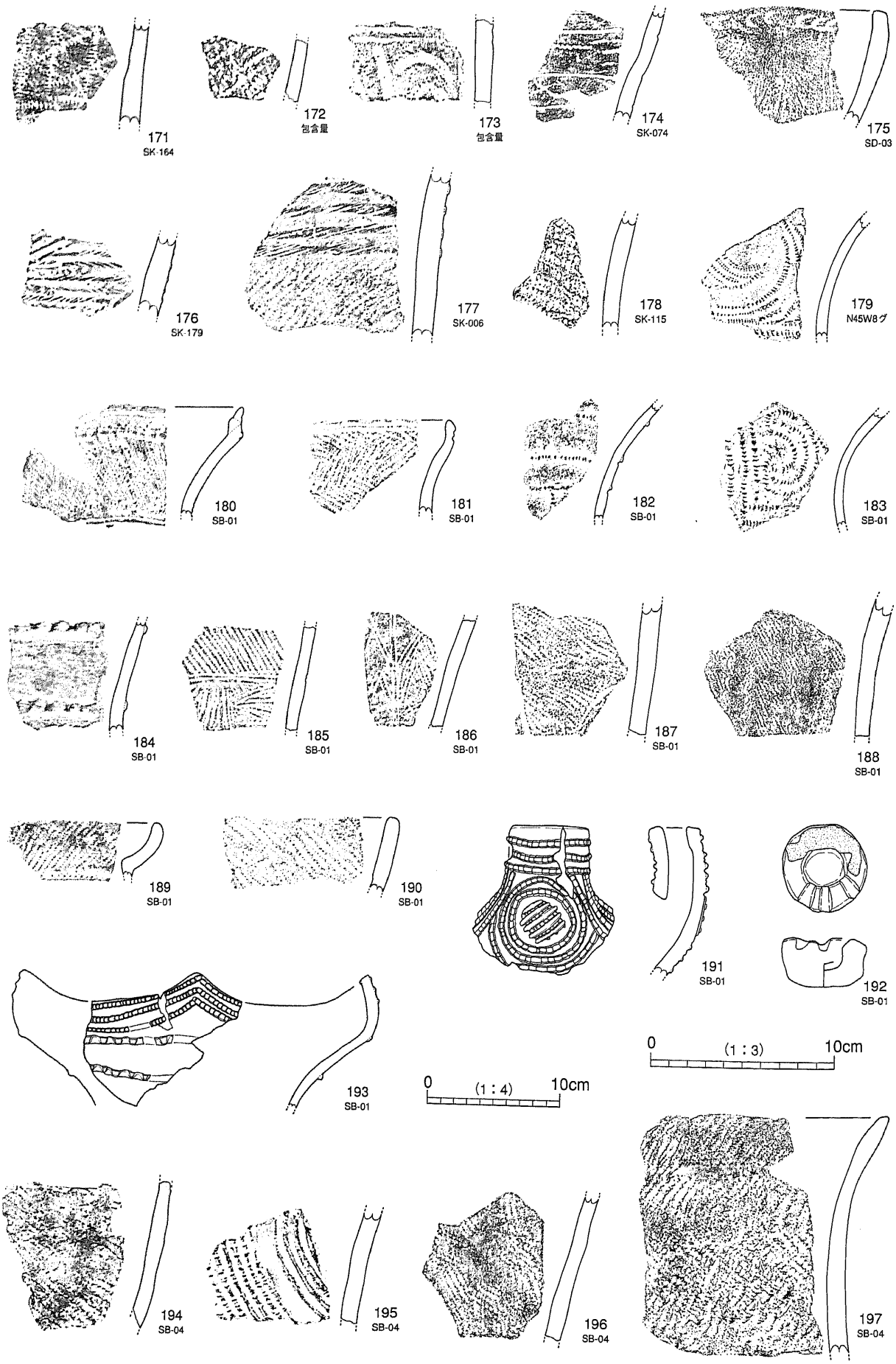
第62図　縄文時代の土器②



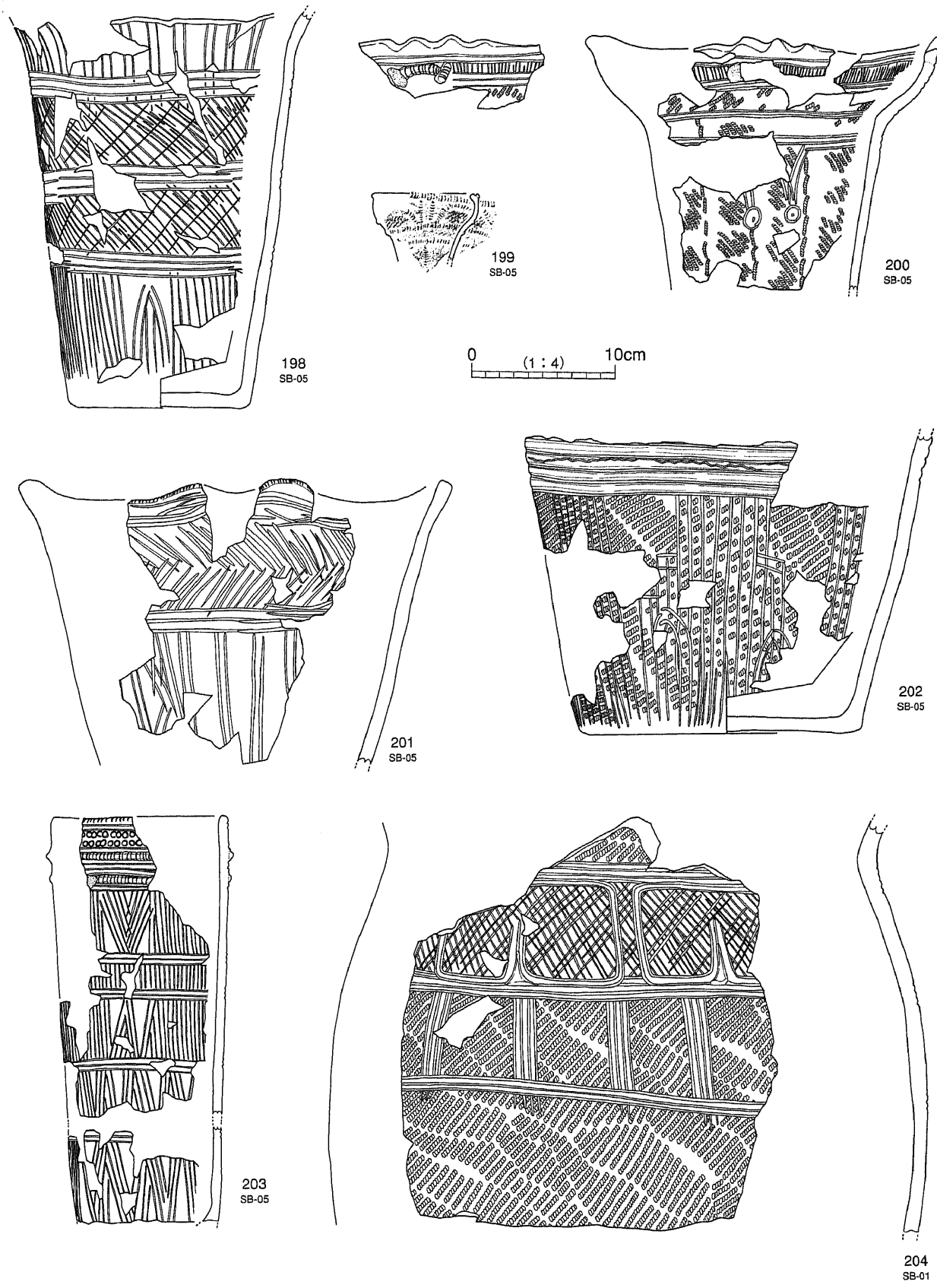
第63図　縄文時代の土器③



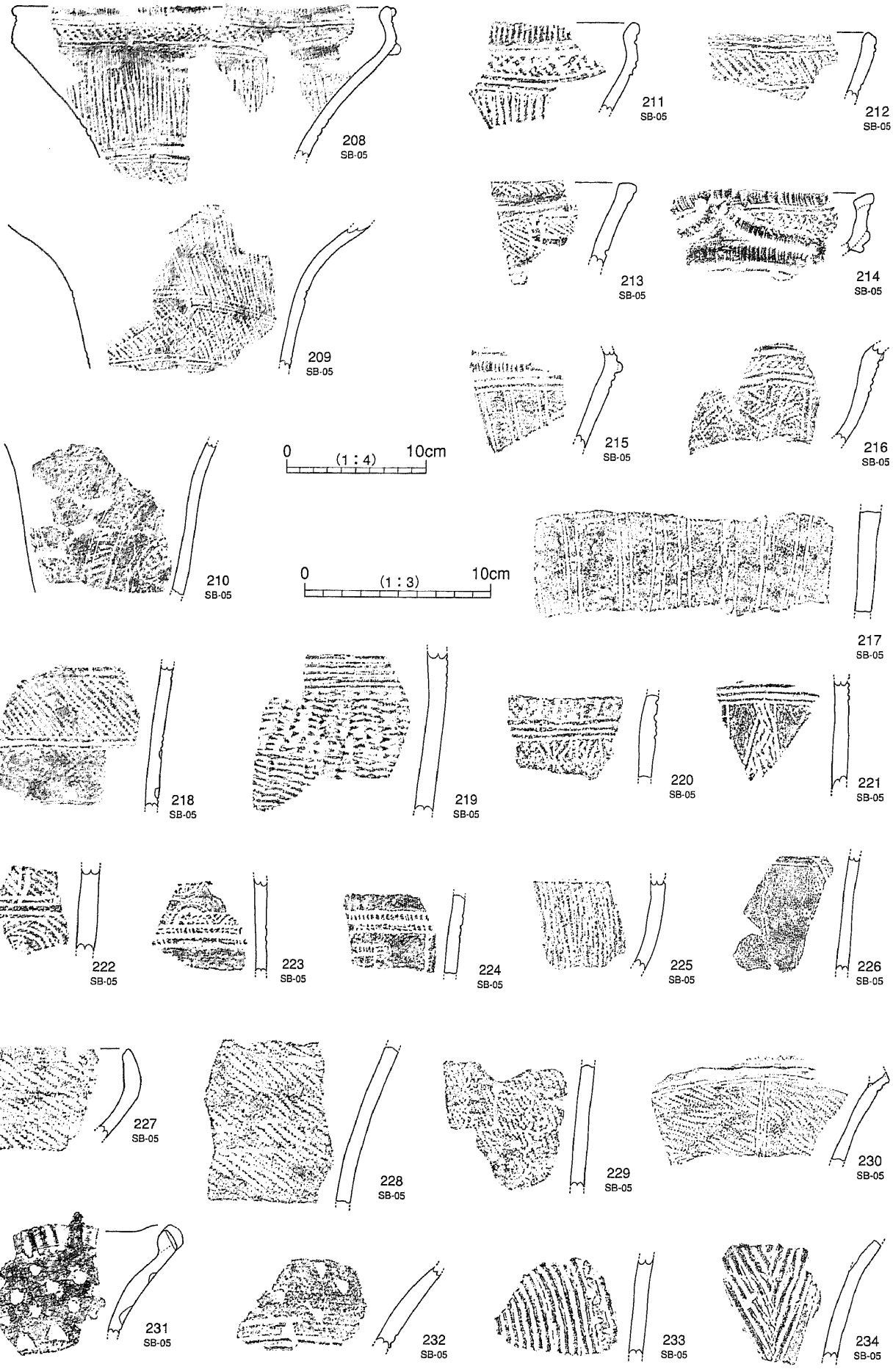
第64図　縄文時代の土器④



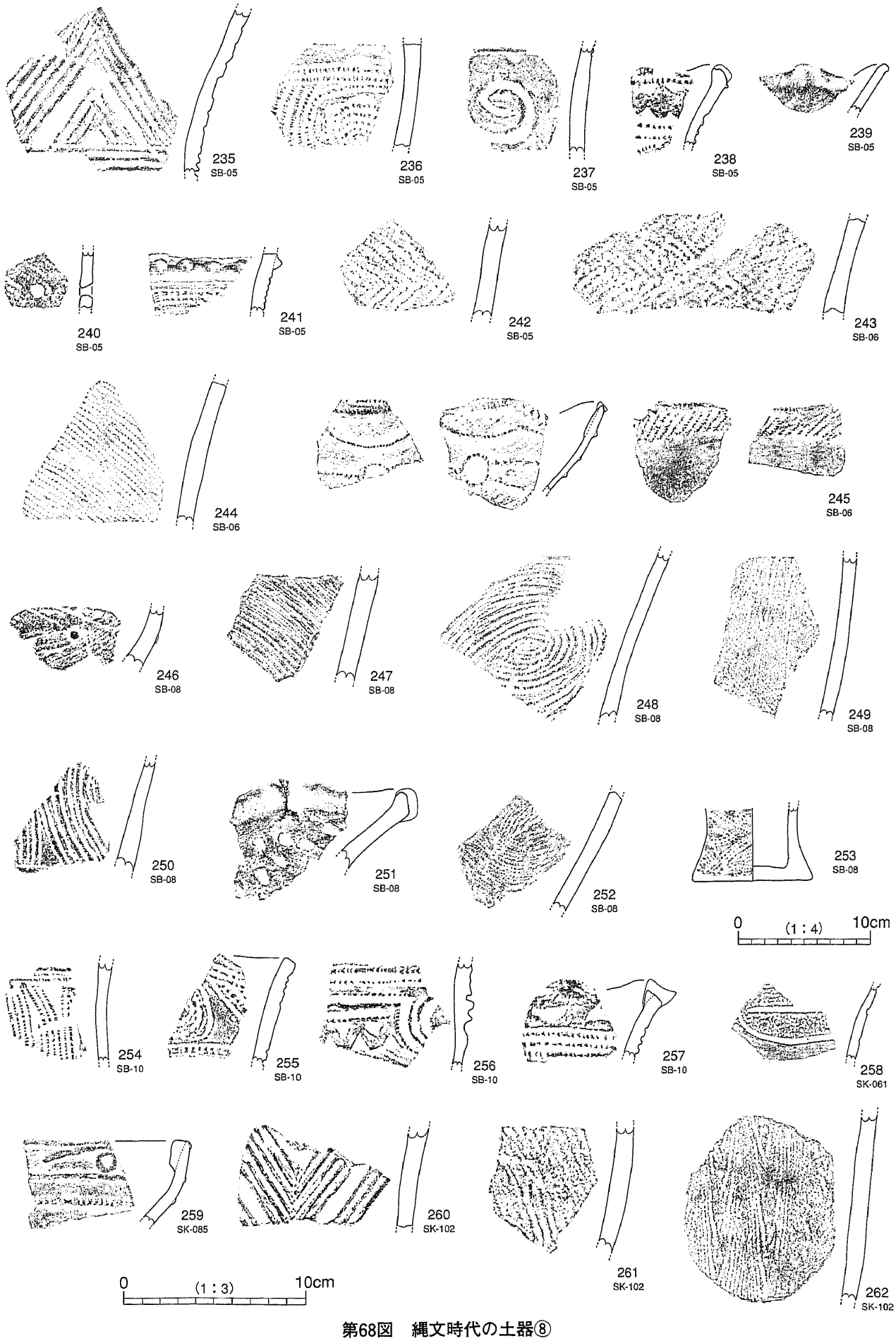
第65図　縄文時代の土器⑤



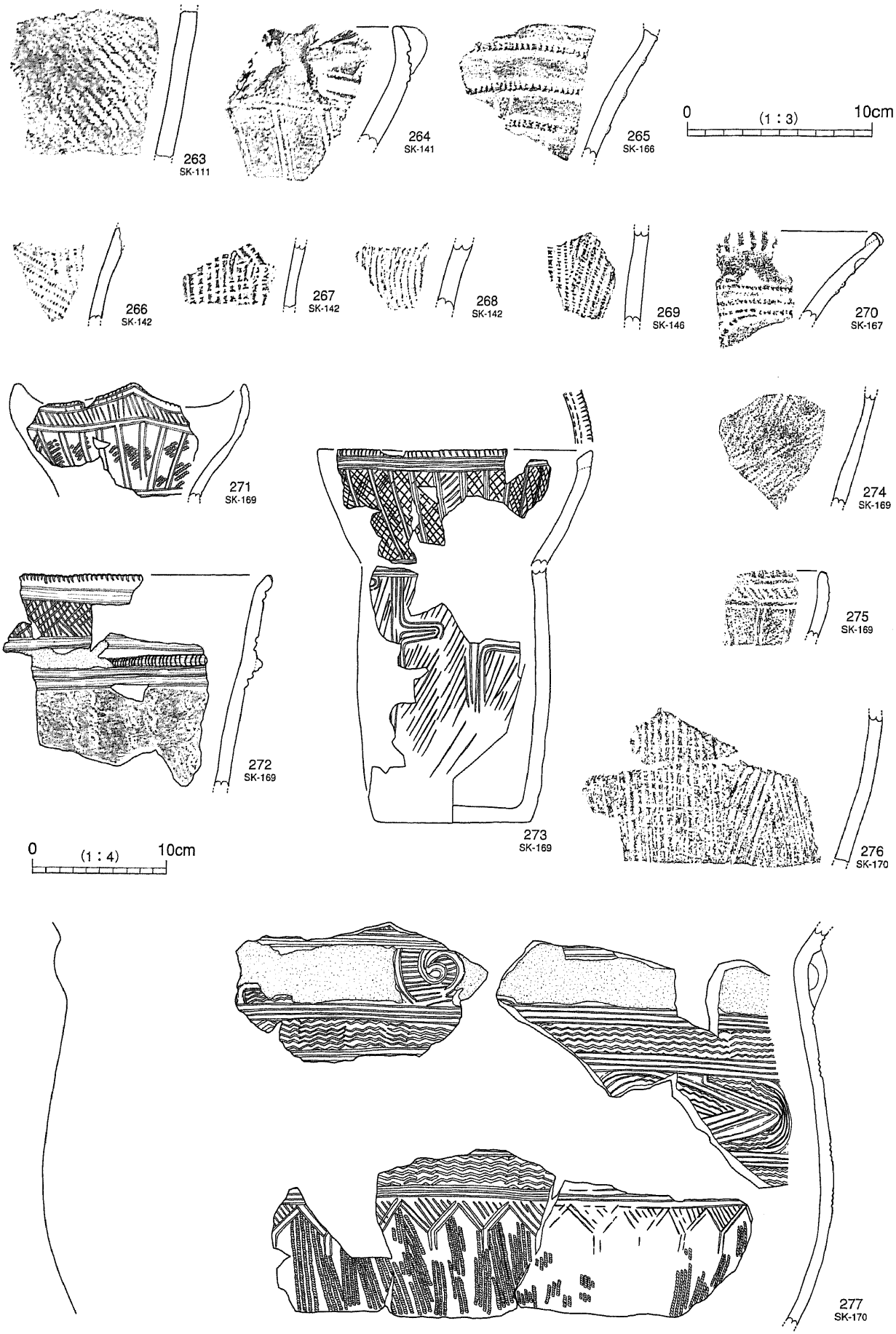
第66図　縄文時代の土器⑥



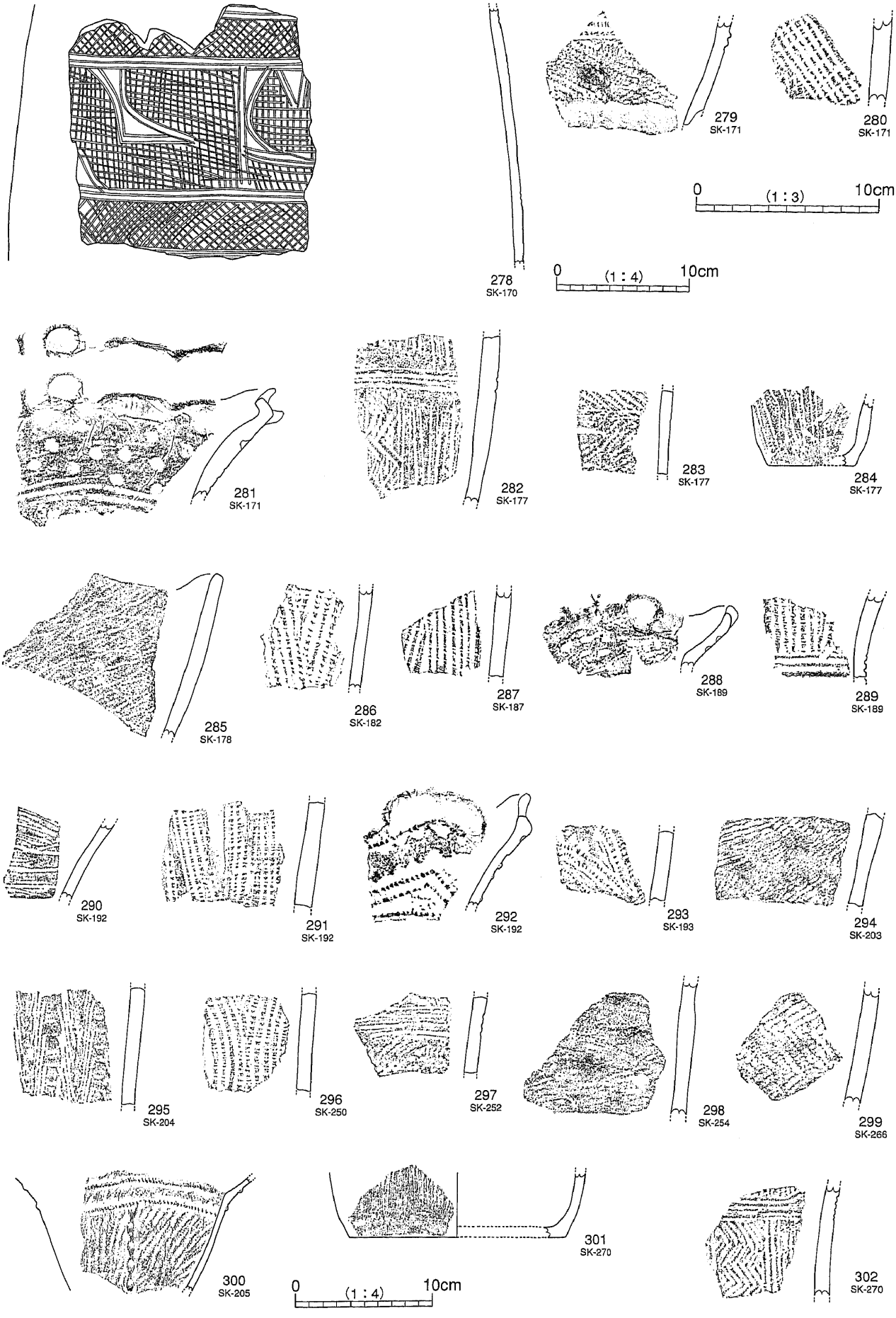
第67図　縄文時代の土器⑦



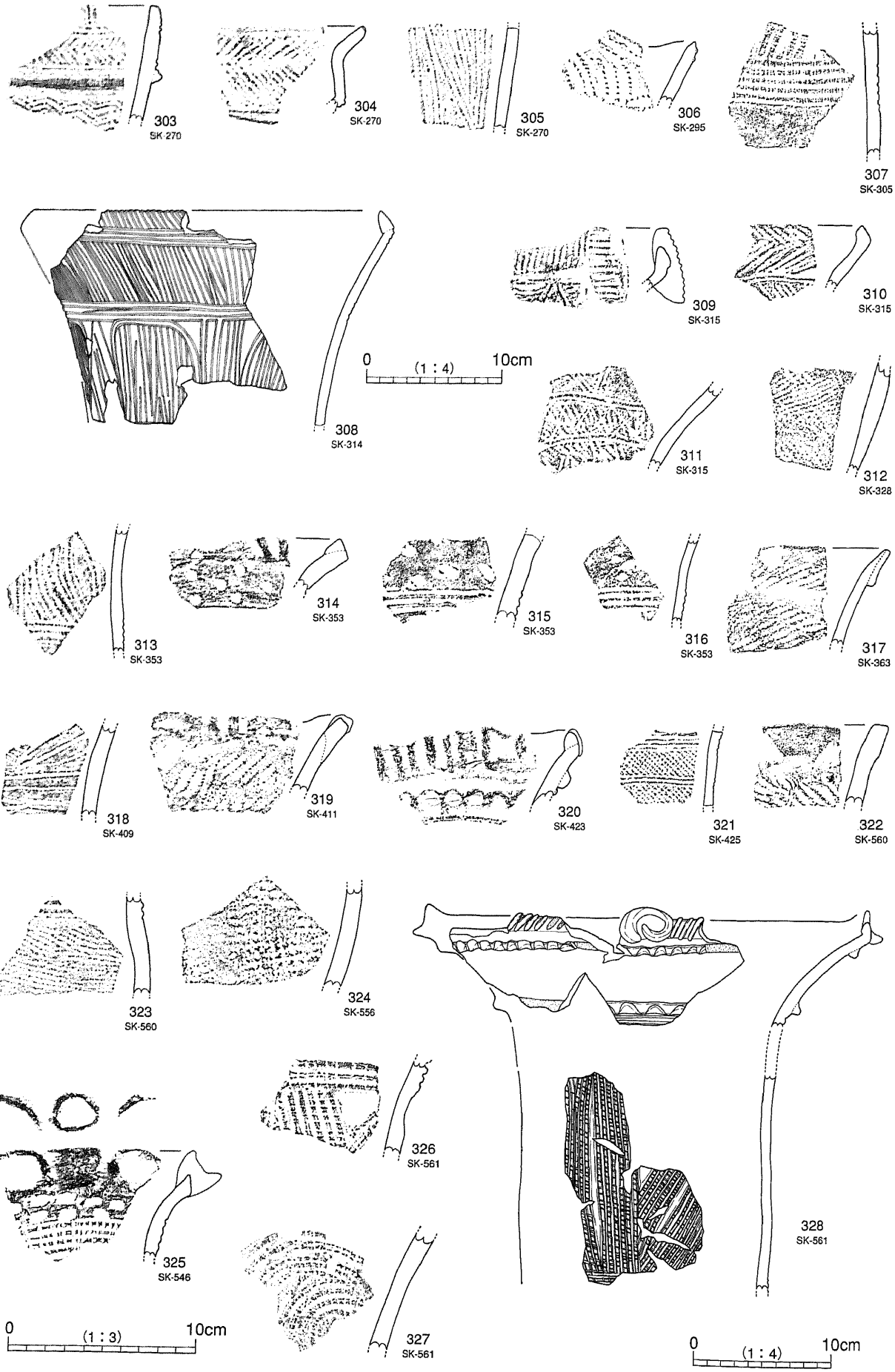
第68図　縄文時代の土器⑧



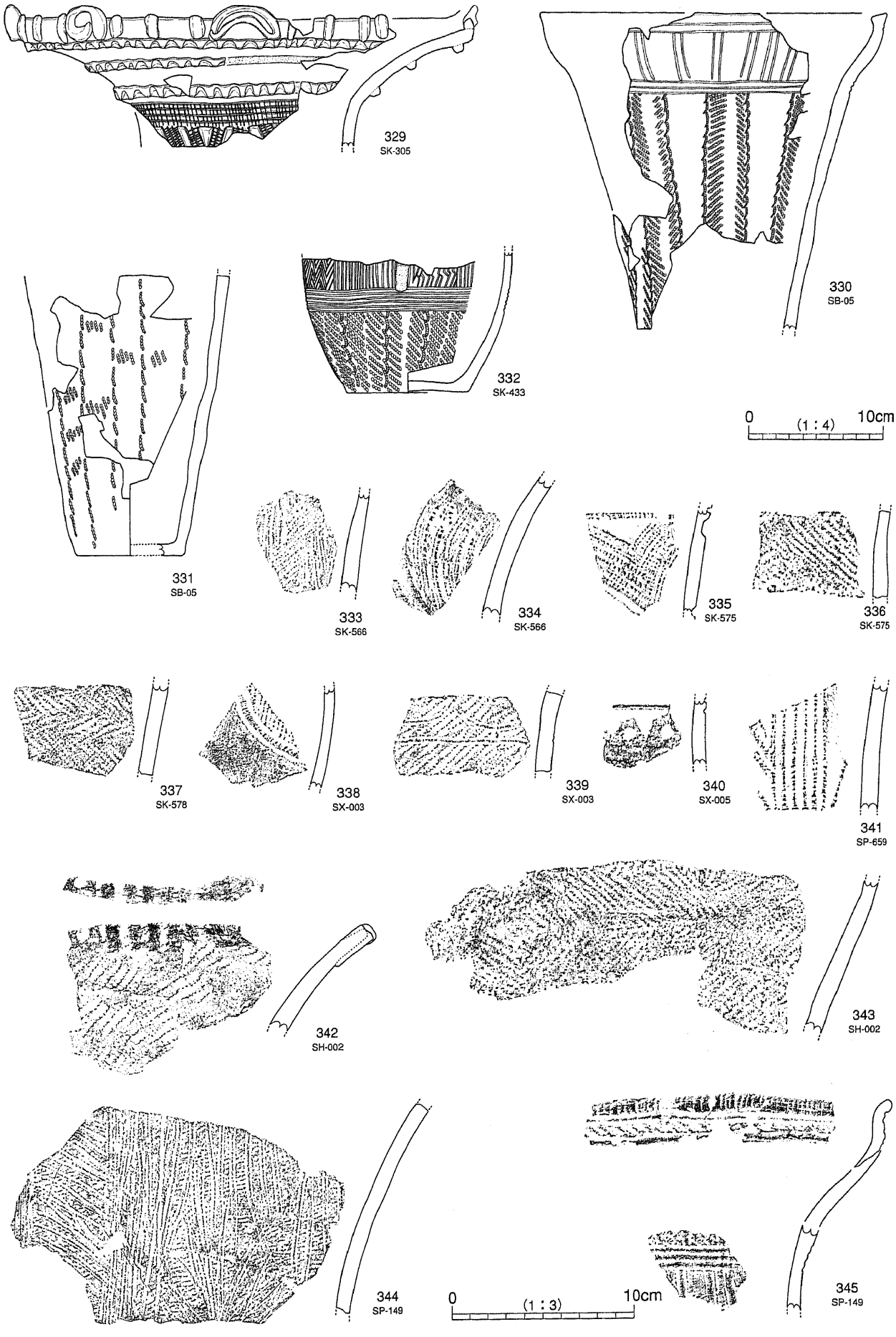
第69図　縄文時代の土器⑨



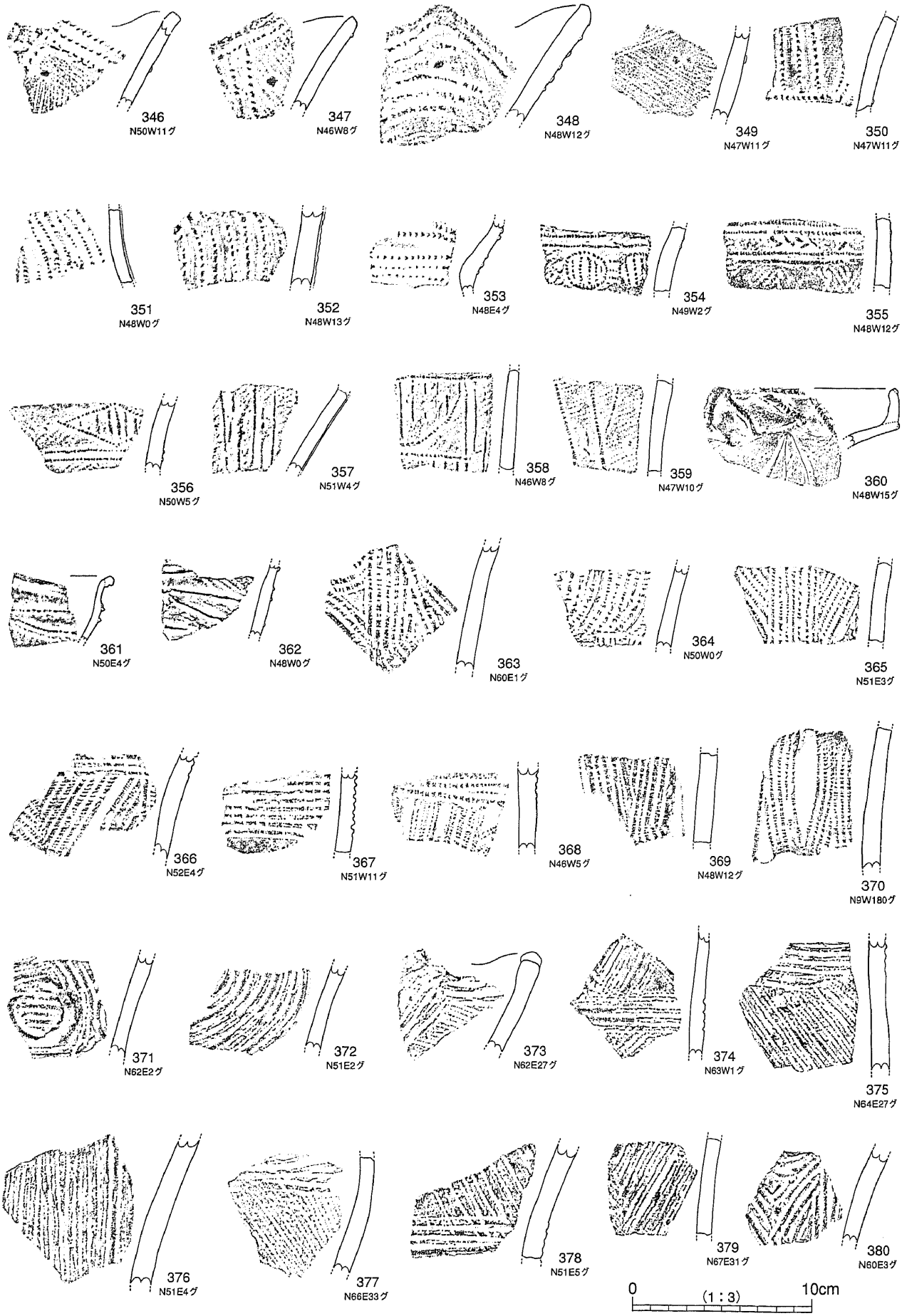
第70図　縄文時代の土器⑩



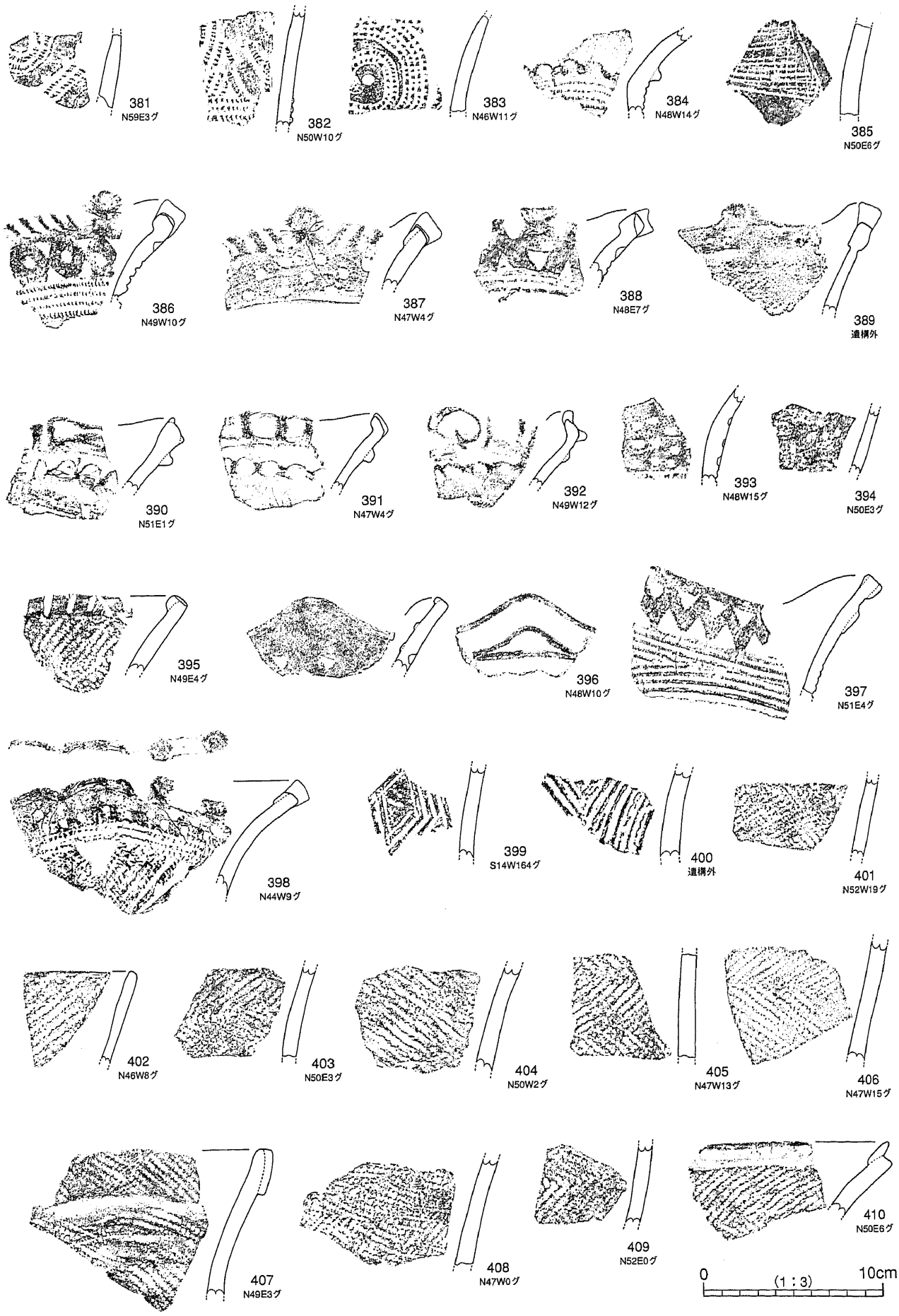
第71図　縄文時代の土器⑪



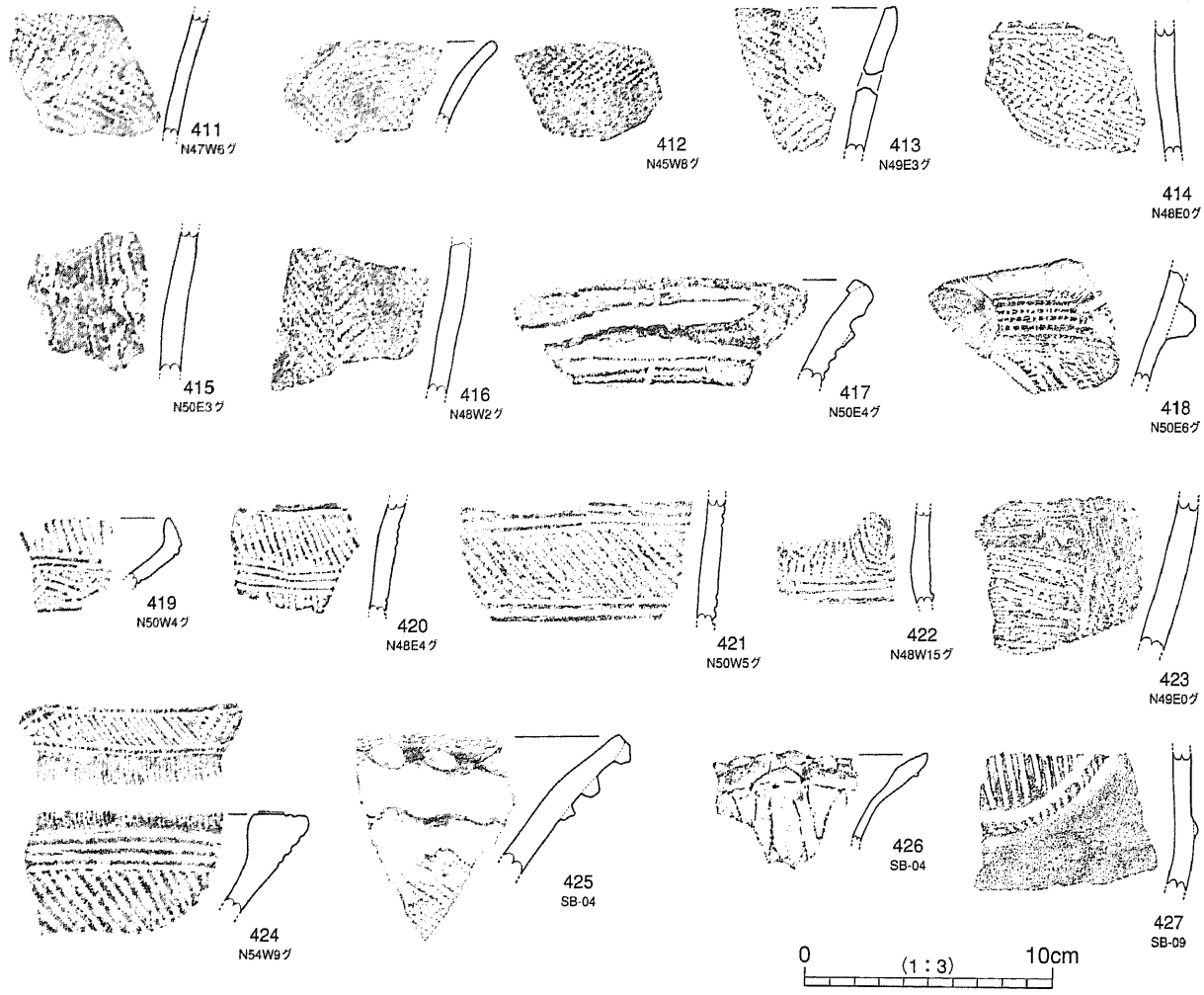
第72図　縄文時代の土器⑫

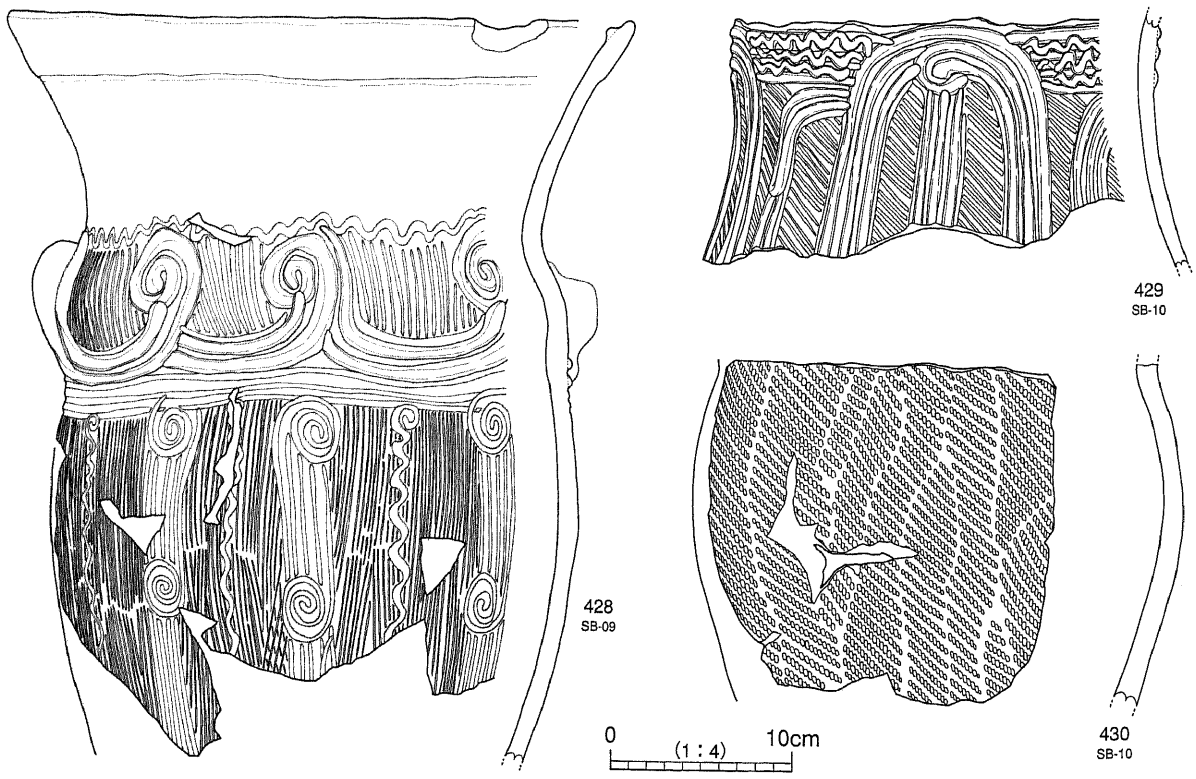


第73図　縄文時代の土器⑬

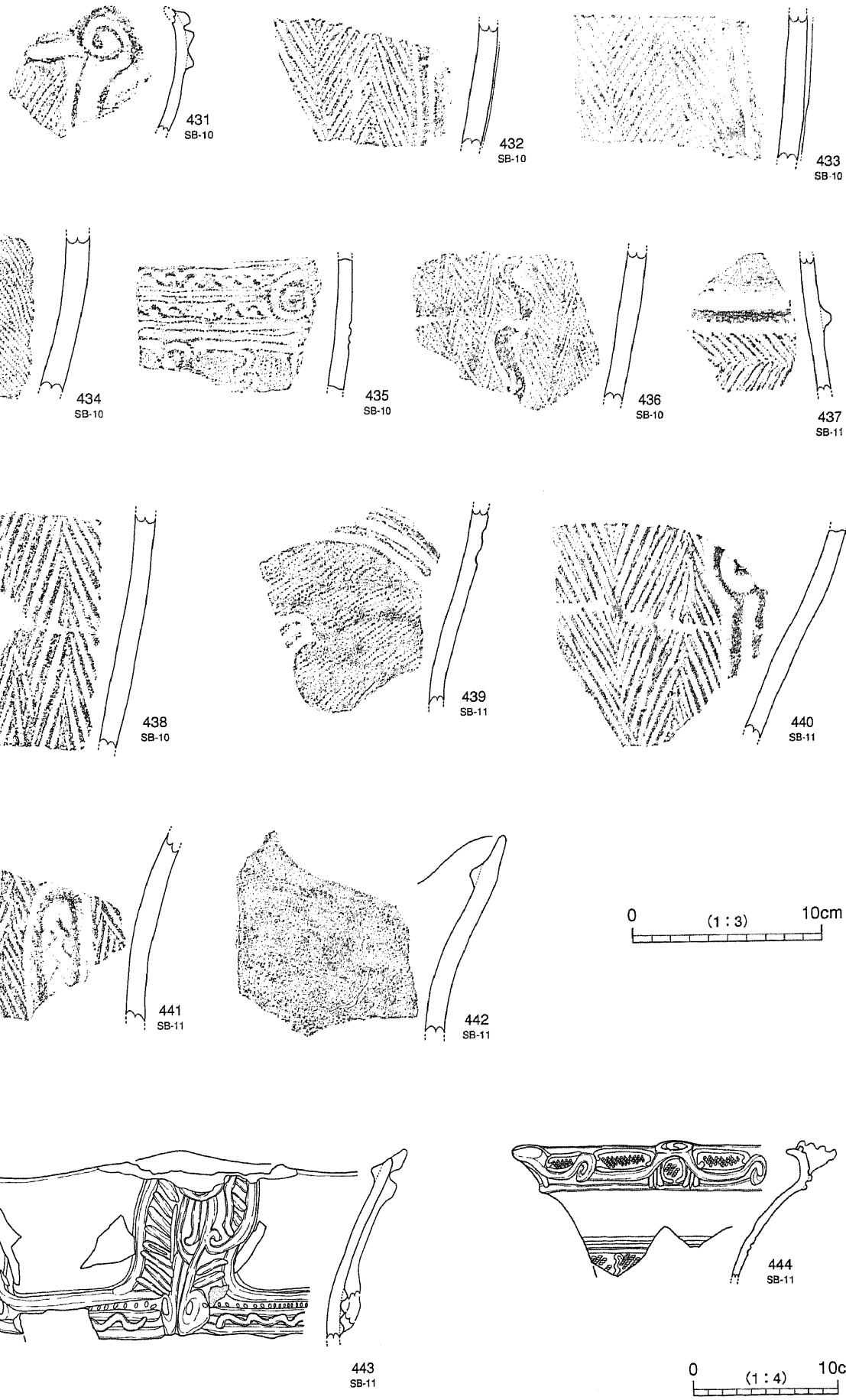


第74図　縄文時代の土器⑭

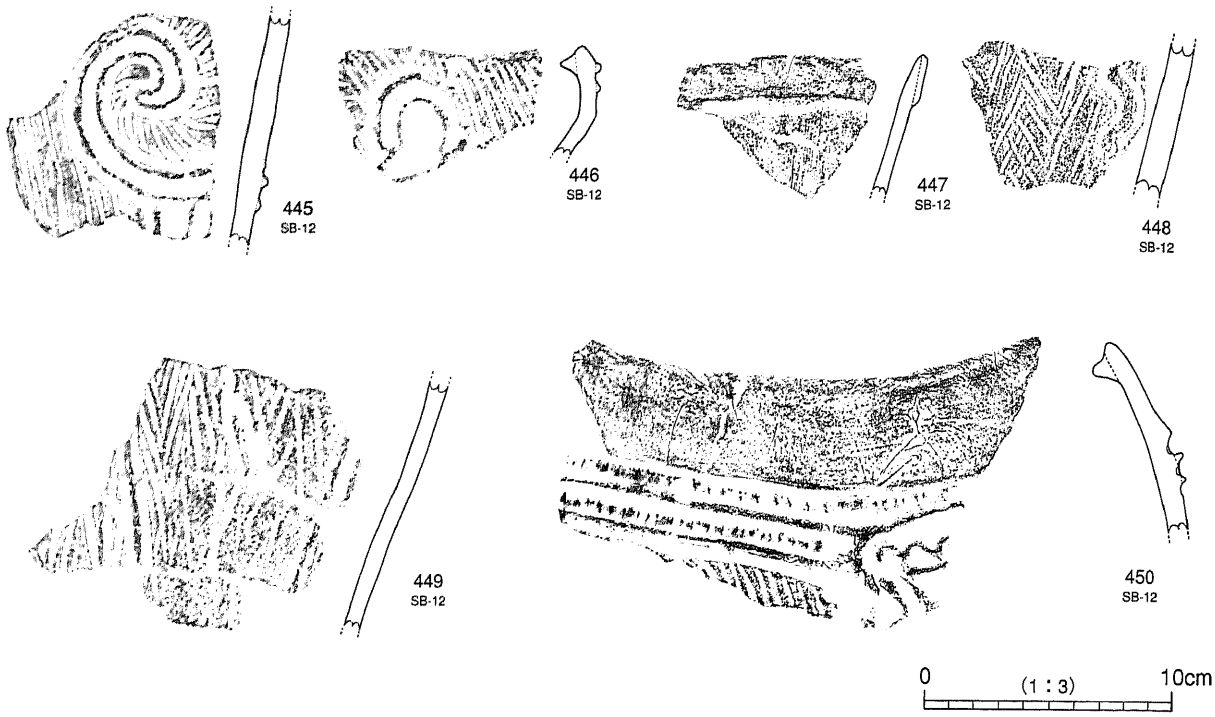




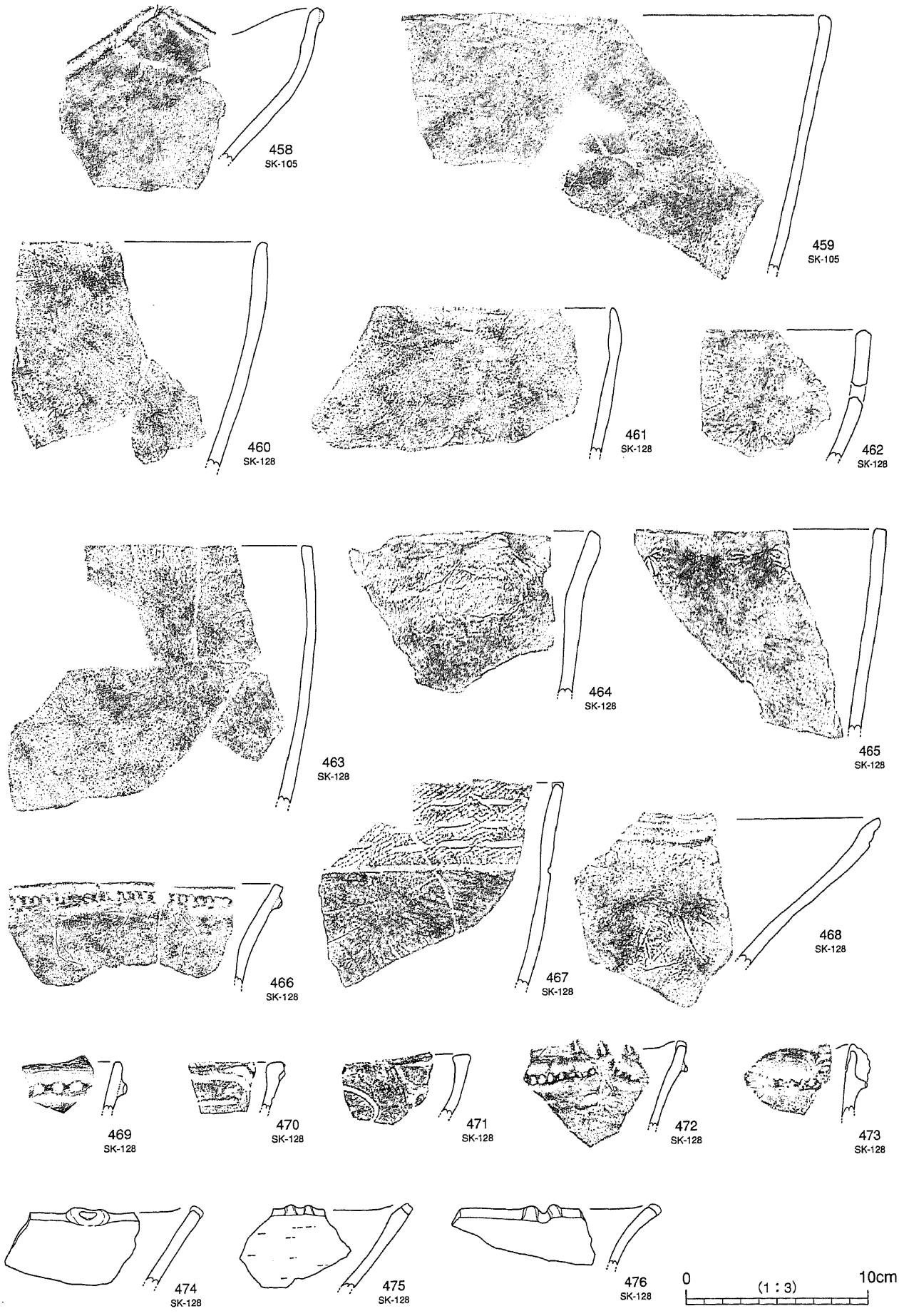
第75図　縄文時代の土器⑮



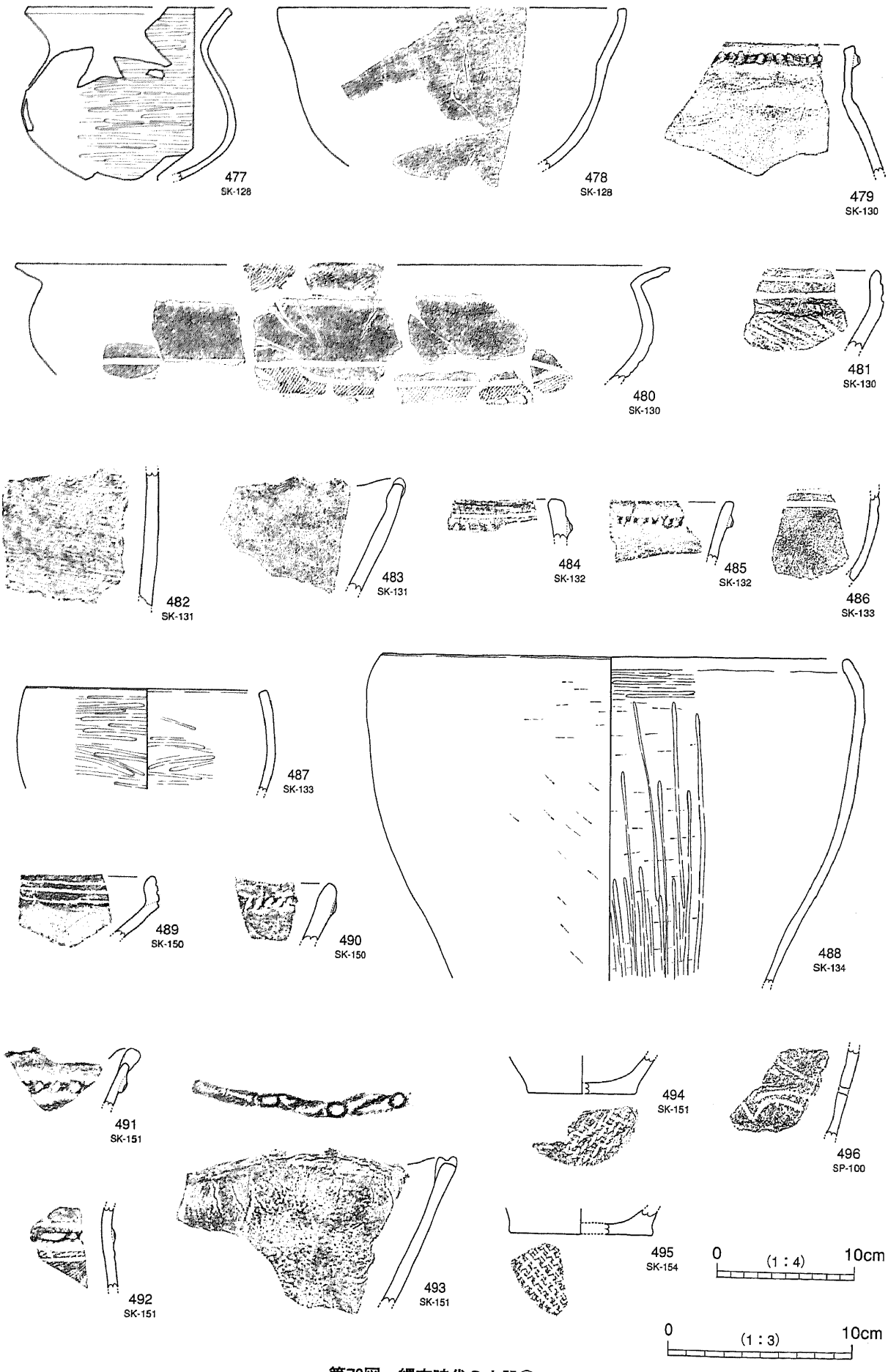
第76図　縄文時代の土器⑯



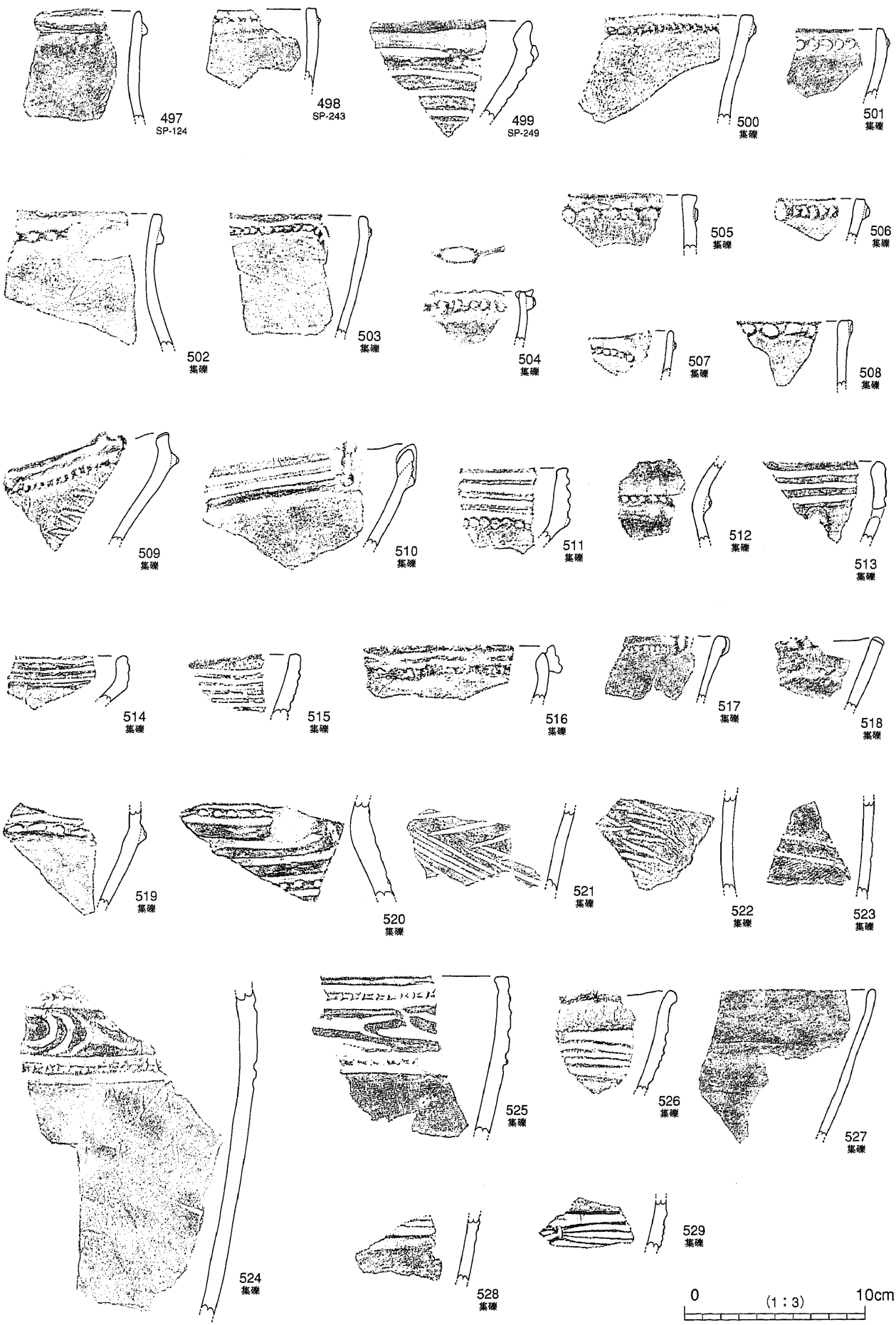
第77図　縄文時代の土器⑰



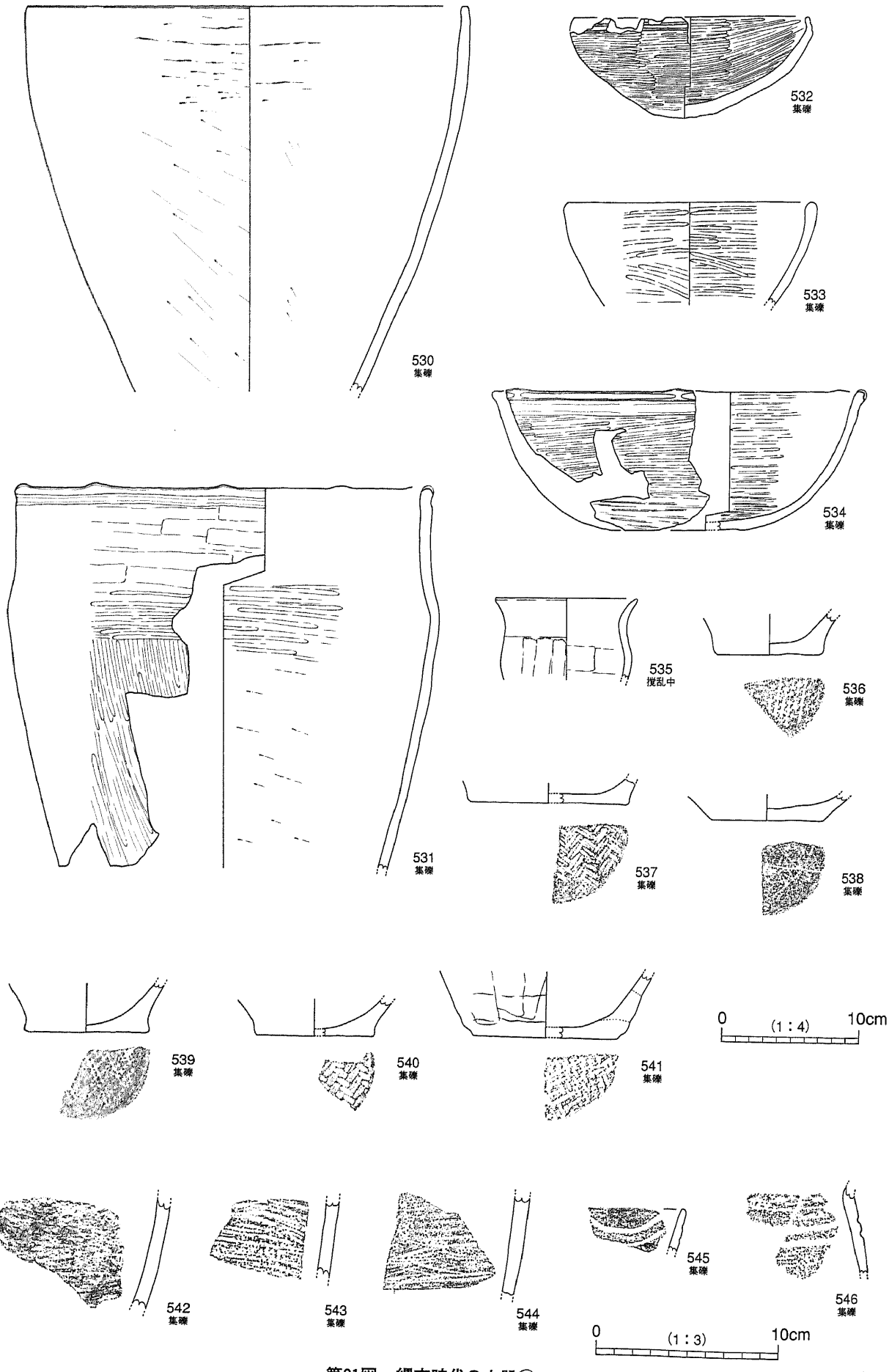
第78図　縄文時代の土器⑱



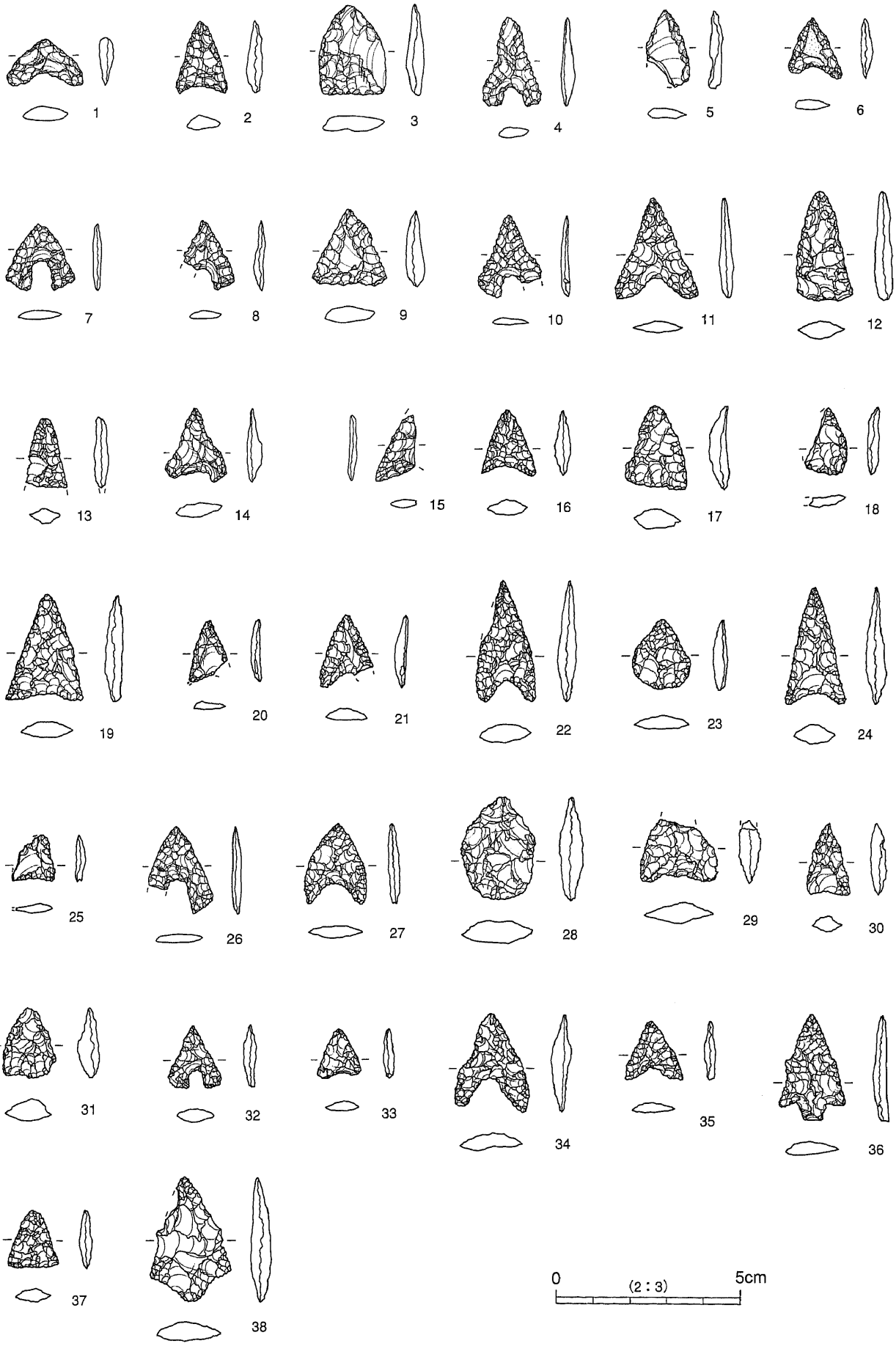
第79図　縄文時代の土器⑲



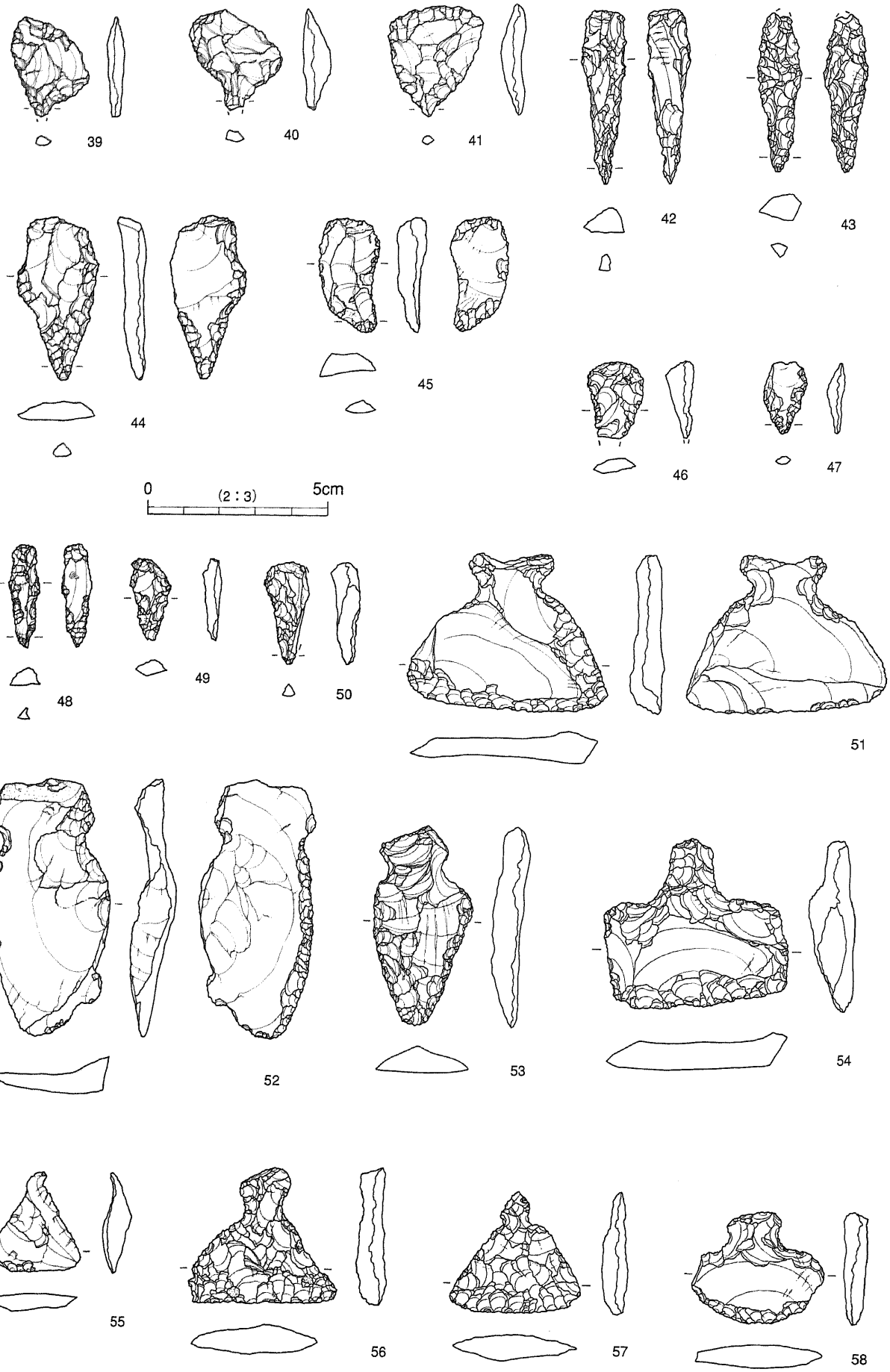
第80図　縄文時代の土器⑳



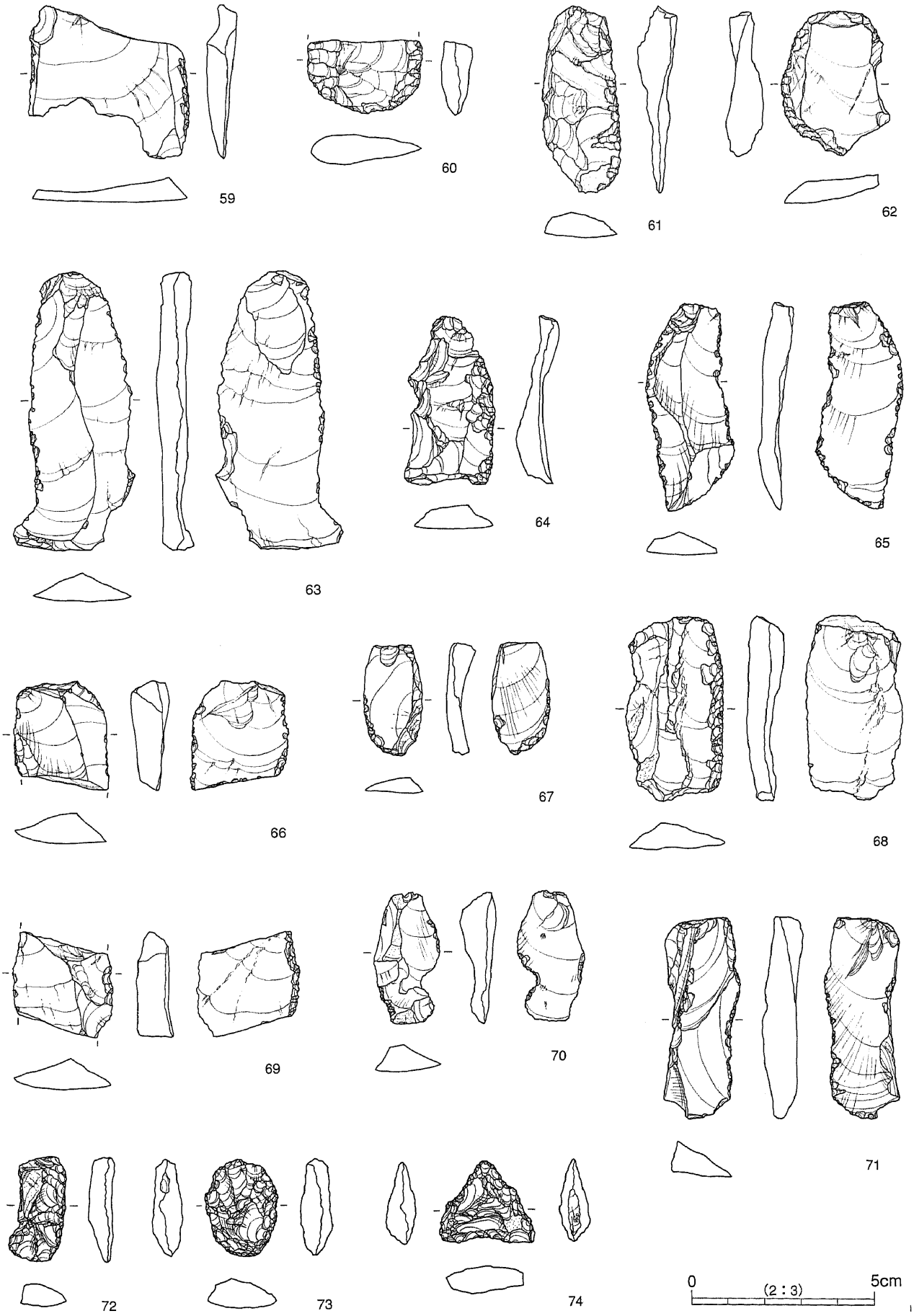
第81図　縄文時代の土器㉑



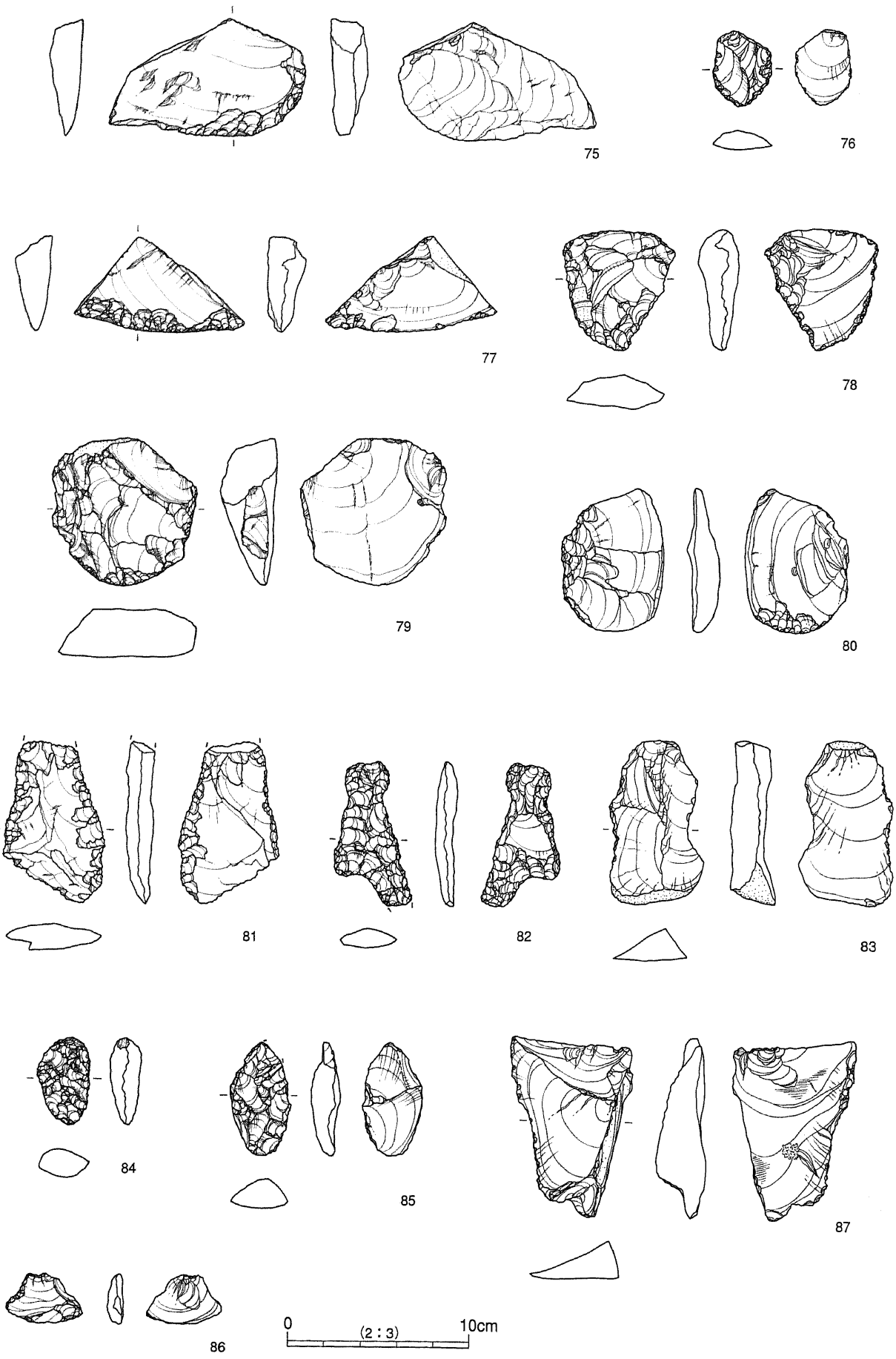
第82図　縄文時代の石器①



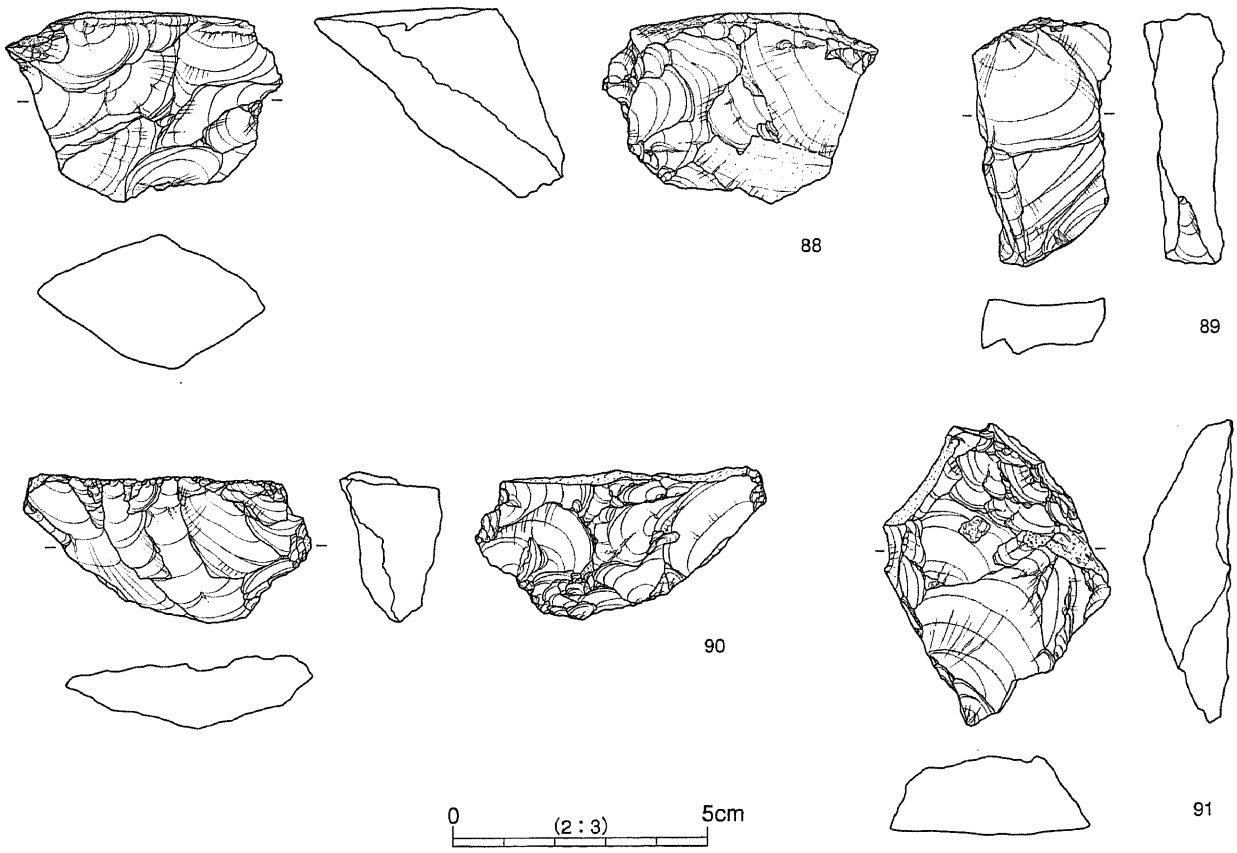
第83図　縄文時代の石器②

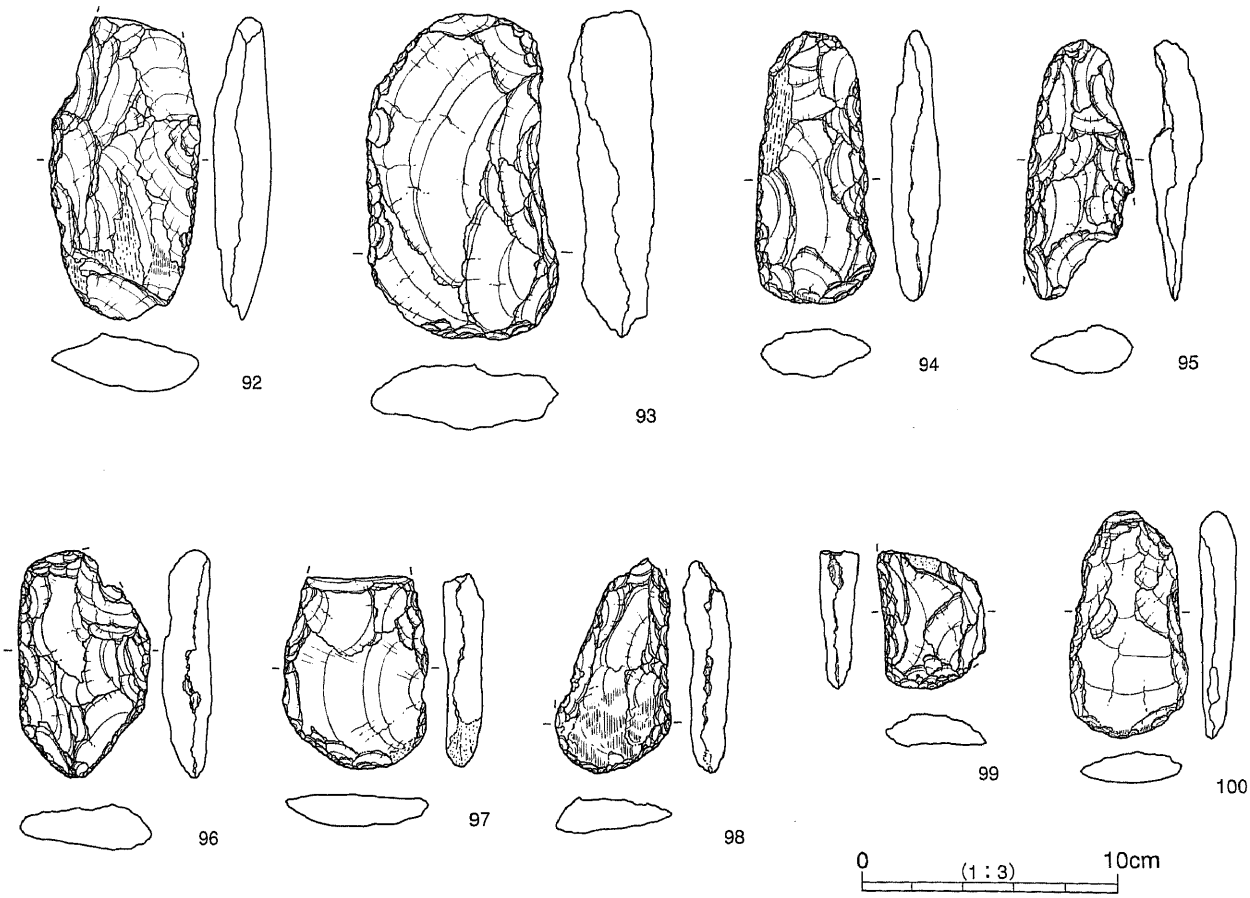


第84図　縄文時代の石器③

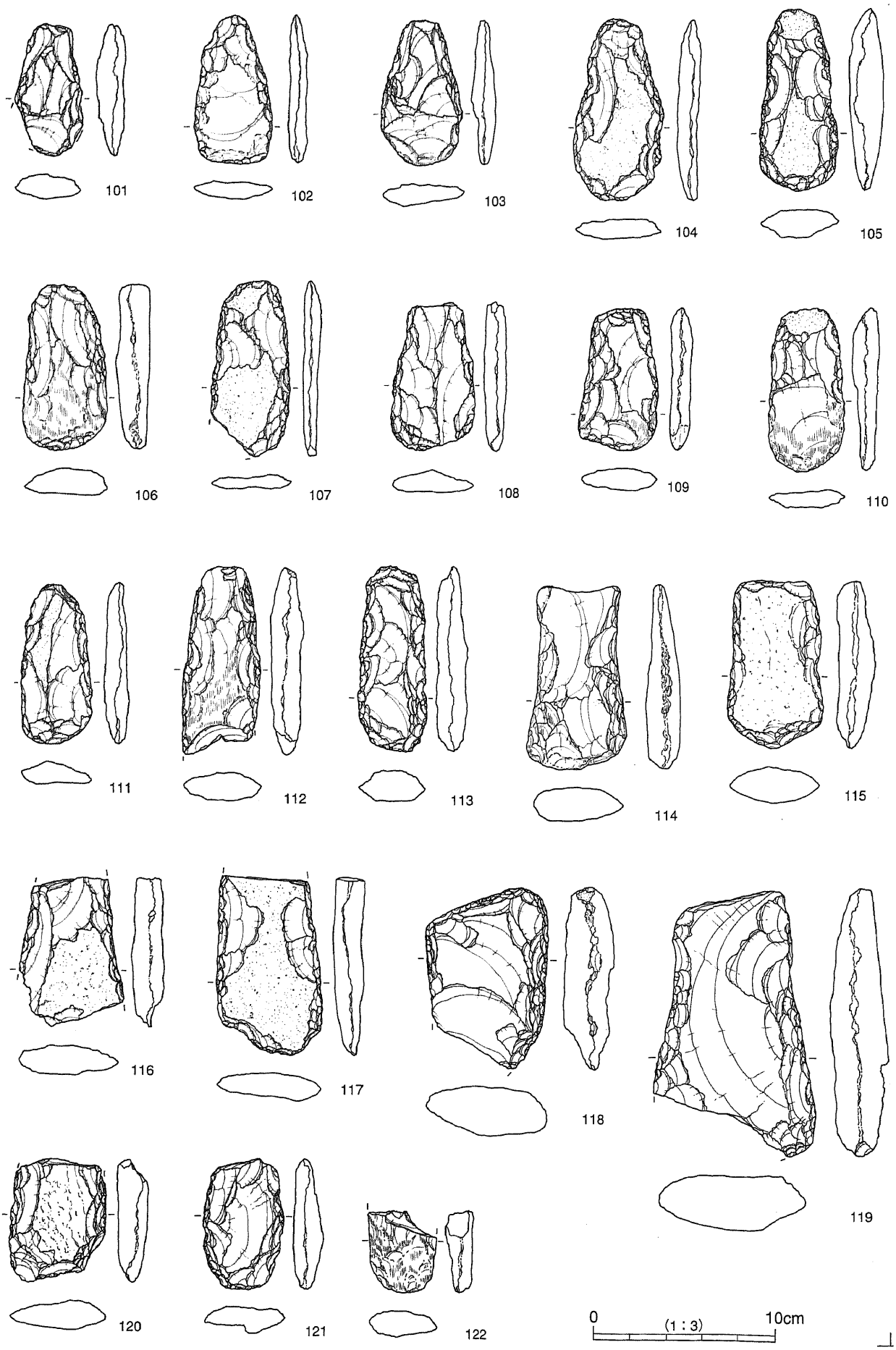


第85図　縄文時代の石器④

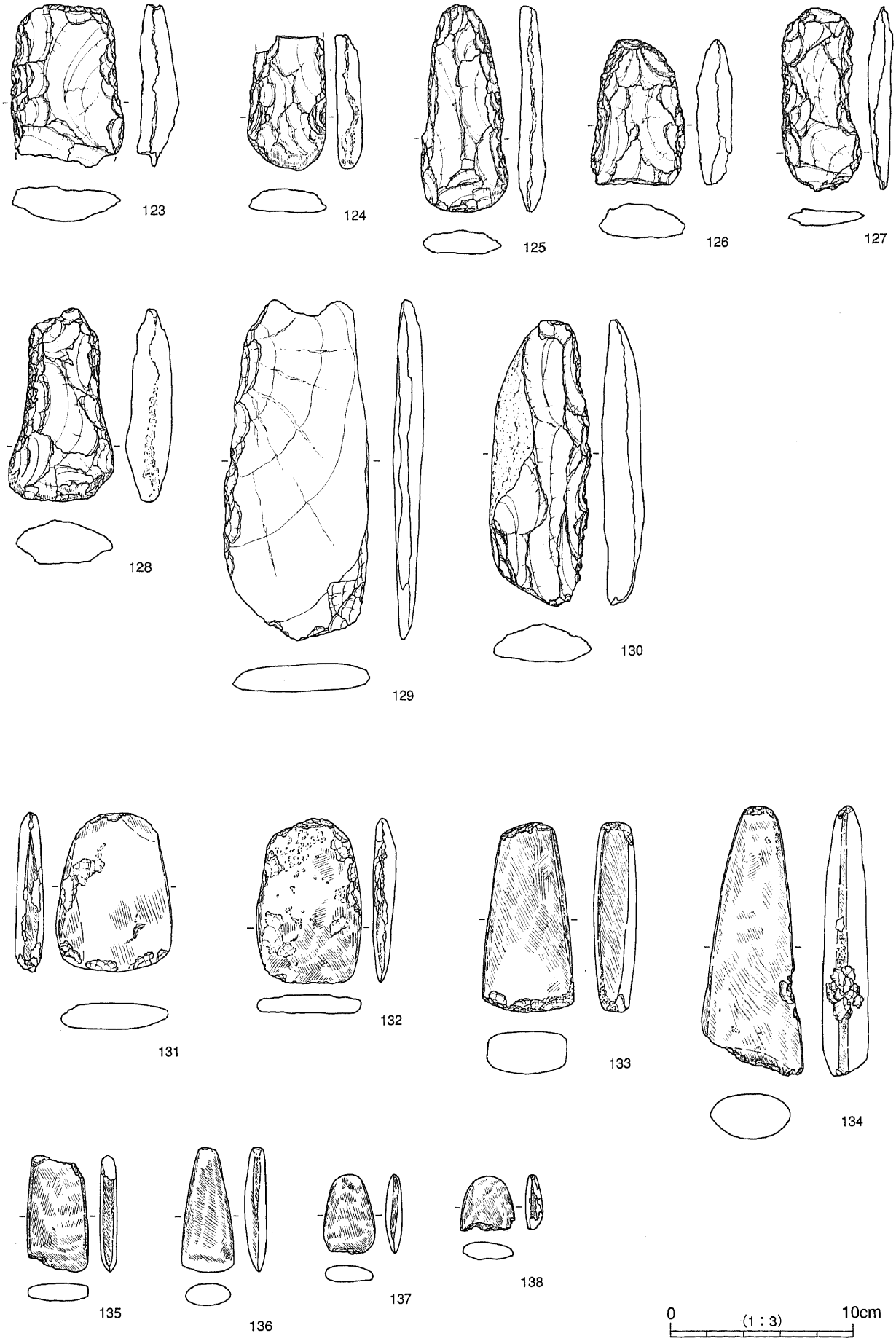




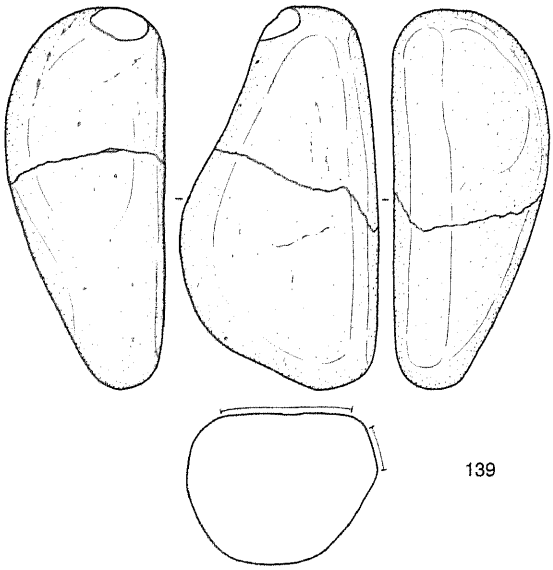
第86図　縄文時代の石器⑤



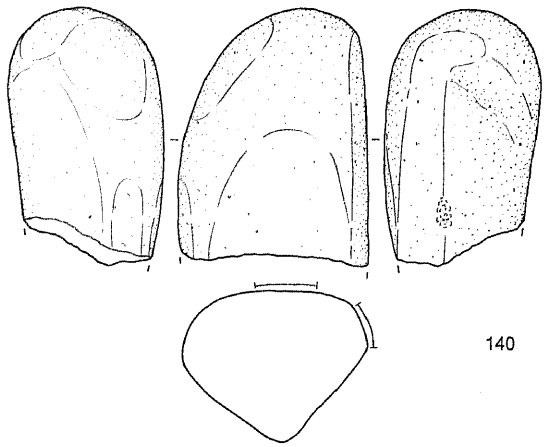
第87図　縄文時代の石器⑥



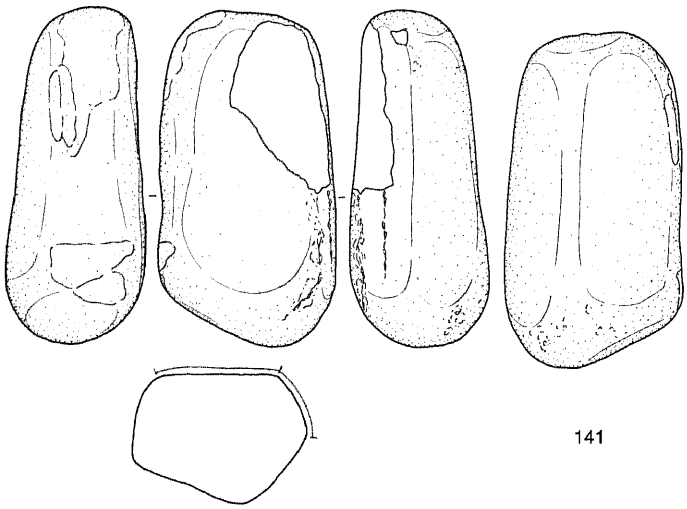
第88図　縄文時代の石器⑦



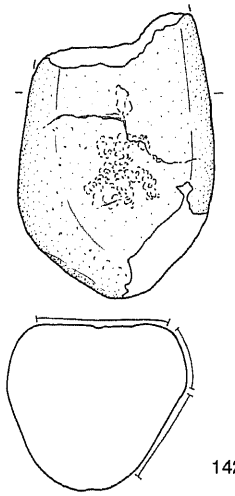
139



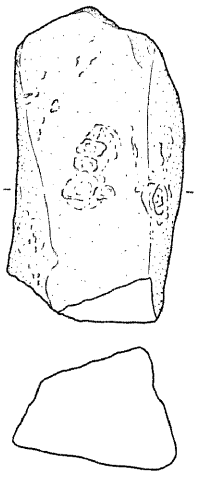
140



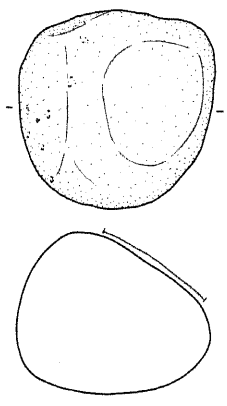
141



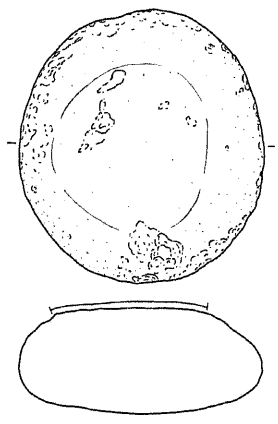
142



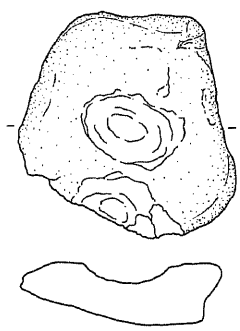
143



144



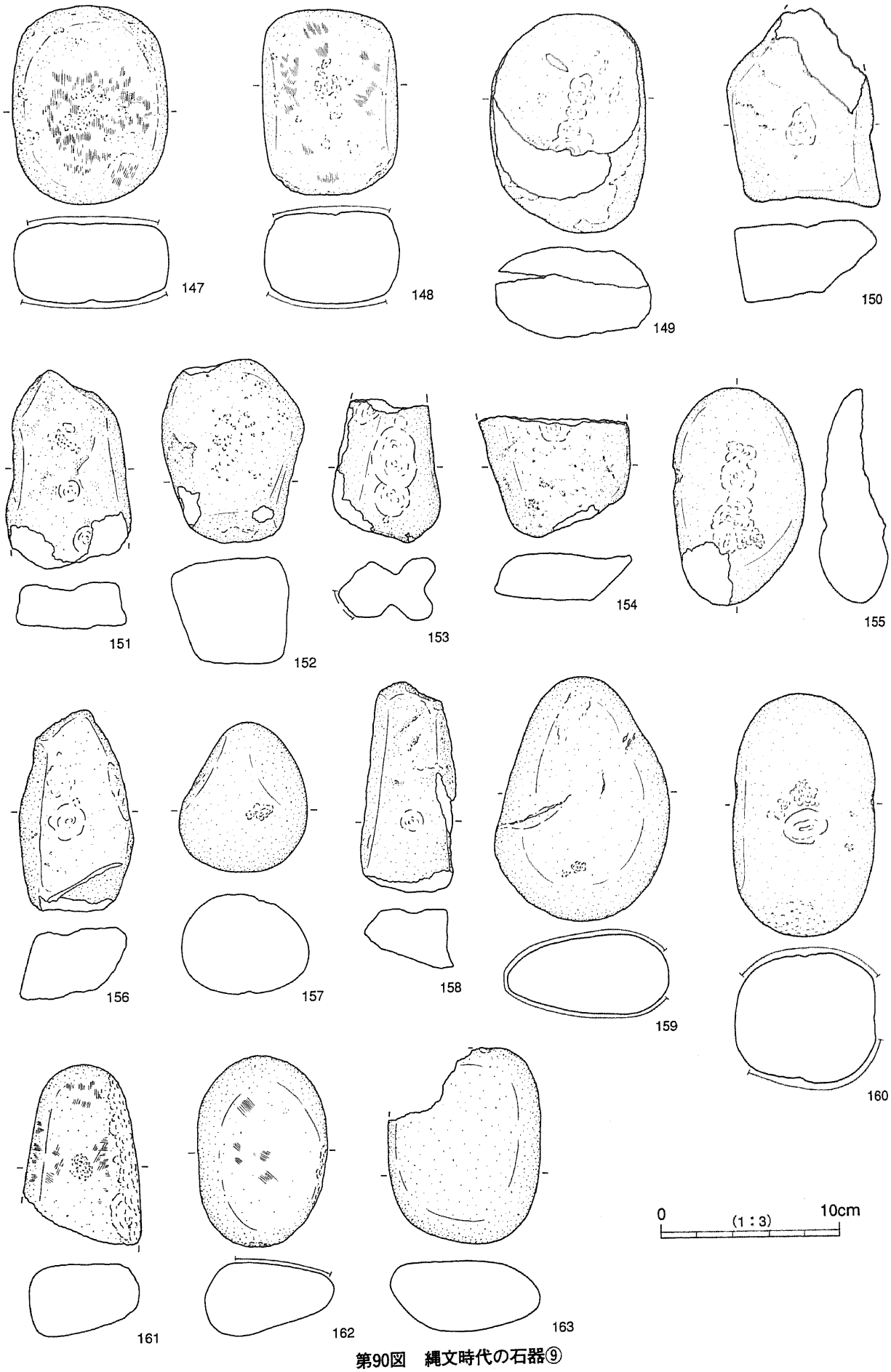
145



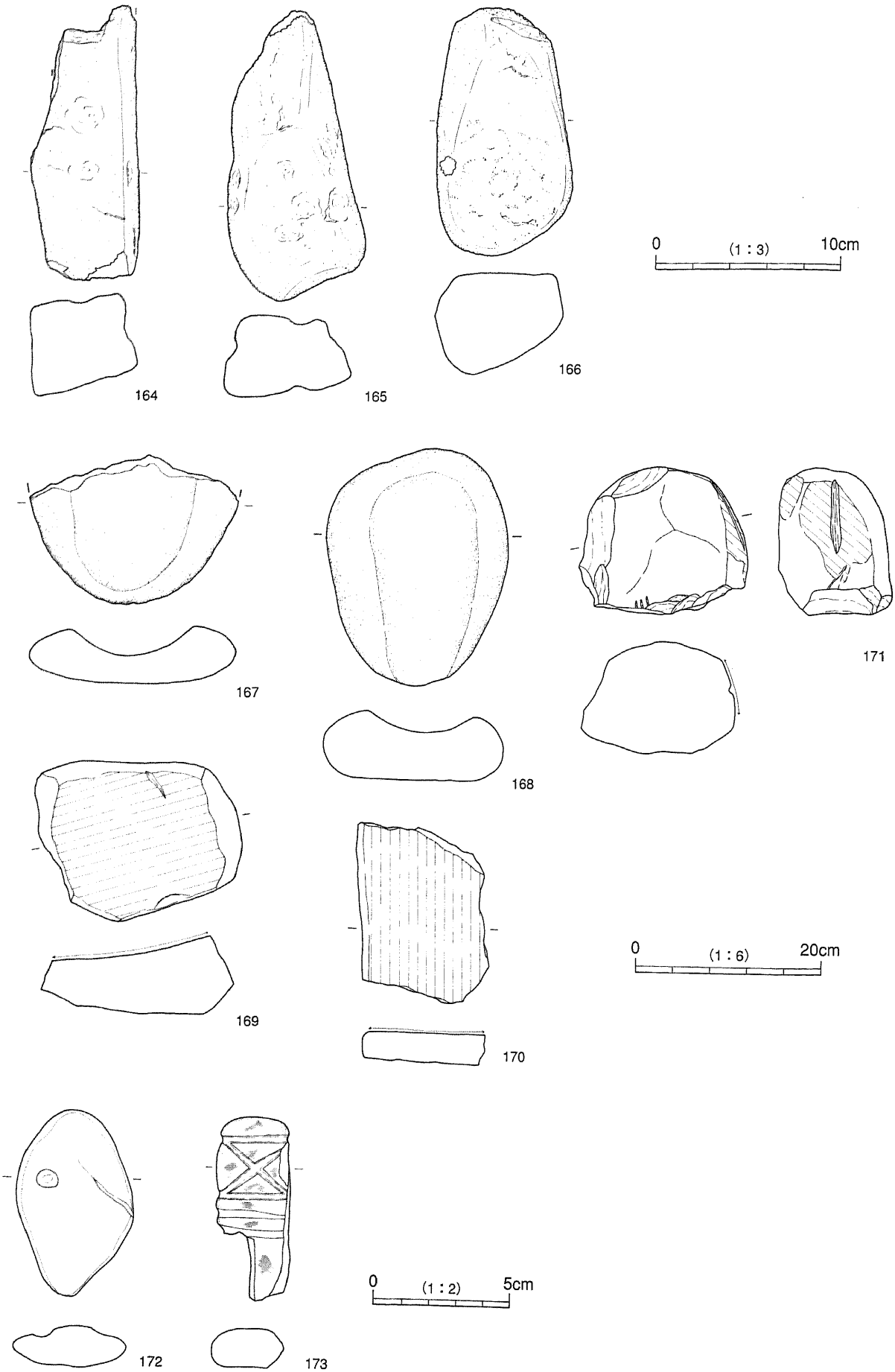
146

0 (1：3) 10cm

第89図　縄文時代の石器⑧



第90図　縄文時代の石器⑨



第91図　縄文時代の石器⑩

第5表　出土石器一覧表

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	257	D·Ⅲ区　SK－582フク土　[No.70]	石鏃	黒曜石	完形	1.3	2.1	0.4	0.7	
2	258	D·Ⅲ区　SK－584フク土　[No.78]	石鏃	黒曜石	完形	2.0	1.4	0.5	0.9	
3	259	D·Ⅲ区　SK－599フク土　[No.134]	石鏃	チャート	完形	2.4	1.8	0.5	2.2	
4	260	D·Ⅲ区　SK－628フク土　[No.255]	石鏃	チャート	完形	2.5	1.6	0.4	1.0	
5	261	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土　S13W161グリッド　[No.308]	石鏃	チャート	片脚欠	2.1	(1.2)	0.4	0.7	
6	262	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土　S13W165グリッド　[No.33]	石鏃	黒曜石	完形	1.6	1.5	0.3	0.6	
7	263	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土　S13W170グリッド　[No.312]	石鏃	黒曜石	完形	1.8	1.9	0.3	0.5	
8	264	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S14W175グリッド	石鏃	赤チャート	片脚欠	1.9	(1.4)	0.3	0.5	
9	265	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S14W177グリッド　[No.66]	石鏃	チャート	完形	2.1	2.0	0.5	1.7	
10	266	D·Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S14W178グリッド　[No.87]	石鏃	チャート	片脚欠	2.2	(1.7)	0.3	0.6	
11	1	A·Ⅰ区　SB－01　No.114	石鏃	チャート	完形	2.8	2.3	0.4	1.3	
12	2	A·Ⅰ区　SB－01　フク土	石鏃	黒曜石	完形	3.0	1.5	0.5	1.7	
13	3	A·Ⅰ区　SB－03　フク土(北東)	石鏃	黒曜石	基部先端欠	(1.9)	(1.1)	0.4	0.6	
14	254	A·Ⅰ区　SB－01黒曜石チップ集中カ所	石鏃	黒曜石	完形	2.0	1.7	0.4	0.8	
15	255	A·Ⅰ区　SB－01黒曜石チップ集中カ所	石鏃	黒曜石	片脚欠	(1.8)	(1.1)	0.3	0.3	
16	9	B·Ⅰ区　SB－03　No.1	石鏃	黒曜石	完形	1.8	1.5	0.5	0.7	
18	13	C·Ⅰ区　SB－04　フク土(南西)	石鏃	黒曜石	基部欠	(1.8)	(1.2)	0.4	0.5	
19	14	C·Ⅰ区　SB－05　フク土(北西)	石鏃	チャート	完形	2.9	2.1	0.5	2.1	
20	15	C·Ⅰ区　SB－05　フク土(北西)	石鏃	黒曜石	片脚欠	1.7	(1.1)	0.3	0.3	
21	17	C·Ⅰ区　SB－05　フク土(南西)	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.0	(1.4)	0.4	0.6	
22	19	C·Ⅰ区　SB－05　No.13	石鏃	黒曜石	側辺一部欠	3.3	1.6	0.6	1.6	
23	21	C·Ⅰ区　SB－06　No.4	石鏃	黒曜石	完形	1.9	1.6	0.4	0.9	
24	4	A·Ⅰ区　SK－006　No.4	石鏃	チャート	完形	3.2	1.7	0.6	1.8	
25	11	B·Ⅰ区　SK－007　フク土(北半)	石鏃	黒曜石	先端～片側辺欠	(1.3)	(1.1)	0.3	0.3	
26	256	C·Ⅰ区　SK－290　フク土	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.4	(1.7)	0.2	0.6	
27	22	C·Ⅰ区　SK－356　西	石鏃	黒曜石	完形	2.2	1.7	0.4	0.8	
28	23	C·Ⅰ区　SK－357　フク土	石鏃	黒曜石	完形	2.8	2.0	0.7	2.9	
29	24	C·Ⅰ区　SK－376　フク土	石鏃	黒曜石	先端1/2欠	(1.7)	2.1	0.6	1.5	
30	25	C·Ⅰ区　SK－415　フク土	石鏃	黒曜石	完形	2.0	1.2	0.5	0.7	
31	47	C·Ⅲ区　SK－450　フク土	石鏃	黒曜石	基部先端欠	(1.9)	1.4	0.6	1.0	
32	27	C·Ⅰ区　N48W15グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	1.7	1.4	0.4	0.4	
33	31	C·Ⅰ区　N49W13グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	1.4	1.2	0.3	0.3	
34	32	C·Ⅰ区　N52E0グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	2.7	2.0	0.6	1.2	
35	38	C·Ⅰ区　N45W6グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	1.6	1.6	0.3	0.4	
36	42	C·Ⅰ区　N44W9グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	2.9	1.8	0.4	1.2	
37	46	C·Ⅱ区　SB－12　フク土(南東)	石鏃	黒曜石	完形	1.6	1.5	0.4	0.4	
38	5	A·Ⅱ区　No.37　[谷包含層]	石鏃	チャート	側辺一部欠	3.4	2.2	0.6	2.8	
	6	A·Ⅱ区　遺構外(遺構検出作業時)	石鏃	黒曜石	先端1/2欠	(1.6)	1.7	0.3	0.8	
	7	A·Ⅱ区　遺構外(遺構検出作業時)	石鏃	黒曜石	基部片方の先端のみ残存	(0.8)	(0.8)	0.2	0.3	
	8	A·Ⅱ区　遺構外(遺構検出時)	石鏃	黒曜石	基部欠	(1.4)	(1.1)	0.2	0.8	
	12	B·Ⅰ区　SD－01　フク土(③アゼ～④アゼ間)	石鏃	赤チャート	両脚欠	(1.6)	1.3	0.3	0.7	
	20	C·Ⅰ区　SB－05　フク土	石鏃	黒曜石	基部1/2欠	(1.6)	(1.2)	0.4	0.4	
	26	C·Ⅰ区　SD－03　フク土	石鏃	黒曜石	完形	1.7	1.5	0.3	0.5	
	28	C·Ⅰ区　N54E0グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.3	(1.6)	0.4	1.5	
	29	C·Ⅰ区　N55E3グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	先端わずか欠	(2.2)	1.5	0.3	0.7	
	33	C·Ⅰ区　N59E1グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	先端1/2欠	(1.2)	1.6	0.3	0.7	
	34	C·Ⅰ区　N51W11グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.5	(1.6)	0.3	0.7	
	35	C·Ⅰ区　N45W12グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.3	(1.2)	0.4	0.8	

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
	36	C・Ⅰ区　N48E4グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	先端・片脚欠	(2.2)	(1.8)	0.4	0.9	
	37	C・Ⅰ区　N50E2グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.2	(1.6)	0.3	0.5	
	39	C・Ⅰ区　N47W11グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	両脚欠	(1.7)	(1.6)	0.3	0.7	
	40	C・Ⅰ区　N49W2グリッド[谷包含層]	石鏃	赤チャート	片脚欠	2.0	(1.7)	0.4	1.2	
	41	C・Ⅰ区　N49W15グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	基部欠	(1.5)	(1.9)	0.3	0.8	
	43	C・Ⅰ区　N48W10グリッド[谷包含層]	石鏃	黒曜石	先端・片脚欠	(2.6)	2.5	0.4	1.7	
	44	C・Ⅰ区　W10ラインサブトレ(N44～48間)　[谷包含層]	石鏃	黒曜石	片脚欠	1.6	(1.0)	0.2	0.3	
	45	C・Ⅰ区　表土除去中[谷包含層]	石鏃	黒曜石	完形	2.3	1.5	0.3	0.5	
	48	排土中	石鏃	黒曜石	片脚欠	2.3	(1.4)	0.4	0.8	
	49	排土中	石鏃	黒曜石	完形	2.5	1.4	0.3	0.7	
	50	排土中	石鏃	黒曜石	基部先端欠	1.5	(1.5)	0.4	0.8	
	51	排土中	石鏃	黒曜石	完形	1.9	1.7	0.4	0.8	
	251	C・Ⅰ区　N47E5グリッド	石鏃	黒曜石	完形	1.8	1.2	0.3	0.4	
	268	D・Ⅲ区　カクラン土中(N3W170付近)	石鏃	黒曜石	先端・片脚欠	(1.7)	(1.5)	0.3	0.4	
39	270	D・Ⅲ区　SP－647フク土　[No.178]	石錐	赤チャート	刃部欠	(2.7)	2.1	0.5	2.5	
40	271	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S15W170グリッド　[No.314]	石錐	チャート	刃部欠	(2.7)	2.6	0.8	3.8	
41	272	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S13W175グリッド　[No.132]	石錐	チャート	ほぼ完形	3.0	2.6	0.7	4.9	
42	54	A・Ⅰ区　SB－01上面(ドウロヵ所)	石錐	チャート	完形	4.6	1.2	1.2	4.7	
43	56	C・Ⅰ区　SB－05　No.3	石錐	黒曜石	完形	(4.3)	1.2	1.2	3.0	
44	57	C・Ⅰ区　SB－05　No.35	石錐	チャート	完形	4.4	2.2	1.3	6.1	
45	59	C・Ⅱ区　SK－571　フク土	石錐	黒曜石	完形	3.1	1.7	0.8	2.8	
46	18	C・Ⅰ区　SB－05　フク土(南西)	石錐	黒曜石	先端欠	(2.1)	1.5	0.7	1.7	
47	16	C・Ⅰ区　SB－05　フク土(北西)	石錐	黒曜石	完形	1.9	1.2	0.6	0.7	
48	58	C・Ⅰ区　N56W2グリッド[谷包含層]	石錐	黒曜石	完形	2.8	0.8	0.9	1.0	
49	55	A・Ⅱ区　SD－02　フク土	石錐	黒曜石	基部欠	(2.2)	1.2	0.5	0.9	
50	53	C・Ⅱ区　SB－09　フク土(北東)	石錐	黒曜石	縦半分欠	(2.7)	(1.3)	0.7	1.7	
	52	C・Ⅰ区　N46W8グリッド[谷包含層]	石錐	黒曜石	基部欠	(2.8)	1.3	0.5	1.1	
	104	C・Ⅰ区　イコウ検出時出土	石錐	黒曜石	完形	2.8	0.8	0.6	1.0	
	267	D・Ⅲ区　表土除去中	石錐	チャート	ほぼ完形	2.7	1.5	0.6	1.9	
	277	D・Ⅲ区　SK－583フク土	石錐？	黒曜石	未製品？	1.8	1.4	0.7	1.1	
51	60	A・Ⅰ区　SB－01　No.150	石匙	硅質砂岩	完形	4.2	5.5	1.0	17.9	
52	63	A・Ⅱ区　No.213　[SK－106]	石匙	チャート	完形	6.9	3.3	1.4	17.9	
53	269	D・Ⅲ区　SK－599　フク土[No.129]	石匙	黒曜石	完形	5.3	2.7	1.0	9.4	
54	62	A・Ⅱ区　No.33　[SK－053]	石匙	チャート	完形	4.5	4.9	1.3	21.9	
55	64	B・Ⅰ区　SK－002　No.1	石匙	チャート	完形	2.7	2.4	0.8	2.7	
56	66	C・Ⅰ区　SK－565　No.1	石匙	黒曜石	完形	3.7	4.1	0.8	8.0	
57	67	C・Ⅰ区　N53W4グリッド[谷包含層]	石匙	チャート	完形	3.3	3.7	0.7	5.9	
58	65	C・Ⅰ区　SB－09　No.2	石匙	チャート	完形	3.0	3.6	0.7	6.4	
	69	排土中	石匙	チャート	完形	6.9	1.4	0.7	11.2	
	70	表採	石匙	硅質頁岩	完形	2.8	3.7	0.5	4.5	
	71	表採	石匙	チャート	完形	1.3	2.8	0.6	3.0	
	90	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	石匙？	チャート	未製品？	3.7	4.5	0.6	11.6	
17	10	B・Ⅰ区　SB－03　No.2	削器	黒曜石	完形	2.3	1.7	0.6	1.5	
59	278	D・Ⅲ区　SK－597フク土	削器	チャート	1/2以上欠	(4.2)	4.4	0.8	8.8	
60	273	D・Ⅲ区　SK－623フク土	削器	赤チャート	1/2欠	(2.1)	3.1	0.9	6.1	
61	276	D・Ⅲ区　SK－626フク土　[No.143]	削器	赤チャート、青チャート混	完形	5.2	2.2	1.2	8.2	
62	274	D・Ⅲ区　表土除去中	削器	チャート	完形	4.0	3.0	1.1	8.5	
63	61	A・Ⅱ区　SP－124　フク土	削器	黒チャート	完形	7.7	3.4	1.0	18.3	
64	74	C・Ⅰ区　SB－05　No.33	削器	チャート	完形	4.6	2.5	1.2	7.6	
65	77	C・Ⅰ区　SK－334　フク土	削器	黒曜石	完形	5.7	2.4	1.2	6.3	
66	83	C・Ⅱ区　SB－12　フク土(南東)	削器	黒曜石	1/2欠	(3.0)	2.6	1.1	6.6	
67	84	C・Ⅱ区　SK－559　フク土	削器	黒曜石	完形	(3.1)	1.6	0.8	2.4	
68	75	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	削器	チャート	完形	5.1	2.7	1.1	14.0	
69	76	C・Ⅰ区　SK－288・289混り	削器	チャート	1/2欠	(2.9)	(2.9)	1.0	7.8	
70	68	C・Ⅱ区　SK－561　フク土	削器	黒曜石	完形	(3.6)	(1.9)	1.0	3.8	

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
71	85	C·Ⅱ区 SK−575 フク土	削器	黒曜石	完形	5.6	2.2	1.2	9.7	
72	100	C·Ⅰ区 SK−324 フク土	削器	黒曜石	完形	2.9	1.7	0.8	2.8	
	30	C·Ⅰ区 N50W7グリッド[谷包含層]	削器	黒曜石	1/2欠	(2.2)	(1.5)	0.3	1.3	
	72	表採	削器	赤チャート	完形	2.7	1.4	0.7	4.2	
	82	表採	削器	黒曜石	完形	4.4	1.8	0.9	5.7	
	80	C·Ⅰ区 N52W1グリッド[谷包含層]	削器？	黒曜石	完形	2.8	1.3	0.4	2.0	
	93	C·Ⅰ区 N50W9グリッド[谷包含層]	削器？	黒曜石	完形？	2.0	0.9	0.4	0.8	
73	91	C·Ⅰ区 N48W27グリッド[谷包含層]	掻器	黒曜石	完形	2.7	2.0	0.9	4.0	
74	102	C·Ⅰ区 N51W10グリッド[谷包含層]	掻器	黒曜石	完形	2.3	2.6	0.9	3.5	
75	79	C·Ⅰ区 SK−415 フク土	掻器	チャート	完形	(3.2)	(5.5)	1.0	16.2	
76	89	C·Ⅰ区 SB−05 フク土(アゼ中)	掻器	黒曜石	完形	2.0	1.6	0.6	1.4	
77	78	C·Ⅰ区 SK−406 フク土	掻器	黒曜石	完形	(2.6)	(4.7)	1.1	8.3	
78	88	A·Ⅰ区 SB−01 No.142	掻器	黒曜石	完形	3.2	3.1	1.1	8.7	
79	87	A·Ⅰ区 SB−01 No.93	掻器	黒曜石	完形	4.0	4.1	1.6	22.7	
80	96	C·Ⅱ区 SB−10 フク土(南西)	掻器	チャート	完形	3.9	2.8	0.9	9.4	
	94	C·Ⅰ区 イコウ検出時	掻器	黒曜石	2/3欠	(2.4)	(3.5)	0.9	7.3	
	95	C·Ⅰ区 イコウ外	掻器	黒曜石	1/2欠	(2.3)	(3.2)	0.9	5.4	
81	73	C·Ⅰ区 N52W12グリッド[谷包含層]	石槍	チャート	先端·基部欠	(4.4)	2.8	0.8	9.0	
82	101	C·Ⅰ区 N50W2グリッド[谷包含層]	異形石器	チャート	一部欠	(3.9)	(2.1)	0.7	3.5	
87	194	C·Ⅱ区 SB−12 No.1	剥片	黒曜石		4.8	3.3	1.4	12.8	
88	196	C·Ⅱ区 SB−12 No.3	剥片	黒曜石		3.8	5.5	4.9	54.2	
89	195	C·Ⅱ区 SB−12 No.2	剥片	黒曜石		5.0	2.7	1.5	17.0	
90	193	C·Ⅱ区 SB−09 No.1	剥片	黒曜石		3.0	5.7	2.0	21.4	
91	197	C·Ⅱ区 SB−12 No.4	剥片	黒曜石		6.0	4.5	1.7	32.2	
83	106	C·Ⅱ区 SK−559 フク土	剥片(使用痕有)	チャート		4.4	2.6	1.2	11.9	
86	105	C·Ⅱ区 SB−10 フク土(北東)	剥片(使用痕有)	黒曜石		1.4	2.1	0.5	0.9	
	103	C·Ⅰ区 N62E2グリッド[谷包含層]	剥片(使用痕有)	黒曜石		2.8	2.1	1.0	3.3	
84	99	C·Ⅰ区 SB−05 フク土(サブトレ掘削時)	不明(2次加工有)	黒曜石		2.4	1.4	0.9	2.6	
85	98	A·Ⅱ区 SK−115 フク土	不明(2次加工有)	黒曜石		3.0	1.7	0.8	3.2	
	81	C·Ⅰ区 N64W0グリッド[谷包含層]	不明(2次加工有)	黒曜石		2.4	1.5	0.5	1.7	
	86	表採	不明(2次加工有)	赤チャート		3.7	2.9	0.7	7.8	
	92	C·Ⅰ区 N50W5グリッド[谷包含層]	不明(2次加工有)	黒曜石		2.5	1.3	0.5	1.1	
	97	C·Ⅱ区 SB−12 フク土(アゼ中)	不明(2次加工有)	チャート		3.7	5.7	1.1	24.5	
	253	A·Ⅱ区 N63E31グリッド 谷イブツ集中箇所 GL−30cmまで	不明(2次加工有)	黒曜石		3.3	3.0	1.4	5.6	
	275	D·Ⅲ区 SX−005フク土	不明(2次加工有)	黒曜石		2.6	2.3	0.8	3.7	
	279	D·Ⅲ区 SX−005フク土	不明(2次加工有)	チャート		4.0	2.6	0.5	4.0	
92	282	D·Ⅲ区 SP−659フク土	打製石斧	泥質凝灰岩	基部欠	(12.0)	5.9	2.3	184.5	
100	280	C·Ⅰ区 SK−170フク土	打製石斧	細砂岩	完形	9.1	4.4	1.4	65.4	
	137	C·Ⅰ区 N53E2グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(8.5)	3.8	1.4	44.8	
	252	C·Ⅰ区 N48W7グリッド	打製石斧	砂質粘板岩	刃部～胴部を半分欠	(8.1)	(3.2)	1.3	39.0	
	281	D·Ⅲ区 カクラン土中(N8W172グリッド) [No.185]	打製石斧	泥質凝灰岩	刃部欠	(7.4)	4.7	1.5	67.0	
93	107	A·Ⅰ区 SB−01 No.21	打製石斧	硅質粘板岩	完形	12.9	7.4	3.5	354	
94	108	A·Ⅰ区 SB−01 No.130	打製石斧	硅質粘板岩	完形	10.8	4.8	2.0	112.9	
95	109	A·Ⅰ区 SB−01 No.157	打製石斧	チャート質粘板岩	胴～刃部欠	10.3	(4.3)	2.1	65.7	
96	110	A·Ⅰ区 SB−01内P10 フク土(南半)	打製石斧	粘板岩	刃部欠損後に再加工？	9.0	5.1	2.0	102.7	
97	116	C·Ⅰ区 SB−05 No.38	打製石斧	砂質粘板岩	基部欠	(7.6)	5.6	1.6	92.9	
98	117	C·Ⅰ区 SB−05 No.52	打製石斧	粘板岩	基部～片側片欠	(8.5)	4.6	1.9	65.0	
99	118	C·Ⅰ区 SB−05Pit21	打製石斧	粘板岩	基部欠	(5.5)	4.4	1.7	39.6	
101	153	C·Ⅱ区 SK−559 フク土	打製石斧	粘板岩	先端欠	7.2	(3.7)	1.6	40.7	
102	156	C·Ⅰ区 SK−177 No.4	打製石斧	砂質粘板岩	完形	8.1	4.4	1.2	46.7	
104	166	C·Ⅰ区 SK−401 フク土	打製石斧	粘板岩	完形	9.9	5.0	1.4	69.2	
105	152	C·Ⅱ区 SK−559 フク土	打製石斧	砂質粘板岩	完形	9.9	4.3	1.9	94.1	
106	154	C·Ⅱ区 SK−573 フク土	打製石斧	砂質粘板岩	完形	9.1	4.7	1.9	105.1	
107	167	C·Ⅳ区 SD−03 フク土	打製石斧	粘板岩	刃部半分欠	(9.6)	(4.5)	1.1	47.7	

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
108	133	C・Ⅰ区　N48W10グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	完形	8.2	4.7	1.4	61.7	
108	157	C・Ⅰ区　SK－204　フク土	打製石斧	粘板岩	完形	8.0	4.5	1.4	47.0	
109	142	C・Ⅰ区　表土除去中出土	打製石斧	粘板岩	完形	7.8	4.4	1.3	54.8	
110	136	C・Ⅰ区　N50W4グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	完形	8.9	4.3	1.5	68.0	
111	138	C・Ⅰ区　N55E4グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	完形	8.8	3.9	1.4	53.1	
112	162	C・Ⅰ区　SK－352　フク土	打製石斧	砂質粘板岩	刃部欠	(10.3)	4.4	1.8	95.2	
113	140	C・Ⅰ区　表土除去中(北の谷の箇所)[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	完形	10.2	3.9	1.8	87.9	
114	168	C・Ⅳ区　SD－03　フク土	打製石斧	粘板岩	完形	9.1	5.5	1.9	133.2	
115	122	C・Ⅰ区　N45W5グリッド[谷包含層]	打製石斧	砂岩	完形	9.2	5.3	2.1	130.9	
116	155	C・Ⅱ区　イコウ外	打製石斧	粘板岩	基部・刃部欠	(8.2)	5.7	1.9	94.2	
117	164	C・Ⅰ区　SK－383　フク土	打製石斧	粘板岩	完形	(9.8)	6.0	1.7	133.9	
118	159	C・Ⅰ区　SK－288・289混り	打製石斧	砂質粘板岩	基部欠	(9.9)	6.9	2.8	222	
119	165	C・Ⅰ区　SK－390　フク土	打製石斧	砂岩	刃部・基部欠	(14.6)	(8.9)	3.3	412	
120	160	C・Ⅰ区　SK－329　フク土	打製石斧	粘板岩	刃部・基部欠	(6.8)	5.2	1.7	71.7	
121	163	C・Ⅰ区　SK－379　フク土	打製石斧	粘板岩	刃部欠	7.2	4.6	1.7	59.4	
122	158	C・Ⅰ区　SK－252　フク土	打製石斧	粘板岩	胴～刃部欠	(4.5)	(3.9)	1.6	29.5	
123	144	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(アゼ中)	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(8.8)	6.2	2.4	131.0	
124	146	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(北東)	打製石斧	砂質粘板岩	基部欠	(7.3)	4.3	1.4	64.5	
125	148	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(北東)	打製石斧	緑色凝灰岩	完形	11.3	4.8	1.6	94.9	
126	149	C・Ⅱ区　SB－11炉　フク土	打製石斧	粘板岩	刃部欠	7.9	5.2	2.0	96.1	
127	150	C・Ⅱ区　SB－12　フク土(アゼ中)	打製石斧	粘板岩	完形	10.0	4.5	1.4	65.6	
128	151	C・Ⅱ区　SB－12　フク土(北東)	打製石斧	砂質粘板岩	完形	10.5	5.9	2.7	161.9	
129	111	A・Ⅱ区　SP－195　フク土	打製石斧	粘板岩	完形	9.3	4.0	0.9	39.5	
130	112	A・Ⅱ区　SP－254　打斧	打製石斧	砂質粘板岩	完形	15.5	5.6	2.3	236	
	113	A・Ⅱ区　SK－086　No.2	打製石斧	砂質粘板岩	胴～刃部欠	(9.1)	4.2	1.2	50.0	
	114	A・Ⅱ区　No.64　[イコウ外]	打製石斧	凝灰質粘板岩	刃部欠	(6.4)	5.2	1.2	42.4	
	115	A・Ⅱ区　No.82　[イコウ外]	打製石斧	粘板岩	未製品？	12.2	6.2	2.2	173.3	
	119	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	打製石斧	砂質粘板岩	基部少し欠	(10.7)	5.4	2.4	169.6	
	120	C・Ⅰ区　竪穴状イコウ1　フク土	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(7.2)	(3.9)	1.4	42.6	
	121	C・Ⅰ区　N43W11グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	基部少し欠	(8.8)	4.2	1.6	78.2	
	123	C・Ⅰ区　N45W11グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(5.8)	3.7	1.2	24.8	
	124	C・Ⅰ区　N46W7グリッド[谷包含層]	打製石斧	硅質粘板岩	胴～刃部欠	(4.9)	(5.6)	1.5	43.9	
	125	C・Ⅰ区　N46W11グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	基部欠	(7.2)	5.0	1.1	64.0	
	126	C・Ⅰ区　N46W15グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	胴部縦半分～刃部欠	(10.0)	4.4	2.3	77.0	
	128	C・Ⅰ区　N47W2グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	基部～片側片欠	(11.3)	4.7	1.3	84.1	
	129	C・Ⅰ区　N47W8グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	基部欠	(8.5)	7.4	2.1	156.3	
	130	C・Ⅰ区　N47W10グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(7.4)	7.2	1.6	106.0	
	131	C・Ⅰ区　N47W10グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(6.0)	4.7	2.0	51.6	
	132	C・Ⅰ区　N47W11グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠	(7.5)	3.7	1.5	56.1	
	134	C・Ⅰ区　N48W10グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	刃部欠損後に再加工？	6.9	4.4	1.2	42.1	
	135	C・Ⅰ区　N49W14グリッド[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	胴～刃部欠	(6.0)	3.9	1.1	31.2	
	139	C・Ⅰ区　W10ラインサブトレ(N44～48間)　[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	基部・刃部共に先端欠	(8.0)	3.5	1.8	67.5	
	141	C・Ⅰ区　表土除去中(北の谷の箇所)[谷包含層]	打製石斧	粘板岩	胴部のみ残	(5.2)	(4.8)	2.0	65.3	
	143	C・Ⅰ区　イコウ検出時出土	打製石斧	凝灰質泥岩	側片～刃部欠	(8.2)	(4.5)	1.0	33.5	
	145	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(アゼ中)	打製石斧	粘板岩	側片の一部残	(6.5)	(4.5)	(0.8)	18.7	
	147	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(北西)	打製石斧	泥質凝灰岩	刃部欠	(4.6)	(3.8)	1.0	18.7	
	161	C・Ⅰ区　SK－350　フク土	打製石斧	粘板岩	胴～基部欠	(4.2)	4.2	1.5	33.8	
	169	C・Ⅳ区　SD－03　フク土	打製石斧	粘板岩	完形	9.2	4.8	1.6	73.9	
	127	C・Ⅰ区　N47W2グリッド[谷包含層]	打製石斧？	砂岩	完形	7.7	5.6	2.0	78.1	被熱　くさび？
131	170	A・Ⅰ区　SB－01　No.101	磨製石斧	雲母片岩	刃部刃こぼれ	8.6	6.4	1.7	139.0	
132	174	A・Ⅱ区　No.167　[SK－109]	磨製石斧	玉質	完形	9.0	5.7	1.3	98.4	
133	177	C・Ⅰ区　N49W8グリッド[谷包含層]	磨製石斧	玉質	基部の一部、刃部欠	(10.4)	5.0	2.4	220	
134	176	C・Ⅰ区　SD－03　No.1	磨製石斧	砂岩	刃部欠	14.8	5.6	2.6	298	

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
135	171	A・Ⅰ区　SB－01　No.162	磨製石斧	玉質	基部・刃部の一部欠	(6.4)	3.4	1.0	37.9	
136	173	A・Ⅱ区　No.28　[SK－136]	磨製石斧	黒色チャート質	完形	6.8	2.9	1.2	32.0	
137	172	A・Ⅰ区　SB－01　No.163	磨製石斧	チャート質	刃部一部欠	(4.4)	2.8	0.9	17.1	
138	175	C・Ⅰ区　SK－395　フク土	磨製石斧	玉質	胴～刃部欠	(3.0)	(3.0)	1.0	11.0	
	178	C・Ⅰ区　N63W0グリッド[谷包含層]	磨製石斧	玉質	側変の一部残存	(2.5)	(1.9)	(0.6)	2.2	
139	283	D・Ⅲ区　SK－639or632　[No.244]	カクラン土中(N3W170付近)	特殊磨石	砂岩	1/2欠	15.4	8.1	6.0	980
140	284	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S 14W164グリッド　[No.223]	特殊磨石	砂岩	1/3欠	(10.3)	7.8	6.1	600	
141	250	排土中	特殊磨石	粗砂岩	完形	13.4	7.4	5.2	760	
142	286	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S 15W170グリッド	特殊磨石	砂岩	1/3欠	(11.4)	7.9	6.6	765	被熱
143	288	D・Ⅲ区　SP－657フク土　[No.272]	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	12.7	7.0	4.9	545	被熱
144	291	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S 13W169グリッド　[No.221]	磨石類	粗砂岩	完形	8.0	8.0	6.5	565	
145	285	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S 14W166グリッド　[No.203]	磨石類	砂岩	ほぼ完形	10.9	9.9	4.3	595	
146	294	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S 10W170グリッド　[No.288]	磨石類	砂岩	ほぼ完形	9.0	8.7	2.5	206	
147	209	A・Ⅰ区　SB－01　No.158	磨石類	花崗岩	完形	10.8	8.3	4.4	670	
148	210	A・Ⅰ区　SB－01　No.159	磨石類	花崗岩質	完形	10.1	7.5	5.0	690	
149	211	A・Ⅰ区　SB－01　No.160と No.161	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	12.0	8.8	5.0	635	
150	204	A・Ⅰ区　SB－01　No.87	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	(11.1)	8.5	4.4	515	
151	206	A・Ⅰ区　SB－01　No.89	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	(10.8)	6.7	2.6	272	
152	207	A・Ⅰ区　SB－01　No.98	磨石類	粗砂岩	完形	10.0	7.8	5.9	630	
153	203	A・Ⅰ区　SB－01　No.59	磨石類	粗砂岩	1/3欠	(7.9)	(6.1)	3.4	222	
154	205	A・Ⅰ区　SB－01　No.88	磨石類	粗砂岩	1/2欠	(6.7)	(8.5)	2.7	193.5	
155	219	C・Ⅰ区　SB－05　No.25	磨石類	砂岩	1/5欠	(12.0)	7.5	4.0	426	
156	218	C・Ⅰ区　SB－05　No.15	磨石類	砂岩	ほぼ完形	11.1	6.1	3.9	324	被熱
157	220	C・Ⅰ区　SK－177　No.5	磨石類	砂岩	完形	8.2	7.1	5.5	364	
158	241	C・Ⅱ区　SK－561　フク土	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	11.6	5.5	3.3	298	被熱
159	243	C・Ⅲ区　SK－435　フク土	磨石類	砂岩	完形	13.4	9.9	4.5	805	
160	248	C・Ⅳ区　SK－550　凹石	磨石類	粗砂岩	完形	13.4	8.1	7.4	1240	
161	221	C・Ⅰ区　SK－222　フク土	磨石類	砂岩	1/3欠	(9.9)	(6.3)	4.0	366	
162	222	C・Ⅰ区　SK－265　凹石	磨石類	砂岩	完形	10.5	7.2	4.1	394	
163	240	C・Ⅱ区　SB－12　フク土(北東)	磨石類	砂岩	1/5欠	10.8	8.6	3.9	434	
164	239	C・Ⅱ区　SB－10　フク土(南東)	磨石類	粗砂岩	完形	14.7	6.0	5.4	585	
165	242	C・Ⅱ区　SK－575　フク土	磨石類	粗砂岩	完形	15.5	7.6	4.4	545	
166	244	C・Ⅲ区　SH－010　フク土	磨石類	粗砂岩	完形	13.3	7.6	5.4	675	被熱
	202	A・Ⅰ区　SB－01　No.36	磨石類	砂岩	剥片状に残存	(8.4)	(7.2)	(4.1)	202	付着物あり
	208	A・Ⅰ区　SB－01　No.151	磨石類	粗砂岩	剥片状に残存	(6.0)	(5.0)	(2.6)	66.6	
	212	A・Ⅰ区　SB－01上面(ドウロヵ所)	磨石類	花崗岩	剥片状に残存	(5.4)	(4.2)	(3.9)	61.6	
	213	A・Ⅱ区　SK－092　フク土	磨石類	砂岩	剥片状に残存	(7.9)	(3.8)	(2.0)	46.0	
	214	A・Ⅱ区　No.56　[遺構外]	磨石類	砂岩	完形	9.9	5.9	4.1	366	
	215	A・Ⅱ区　No.124　[遺構外]	磨石類	粗砂岩	完形	11.0	7.3	5.7	595	
	217	A・Ⅱ区　谷状地形イブツ集中箇所上面　[谷包含層]	磨石類	砂岩	完形	13.2	8.4	4.8	790	
	223	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	磨石類	粗砂岩	完形	16.5	7.3	8.0	1100	
	224	C・Ⅰ区　SD－05　フク土	磨石類	粗砂岩	完形	8.8	7.3	6.3	515	
	225	C・Ⅰ区　N46E1グリッド[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	1/5欠	10.4	8.0	3.7	378	
	226	C・Ⅰ区　N47W10グリッド[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	1/4欠	(8.7)	5.9	5.1	456	
	227	C・Ⅰ区　N48W14グリッド[谷包含層]	磨石類	砂岩、粘板岩結合	2/3欠	(8.2)	(5.6)	3.3	238	
	228	C・Ⅰ区　N48W15グリッド[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	1/2欠	(9.0)	(8.2)	7.3	515	
	229	C・Ⅰ区　N49W4グリッド[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	1/5欠	(9.7)	5.9	4.1	320	
	230	C・Ⅰ区　N51W3グリッド[谷包含層]	磨石類	アプライト	完形	9.6	7.8	3.5	424	
	231	C・Ⅰ区　N54E4グリッド[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	完形	(9.4)	6.8	4.5	494	
	232	C・Ⅰ区　N54E4グリッド[谷包含層]	磨石類	砂岩	1/5欠	(9.6)	5.6	3.2	240	
	233	C・Ⅰ区　N55W10グリッド[谷包含層]	磨石類	砂岩	2/5欠	(10.0)	(8.1)	(6.3)	695	

報文図No.	整理時No.	出土位置ラベル	器種	石材	欠損状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
	234	C・Ⅰ区　N57W5グリッド[谷包含層]	磨石類	砂岩	1/4欠	(9.3)	(6.3)	4.3	314	
	235	C・Ⅰ区　表土除去中(北の谷の箇所)[谷包含層]	磨石類	粗砂岩	1/3欠	(7.0)	(7.4)	3.6	274	
	236	C・Ⅰ区　イコウ検出時	磨石類	粗砂岩	完形	12.6	6.0	5.0	462	
	237	C・Ⅰ区　イコウ外	磨石類	粗砂岩	完形	7.4	5.3	3.5	185.7	
	238	C・Ⅱ区　SB－09　No.6	磨石類	細粒花崗岩	ほぼ完形	9.5	6.6	6.5	630	剥落著しい
	245	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	磨石類	砂岩	完形	12.2	6.7	4.5	600	
	246	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	磨石類	安山岩	1/3欠	(10.8)	(7.8)	(6.1)	396	
	247	C・Ⅲ区　表土除去中出土	磨石類	砂岩	1/5欠	(9.5)	10.0	3.3	492	
	249	排土中	磨石類	粗砂岩	完形	12.6	7.4	4.7	615	
	289	D・Ⅲ区　SD－03フク土	磨石類	溶質凝灰岩	ほぼ完形	8.8	7.5	5.0	402	
	290	D・Ⅲ区　SD－03フク土	磨石類	粗砂岩	ほぼ完形	11.4	7.0	4.7	404	被熱
	292	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S15W161グリッド　[No.329]	磨石類	粗砂岩	一部残存	(4.7)	(6.3)	(3.8)	82.7	
	293	D・Ⅲ区　南側遺物包含黒色土中　S15W168グリッド　[No.223]	磨石類	粗砂岩	一部残存	(4.5)	(7.2)	(3.1)	89.4	
	298	A・Ⅱ区　表土除去中	磨石類	粗砂岩	完形	(9.8)	8.0	6.5	505	被熱
167	199	C・Ⅰ区　SK－323石皿	石皿	安山岩	1/2欠	(15.6)	(22.9)	5.8	2380	
168	198	A・Ⅱ区　SK－167(石皿)	石皿	安山岩	完形	25.2	20.3	7.4	5120	
169	297	D・Ⅲ区　SK－632No.1	石皿	粗砂岩	完形	22.2	18.5	8.5	4420	
170	296	D・Ⅲ区　SK－612No.1	石皿	粗砂岩	完形	19.0	14.4	3.1	1720	
	299	A・Ⅰ区　SB－01　No.92	石皿	安山岩	1/2欠	(19.2)	18.8	6.8	3440	
171	201	C・Ⅰ区　SB－05　No.65	筋砥石	砂岩	完形	15.8	18.3	12.0	5210	
172	182	A・Ⅰ区　SB－01　フク土(北東)	垂飾未製品	砂質粘板岩		6.8	4.4	1.4	52.8	穿孔途中の穴あり
	181	A・Ⅰ区　SB－01　No.75	垂飾未製品？	玉質		7.6	2.7	0.9	29.1	磨製石斧の再生？
173	183	A・Ⅱ区　No.215　[SK－096]	石棒	粘板岩	頭部のみ残	(6.6)	2.6	1.3	38.3	
	184	A・Ⅱ区　N69E42グリッド　谷イブツ集中ヵ所　[谷包含層]	石棒	粘板岩	胴部のみ残	(4.9)	(1.8)	1.7	22.1	
	185	C・Ⅰ区　SK－367　フク土	石棒	粘板岩	石棒の胴部	(2.2)	2.7	2.6	21.7	
	216	A・Ⅱ区　N62E30グリッド　谷イブツ集中カ所GL－10cmほど　[谷包含層]	石棒	砂岩	1/2欠	(11.9)	(5.1)	(6.2)	448	
	179	A・Ⅰ区　SB－01内P7　No.1	研磨円礫	玉質	完形	5.1	4.9	1.3	19.0	
	180	A・Ⅰ区　SB－01　焼土層～床面直上フク土一括	研磨円礫	玉質	完形	3.6	2.5	1.2	47.6	
	189	C・Ⅰ区　SK－366　フク土	こもで石	砂岩	完形	11.3	3.5	2.1	137.9	
	190	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	こもで石	砂岩	完形	9.6	4.3	2.6	155.2	
	191	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	こもで石	砂岩	完形	12.2	4.0	2.3	175.1	
	192	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	こもで石	細砂岩	完形	13.7	4.1	4.2	416	
	295	D・Ⅲ区　カクラン土中(S9W164付近)	こもで石	砂岩	完形	13.0	5.0	3.4	306	
174	188	C・Ⅰ区　SK－386　フク土	砥石	細砂岩	一部欠	8.0	3.7	2.1	81.2	
	186	C・Ⅰ区　SD－03　No.2	砥石	細砂岩	側片欠	10.9	(3.8)	2.2	124.9	
	187	C・Ⅰ区　N44W9グリッド[谷包含層]	砥石	粗砂岩	完形	10.9	3.4	3.3	224	

重さの数値は、200g迄：0.1g単位、200～500g：2g単位、500～1000g：5g単位、1000g超：20g単位。

④　縄文時代後期後葉から晩期の土器（第77～81図）

この時期の土器はA・Ⅱ区の北側、SK－128周辺の遺構群から主に出土した。圧倒的に無文の粗製土器片が多く、文様が見られるのは少量である。文様が見られる土器は、小片でも極力図化に努めた。

第80図521・522等には羽状の沈線文が見られるが、後期後葉の羽状沈線文系土器と思われる。口縁部の破片である第79図481の口縁部文様帯下に見られる沈線も同様と思われ、ゆるく屈折する口縁部文様帯には2条の沈線が横走する。これと同じ口縁部文様帯をもつが、それ以下の部位に羽状沈線文の見られない第78図468、第79図489、第80図510等は後出的な様相を示すものとされる。また第80図511の口縁部文様帯最下部には、圧痕をもつ隆帯を巡らしてあるが、これも後出的な様相と言われる。第80図509は波状縁で口縁部文様帯をもたず、口縁端から少し下がった部位に圧痕隆帯を巡らしその下位に羽状沈線文を施してある。

圧痕隆帯が1条だけ巡る第78図466、第79図479、第80図500等は、上述の圧痕隆帯のみが残り口縁部文様

帯が失われたとされる隆帯文系土器と思われ、羽状沈線文系土器に後出するものと言われる。隆帯上の圧痕、隆帯の貼付される位置等に様々違いが見られ、後期末から晩期前葉までの時期にまたがるものと見ておきたい。なおただの隆帯のみが巡る第80図497は、圧痕までもが省略されたものと思われる。

沈線文間に刻み目が入る2条の沈線文によって上下を画し、中に三叉文や入組文が入る第80図524・525は佐野式のまん中あたりの頃だろうか。第79図480は頸部がきつく屈曲し短い口縁部が開き、胴部が丸みを持ちながら底部へと至る浅鉢で、屈曲した口縁部外面に縄文を施し胴部上半はミガキのみで、下半には横長の太い沈線文に列点文が沿ったり、沈線間に縄文が施される。白っぽい胎土で所々に赤彩の痕跡が残る。ミガキ調整が丁寧に行われている無文の精製壺（第79図477）や浅鉢（第79図478、第81図532・533・534）は、顕著な文様がなないため詳細は分からない。また浮線文の第80図526・529等は、晩期後葉氷式と思われる。刷毛目状擦痕が見られる第81図542～544はこの時期のものかもしれない。

⑤ 中世の土器・陶磁器（第93図、第6表）

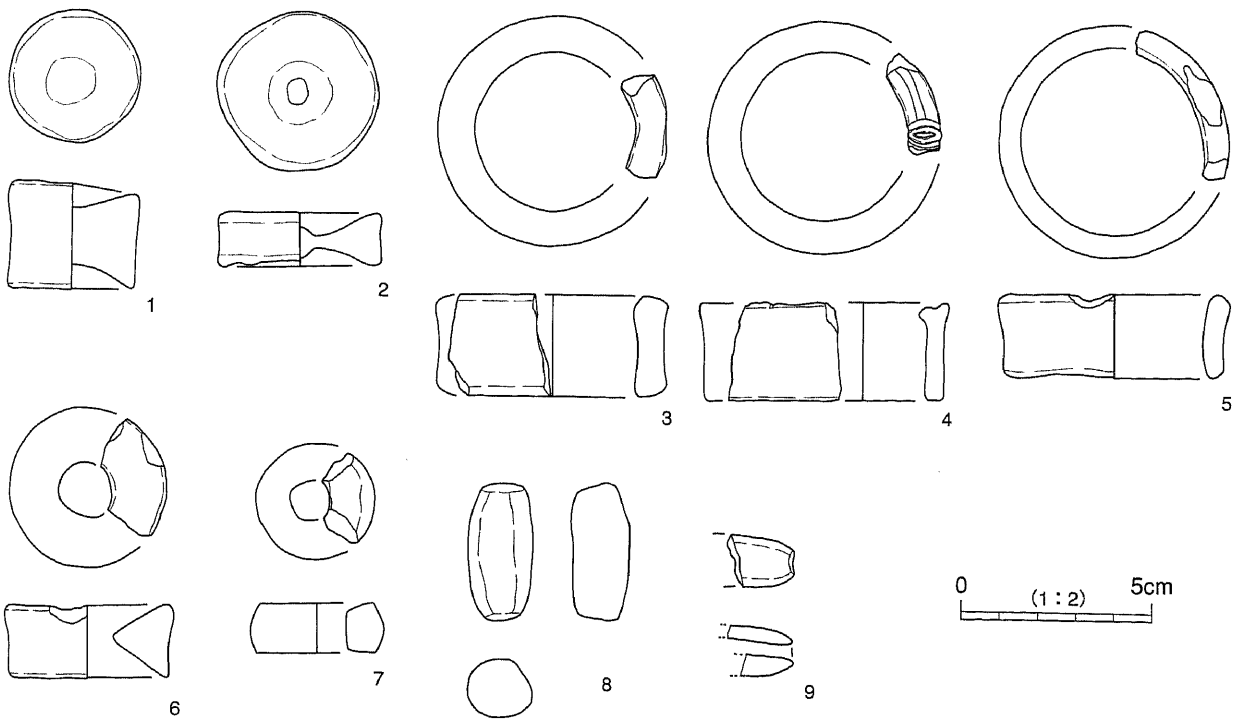
概ね鎌倉時代（一部平安時代のもの）となる土器・陶磁器の小片が47点出土した。このうち13点を図化掲示し、その他も含め一覧表を掲載した。土師器、東海系陶器、輸入陶磁器の他に、松本平での出土は珍しい珠洲系の甕片が2点（第93図12・13）出土している。

（2） 石器（第82～91図、第5表）

今回の調査で出土した石器のうち、定型的な石器174点を図化掲示した。出土した土器と同様、縄文時代早期から晩期にまでわたり、中世の砥石1点を含む数字である。時期毎、器種毎の考察は今回行えなかった。その個々については一覧表にて掲載した。

（3） 土製品（第92図）

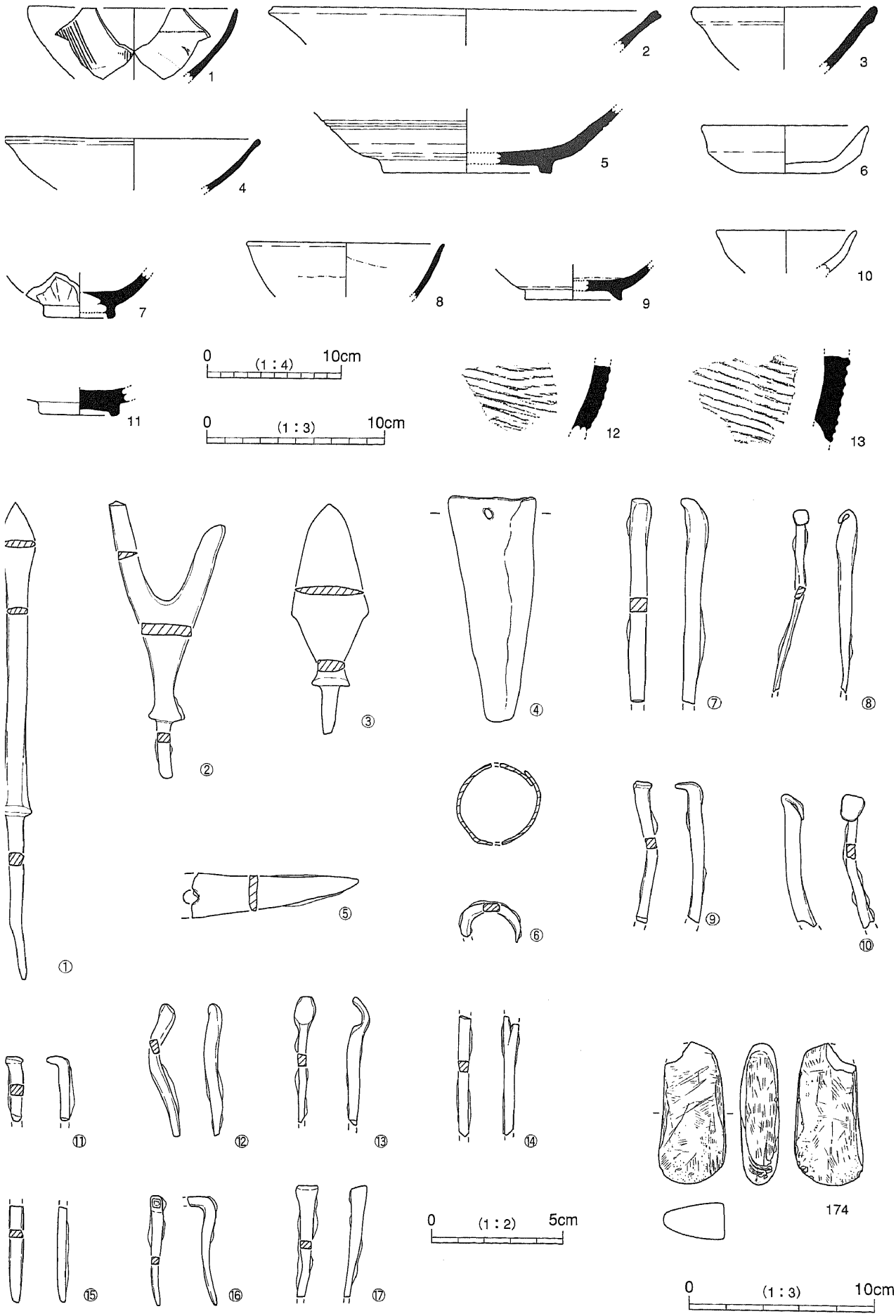
総数9点が出土した。1～5はA・Ⅱ区縄文時代後晩期遺構集中範囲から出土した。耳栓状の1・2はほ



第92図　縄文時代の土製品

第6表　出土中世陶磁器一覧表

整理時No.	報文図No.	出土位置ラベル	種類・器種	時期	残存状況
1		C・Ⅰ区　SK-269　フク土	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部小片
2		C・Ⅰ区　SK－271　フク土	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部下半1/16
3	2	C・Ⅰ区　SK－333　No.2、 C・Ⅰ区　N44W31グリッド	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	口縁部～胴部上半1/12
4		C・Ⅰ区　SK－368　フク土	青磁（龍泉窯系）・皿？	13c～14c前	？細片
5		C・Ⅰ区　SK－379　フク土	山茶碗・碗	？	口縁部細片
6		C・Ⅰ区　SK－387　フク土	常滑・甕	？	胴部小片
7		C・Ⅰ区　SK－400　フク土	在地産須恵質・擂鉢	13c後～14c前	胴部小片
8		C・Ⅰ区　SP－414　フク土	常滑・甕	？	胴部小片
9	6	C・Ⅰ区　SP－525　No.1	土師器（手づくね）・皿	13c	口縁部～底部1/4
10	13	C・Ⅰ区　SP－548　フク土	珠洲・甕	12c末～13c前	胴部小片
11	3	C・Ⅰ区　SD－03　フク土	白磁（定窯系）・碗	12c末～13c前	口縁部～胴部1/10
12		C・Ⅰ区　SD－03　フク土	青磁（龍泉窯系）・碗	13c後～14c前	胴部下半細片
13	7	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	青磁（龍泉窯系）・碗	13c後～14c前	底部～胴部下半1/6
14	11	C・Ⅲ区　SD－03　フク土	青磁（窯不明）・？	？	底部1/4
15	10	A・Ⅱ区　N62E17グリッド	土師器（ロクロ）・？	？（中世前半以外）	口縁部～胴部1/10
16	8	A・Ⅱ区　イコウ検出時	灰釉陶器・碗	平安末	口縁部～胴部1/12
17		C・Ⅰ区　N48W8グリッド	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部小片
18		C・Ⅰ区　N49W8グリッド	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部小片
19	1	C・Ⅰ区　N49W0グリッド、 C・Ⅰ区　N51W13グリッド	青磁（同安窯系）・碗	12c後～13c前	口縁部～胴部1/12
20		C・Ⅰ区　N50W15グリッド	常滑か渥美・壺	12c後～13c前	胴部小片
21		C・Ⅰ区　N51W3グリッド	土師器（手づくね）・皿	？	口縁部小片
22	9	C・Ⅰ区　N52W23グリッド	灰釉陶器・碗	平安末	底部～胴部下半1/3
23		C・Ⅰ区　N53W0グリッド	青磁（同安窯系）・？	12c後～13c前	？細片
24		C・Ⅰ区　N53W12グリッド	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	口縁部細片
25		C・Ⅰ区　N54W7グリッド	白磁・碗	13c後～14c前	口縁部小片
26	4	C・Ⅰ区　N55W7グリッド	古瀬戸系？・碗	14c	口縁部～胴部1/10
27		C・Ⅰ区　N55W9グリッド	黒色土器・杯	平安期	胴部下半小片
28		C・Ⅰ区　N55W10グリッド	珠洲？・甕	？	胴部小片
29		C・Ⅰ区　N55W10グリッド	？・？	？	？細片
30		C・Ⅰ区　N55W11グリッド	古瀬戸系？・碗	14c	胴部下半小片
31		C・Ⅰ区　N55W11グリッド	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	？細片
32		C・Ⅰ区　N56W6グリッド	珠洲？・甕	？	胴部小片
33		C・Ⅰ区　N57W4グリッド	青磁（龍泉窯系）・碗	13c後～14c前	胴部小片
34	12	C・Ⅰ区　N57W10グリッド	珠洲・甕	12c末～13c前	胴部小片
35		C・Ⅰ区　N58W2グリッド	青磁（龍泉窯系）・碗	13c～14c	胴部小片
36		C・Ⅰ区　イコウ検出時	常滑か渥美・壺	12c後～13c前	胴部小片
37		C・Ⅰ区　イコウ検出時	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部小片
38		C・Ⅰ区　イコウ検出時	東海系・捏鉢	12c～13c（鎌倉前半）	胴部小片
39		C・Ⅰ区　イコウ検出時	白磁・碗	12c後～13c前	口縁部～胴部1/24
40		C・Ⅰ区　イコウ検出時	青磁（龍泉窯系）・皿	13c後～14c前	胴部小片
41		C・Ⅰ区　イコウ検出中	土師器（手づくね）・皿	？	口縁部小片
42		C・Ⅰ区　イコウ検出時	常滑・甕	13c	頚部小片
43		C・Ⅰ区　イコウ検出時	古瀬戸系・碗	14c	底部小片
44		C・Ⅰ区　イコウ検出時	土師器（手づくね）・皿	？	胴部小片
45	5	排土中	古瀬戸系・皿	14c	底部～胴部下半1/6
46		排土中	灰釉陶器・？	平安期	胴部小片
47		C・Ⅰ区　N55W4グリッド	青磁・？	？	？細片


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
0 (1 : 4) 10cm
0 (1 : 3) 10cm
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
0 (1 : 2) 5cm
174
0 (1 : 3) 10cm

第93図　中世の遺物

第７表　出土鉄製品一覧表

整理時 No.	報文図 No.	出土位置ラベル	種類	備考
1	③	C・Ⅰ区　SK－278フク土	鉄鏃	完形
2	②	C・Ⅰ区　N44W31グリッド	鉄鏃	雁又鏃、左切先欠、右切先屈曲
3	①	C・Ⅰ区　検出面鉄族	鉄鏃	鏨箭鏃、完形
4	④	C・Ⅰ区　SP－294鉄	石突	完形　円錐状に鉄板を巻き先端を潰し丸めたもの
5		C・Ⅰ区　N60W５グリッド	不明	板状、鋳造鉄？
6	⑤	C・Ⅰ区　N46W25グリッド	刀子	茎部の先端のみ残存　目止めの孔の所で折れている
7	⑧	C・Ⅰ区　SP－316鉄	釘	脚先欠
8	⑰	C・Ⅰ区　N48W６グリッド	釘	脚先欠
9	⑬	C・Ⅰ区　N56W５グリッド	釘	脚先欠
10	⑦	C・Ⅰ区　N54W６グリッド	釘	脚先欠
11	⑮	C・Ⅰ区　N54W13グリッド	釘	頭部欠
12	⑨	C・Ⅰ区　SK－190フク土	釘	脚先欠
13	⑫	C・Ⅰ区　谷内	釘	完形
14	⑪	C・Ⅰ区　SK－379フク土	釘	脚先欠
15	⑩	C・Ⅰ区　SK－256フク土	釘	脚先欠
16	⑯	A・Ⅱ区　SK－053フク土	釘	頭部先端欠
17	⑭	C・Ⅰ区　N54W７グリッド	釘	頭部・脚先欠
18		A・Ⅱ区　イコウ検出時	不明	長４cm、幅２cm、厚１cm　筒状？
19		C・Ⅰ区　N50W５グリッド	釘	脚先欠
20	⑥	C・Ⅰ区　N56W10グリッド	不明	半円環状
21		C・Ⅰ区　SD－03フク土	不明	釘？
22		C・Ⅰ区　N55W10グリッド	釘	頭部・脚先欠

ぼ完形であるが、円環状の３～５は１/４程度しか残存していない。６は縄文時代中期後葉のSB－09から、７は撹乱中からの出土で、破片であるが土製耳飾と見て図化した。８はA・Ⅱ区縄文時代後晩期遺構集中範囲にある土壙から出土したが、粘土塊を俵形にし焼いた様なもので、文様もなく使徒不明である。９は筒状の土製品で、粘土の継ぎ目で剥がれた様な割れ口である。土錘もしくは注口土器の注ぎ口かと思われる。

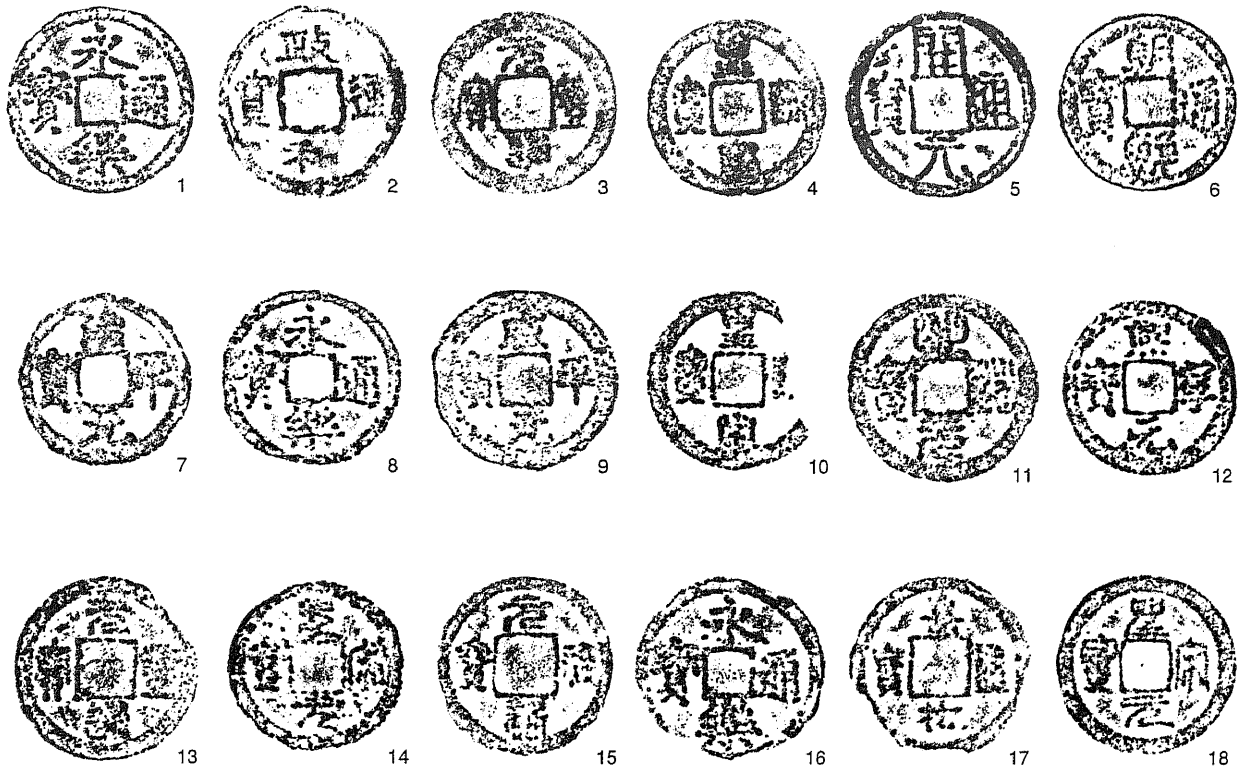
（４）　石製品（第91図）

172は、石に含有されていたと思われる鉄分が表面に染み出し赤くなっている円礫で、穿孔途中の穴があるので垂飾未製品と思われる。図化していないが、破損した磨製石斧の割れ口を研磨してあるもの（第５表、整理時No.181）は、穿孔痕は認められないが垂飾に再利用しようとしたと思われる。173は頭部のみが残るもので線刻がある。図化していないが、これと同じ形状の石棒と思われる胴部片が２点（第５表、整理時No.183・184）、大型の石棒の基部端の破片（第５表、整理時No.216）が出土している。穿孔されていない研磨円礫２点（第５表、整理時No.179・180）がSB－01から出土した。前述のとおり住居にかかわる祭祀儀礼の存在を伺わせる。

（５）　金属製品

①　鉄製品（第93図、第７表）

総数22点が出土し、17点を図化掲示した。C・Ⅰ区とA・Ⅱ区からの出土で、帰属時期はそのほとんどが中世鎌倉期と思われる。そのうち第93図④は、鉄板を筒状に巻き一方を潰し丸めたもので、槍等の石突かと思われる。掘立柱建物址ST－01の柱穴内から出土しており、地鎮の意味があるかもしれない。その他に鉄



第94図　出土した銭貨

鏃や釘が出土している。各々の詳細は一覧表に記載した。

② **銅製品**（第94図、第８表）

SD－03の覆土中からはきせる１点が出土した。このきせるの存在から、SD－03は江戸時代まで埋まりきらずにいたものと推定される。あとは土壙墓・火葬墓から出土した銭貨38点である。火葬墓に入っていたものは火を受けて変形・溶着しており、貨幣名を読み取れないものがある。貨幣名を特定できたのは28点であるが、初鋳年が最も新しいのは朝鮮通寶（1425年）なので、中世後半期に埋納したと判断される。

【主要引用・参考文献】

長野県埋蔵文化財センター　2003『山の神遺跡』

川崎　保　2003「神村論文を読んで押型文土器の編年を考える―細久保式の成立と展開から」『利根川』24・25

今村　啓爾　2000「諸磯ｃ式の正しい編年」『土曜考古』第24号

今村　啓爾　2006「松原式土器の位置と踊場系土器の成立」『長野県考古学会誌』112号

百瀬　忠幸　2003「中信地域における唐草文系土器の成立と展開―殿村遺跡再考Ⅰ」『異貌』第21号

朝日村教育委員会　2003『熊久保遺跡第10次発掘調査報告書』

百瀬　長秀　2006「上ノ段遺跡出土土器―上ノ段式、中ノ沢Ｋ式、中ノ沢Ｂ類型の標準相」『長野県考古学会誌』115号・116号

百瀬　長秀　2001「高井東式前後の中部高地」『第14回縄文セミナー　後期後半の再検討』

中沢　道彦　2004「佐野式土器研究の現状と課題」『第17回縄文セミナー　晩期中葉の再検討』

松本市教育委員会　2002『新村遺跡』

大桑村教育委員会　2001『中山間地総合整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』

第8表　出土銭貨一覧表

整理時No.	報文図No.	出土位置	貨幣名	初鋳年	備考
1		A・Ⅱ区　SK－116　(No.218)	開元通寶	621（唐）	
2		A・Ⅱ区　SK－116　(No.219)	天聖元寶	1023（北宋）	
3	1	A・Ⅱ区　SK－116　(No.220)	永樂通寶	1408（明）	
4		A・Ⅱ区　Sk－127　銭No.1	洪武通寶	1368（明）	変形著しい
5		A・Ⅱ区　Sk－127　銭No.2	皇宋通寶	1038（北宋）	整理時No.5・6・7重なって出土
6	2	A・Ⅱ区　Sk－127　銭No.2	政和通寶	1111（北宋）	整理時No.5・6・7重なって出土
7		A・Ⅱ区　Sk－127　銭No.2	嘉祐通寶	1056（北宋）	整理時No.5・6・7重なって出土
8	3	A・Ⅱ区　SK－135　(No.216)	元豊通寶	1078（北宋）	
9	4	A・Ⅱ区　SK－135　(No.217)	皇宋通寶	1038（北宋）	
10	5	A・Ⅱ区　SK－140　銭	開元通寶	621（唐）	
11	6	A・Ⅱ区　SK－159　No.1	朝鮮通寶	1425（朝鮮）	整理時No.11・12・13重なって出土
12	7	A・Ⅱ区　SK－159　No.1	治平元寶	1064（北宋）	整理時No.11・12・13重なって出土
13	8	A・Ⅱ区　SK－159　No.1	永樂通寶	1408（明）	整理時No.11・12・13重なって出土
14		A・Ⅱ区　SK－159　No.2	朝鮮通寶	1425（朝鮮）	整理時No.14・15・16重なって出土
15	9	A・Ⅱ区　SK－159　No.2	咸平元寶	998（北宋）	整理時No.14・15・16重なって出土
16		A・Ⅱ区　SK－159　No.2	皇宋通寶	1038（北宋）	整理時No.14・15・16重なって出土
17		C・Ⅰ区　SK－179　No.1	元豊通寶	1078（北宋）	
18	10	C・Ⅰ区　SK－258　銭	皇宋通寶	1038（北宋）	右側少し欠損
19	11	C・Ⅰ区　SK－308　銭	明道元寶	1032（北宋）	
20		C・Ⅰ区　SK－383　フク土	判別不可能		模鋳繰り返された様で文字の判読不可
21		C・Ⅰ区　SK－383　フク土	判別不可能		1／4残存　「豊」の文字のみ判読
22		C・Ⅰ区　SK－388　No.1	政和通寶	1111（北宋）	変形著しい
23		C・Ⅳ区　SK－508　銅銭No.1	判別不可能		整理時No.23・24・25被火により癒着し変形、剥離不可
24		C・Ⅳ区　SK－508　銅銭No.1	判別不可能		整理時No.23・24・25被火により癒着し変形、剥離不可
25		C・Ⅳ区　SK－508　銅銭No.1	判別不可能		整理時No.23・24・25被火により癒着し変形、剥離不可
26		C・Ⅳ区　SK－508　銅銭No.2	判別不可能		整理時No.26・27被火により癒着し変形、剥離不可　3枚かも？
27		C・Ⅳ区　SK－508　銅銭No.2	判別不可能		整理時No.26・27被火により癒着し変形、剥離不可　3枚かも？
28	12	C・Ⅳ区　Sk－524　銭1	熙寧元寶	1069（北宋）	
29	13	C・Ⅳ区　Sk－524　銭2	元豊通寶	1078（北宋）	
30	14	C・Ⅳ区　Sk－524　銭3	聖宋元寶	1098（北宋）	
31		C・Ⅳ区　Sk－524　銭4	判別不可能		整理時No.31・32被火により癒着し変形、剥離不可
32		C・Ⅳ区　Sk－524　銭4	判別不可能		整理時No.31・33被火により癒着し変形、剥離不可
33		C・Ⅳ区　Sk－524　銭5	皇宋通寶	1038（北宋）	
34	15	C・Ⅳ区　Sk－524　銭6	元祐通寶	1086（北宋）	
35	16	C・Ⅳ区　SK－530　銭1	永樂通寶	1408（明）	
36	17	C・Ⅱ区　SB－09　1層内	嘉祐通寶	1056（北宋）	別遺構があったと思われるが平面で検出できず
37		C・Ⅰ区　SD－03　フク土	判別不可能		かなり小型
38	18	遺構外	聖宋元寶	1098（北宋）	

Ⅳ　自然科学分析

ここでは今回の発掘調査で出土した有機質遺物について行った科学分析結果を掲載する。分析の対象としたのは、集石遺構、竪穴式住居址、火葬墓より出土の炭化材、竪穴式住居址及び土壙出土の炭化種実、火葬墓及び土壙墓出土の人骨である。ただし予算的な都合から、炭化材については残存状態の良い資料を選択して分析依頼したもので、全部を対象としたものではない。分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。以下同社より提出された分析報告を掲載する。

名篭遺跡出土遺物の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

長野県東筑摩郡山形村下大池所在の名篭遺跡の発掘調査では、縄文時代前期末の可能性がある集石土坑、縄文時代前期末とされる住居跡、中世の墓坑などが検出されている。今回の分析調査は、出土した木材、種実、人骨の種類構成から、当時の生業に関する情報を得る。

1　樹種同定

（1）　試料

試料は、縄文時代前期末および縄文時代中期後葉の住居跡から出土した柱材と考えられる4点、縄文時代前期末とされる集石土坑の燃料材9点、中世の火葬用の焚き木と見られる7点、合計20点で、全て炭化材である。

（2）　分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1991）、伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

第9表　樹種同定結果

番号	地区	遺構	時期	用途	樹種
1	A・Ⅰ区	SB－01	縄文前期末	住居の柱材	クリ
2	A・Ⅰ区	SB－01	縄文前期末	住居の柱材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
3	C・Ⅱ区	SB－10	縄文中期後葉	住居の柱材	クリ
4	C・Ⅱ区	SB－10	縄文中期後葉	住居の柱材	クリ
5	A・Ⅱ区	SH－001	縄文前期末？	集石土坑の燃料	コナラ属コナラ亜属コナラ節
6	A・Ⅱ区	SH－001	縄文前期末？	集石土坑の燃料	コナラ属コナラ亜属コナラ節
7	A・Ⅱ区	SH－001	縄文前期末？	集石土坑の燃料	コナラ属コナラ亜属コナラ節
8	A・Ⅱ区	SH－001	縄文前期末？	集石土坑の燃料	クリ
9	C・Ⅰ区	SH－002	縄文前期末？	集石土坑の燃料	クリ
10	C・Ⅰ区	SH－002	縄文前期末？	集石土坑の燃料	クリ
11	C・Ⅰ区	SH－002	縄文前期末？	集石土坑の燃料	クリ
12	C・Ⅲ区	SH－010	縄文前期末？	集石土坑の燃料	クリ
13	A・Ⅱ区	SK－166	縄文前期末？	集石土坑の燃料	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	A・Ⅱ区	SK－127	中世	火葬用の焚き木	オニグルミ
15	A・Ⅱ区	SK－116	中世	火葬用の焚き木	クリ
16	C・Ⅰ区	SK－388	中世	火葬用の焚き木	クリ
17	C・Ⅰ区	SK－388	中世	火葬用の焚き木	クリ
18	C・Ⅳ区	SK－524	中世	火葬用の焚き木	マツ属複維管束亜属
19	C・Ⅳ区	SK－558	中世	火葬用の焚き木	マツ属複維管束亜属
20	C・Ⅳ区	SK－558	中世	火葬用の焚き木	マツ属複維管束亜属

（3）　結果

樹種同定結果を第9表に示す。炭化材は、針葉樹1種類（マツ属複維管束亜属）と広葉樹3種類（オニグルミ・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道

管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔組織、仮道管、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1－10細胞高。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana*（Maxim.）Kitamura） クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2－4個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1－4細胞幅、1－30細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*） ブナ科

環孔材で、孔圏部は1－2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3－4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1－15細胞高。

（4） 考察

樹種同定を実施した炭化材は、縄文時代の住居跡の柱材、縄文時代前期末と考えられる集石土坑の燃料、中世の火葬用の焚き木に分けられる。これらの炭化材には、合計4種類が認められた。

縄文時代の柱材は、前期末のSB－01と中期後葉のSB－10から出土しており、クリとコナラ節が認められた。いずれも重硬で強度の高い材質を有しており、住居の柱材とし強靱な木材を選択していたことが推定される。各2点を同定試料としたため、住居による種類構成の比較は困難であるが、今回の結果をみる限りでは木材利用に大きな違いは見られないようである。本遺跡周辺では、同時期の建築部材について樹種を明らかにした例がほとんどない。長野県内で同時期の資料をみると、立石遺跡でクリ9例、屋代遺跡群でクリ49例、ヤマグワ13例、広葉樹13例、不明3例、イネ科1例、川原田遺跡でクリ24例、オニグルミ1例、久保在家遺跡で類似種を含むクリ6例、聖石遺跡6例、長峰遺跡でクリ1例、唐松B遺跡でクリ9例、荒海渡遺跡でクリ32例、能久保遺跡でクリ20例、塩倉池遺跡でクリ2例等が報告されている（森, 1978；高橋, 2000；パリノ・サーヴェイ株式会社, 1992, 1994, 1997, 2003, 2005a, 2005b；株式会社古環境研究所, 2005）。地域的に偏りはあるものの、多くの遺跡でクリを主体とする傾向が確認されており、本遺跡の結果とも調和的である。

縄文時代前期末と考えられる集石土坑SH－001, 002, 010, 166から出土した燃料材は、コナラ節とクリが認められ、住居の柱材と同じ木材が利用されている。長野県内では、同時期の集石土坑から出土した炭化材について樹種を明らかにした例はほとんどないため、木材利用については不明な点が多かったが、今回の結果からコナラ節やクリが利用されていたことがあきらかになった。なお、遺構別にみると、SH－001ではコナラ節3点、クリ1点でコナラ節が多い。一方SH－002では3点全点がクリであり、SH－001とSH－002で種類構成が異なっていた可能性がある。

中世の火葬用の焚き木は、オニグルミ、クリ、複維管束亜属の3種類が認められる。各遺構とも1－2点を同定試料としたため、遺構による種類構成の違いなどは不明であるが、少なくとも3種類の木材が利用されていたことが推定される。長野県内では、中世の火葬施設から出土した燃料材の樹種を明らかにした例として、小坂西遺跡のエノキ属1例が知られているのみであり、木材利用の詳細は不明である（鈴木・能城, 1994）。今回の結果から、県内では合計4種類の木材が確認されたことになる。いずれも人里周辺に見られる樹木であることから、集落周辺に生育していた樹木を利用した可能性がある。

2　種実同定

（1）　試料

種実同定は、A・Ⅰ区のSB－01より2個、A・Ⅱ区のSK－093より4個、C・Ⅰ区のN51E4グリッドより1個検出された種実遺体3試料計7個について実施する。

第10表　種実同定結果

試料名		種類名	部位	状態		個数
A・Ⅰ区	SB－01	オニグルミ	核	破片	炭化	2
A・Ⅱ区	SK－093	オニグルミ	核	破片	炭化	4
C・Ⅰ区	N51E4グリッド	トチノキ	種子		炭化	1

（2）　分析方法

種実を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後の種実遺体は、種類毎に容器に入れて返却する。

（3）　結果および考察

A・Ⅰ区のSB－01の2個、A・Ⅱ区のSK－093の4個は、落葉高木のオニグルミの核に、C・Ⅰ区のN51E4グリッドの1個は落葉高木のトチノキの種子に同定された。火葬墓から炭化した状態で出土しており、いずれも周辺の山野に普通にみられる種類であるため、燃料材とともに混入した可能性もあるが、いずれも可食植物であることから、副葬品の一部であった可能性もある。以下に、同定された種実の形態的特徴等を記す。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana*（Maxim.）Kitamura）　クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば径3－4cm程度の広卵体で頂部がやや尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。破片の大きさは1.8cm以下。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　トチノキ科トチノキ属

種子内部の胚が検出された。炭化しており黒色。径2.5cm程度の偏球体。基部に臍がある。表面は平滑で、赤道面を蛇行して一周する特徴的なカーブを境に、流理状の微細な網目模様があり光沢の強い黒色の上部と、粗面で光沢のない灰褐色の下部の着点に別れる種皮を欠損する。

3　骨同定

（1）　試料

試料は、A・Ⅱ区、C・Ⅰ～Ⅳ区で検出された13基（SK－127、SK－159、SK－396、SK－388、SK－577、SK－558、SK－562、SK－446、SK－530、SK－524、SK－495、SD－03、SK－508）の土坑や溝から出土した人骨である。この内、SK－558が火葬骨を遺棄したような出土状況、SK－562が掘り方浅く小さく不明瞭、SK－524が掘り方を再利用し2回以上火葬が実施されたような状況、SD－03が火葬骨を溝内に遺棄したような出土状況とされている。各遺構の時代は、いずれも中世とされている。なお、試料が採取された遺構の詳細については、第11表に示す。

（2）　分析方法

一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その

形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。

（3） 結果および考察

骨格各部位の名称については、第95図に示す。また、各遺構の歯式を第12表に示す。以下、遺構ごとに産状を述べる。なお、以下の記載のうち、年齢に関しては、幼児が1～5歳程度、小児が6～15歳程度、成人が16歳程度以上、成年が16～20歳程度、壮年が20～39歳程度、熟年が40～59歳程度、老年が50歳以上を示す。

第11表　人骨出土遺構の一覧

遺構名	地区	副葬品	時期	備考
SK－127	A・Ⅱ区	銅銭4枚	中世	火葬墓
SK－159	A・Ⅱ区	銅銭6枚	中世	土葬墓
SK－396	C・Ⅰ区		中世	土葬墓
SK－388	C・Ⅰ区	銅銭1枚	中世	土葬墓
SK－577	C・Ⅱ区		中世	土葬墓
SK－558	C・Ⅱ区		中世	火葬骨を遺棄したような出土状況
SK－562	C・Ⅱ区		中世	土葬墓？　掘り方浅く小さく不明瞭
SK－446	C・Ⅲ区		中世	土葬墓
SK－530	C・Ⅳ区	銅銭1枚	中世	火葬墓
SK－524	C・Ⅳ区	銅銭7枚	中世	火葬墓　掘り方を再利用し2回以上火葬実施
SK－495	C・Ⅳ区		中世	火葬墓
SD－03	C・Ⅳ区		中世	火葬骨を溝内に遺棄したような出土状況
SK－508	C・Ⅳ区	銅銭5枚	中世	火葬墓

SK－127　火葬骨である。頭骨片、肋骨片8点、四肢骨片3点が確認される。本人骨は、骨の大きさから成人に達していたと判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

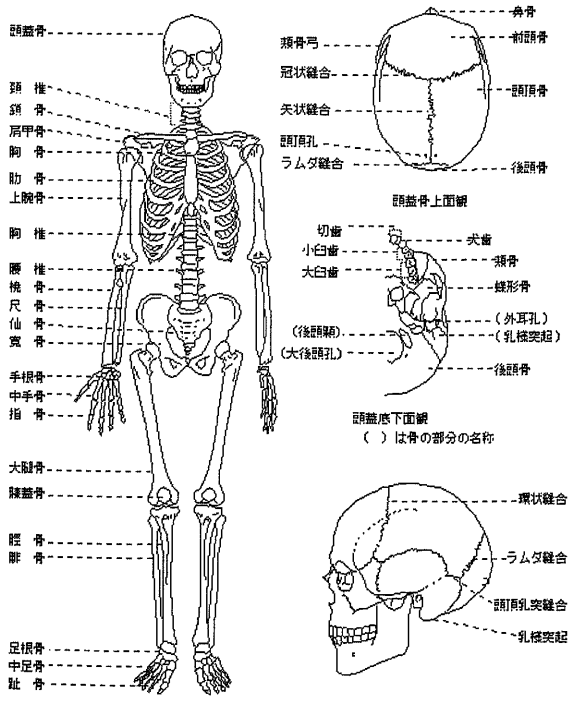
SK－159　土葬骨である。左側頭骨錐体部、右側頭骨片、左右上顎骨片、下顎骨骨体部、下顎骨右関節突起片、歯牙、大腿骨片3点、四肢骨等の破片13点程度が残される。上下の顎骨は一部のみが残され、歯のみが回収されていた。おそらく埋存時には、完存したものと思われる。

本人骨は、第3大臼歯が放出していることから成人に達していると判断され、第3大臼歯に咬耗がみられないことから、壮年（20～39歳程度）前半と推定される。性別は不明である。

SK－396　土葬骨である。頭蓋片、歯牙、第1頸椎片、胸椎片2点、肋骨片、上腕骨片、左寛骨臼部周辺4点、左大腿骨近位端片、左大腿骨遠位端2点、右大腿骨遠位端片、大腿骨片、右右脛骨近位端片各1点、距骨片が確認される。この他、四肢骨片などがみられる。

頭蓋片は前頭骨と顔面頭蓋があり、比較的よく保存されていたが、上顎骨、上顎骨口蓋突起が分離する。下顎骨も下顎枝の一部まで残されていたが、骨体の大部分は失われていた。また、左頭頂骨片5点、左側頭骨～後頭骨、右側頭骨錐体部、後頭顆が残される。前頭骨には前頭縫合をみた。現代日本人では6％といわれ、顔面頭蓋の形質である。頭蓋計測値は、頬弓幅推定値110.24mm、中顔幅推定値120mm、上顔高推定値63.0mm、鼻幅28.0mm、鼻根幅25.69mmを計り、上顔示数（コルマン）57.14、上顔示数（ウイルヒョウ）52.5となる。鼻根幅が大きく、中世人の特徴をもつ。上顎骨前頭突起の幅小さく鼻骨の湾曲の弱い、低い鼻根であった。また上顔高は、中世人のサイズに一致しており低い。このことから上顔示数（コルマン）が高上顔型、上顔示数（ウイルヒョウ）が過広上顔型になり、大きな顔の人であったことが推定される。なお、現代畿内人の男性上顔高は上顔示数（コルマン）が73前後、上顔示数（ウイルヒョウ）が72前後である。

本人骨は、第3大臼歯が放出していることから成人に達していたと判断され、第3大臼歯の咬耗がエナメル質の摩滅にとどまり、他臼歯の咬耗も僅かに認められる程度であるから、壮年前半程度と推定される。なお、性別は、大柄な顔つきで眉上隆起も発達することから、男性



第95図　人体骨格各部の名称

第12表　出土人骨の歯式

SK－159	右								左								その他
上顎	M^3	M^2	M^1	P^2	P^1	C	I^2	I^1	I^1	I^2	C	P^1	P^2	M^1	M^2	M^3	前臼歯歯冠部片（2）
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	歯冠部片（10）
下顎	M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3	歯根部片（2）
	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	
SK－396	右								左								その他
上顎	M^3	M^2	M^1	P^2	P^1	C	I^2	I^1	I^1	I^2	C	P^1	P^2	M^1	M^2	M^3	歯根部片（3）
	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
下顎	M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
SK－562	右								左								その他
上顎	M^3	M^2	M^1	P^2	P^1	C	I^2	I^1	I^1	I^2	C	P^1	P^2	M^1	M^2	M^3	左上顎M3は歯根未形成
	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	歯冠部片（3）
下顎	M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3	
	○	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	

と推定される。

SK－388　火葬骨である。頭骨片5点、頸椎椎弓部片、胸椎片、肋骨片16点、上腕骨/大腿骨骨頭片が確認される。この他、四肢骨片がみられる。本人骨は、成人と判断されるが、性別等含めて詳細不明である。

SK－577　土葬骨である。右大腿骨骨体片、大腿骨破片6点が確認される。埋葬骨の一部が、残されていた程度である。本人骨は、骨の大きさから成人に達していたと判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

SK－558　火葬骨である。四肢骨等の細片がみられた程度である。本人骨は、骨の大きさから成人に達していたと判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

SK－562　土葬骨である。左右錐体部各1片、歯牙、四肢骨片1点が確認される。第3大臼歯は、上顎および下顎とも確認される。ただし、上顎第3大臼歯は左右とも歯冠部のみである。咬耗はほとんどみられず、側切歯で僅かに咬耗する程度である。これより、本人骨は、壮年前半程度と推定される。性別は不明である。

SK－446　土葬骨である。右側頭骨錐体部、後頭骨片、頭骨片11点、第1頸椎片、頸椎片5点、胸椎片11点、腰椎片4点、左第1肋骨、左肋骨片4点、肋骨片11点、左肩甲骨肩甲窩周辺、左鎖骨、左上腕骨、左右大腿骨各1点、左脛骨が確認される。左上腕骨、左大腿骨、左脛骨は、両端が外れる。また、右大腿骨は、骨体片である。

本人骨は大腿骨全長から、5～6歳の小児前半程度と推定される。身長はPeasonによると、男子では126cm、女子119cmと推定される。

SK－530　火葬骨である。頭頂骨片、肋骨片2点が確認される。この他、四肢骨や部位不明の破片がみられる。本人骨は、骨の大きさから成人に達していたと判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

SK－524（古）　火葬骨である。頭頂骨縫合部8点、後頭骨縫合部、左下顎骨片、下顎骨左右連合部、左側頭骨錐体部、椎体、肋骨片3点、右橈骨遠位端、尺骨骨体、大腿骨近位端片、大腿骨骨体2点、大腿骨遠位端片、脛骨骨体、腓骨骨体2点、上腕骨/大腿骨骨頭片2点が確認される。この他、頭骨や四肢骨の破片、部位不明破片も多くみられる。

頭骨は、丁寧に集められたと思われる。頭蓋骨格中の頭頂骨、後頭骨、側頭骨が確認できる。頭蓋諸骨の縫合状況は完全に閉じている箇所と閉じてない箇所が認められ、頭頂部縫合のような骨質の厚い部分の縫合は未縫合もしくは不完全縫合であったと思われる。下顎骨は、左右連合部があり、切歯歯槽が残り、歯槽吸収はみられない。また、左下顎骨遠心部は、第1大臼歯の歯槽が吸収、第2大臼歯が未脱、第3大臼歯が萌出後脱落であったとみられる。また、四肢骨も比較的多く採集されているが、集め易かったためと思われる。

本人骨は、骨の大きさ、および第3大臼歯が萌出している点から成人に達していたとみられ、縫合の癒合状況から壮年程度と推定される。性別は不明であるが、骨格の華奢な形状も認められるので女性の可能性もある。

SK－524（新） 火葬骨である。上顎骨片、腰椎片６点、椎骨片32点、肋骨片６点、橈骨/尺骨片、寛骨片５点、大腿骨骨頭片２点、大腿骨片３点、右大腿骨遠位端、脛骨片３点、腓骨片２点、中手骨/中足骨片が確認される。この他、四肢骨片や部位不明破片がみられる。本人骨は、加齢に伴う骨増殖がみられる腰椎が１点確認されることから、老齢に達していた可能性がある。性別は不明である。

SK－495 火葬骨である。肋骨片６点、大腿骨遠位端片２点、脛骨片、中手骨/中足骨片が確認される。その他、部位不明破片がみられる。本人骨は、骨の大きさから成人に達していたと判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

SD－03 火葬骨である。肋骨片２点、上腕骨？片３点、頭骨/尺骨片４点、大腿骨骨頭部片、大腿骨片５点が確認される。この他、四肢骨片、部位不明破片がみられる。四肢骨を主とした遺骸が残されていたが、量的には少ない。本人骨は、四肢骨の大きさから成人と判断されるが、性別等も含めて詳細不明である。

SK－508 火葬骨である。左上腕骨片、指骨（中節骨）が確認される。この他、四肢骨等の破片がみられる。本人骨は、年齢不明であるが、上腕骨が比較的華奢であることから女性の可能性もある。

【引用文献】

林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81－181.

伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66－176.

伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83－201.

伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30－166.

伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47－216.

株式会社古環境研究所, 2005, 出土炭化材の樹種同定・年代測定、および出土炭化物の種実同定.「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書69 担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）国道299号線バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 聖石遺跡・長峯遺跡 —第１分冊—本文編」, 長野県諏訪地方事務所・長野県諏訪建設事務所・長野県茅野市・長野県埋蔵文化財センター, 162－168.

中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.

森 義直, 1978, 残存動植物について.「長野県南安曇郡梓川村 荒海渡遺跡調査報告書」, 長野県南安曇郡梓川村教育委員会, 199－202.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1992, 久保在家遺跡出土炭化材樹種同定.「久保在家遺跡」, 長野県小県郡東部町教育委員会, 81－82.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1994, 立石遺跡における自然科学分析.「立石遺跡」, 茅野市教育委員会, 183－189.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1997, 炭化材および炭化種実同定.「川原田遺跡」, 長野県御代田町教育委員会, 459－464.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 2003, 能久保遺跡出土炭化材の年代と樹種.「朝日村文化財調査報告書第１集 能久保遺跡第10次発掘調査報告書 —松本平西山山麓における縄文時代中期の集落址—」, 長野県東筑摩郡朝日村教育委員会, 259－262.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 2005a, 樹種同定.「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書72 地方道路交付金業務（主）川上佐久線埋蔵文化財発掘調査報告書 —臼田町内— 唐松Ｂ遺跡」, 長野県臼田建設事務所・長野県埋蔵文化財センター, 65－66.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 2005b, 塩倉池遺跡の自然科学分析.「松本市文化財調査報告 No.178 塩倉池遺跡Ⅳ・塚山古墳群」, 松本市教育委員会, 22－23.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.（編）, 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘（日本語版監修）, 海青社, 70p.［Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.（2004）*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*］.

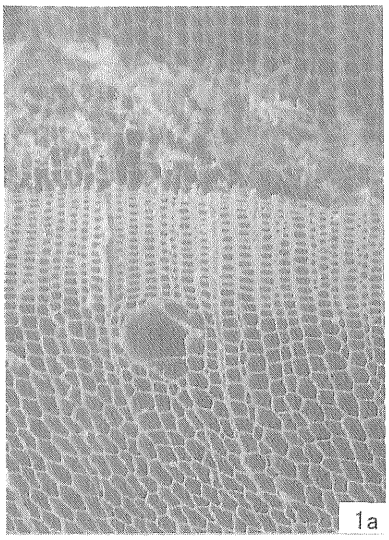
島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

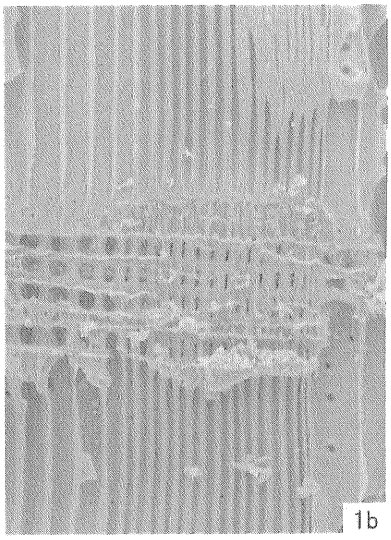
鈴木 三男・能城 修一, 1994, 小坂西遺跡出土炭化材の樹種.「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書16 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書13 —更埴市内・長野市内その１— 鳥林遺跡・小坂西遺跡・鶴萩七尋岩陰遺跡・赤沢城跡・塩崎城見山砦遺跡・地之目遺跡・一丁田遺跡」, 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・財団法人長野県埋蔵文化財センター, 272－273.

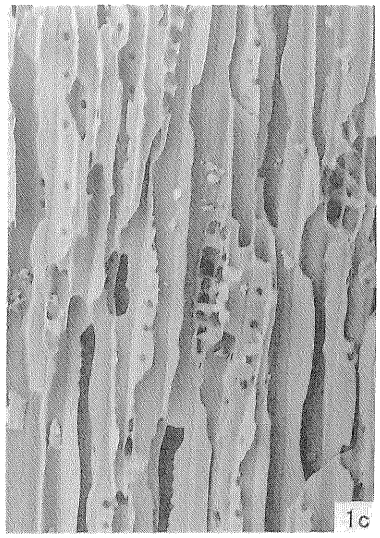
高橋 敦, 2000, 炭化材の樹種.「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書51 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書24 —更埴市内その３— 更埴条里遺跡・屋代遺跡群 —縄文時代編— 本文」, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター, ：：－：：.

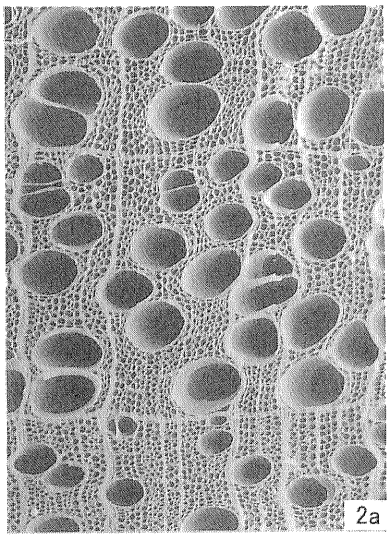
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編）, 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩（日本語版監修）, 海青社, 122p.［Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

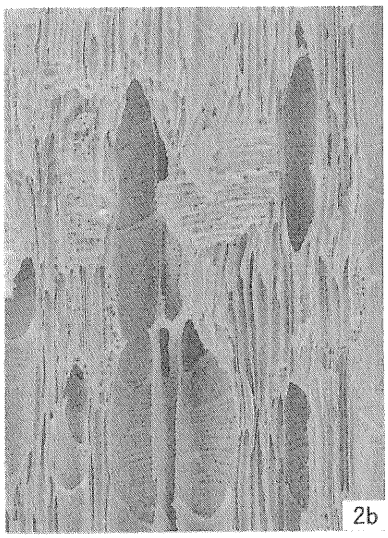
図版1　炭化材（1）

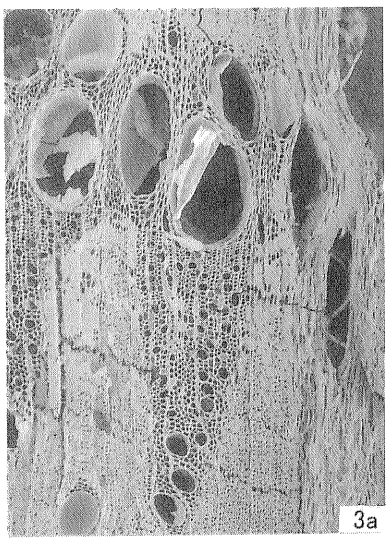


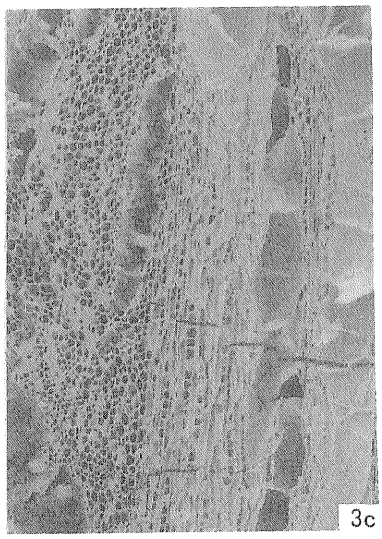








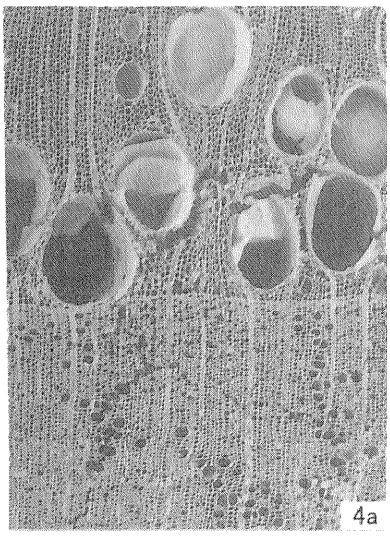


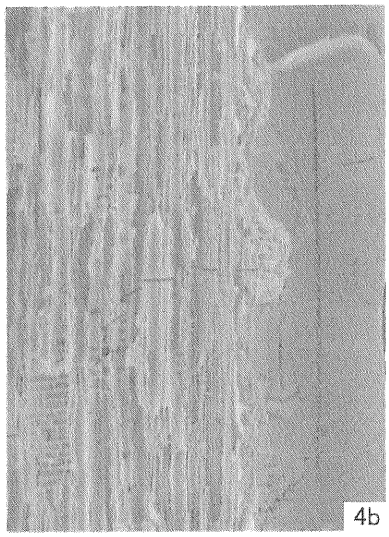


1. マツ属複維管束亜属（試料番号18）
2. オニグルミ（試料番号14）
3. コナラ属コナラ亜属コナラ節（試料番号6）
   a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm：2-3a
200 μm：1a・2-3b,c
100 μm：1b,c

図版２　炭化材（２）・種実遺体


4a


4b

4c

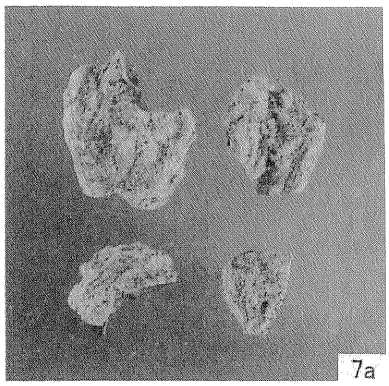
200μm：4a
200μm：4b,c
1cm：5-8

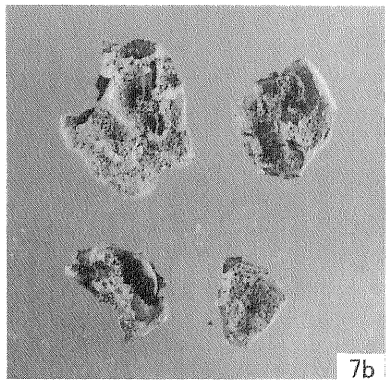
5a

5b

6a

6b

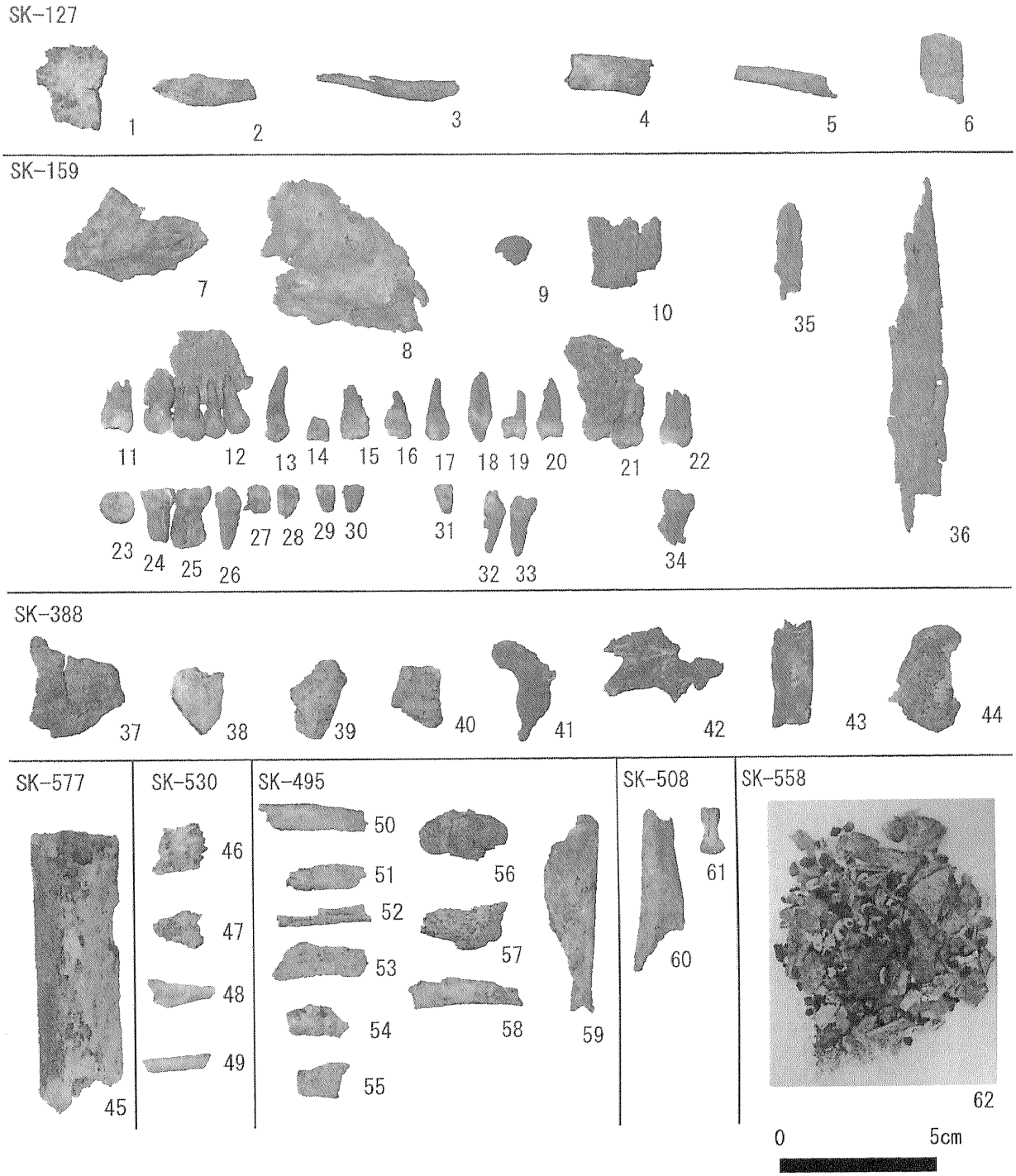

7a


7b

8

4．クリ（試料番号1）a：木口，b：柾目，c：板目
5．オニグルミ 核(A-I区;SB-01)
6．オニグルミ 核(A-I区;SB-01)
7．オニグルミ 核(A-II区;SK-093)
8．トチノキ 種子(C-I区;N51E4グリッド)

図版３　出土骨（１）



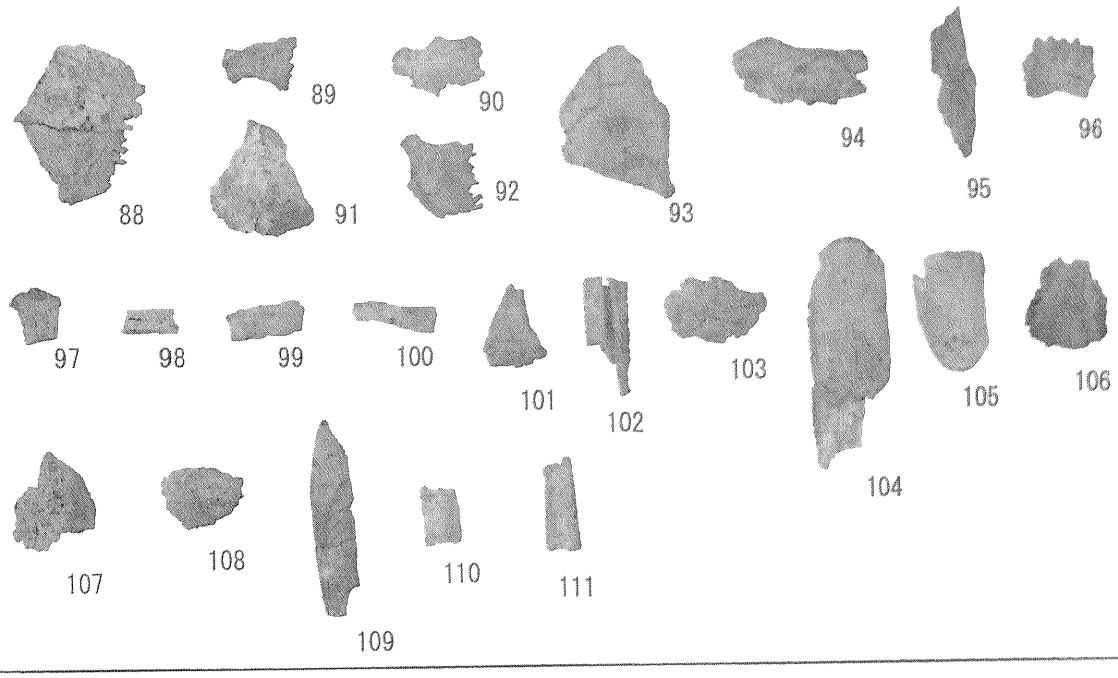
1. 頭骨（SK-127）
2～5. 肋骨（SK-127）
6. 四肢骨（SK-127）
7. 左側頭骨錐体部（SK-159）
8. 右側頭骨錐体部（SK-159）
9. 右下顎骨間接突起（SK-159）
10. 下顎骨（SK-159）
11. 右上顎第３大臼歯（SK-159）
12. 右上顎骨（SK-159）
13. 右上顎犬歯（SK-159）
14. 右上顎側切歯（SK-159）
15. 左上顎中切歯（SK-159）
16. 左上顎中切歯（SK-159）
17. 左上顎側切歯（SK-159）
18. 左上顎犬歯（SK-159）
19. 左上顎第１小臼歯（SK-159）
20. 左上顎第２小臼歯（SK-159）
21. 左上顎骨（SK-159）
22. 左上顎第３大臼歯（SK-159）
23. 右下顎第３大臼歯（SK-159）
24. 右下顎第２大臼歯（SK-159）
25. 右下顎第１大臼歯（SK-159）
26. 右下顎第２小臼歯（SK-159）
27. 右下顎第１小臼歯（SK-159）
28. 右下顎犬歯（SK-159）
29. 右下顎側切歯（SK-159）
30. 右下顎中切歯（SK-159）
31. 左下顎側切歯（SK-159）
32. 左下顎犬歯（SK-159）
33. 左下顎第１小臼歯（SK-159）
34. 左下顎第３大臼歯（SK-159）
35～36. 大腿骨骨体（SK-159）
37～40. 頭骨（SK-388）
41. 第１頸椎（SK-388）
42. 胸椎（SK-388）
43. 肋骨（SK-388）
44. 上腕骨／大腿骨骨頭（SK-388）
45. 右大腿骨（SK-577）
46～47. 頭頂骨（SK-530）
48～49. 肋骨（SK-530）
50～55. 肋骨（SK-495）
56～57. 大腿骨遠位端（SK-495）
58. 中手骨／中足骨（SK-495）
59. 四肢骨（SK-495）
60. 左上腕骨（SK-508）
61. 中節骨（SK-508）
62. SK-558 出土骨

図版 4　出土骨（2）

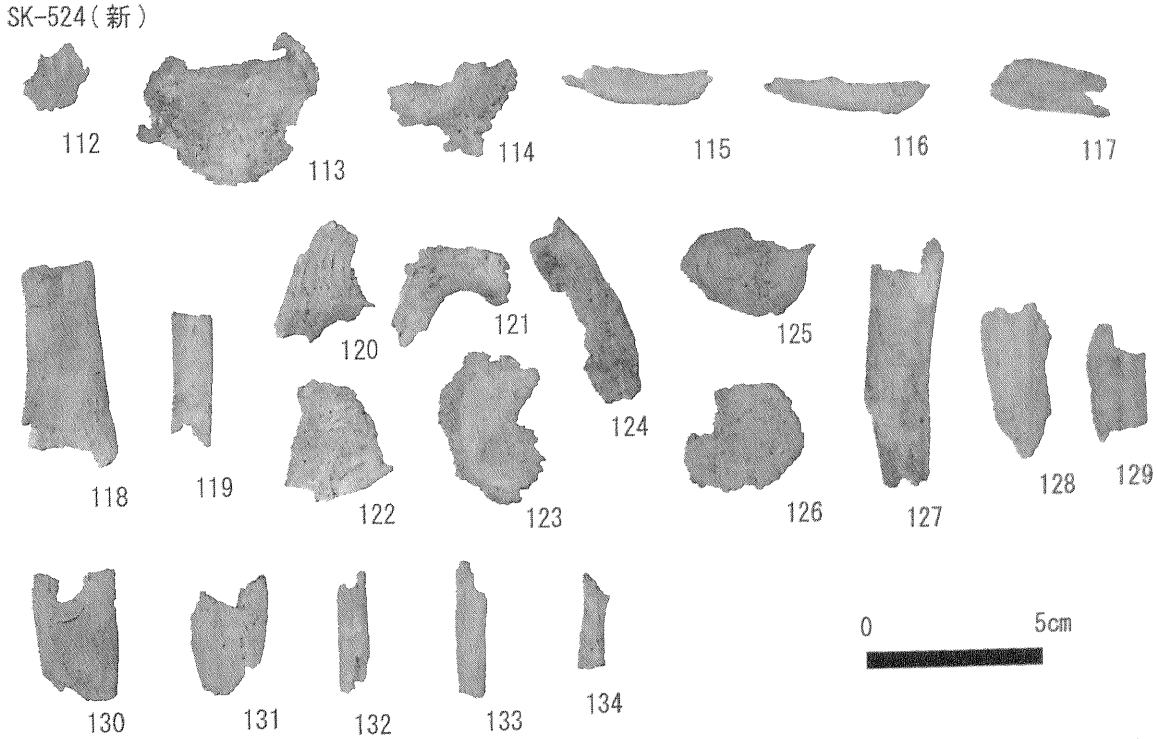
63. 前頭顔面頭蓋（SK-396）
64. 左側頭後頭（SK-396）
65. 右側頭骨錐体部（SK-396）
66. 後頭顆（SK-396）
67. 左頭頂骨（SK-396）
68. 上顎骨（SK-396）
69. 左上顎側切歯（SK-396）
70. 左上顎中切歯（SK-396）
71. 下顎骨（SK-396）
72. 左下顎側切歯（SK-396）
73. 左下顎犬歯（SK-396）
74. 第1頸椎（SK-396）
75. 胸椎（SK-396）
76. 肋骨（SK-396）
77. 上腕骨（SK-396）
78～79. 左寛骨（SK-396）
80. 左大腿骨近位端（SK-396）
81～82. 左大腿骨遠位端（SK-396）
83. 大腿骨（SK-396）
84. 右大腿骨遠位端（SK-396）
85. 右脛骨近位端（SK-396）
86. 左脛骨近位端（SK-396）
87. 左距骨（SK-396）

図版５　出土骨（３）

SK-524（古）

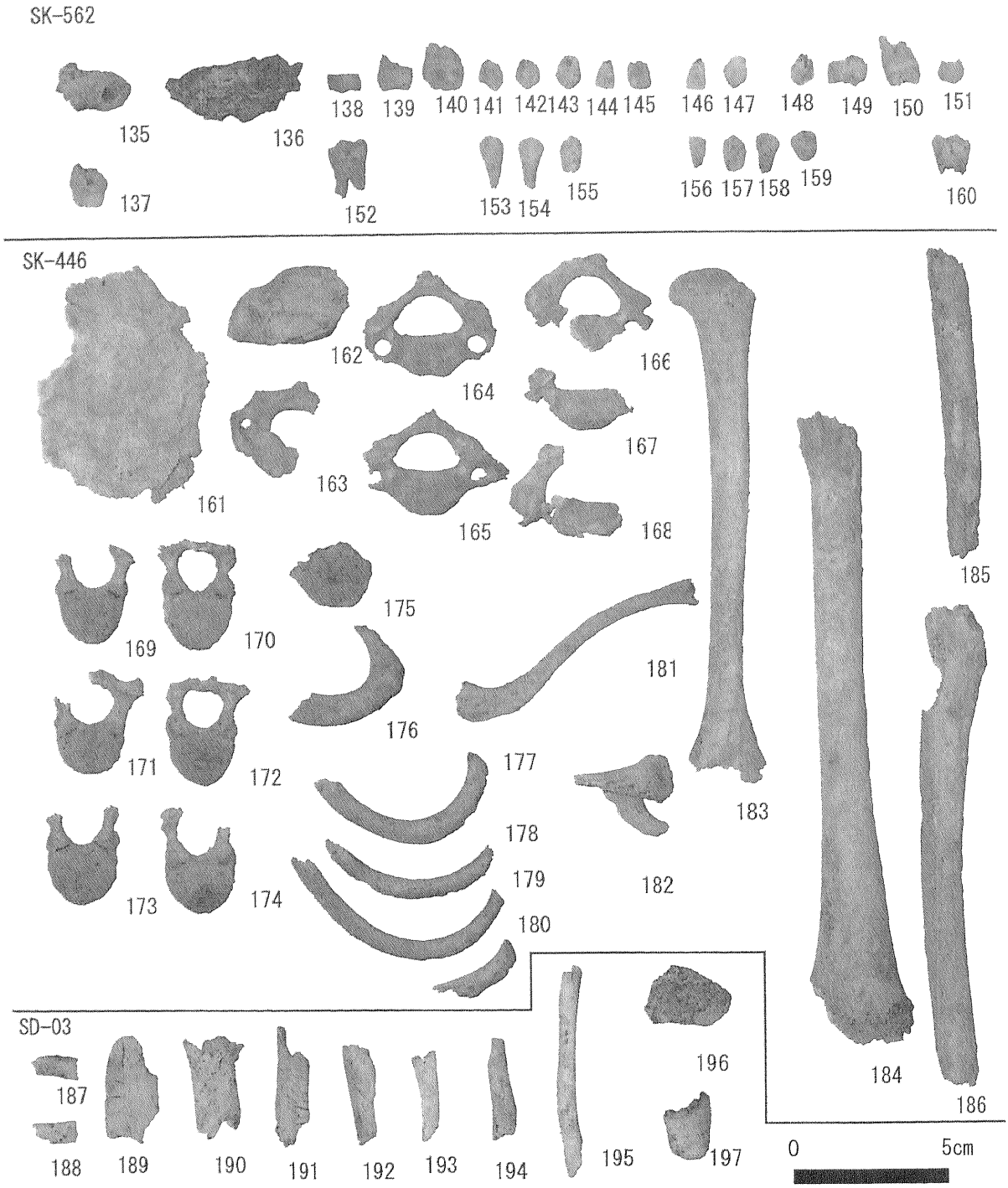


SK-524（新）



88～92. 頭頂骨（SK-524 古）
93. 後頭骨（SK-524 古）
94. 左側頭骨鱗体部（SK-524 古）
95. 左下顎骨（SK-524 古）
96. 下顎骨連合部（SK-524 古）
97. 椎骨（SK-524 古）
98～100. 肋骨（SK-524 古）
101. 右橈骨遠位端（SK-524 古）
102. 尺骨骨体（SK-524 古）
103. 大腿骨近位端（SK-524 古）
104～105. 大腿骨骨体（SK-524 古）
106. 大腿骨遠位端（SK-524 古）
107～108. 上腕骨／大腿骨骨頭（SK-524 古）
109. 脛骨（SK-524 古）
110～111. 腓骨（SK-524 古）
112. 上顎骨（SK-524 新）
113～114. 腰椎（SK-524 新）
115～117. 肋骨（SK-524 新）
118. 右上腕骨遠位端（SK-524 新）
119. 橈骨／尺骨（SK-524 新）
120～124. 寛骨（SK-524 新）
125～126. 大腿骨骨頭（SK-524 新）
127～129. 大腿骨（SK-524 新）
130～131. 脛骨（SK-524 新）
132～133. 腓骨（SK-524 新）
134. 中手骨／中足骨（SK-524 新）

図版 6　出土骨（4）



135. 左側頭骨錐体部（SK-562）
136. 右側頭骨錐体部（SK-562）
137. 四肢骨（SK-562）
138. 右上顎第 3 大臼歯（SK-562）
139. 右上顎第 2 大臼歯（SK-562）
140. 右上顎第 1 大臼歯（SK-562）
141. 右上顎第 2 小臼歯（SK-562）
142. 右上顎第 1 小臼歯（SK-562）
143. 右上顎犬歯（SK-562）
144. 右上顎側切歯（SK-562）
145. 右上顎中切歯（SK-562）
146. 左上顎側切歯（SK-562）
147. 左上顎犬歯（SK-562）
148. 左上顎第 2 小臼歯（SK-562）
149. 左上顎第 1 大臼歯（SK-562）
150. 左上顎第 2 大臼歯（SK-562）
151. 左上顎第 3 大臼歯（SK-562）
152. 右下顎第 3 大臼歯（SK-562）
153. 右下顎第 2 小臼歯（SK-562）
154. 右下顎第 1 小臼歯（SK-562）
155. 右下顎犬歯（SK-562）
156. 左下顎側切歯（SK-562）
157. 左下顎犬歯（SK-562）
158. 左下顎第 1 小臼歯（SK-562）
159. 左下顎第 2 小臼歯（SK-562）
160. 左下顎第 3 大臼歯（SK-562）
161. 右側頭骨錐体部（SK-446）
162. 後頭骨（SK-446）
163. 第 1 頸椎（SK-446）
164～168. 頸椎（SK-446）
169～174. 胸椎（SK-446）
175. 腰椎（SK-446）
176. 第 1 肋骨（SK-446）
177～180. 肋骨（SK-446）
181. 左鎖骨（SK-446）
182. 左肩甲骨（SK-446）
183. 左上腕骨（SK-446）
184. 左大腿骨（SK-446）
185. 右大腿骨（SK-446）
186. 左脛骨（SK-446）
187～188. 肋骨（SD-03）
189～191. 上腕骨？(SD-03)
192～195. 橈骨／尺骨（SD-03）
196. 大腿骨骨頭（SD-03）
197. 大腿骨（SD-03）

V　調査のまとめ

今回の発掘調査では、縄文時代早期中葉～末、前期末～中期初頭、中期後葉、後期後葉～晩期、中世前半期（鎌倉期）、中世後半期と幾多にわたる祖先の生活跡を確認することができた。掘り出された多くの資料が山形村初めてとなるもので、村の歴史を知る上で非常に貴重な発見だったといえる。ここでは時期毎に考察を行い調査のまとめとしたい。

縄文時代早期中葉～末

今回の調査で見つかった最も古い時期で、なろう原の歴史はここから始まった様である。この期の遺構・遺物が検出されたのは主にD・Ⅲ区で他の地区からは少ない。D・Ⅲ区の周辺は開墾時の造成により削平が著しく上部が削平されているため、比較的浅い掘り方の遺構は消滅したと思われる。このためなのか元々なかったのか分からないが、竪穴式住居址は検出できなかったものの、発見された土壙は山形村で見つかった最古の“穴”である。共伴した押型文土器は500点弱であり、村内では今までこの期の土器がこれだけ多く見つかった事はなかった。山形村に限らず松本平の歴史を知る上でも貴重な発見であると言えよう。なお土器は、早期後葉～末の絡条体圧痕文土器や条痕文系土器なども一定量見られるので、早期中葉の押型文土器の時期から間をおいて再び人間の営みがあったと思われる。

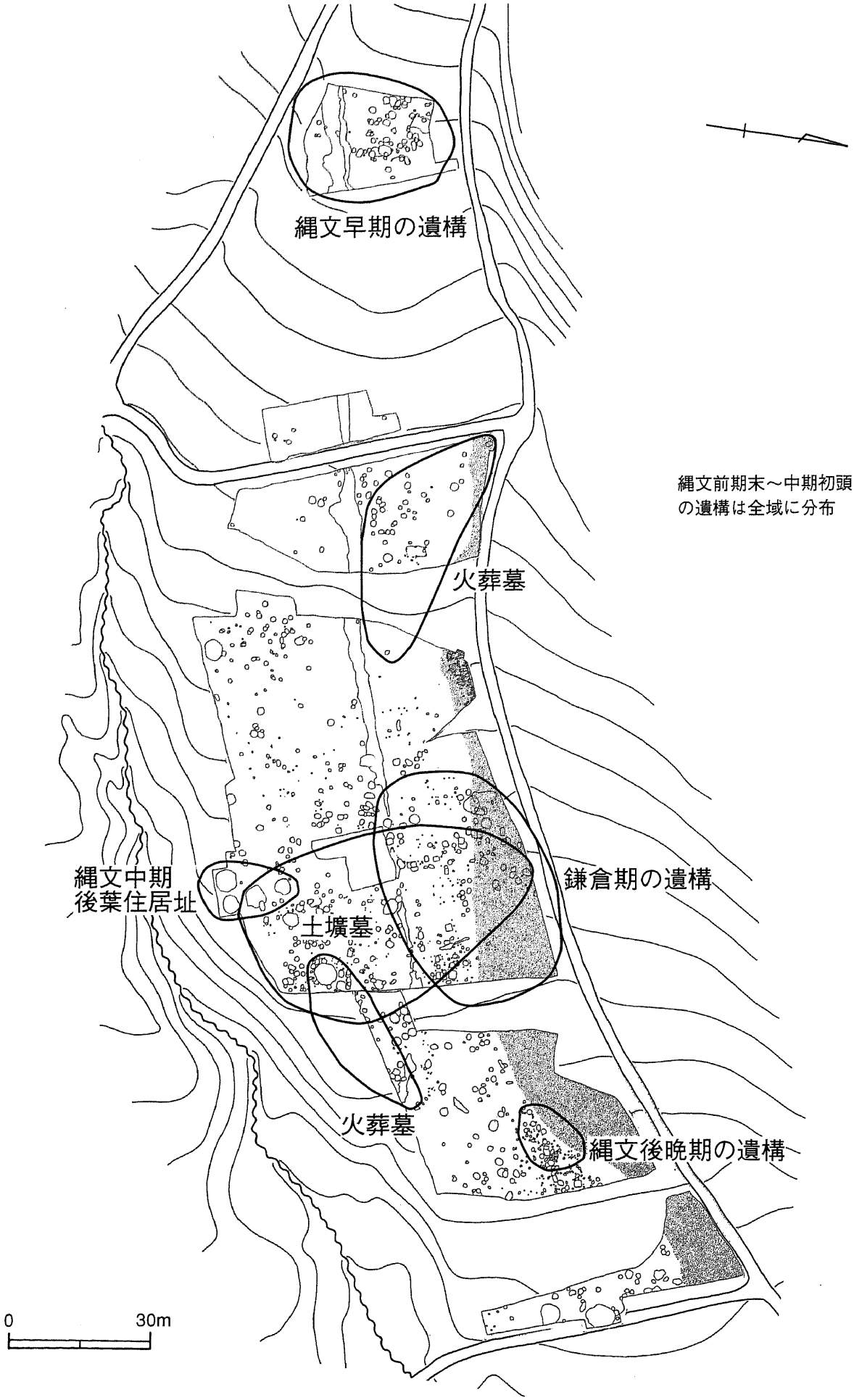
縄文時代前期末～中期初頭

数多くの遺構が調査区全体から見つかり、多くの遺物が出土した。名篭遺跡の中心時期はこの期である。竪穴式住居址は5軒と少なかったが、この数は削平されずに残ったものと考えられ、実際はもう数軒あったと推測される。土壙は土器が共伴したものだけでも100基弱、総合的に考えれば300基程がこの広い範囲に掘られたものである。様々な用途が考えられるところであるが、袋状の深い掘り方を有すいわゆる貯蔵穴といわれる形状のものが多い。竪穴式住居址はすべてが遺跡中央にある谷へと下がる傾斜地に構築されている。当期の松本平の集落遺跡で見られる“斜面住居”と同じ傾向を示すのであるが、なぜ斜面に構築したのかは今回の調査でもその答えを引き出せなかった。

住居の炉は地床炉と埋甕炉の両者が検出された。当期の住居で埋甕炉をもつものは松本平にほとんどなく、松本市カニホリ遺跡であると聞く。反面埋甕炉が多くみられるのは木曽地域で、大桑村万場遺跡では数多くの埋甕炉が発見されている。山形村では他に中島遺跡（未報告）からも1例埋甕炉をもつ住居が見つかっており、地理的に木曽地域と近いこともあり関連が深かったと推測できるが、塩尻市では皆無である。

縄文時代中期後葉

村内からはこの期の遺跡が数多く見つかっており、殿村遺跡、淀の内遺跡、三夜塚遺跡等が発掘調査された。これらの遺跡では数多くの竪穴式住居址が見つかっており、土器や石器等も膨大な量が出土していて、大規模な集落址であることが判明している。当期のこの地域の一般的な集落構造は環状集落と言われ、山形村に限らず他市町村でも多くの環状集落が調査されているところである。さてこの名篭遺跡で見つかった当期の遺構は、C・Ⅱ区の狭い範囲にあった竪穴式住居址4軒のみである。遺跡中央にある谷の対岸側を調査していないが、広い範囲を掘ったのにこれだけである。土壙もない。また竪穴式住居址出土の土器を見ていくと時期差が認められ、SB－11（Ⅰb期）→SB－10（Ⅱa期）→SB－09（Ⅱb期）→SB－12（Ⅱc期）という変遷が考えられる。よって一時期にしてみれば、この場所、山の中にポツンと住居1軒だけが存在していたことになる。しかしこの間100～200年位だろうか、この長きにわたって住居が1軒存在し続けたと考えられる状況は、どんな目的だったのか。それが何かを知ることは難しいが、SB－09・10が焼かれていること、SB－12に石壇があること、SB－09の奥壁ではないが石壇に似た様な石が置かれていること等、祭祀的な意味合



第96図　土地利用の変遷（１：1,200）

いが色濃い感がする。当遺跡の近くにいわゆる通常の集落があり、この場は何らかの祭祀を行う場であったのだろうか。当遺跡の眼下となる東方500mには、中期後葉の殿村遺跡が存在するが、この時期は殿村遺跡の空白時期である。調査はしていないが当遺跡の南東200mにある小坂区諏訪神社周辺には、中期後葉の遺物が多く拾われている宮村遺跡がありこれが該当する集落かもしれない。他にも該当するものがあるかもしれない。また4軒いずれにも埋甕がなかったことも示唆的である気がする。埋甕の性格を考える何らかの手がかりになるのではと思われるが、今のところ思いつくことはない。いずれにせよ今まで調査された当期の他集落址とは違った存在であり、非常に興味の持たれるところである。研究の俎上に乗ることを期待したい。

縄文時代後期後葉～晩期

この時期の土器は今まで村内で発見されたことがなく初めてのことである。A・Ⅱ区の北側からのみ遺構・遺物が発見された。開墾による削平を受けていることと、黒色土中の遺構をまともに捉えられなかったゆえ不確かな点が多いが、SK－128とした配石墓を中心として集礫遺構や土壙が繰り返し構築されたものと推測される。土壙は切り合いが非常に複雑であり、土壙のライン内に入ってこない礫や遺物が多々あったためこの様に考えた次第である。今回の調査範囲内でこの時期の遺物が出土した遺構は他になかったことから、居住域は離れたいずれかの地にあったものと思われ、出土土器が後期後葉から晩期にまでわたることから、祖先の霊をまつる祭祀行為が数百年にわたって行われた場と考えておきたい。

中世前半期（鎌倉時代）

この期の掘立柱建物址をはじめとして土壙や溝址が発見されたが、C・Ⅰ区からA・Ⅱ区の北側にまとまる傾向が伺える。調査区域外となる北側にも遺構が広がっていたと思われるが、調査できなかったのでこの集落の全容を調査できたものではない。当期に掘削されたと考えられる溝址SD－03は、沢水を引いたと考えられる用水路で、総延長300mにも及ぶ大規模なものである。この水の利用目的がこの集落の性格を決めるのであろうが、その答えを導き出す物的証拠を見出すことはできなかった。C・Ⅲ区で見つかった畝状遺構SN－01がこの時期のものだとすれば、数棟の掘立柱建物や竪穴状遺構がある集落が構築され、周囲で畑作を行っていたとも考えられなくはない。ただそのためだけに、これだけ大規模な土木工事を行ってまでも水を必要としたのかは多いに疑問である。状況証拠から導いたひとつの案であり、推測の域を出るものではない。

中世後半期（室町・戦国時代）

中世も前半期には集落としてこの地が利用されたのであるが、一転後半期には墓地として利用された。土壙墓23基、火葬墓10基を検出したが、骨が残らなかった土壙墓は相当数あると推測される。先にも記したが、土壙墓はC・Ⅰ区の北側からA・Ⅱ区の西側にまとまり、その周囲に火葬墓のまとまりが2つ存在する状況を呈する。時期決定の根拠は伴出した銭貨からであり、詳細な時期は決められない。よって土壙墓と火葬墓に時期差があるのか否か判断つかない。また削平により上部はかなり消失していると思われるので、墓壙上に何らかの構築物があったのか否かも分からないが、その物的証拠は出土していない。

そして今、この地は墓地公園として利用されることになった。約8千年に及ぶなろう原の土地利用の歴史が明らかになった調査であった。以上雑駁ではあるがまとめを記してみた。土器の時期決定も含め報告書刊行の期限に迫られ、たいした知識もないのに思いつくまま書いてしまった感がしてならない。今回の資料提示により、今後山形村の歴史を巡る議論が活発になり、正確に位置づけられることを期待したい。さて今回の調査では、様々な面で多くの方々にご協力いただいた。この協力なくしてここまでたどり着くことはできなかったと実感している。最後となりましたが皆様に感謝申し上げ本書を締めくくりたい。

調査区全景（一部除く）

写真図版 2

A・Ⅰ区全景（写真上方が西）

A・Ⅱ区全景（写真上方が南）

C・Ⅰ区全景（写真上方が南）

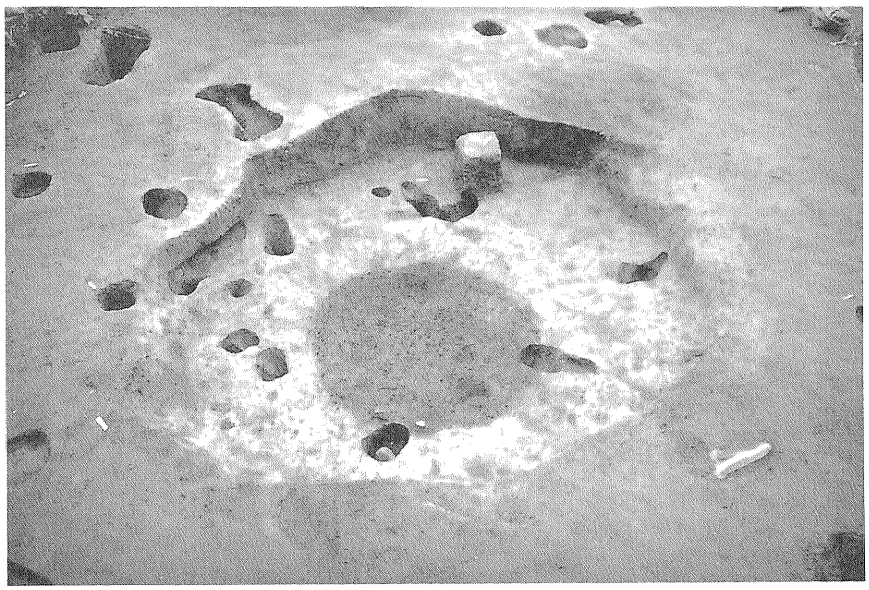
C・Ⅲ区全景（写真上方が西）

写真図版 4

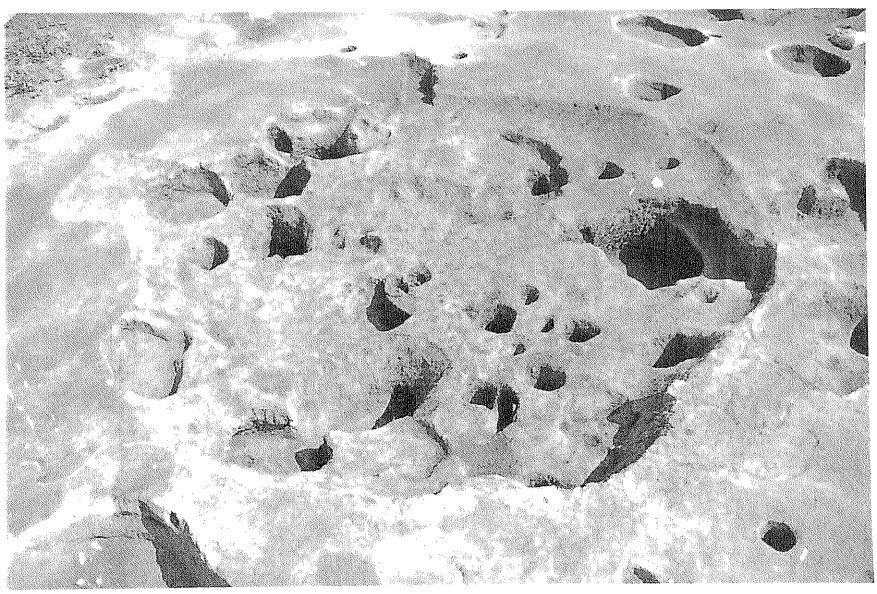
C・Ⅳ区、C・Ⅴ区全景（写真上方が西）

D・Ⅲ区全景（南東から）

SB－01（南西から）

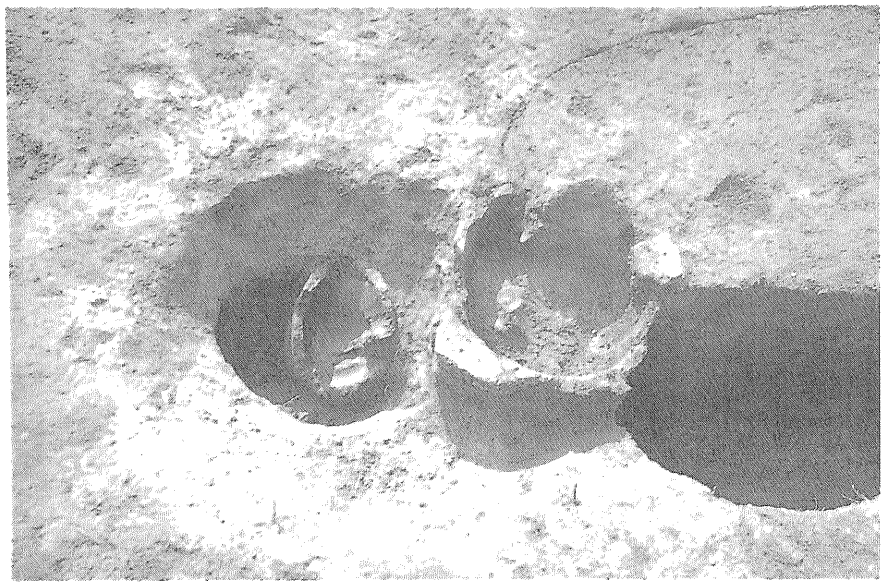


SB－04（南から）



SB－05（北から）

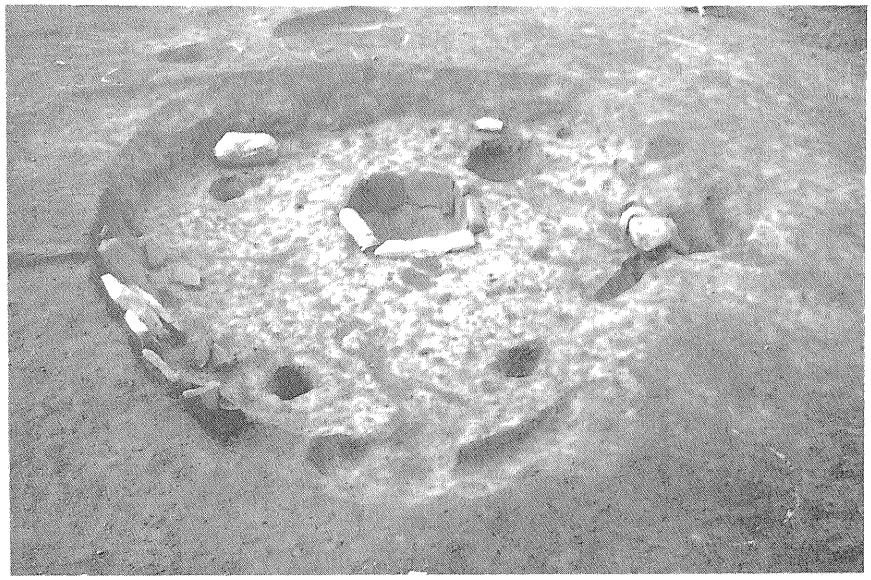
写真図版 6



SB－05埋甕炉（東から）

SB－06（東から）

SB－10（西から）



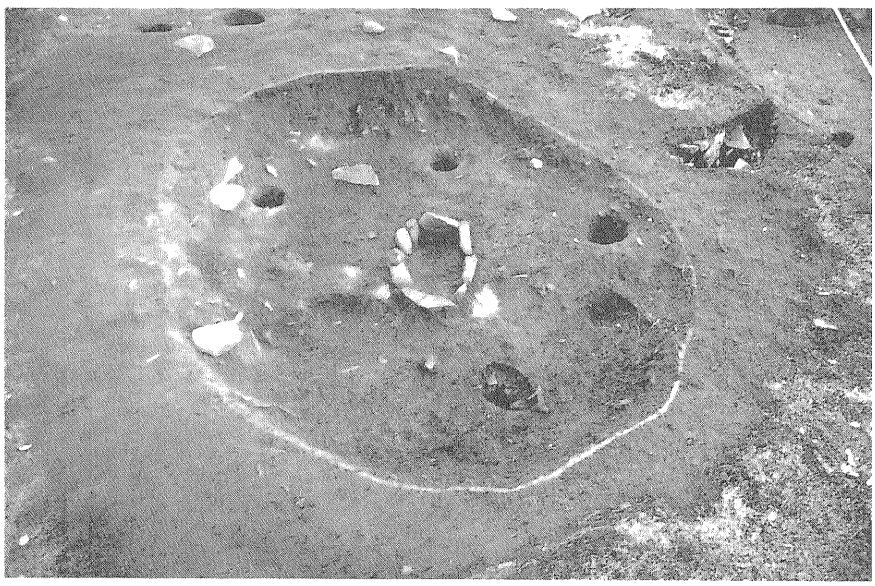
SB－09（南から）

SB－09　炉（南から）

SB－10（南東から）

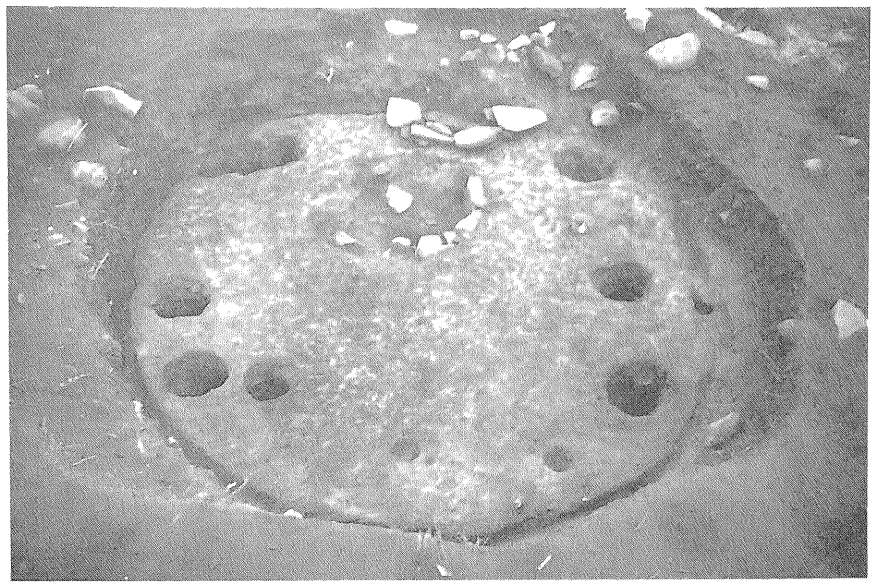
写真図版8

SB－10　炉（南東から）



SB－11（東から）

SB－11　炉（東から）



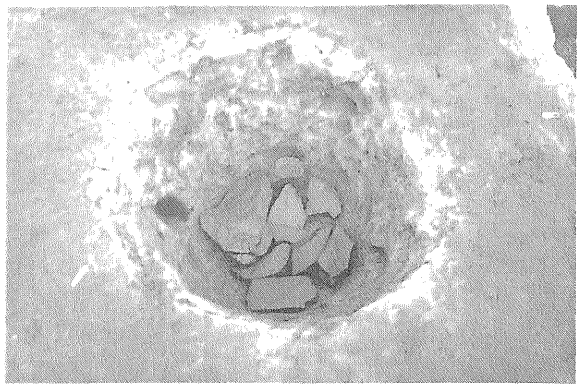
SB－12（南から）

SB－12　炉（南から）

SB－12　石壇（北から）

写真図版10

SH－001　半截状況（南から）



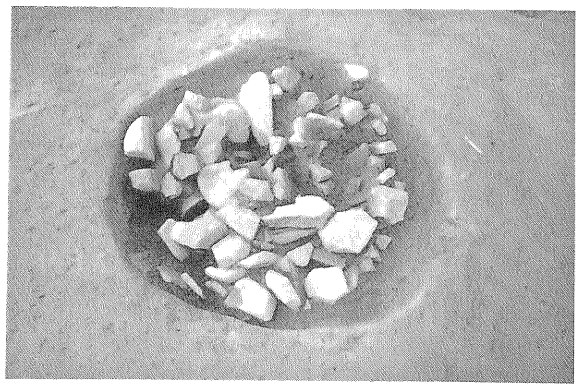
SH－001　底面平石出土状況（南から）

SH－002　半截状況（北から）

SH－003　礫検出状況（北から）

SH－003　底面平石出土状況（北から）

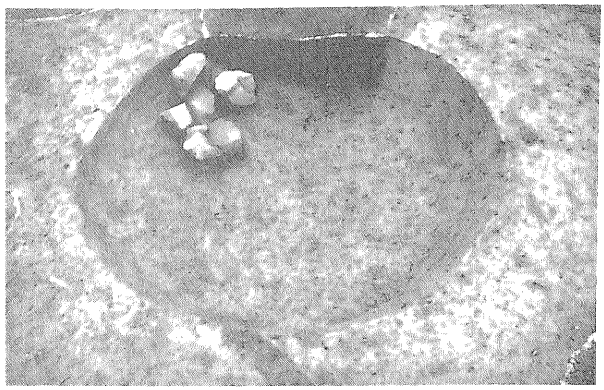
SH－004　礫検出状況（北から）



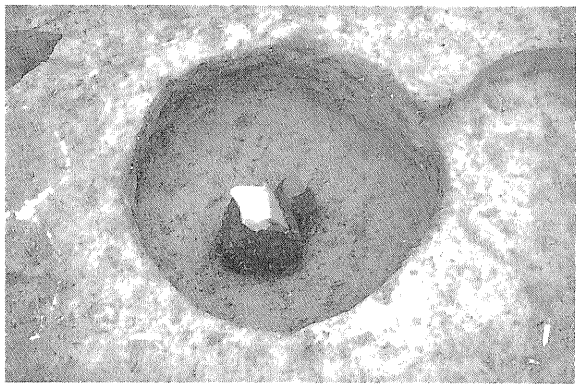
SH－007　礫検出状況（南から）

SH－009・010　検出状況（北西から）

SK－582（北から）



SK－583（北から）



SK－586（北から）

SK－596（東から）

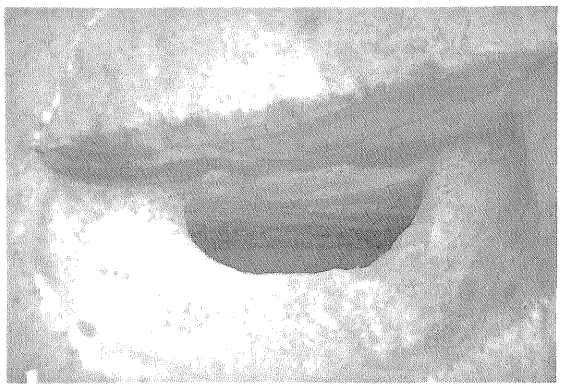
SK－626（東から）

SK－006（西から）

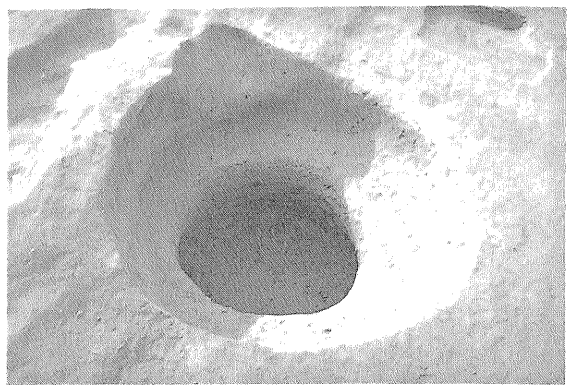
SK－006　アップ

SK－432（南から）

写真図版12



SK−095　セクション



SK−095（南から）

SK−170（東から）

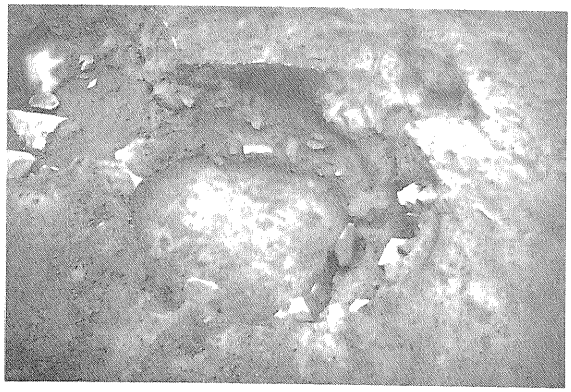
SK−170　アップ

SK−433（東から）

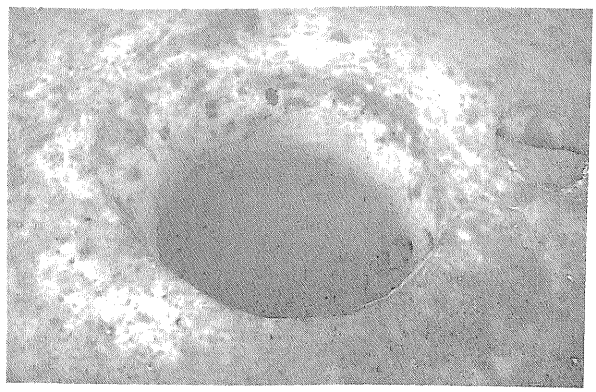
SK−433　アップ

SK−450（南から）

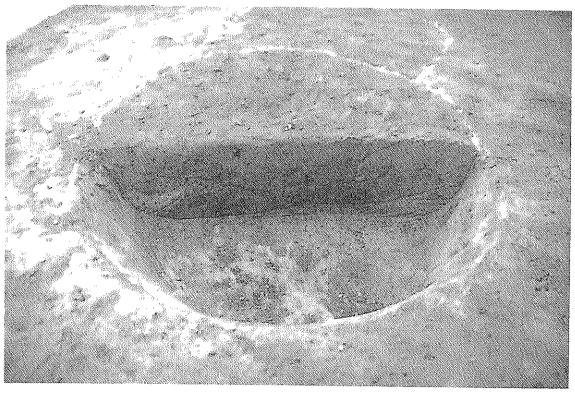
SK−451（東から）



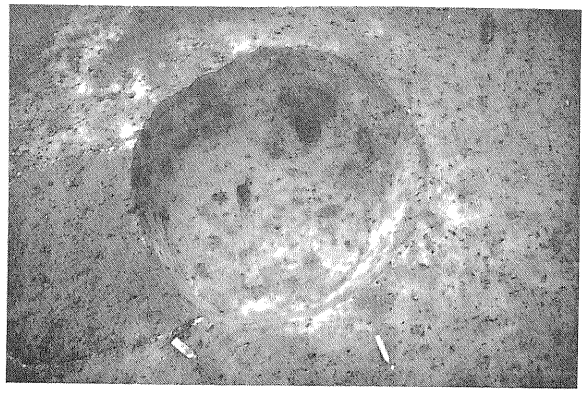
SK－470（東から）



SK－513（南から）

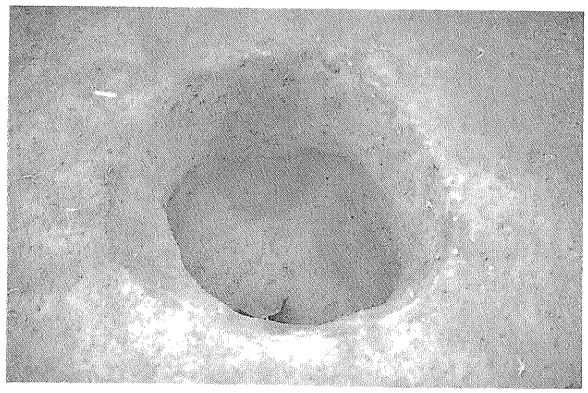


SK－506　セクション



SK－506（東から）

SK－525（東から）



SK－527（北から）

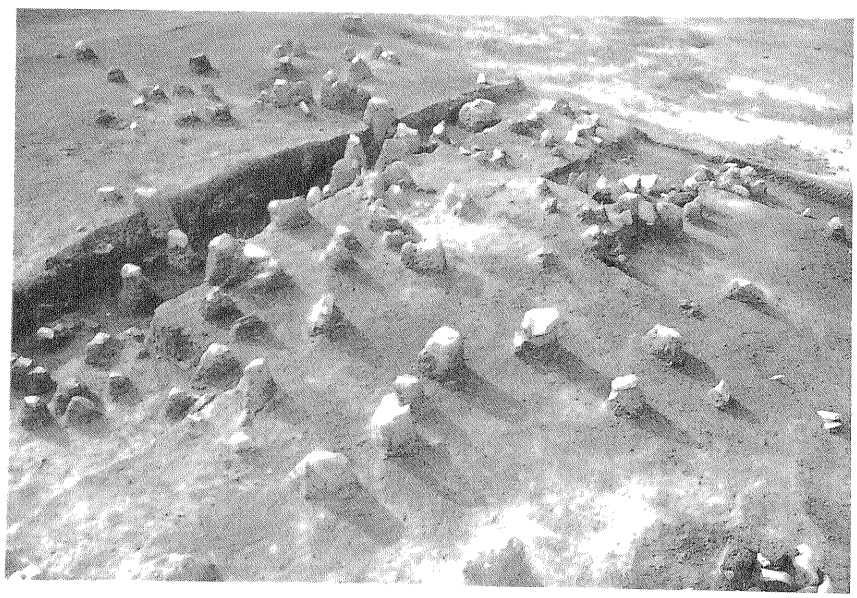
SK－561（北東から）

SB－09　出土土器

写真図版14

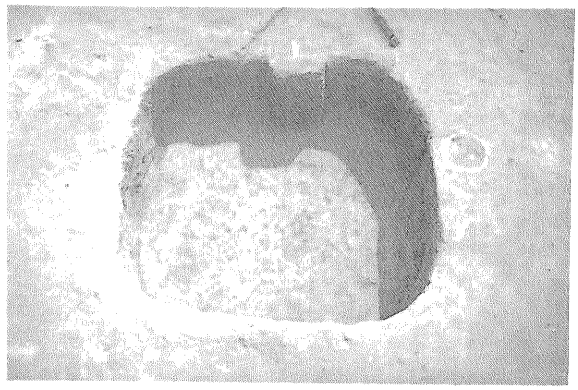
SK－128（配石墓）（東から）

SK－128配石下位
礫出土状況（東から）

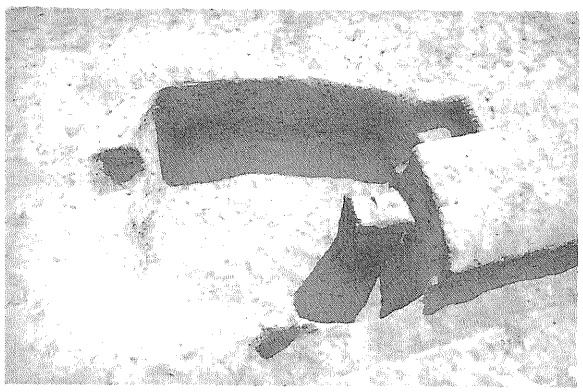


縄文時代後晩期
集礫状遺構（南から）

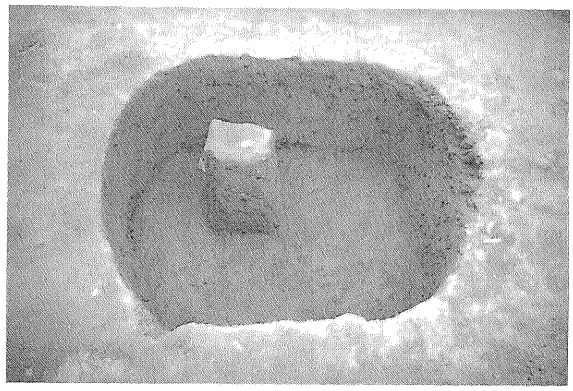
SK－197（南から）



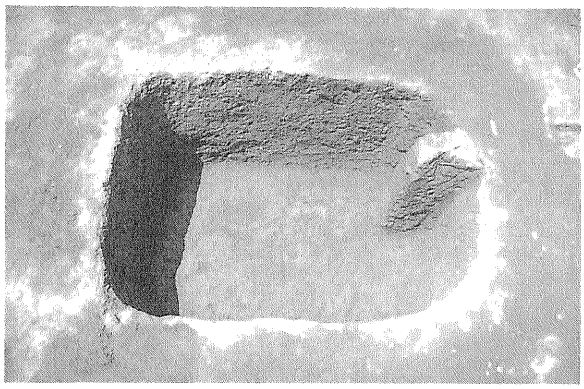
SK－285（西から）



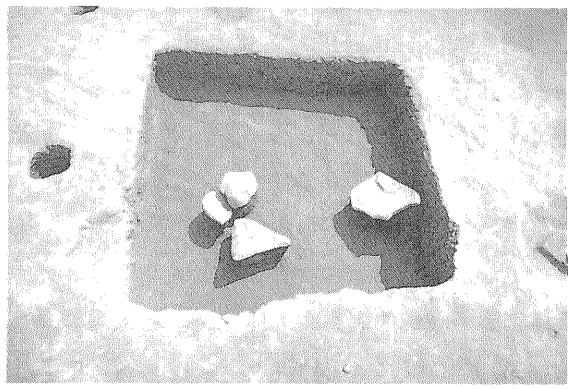
SK－349（西から）



SK－291（東から）

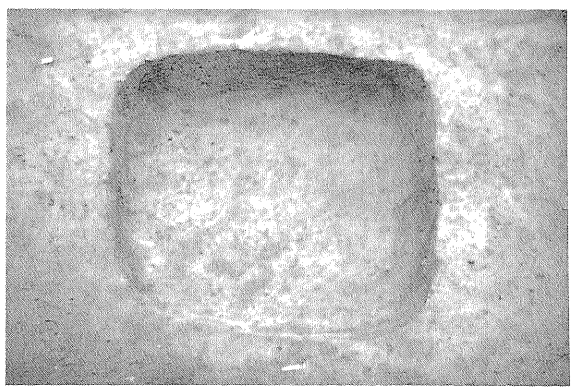


SK－297（東から）



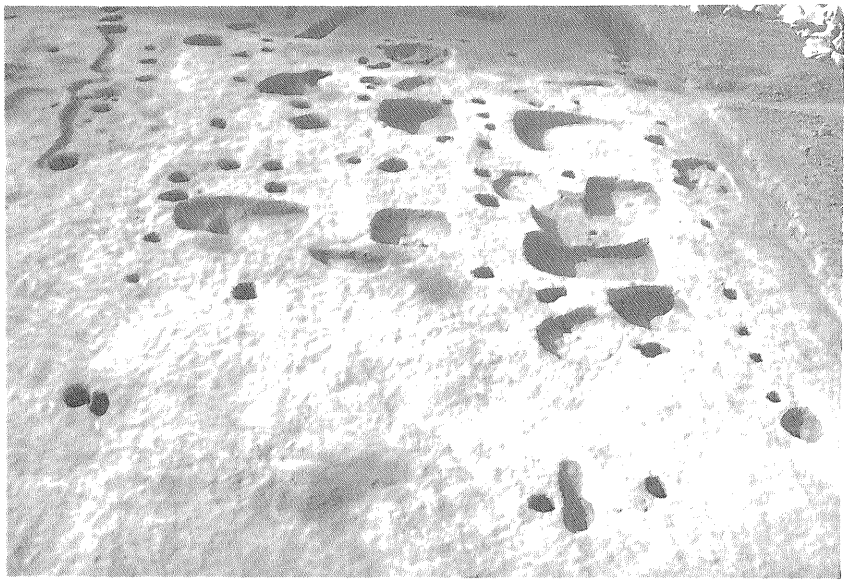
SK－323（西から）

SK－333（西から）

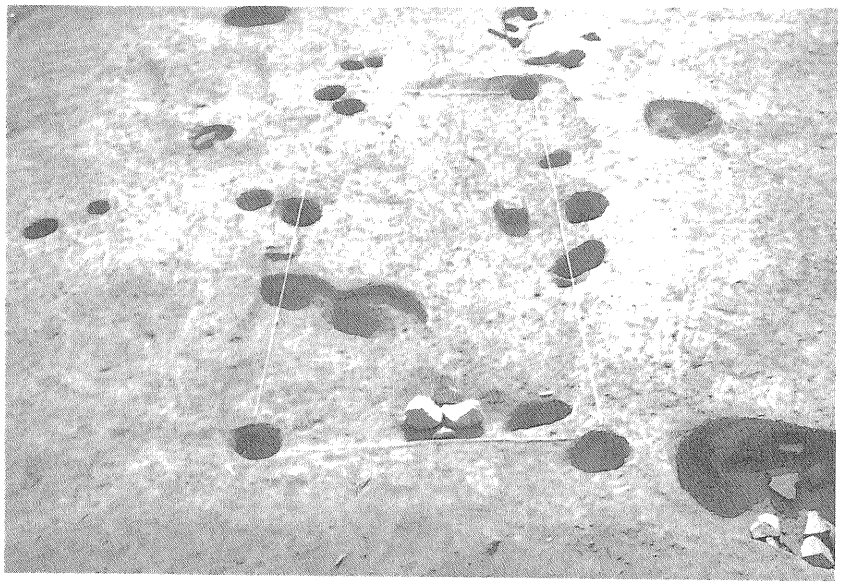


SK－343（東から）

写真図版16

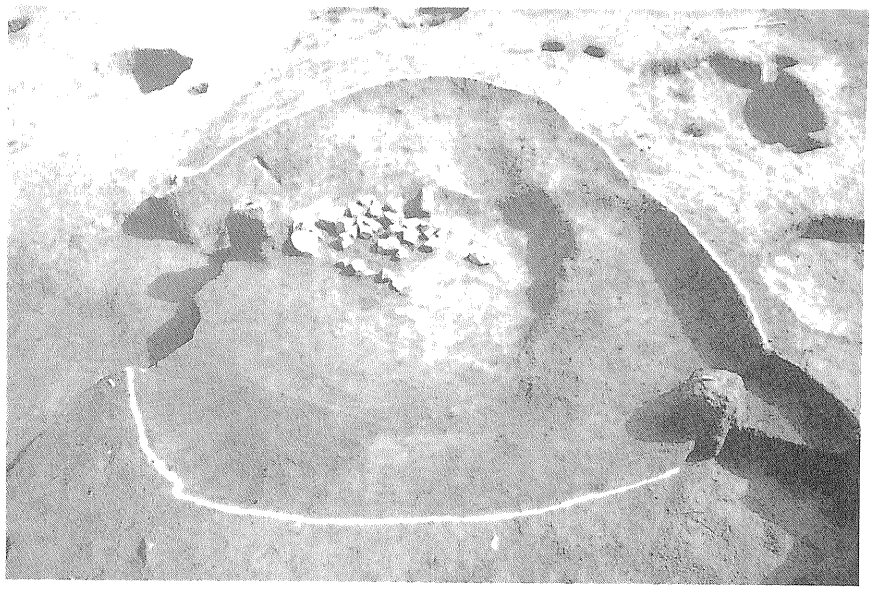


ST－01（南から）



ST－02（北から）

竪穴状遺構１（北から）

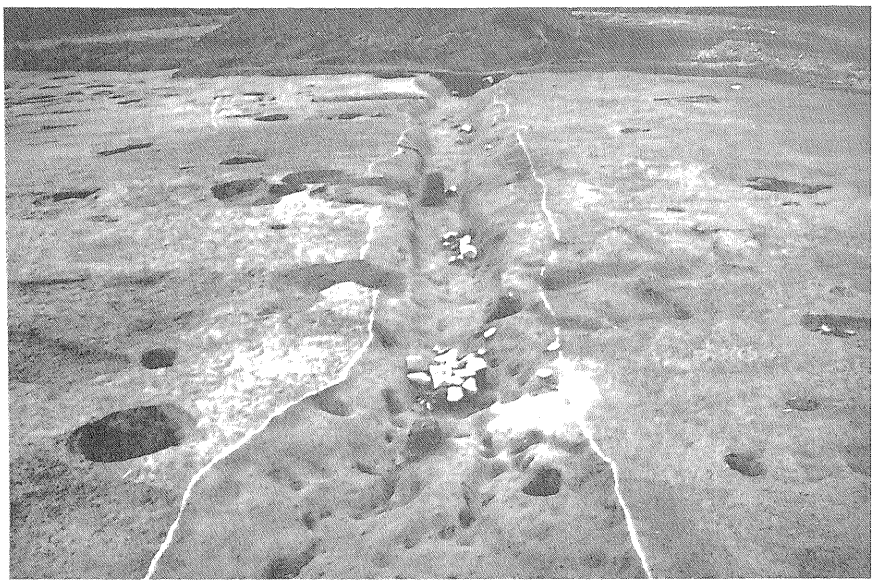


竪穴状遺構２（北から）

井戸状遺構
SK－360（北から）

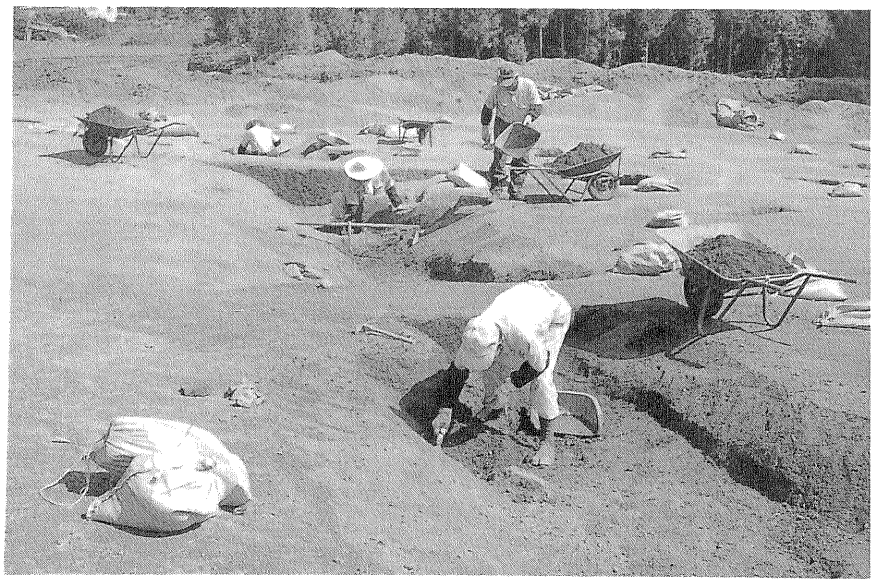
SD－01（南から）

写真図版18

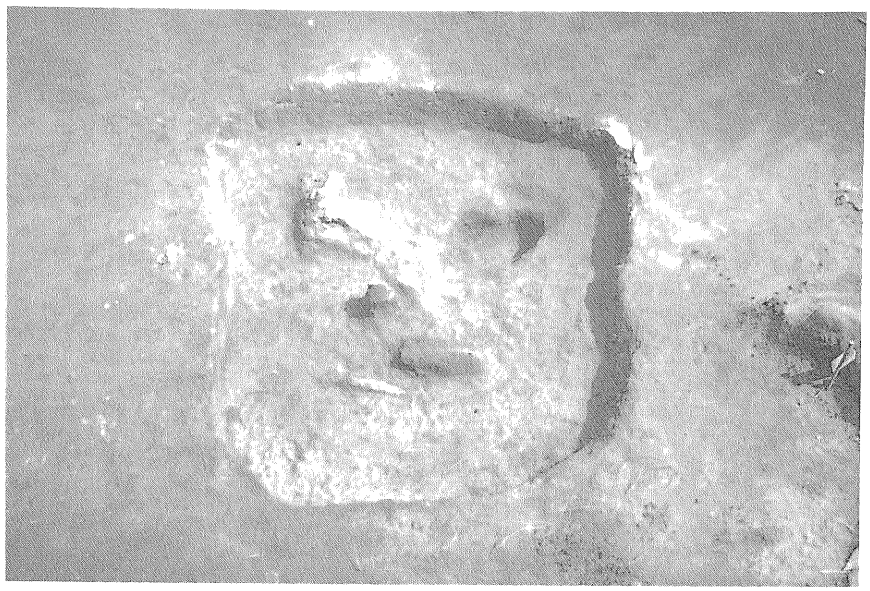


C・Ⅲ区 SD－03（東から）

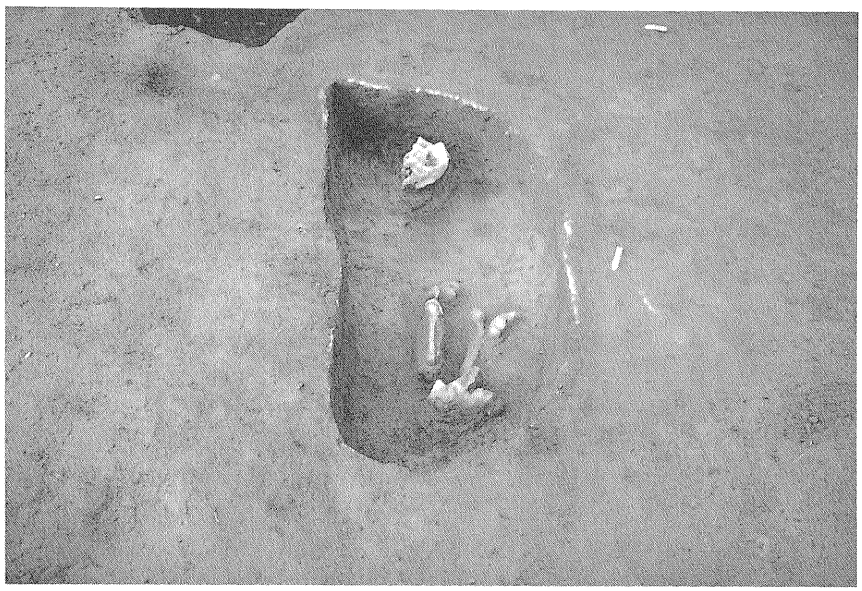
C・Ⅲ区 SD－03　セクション



SD－03　作業風景



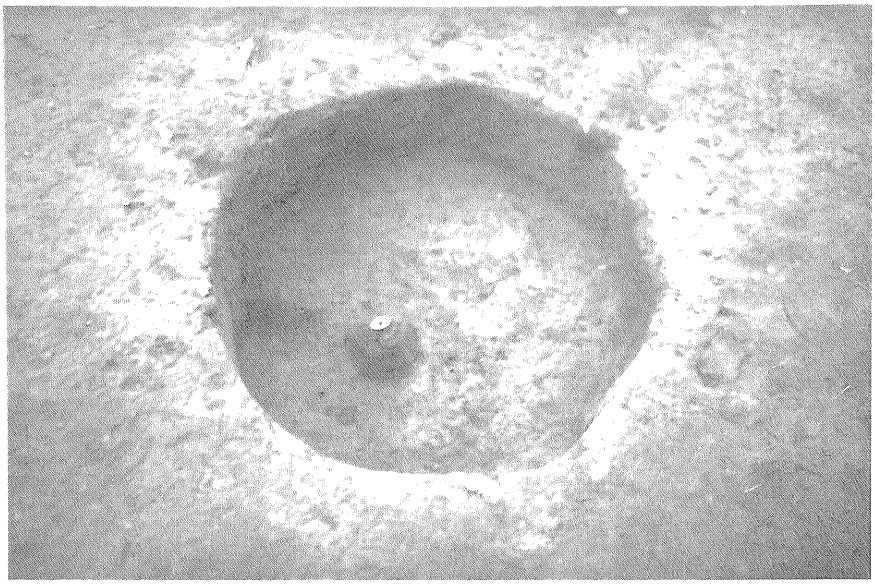
土壙墓 SK－159（南から）



土壙墓 SK－396（南から）

土壙墓 SK－446（東から）

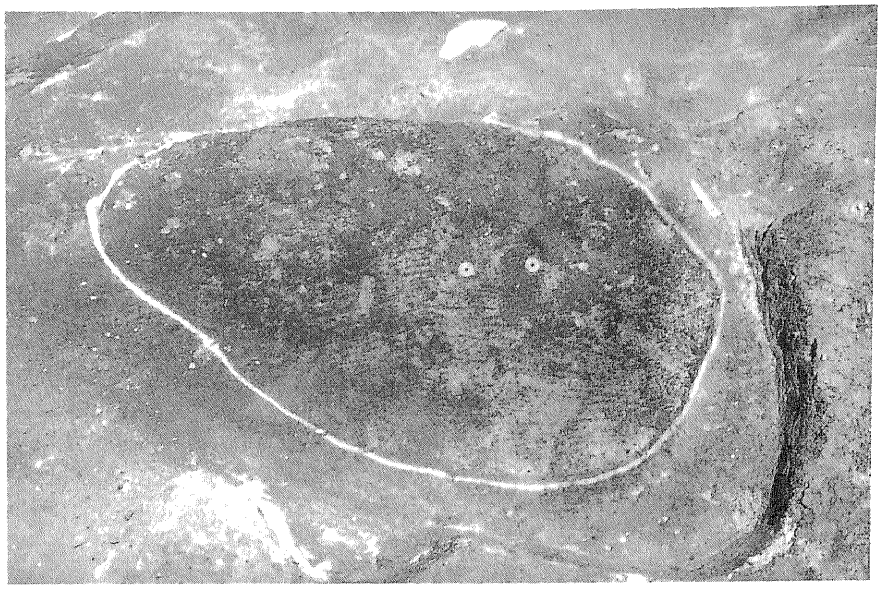
写真図版20



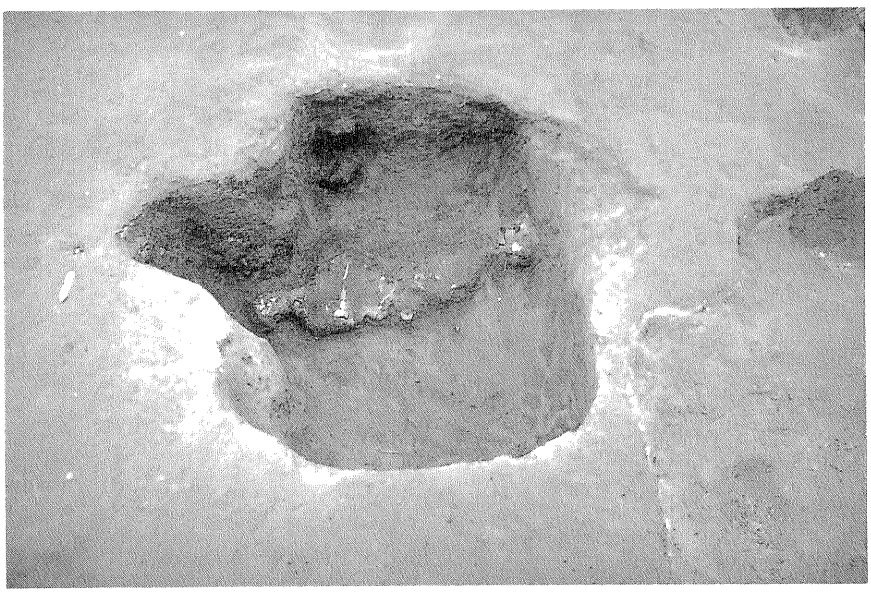
土壙墓 SK－140（西から）

土壙墓 SK－179（北西から）

土壙墓 SK－308（北から）



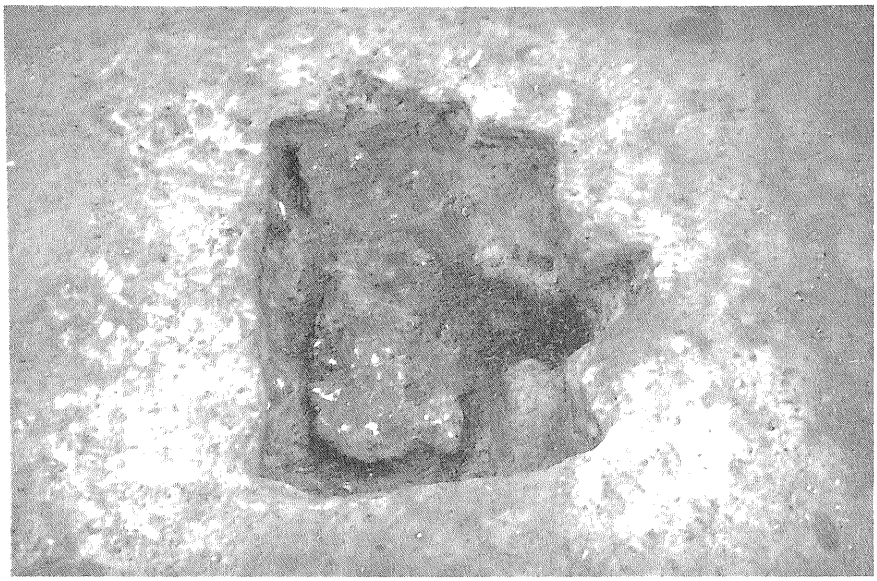
火葬墓 SK－116
検出状況（西から）



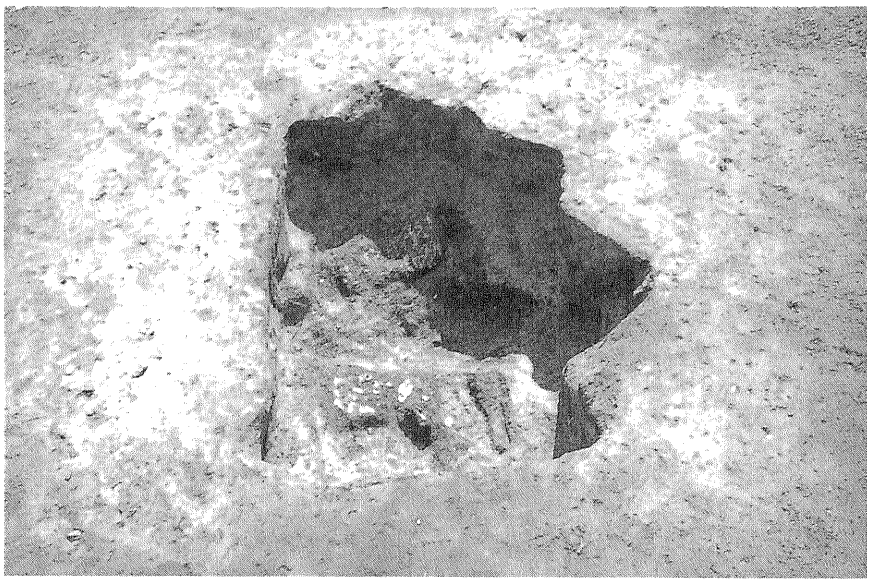
火葬墓 SK－127（南から）

火葬墓 SK－530（南から）

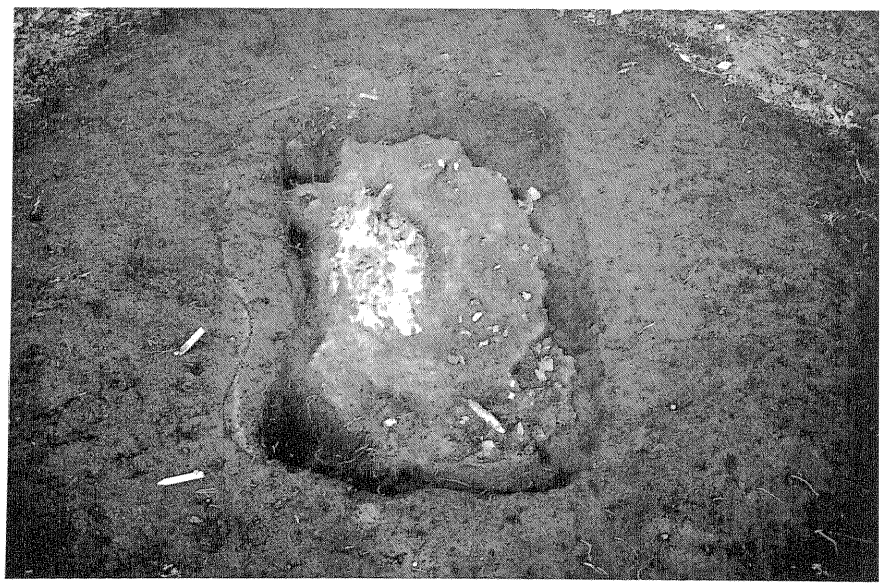
写真図版22



火葬墓
SK－524上層（北から）



火葬墓
SK－524下層（北から）

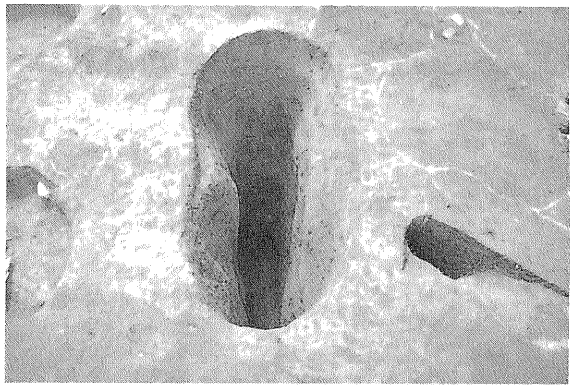


火葬墓 SK－548（南から）

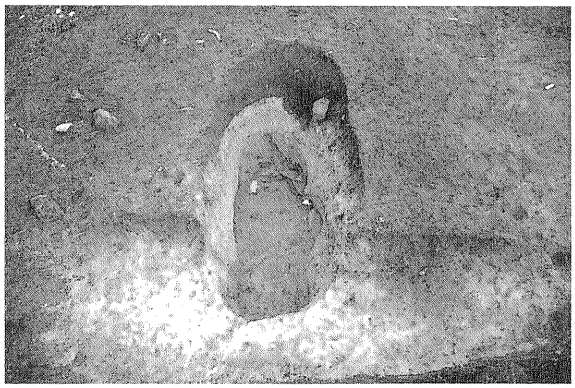
おとし穴 SK－346（北から）

同左スナップ

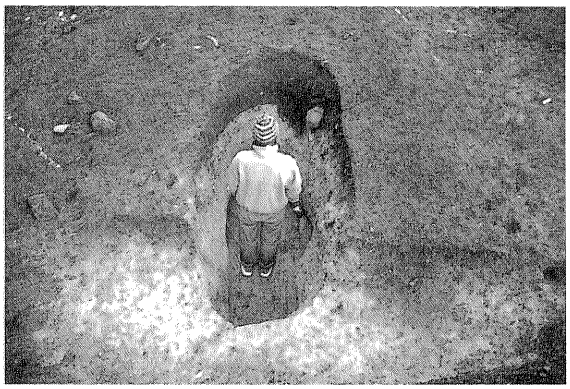
おとし穴 SK－434（西から）



おとし穴 SK－605（東から）

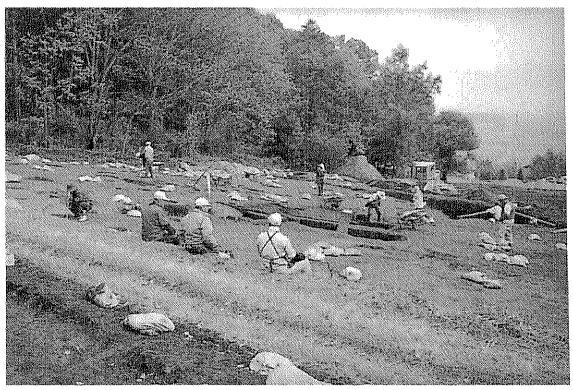


おとし穴 SK－559（東から）

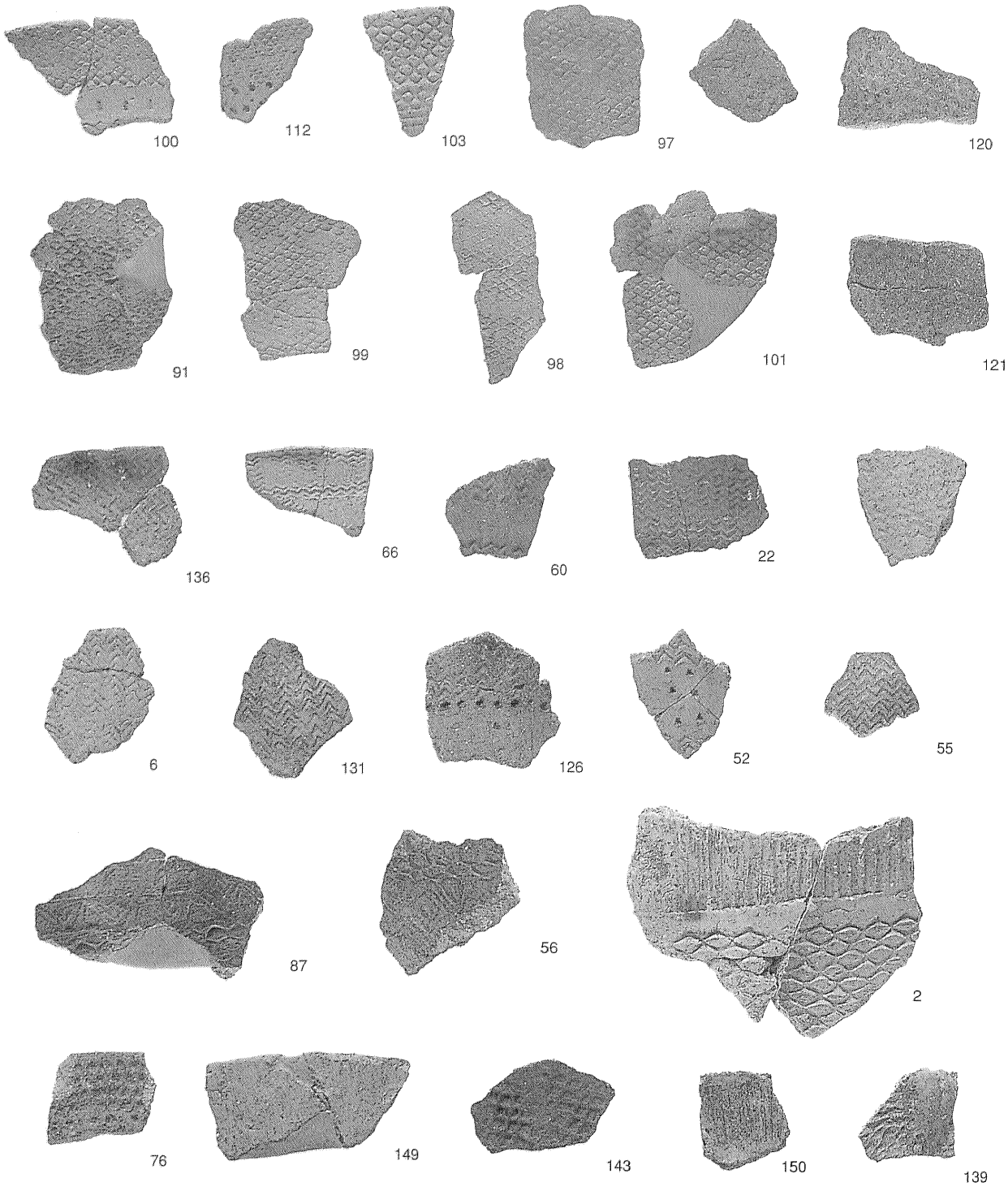


同左スナップ

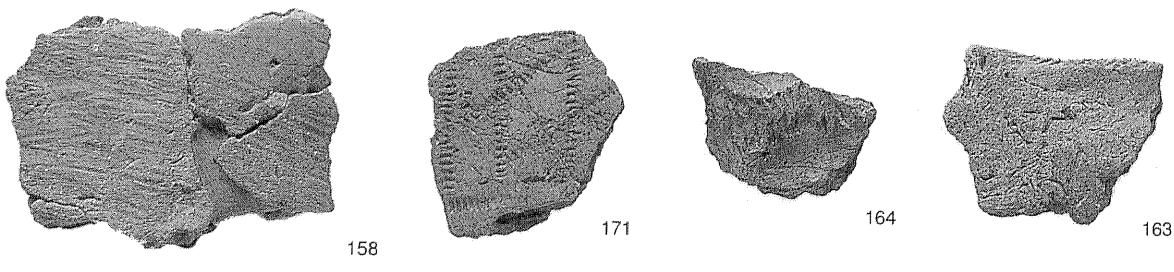
作業スナップ



作業スナップ

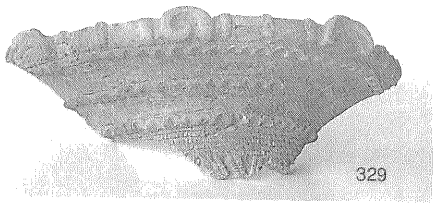


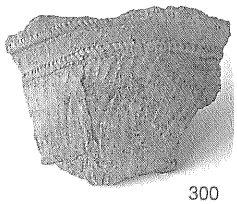
縄文時代早期押型文土器

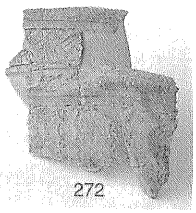


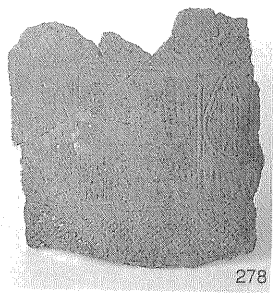
縄文時代早期後葉～末の土器

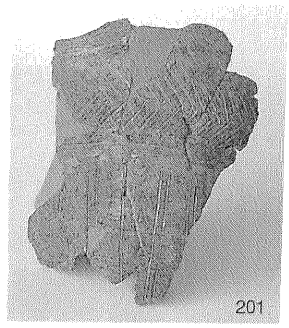
198

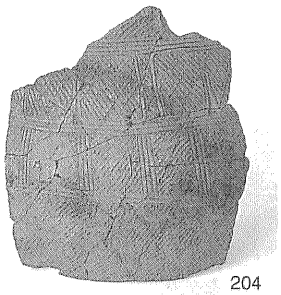

329

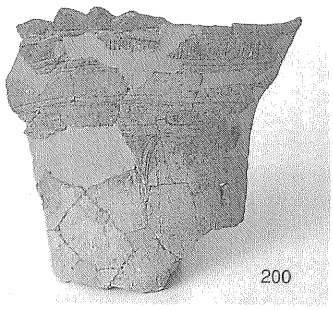

300


272

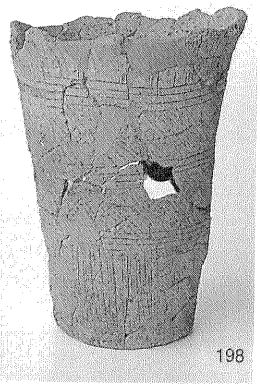

278


201

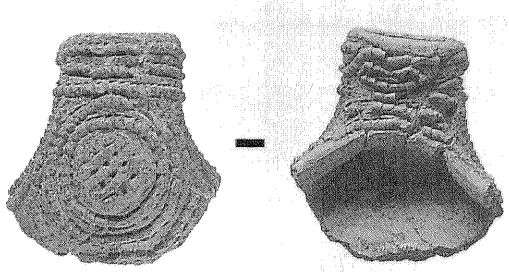

204

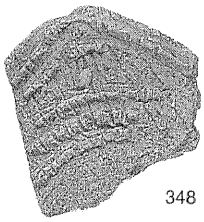

200

330

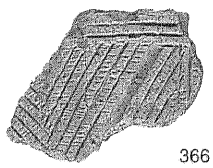

198

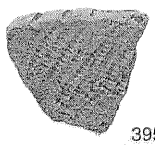
277

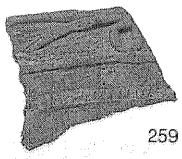

191

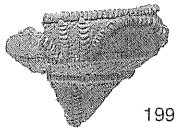

348

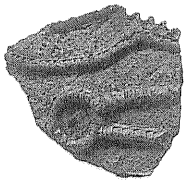
347

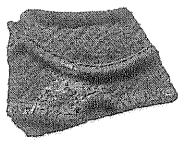

366

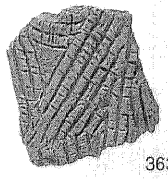

395


259

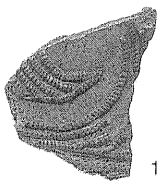

199

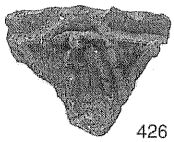

245




363

383


179


426

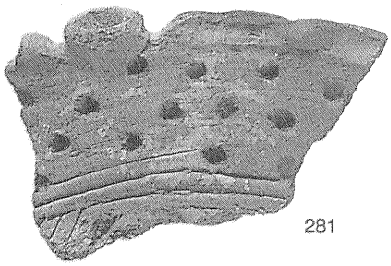
239

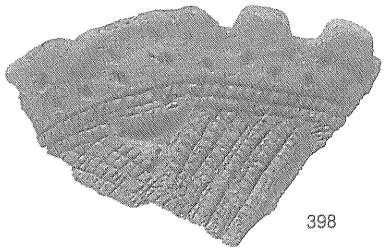
356

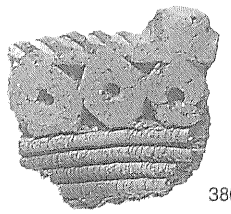
355

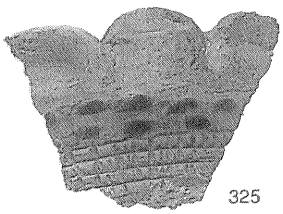
縄文時代前期末～中期初頭の土器

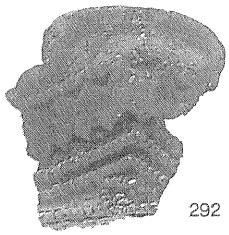
写真図版26

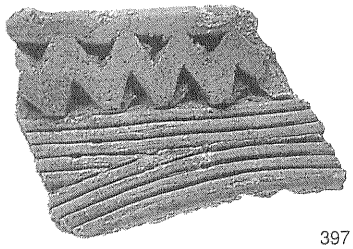

281

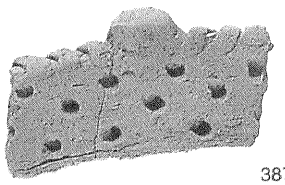

398

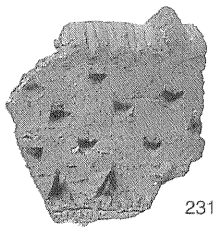

386

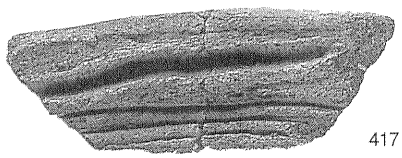

325

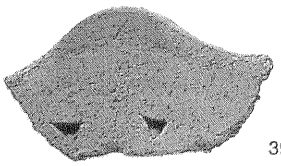

292

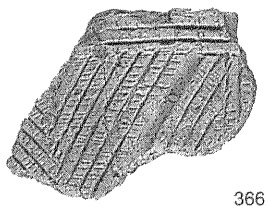

397


387


231


417

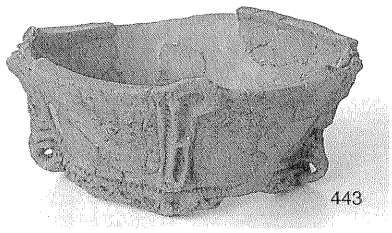

396

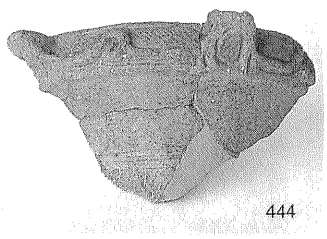

366

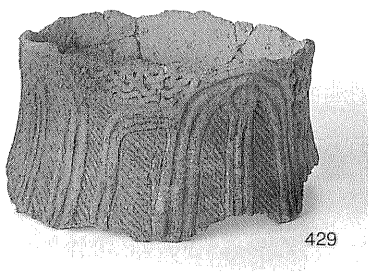
235

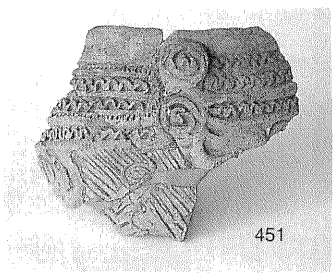
縄文時代前期末～中期初頭の土器

428

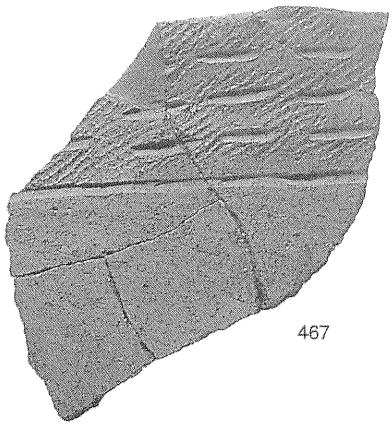

443


444


429

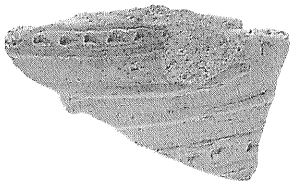

451

縄文時代中期後葉の土器

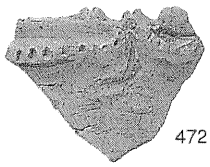

467

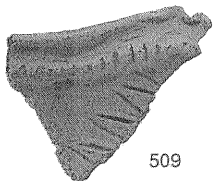
525

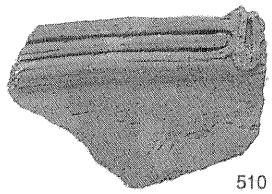
524

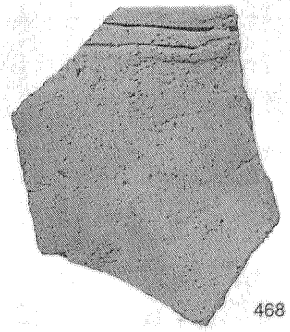

520

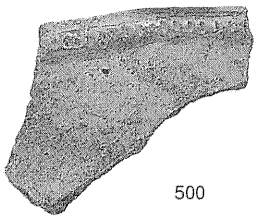
455

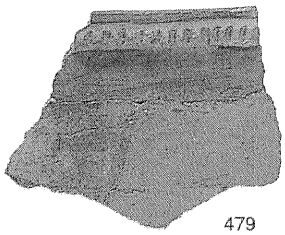

472

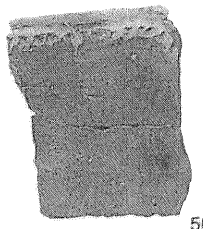

509

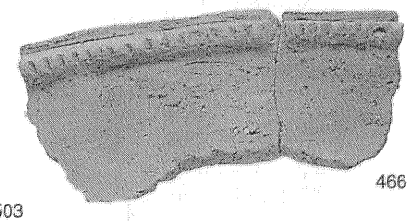

510

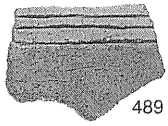

468


500

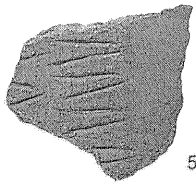

479

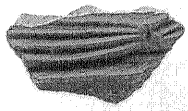

503


466

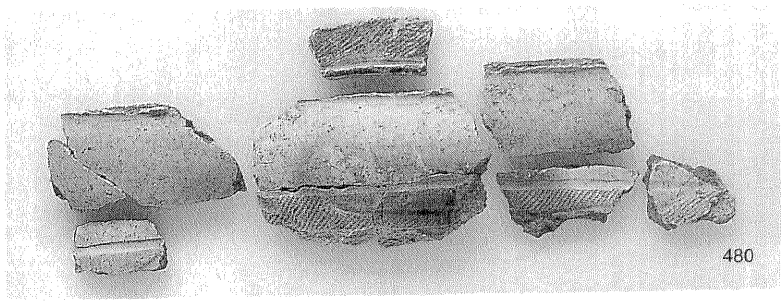

489

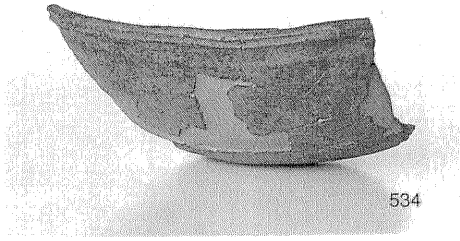
511


522


529

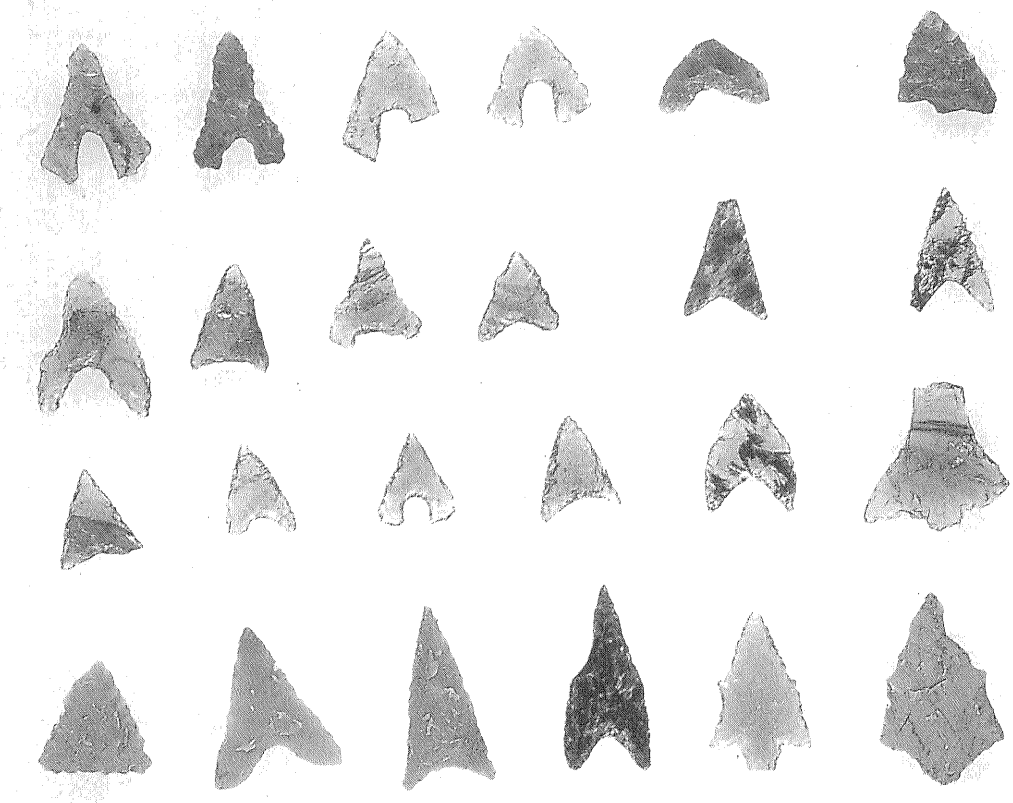
526


480

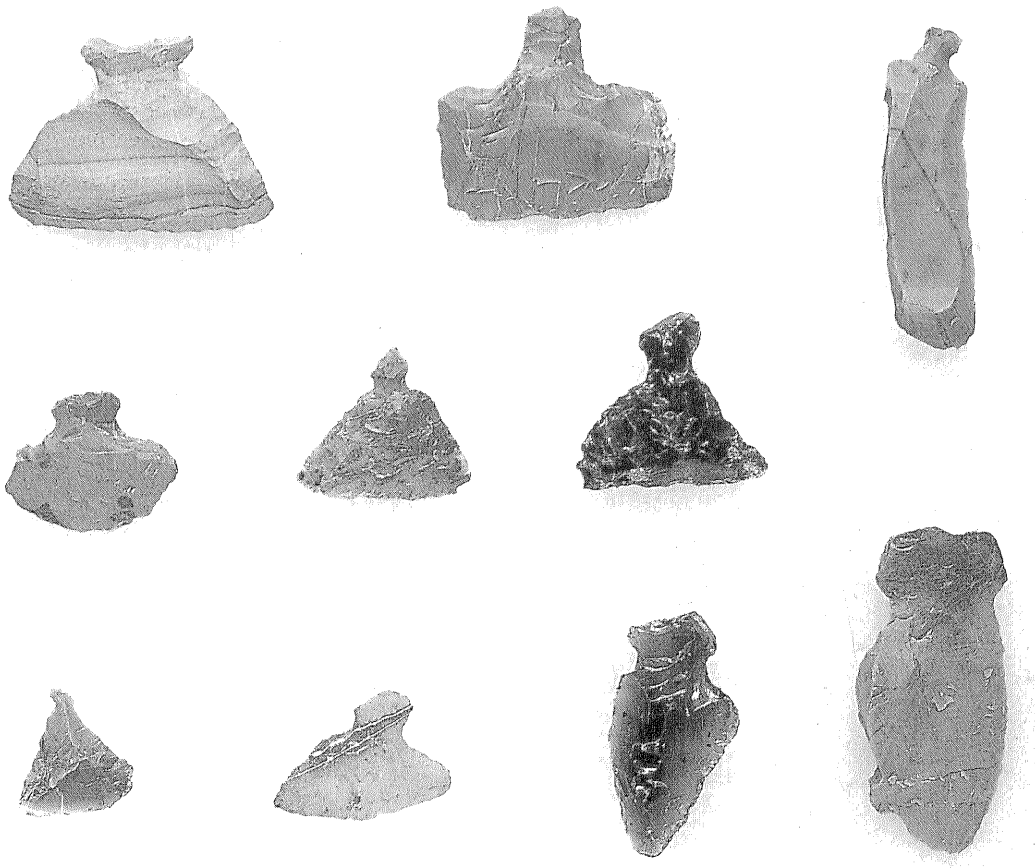

534

縄文時代後晩期の土器

写真図版28

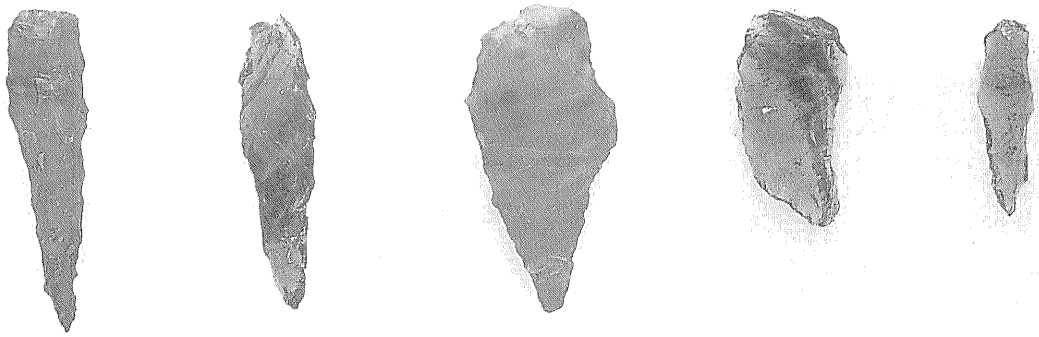


石鏃族

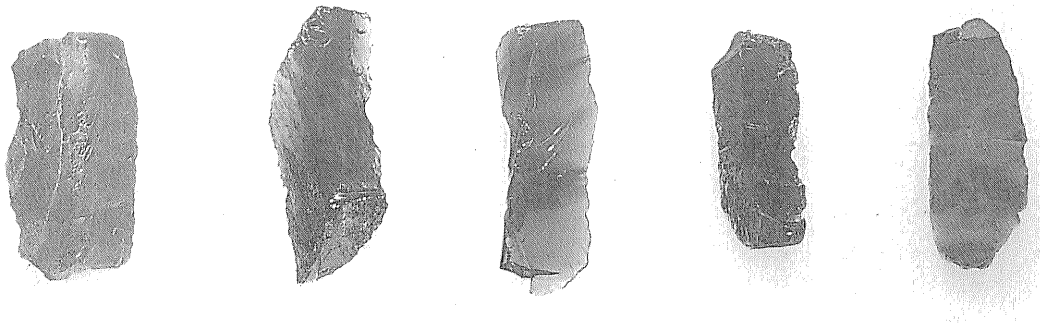


石匙

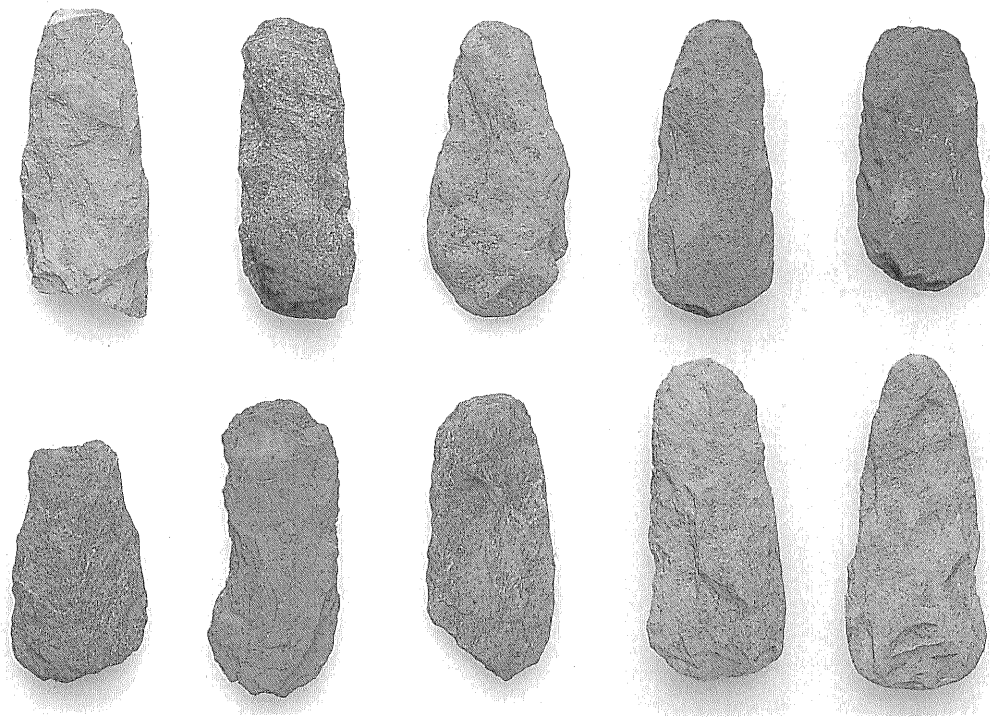
石錐



削器

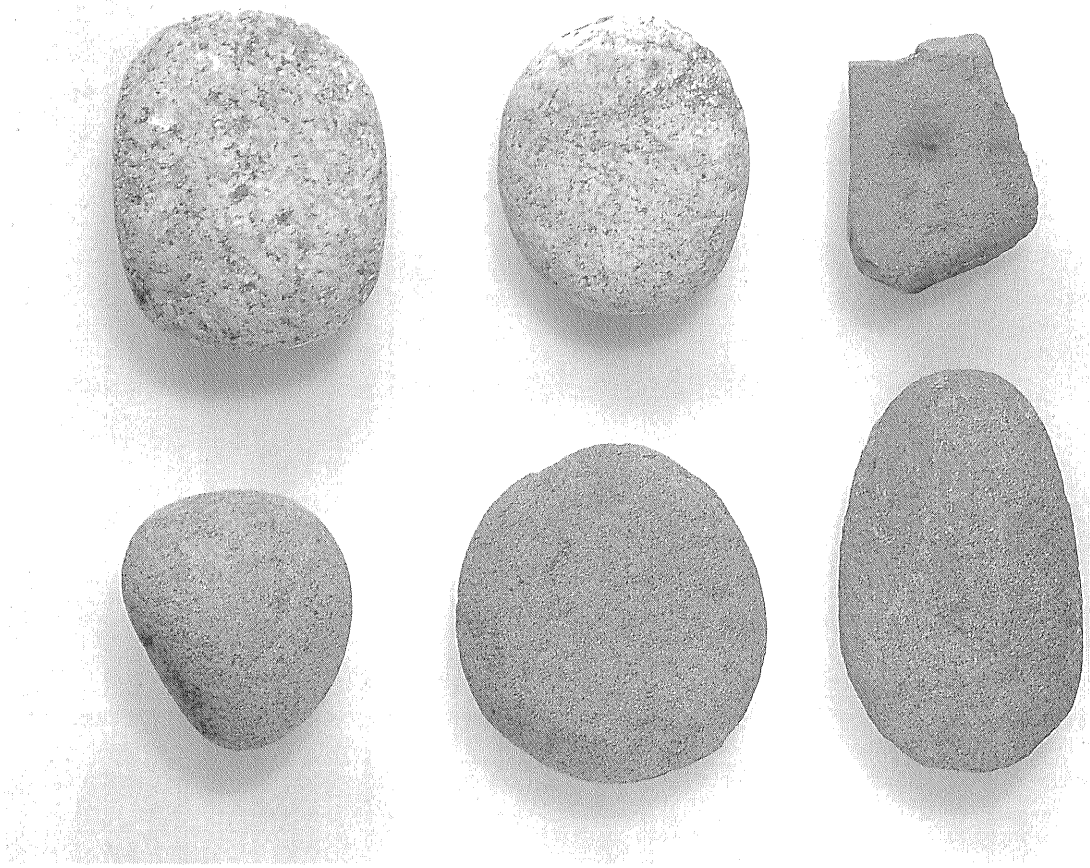


打製石斧

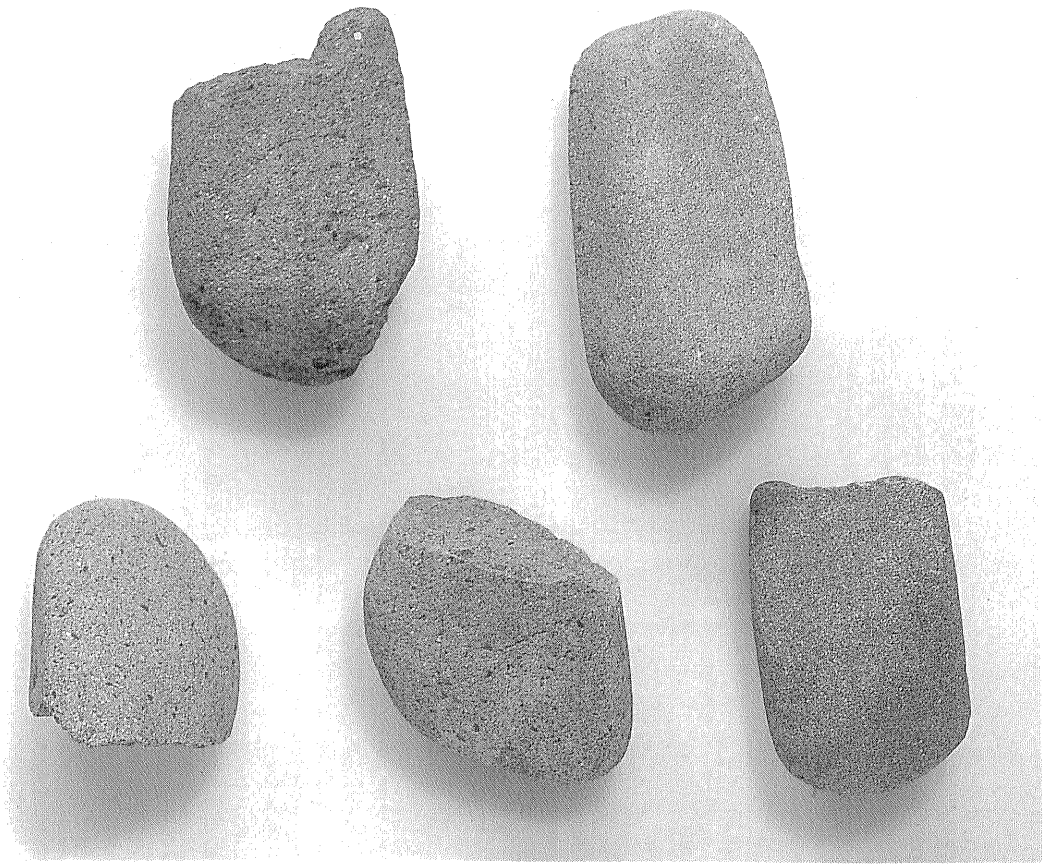


磨製石斧

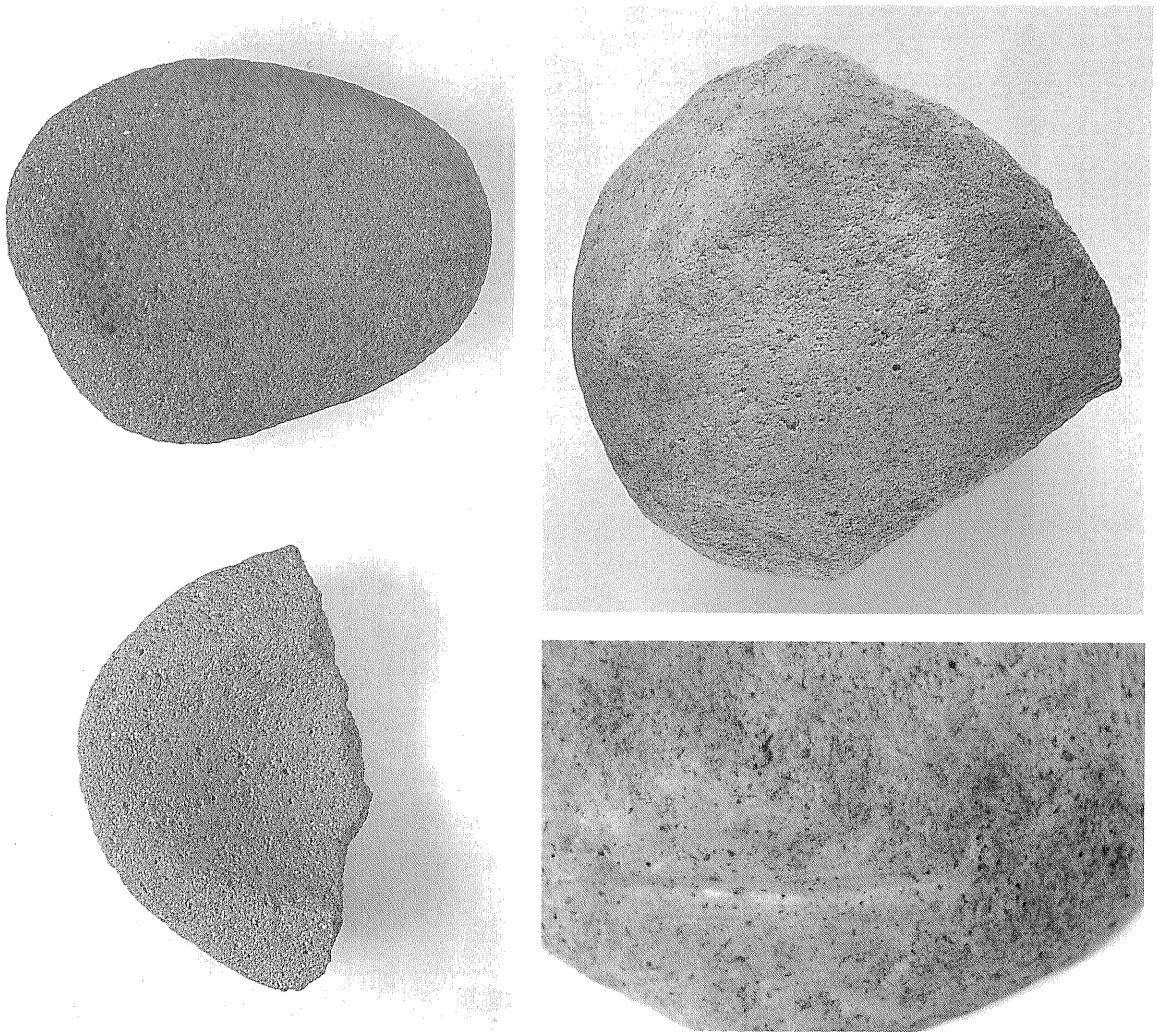
写真図版30



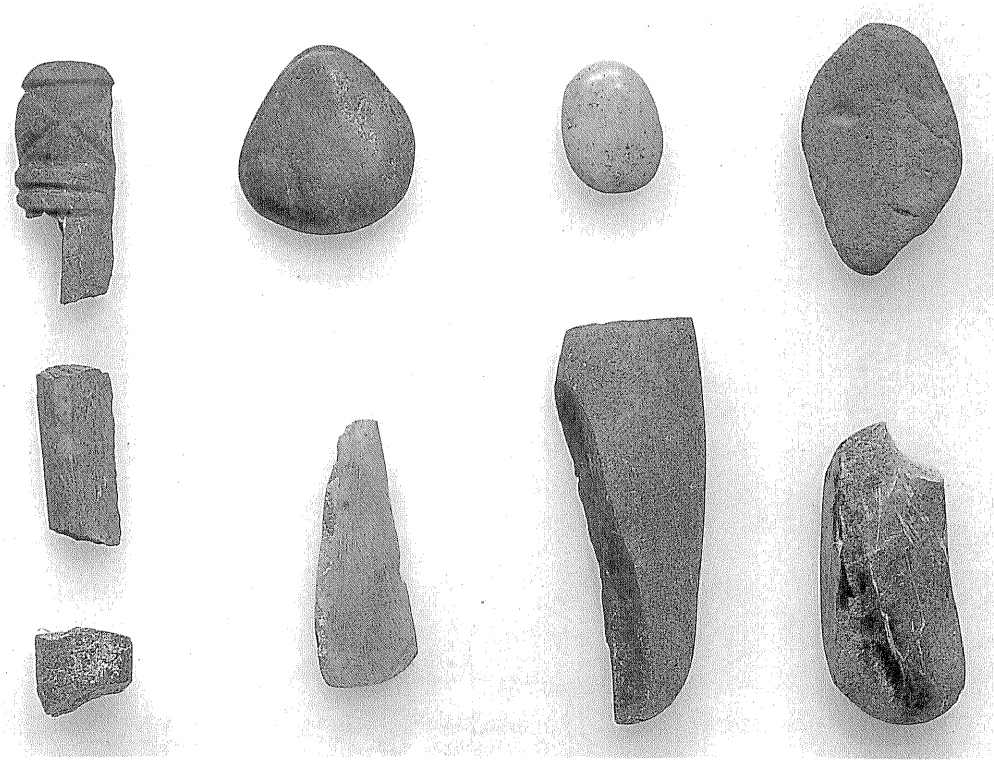
磨石類



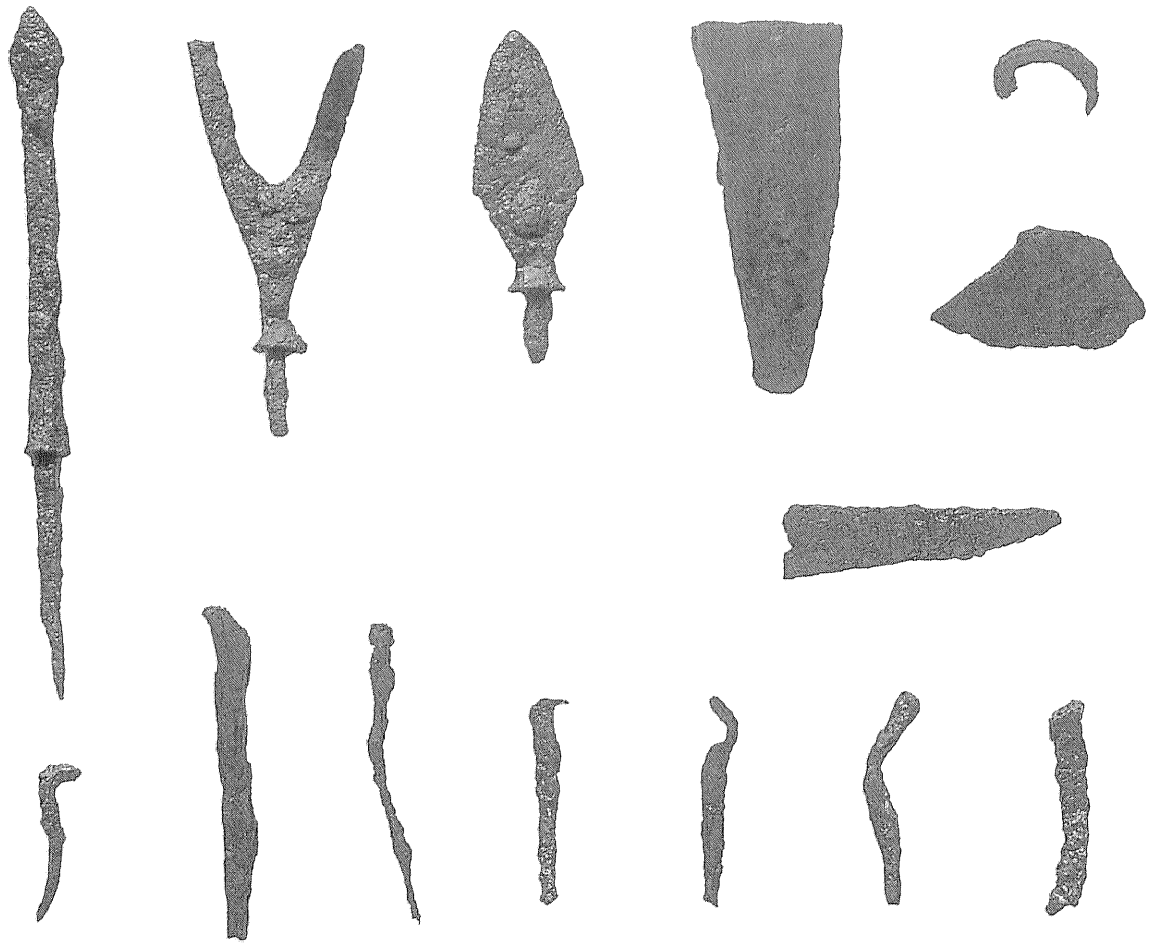
特殊磨石



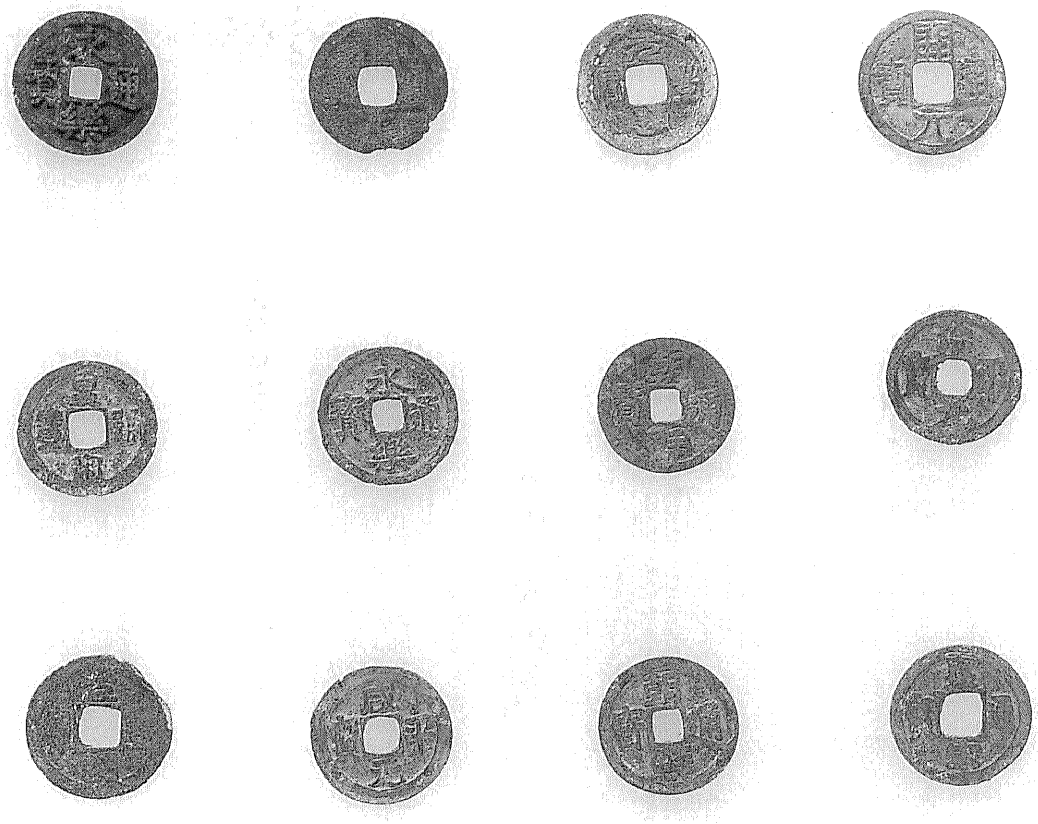
左：石皿　右上：筋砥石　右下：同アップ



石製品



中世の鉄製品



中世の銭貨

報告書抄録

ふりがな	なろういせき
書名	名篭遺跡
副書名	山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	山形村教育委員会
編集機関	山形村教育委員会
所在地	〒390－1301　長野県東筑摩郡山形村2040－1　TEL　0263－98－3155　FAX　0263－98－4256
発行年月日	2007年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
名篭	長野県東筑摩郡山形村7318－3他	204501	17	36°09′57″	137°51′44″	2004. 10. 19 ～ 2006. 5. 10	10,413m²	山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名篭	集落跡	縄文 中世	竪穴式住居址　12 竪穴状遺構　2 掘立柱建物址　2 土壙　641 溝址　6 ピット　658 土壙墓　23 火葬墓　10	縄文時代の土器・石器 早期押型文土器 前期末～中期初頭 中期後葉 後期後葉～晩期 中世の土器・陶磁器 中世の鉄製品・銭貨	様々な時期の遺構・遺物が検出される。縄文時代早期押型文土器500片弱出土。前期末～中期初頭の集落址。中期後葉の石壇をもつ住居址。後期後葉～晩期の集礫状を呈す遺構群。中世鎌倉期の大規模な溝を有す集落址。中世後半期の土壙墓・火葬墓。

名篭遺跡

— 山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書 —

平成19年3月25日　印刷
平成19年3月31日　発行

編集・発行　山形村教育委員会
印刷　藤原印刷株式会社